

平成 29 年度

食育・健康づくりに関する

市民アンケート調査報告書

平成 29 年 12 月

新潟市

目 次

第1章 調査概要	1
1 調査目的	1
2 調査項目	1
3 調査の設計	1
4 回収結果	1
5 集計結果の数字の見方	2
6 回答者の構成	3
(1) 性別	3
(2) 年齢	3
(3) 職業	4
(4) 地区	5
(5) 家族構成	5
(6) 身長	6
(7) 体重	6
第2章 調査結果	7
1 体格（BMI の状況）	7
2 「食育」に対する意識	8
(1) 「食育」への関心度	8
(2) 「食育」の実践度	13
(3) 食育を実践していない理由	18
(4) 食べ物を無駄にしないための行動	20
(5) 伝統的な料理や作法の大切さ	25
(6) 地域や家庭で受け継がれてきた料理や食べ方・作法の継承	30
(7) 地域や家庭で受け継がれてきた料理や食べ方・作法の次世代へ伝承	35
3 日ごろの食生活の状況	40
(1) 「地産地消」の実践度	40
(2) 主食・主菜・副菜のそろった食事の回数	45
(3) 生活習慣病予防や改善を意識した食生活の実践度	50
(4) 健康のための食事の認識と程度の度合い	55
(5) 朝食の回数	62
(6) 朝食を食べない理由	67
(7) 地域や家族、友人などと食卓を囲んで食事をするものの大切さ	69
(8) 家族と朝食を食べる回数	74
(9) 家族と夕食を食べる回数	79
(10) この1週間で朝食または夕食を家族と食べた回数	84
(11) 家族と食事を一緒に食べるものの良い点	89
(12) 家族との食事に対する意識	91
(13) ゆっくりよく噛んで味わって食べる頻度	106
(14) かねて食べる時の状態	111

4 「食の安全」について	116
(1) 食の安全に対する関心度	116
(2) 特に関心があること	121
(3) 食の安全に関する知識を持っている程度	123
(4) 安全な食生活を送ることについての判断の程度	128
(5) 新潟市における食の安心・安全の確保に対する取組状況	133
(6) 特に不十分だと感じている取組	138
(7) 食の安全に関して必要としている情報	140
5 健康づくりに対する意識や状況	142
(1) 自身の現在の健康状態	142
(2) 睡眠による休養	147
(3) ストレスがある時の対処法	152
(4) 1週間に10分以上続けて歩くことの有無	154
(5) 1週間に10分以上続けて歩く日数	159
(6) 1日の合計歩行時間	164
(7) 定期的に継続している運動の実施状況	169
(8) 1日60分くらいの運動習慣	174
(9) 喫煙習慣	179
(10) 最近1か月間の受動喫煙の状況	184
(11) 「慢性閉塞性肺疾患（COPD）」という言葉や意味の認知度	185
(12) 飲酒の頻度	190
(13) 平均飲酒量	195
(14) 最近1年間の歯科健（検）診の受診状況	200
(15) 歯間部清掃用具の使用状況	205
(16) 「内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム）」という言葉や意味の認知度	210
(17) メタボリックシンドロームの予防・改善の取り組み状況	215
(18) メタボリックシンドロームの予防・改善のために実践していること	220
(19) 「ロコモティブシンドローム（運動器症候群）」という言葉や意味の認知度	222
(20) 最近1年間の健（検）診や人間ドックの受診状況	227
(21) 最近1年間のがん検診の受診状況	229
(22) がん検診の検診場所	231
(23) がん検診を受けなかった主な理由	242
(24) 地域の人とのつながりの強さ	247
(25) 最近1年間のボランティア活動、地域社会活動の参加状況	252
6 農林漁業体験について	254
(1) 農林漁業体験の参加経験の有無	254
(2) 参加した農林漁業体験の内容	259
(3) 今後の農林漁業体験への参加意向	262

資料編

調査白票

第1章

調査概要

第1章 調査概要

1. 調査目的

「新潟市健康づくり推進基本計画」「新潟市食育推進計画」等の評価を行うため、市民の食育・健康づくりに関する意識や実践状況等を把握し、今後の施策検討の基礎資料とする。

2. 調査項目

- (1) 体格（BMI の状況）
- (2) 「食育」に対する意識
- (3) 日ごろの食生活の状況
- (4) 「食の安全」について
- (5) 健康づくりに対する意識や状況
- (6) 農林漁業体験について

3. 調査の設計

- (1) 調査地域 新潟市
- (2) 調査対象 満20歳以上の男女個人
- (3) 標本数 3,000人
- (4) 抽出方法 確立比例系統抽出法
- (5) 調査方法 郵送法（調査票の配布・回収とも）
- (6) 調査期間 平成29年9月11日～9月29日

4. 回収結果

有効回収数（率） 1,565人（52.2%）

【参考】性別、年齢別、居住地区別回収結果

(1) 性別

調査対象者	標本数	回収数	回収率
男性	1,460人	707人	48.4%
女性	1,540人	817人	53.1%
性別不明		41人	

(2) 年齢別

調査対象者	標本数	回収数	回収率
20～29歳	373人	119人	31.9%
30～39歳	443人	195人	44.0%
40～49歳	492人	222人	45.1%
50～59歳	424人	226人	53.3%
60～69歳	562人	364人	64.8%
70歳以上	706人	420人	59.5%
年齢不明		19人	

(3) 居住地区別

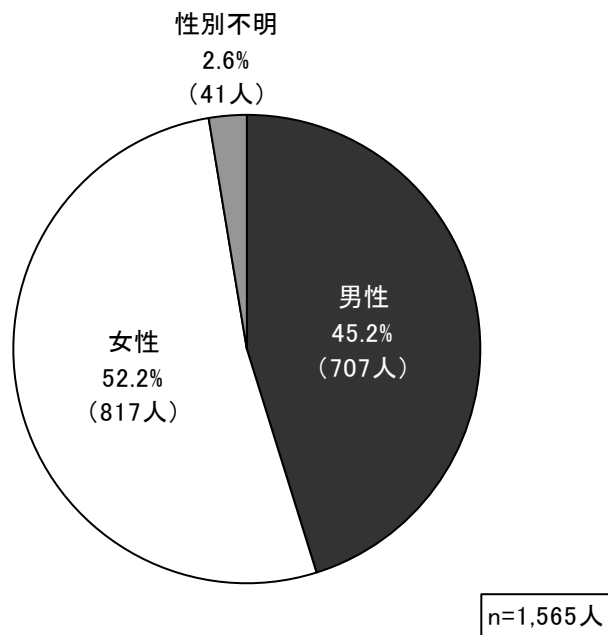
調査対象者	標本数	回収数	回収率
北区	282人	144人	51.1%
東区	516人	291人	56.4%
中央区	672人	327人	48.7%
江南区	257人	137人	53.3%
秋葉区	290人	162人	55.9%
南区	172人	84人	48.8%
西区	588人	290人	49.3%
西蒲区	223人	107人	48.0%
居住地区不明		23人	

5. 集計結果の数字の見方

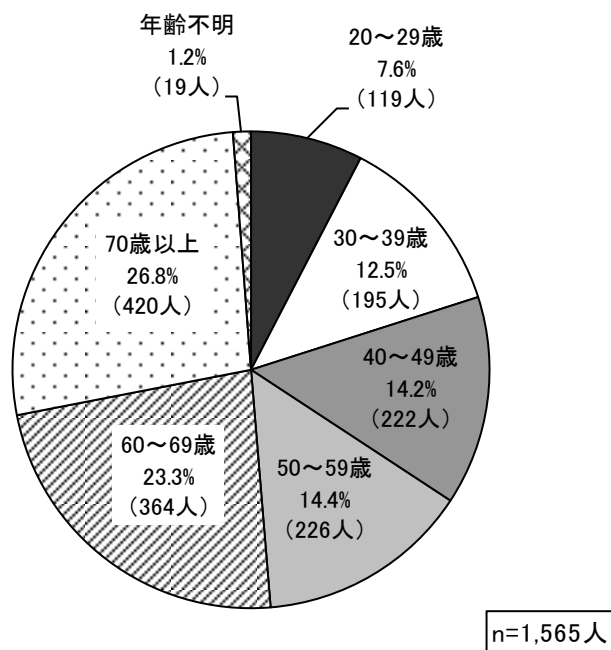
- (1) 結果は百分率(%)で表示し、小数点以下第2位を四捨五入して算出した結果、個々の比率が合計100%にならないことがある。
また、複数回答(2つ以上の回答)では、合計が100%を超える場合がある。
- (2) 図表中の「n (number of casesの略)」は、質問に対する回答者の総数(該当者質問では該当者数)を示し、回答者の比率(%)を算出するための基数である。

6. 回答者の構成

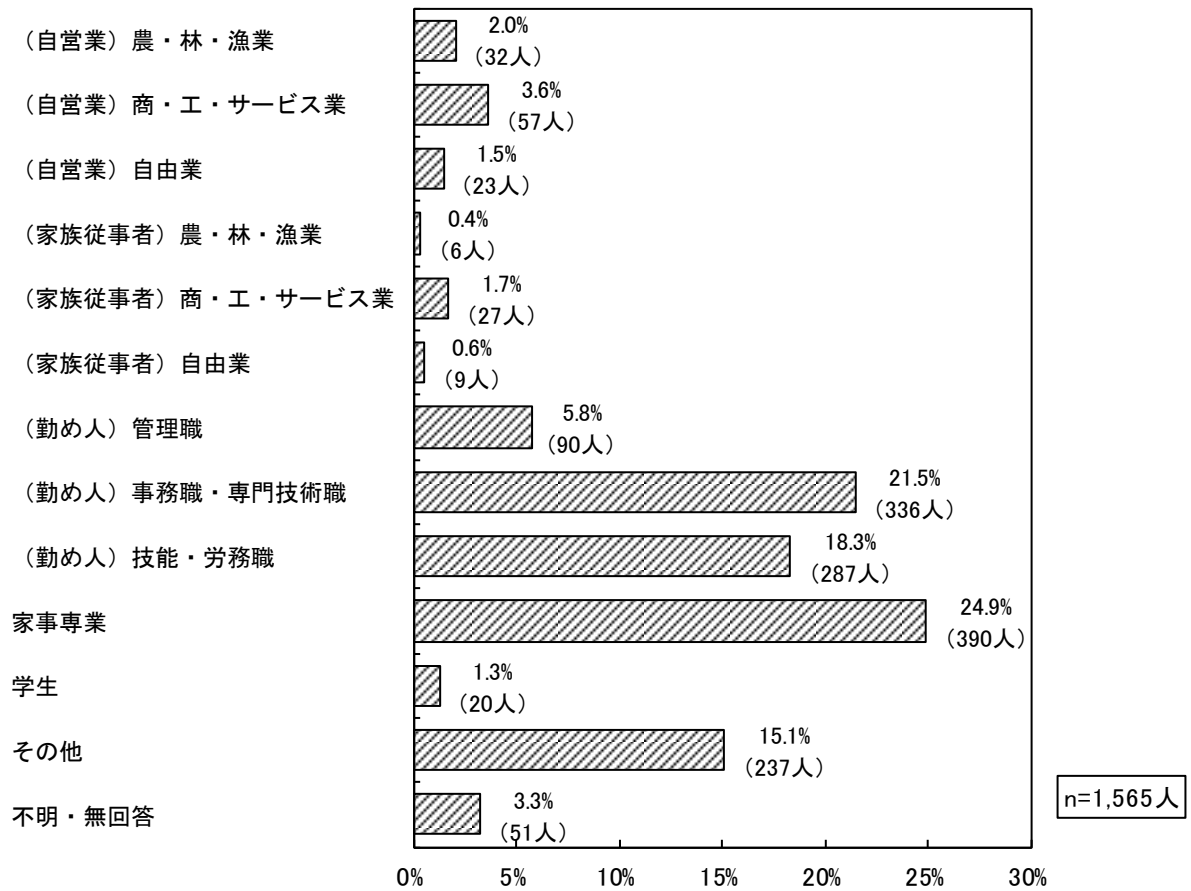
(1) 性別



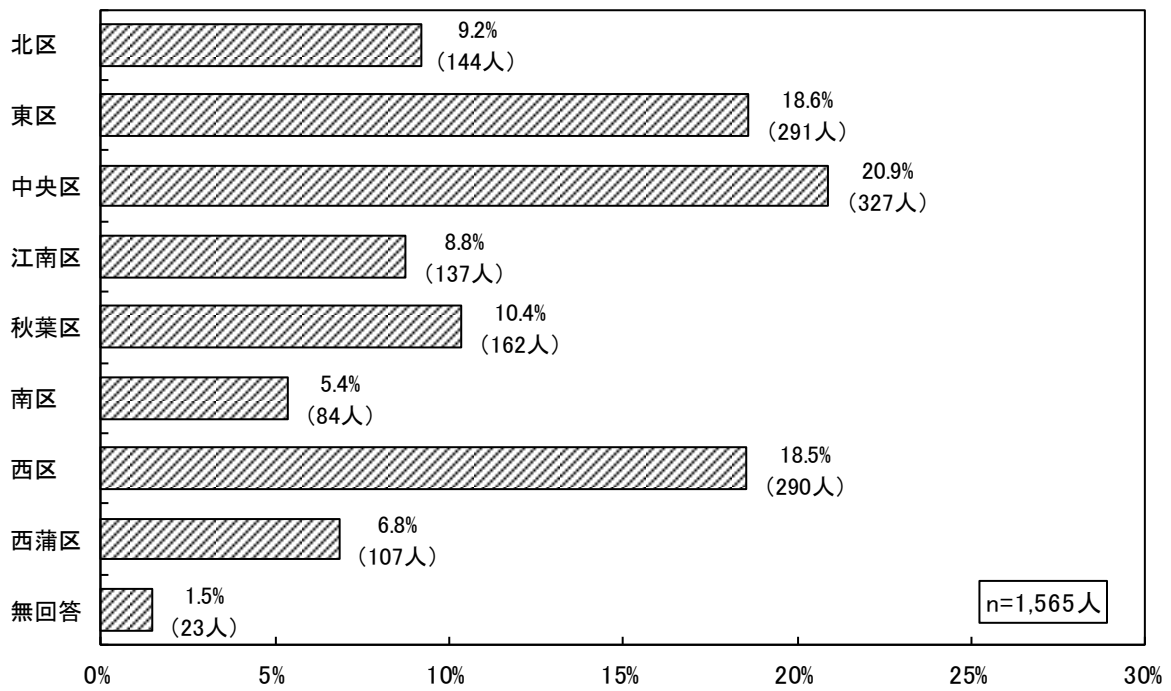
(2) 年齢



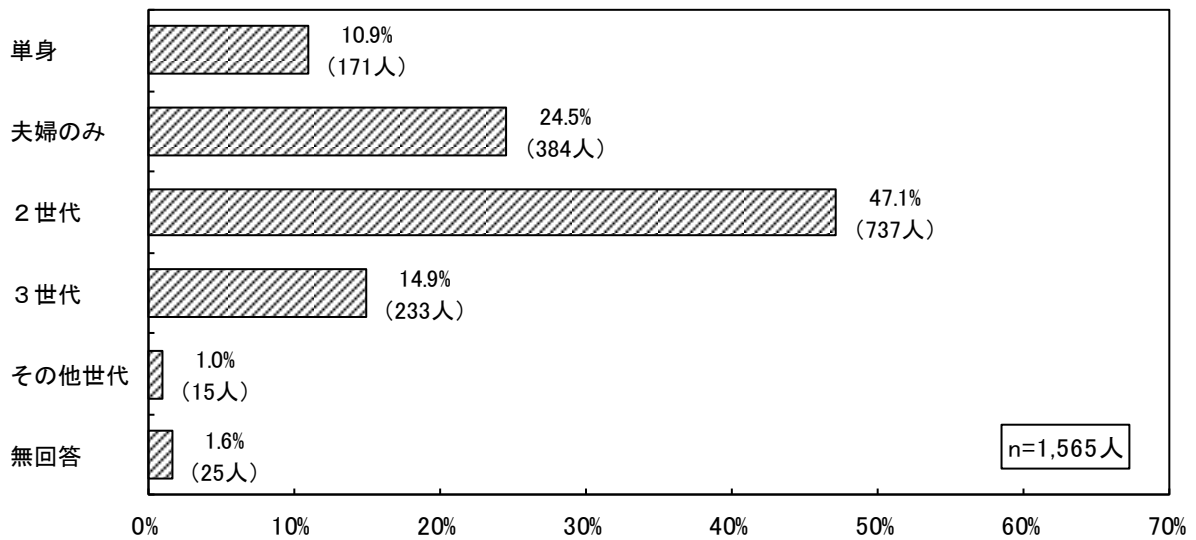
(3) 職業



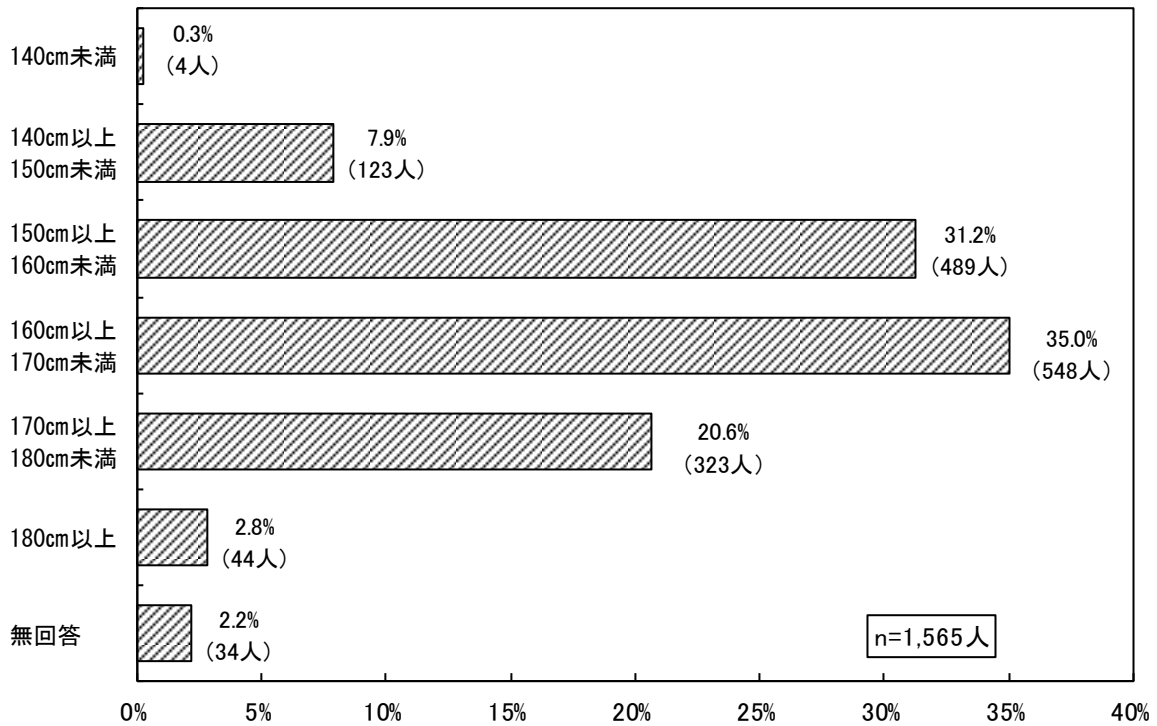
(4) 地区



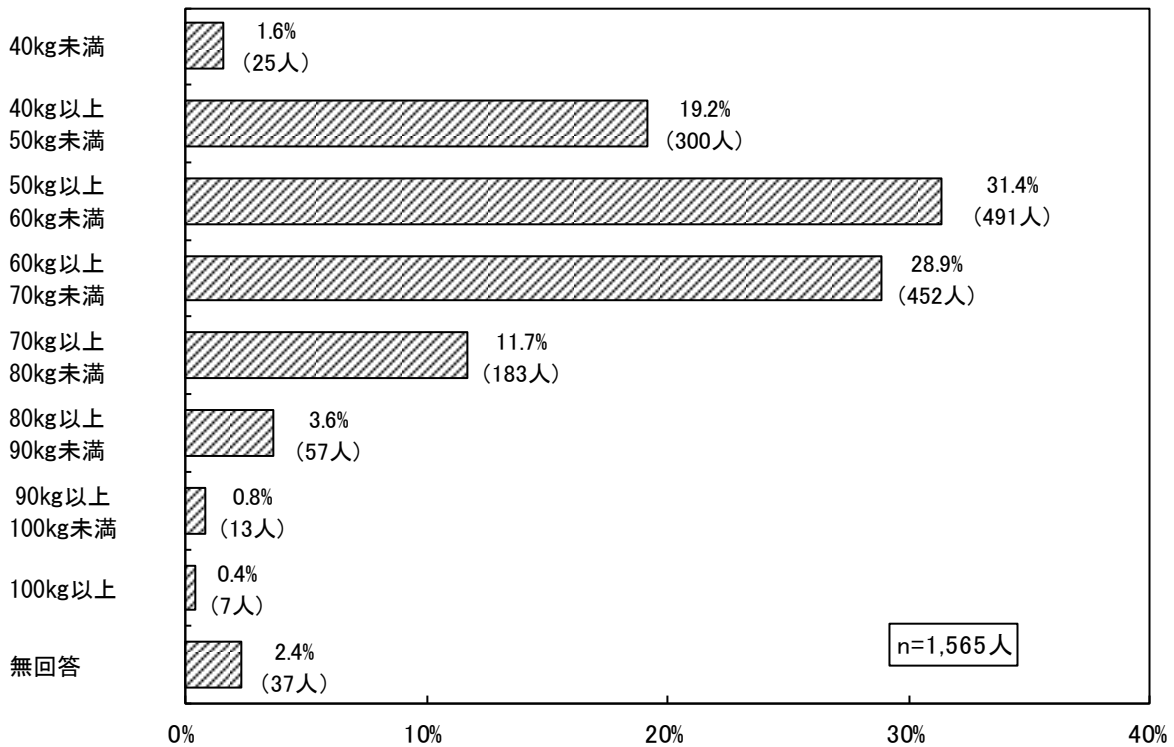
(5) 家族構成



(6) 身長



(7) 体重



第2章

調査結果

第2章 調査結果

1 体格 (BMIの状況)

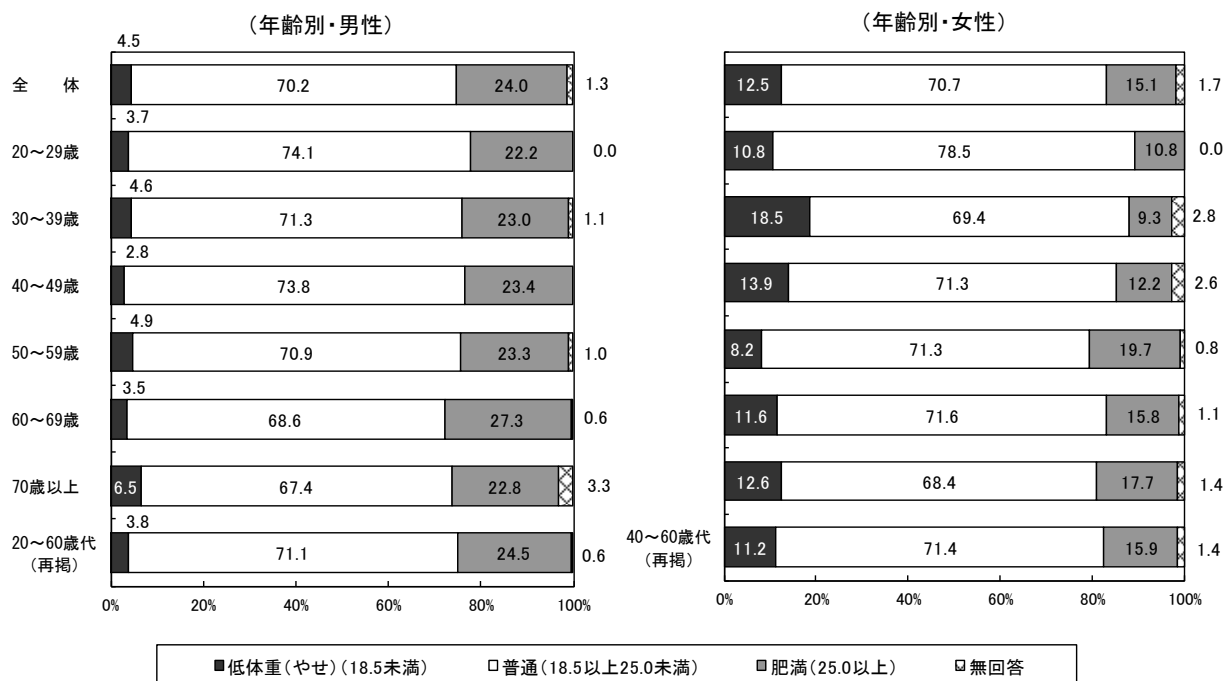
問6 あなたの身長と体重を記入してください。

男性の2割強が肥満 (BMI25.0以上)、女性の1割強が低体重 (やせ) (BMI18.5未満)

男性では、肥満 (BMI25.0以上) 者の割合が60歳代 (27.3%) で3割弱と最も高く、以下40歳代 (23.4%)、30歳代 (23.0%) となっている。

女性では、肥満 (BMI25.0以上) 者の割合は50歳代 (19.7%) で約2割と最も高くなっている。一方、低体重 (やせ) (BMI18.5未満) 者の割合は、30歳代 (18.5%) が2割弱で高くなっている。

図1.1 BMIの区分による肥満・普通・やせの者の割合



	計	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,565	119	195	222	226	364	420	19
男性	707	54	87	107	103	172	184	0
女性	817	65	108	115	122	190	215	2

(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

$$\text{BMI} = \frac{\text{体重 [kg]} \div \text{身長 [m]} \div \text{身長 [m]}}{\text{身長 [m]}}$$

BMI < 18.5 低体重 (やせ)
 18.5 ≤ BMI < 25.0 普通体重 (正常)
 25.0 ≤ BMI 肥満

2 「食育」に対する意識

「食育」とは

「食育」は、心身の健康増進と豊かな人間形成のために、食に関する知識や食を選択する力を身に付け、健全な食生活を実践することができるひとを育てることです。その中には、規則正しい食生活や栄養バランスのとれた食事などを実践したり、食を通じたコミュニケーションやマナー、あいさつなどの食に関する基礎を身に付けたり、自然の恵みへの感謝や伝統的な食文化などへの理解を深めたりすることが含まれます。

(1) 「食育」への関心度

問7 あなたは、「食育」に関心がありますか。(○は1つだけ)

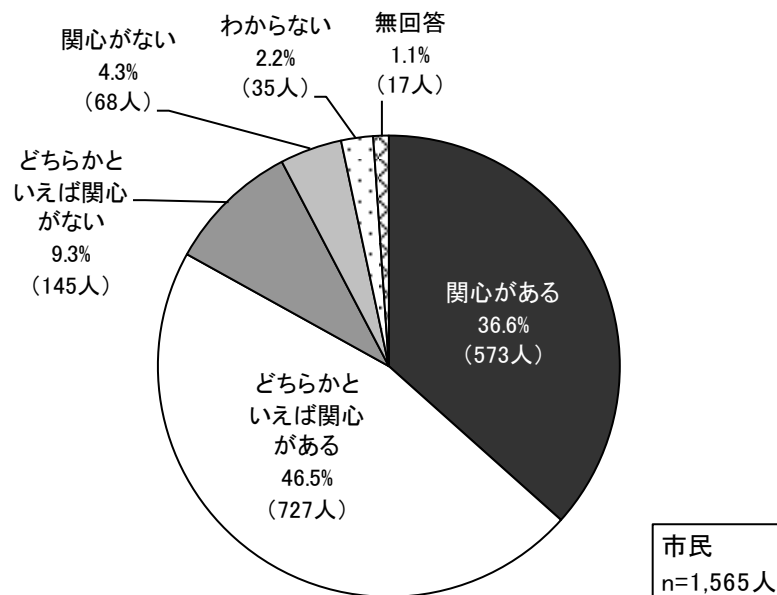
8割強が「関心がある」「どちらかといえば関心がある」と回答

【全体結果】

「関心がある」(36.6%)、「どちらかといえば関心がある」(46.5%)と回答した人を合わせた割合は8割強(83.1%)となっている。

一方、「関心がない」(4.3%)、「どちらかといえば関心がない」(9.3%)と回答した人を合わせた割合は1割強(13.6%)となっている。

図 2.1-1 「食育」への関心度



【性別・年齢別】

「関心がある」「どちらかといえば関心がある」と回答した人の割合は、男性（76.7%）に対し女性（88.7%）の方が高くなっている。特に40歳代～60歳代の女性が高く、9割を超えている。

図 2.1-2 「食育」への関心度（年齢別・全体）

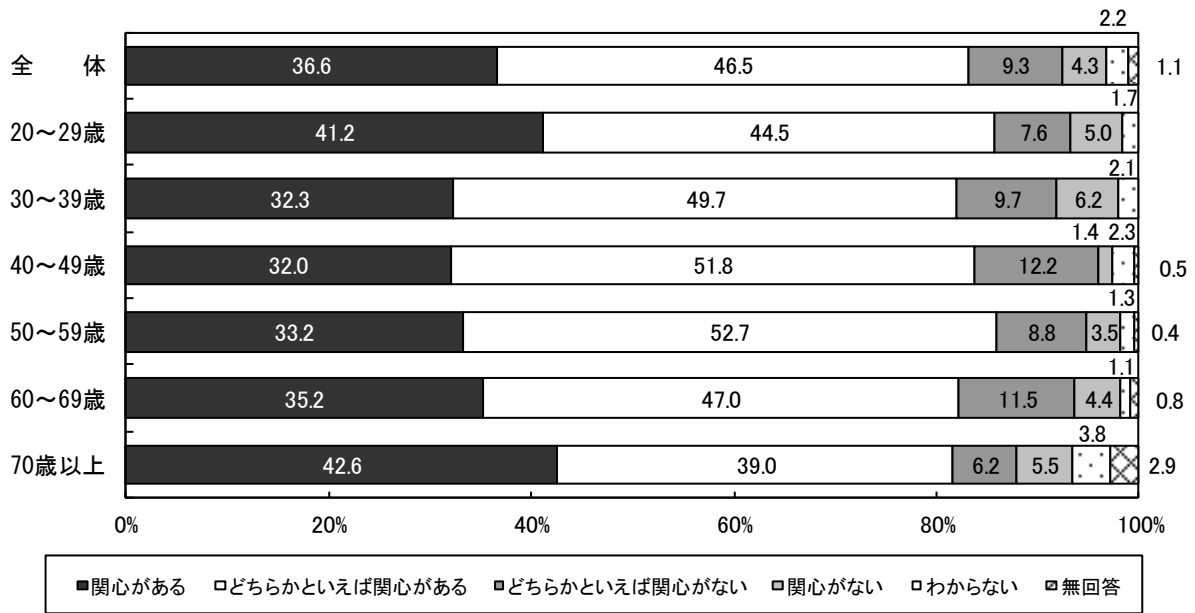
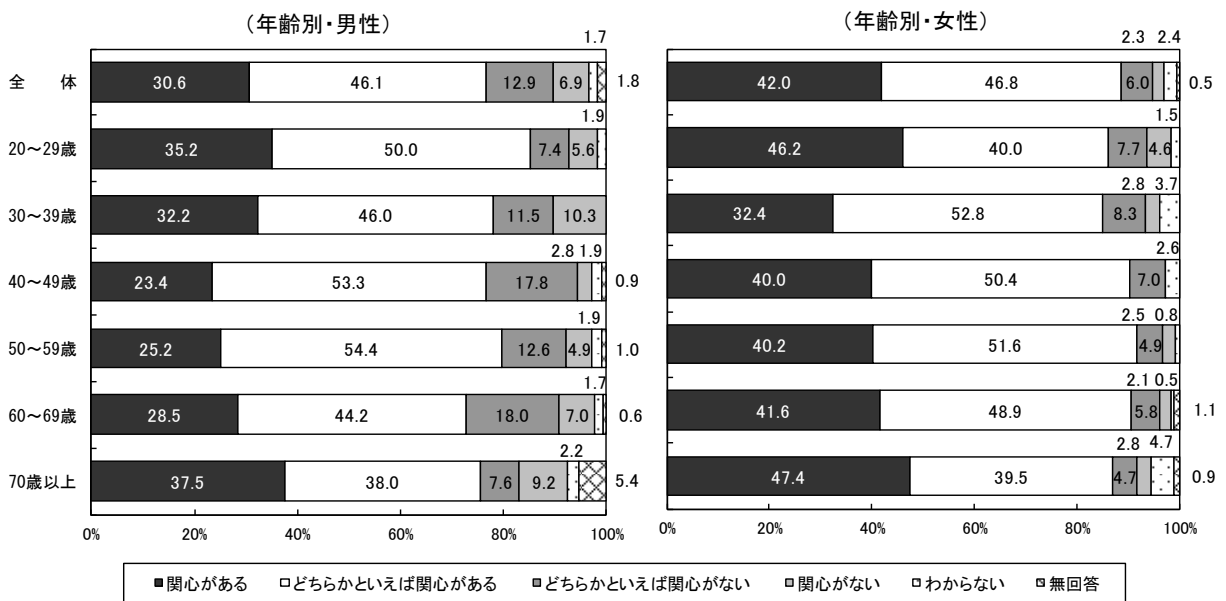


図 2.1-3 「食育」への関心度



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,565	119	195	222	226	364	420	19
男性	707	54	87	107	103	172	184	0
女性	817	65	108	115	122	190	215	2

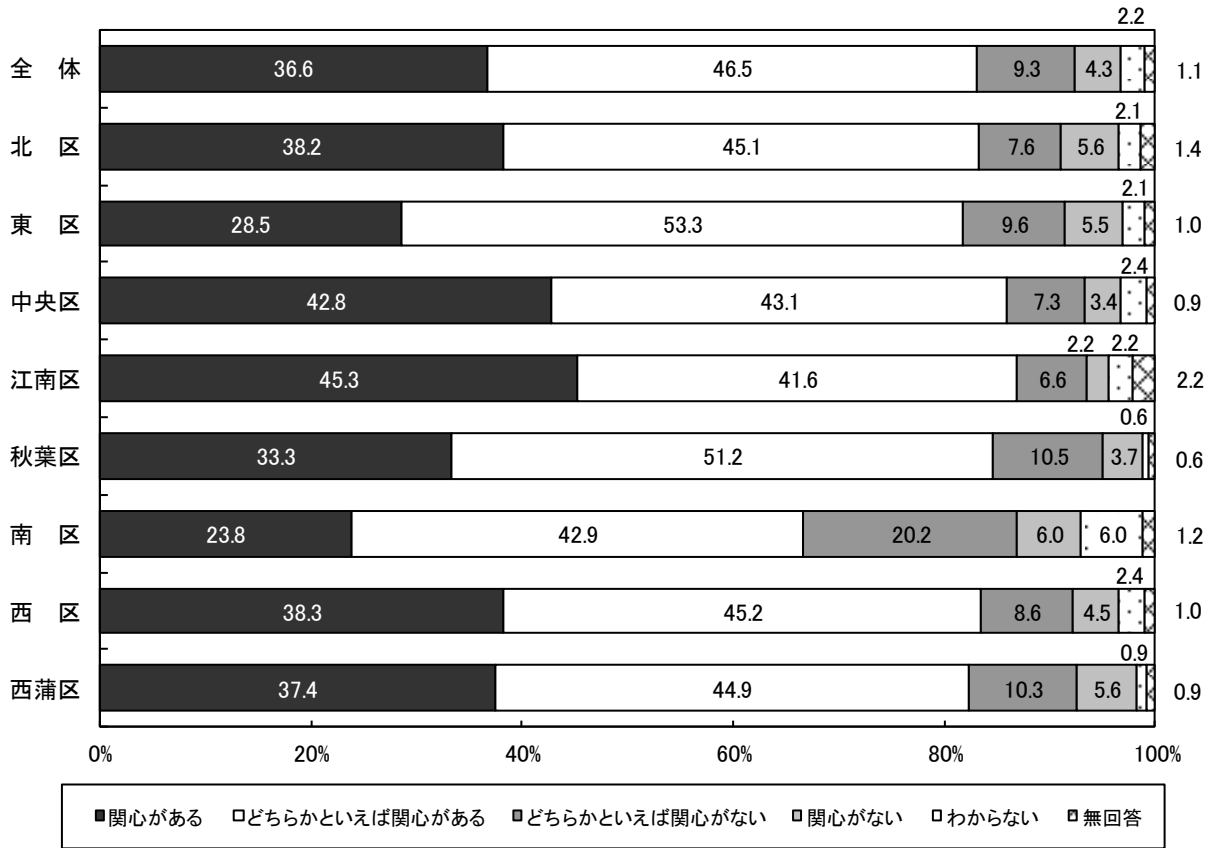
(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「関心がある」「どちらかといえば関心がある」と回答した人の割合は、江南区（86.9%）で最も高く、南区（66.7%）では他の地区に比べ低くなっている。

図 2.1-4 「食育」への関心度（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,565	144	291	327	137	162	84	290	107	23

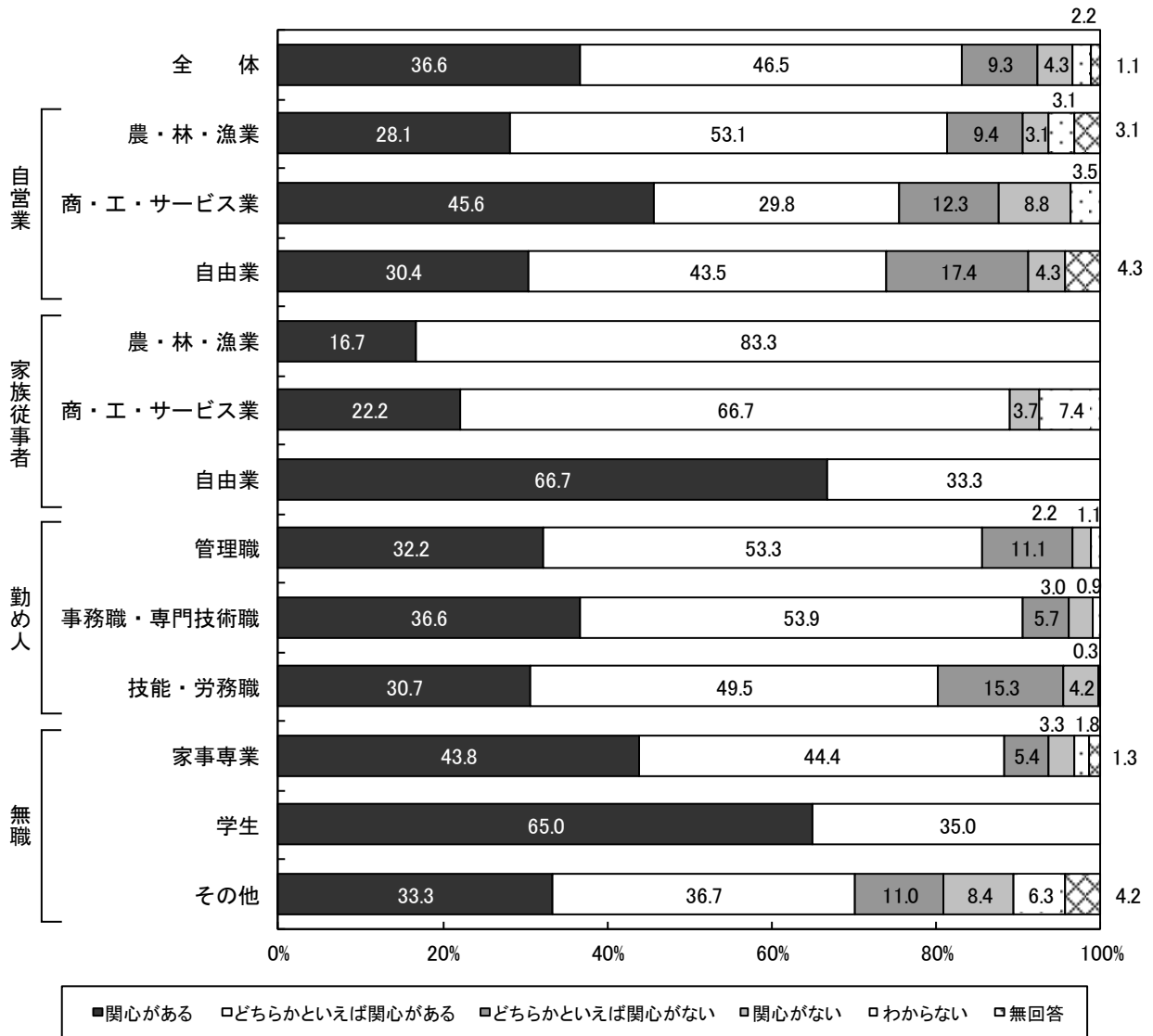
(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 2.1-5 「食育」への関心度（職業別）



全体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,565	32	57	23	6	27	9

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
90	336	287	390	20	237	51

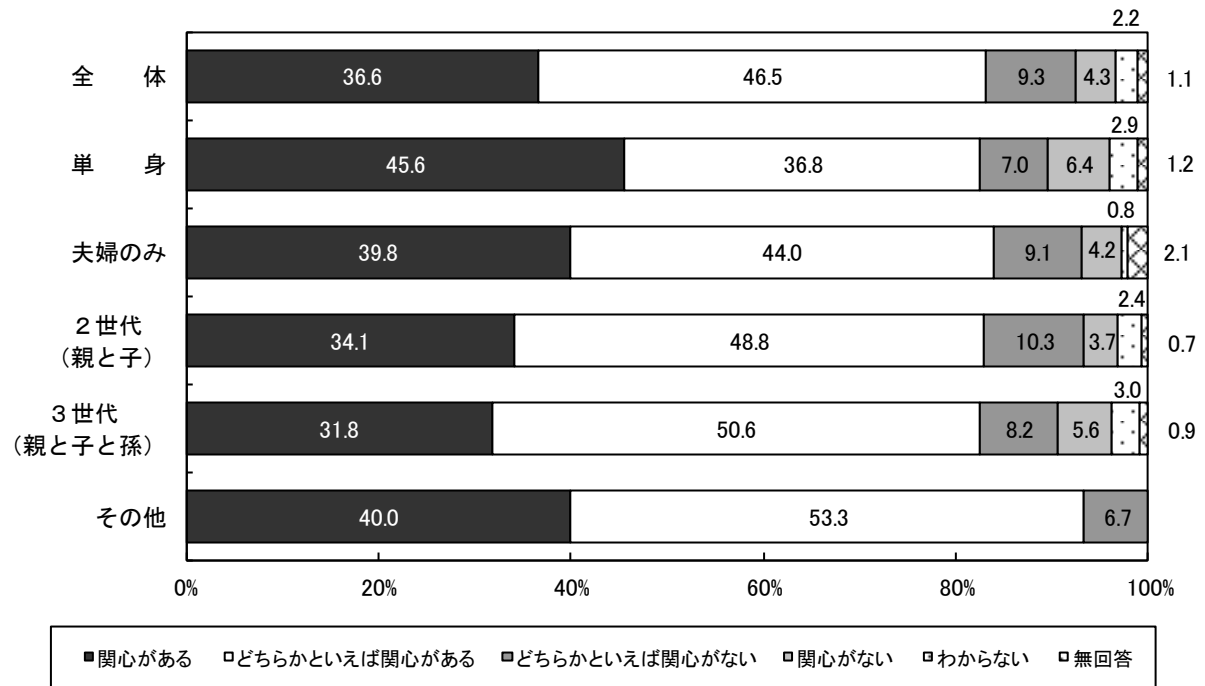
(人)

※無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「関心がある」「どちらかといえば関心がある」と回答した人の割合は、夫婦のみ（83.9%）で最も高くなっている。

図 2.1-6 「食育」への関心度（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代 (親と子)	3世代 (親と子と孫)	その他	無回答
1,565	171	384	737	233	15	25

(人)

※無回答者のグラフは省略した。

(2) 「食育」の実践度

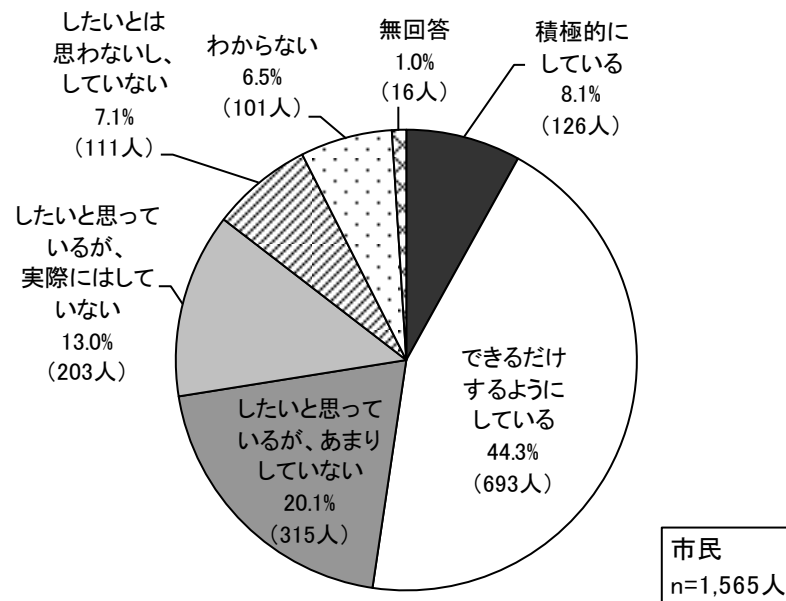
問8 あなたは、日ごろ、「食育」を何らかの形で実践していますか。(〇は1つだけ)

過半数が「積極的にしている」「できるだけするようにしている」と回答

【全体結果】

「積極的にしている」(8.1%)、「できるだけするようにしている」(44.3%)と回答した人を合わせた割合は過半数(52.3%)となっている。「したいと思っているが、あまりしていない」(20.1%)、「したいと思っているが、実際にはしていない」(13.0%)と回答した人を合わせた割合が3割強(33.1%)で、「したいとは思わないし、していない」(7.1%)と回答した人は1割弱(7.1%)となっている。

図 2.2-1 「食育」の実践度



【性別・年齢別】

「積極的にしている」「できるだけするようにしている」と回答した人の割合は、70歳以上で高く6割を超えている。また、各年代とも、女性の方が男性よりも実践度が高くなっている。

図 2.2-2 「食育」の実践度（年齢別・全体）

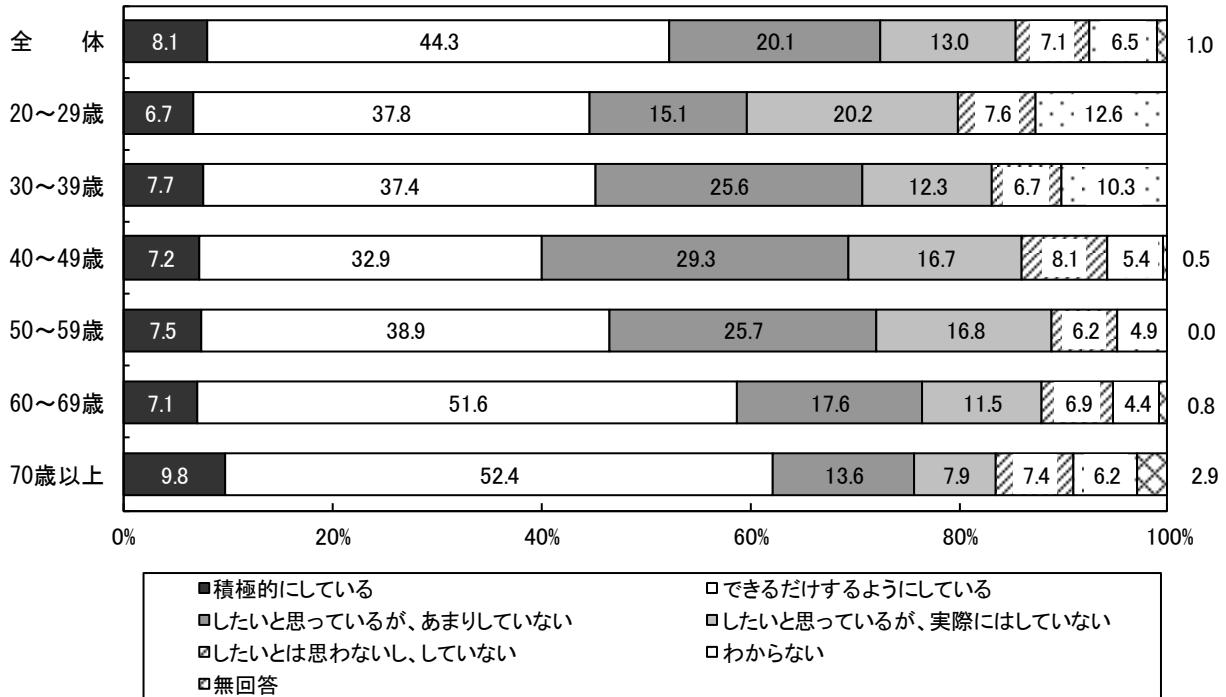
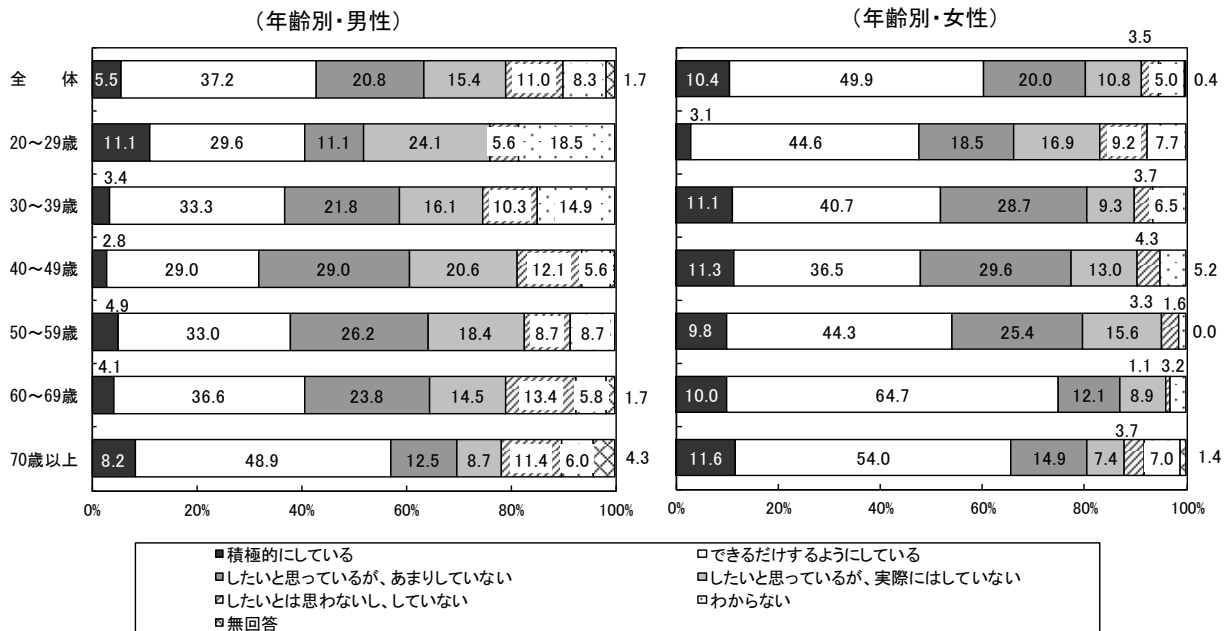


図 2.2-3 「食育」の実践度



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,565	119	195	222	226	364	420	19
男性	707	54	87	107	103	172	184	0
女性	817	65	108	115	122	190	215	2

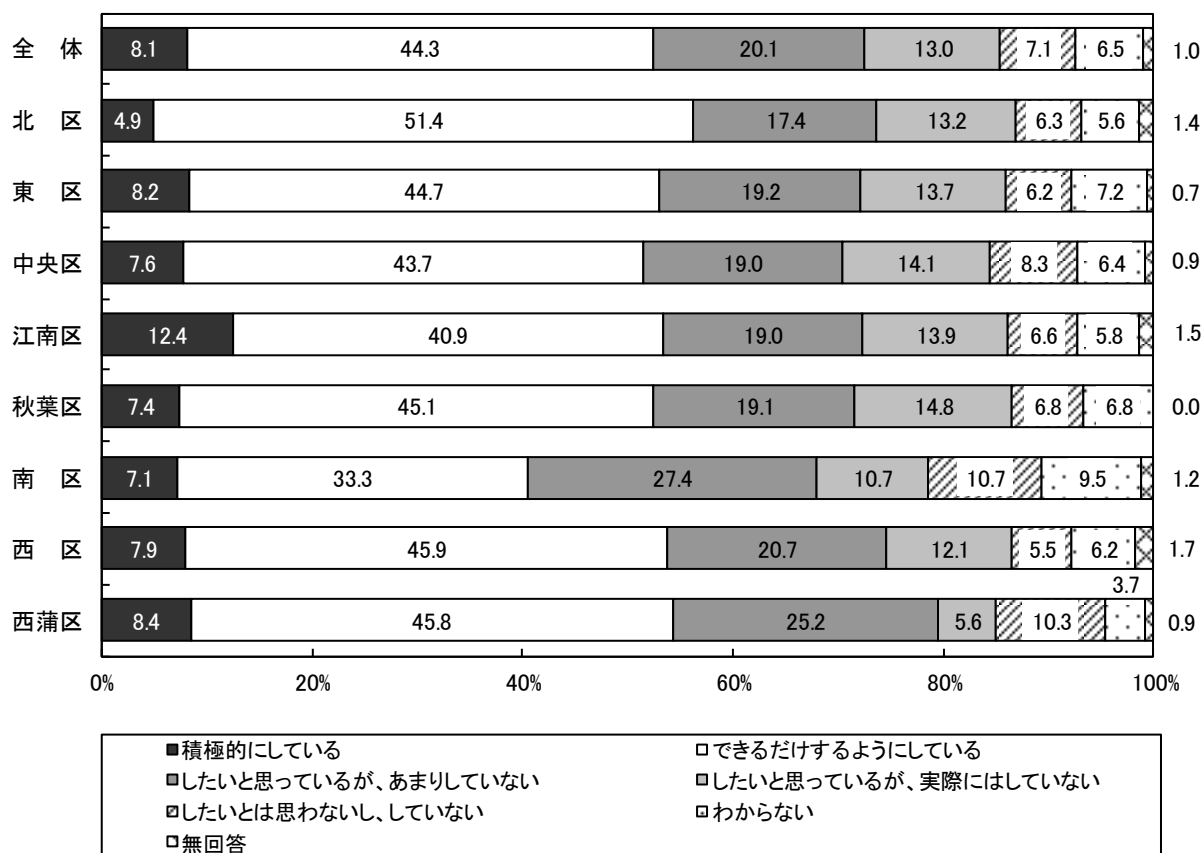
(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「積極的にしている」「できるだけするようにしている」と回答した人の割合は、北区（56.3%）で最も高くなっている。南区（40.5%）では他の地区に比べ低くなっている。

図 2.2-4 「食育」の実践度（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,565	144	291	327	137	162	84	290	107	23

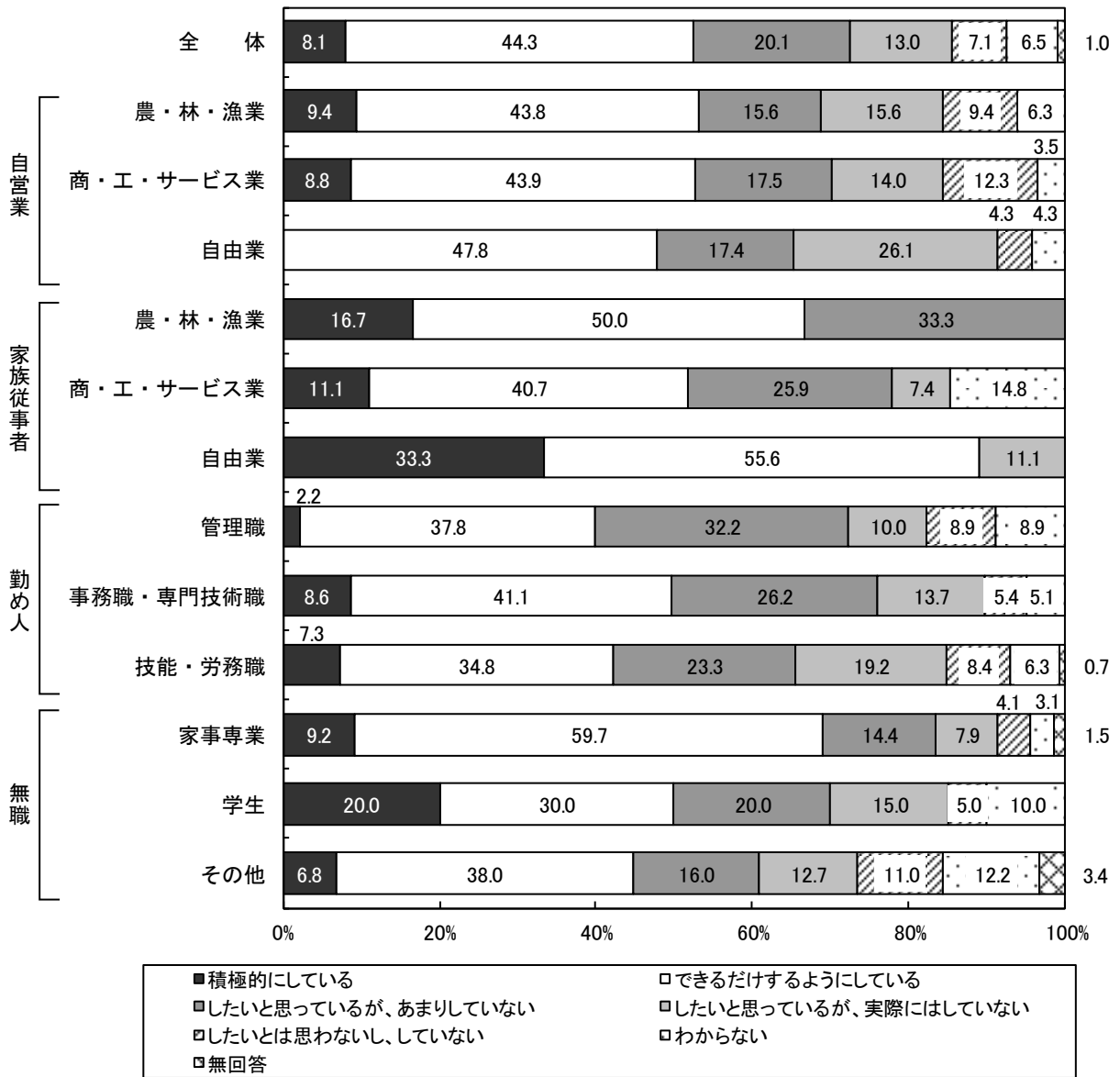
(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 2.2-5 「食育」の実践度（職業別）



全体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,565	32	57	23	6	27	9

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
90	336	287	390	20	237	51

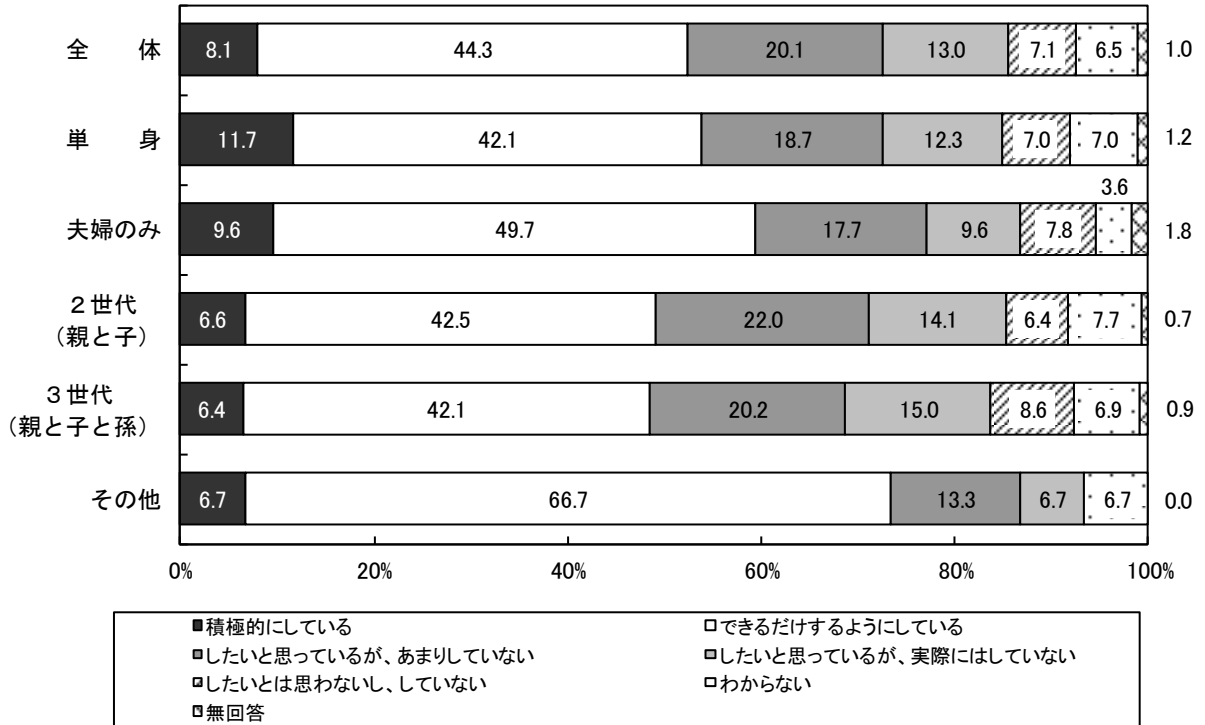
(人)

※無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「積極的にしている」「できるだけするようにしている」と回答した人の割合は、夫婦のみ（59.4%）で最も高くなっている。一方、「したいと思っているが、あまりしていない」「したいと思っているが、実際にはしていない」と回答した人の割合は、2世代（36.1%）、3世代（35.2%）でやや高くなっている。

図 2.2-6 「食育」の実践度（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代(親と子)	3世代(親と子と孫)	その他	無回答
1,565	171	384	737	233	15	25

(人)

※無回答者のグラフは省略した。

(3) 食育を実践していない理由

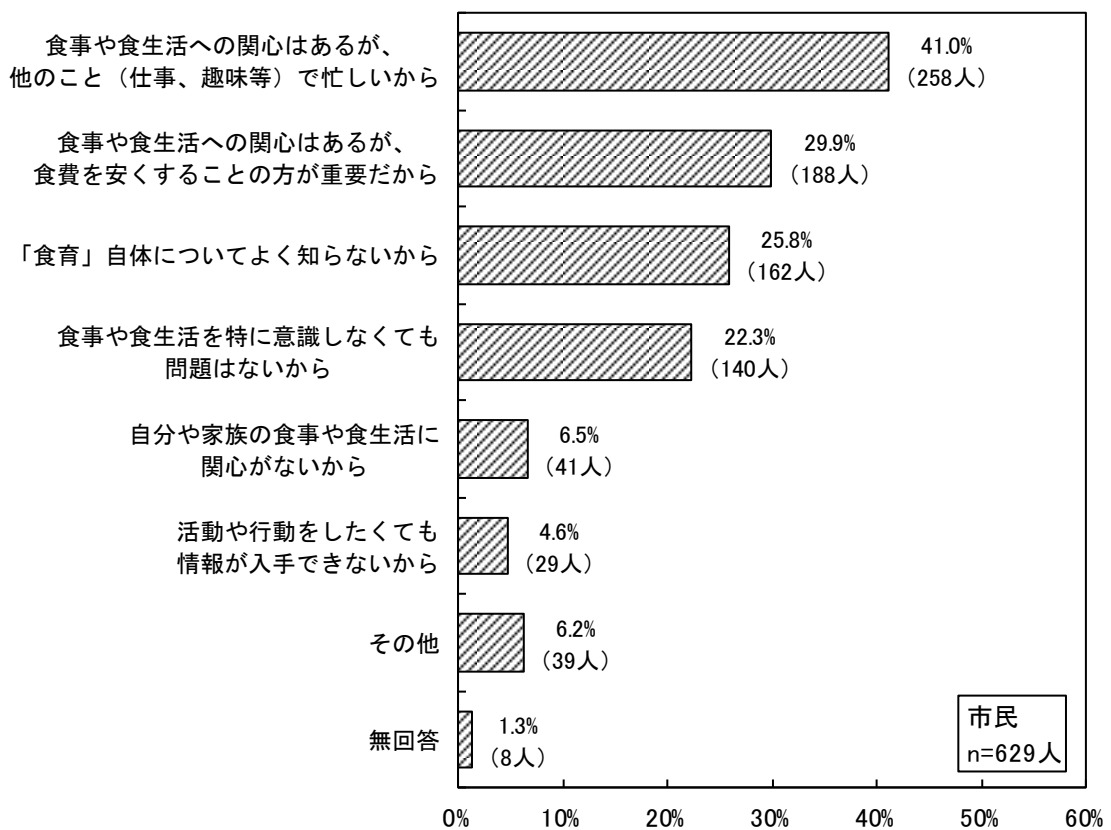
問8-1 あなたが「食育」を実践していない理由は何ですか。(〇は3つまで)

「食事や食生活への関心はあるが、他のこと（仕事、趣味等）で忙しいから」が4割以上

【全体結果】

食育を実践していない理由については、「食事や食生活への関心はあるが、他のこと（仕事、趣味等）で忙しいから」（41.0%）と回答した人が最も多く、以下「食事や食生活への関心はあるが、食費を安くすることの方が重要だから」（29.9%）、「『食育』自体についてよく知らないから」（25.8%）、「食事や食生活を特に意識しなくても問題はないから」（22.3%）と続いている。

図 2.3-1 食育を実践していない理由



【性別・年齢別】

70歳以上を除いた年代で、「食事や食生活への関心はあるが、他のこと（仕事、趣味等）で忙しいから」と回答した人の割合が最も高くなっている。70歳以上では「食事や食生活を特に意識しなくても問題はないから」（38.8%）と回答した人が最も多くなっている。

表 1.1 食育を実践していない理由（年齢別・全体）

	対象者	食事や食生活への関心はあるが、他のこと（仕事、趣味等）で忙しいから	食事や食生活への関心はあるが、食費を安くすることの方が重要だから	「食育」自体についてよく知らないから	食事や食生活を特に意識しなくても問題はないから	自分や家族の食事や食生活に関心がないから	活動や行動をしたくても情報が入手できないから	その他	無回答
計	629	41.0	29.9	25.8	22.3	6.5	4.6	6.2	1.3
20～29歳	51	68.6	25.5	25.5	9.8	5.9	9.8	7.8	0.0
30～39歳	87	57.5	46.0	32.2	3.4	5.7	5.7	1.1	0.0
40～49歳	120	55.8	33.3	20.8	16.7	4.2	1.7	3.3	1.7
50～59歳	110	43.6	35.5	23.6	20.0	5.5	2.7	6.4	0.0
60～69歳	131	29.0	27.5	25.2	30.5	7.6	6.9	5.3	0.8
70歳以上	121	13.2	13.2	28.9	38.8	9.1	4.1	11.6	4.1
年齢不明	9	44.4	44.4	22.2	33.3	11.1	0.0	22.2	0.0

対象者：人/回答：%

表 1.2 食育を実践していない理由（年齢別・男性）

	対象者	食事や食生活への関心はあるが、他のこと（仕事、趣味等）で忙しいから	食事や食生活への関心はあるが、食費を安くすることの方が重要だから	「食育」自体についてよく知らないから	食事や食生活を特に意識しなくても問題はないから	自分や家族の食事や食生活に関心がないから	活動や行動をしたくても情報が入手できないから	その他	無回答
計	334	35.0	24.6	29.6	26.9	8.7	4.8	4.5	0.9
20～29歳	22	68.2	18.2	18.2	18.2	0.0	4.5	4.5	0.0
30～39歳	42	57.1	52.4	33.3	4.8	9.5	7.1	0.0	0.0
40～49歳	66	48.5	25.8	22.7	24.2	6.1	1.5	3.0	1.5
50～59歳	55	32.7	29.1	29.1	25.5	7.3	3.6	5.5	0.0
60～69歳	89	27.0	19.1	29.2	30.3	10.1	7.9	4.5	1.1
70歳以上	60	6.7	10.0	40.0	45.0	13.3	3.3	8.3	1.7
年齢不明	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

対象者：人/回答：%

表 1.3 食育を実践していない理由（年齢別・女性）

	対象者	食事や食生活への関心はあるが、他のこと（仕事、趣味等）で忙しいから	食事や食生活への関心はあるが、食費を安くすることの方が重要だから	「食育」自体についてよく知らないから	食事や食生活を特に意識しなくても問題はないから	自分や家族の食事や食生活に関心がないから	活動や行動をしたくても情報が入手できないから	その他	無回答
計	280	48.9	36.1	21.8	15.4	3.9	4.6	7.5	1.8
20～29歳	29	69.0	31.0	31.0	3.4	10.3	13.8	10.3	0.0
30～39歳	45	57.8	40.0	31.1	2.2	2.2	4.4	2.2	0.0
40～49歳	54	64.8	42.6	18.5	7.4	1.9	1.9	3.7	1.9
50～59歳	54	55.6	42.6	18.5	13.0	3.7	1.9	7.4	0.0
60～69歳	42	33.3	45.2	16.7	31.0	2.4	4.8	7.1	0.0
70歳以上	56	21.4	16.1	19.6	30.4	5.4	5.4	14.3	7.1
年齢不明	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

対象者：人/回答：%

(4) 食べ物を無駄にしないための行動

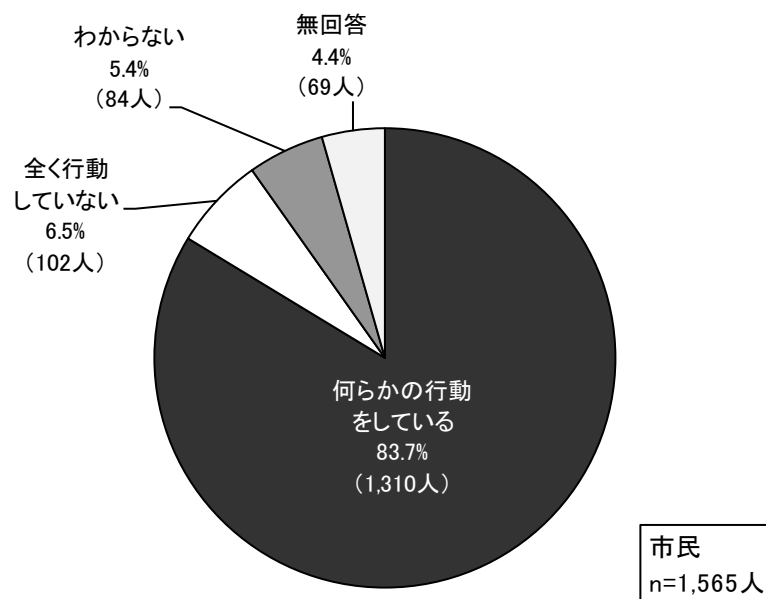
問9 食べ物を無駄にしないように、あなたは何らかの行動をしていますか。
(食材を買いすぎない、作りすぎない、残さず食べる、冷凍保存を活用する、賞味期限を過ぎてもすぐに捨てずに自分で食べられるか判断するなど) (〇は1つだけ)

8割強が「何らかの行動をしている」と回答

【全体結果】

「何らかの行動をしている」と回答した人の割合は8割強（83.7%）となっている。「全く行動していない」と回答した人の割合は1割弱（6.5%）となっている。

図 2.4-1 食べ物を無駄にしないための行動



【性別・年齢別】

「何らかの行動をしている」と回答した人の割合は、50歳代で最も高くなり、その後年齢が上がるにつれて低くなる傾向が見られる。また、各年代とも、女性の方が男性よりも実践度が高くなっている。

図 2.4-2 食べ物を無駄にしないための行動（年齢別・全体）

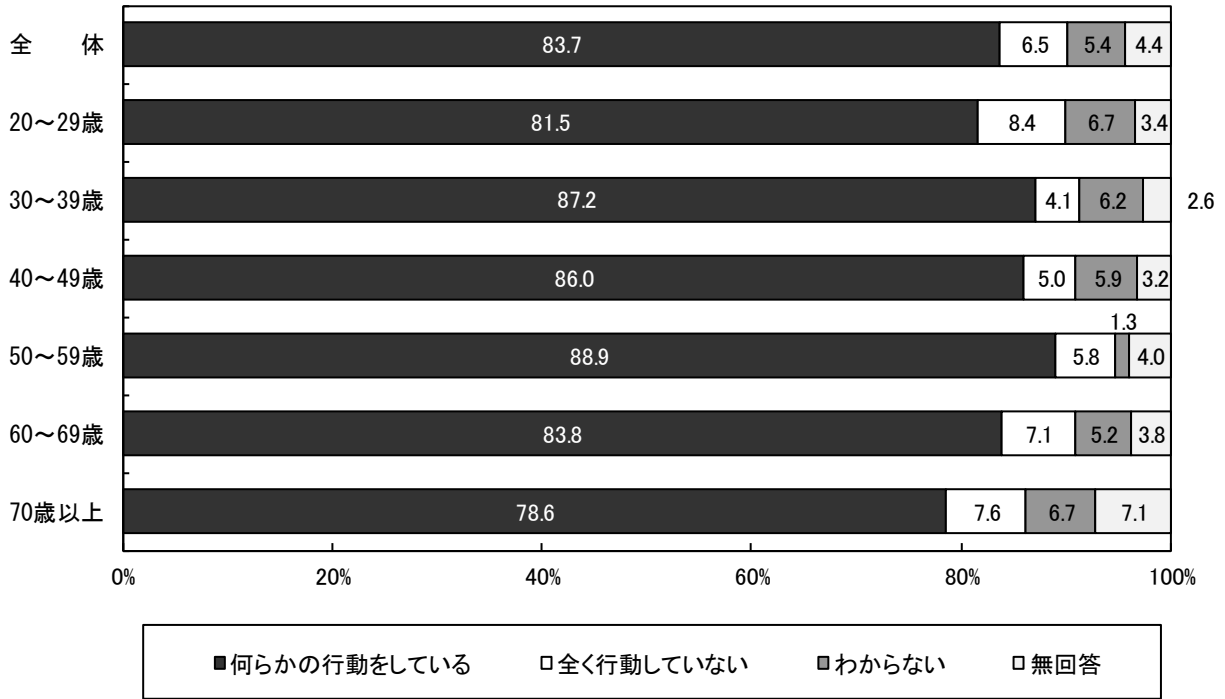
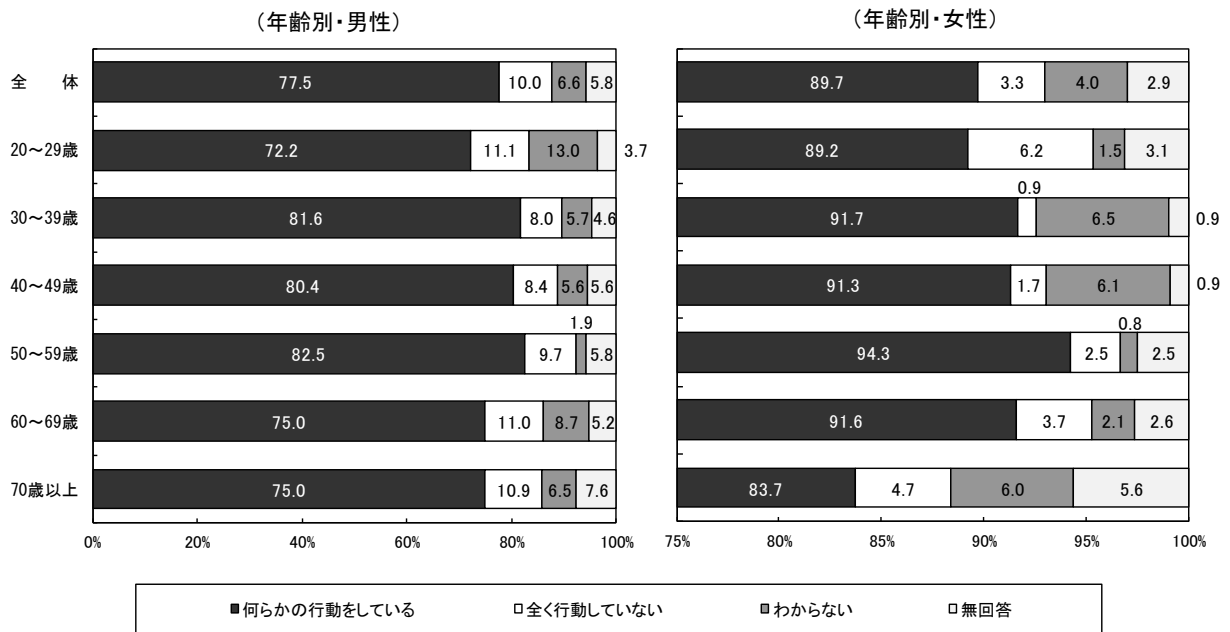


図 2.4-3 食べ物を無駄にしないための行動



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,565	119	195	222	226	364	420	19
男性	707	54	87	107	103	172	184	0
女性	817	65	108	115	122	190	215	2

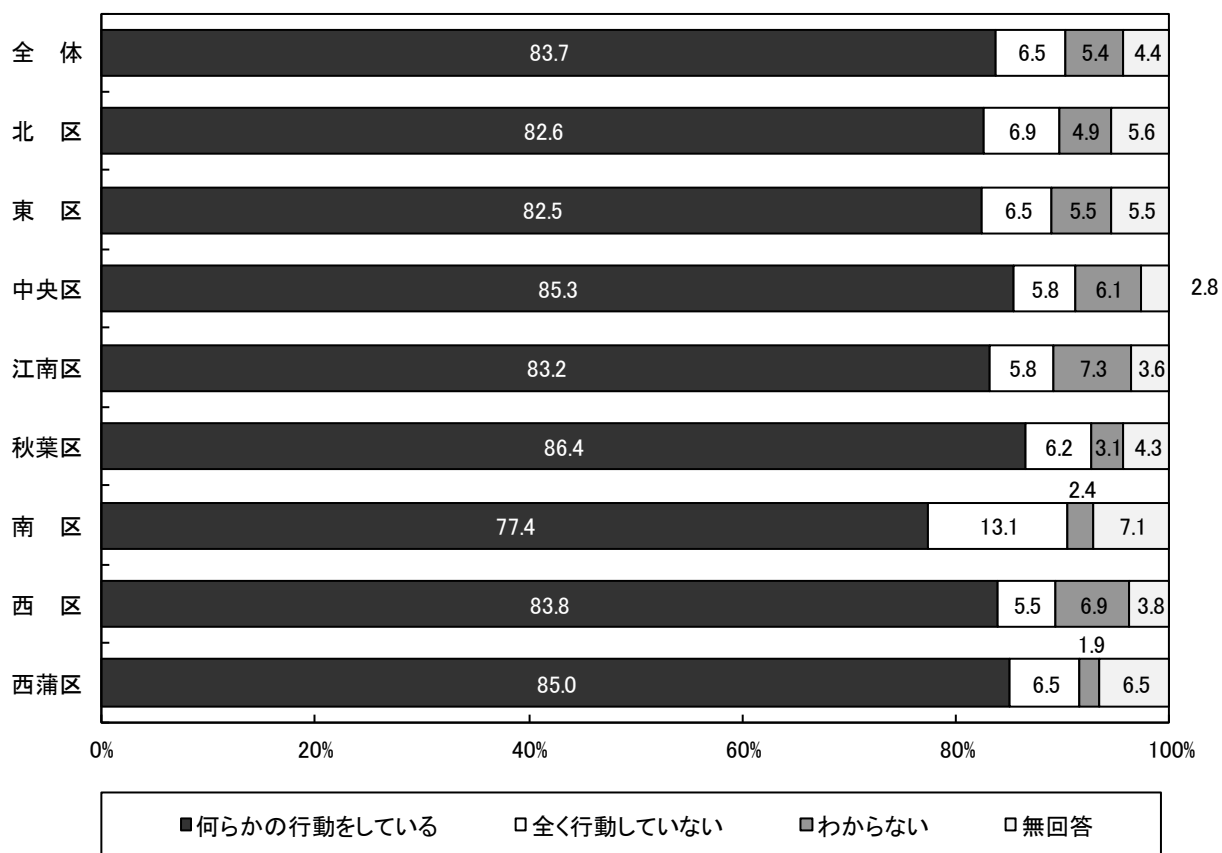
(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「何らかの行動をしている」と回答した人の割合は、秋葉区（86.4%）で最も高く、9割弱となっている。南区（77.4%）では他の地区に比べ低くなっている。

図 2.4-4 食べ物を無駄にしないための行動（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,565	144	291	327	137	162	84	290	107	23

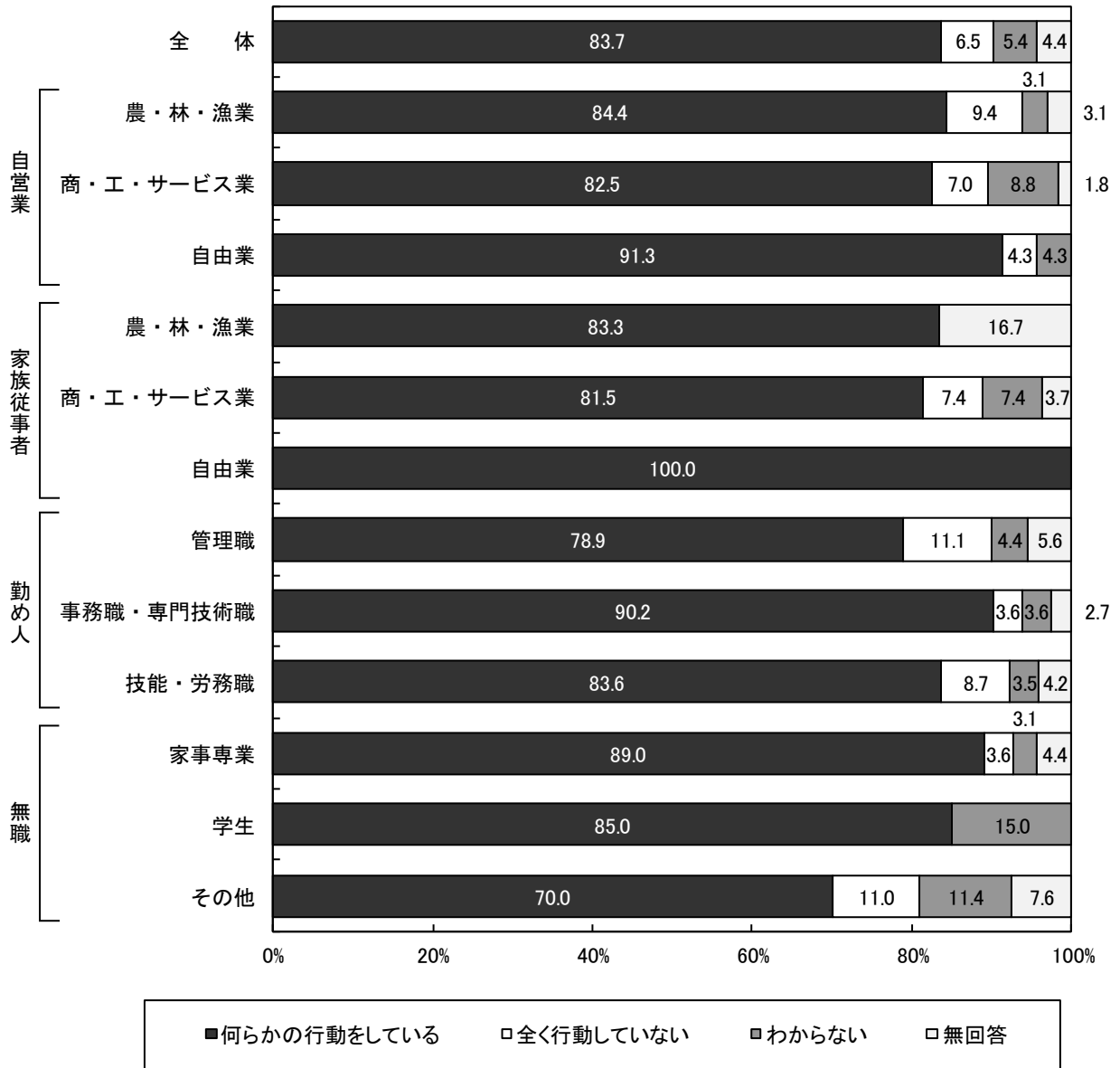
(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 2.4-5 食べ物を無駄にしないための行動（職業別）



全 体	自 営 業			家 族 従 事 者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,565	32	57	23	6	27	9

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
90	336	287	390	20	237	51

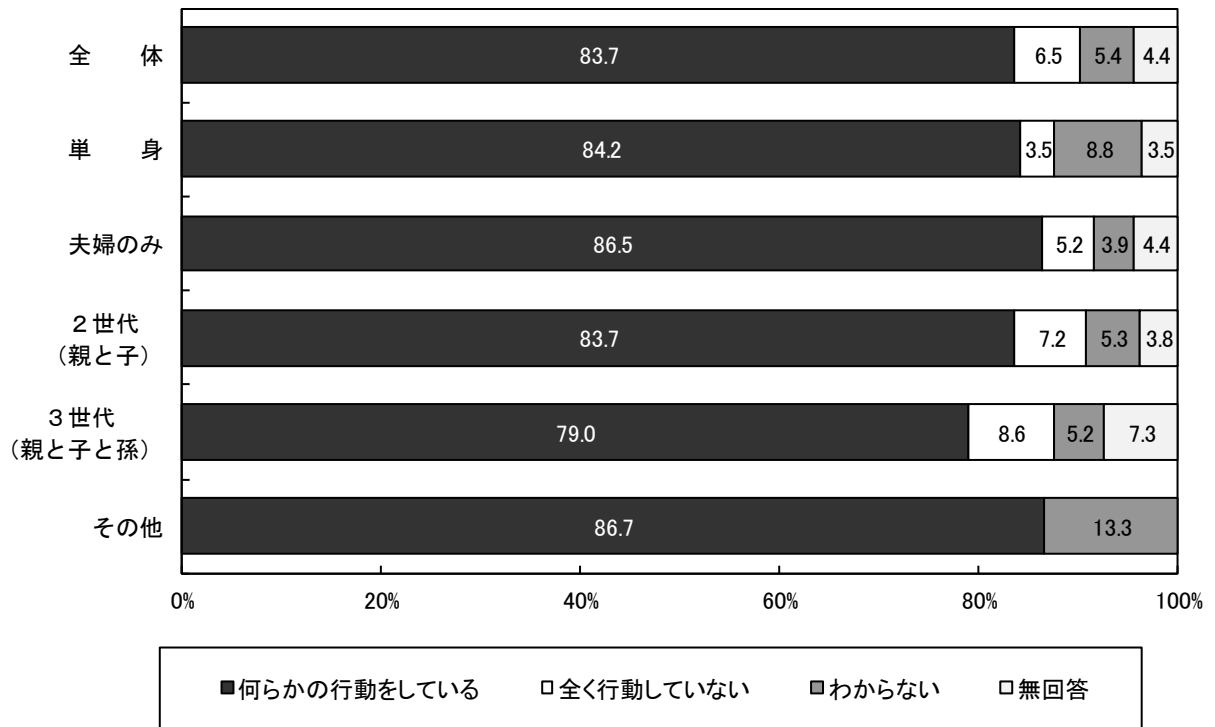
(人)

※無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

各家族構成ともに、「何らかの行動をしている」と回答した人の割合が最も高くなっている。

図 2.4-6 食べ物を無駄にしないための行動（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代 (親と子)	3世代 (親と子と孫)	その他	無回答
1,565	171	384	737	233	15	25

(人)

※無回答者のグラフは省略した。

(5) 伝統的な料理や作法の大切さ

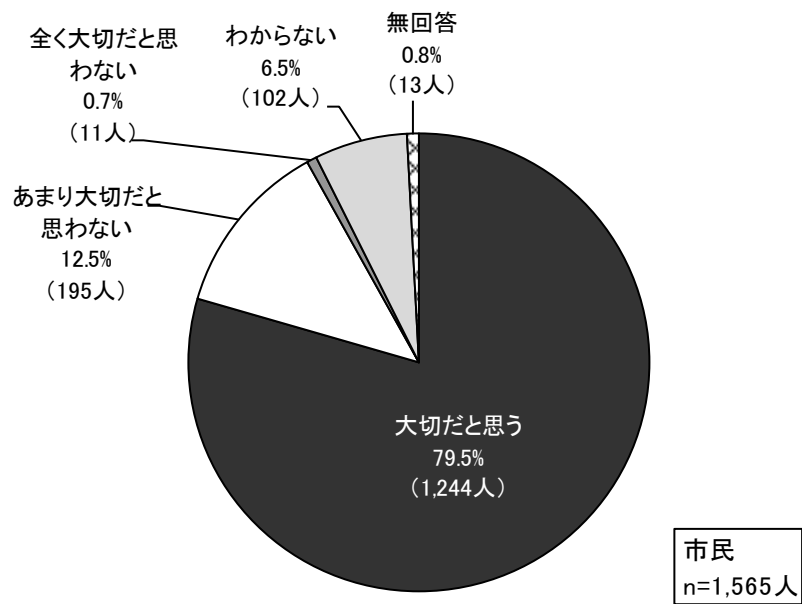
問10 地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法が大切だと思いますか。(〇は1つだけ)

約8割が「大切だと思う」と回答

【全体結果】

「大切だと思う」と回答した人の割合は約8割(79.5%)となっている。「あまり大切だと思わない」(12.5%)、「全く大切だと思わない」(0.7%)と回答した人を合わせた割合が1割強(13.2%)となっている。

図 2.5-1 伝統的な料理や作法の大切さ



【性別・年齢別】

「大切だと思う」と回答した人の割合は、50歳代（84.5%）で最も高くなり、その後年齢が上がるにつれて低くなる傾向が見られる。また、各年代とも、女性の方が男性よりも実践度が高くなっている

図 2.5-2 伝統的な料理や作法の大切さ（年齢別・全体）

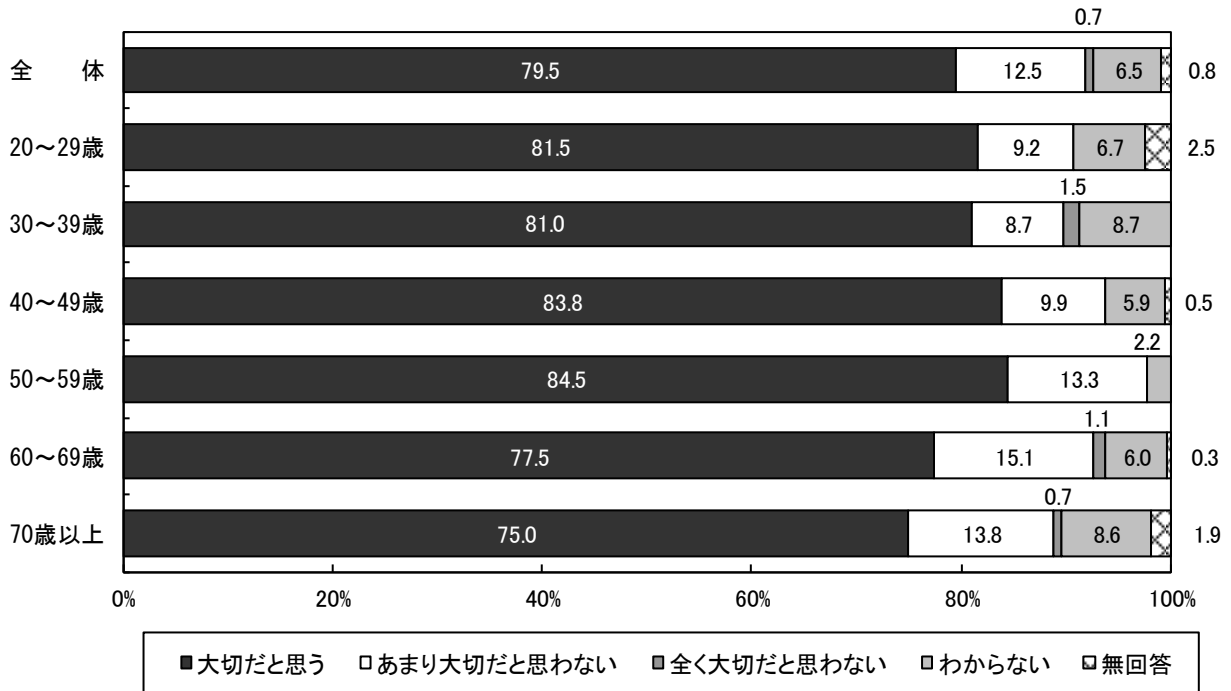
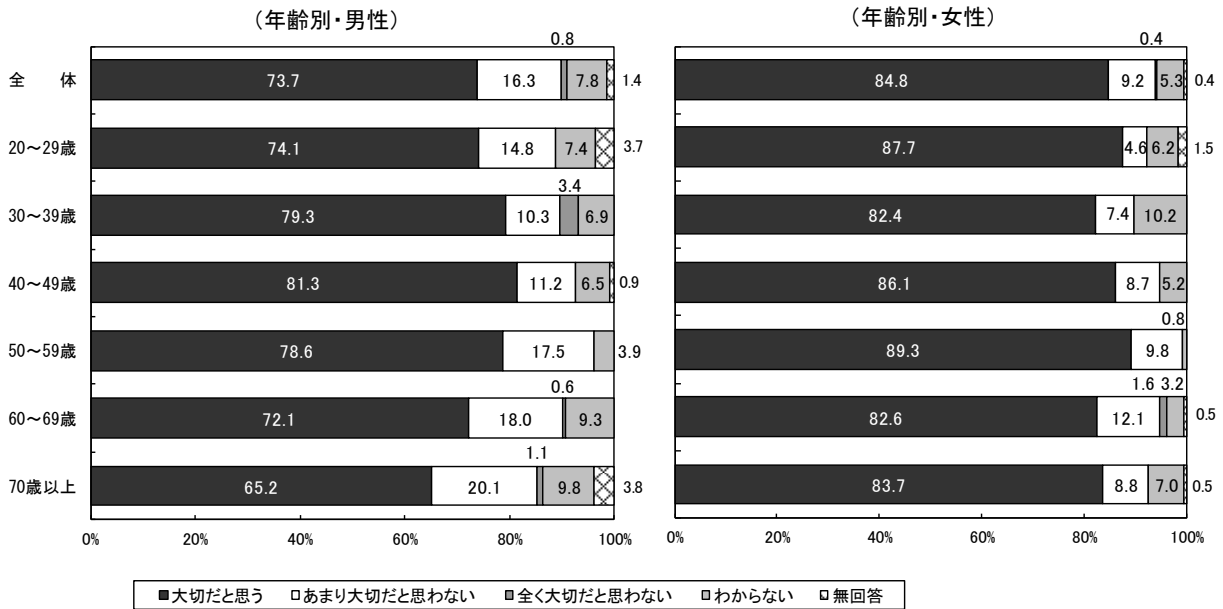


図 2.5-3 伝統的な料理や作法の大切さ



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,565	119	195	222	226	364	420	19
男性	707	54	87	107	103	172	184	0
女性	817	65	108	115	122	190	215	2

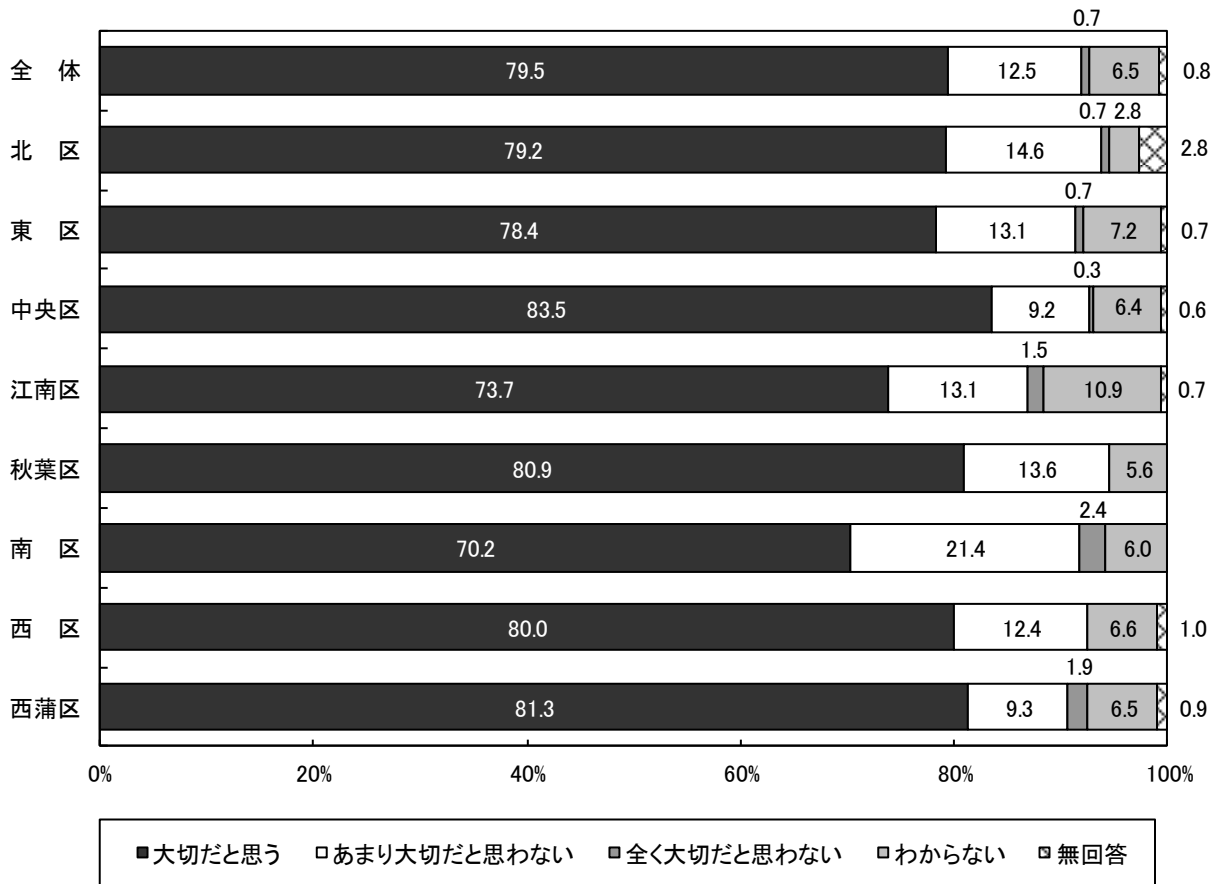
(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「大切だと思う」と回答した人の割合は、中央区（83.5%）で最も高く、8割強となっている。南区（70.2%）では他の地区に比べ低くなっている。

図 2.5-4 伝統的な料理や作法の大切さ（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,565	144	291	327	137	162	84	290	107	23

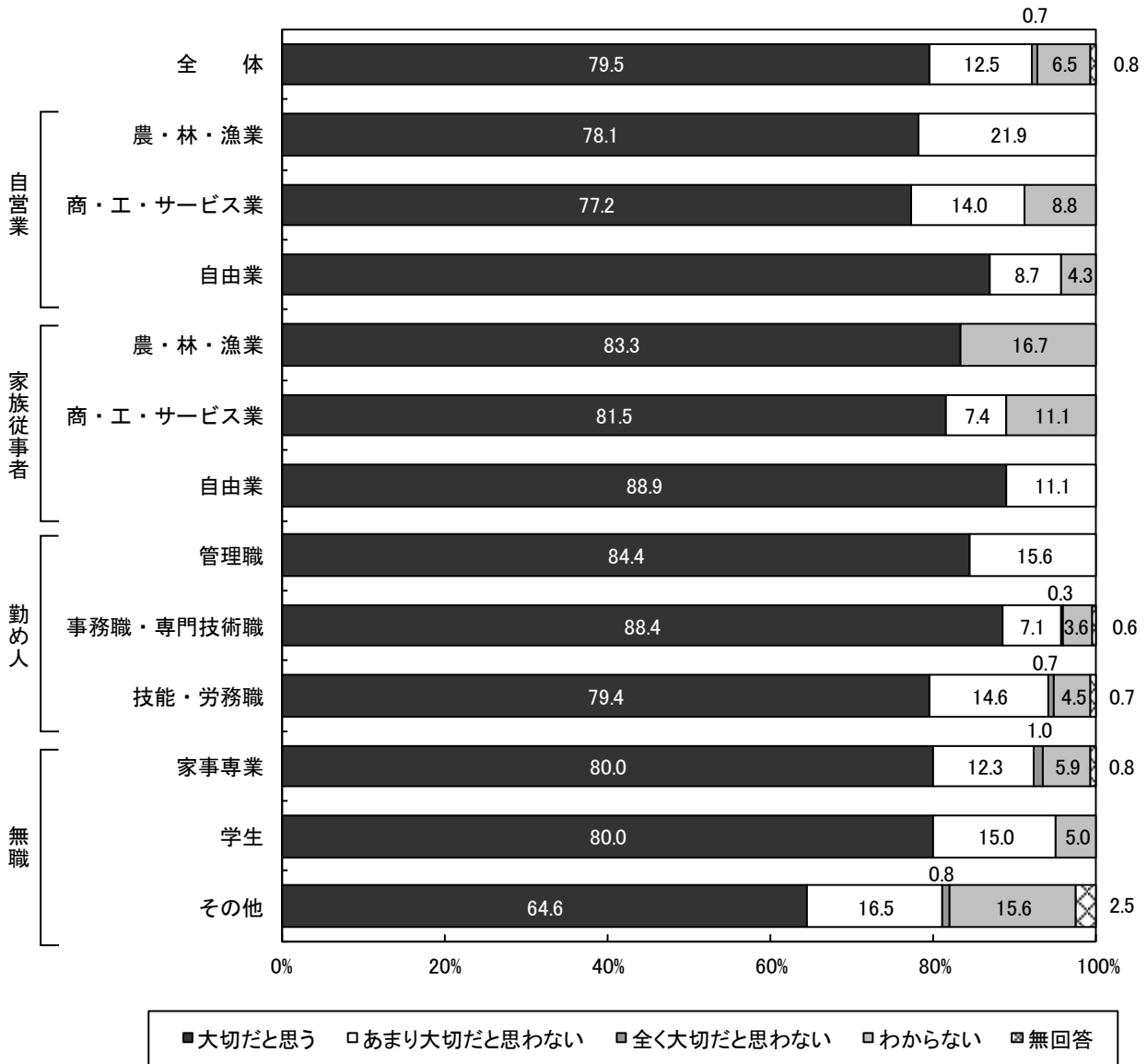
(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 2.5-5 伝統的な料理や作法の大切さ（職業別）



全体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,565	32	57	23	6	27	9

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
90	336	287	390	20	237	51

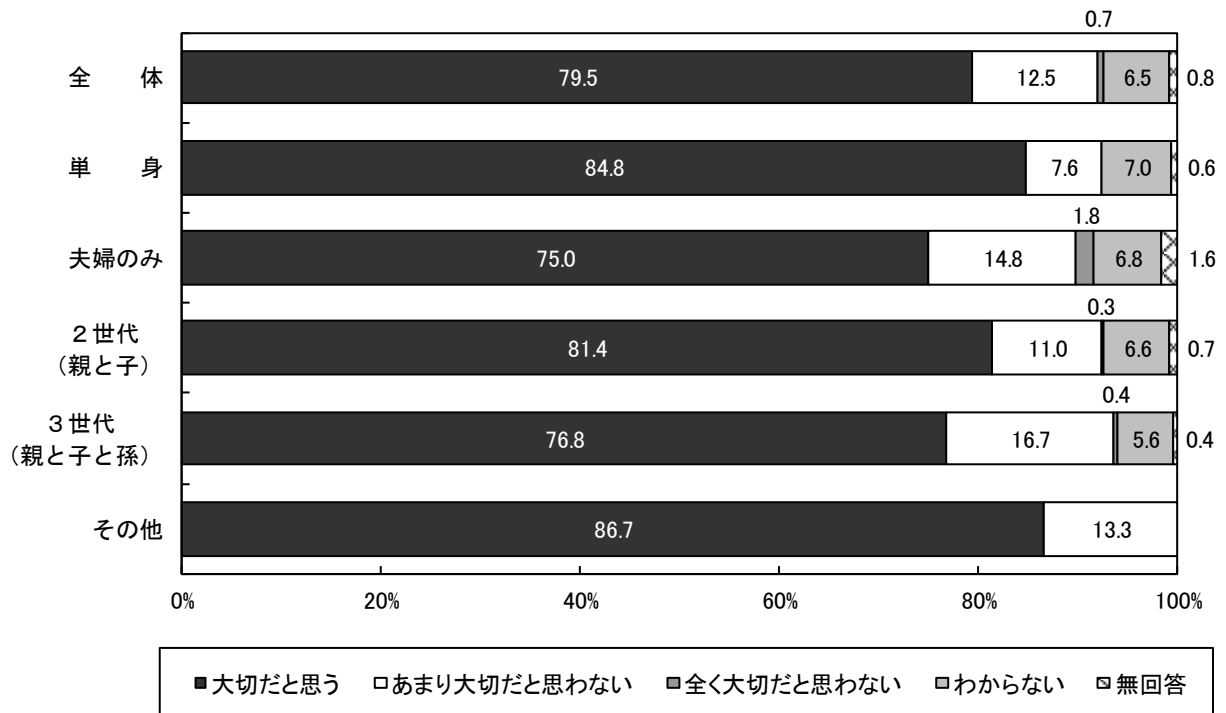
(人)

※無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

各家族構成ともに、「大切だと思う」と回答した人の割合が最も高くなっているが、夫婦のみ(75.0%)と3世代(親と子と孫)(76.8%)でやや低くなっている。

図 2.5-6 伝統的な料理や作法の大切さ(家族構成別)



全体	単身	夫婦のみ	2世代(親と子)	3世代(親と子と孫)	その他	無回答
1,565	171	384	737	233	15	25

(人)

※無回答者のグラフは省略した。

(6) 地域や家庭で受け継がれてきた料理や食べ方・作法の継承

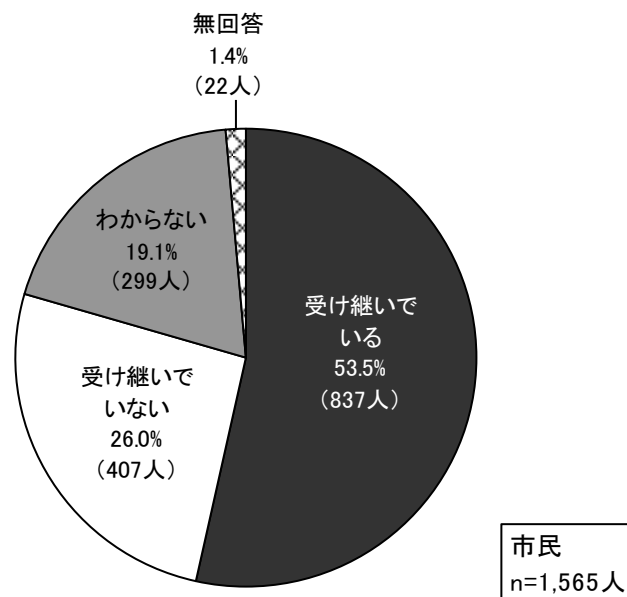
問11 あなたは、郷土料理や伝統料理など、地域や家庭で受け継がれてきた料理や味、箸づかいなどの食べ方・作法を受け継いでいますか。(〇は1つだけ)

過半数が「受け継いでいる」と回答

【全体結果】

「受け継いでいる」と回答した人の割合は過半数(53.5%)となっている。「受け継いでいない」と回答した人の割合が3割弱(26.0%)で、「わからない」と回答した人は2割弱(19.1%)となっている。

図 2.6-1 地域や家庭で受け継がれてきた料理や食べ方・作法の継承



【性別・年齢別】

「受け継いでいる」と回答した人の割合は、50歳代で最も多く、6割弱を占めている。一方、「受け継いでいない」は30歳代で3割強、「わからない」は20歳代で3割弱となっている。

また、各年代とも、女性の方が男性よりも「受け継いでいる」割合が高くなっており、女性は全ての年代で「受け継いでいる」が5割を上回っている。

図 2.6-2 地域や家庭で受け継がれてきた料理や食べ方・作法の継承（年齢別・全体）

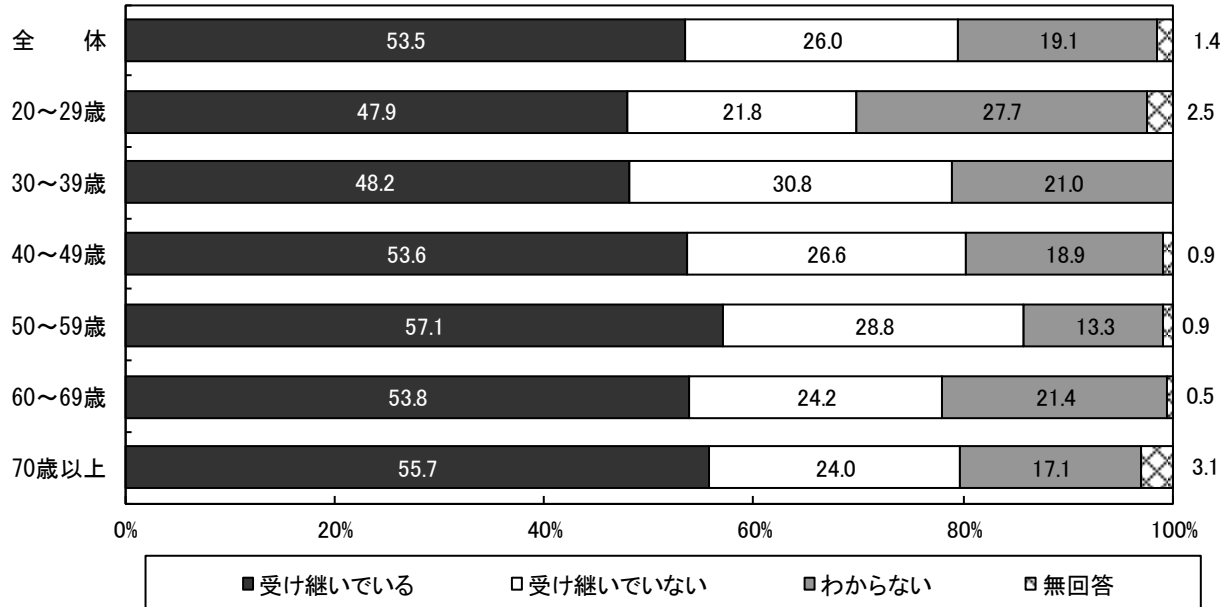
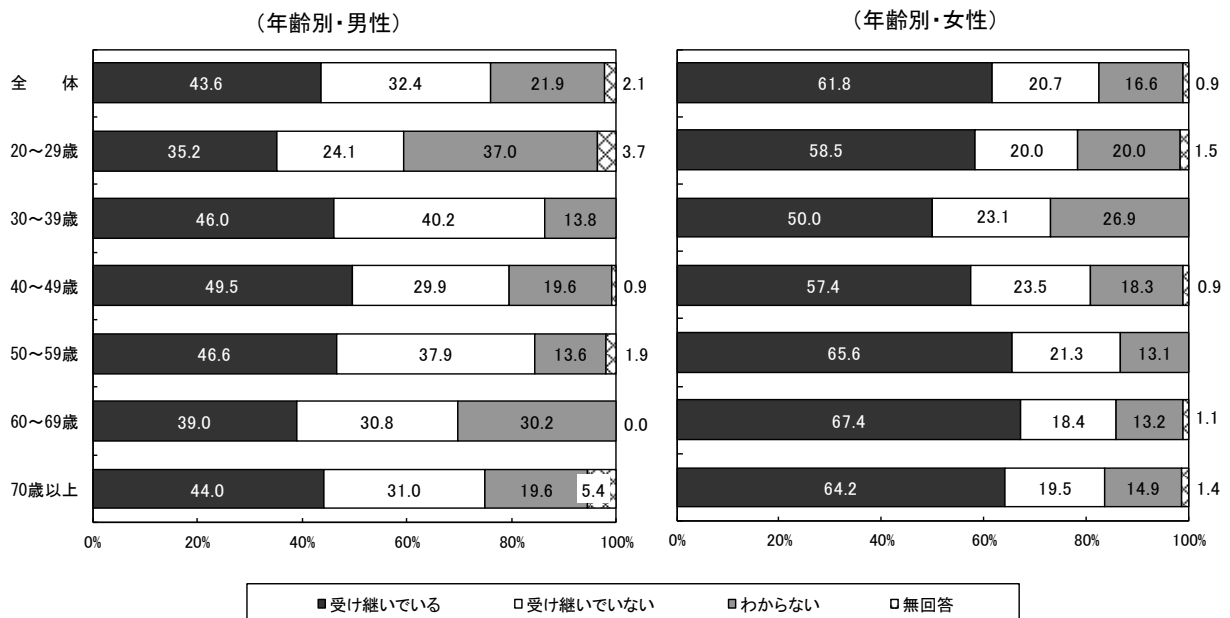


図 2.6-3 地域や家庭で受け継がれてきた料理や食べ方・作法の継承



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,565	119	195	222	226	364	420	19
男性	707	54	87	107	103	172	184	0
女性	817	65	108	115	122	190	215	2

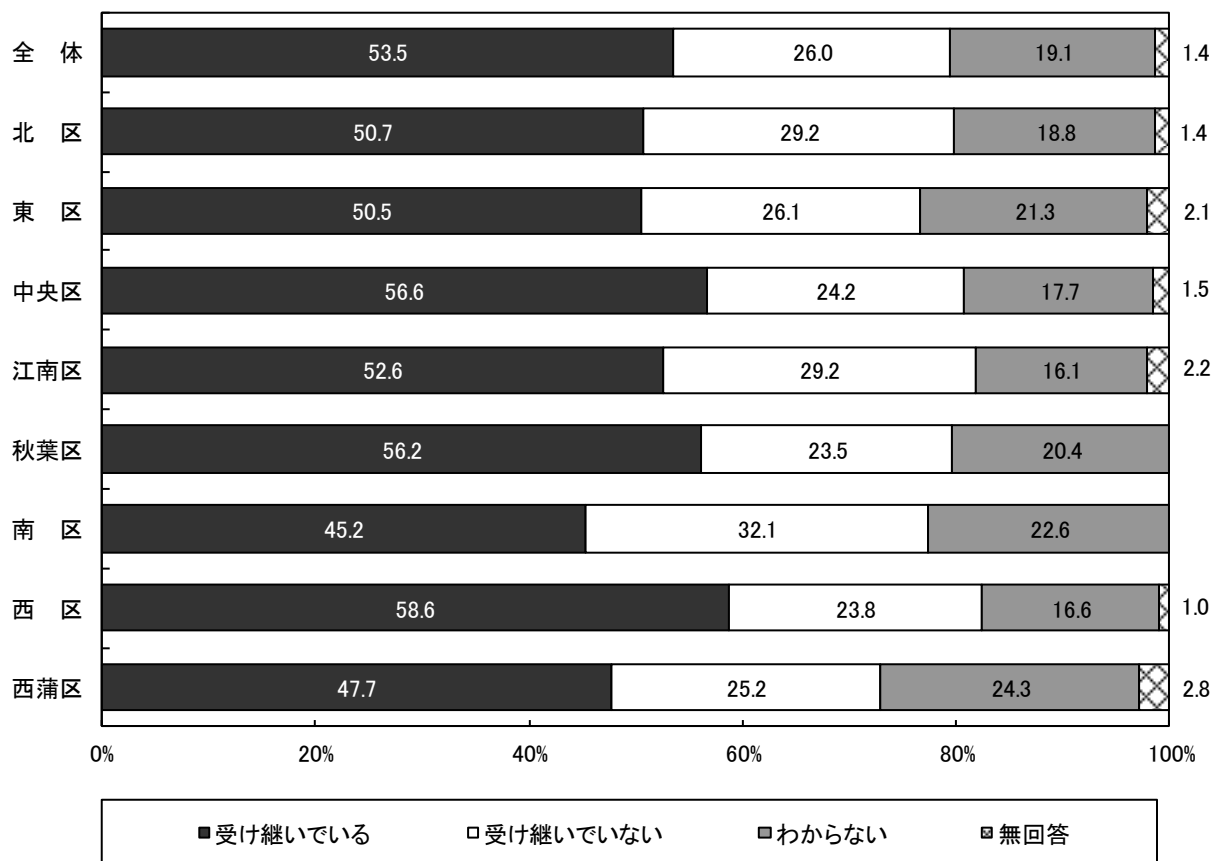
(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「受け継いでいる」と回答した人の割合は、西区（58.6%）で最も高く、6割弱となっている。南区（45.2%）、西蒲区（47.7%）では他の地区に比べ低くなっている。

図 2.6-4 地域や家庭で受け継がれてきた料理や食べ方・作法の継承（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,565	144	291	327	137	162	84	290	107	23

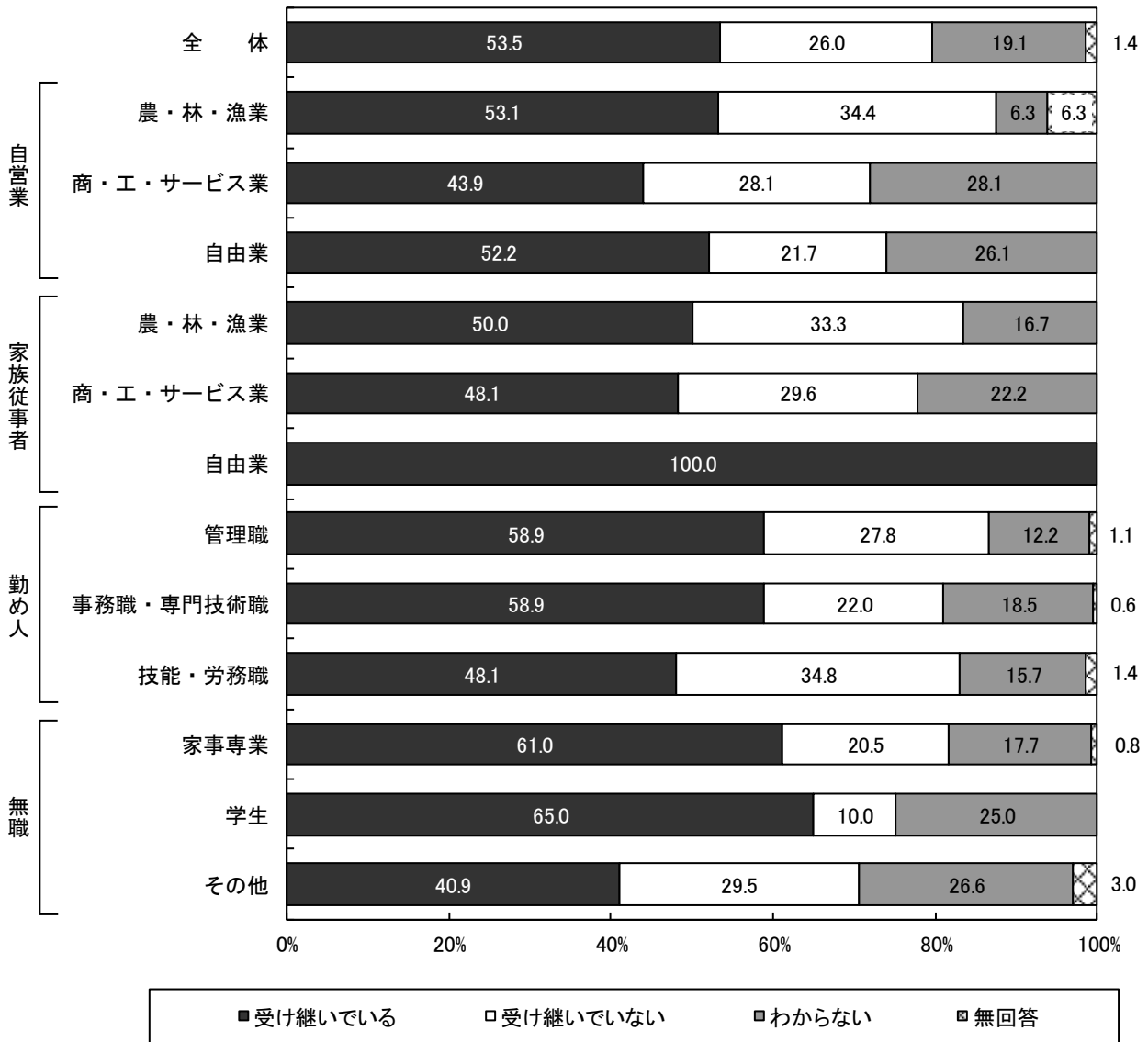
(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 2.6-5 地域や家庭で受け継がれてきた料理や食べ方・作法の継承（職業別）



全体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,565	32	57	23	6	27	9

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
90	336	287	390	20	237	51

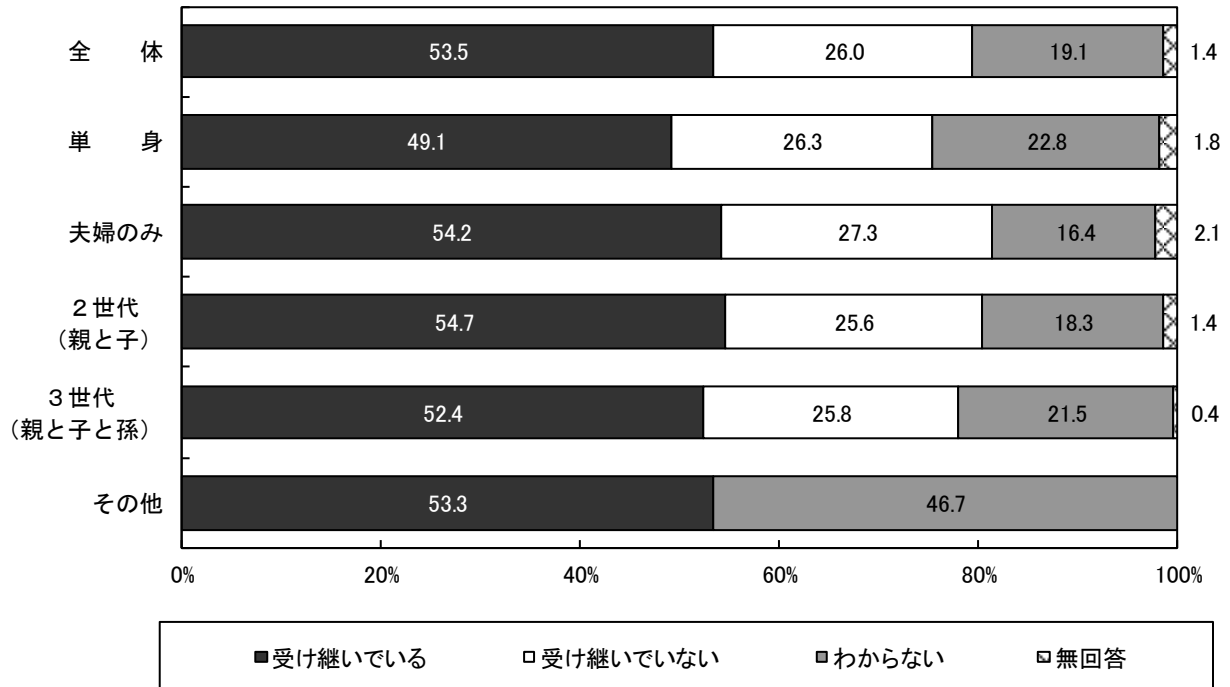
(人)

※無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「受け継いでいる」と回答した人の割合は、2世代（親と子）（54.7%）で最も高くなっている。一方、「わからない」と回答した人の割合は、その他（46.7%）で高くなっている。

図 2.6-6 地域や家庭で受け継がれてきた料理や食べ方・作法の継承（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代 (親と子)	3世代 (親と子と孫)	その他	無回答
1,565	171	384	737	233	15	25

(人)

※無回答者のグラフは省略した。

(7) 地域や家庭で受け継がれてきた料理や食べ方・作法の次世代へ伝承

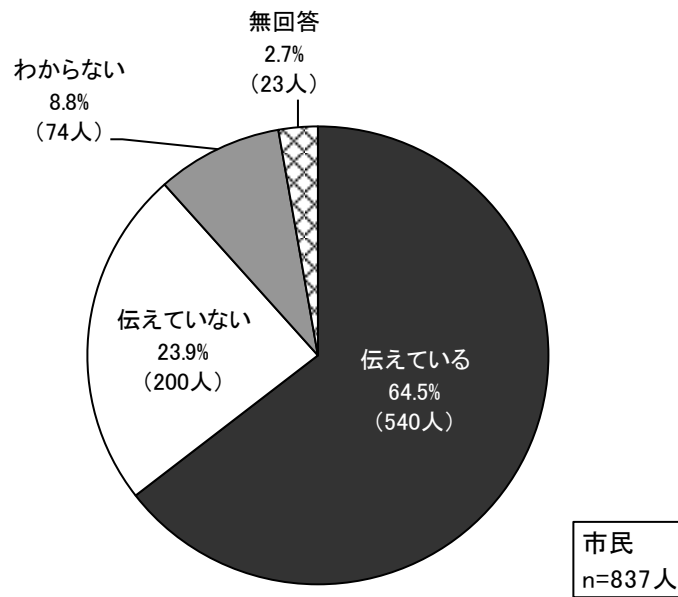
問11-1 あなたは、郷土料理や伝統料理など、地域や家庭で受け継がれてきた料理や味、箸づかいなどの食べ方・作法を地域や次世代（子どもや孫）に対して伝えていますか。（○は1つだけ）

6割強が「伝えている」と回答

【全体結果】

「伝えている」と回答した人の割合は6割強（64.5%）となっている。「伝えていない」と回答した人の割合が2割強（23.9%）で、「わからない」と回答した人は1割弱（8.8%）となっている。

図 2. 7-1 地域や家庭で受け継がれてきた料理や食べ方・作法の次世代へ伝承



【性別・年齢別】

「伝えている」と回答した人の割合は、40歳代と50歳代、70歳代で高く、70歳代（73.5%）で最も高くなっている。一方、「伝えていない」は20歳代（38.6%）で4割弱と、他の年代に比べて高くなっている。

性別では、「伝えている」と回答した人の割合は、60歳代で男性の方が女性よりも高く、それ以外の年代では、女性の方が男性よりも高くなっている。

図 2.7-2 地域や家庭で受け継がれてきた料理や食べ方・作法の次世代へ伝承（年齢別・全体）

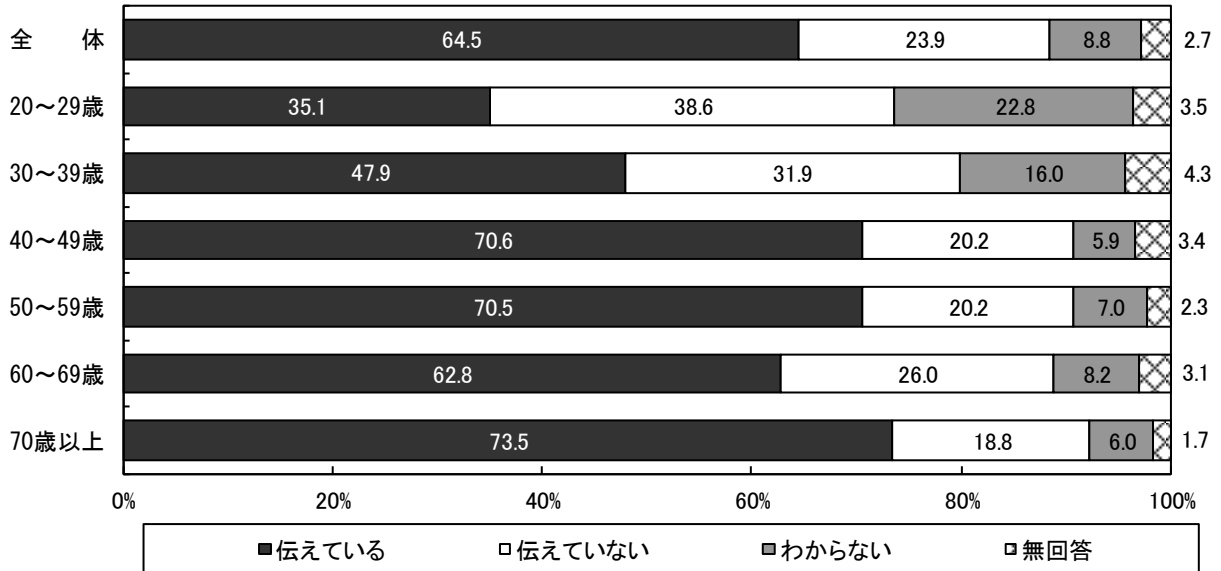
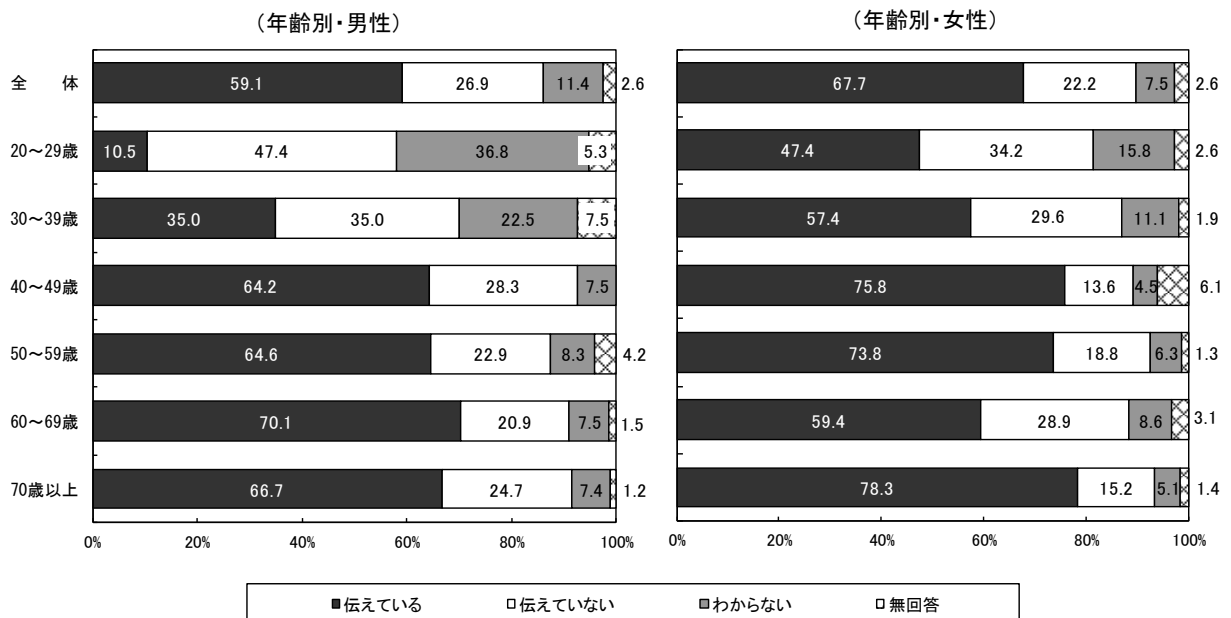


図 2.7-3 地域や家庭で受け継がれてきた料理や食べ方・作法の次世代へ伝承



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	837	57	94	119	129	196	234	8
男性	308	19	40	53	48	67	81	0
女性	505	38	54	66	80	128	138	1

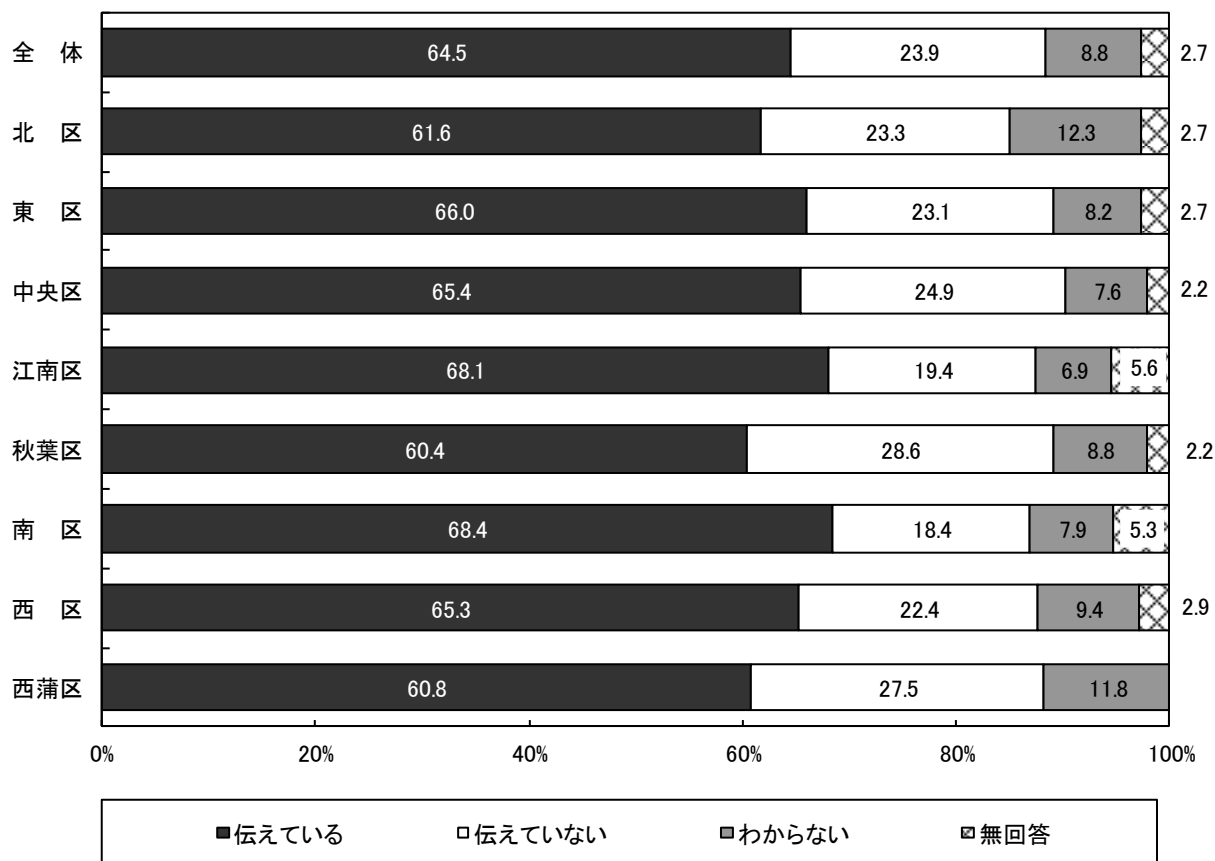
(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「伝えている」と回答した人の割合は、南区（68.4%）で最も高く、次いで江南区（68.1%）となっている。一方、「伝えていない」は秋葉区（28.6%）で他の地区に比べ高くなっている。

図 2.7-4 地域や家庭で受け継がれてきた料理や食べ方・作法の次世代へ伝承（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
837	73	147	185	72	91	38	170	51	10

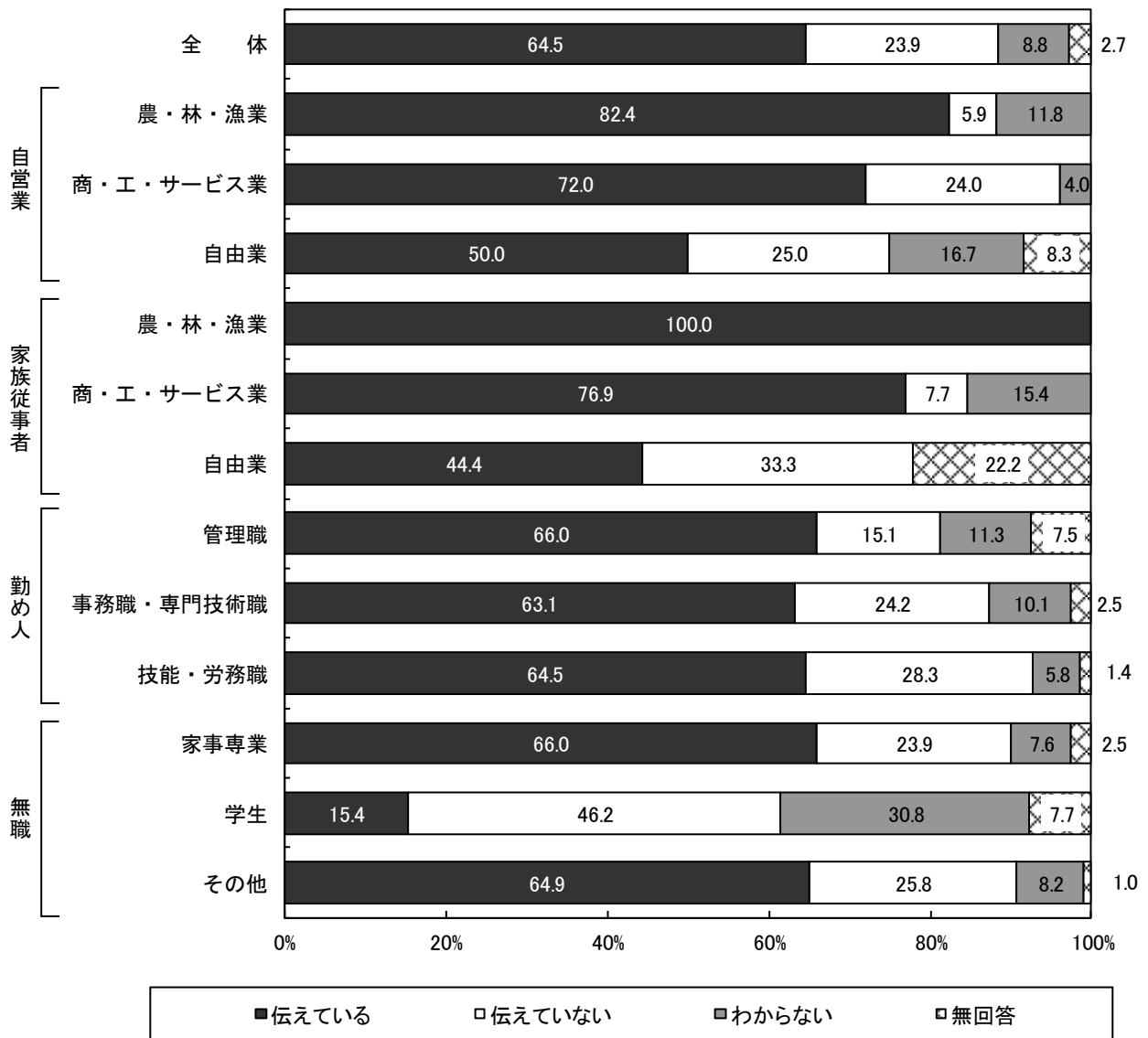
(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 2.7-5 地域や家庭で受け継がれてきた料理や食べ方・作法の次世代へ伝承（職業別）



全体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
837	17	25	12	3	13	9

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
53	198	138	238	13	97	21

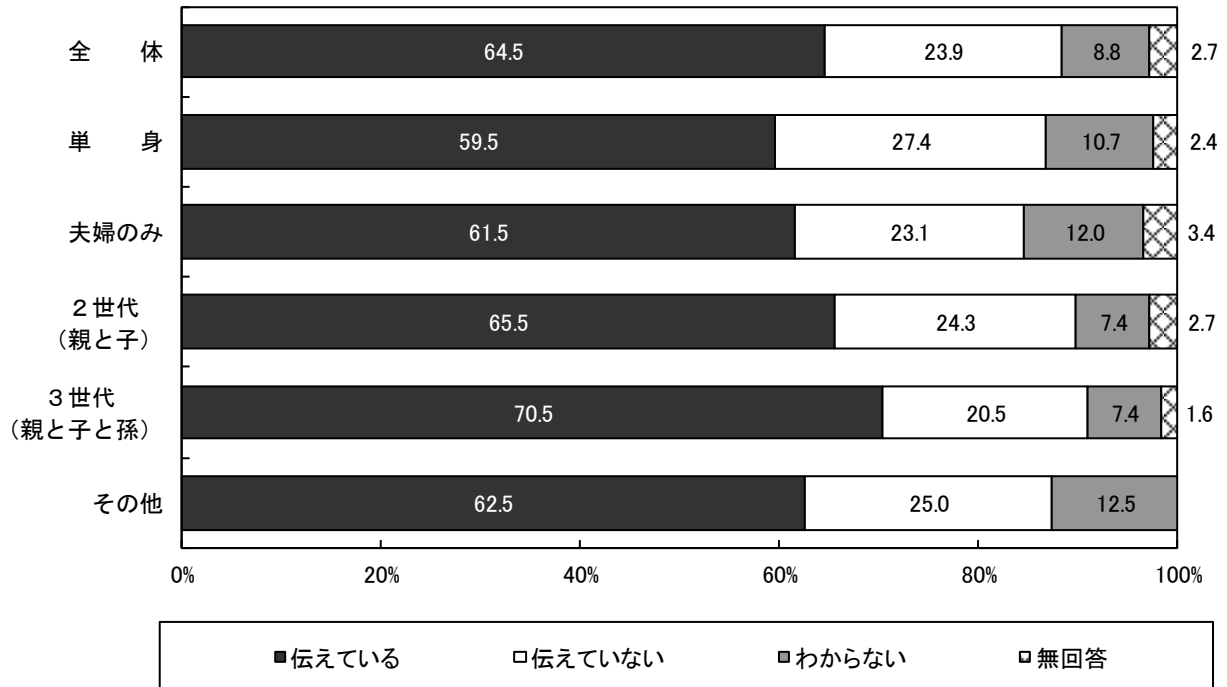
(人)

※無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「伝えている」と回答した人の割合は、3世代（親と子と孫）（70.5%）で最も高くなっている。一方、「伝えていない」と回答した人の割合は、単身（27.4%）で最も高くなっている。

図 2.7-6 地域や家庭で受け継がれてきた料理や食べ方・作法の次世代へ伝承（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代 (親と子)	3世代 (親と子と孫)	その他	無回答
837	84	208	403	122	8	12

(人)

※無回答者のグラフは省略した。

3 日ごろの食生活の状況

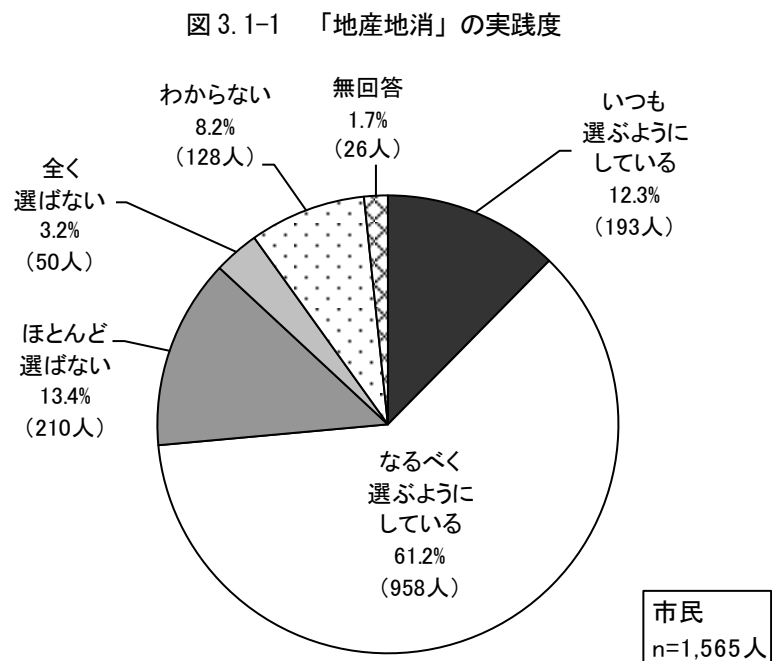
(1) 「地産地消」の実践度

問12 あなたは食材を選ぶ際に、身近な場所でとれたものを選ぶようになっていますか。
(〇は1つだけ)

7割強が「いつも選ぶようになっている」「なるべく選ぶようになっている」と回答

【全体結果】

「いつも選ぶようになっている」(12.3%)、「なるべく選ぶようになっている」(61.2%)と回答した人を合わせた割合は7割強(73.5%)となっている。「ほとんど選ばない」(13.4%)、「全く選ばない」(3.2%)と回答した人を合わせた割合が2割弱(16.6%)で、「わからない」と回答した人は1割弱(8.2%)となっている。



【性別・年齢別】

「いつも選ぶようにしている」、「なるべく選ぶようにしている」の割合を合わせた地産地消の実践度は、20歳代で5割台、30歳代で6割台、40歳以上で7割台と、年齢が上がるにつれて高くなる傾向が見られる。一方、20歳代では「ほとんど選ばない」、「全く選ばない」の割合が比較的高く、地産地消を実践していない人が3割弱となっている。

性別では、各年代とも、女性の方が男性よりも地産地消の実践度は高くなっている。

図 3.1-2 「地産地消」の実践度（年齢別・全体）

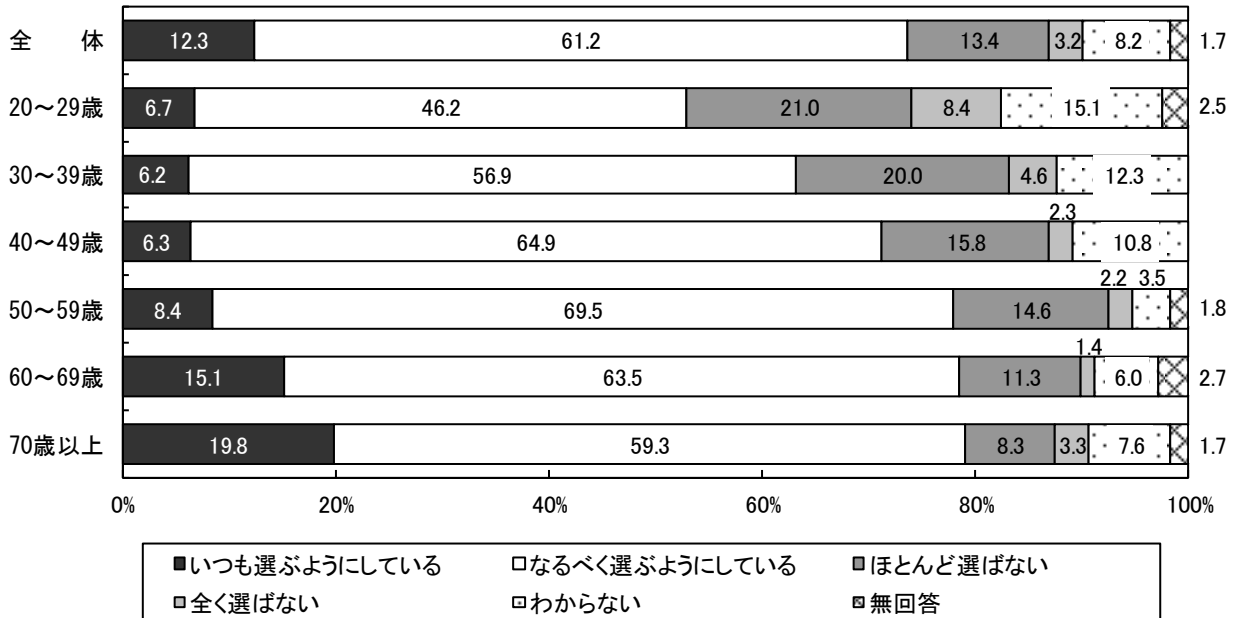
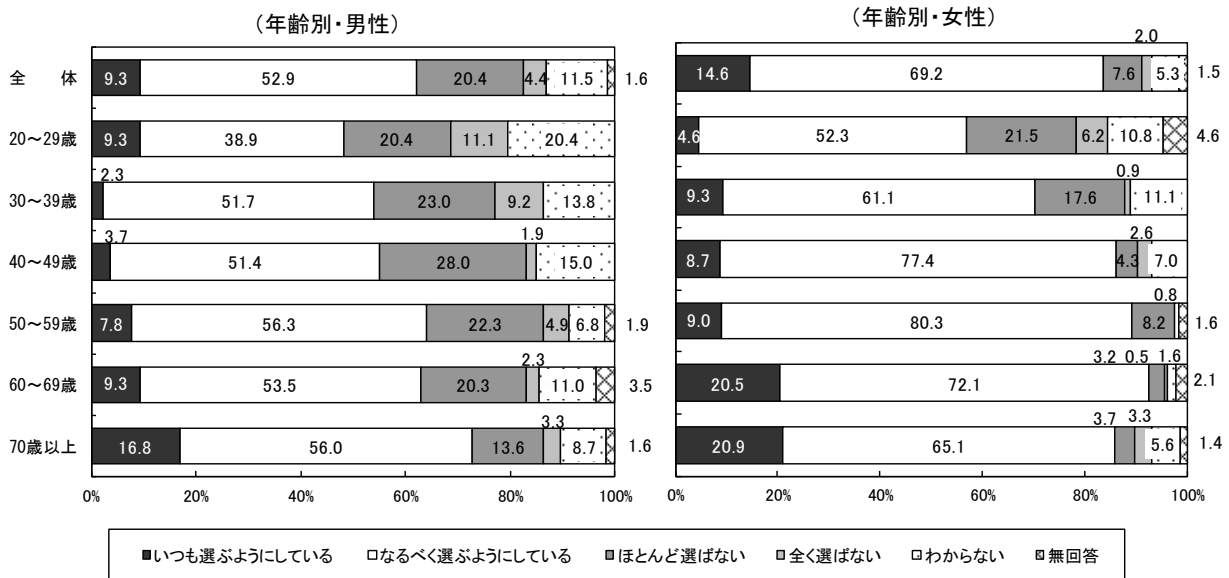


図 3.1-3 「地産地消」の実践度



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,565	119	195	222	226	364	420	19
男性	707	54	87	107	103	172	184	0
女性	817	65	108	115	122	190	215	2

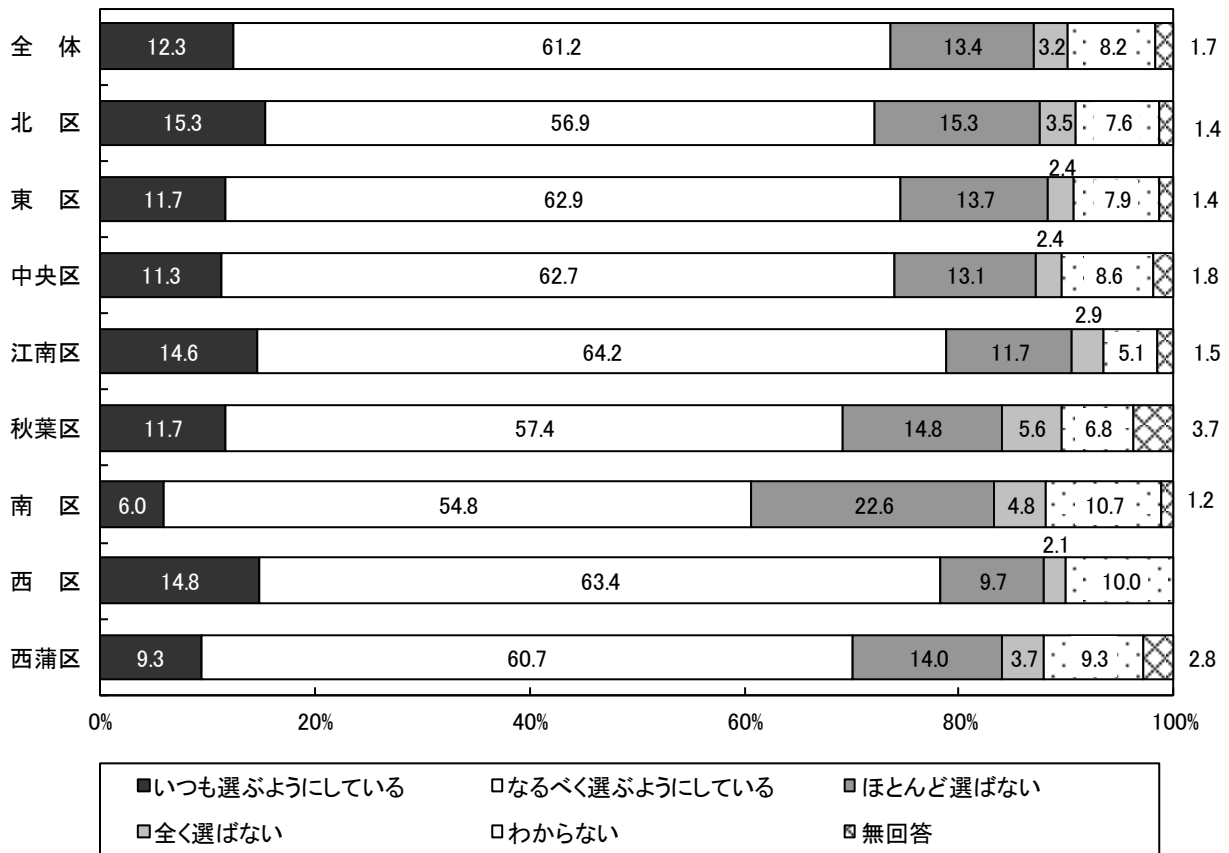
(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「いつも選ぶようにしている」、「なるべく選ぶようにしている」の割合を合わせた地産地消の実践度は、江南区（78.8%）と西区（78.3%）で高く、8割弱となっている。

図 3.1-4 「地産地消」の実践度（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,565	144	291	327	137	162	84	290	107	23

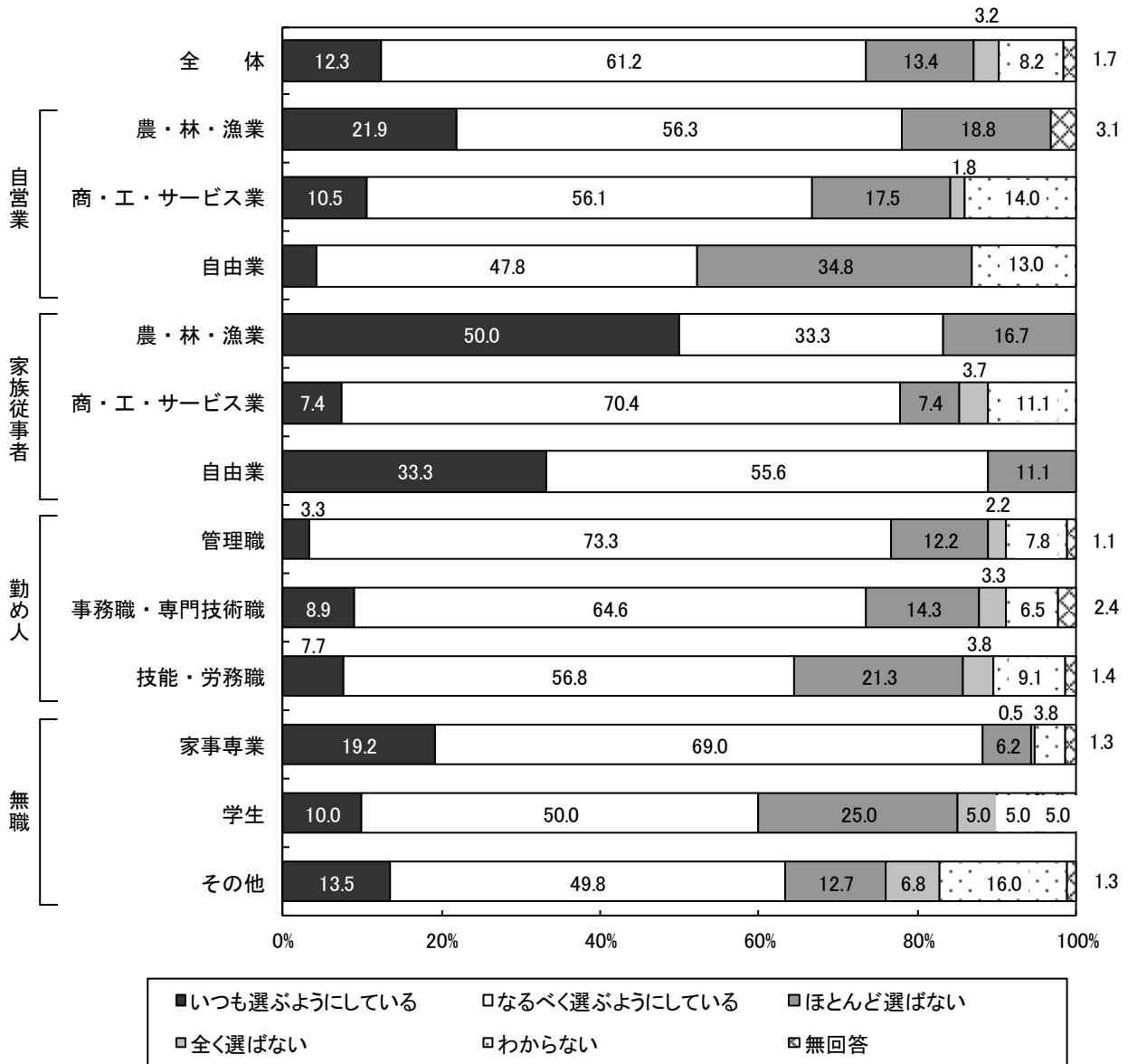
(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 3.1-5 「地産地消」の実践度（職業別）



全体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,565	32	57	23	6	27	9

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
90	336	287	390	20	237	51

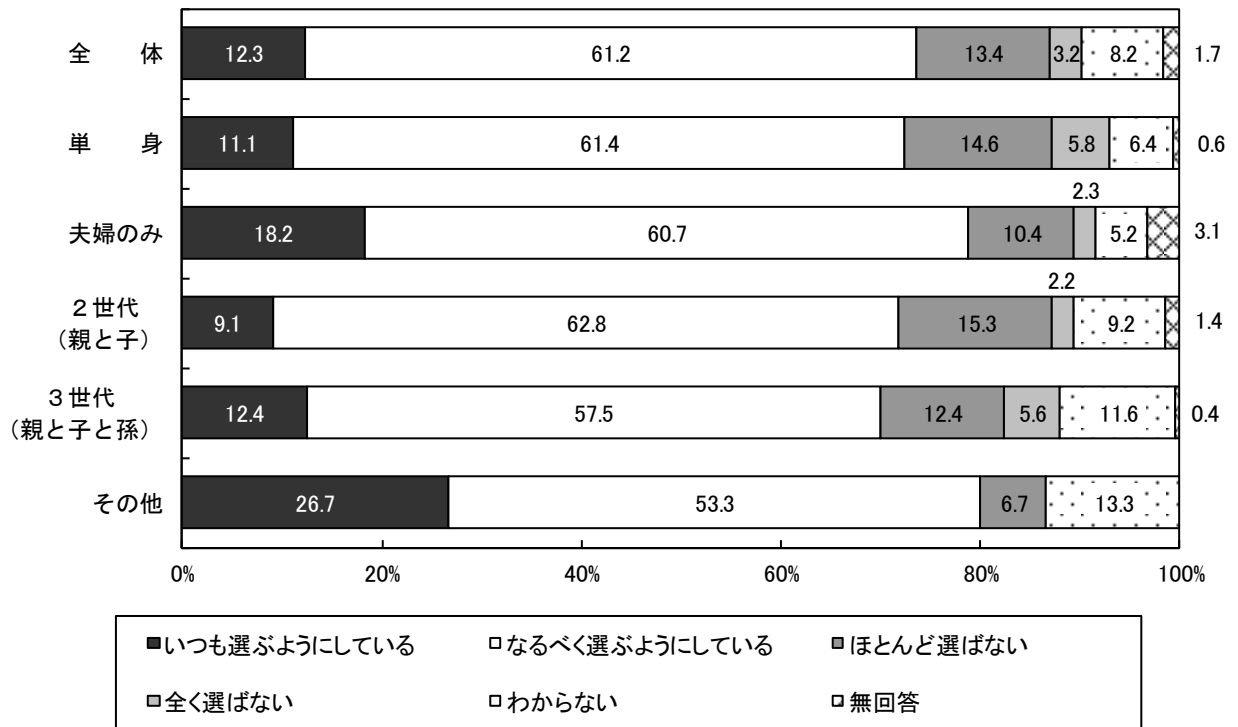
(人)

※無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「いつも選ぶようにしている」、「なるべく選ぶようにしている」の割合を合わせた地産地消の実践度は、夫婦のみ（78.9%）、その他（80.0%）で高くなっている。

図 3.1-6 「地産地消」の実践度（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代 (親と子)	3世代 (親と子と孫)	その他	無回答
1,565	171	384	737	233	15	25

(人)

※無回答者のグラフは省略した。

(2) 主食・主菜・副菜のそろった食事の回数

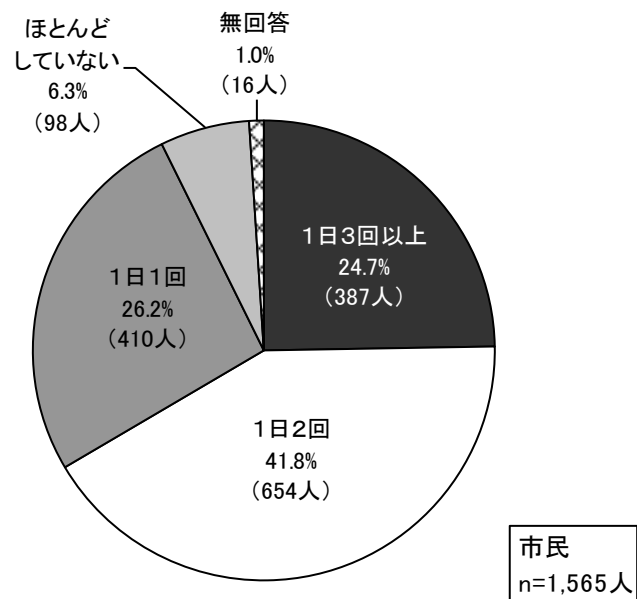
問13 あなたは日ごろ、主食（ごはん、パン、麺）・主菜（肉、魚、卵、大豆・大豆製品）・副菜（野菜、海藻、きのこ、いも）のそろった食事を、1日に何回していますか。（○は1つだけ）

7割弱が「1日2回」以上と回答

【全体結果】

「1日3回以上」(24.7%)、「1日2回」(41.8%)を合わせると、7割弱(66.5%)の人が主食・主菜・副菜がそろっていてバランスのとれた食事を1日2回以上実践している。

図 3.2-1 主食・主菜・副菜のそろった食事の回数



【性別・年齢別】

主食・主菜・副菜のそろった食事を「1日3回以上」実践している人の割合は、20歳代では1割弱、30歳代と40歳代で1割台、50歳代と60歳代で2割台、70歳以上で3割台と年齢が上がるにつれて高くなる傾向が見られ、最も高い70歳代（38.3%）では4割弱となっている。

一方、40歳代以下では「1日1回」、「ほとんどしていない」の割合が高く、主食・主菜・副菜のそろった食事が実践できていない人が4割以上となっている。

図 3.2-2 主食・主菜・副菜のそろった食事の回数（年齢別・全体）

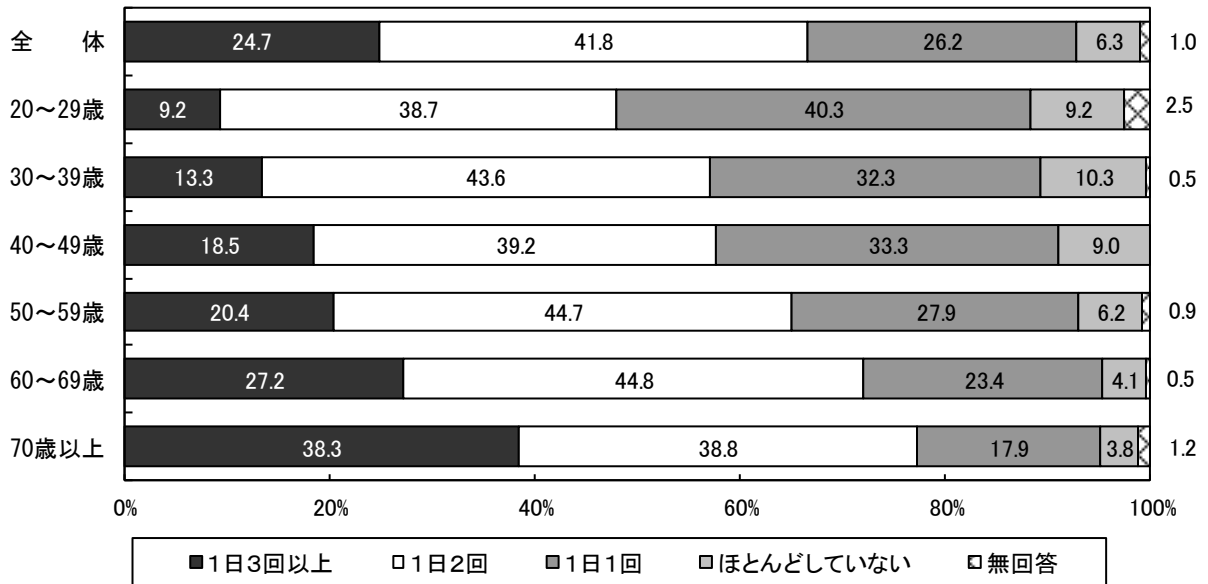
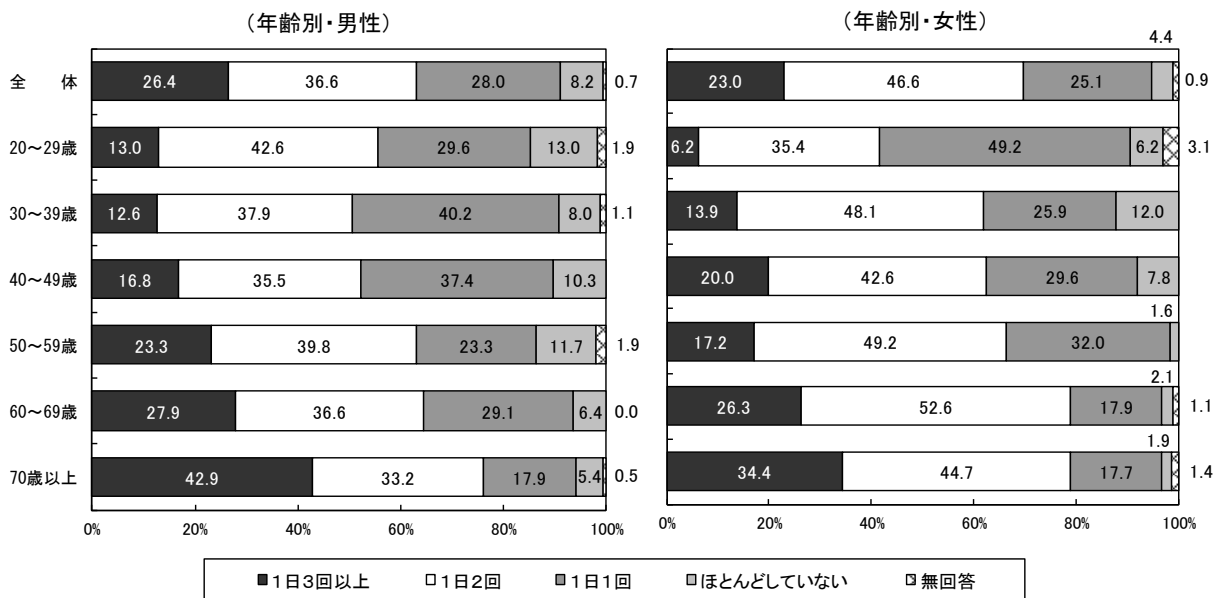


図 3.2-3 主食・主菜・副菜のそろった食事の回数



	計	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,565	119	195	222	226	364	420	19
男性	707	54	87	107	103	172	184	0
女性	817	65	108	115	122	190	215	2

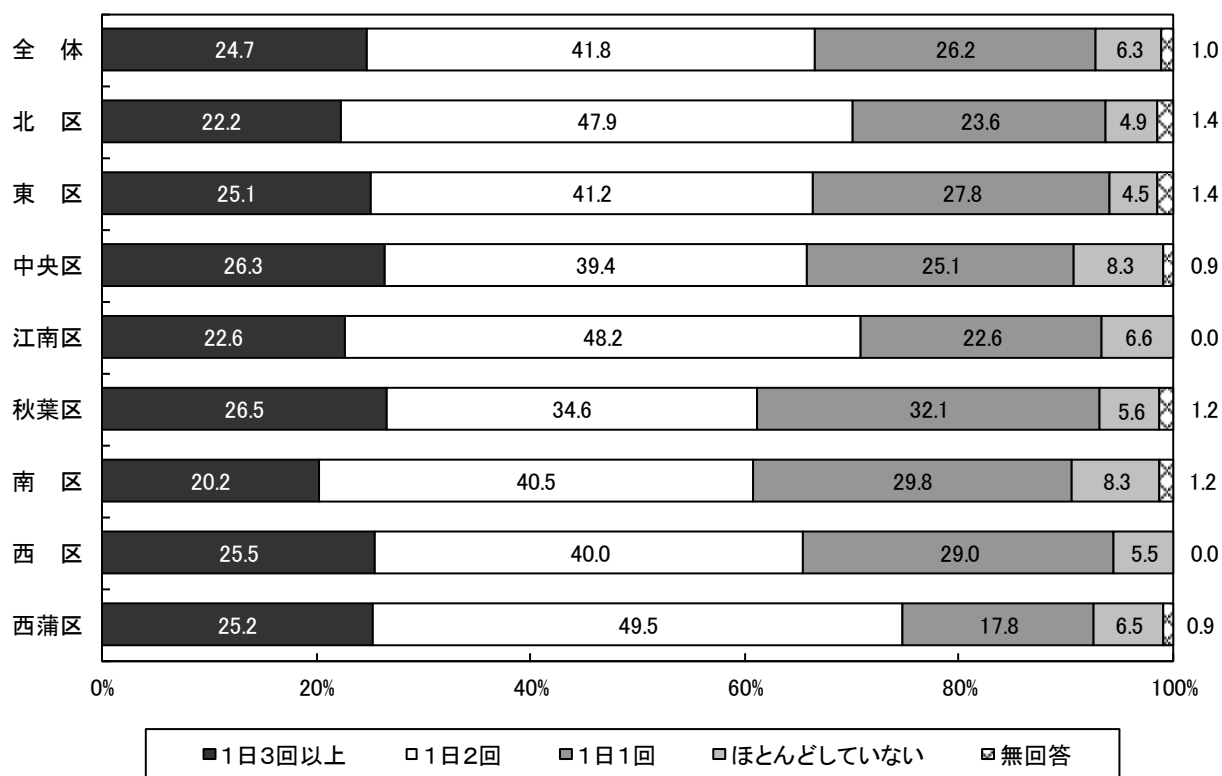
(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

主食・主菜・副菜のそろったバランスのとれた食事を1日2回以上実践している人の割合は、西蒲区(74.8%)で最も高くなっている。

図 3.2-4 主食・主菜・副菜のそろった食事の回数（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,565	144	291	327	137	162	84	290	107	23

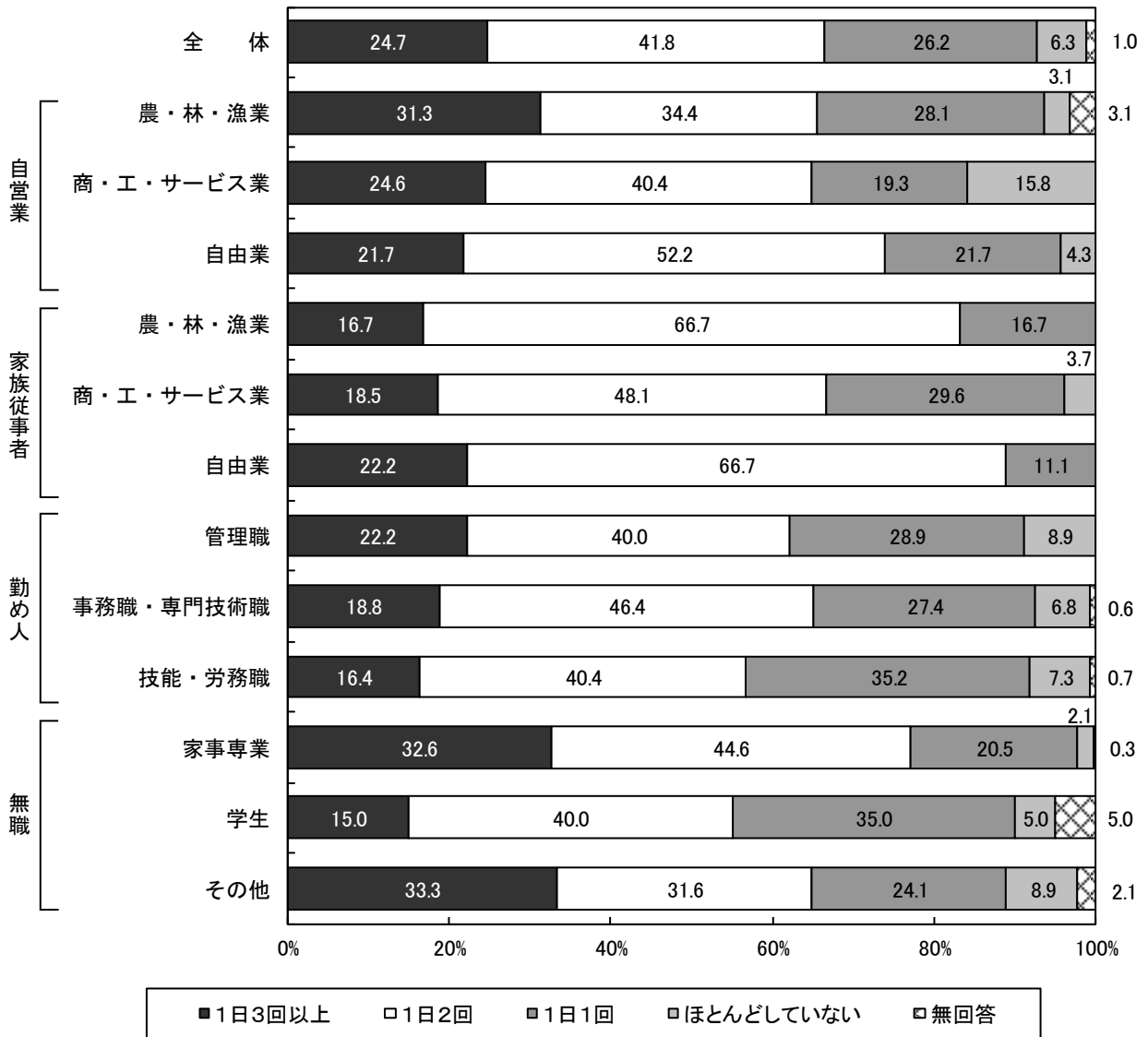
(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 3.2-5 主食・主菜・副菜のそろった食事の回数（職業別）



全体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,565	32	57	23	6	27	9

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
90	336	287	390	20	237	51

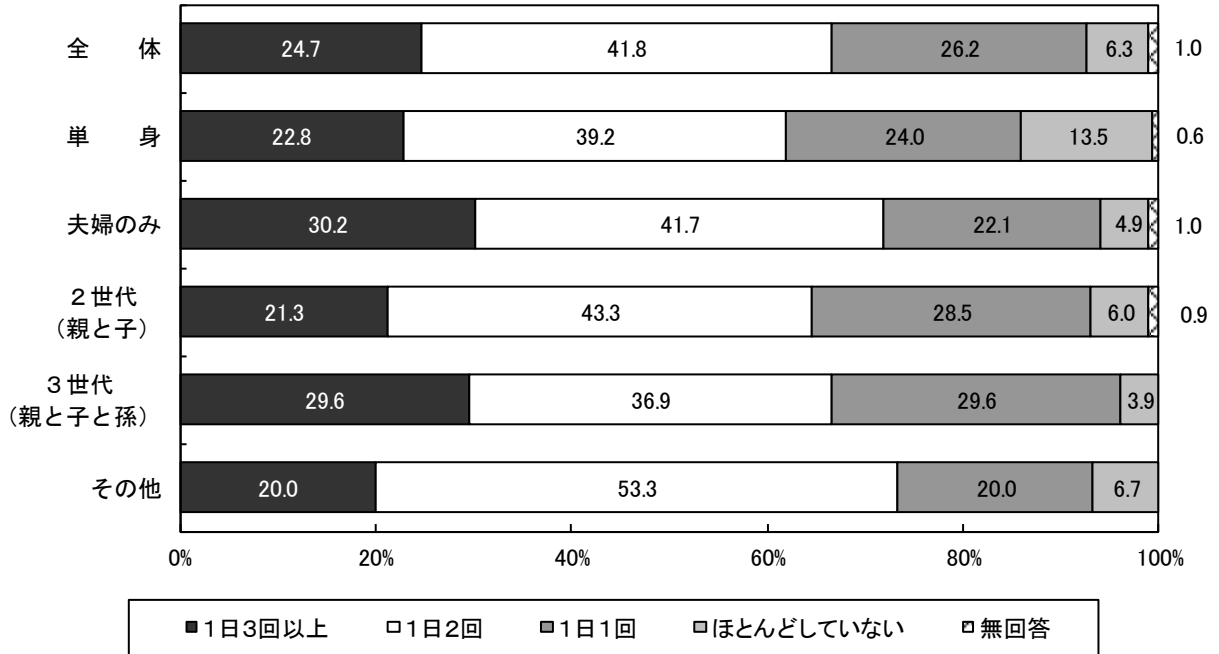
(人)

※無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「1日3回以上」「1日2回」と回答した人の割合は、その他（73.3%）と夫婦のみ（71.9%）で高くなっている。一方、「ほとんどしていない」と回答した人の割合は、単身（13.5%）で他の家族構成に比べ高くなっている。

図 3.2-6 主食・主菜・副菜のそろった食事の回数（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代 (親と子)	3世代 (親と子と孫)	その他	無回答
1,565	171	384	737	233	15	25

(人)

※無回答者のグラフは省略した。

(3) 生活習慣病予防や改善を意識した食生活の実践度

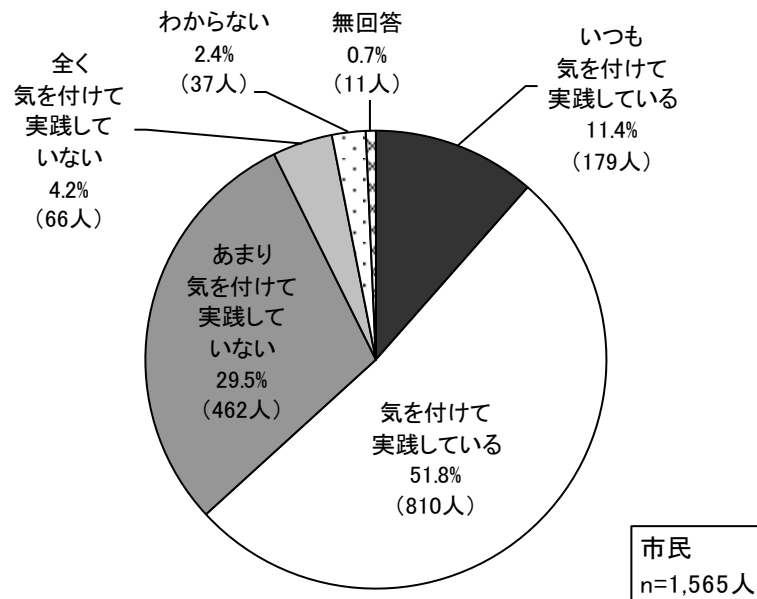
問14 生活習慣病予防や改善のために、あなたは普段から適正体重の維持や減塩、野菜の摂取などに気を付けた食生活を実践していますか。(○は1つだけ)

6割強が「いつも気を付けて実践している」「気を付けて実践している」と回答

【全体結果】

「いつも気を付けて実践している」(11.4%)、「気を付けて実践している」(51.8%)と回答した人を合わせた割合は6割強(63.2%)となっている。「あまり気を付けて実践していない」(29.5%)、「全く気を付けて実践していない」(4.2%)と回答した人を合わせた割合は3割強(33.7%)となっている。

図 3.3-1 生活習慣予防や改善を意識した食生活の実践度



【性別・年齢別】

「いつも気を付けて実践している」、「気を付けて実践している」の割合を合わせた、生活習慣予防や改善を意識した食生活の実践度は、20歳代で4割台、30歳代と40歳代、50歳代で5割台、60歳以上で7割台と推移し、60歳代（70.9%）で最も高くなっている。

一方、20歳代では「あまり気を付けて実践していない」、「全く気を付けて実践していない」の割合が高く、生活習慣予防や改善を意識した食生活を実践できていない人が約5割となっている。

図 3.3-2 生活習慣予防や改善を意識した食生活の実践度（年齢別・全体）

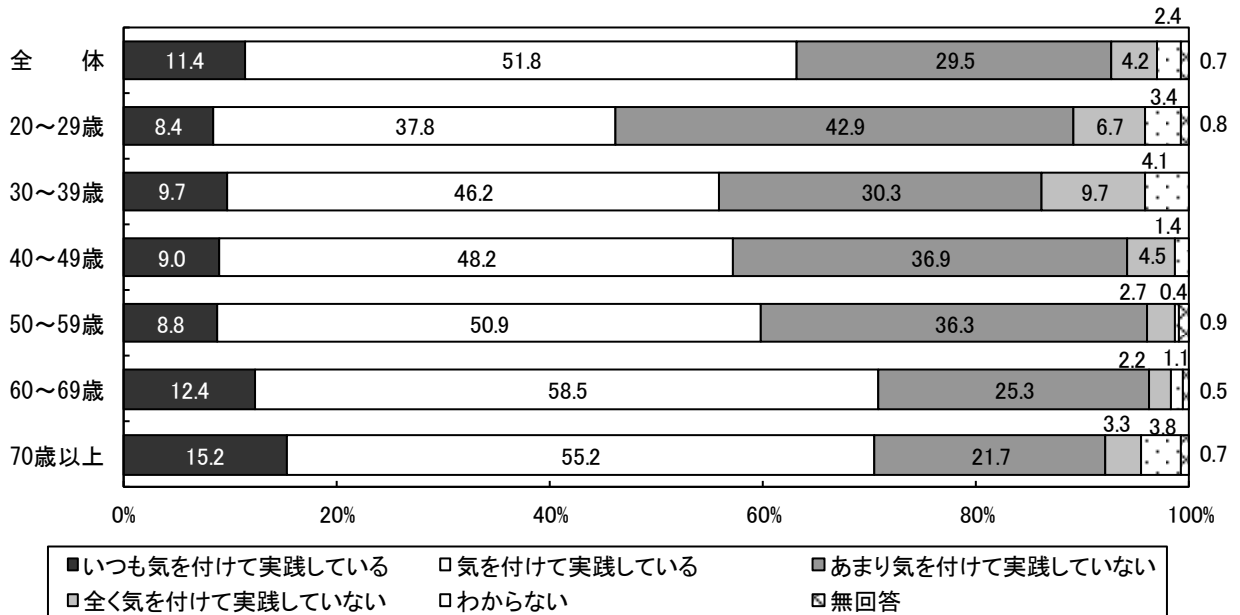
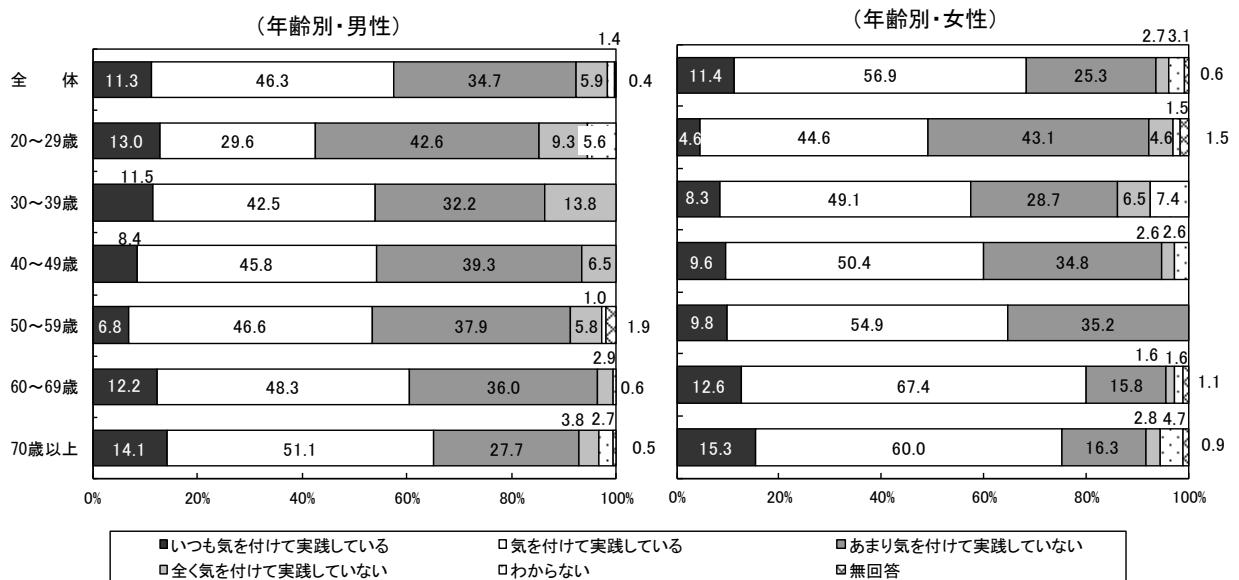


図 3.3-3 生活習慣予防や改善を意識した食生活の実践度



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,565	119	195	222	226	364	420	19
男性	707	54	87	107	103	172	184	0
女性	817	65	108	115	122	190	215	2

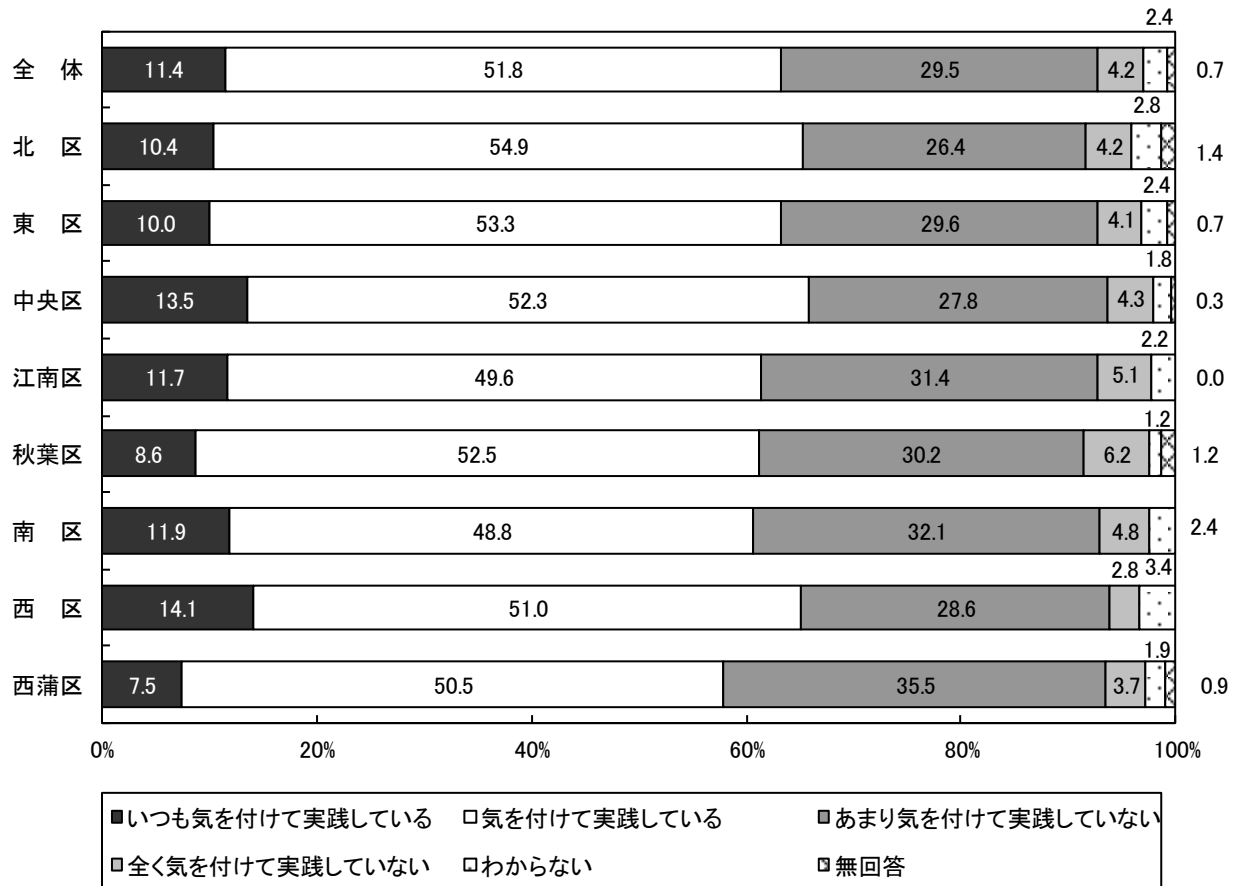
(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「いつも気を付けて実践している」、「気を付けて実践している」の割合を合わせた、生活習慣予防や改善を意識した食生活の実践度は、中央区（65.7%）で最も高くなっている。

図 3.3-4 生活習慣予防や改善を意識した食生活の実践度（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,565	144	291	327	137	162	84	290	107	23

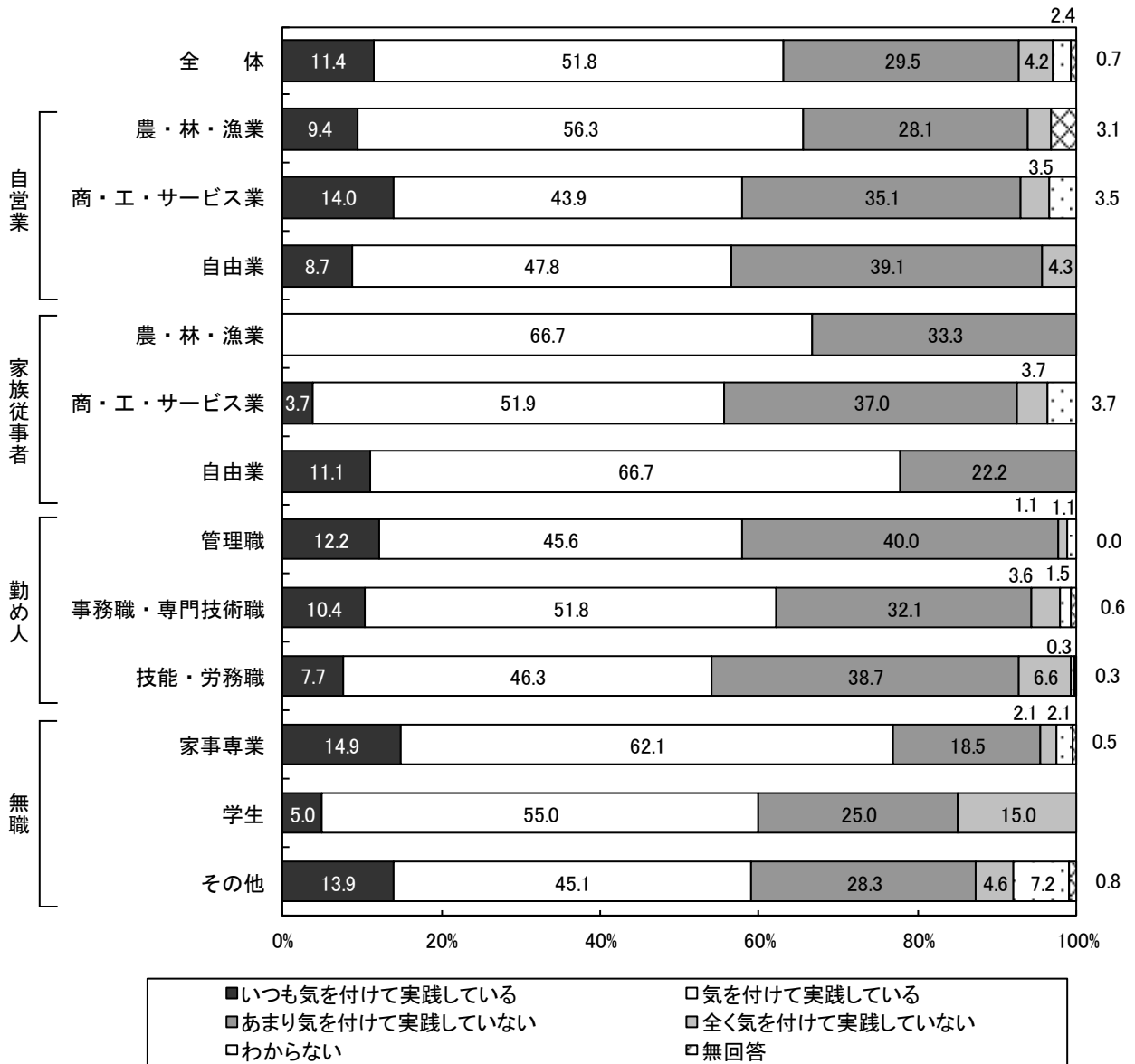
(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 3.3-5 生活習慣予防や改善を意識した食生活の実践度（職業別）



全体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,565	32	57	23	6	27	9

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
90	336	287	390	20	237	51

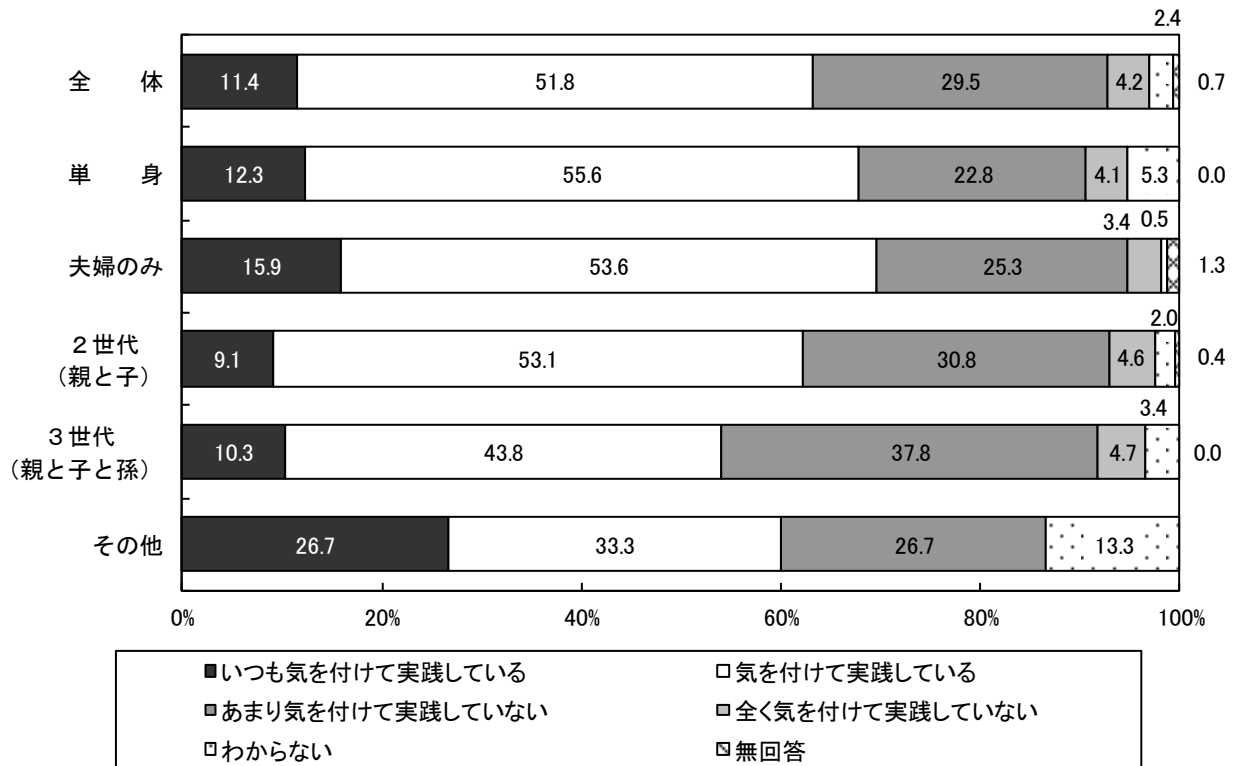
(人)

※無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「いつも気を付けて実践している」、「気を付けて実践している」の割合を合わせた、生活習慣予防や改善を意識した食生活の実践度は、夫婦のみ（69.5%）で最も高くなっている。

図 3.3-6 生活習慣予防や改善を意識した食生活の実践度（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代 (親と子)	3世代 (親と子と孫)	その他	無回答
1,565	171	384	737	233	15	25

(人)

※無回答者のグラフは省略した。

(4) 健康のための食事の認識と程度の度合い

問15 あなたは日ごろから、健康のために次のようなことを意識して食事をしていますか。
(項目毎に○は1つだけ)

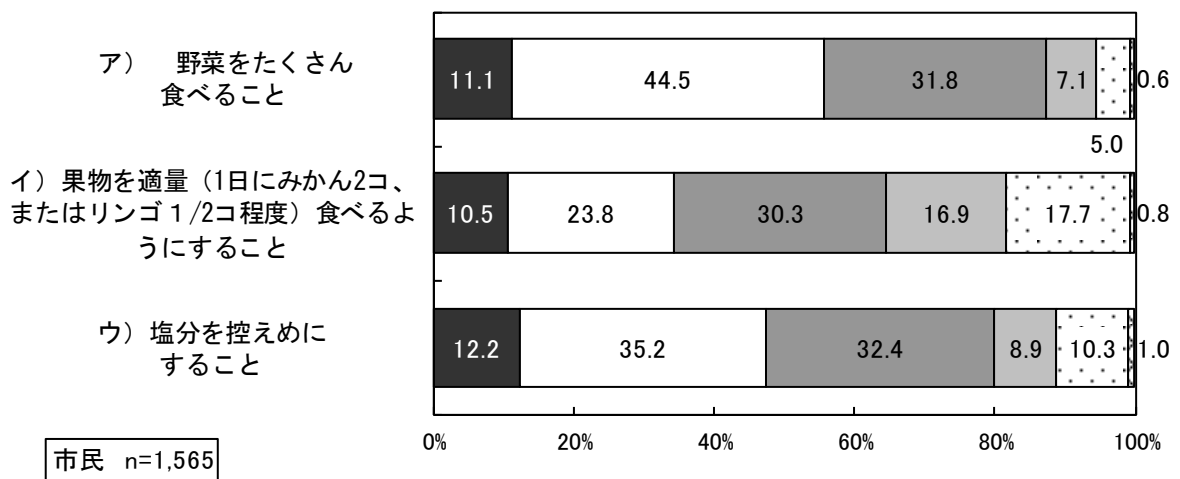
6割弱が「野菜をたくさん食べること」を意識していると回答

【全体結果】

「意識しているし、できていると思う」「意識しているし、だいたいできていると思う」と回答した人を合わせた割合は、『ア) 野菜をたくさん食べること』(55.6%)の項目が6割弱と高くなっている。

一方、「意識しているが、あまりできていないと思う」「意識しているが、ほとんどできていないと思う」と回答した人を合わせた割合は、『イ) 果物を適量(1日にみかん2コ、またはリンゴ1/2コ程度)食べるようにすること』(47.2%)の項目が半数弱で最も高く、「意識していない」の割合も、『イ) 果物を適量(1日みかん2コ、またはリンゴ1/2コ程度)食べるようにすること』の項目が2割弱(17.7%)で最も高くなっている。

図 3.4-1 健康のための食事の認識と程度の度合い



意識しているし、できていると思う 意識しているし、だいたいできていると思う
 意識しているが、あまりできていないと思う 意識しているが、ほとんどできていないと思う
 意識していない 無回答

	全体	意識しているし、できていると思う	意識しているし、だいたいできていると思う	意識しているが、あまりできていないと思う	意識しているが、ほとんどできていないと思う	意識していない	無回答
ア) 野菜をたくさん食べること	1,565	173	697	497	111	78	9
イ) 果物を適量(1日にみかん2コ、またはリンゴ1/2コ程度)食べるようにすること	1,565	165	373	474	264	277	12
ウ) 塩分を控えることにすること	1,565	191	551	507	139	161	16

(人)

ア) 野菜をたくさん食べること

【性別・年齢別】

「意識しているし、できていると思う」「意識しているし、だいたいできていると思う」と回答した人の割合は、70歳以上（66.9%）で最も高く、20歳代（39.5%）で最も低くなっている。

性別では、「意識しているし、できていると思う」「意識しているし、だいたいできていると思う」と回答した人の割合は、各年代とも、女性の方が男性より高くなっている。

図 3.4-2 健康のための食事の認識と程度の度合い【野菜をたくさん食べること】（年齢別・全体）

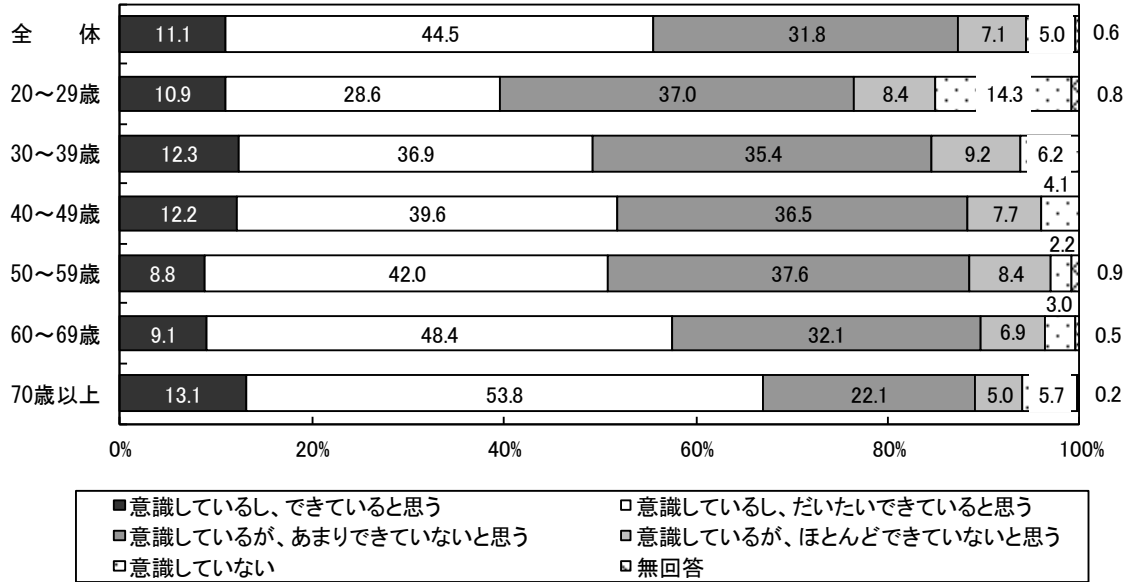
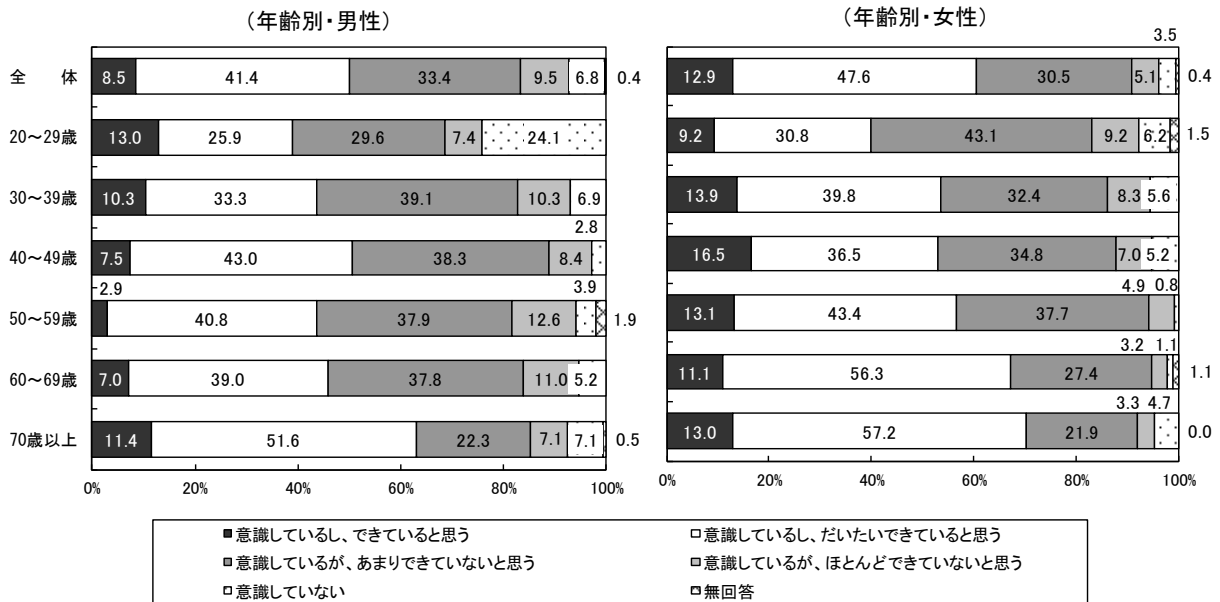


図 3.4-3 健康のための食事の認識と程度の度合い【野菜をたくさん食べること】



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,565	119	195	222	226	364	420	19
男性	707	54	87	107	103	172	184	0
女性	817	65	108	115	122	190	215	2

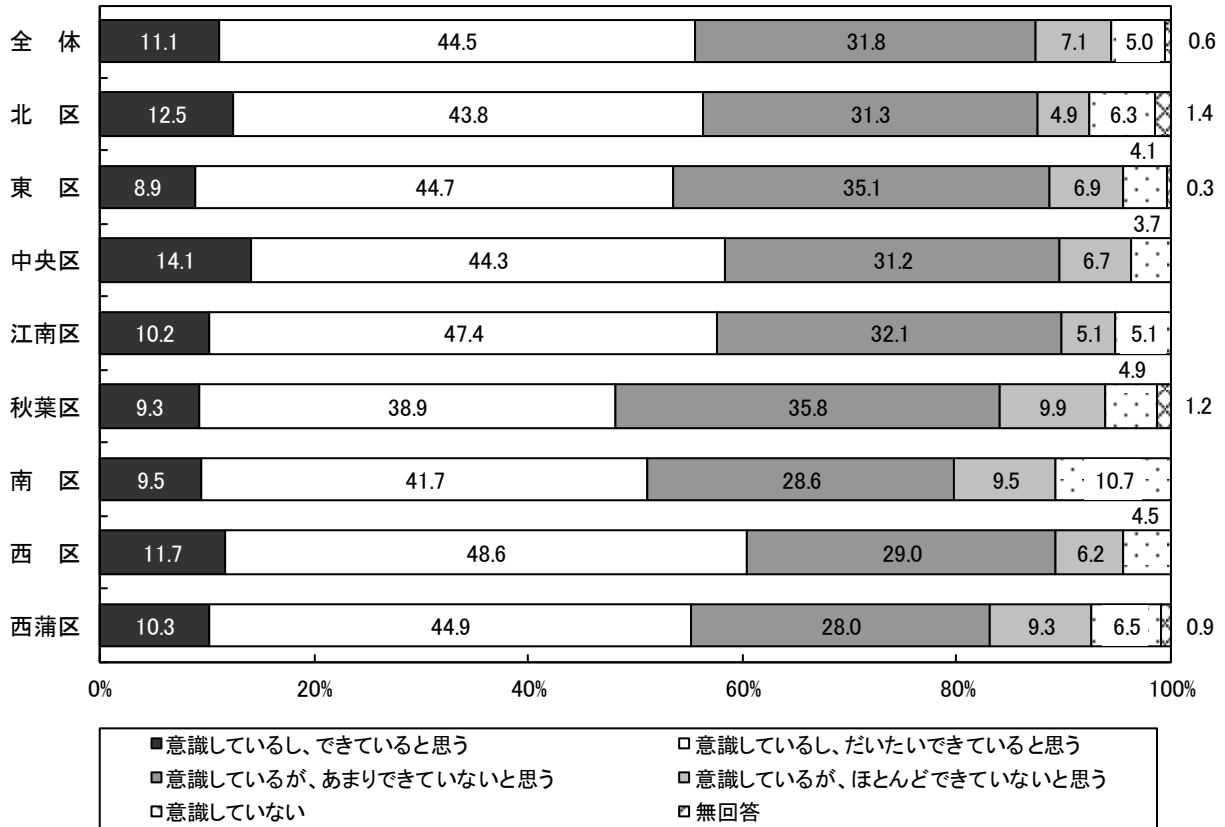
(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「意識しているし、できていると思う」「意識しているし、だいたいできていると思う」と回答した人の割合は、西区（60.3%）で最も高く、秋葉区（48.1%）で最も低くなっている。

図 3.4-4 健康のための食事の認識と程度の度合い〔野菜をたくさん食べること〕（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,565	144	291	327	137	162	84	290	107	23

(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

イ) 果物を適量（1日みかん2コ、またはリンゴ1/2コ程度）食べるようにすること

【性別・年齢別】

「意識しているし、できていると思う」「意識しているし、だいたいできていると思う」と回答した人の割合は、70歳以上（49.0%）で最も高く、20歳代（21.0%）で最も低くなっている。

性別では、「意識しているし、できていると思う」「意識しているし、だいたいできていると思う」と回答した人の割合は、20歳代で男性のほうが女性よりも高く、他の年代は女性の方が男性より高くなっている。

図 3.4-5 健康のための食事の認識と程度の度合い〔果物を適量食べるようにすること〕
（年齢別・全体）

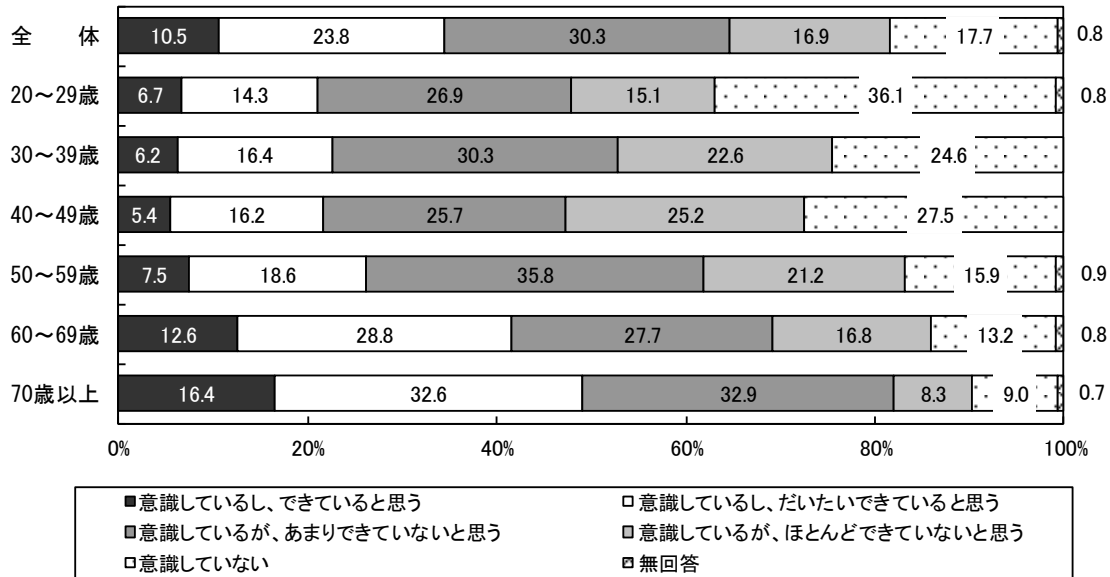
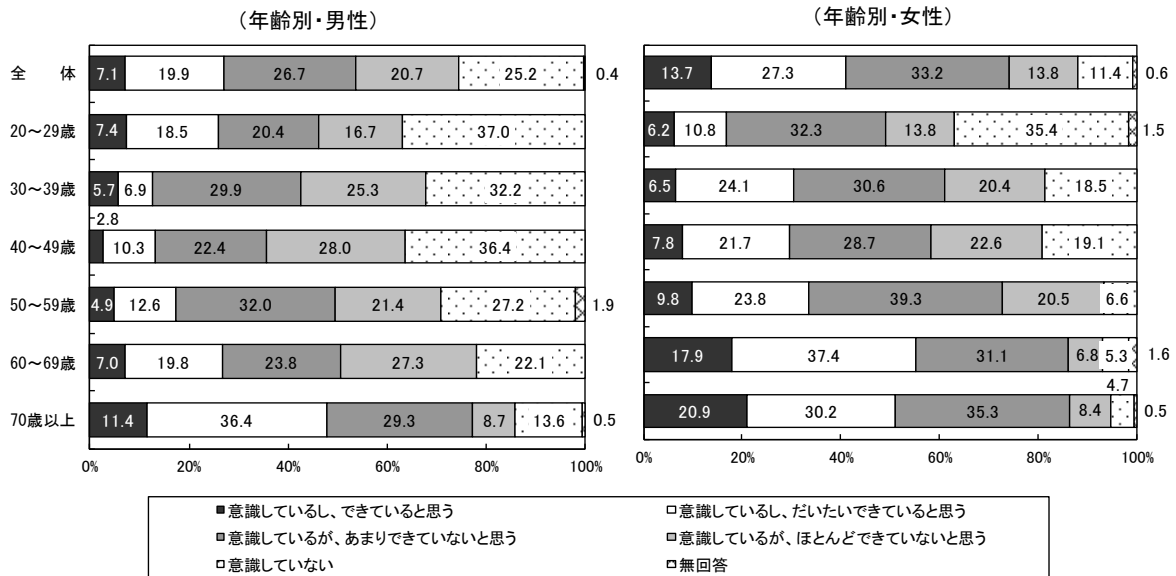


図 3.4-6 健康のための食事の認識と程度の度合い〔果物を適量食べるようにすること〕



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,565	119	195	222	226	364	420	19
男性	707	54	87	107	103	172	184	0
女性	817	65	108	115	122	190	215	2

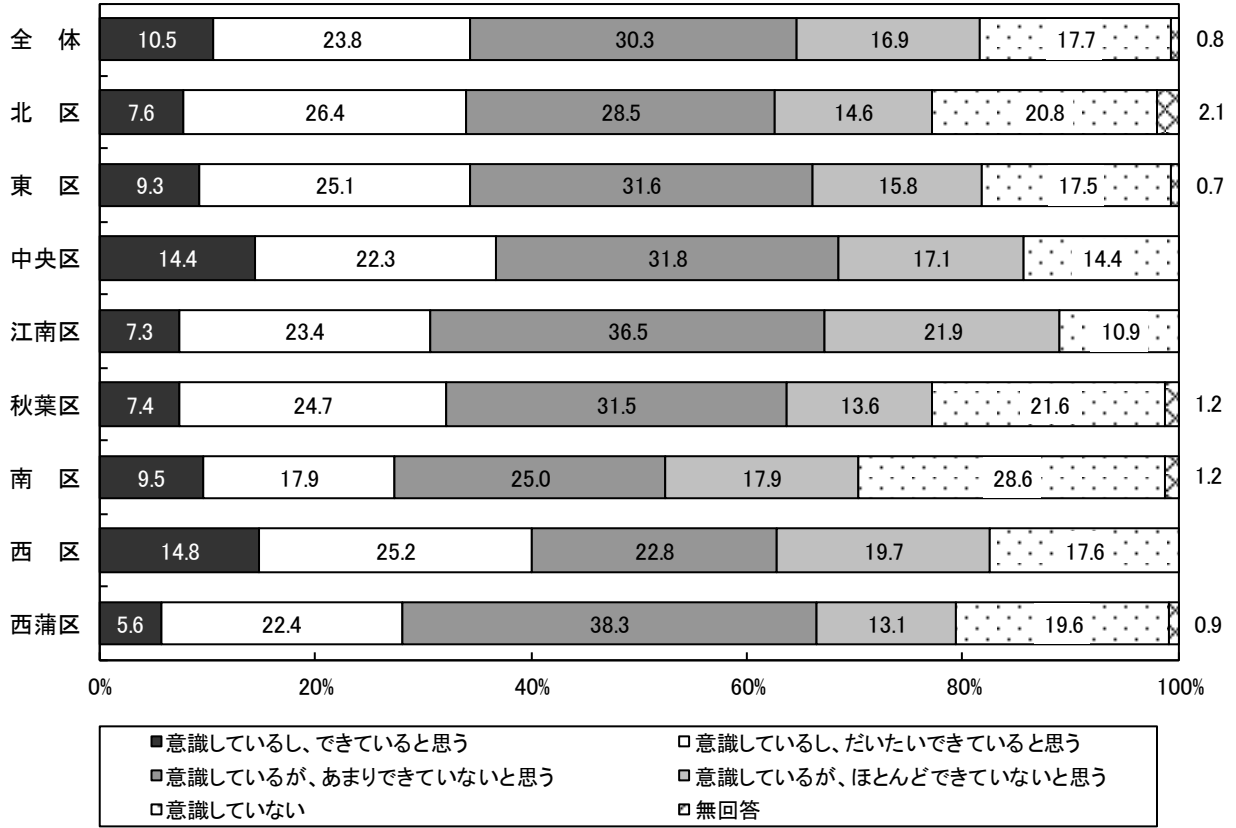
(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「意識しているし、できていると思う」「意識しているし、だいたいできていると思う」と回答した人の割合は、西区(40.0%)で最も高く、南区(27.4%)で最も低くなっている。

図 3.4-7 健康のための食事の認識と程度の度合い〔果物を適量食べるようにすること〕(地区別)



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,565	144	291	327	137	162	84	290	107	23

(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

ウ) 塩分に控えめにする

【性別・年齢別】

「意識しているし、できていると思う」「意識しているし、だいたいできていると思う」と回答した人の割合は、70歳以上(60.0%)で最も高く、30歳代(33.3%)で最も低くなっている。

性別では、「意識しているし、できていると思う」「意識しているし、だいたいできていると思う」と回答した人の割合は、各年代とも、女性の方が男性より高くなっている。

図 3.4-8 健康のための食事の認識と程度の度合い〔塩分を控えめにする〕(年齢別・全体)

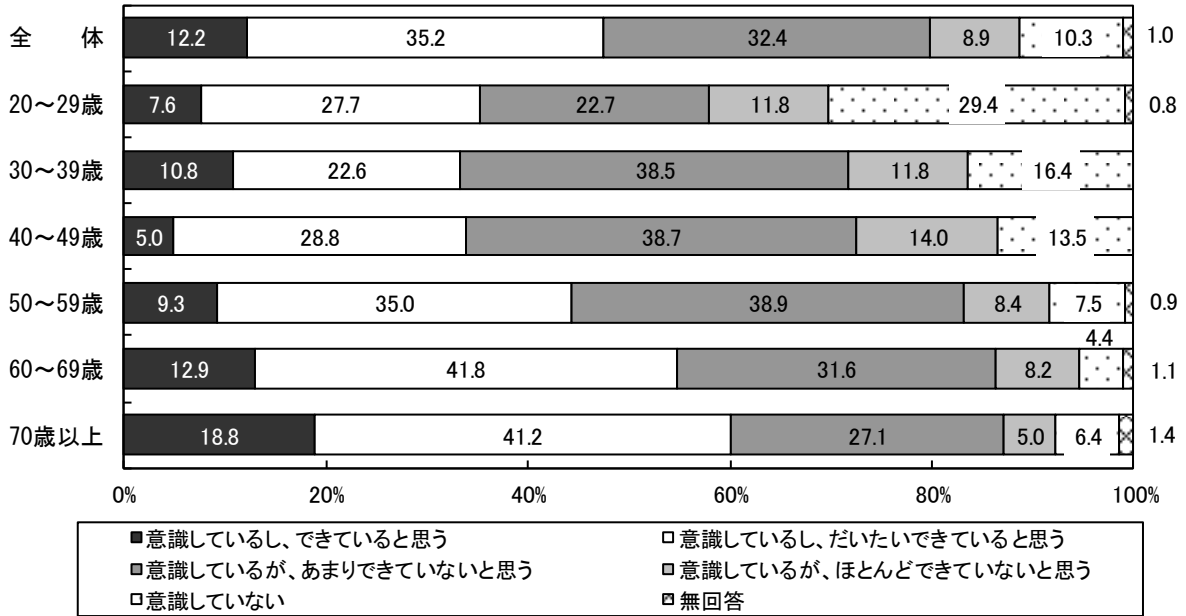
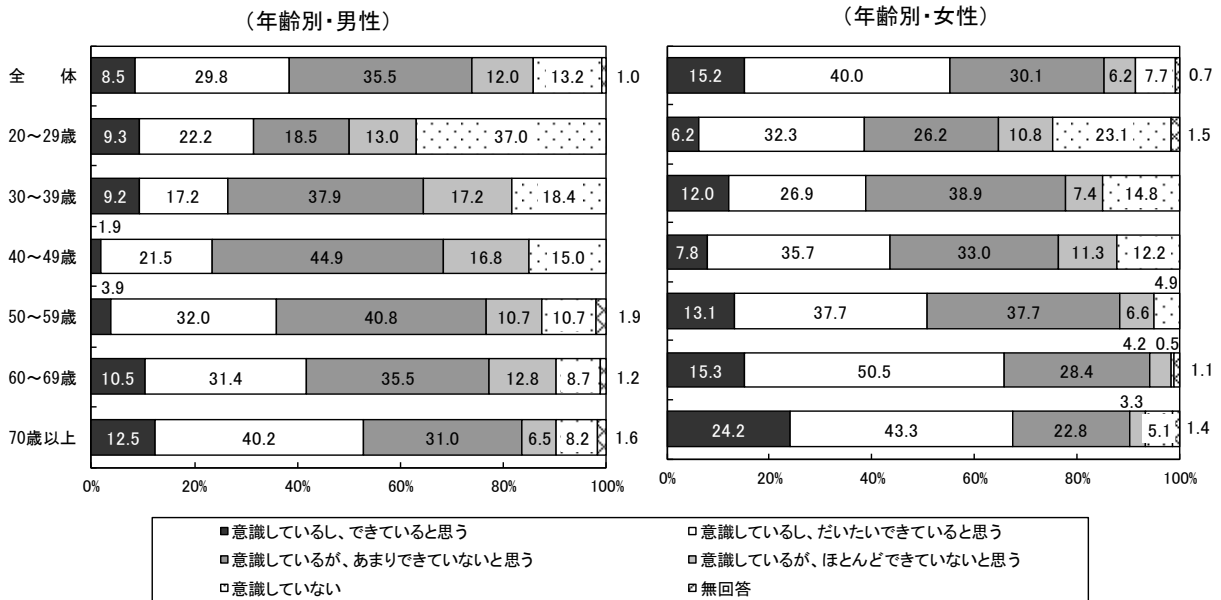


図 3.4-9 健康のための食事の認識と程度の度合い〔塩分を控えめにする〕



	計	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,565	119	195	222	226	364	420	19
男性	707	54	87	107	103	172	184	0
女性	817	65	108	115	122	190	215	2

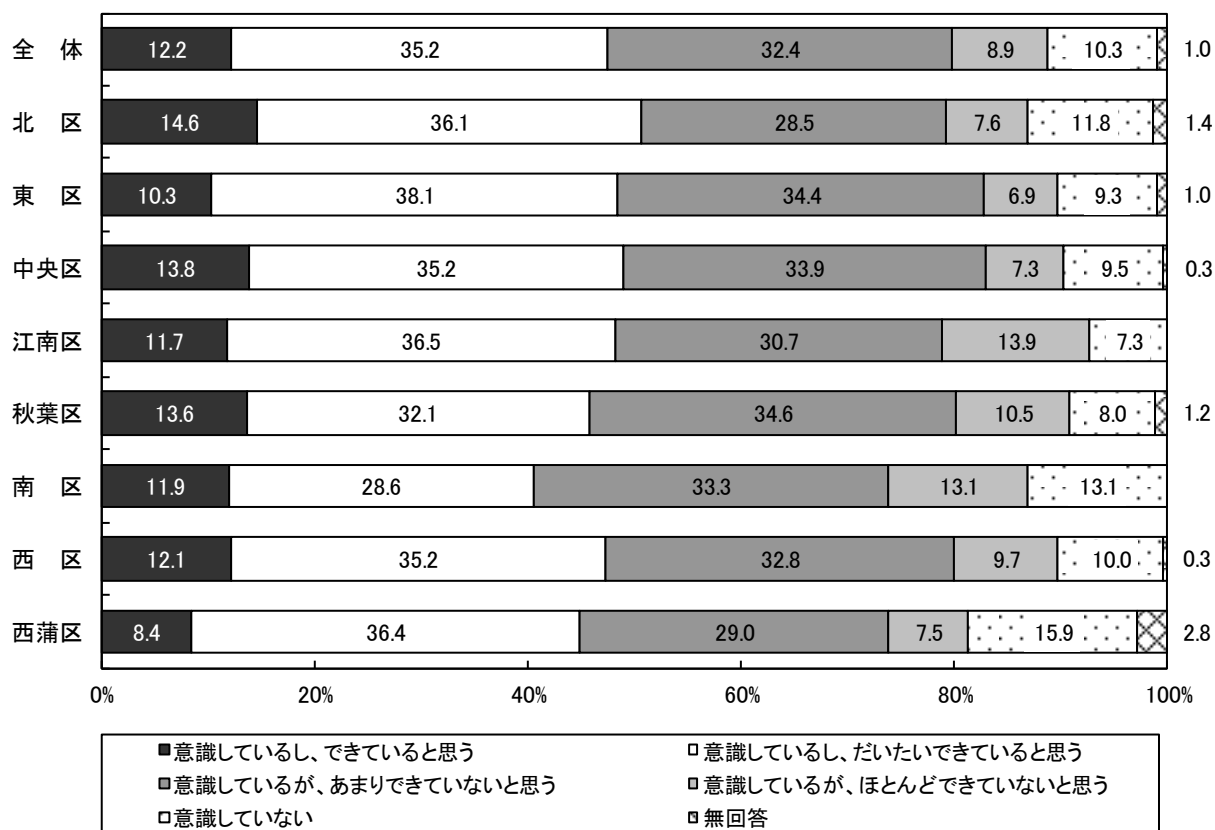
(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「意識しているし、できていると思う」「意識しているし、だいたいできていると思う」と回答した人の割合は、北区（50.7%）で最も高くなっている。

図 3.4-10 健康のための食事の認識と程度の度合い〔塩分を控えること〕（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,565	144	291	327	137	162	84	290	107	23

(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

(5) 朝食の回数

問16 あなたは日ごろ、朝食を食べていますか。(〇は1つだけ)

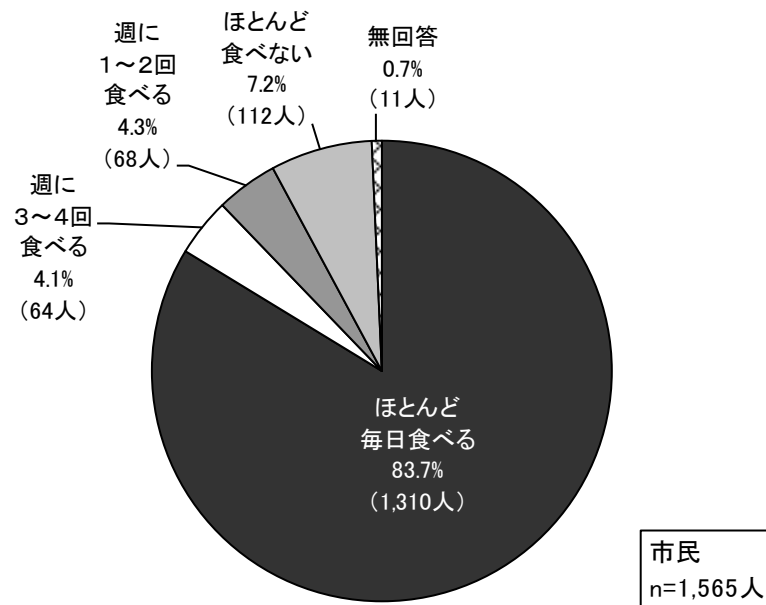
1割強が「ほとんど食べない」「週に1～2回食べる」と回答

【全体結果】

8割強(83.7%)が「ほとんど毎日食べる」と回答し、「週に3～4回食べる」(4.1%)を合わせると、9割弱(87.8%)の人が朝食を食べている。

一方、「週に1～2回食べる」(4.3%)、「ほとんど食べない」(7.2%)と回答した、朝食を食べない人は1割強(11.5%)となっている。

図 3.5-1 朝食の回数



【性別・年齢別】

各年代とも、「ほとんど毎日食べる」と回答した人が最も多く、年齢上がるにつれて朝食の回数が増える傾向が見られる。60歳以上では、9割前後の人が朝食をほぼ毎日食べている。

一方、「ほとんど食べない」と回答した人の割合は、20歳代（14.3%）が最も高く、性別でも、男性は40歳代（16.8%）、女性は20歳代（12.3%）が最も高く、20歳代～50歳代の男性も1割を超えている。

図 3.5-2 朝食の回数（年齢別・全体）

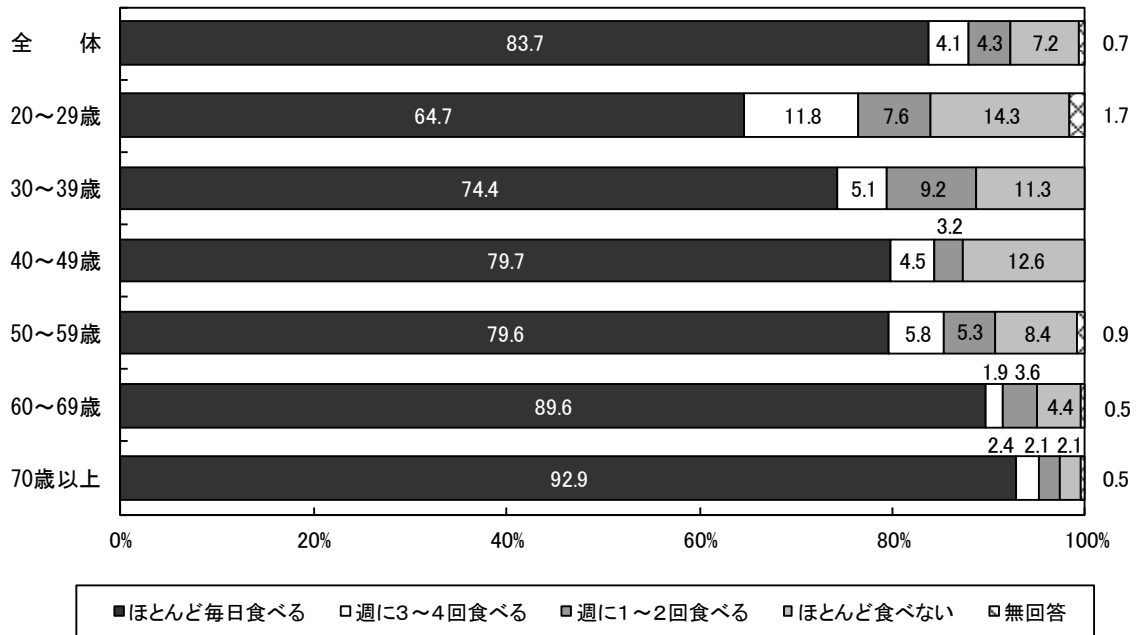
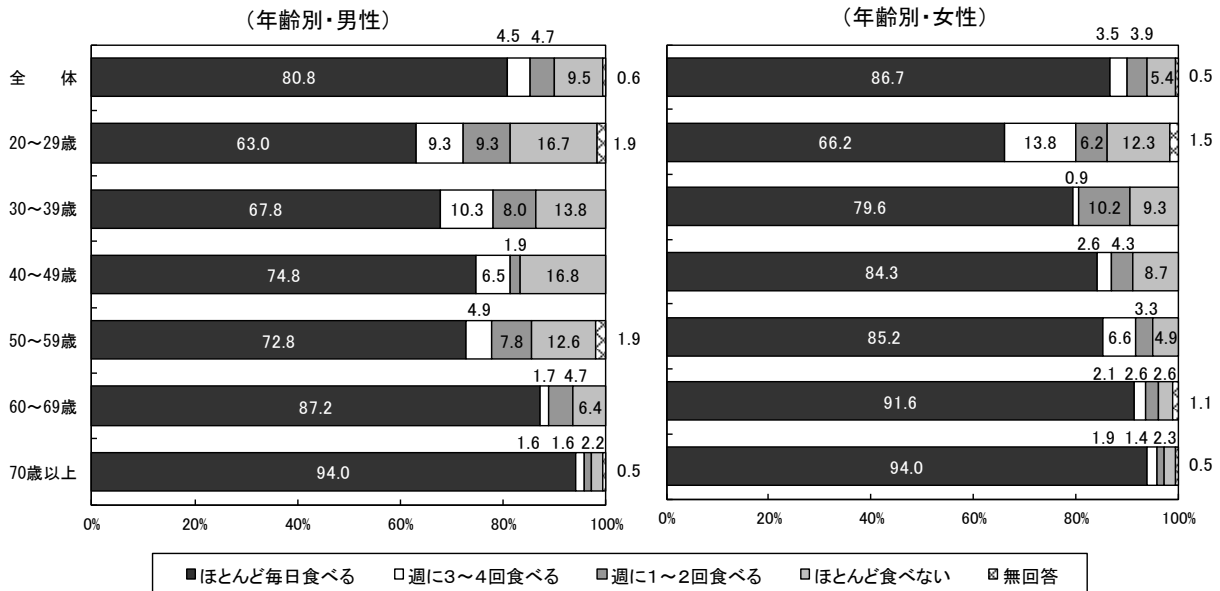


図 3.5-3 朝食の回数



	計	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,565	119	195	222	226	364	420	19
男性	707	54	87	107	103	172	184	0
女性	817	65	108	115	122	190	215	2

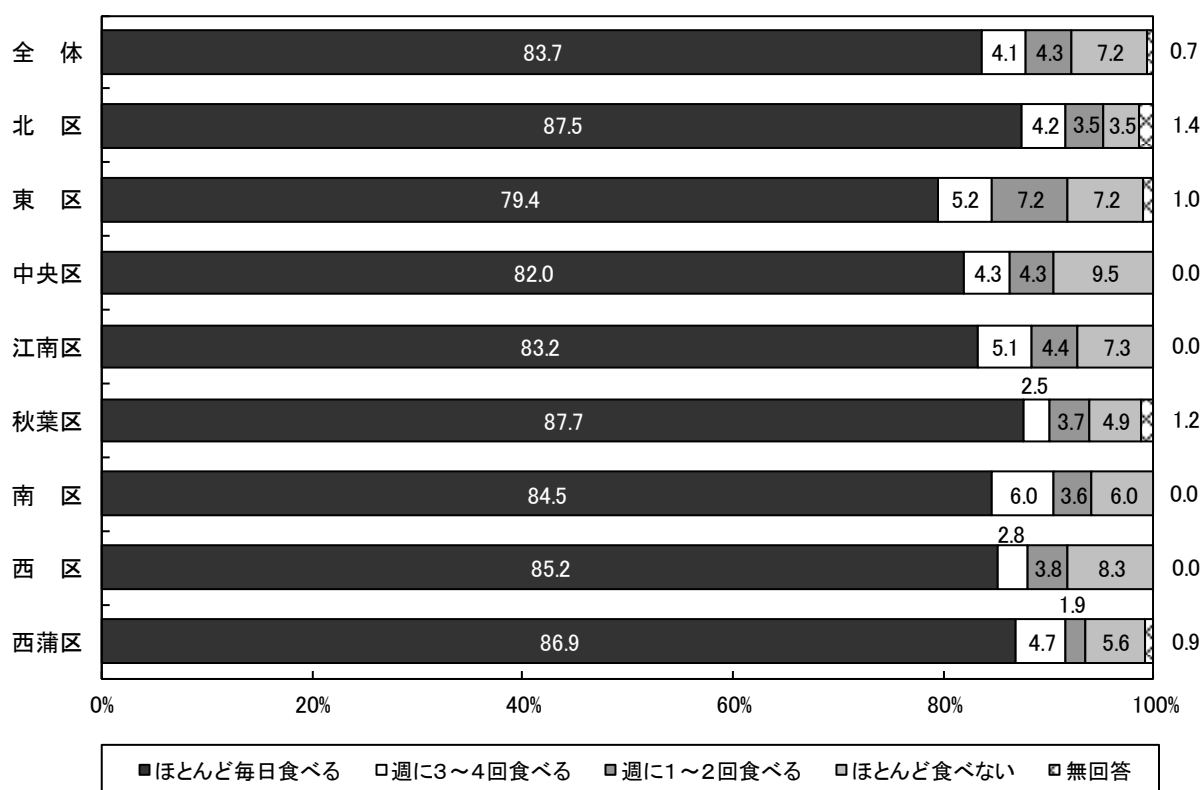
(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

各地区ともに、「ほとんど毎日食べる」と回答した人が最も多く、東区を除き8割を超えている。

図 3.5-4 朝食の回数（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,565	144	291	327	137	162	84	290	107	23

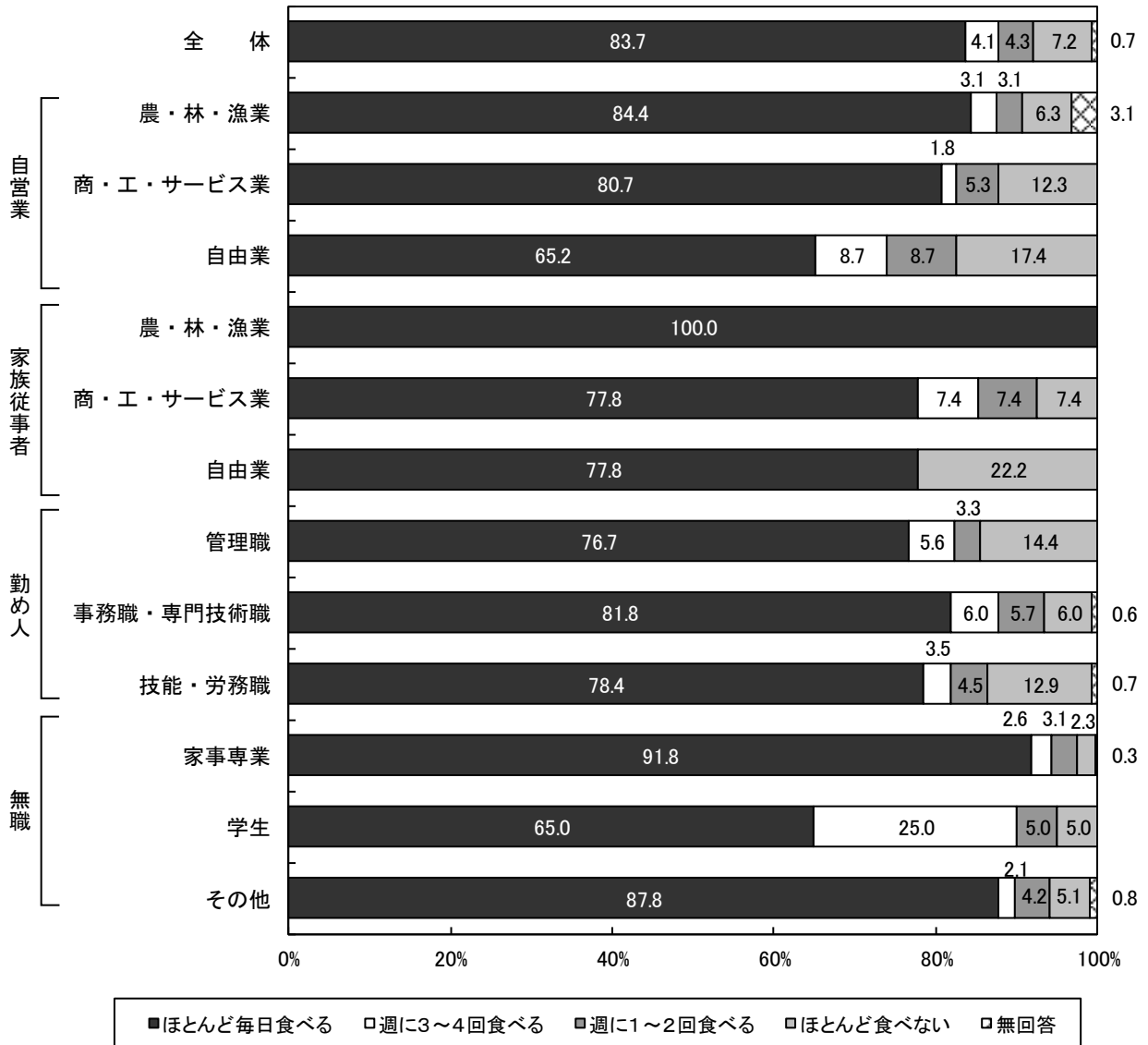
(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 3.5-5 朝食の回数（職業別）



全体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,565	32	57	23	6	27	9

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
90	336	287	390	20	237	51

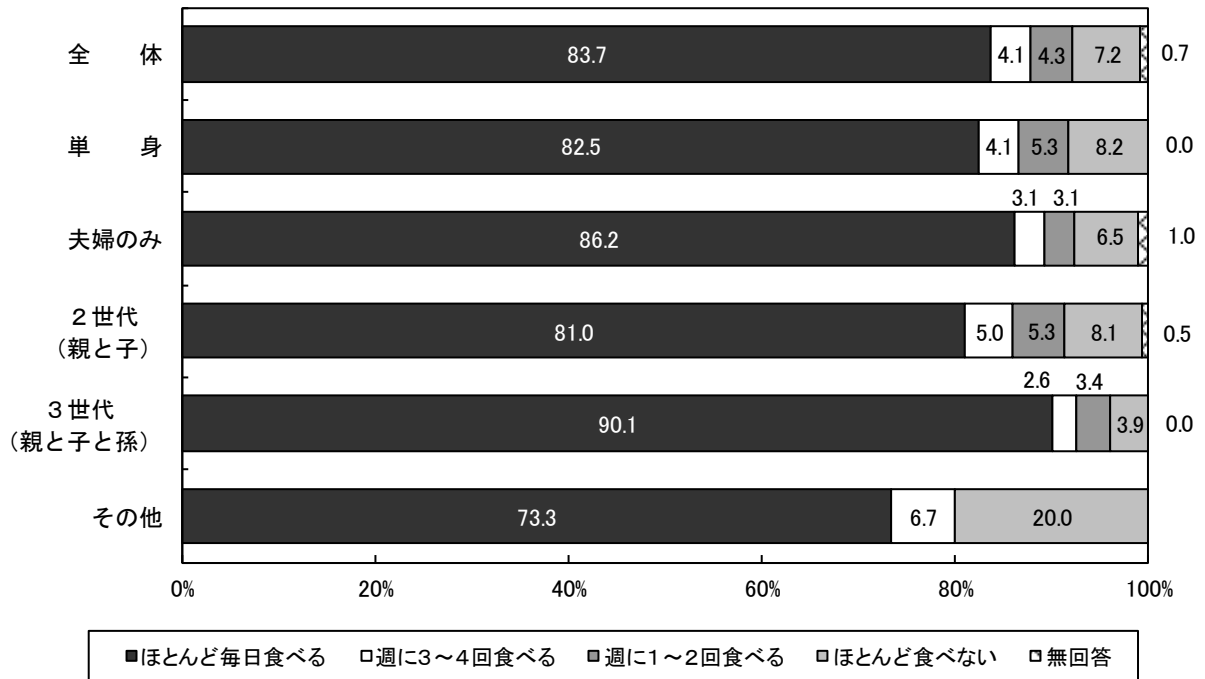
(人)

※無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

各家族構成別とも、「ほとんど毎日食べる」と回答した人が最も多くなっている。なかでも、3世代（親と子と孫）（90.1%）が約9割となっている。

図 3.5-6 朝食の回数（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代 (親と子)	3世代 (親と子と孫)	その他	無回答
1,565	171	384	737	233	15	25

(人)

※無回答者のグラフは省略した。

(6) 朝食を食べない理由

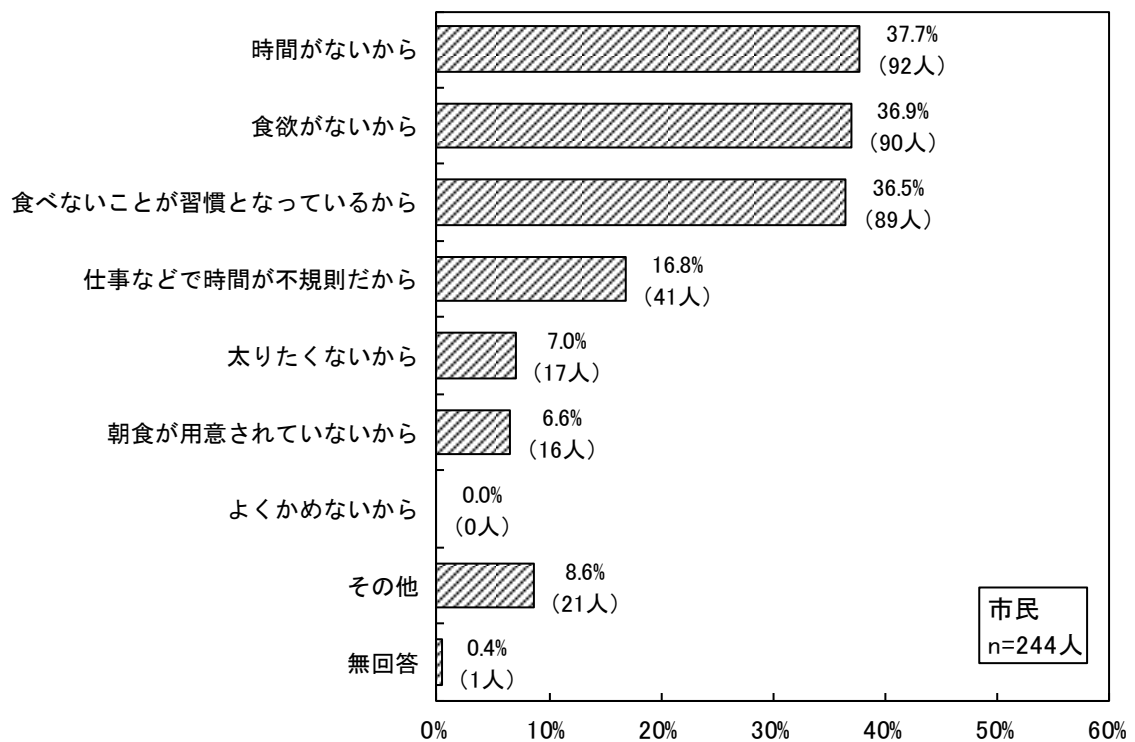
問16-1 あなたが、朝食を食べない理由は何ですか。(〇は3つまで)

「時間がないから」が4割弱

【全体結果】

朝食を食べない理由については、「時間がないから」(37.7%)と回答した人が最も多く、以下「食欲がないから」(36.9%)、「食べないことが習慣となっているから」(36.5%)、「仕事などで時間が不規則だから」(16.8%)と続いている。

図 3.6 朝食を食べない理由



【性別・年齢別】

20歳代と30歳代は「時間がないから」と回答した人の割合が最も高く、40歳代～60歳代では「食べないことが習慣となっているから」、70歳以上では「食欲がないから」と回答した人の割合が最も高くなっている。

表 2.1 朝食を食べない理由（年齢別・全体）

	対象者	時間がないから	食欲がないから	食べないことが習慣となっているから	仕事などで時間が不規則だから	太りたくないから	朝食が用意されていないから	よくかめないから	その他	無回答
計	244	37.7	36.9	36.5	16.8	7.0	6.6	0.0	8.6	0.4
20～29歳	40	60.0	25.0	25.0	25.0	7.5	5.0	0.0	7.5	0.0
30～39歳	50	52.0	32.0	42.0	22.0	6.0	18.0	0.0	10.0	2.0
40～49歳	45	37.8	31.1	40.0	20.0	6.7	6.7	0.0	13.3	0.0
50～59歳	44	34.1	38.6	36.4	15.9	11.4	2.3	0.0	4.5	0.0
60～69歳	36	22.2	41.7	44.4	2.8	5.6	2.8	0.0	8.3	0.0
70歳以上	28	3.6	64.3	28.6	10.7	3.6	0.0	0.0	7.1	0.0
年齢不明	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

対象者：人/回答：%

表 2.2 朝食を食べない理由（年齢別・男性）

	対象者	時間がないから	食欲がないから	食べないことが習慣となっているから	仕事などで時間が不規則だから	太りたくないから	朝食が用意されていないから	よくかめないから	その他	無回答
計	132	38.6	37.9	40.9	16.7	5.3	9.1	0.0	7.6	0.8
20～29歳	19	57.9	36.8	21.1	15.8	0.0	0.0	0.0	10.5	0.0
30～39歳	28	60.7	32.1	39.3	25.0	0.0	28.6	0.0	10.7	3.6
40～49歳	27	33.3	33.3	37.0	22.2	3.7	7.4	0.0	11.1	0.0
50～59歳	26	30.8	38.5	50.0	15.4	15.4	3.8	0.0	0.0	0.0
60～69歳	22	22.7	36.4	54.5	4.5	9.1	4.5	0.0	4.5	0.0
70歳以上	10	10.0	70.0	40.0	10.0	0.0	0.0	0.0	10.0	0.0
年齢不明	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

対象者：人/回答：%

表 2.3 朝食を食べない理由（年齢別・女性）

女性

	対象者	時間がないから	食欲がないから	食べないことが習慣となっているから	仕事などで時間が不規則だから	太りたくないから	朝食が用意されていないから	よくかめないから	その他	無回答
計	105	38.1	32.4	33.3	18.1	9.5	3.8	0.0	10.5	0.0
20～29歳	21	61.9	14.3	28.6	33.3	14.3	9.5	0.0	4.8	0.0
30～39歳	22	40.9	31.8	45.5	18.2	13.6	4.5	0.0	9.1	0.0
40～49歳	18	44.4	27.8	44.4	16.7	11.1	5.6	0.0	16.7	0.0
50～59歳	18	38.9	38.9	16.7	16.7	5.6	0.0	0.0	11.1	0.0
60～69歳	14	21.4	50.0	28.6	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0
70歳以上	12	0.0	41.7	33.3	16.7	8.3	0.0	0.0	8.3	0.0
年齢不明	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

対象者：人/回答：%

(7) 地域や家族、友人などと食卓を囲んで食事をすることの大切さ

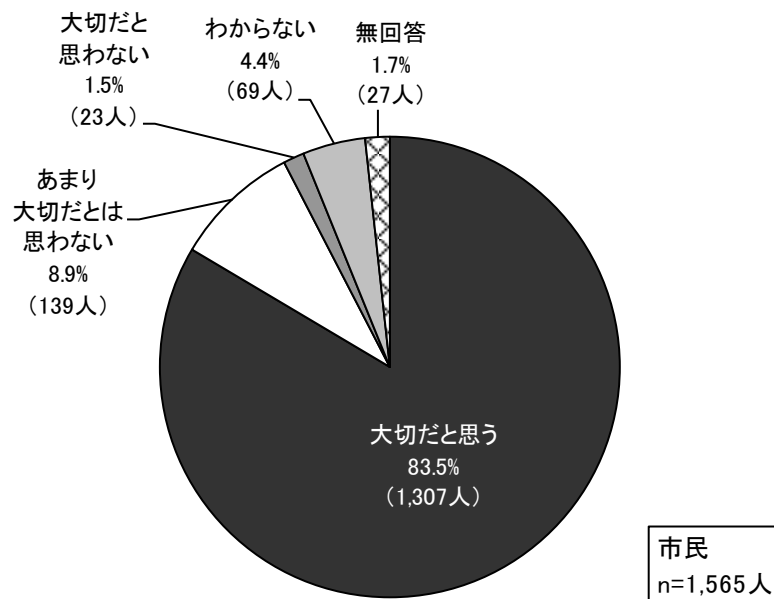
問17 あなたは地域や家族、友人などと食卓を囲んで食事をするのは大切だと思いますか。
(○は1つだけ)

8割強が「大切だと思う」と回答

【全体結果】

「大切だと思う」と回答した人の割合は8割強（83.5%）となっている。「あまり大切だとは思わない」（8.9%）、「大切だと思わない」（1.5%）と回答した人を合わせた割合は約1割（10.4%）となっている。

図 3.7-1 地域や家族、友人などと食卓を囲んで食事をすることの大切さ



【性別・年齢別】

各年代とも、「大切だと思う」と回答した人が最も多く、30歳代(90.3%)が最も高く、70歳以上(75.5%)が最も低くなっている。

性別では、「大切だと思う」割合は、30歳代では男性と女性がほぼ同率となっているが、その他の年代では女性の方が男性よりも高くなっている。

図 3.7-2 地域や家族、友人などと食卓を囲んで食事をする事の大切さ (年齢別・全体)

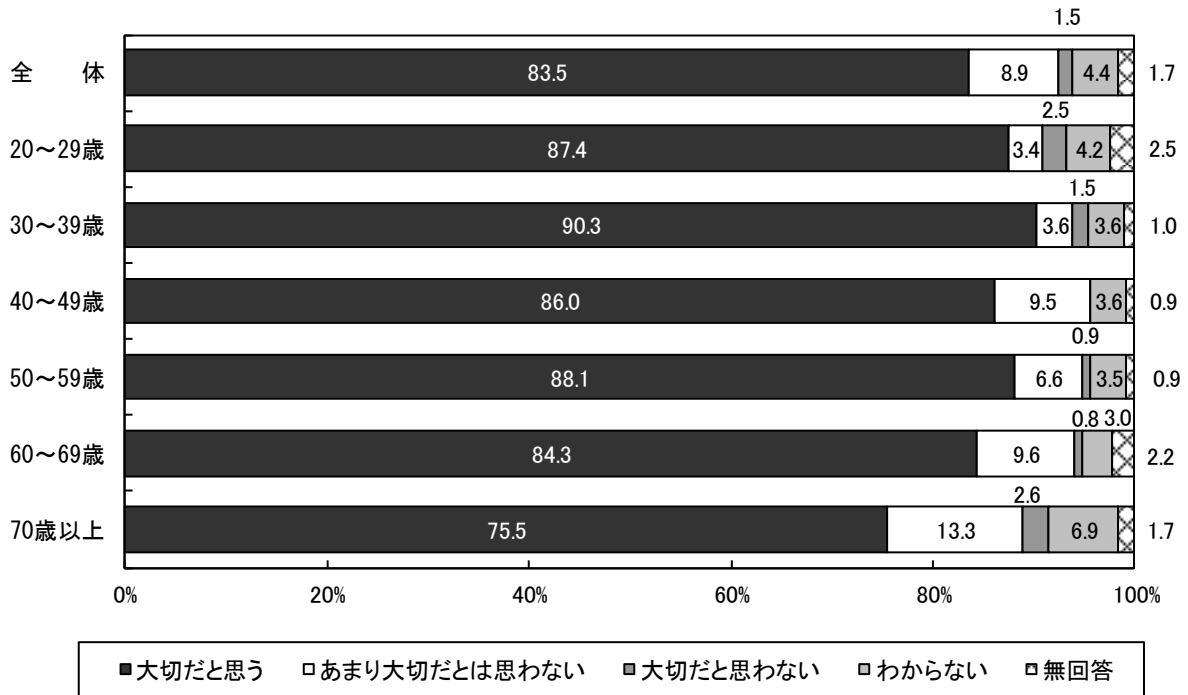
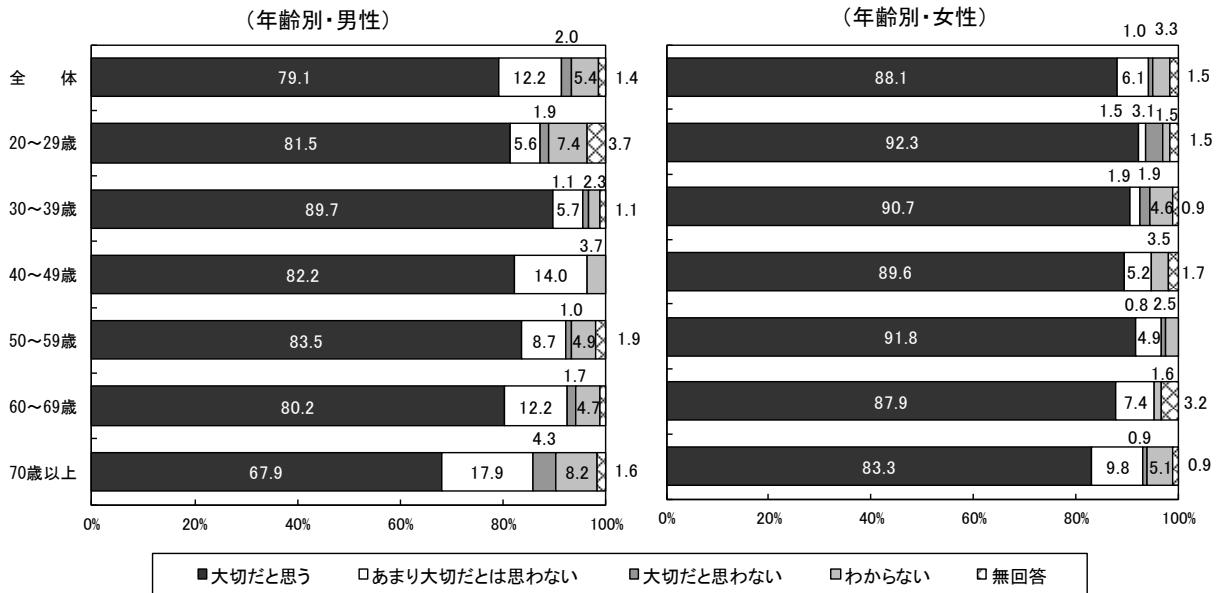


図 3.7-3 地域や家族、友人などと食卓を囲んで食事をする事の大切さ



	計	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,565	119	195	222	226	364	420	19
男性	707	54	87	107	103	172	184	0
女性	817	65	108	115	122	190	215	2

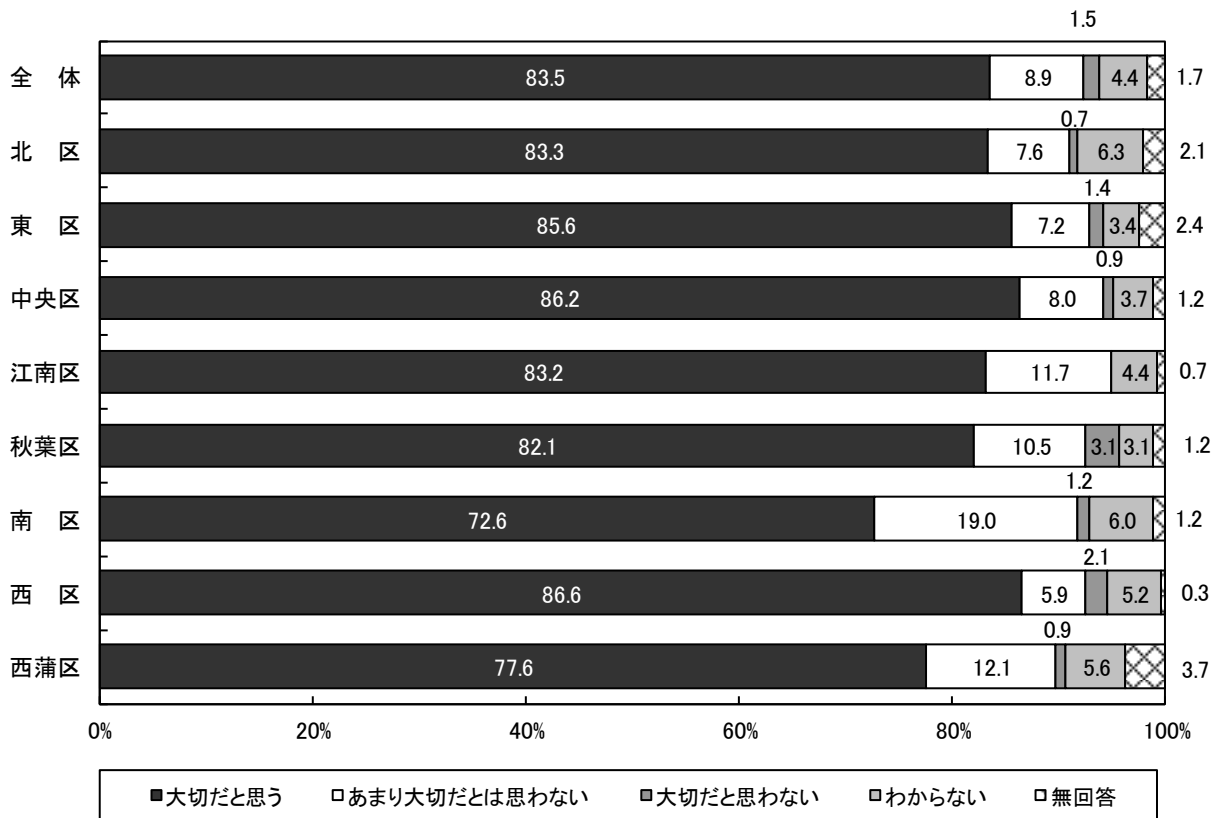
(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

各地区ともに「大切だと思う」と回答した人が最も多いが、南区（72.6%）では7割強と他地区に比べて低くなっている。

図 3.7-4 地域や家族、友人などと食卓を囲んで食事をすることの大切さ（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,565	144	291	327	137	162	84	290	107	23

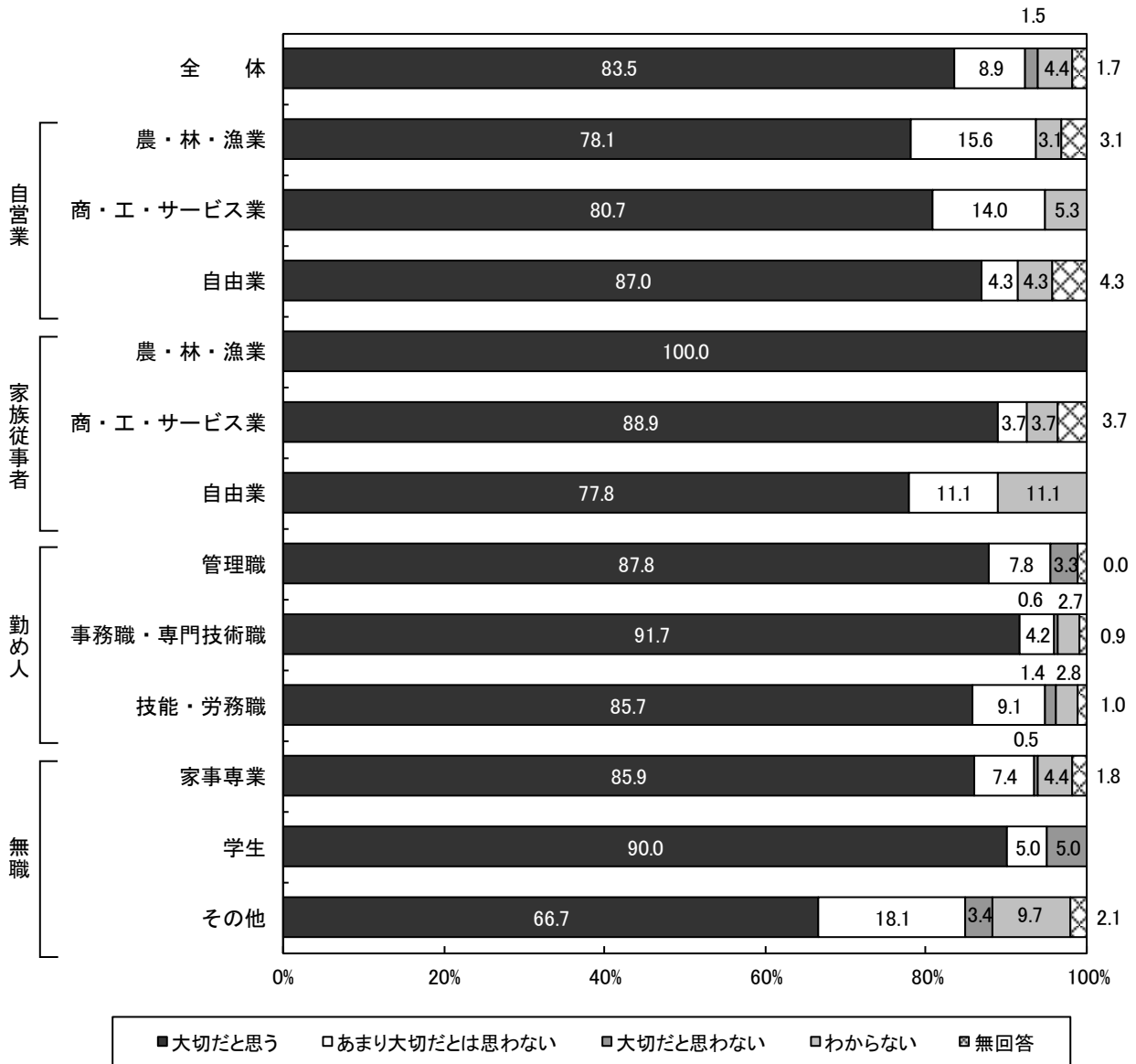
(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 3.7-5 地域や家族、友人などと食卓を囲んで食事をする事の大切さ（職業別）



全体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,565	32	57	23	6	27	9

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
90	336	287	390	20	237	51

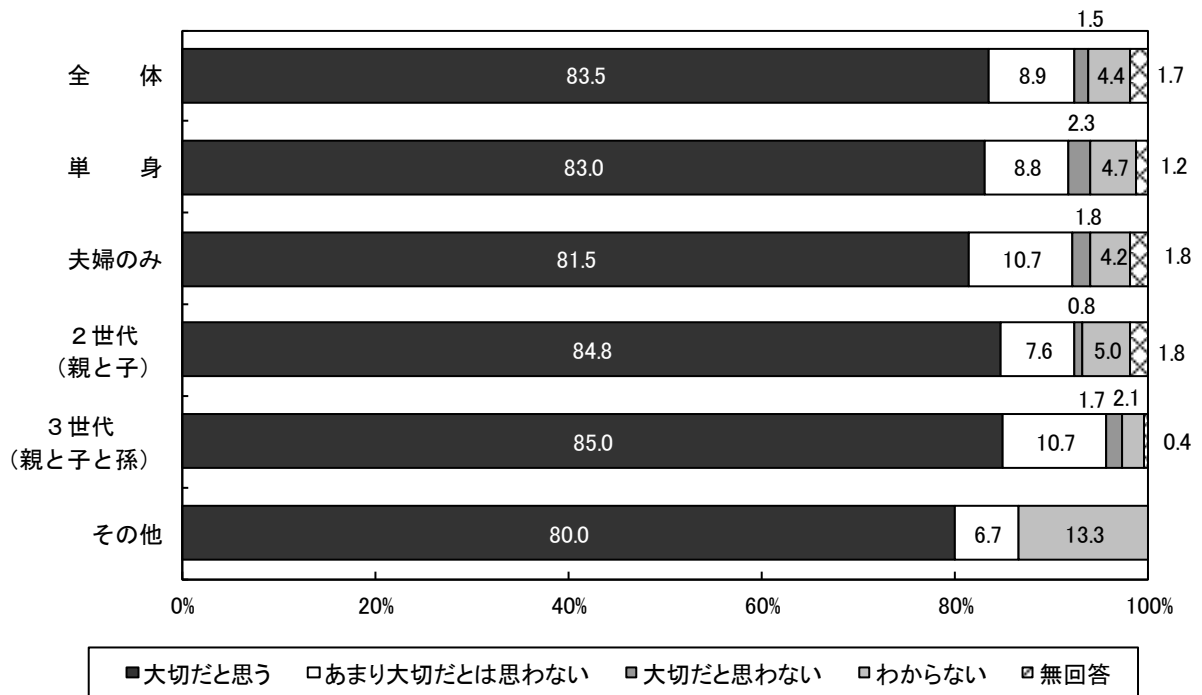
(人)

※無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

各家族構成別とも、「ほとんど毎日食べる」と回答した人が最も多くなっている。

図 3.7-6 地域や家族、友人などと食卓を囲んで食事をすることの大切さ（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代 (親と子)	3世代 (親と子と孫)	その他	無回答
1,565	171	384	737	233	15	25

(人)

※無回答者のグラフは省略した。

(8) 家族と朝食を食べる回数

問18 家族と一緒に食べる頻度について伺います。

ア) 朝食を家族と一緒に食べることはどのくらいありますか。(〇は1つだけ)

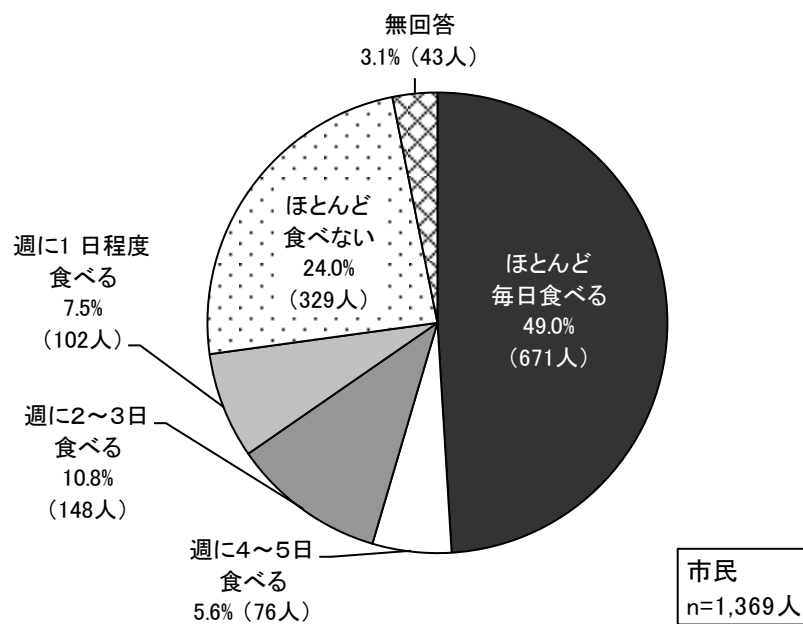
半数弱が「ほとんど毎日食べる」と回答

【全体結果】

半数弱(49.0%)が「ほとんど毎日食べる」と回答し、「週に4～5日食べる」(5.6%)、「週に2～3日食べる」(10.8%)を合わせると、7割弱(65.4%)の人が家族と一緒に朝食を食べている。

一方、「週に1日程度食べる」(7.5%)、「ほとんど食べない」(24.0%)と回答した、家族と一緒に朝食を食べない人は3割強(31.5%)となっている。

図 3.8-1 家族と朝食を食べる回数



【性別・年齢別】

30歳以上では「ほとんど毎日食べる」と回答した人が最も多く、70歳以上では7割弱となっている。
一方、20歳代では5割弱（46.9%）の人が「ほとんど食べない」と回答している

図 3.8-2 家族と朝食を食べる回数（年齢別）

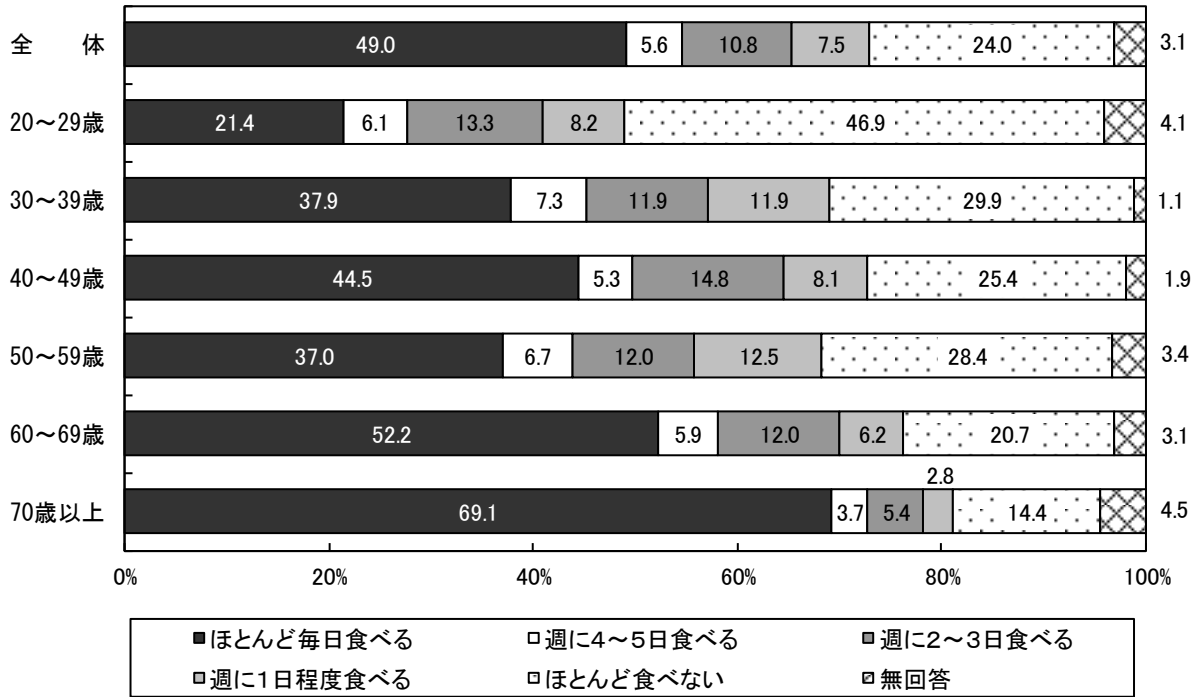
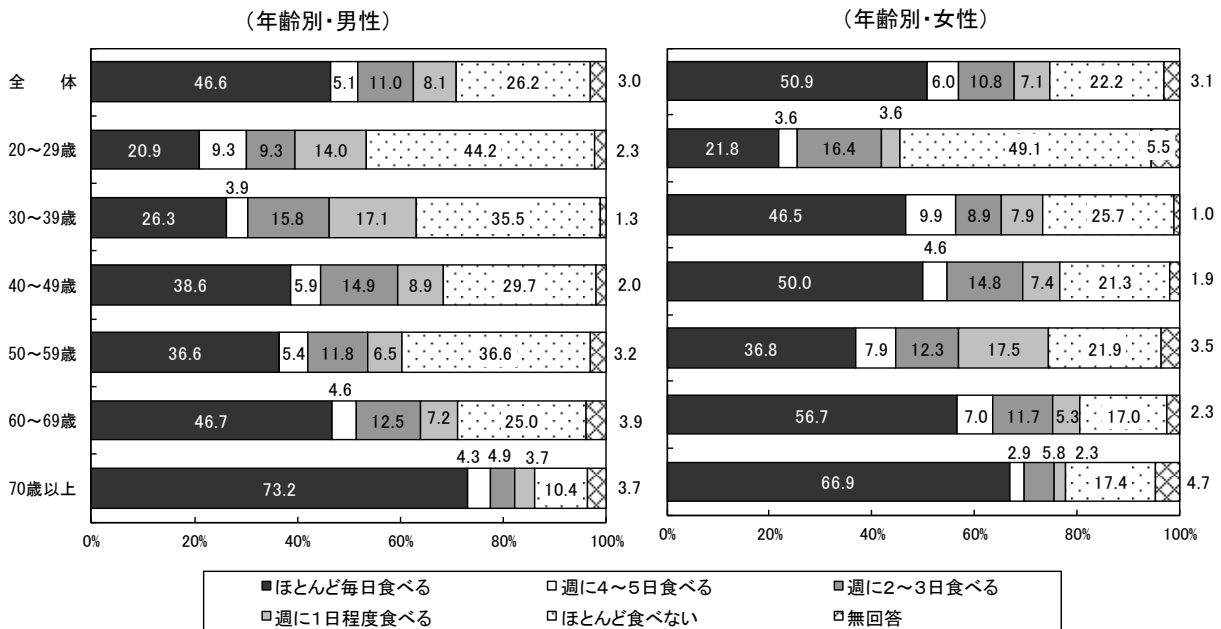


図 3.8-3 家族と朝食を食べる回数



	計	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上	年齢不明
全 体	1,369	98	177	209	208	324	353	0
男 性	629	43	76	101	93	152	164	0
女 性	721	55	101	108	114	171	172	0

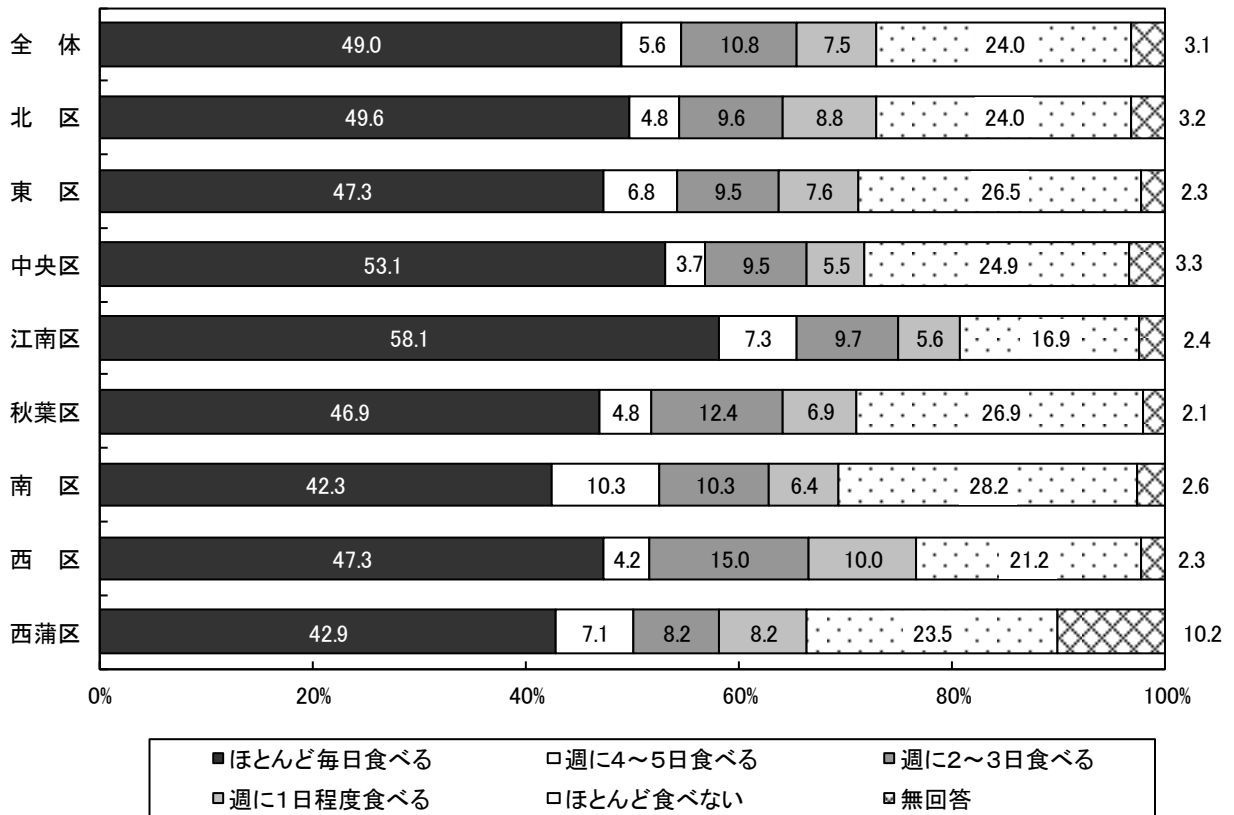
(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

各地区とも、「ほとんど毎日食べる」と回答した人が最も多く、江南区（58.1%）が最も高くなっている。一方「ほとんど食べない」の割合は、南区（28.2%）が最も高くなっている。

図 3.8-4 家族と朝食を食べる回数（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,369	125	264	273	124	145	78	260	98	2

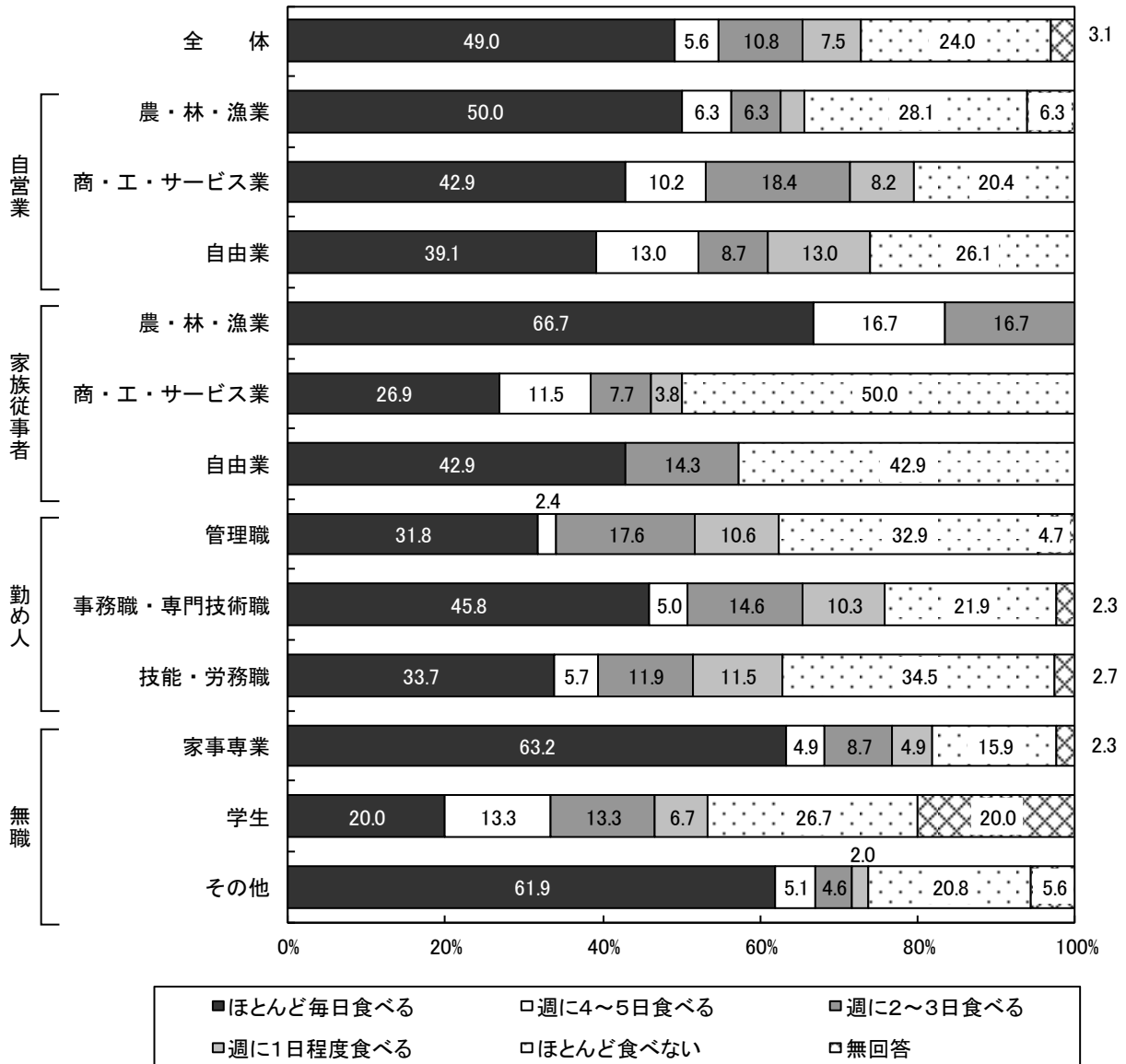
(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 3.8-5 家族と朝食を食べる回数（職業別）



全体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,369	32	49	23	6	26	7

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
85	301	261	345	15	197	22

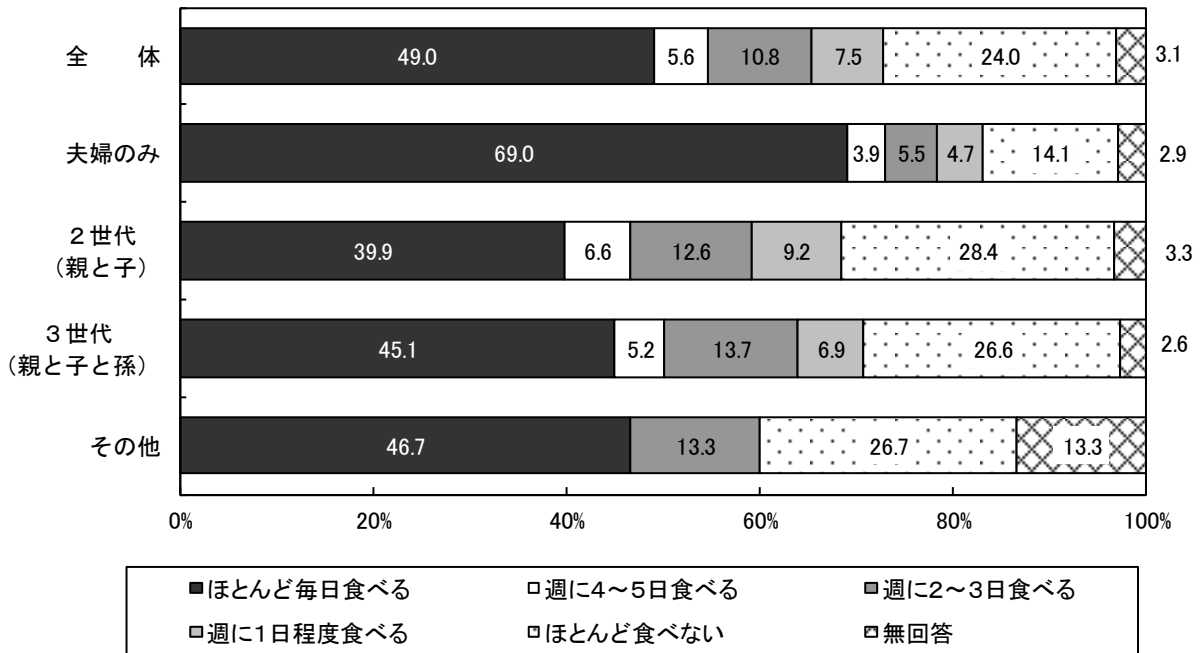
(人)

※無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「ほとんど毎日食べる」と回答した人の割合は、夫婦のみ（69.0%）で最も高く、7割弱となっている。

図 3.8-6 家族と朝食を食べる回数（家族構成別）



全 体	単 身	夫婦のみ	2世代 (親と子)	3世代 (親と子と孫)	その他	無回答
1,369	0	384	737	233	15	0

(人)

(9) 家族と夕食を食べる回数

問18 家族と一緒に食べる頻度について伺います。

イ) 夕食を家族と一緒に食べることはどのくらいありますか。(〇は1つだけ)

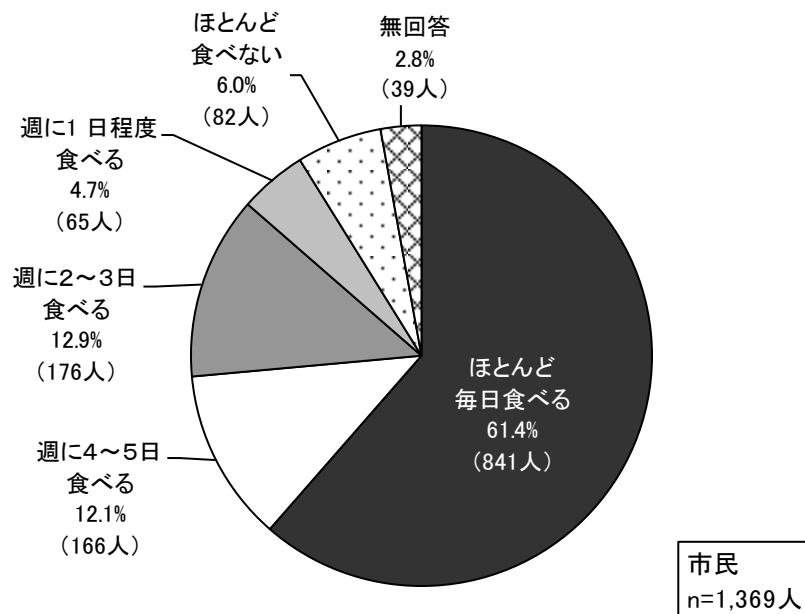
6割強が「ほとんど毎日食べる」と回答

【全体結果】

6割強(61.4%)が「ほとんど毎日食べる」と回答し、「週に4～5日食べる」(12.1%)、「週に2～3日食べる」(12.9%)を合わせると、9割弱(86.4%)の人が家族と一緒に夕食を食べている。

一方、「週に1日程度食べる」(4.7%)、「ほとんど食べない」(6.0%)と回答した、家族と一緒に夕食を食べない人は1割強(10.7%)となっている。

図 3.9-1 家族と夕食を食べる回数



【性別・年齢別】

各年代とも、「ほとんど毎日食べる」と回答した人が最も多く、70歳以上では7割を超えている。
また、性別で見ると、「ほとんど毎日食べる」の割合は、30～60歳代で女性の方が高くなっている。

図 3.9-2 家族と夕食を食べる回数（年齢別）

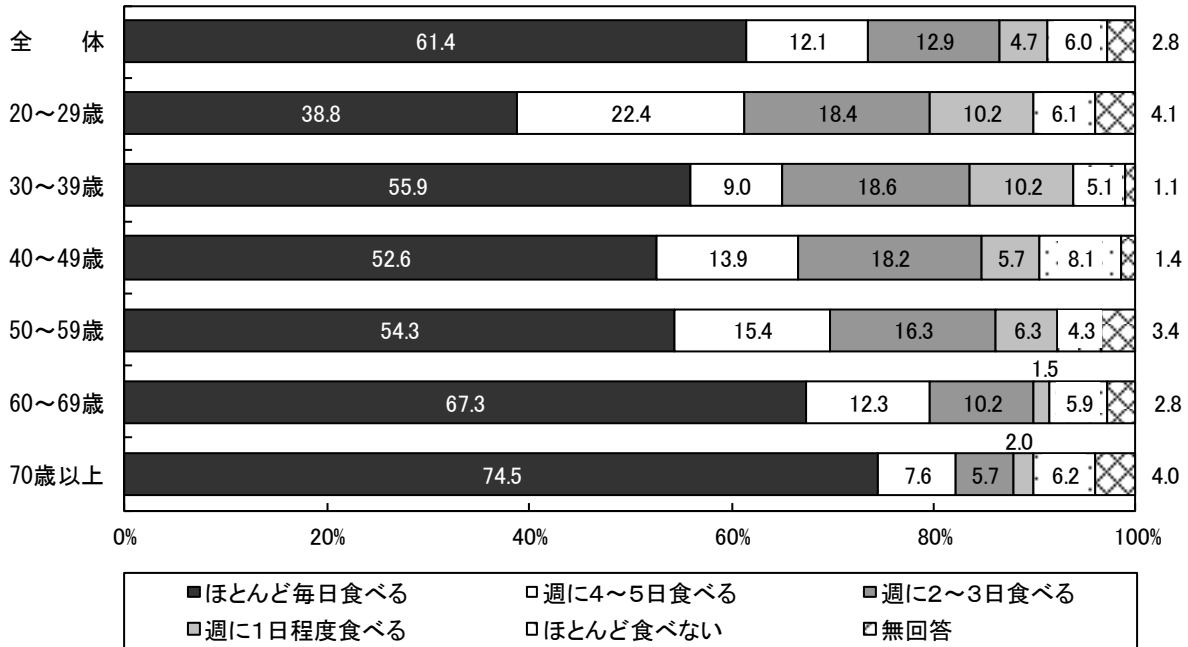
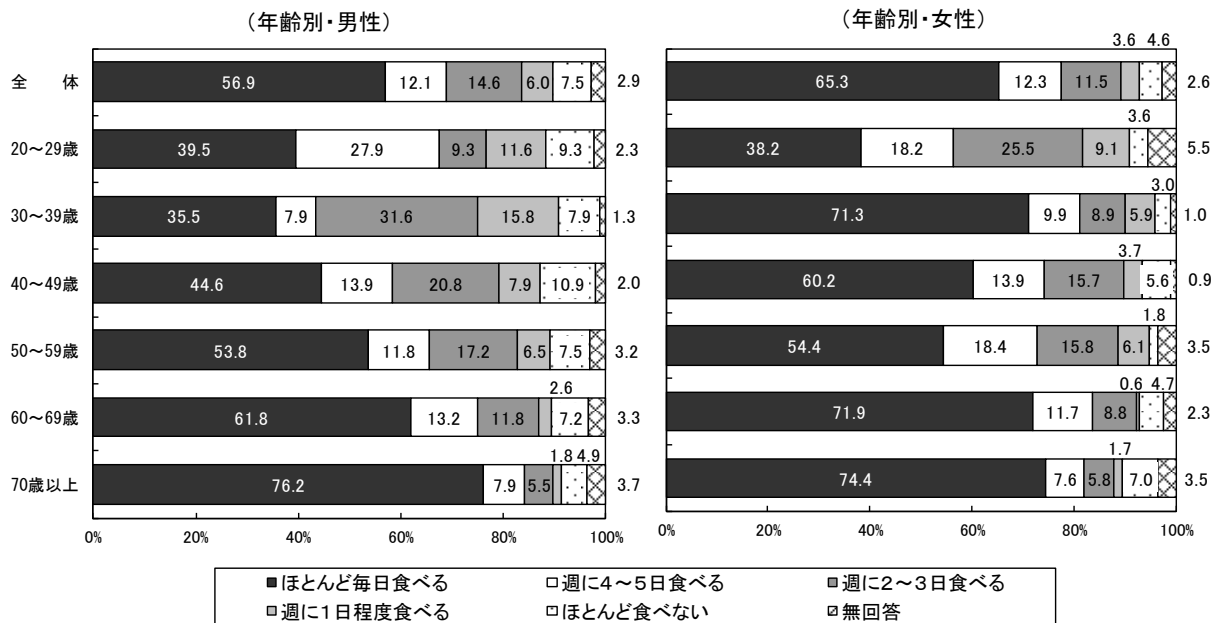


図 3.9-3 家族と夕食を食べる回数



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,369	98	177	209	208	324	353	0
男性	629	43	76	101	93	152	164	0
女性	721	55	101	108	114	171	172	0

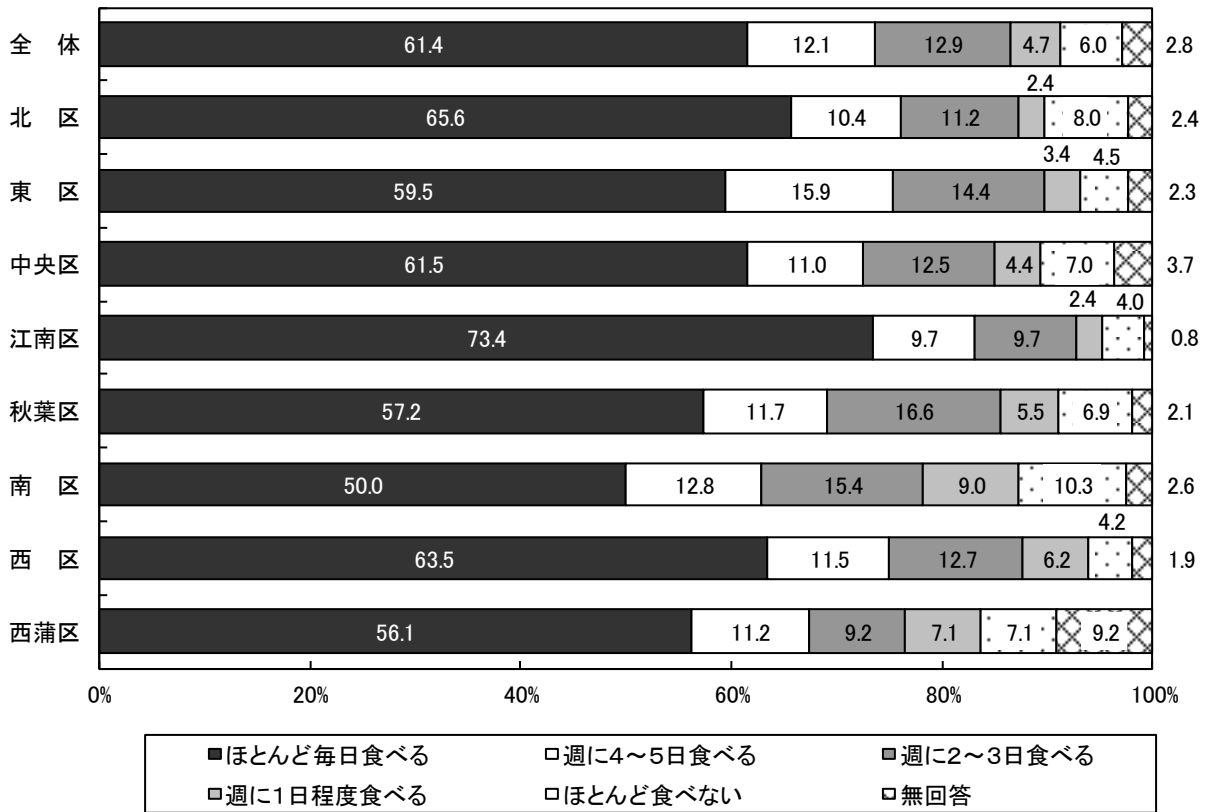
(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

各地区とも、「ほとんど毎日食べる」と回答した人が最も多く、江南区では7割を超えている。

図 3.9-4 家族と夕食を食べる回数（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,369	125	264	273	124	145	78	260	98	2

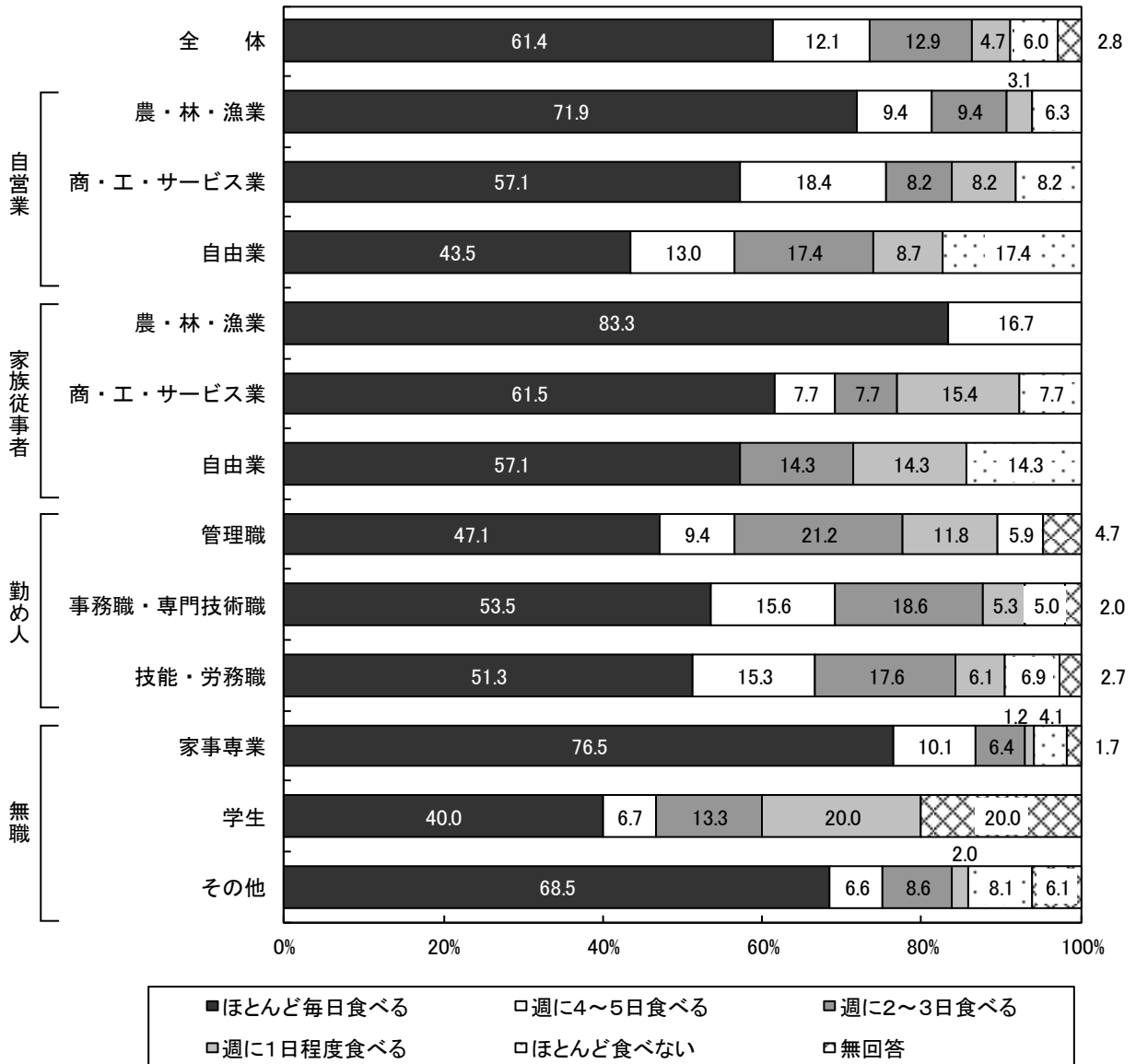
(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 3.9-5 家族と夕食を食べる回数（職業別）



全体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,369	32	49	23	6	26	7

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
85	301	261	345	15	197	22

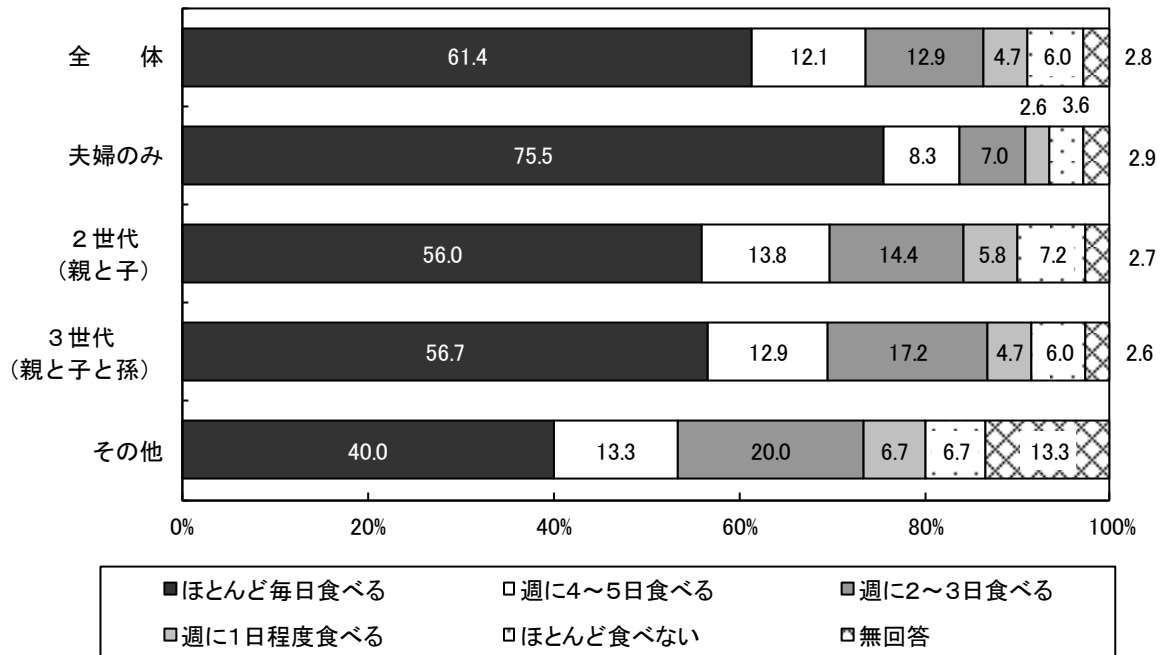
(人)

※無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「ほとんど毎日食べる」と回答した人の割合は、夫婦のみ（75.5%）で7割を超え、最も高くなっている。

図 3.9-6 家族と夕食を食べる回数（家族構成別）



全 体	単 身	夫婦のみ	2世代 (親と子)	3世代 (親と子と孫)	その他	無回答
1,369	0	384	737	233	15	0

(人)

※無回答者のグラフは省略した。

(10) この1週間で朝食または夕食を家族と食べた回数

問18 家族と一緒に食べる頻度について伺います。

ウ) この1週間で朝食及び夕食を家族と一緒に食べた回数は何回ですか。

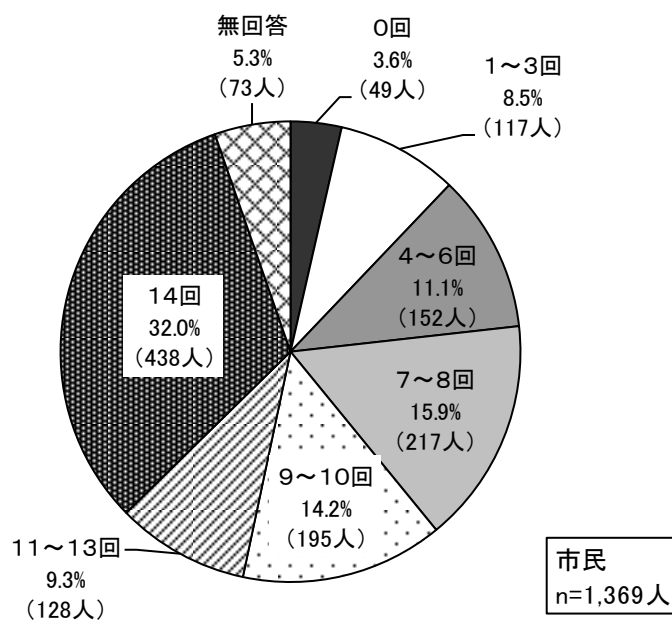
3割強が「14回」家族と食事をしたと回答

【全体結果】

この1週間で家族と一緒に朝食または夕食を食べた回数が「14回（毎回）」(32.0%)と回答した人が最も多く、次いで「7～8回」(15.9%)、「9～10回」(14.2%)、「4～6回」(11.1%)と続いている。

一方、「0回」(3.6%)、「1～3回」(8.5%)と回答した、家族と食べた回数が少ない人は1割強(12.1%)となっている。

図 3.10-1 この1週間で朝食または夕食を家族と食べた回数



【性別・年齢別】

20歳代と50歳代では「4～6回」と回答した人が最も多く、その他の年齢層では「14回」と回答した人が最も多くなっている。

また、性別で見ると、「14回」の割合は20歳代と70歳以上では男性の方が女性より高くなっている。

図 3.10-2 この1週間で朝食または夕食を家族と食べた回数（年齢別）

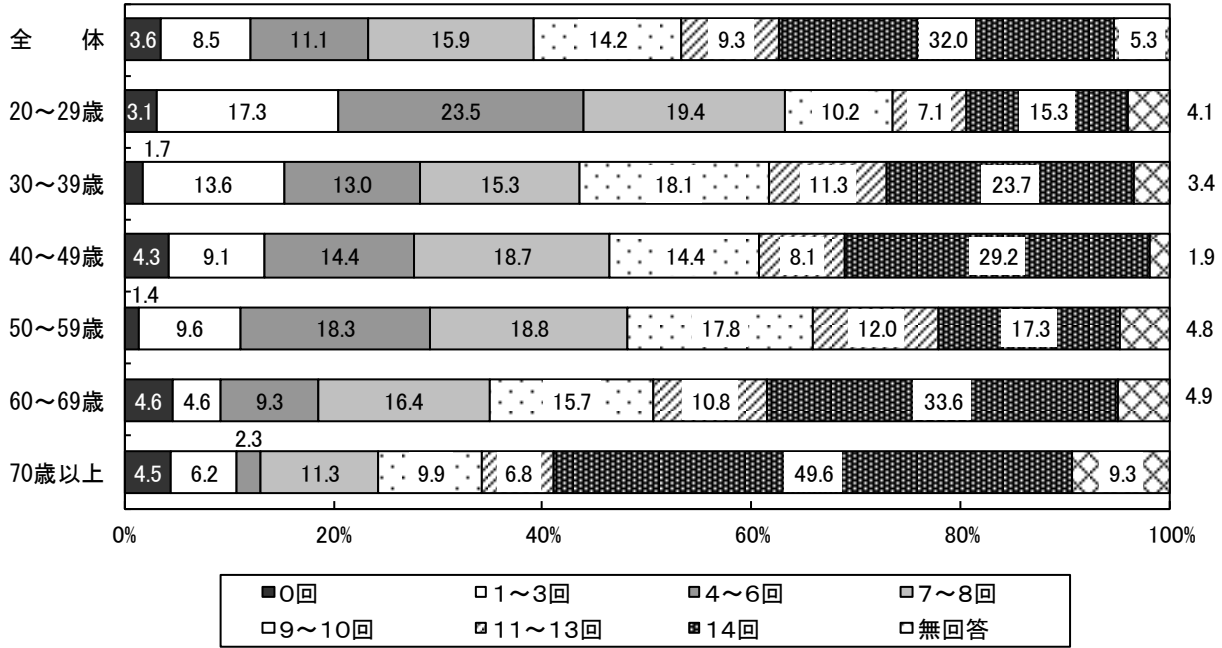
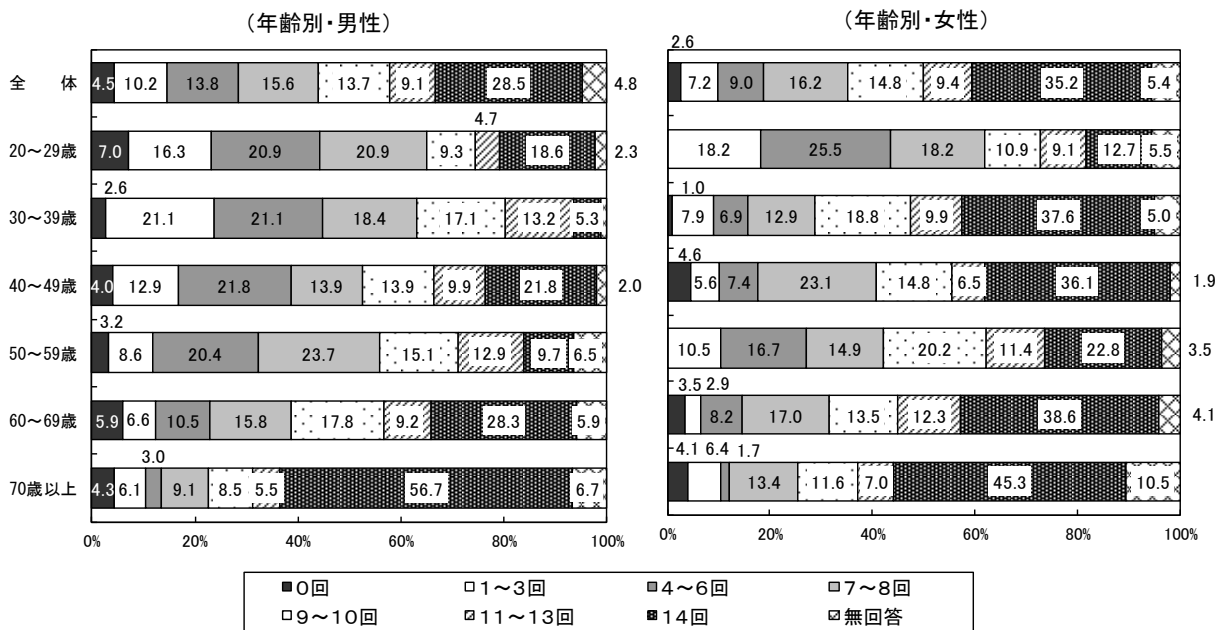


図 3.10-3 この1週間で朝食または夕食を家族と食べた回数



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,369	98	177	209	208	324	353	0
男性	629	43	76	101	93	152	164	0
女性	721	55	101	108	114	171	172	0

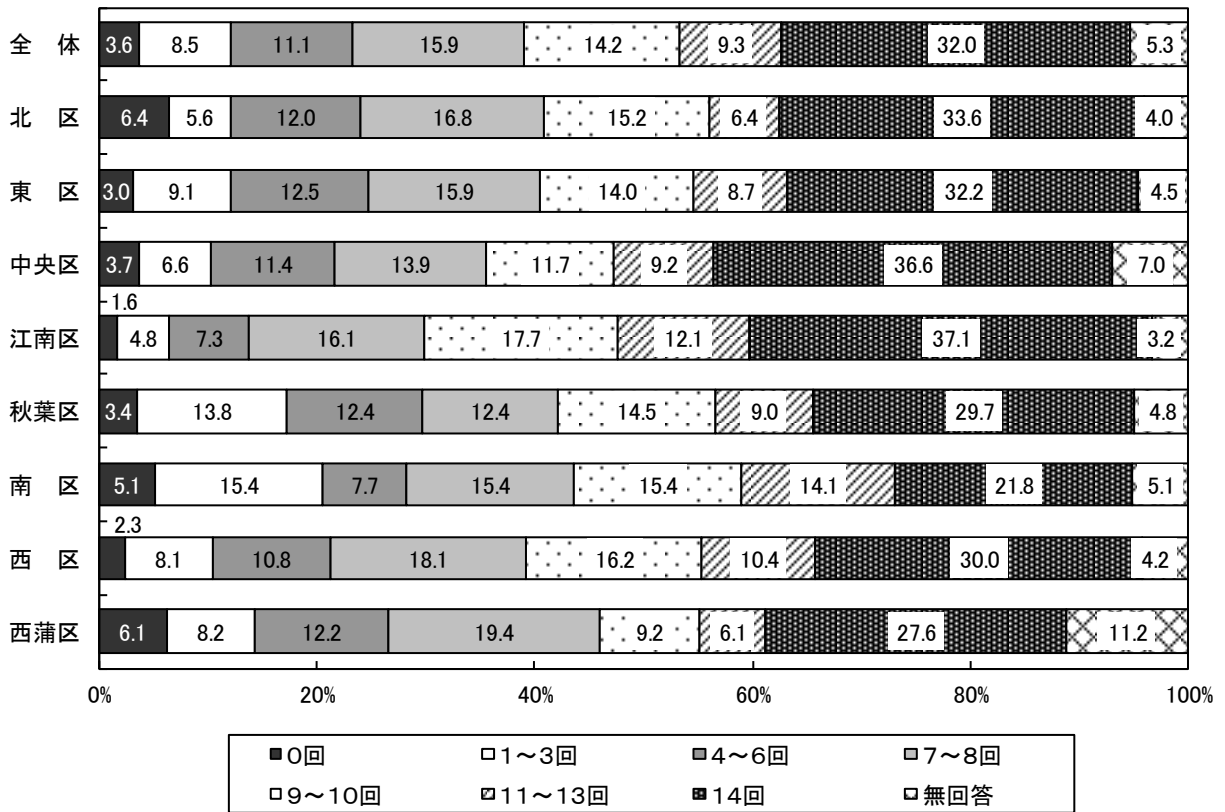
(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

各地区とも、「14回」と回答した人が最も多くなっている。

図 3.10-4 この1週間で朝食または夕食を家族と食べた回数（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,369	125	264	273	124	145	78	260	98	2

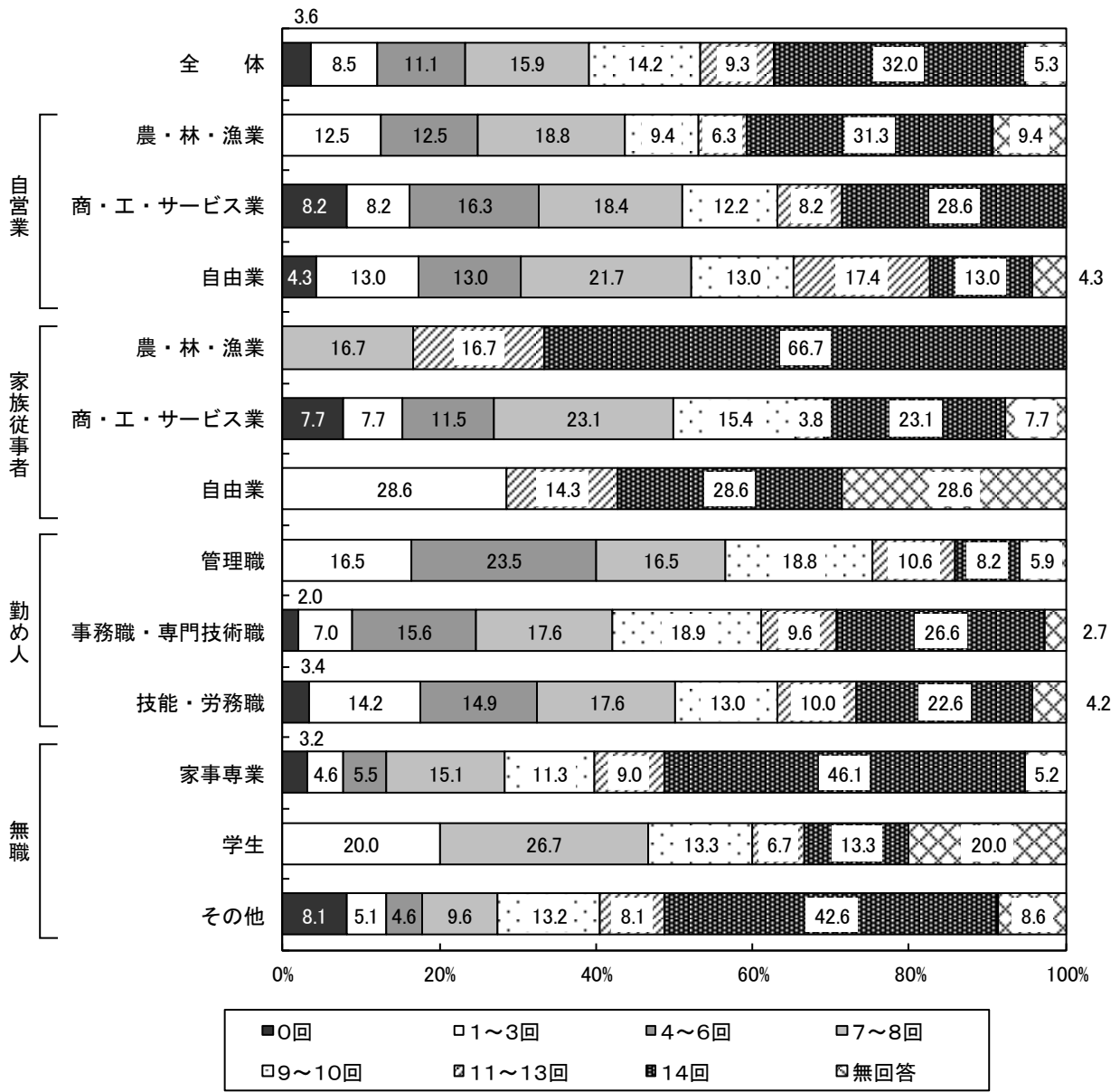
(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 3.10-5 この1週間で朝食または夕食を家族と食べた回数（職業別）



全体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,369	32	49	23	6	26	7

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
85	301	261	345	15	197	22

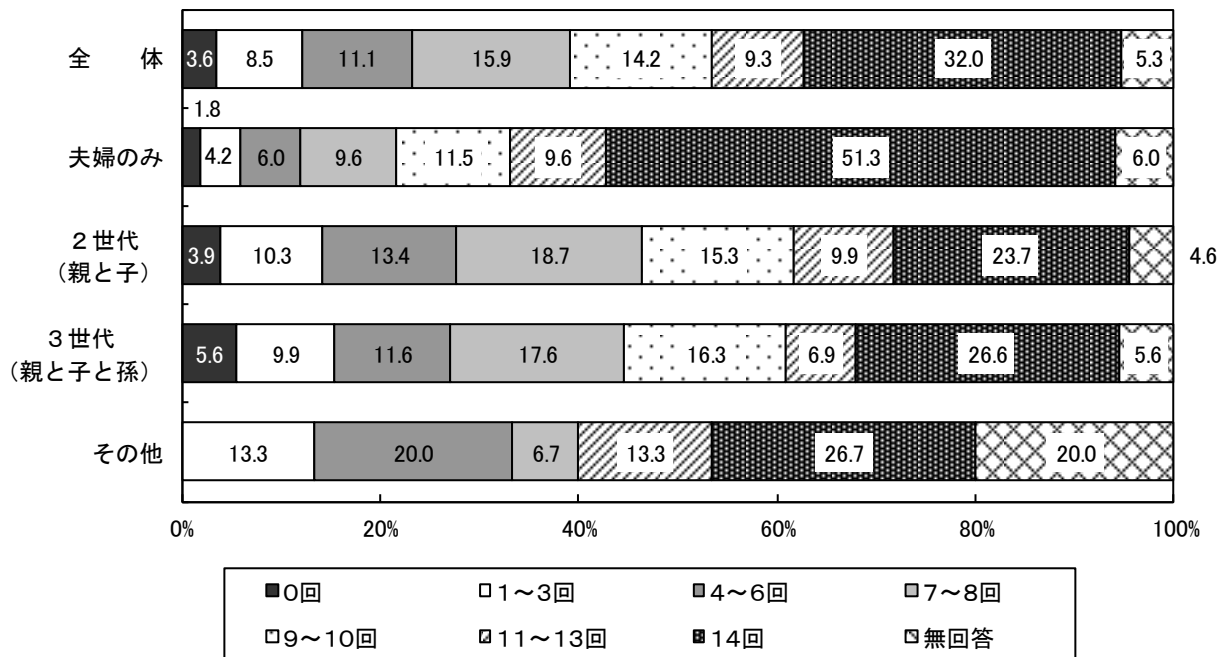
(人)

※無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「14回」と回答した人の割合は、夫婦のみ（51.3%）で最も高く、5割を超えている。

図 3.10-6 この1週間で朝食または夕食を家族と食べた回数（家族構成別）



全 体	単 身	夫婦のみ	2世代 (親と子)	3世代 (親と子と孫)	その他	無回答
1,369	0	384	737	233	15	0

(人)

※無回答者のグラフは省略した。

(11) 家族と食事を一緒に食べることの良い点

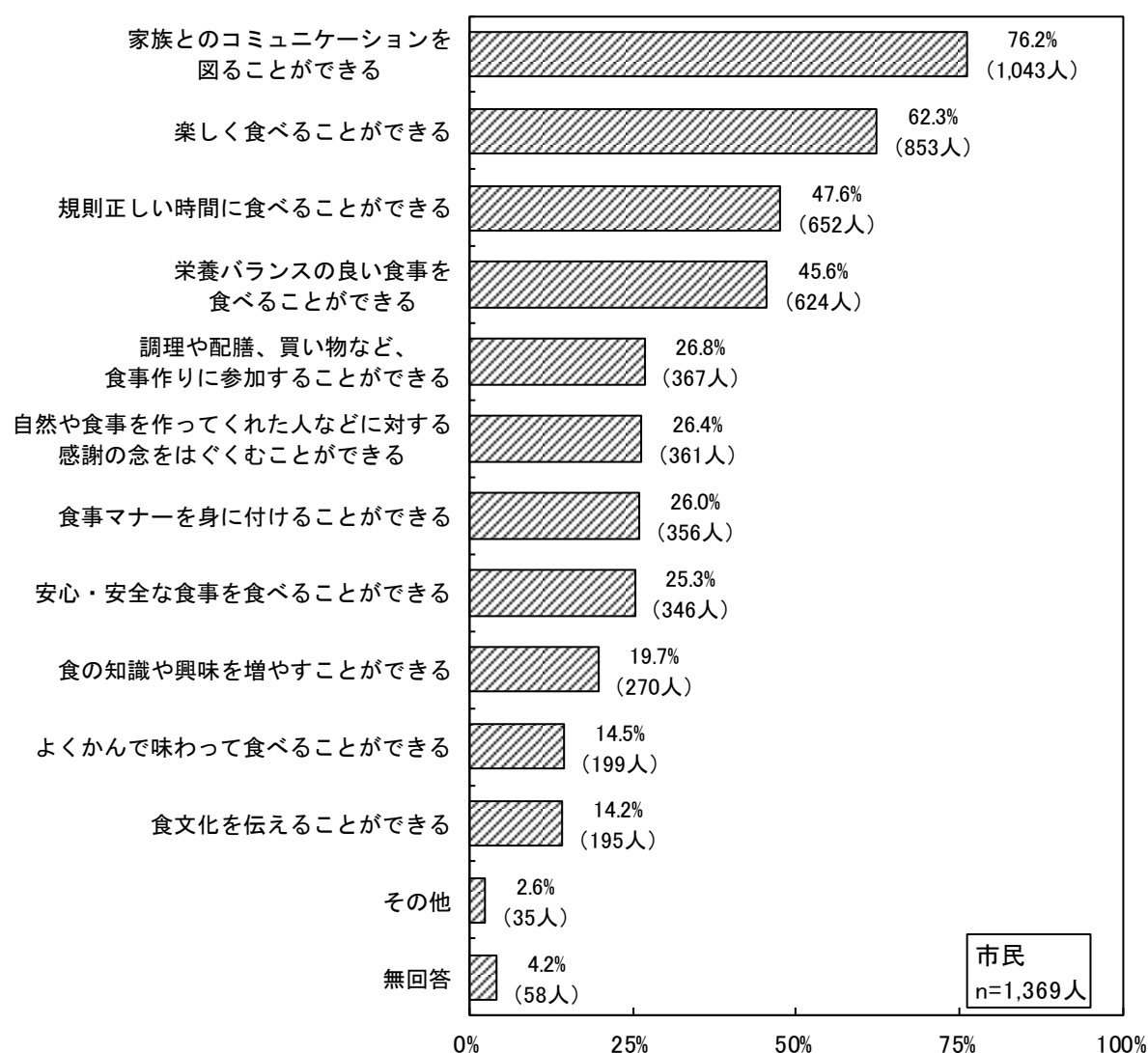
問19 食事を家族と一緒に食べることは、一人で食べるよりどのような良い点があると思いますか。
(〇はいくつでも)

8割弱が「家族とのコミュニケーションを図ることができる」と回答

【全体結果】

家族と食事を一緒にすることの良い点は、「家族とのコミュニケーションを図ることができる」(76.2%)をあげる人が最も多くなっている。以下「楽しく食べることができる」(62.3%)、「規則正しい時間に食べることができる」(47.6%)、「栄養バランスの良い食事を食べることができる」(45.6%)と続いている。

図 3.11 家族と食事を一緒に食べることの良い点



【性別・年齢別】

各年代とも、「家族とのコミュニケーションを図ることができる」「楽しく食べることができる」の割合が高くなっている。60歳以上では「規則正しい時間に食べることができる」の割合も高くなっている。

表 3.1 家族と食事を一緒に食べることの良い点（年齢別・全体）

	対象者	家族とのコミュニケーションを図ることができる	楽しく食べることができる	規則正しい時間に食べることができる	栄養バランスの良い食事を食べることができる	調理や配膳、買い物など、食事作りに参加することができる	自然や食事を作ってくれた人などに対する感謝の念をはぐくむことができる	食事マナーを身に付けることができる	安心・安全な食事を食べることができる	食の知識や興味を増やすことができる	よく噛んで味わって食べることができる	食文化を伝えることができる	その他	無回答
計	1369	76.2	62.3	47.6	45.6	26.8	26.4	26.0	25.3	19.7	14.5	14.2	2.6	4.2
20～29歳	98	76.5	62.2	41.8	40.8	21.4	20.4	19.4	19.4	10.2	13.3	4.1	1.0	3.1
30～39歳	177	81.9	68.4	40.7	39.5	33.9	31.6	46.9	12.4	23.7	10.2	15.3	2.3	2.3
40～49歳	209	86.6	67.9	37.3	37.3	28.7	25.4	40.7	14.8	20.1	8.1	17.7	2.9	2.4
50～59歳	208	84.6	62.5	37.5	44.2	22.6	24.0	23.1	15.4	20.2	11.5	17.8	1.9	3.4
60～69歳	324	75.6	61.4	54.3	54.3	25.9	22.5	17.3	28.7	15.7	13.6	11.1	2.8	4.0
70歳以上	353	62.6	56.7	58.6	47.6	26.9	30.9	18.4	42.2	23.5	23.5	15.3	3.1	7.4
年齢不明	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

対象者：人/回答：%

表 3.2 家族と食事を一緒に食べることの良い点（年齢別・男性）

	対象者	家族とのコミュニケーションを図ることができる	楽しく食べることができる	規則正しい時間に食べることができる	栄養バランスの良い食事を食べることができる	調理や配膳、買い物など、食事作りに参加することができる	自然や食事を作ってくれた人などに対する感謝の念をはぐくむことができる	食事マナーを身に付けることができる	安心・安全な食事を食べることができる	食の知識や興味を増やすことができる	よく噛んで味わって食べることができる	食文化を伝えることができる	その他	無回答
計	629	75.2	60.9	49.0	42.4	23.2	28.6	22.6	25.8	16.2	13.0	12.1	3.0	4.3
20～29歳	43	65.1	55.8	53.5	51.2	9.3	18.6	16.3	25.6	9.3	14.0	2.3	0.0	0.0
30～39歳	76	80.3	67.1	47.4	26.3	32.9	27.6	42.1	10.5	13.2	9.2	13.2	2.6	1.3
40～49歳	101	84.2	64.4	40.6	38.6	25.7	21.8	33.7	16.8	15.8	5.0	13.9	2.0	4.0
50～59歳	93	84.9	60.2	32.3	38.7	16.1	26.9	15.1	15.1	16.1	8.6	12.9	2.2	3.2
60～69歳	152	73.0	63.2	46.7	45.4	19.1	25.7	15.8	23.7	9.2	9.2	9.2	3.9	5.9
70歳以上	164	66.5	55.5	65.2	49.4	28.7	39.6	18.9	46.3	26.2	25.6	15.2	4.3	6.1
年齢不明	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

対象者：人/回答：%

表 3.3 家族と食事を一緒に食べることの良い点（年齢別・女性）

	対象者	家族とのコミュニケーションを図ることができる	楽しく食べることができる	規則正しい時間に食べることができる	栄養バランスの良い食事を食べることができる	調理や配膳、買い物など、食事作りに参加することができる	自然や食事を作ってくれた人などに対する感謝の念をはぐくむことができる	食事マナーを身に付けることができる	安心・安全な食事を食べることができる	食の知識や興味を増やすことができる	よく噛んで味わって食べることができる	食文化を伝えることができる	その他	無回答
計	721	77.7	64.2	46.5	48.3	30.0	24.7	29.3	24.5	22.9	15.8	16.1	2.2	3.9
20～29歳	55	85.5	67.3	32.7	32.7	30.9	21.8	21.8	14.5	10.9	12.7	5.5	1.8	5.5
30～39歳	101	83.2	69.3	35.6	49.5	34.7	34.7	50.5	13.9	31.7	10.9	16.8	2.0	3.0
40～49歳	108	88.9	71.3	34.3	36.1	31.5	28.7	47.2	13.0	24.1	11.1	21.3	3.7	0.9
50～59歳	114	84.2	64.9	41.2	48.2	28.1	21.9	28.9	15.8	23.7	14.0	21.9	1.8	3.5
60～69歳	171	77.8	60.2	60.8	62.0	32.2	19.9	18.7	33.3	21.6	17.5	12.9	1.8	2.3
70歳以上	172	60.5	59.3	54.1	46.5	25.0	23.8	18.6	38.4	21.5	22.1	15.1	2.3	7.6
年齢不明	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

対象者：人/回答：%

(12) 家族との食事に対する意識

問20 家族との食事について伺います。(項目毎に○は1つだけ)

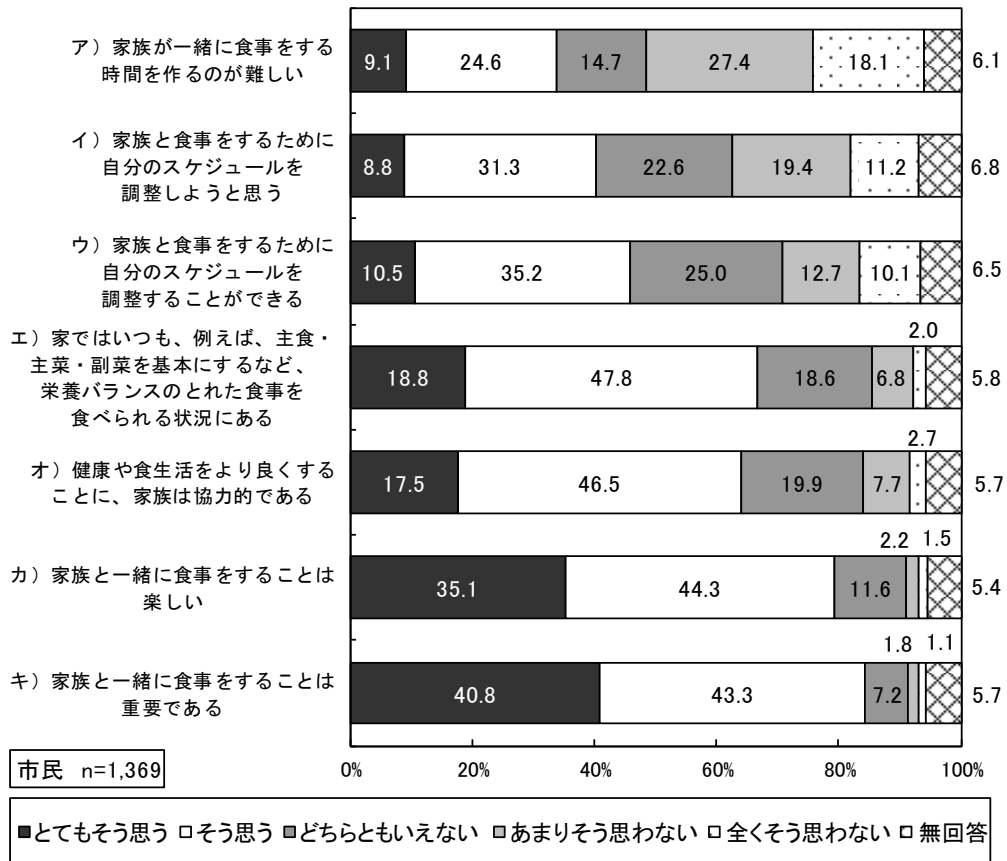
8割強が「家族と一緒に食事をすることは重要である」、
8割弱が「家族と一緒に食事をすることは楽しい」と回答

【全体結果】

「とてもそう思う」「そう思う」と回答した人を合わせた割合は、『キ) 家族と一緒に食事をするこは重要である』の項目で8割強 (84.1%)、『カ) 家族と一緒に食事をするこは楽しい』の項目で8割弱 (79.3%) と高くなっている。

一方、「あまりそう思わない」「全くそう思わない」と回答した人を合わせた割合は、『ア) 家族が一緒に食事をする時間を作るのが難しい』の項目が半数弱 (45.5%) と高くなっている。

図 3.12-1 家族との食事に対する意識



	全体	とても そう 思う	そう 思 う	ど ち ら と も い え な い	あ ま り そ う 思 わ な い	全 く そ う 思 わ な い	無 回 答
ア) 家族が一緒に食事をする時間を作るのが難しい	1,369	125	337	201	375	248	83
イ) 家族と食事をするために自分のスケジュールを調整しようと思う	1,369	120	428	309	265	154	93
ウ) 家族と食事をするために自分のスケジュールを調整することができる	1,369	144	482	342	174	138	89
エ) 家ではいつも、例えば、主食・主菜・副菜を基本にするなど、栄養バランスのとれた食事を食べられる状況にある	1,369	258	655	255	93	28	80
オ) 健康や食生活をより良くすることに、家族は協力的である	1,369	240	637	272	105	37	78
カ) 家族と一緒に食事をするこは楽しい	1,369	480	606	159	30	20	74
キ) 家族と一緒に食事をするこは重要である	1,369	559	593	99	25	15	78

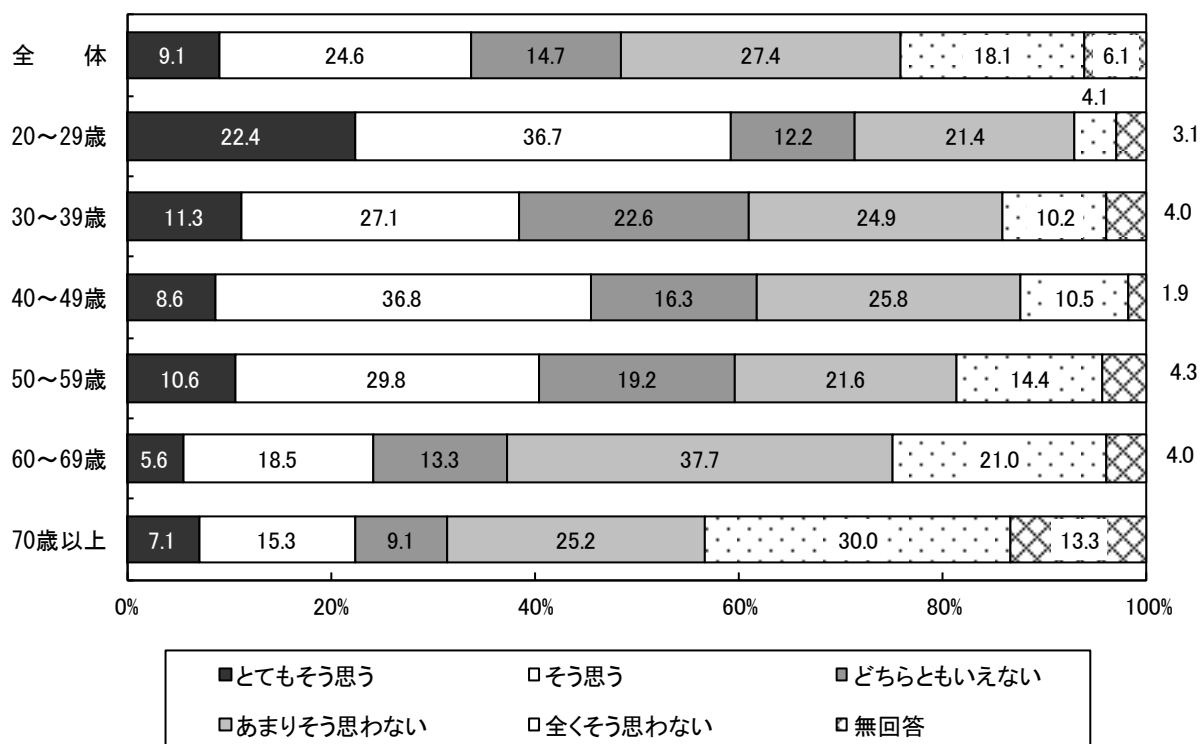
(人)

ア) 家族と一緒に食事をする時間を作るのが難しい

【年齢別】

「とてもそう思う」「そう思う」と回答した人の割合は、20歳代(59.2%)で最も高く、70歳以上(22.4%)で最も低くなっている。

図 3.12-2 家族との食事に対する意識〔家族と一緒に食事をする時間を作るのが難しい〕
(年齢別・全体)



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全 体	1,369	98	177	209	208	324	353	0
男 性	629	43	76	101	93	152	164	0
女 性	721	55	101	108	114	171	172	0

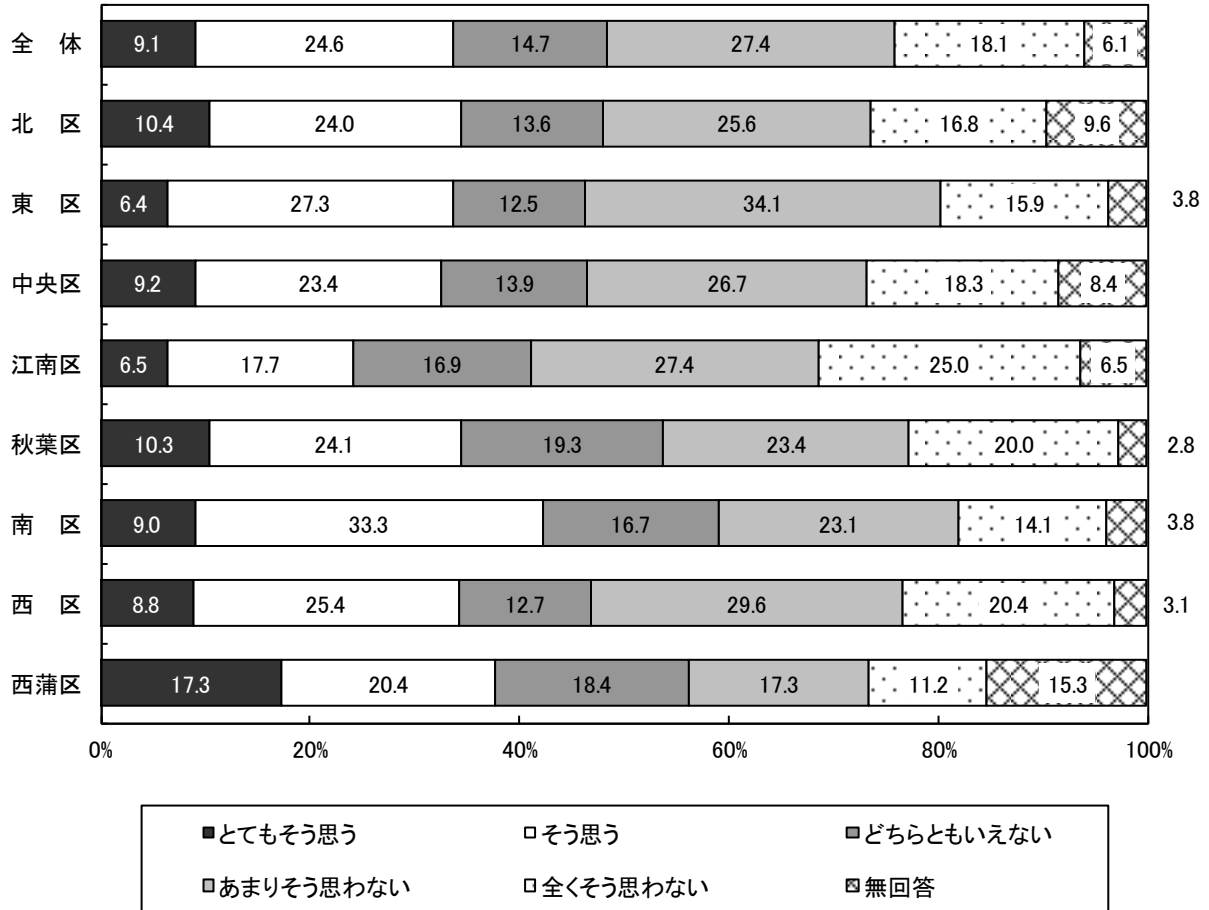
(人)

※年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「とてもそう思う」「そう思う」と回答した人の割合は、南区（42.3%）で最も高く、江南区（24.2%）で最も低くなっている。

図 3.12-3 家族との食事に対する意識〔家族と一緒に食事をする時間を作るのが難しい〕（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,369	125	264	273	124	145	78	260	98	2

(人)

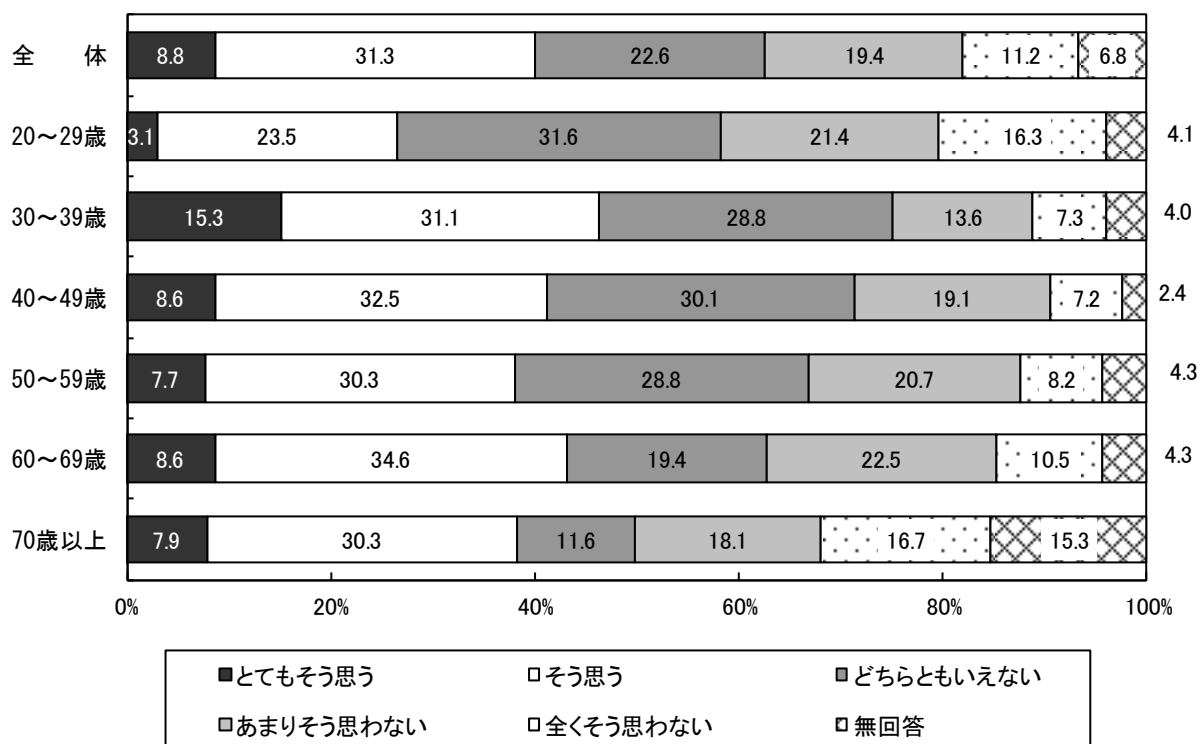
※地区不明者のグラフは省略した。

イ) 家族と食事をするために自分のスケジュールを調整しようと思う

【年齢別】

「とてもそう思う」「そう思う」と回答した人の割合は、30歳代(46.3%)で最も高く、20歳代(26.5%)で最も低くなっている。

図 3.12-4 家族との食事に対する意識
〔家族と食事をするために自分のスケジュールを調整しようと思う〕(年齢別・全体)



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,369	98	177	209	208	324	353	0
男性	629	43	76	101	93	152	164	0
女性	721	55	101	108	114	171	172	0

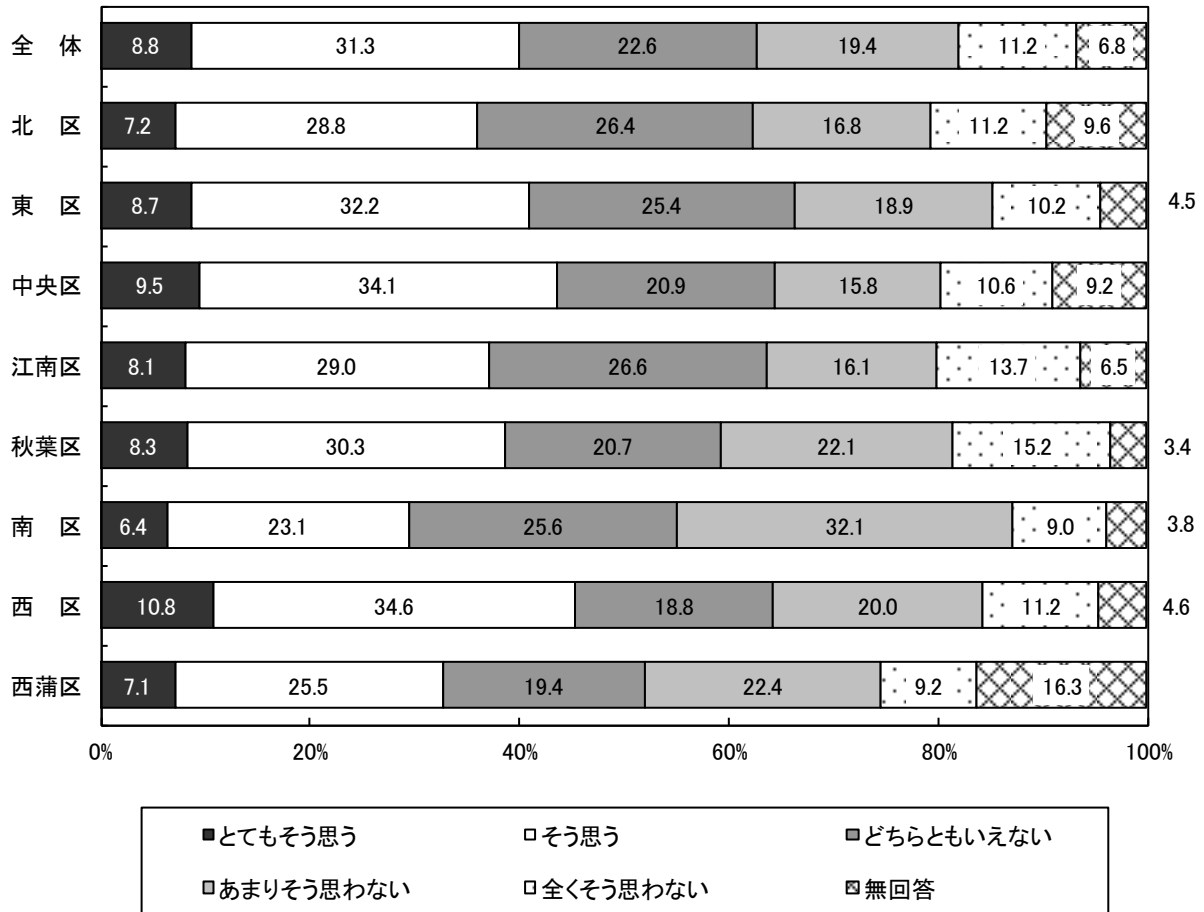
(人)

※年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「とてもそう思う」「そう思う」と回答した人の割合は、西区（45.4%）で最も高く、西蒲区（32.7%）で最も低くなっている。

図 3.12-5 家族との食事に対する意識
〔家族と食事をするために自分のスケジュールを調整しようと思う〕（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,369	125	264	273	124	145	78	260	98	2

(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

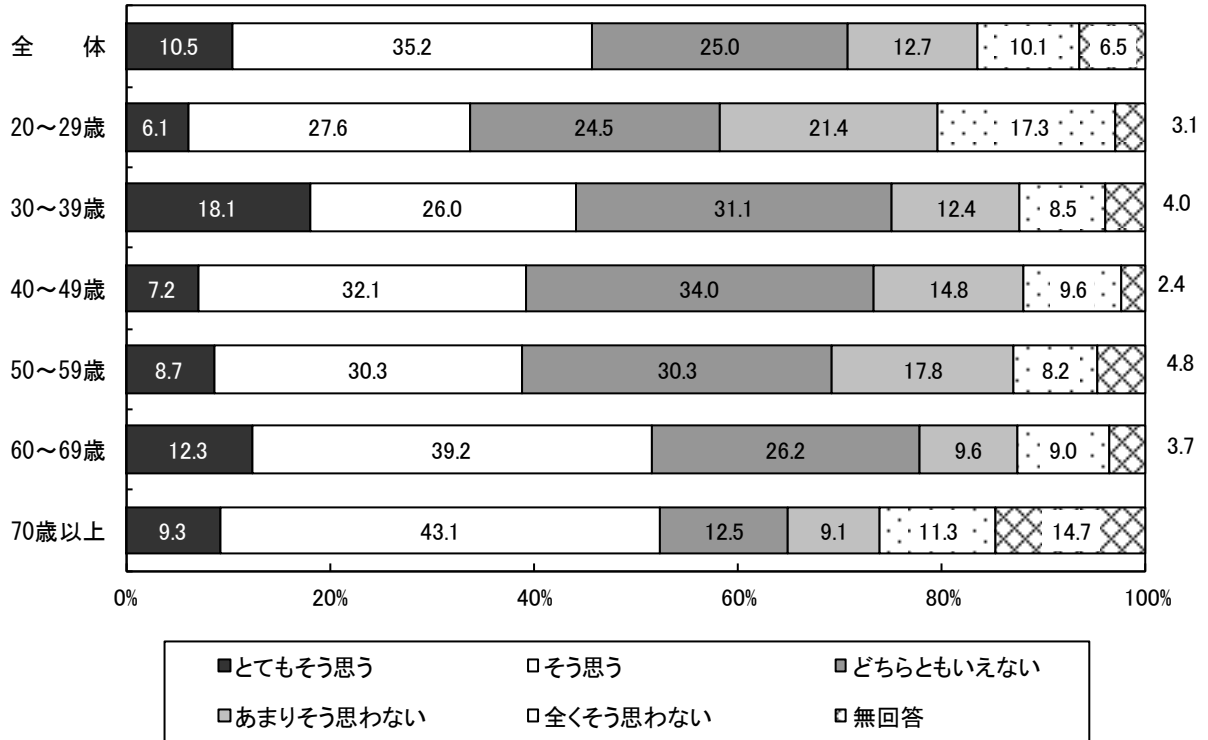
ウ) 家族と食事をするために自分のスケジュールを調整することができる

【年齢別】

「とてもそう思う」「そう思う」と回答した人の割合は、70歳以上(52.4%)で最も高く、20歳代(33.7%)で最も低くなっている。

図 3.12-6 家族との食事に対する意識

〔家族と食事をするために自分のスケジュールを調整することができる〕(年齢別・全体)



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,369	98	177	209	208	324	353	0
男性	629	43	76	101	93	152	164	0
女性	721	55	101	108	114	171	172	0

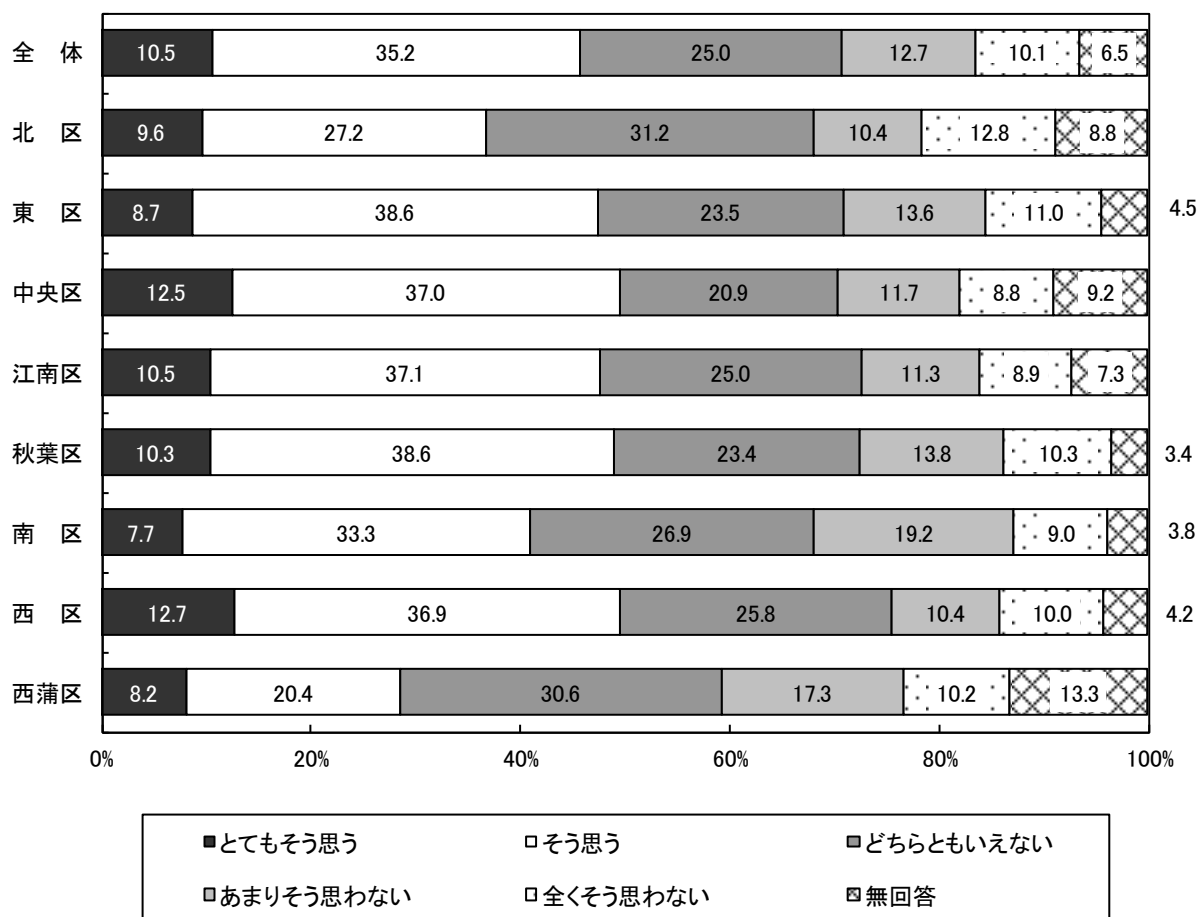
(人)

※年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「とてもそう思う」「そう思う」と回答した人の割合は、西区（49.6%）と中央区（49.5%）で高く、西蒲区（28.6%）で最も低くなっている。

図 3.12-7 家族との食事に対する意識
〔家族と食事をするために自分のスケジュールを調整することができる〕（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,369	125	264	273	124	145	78	260	98	2

(人)

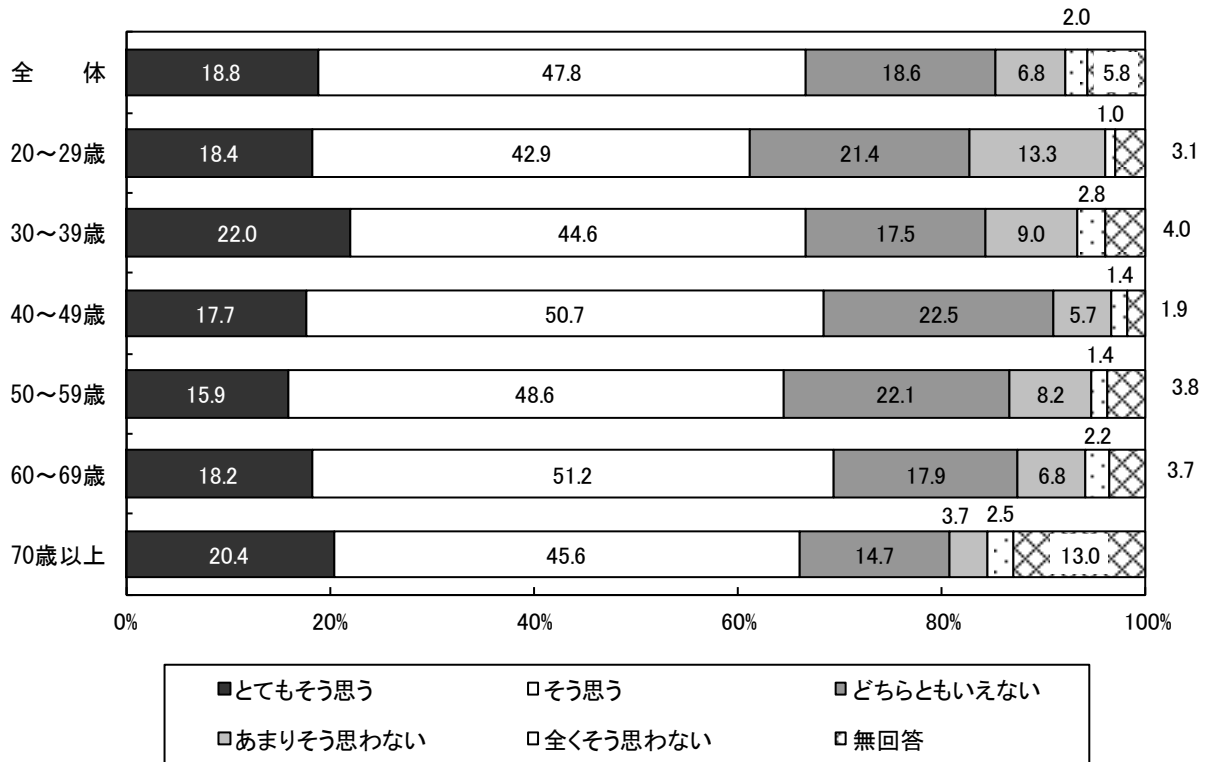
※地区不明者のグラフは省略した。

エ) 家ではいつも、例えば、主食・主菜・副菜を基本にするなど、栄養バランスのとれた食事を食べられる状況にある

【年齢別】

「とてもそう思う」「そう思う」と回答した人の割合は、60歳代(69.4%)で最も高く、20歳代(61.2%)で最も低くなっている。

図 3.12-8 家族との食事に対する意識
 [家ではいつも、例えば、主食・主菜・副菜を基本にするなど、
 栄養バランスのとれた食事を食べられる状況にある] (年齢別・全体)



	計	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,369	98	177	209	208	324	353	0
男性	629	43	76	101	93	152	164	0
女性	721	55	101	108	114	171	172	0

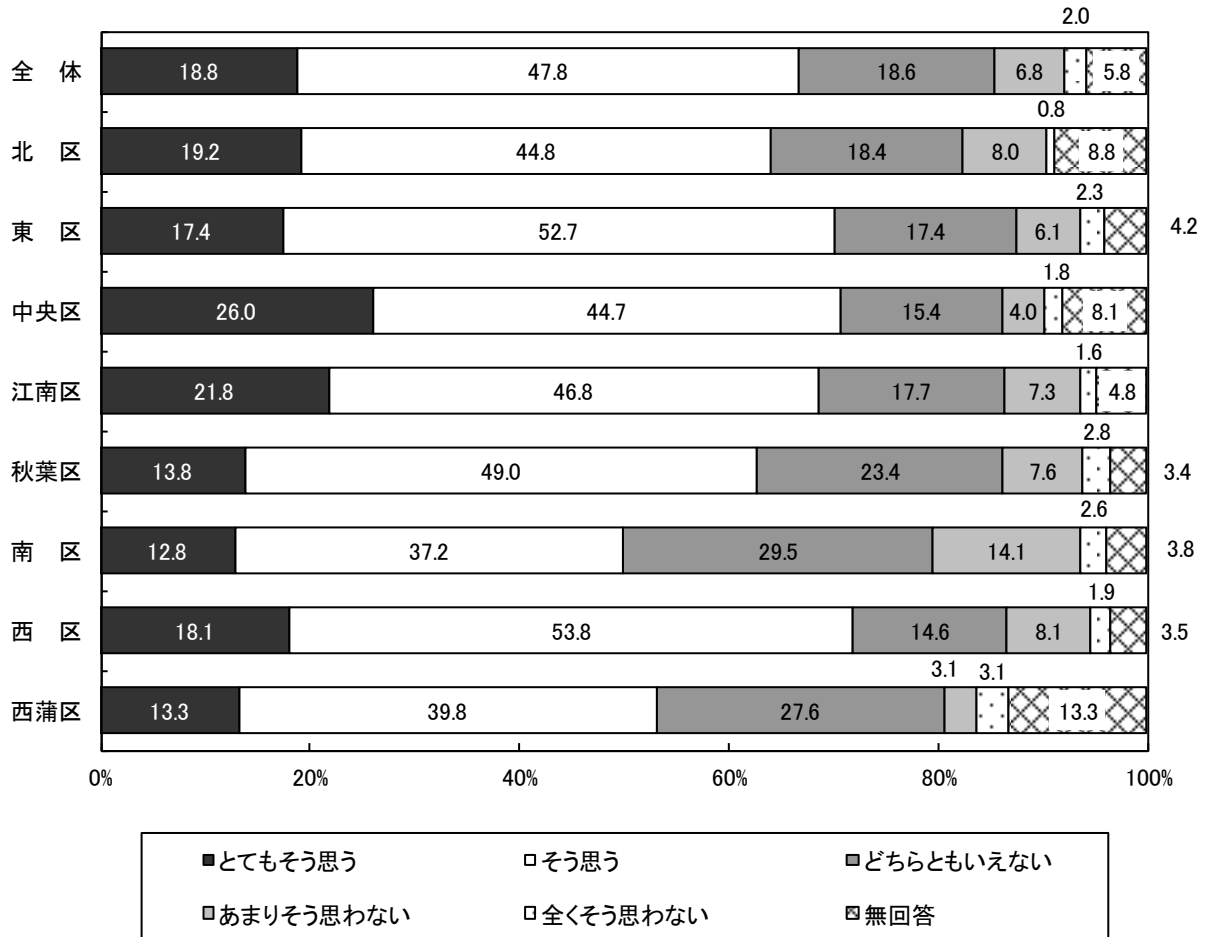
(人)

※年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「とてもそう思う」「そう思う」と回答した人の割合は、西区（71.9%）で最も高く、南区（50.0%）で最も低くなっている。

図 3.12-9 家族との食事に対する意識
 [家ではいつも、例えば、主食・主菜・副菜を基本にするなど、
 栄養バランスのとれた食事を食べられる状況にある]（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,369	125	264	273	124	145	78	260	98	2

(人)

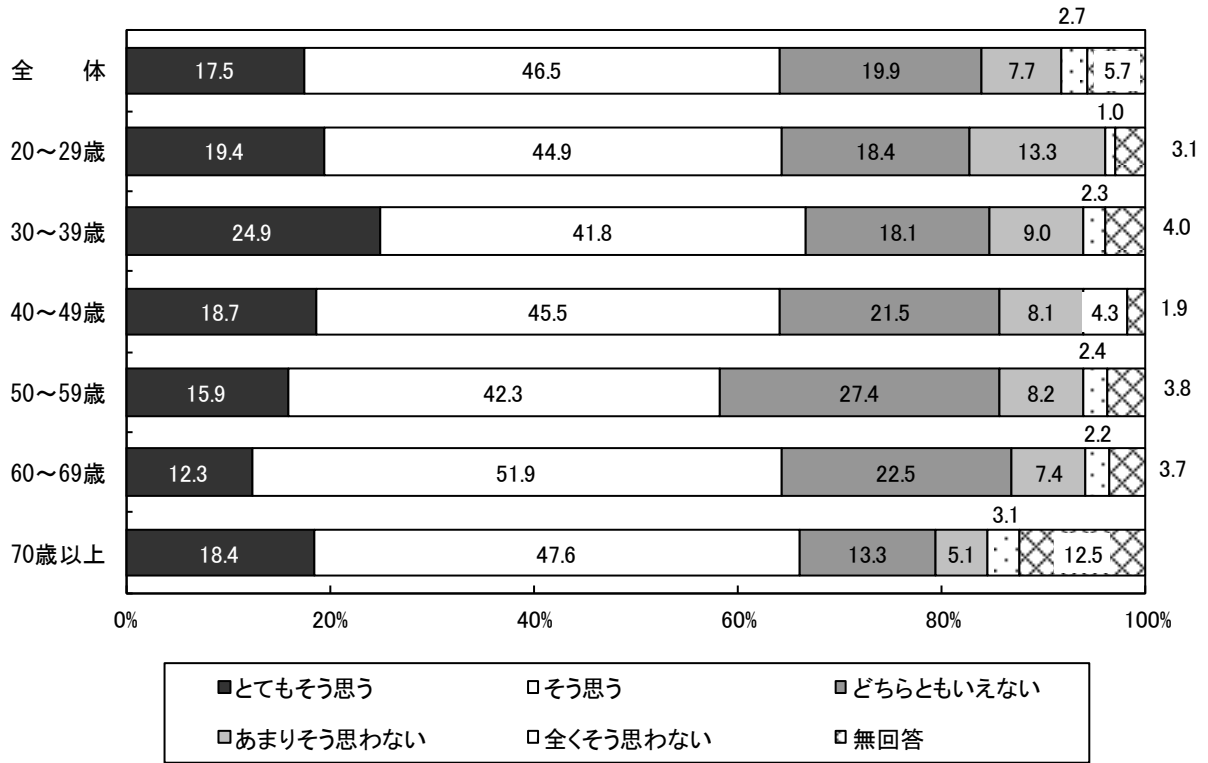
※地区不明者のグラフは省略した。

オ) 健康や食生活をより良くすることに、家族は協力的である

【年齢別】

「とてもそう思う」「そう思う」と回答した人の割合は、30歳代(66.7%)で最も高く、50歳代(58.2%)で最も低くなっている。

図 3.12-10 家族との食事に対する意識〔健康や食生活をより良くすることに、家族は協力的である〕
(年齢別・全体)



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,369	98	177	209	208	324	353	0
男性	629	43	76	101	93	152	164	0
女性	721	55	101	108	114	171	172	0

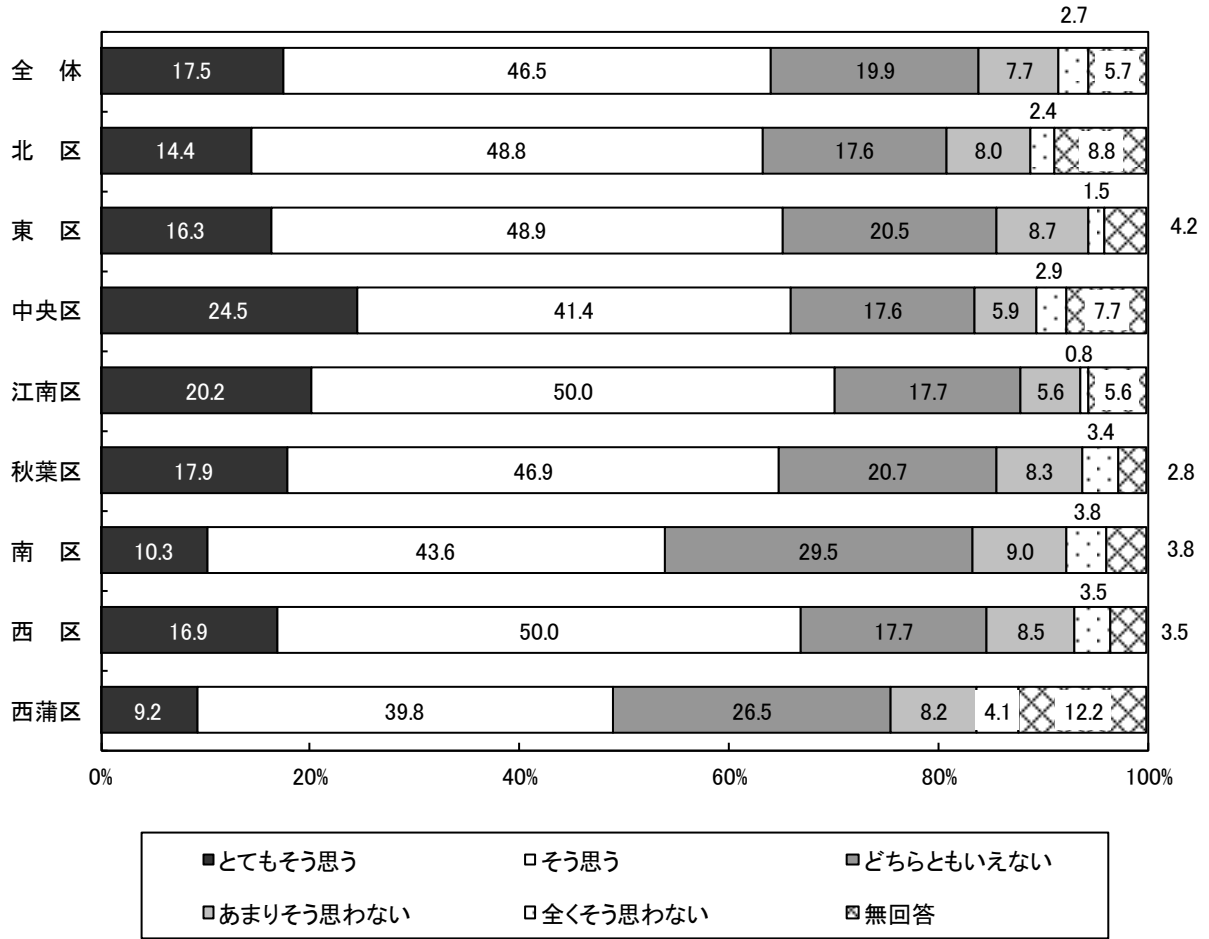
(人)

※年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「とてもそう思う」「そう思う」と回答した人の割合は、江南区(70.2%)で最も高く、西蒲区(49.0%)で最も低くなっている。

図 3.12-11 家族との食事に対する意識〔健康や食生活をより良くすることに、家族は協力的である〕
(地区別)



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,369	125	264	273	124	145	78	260	98	2

(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

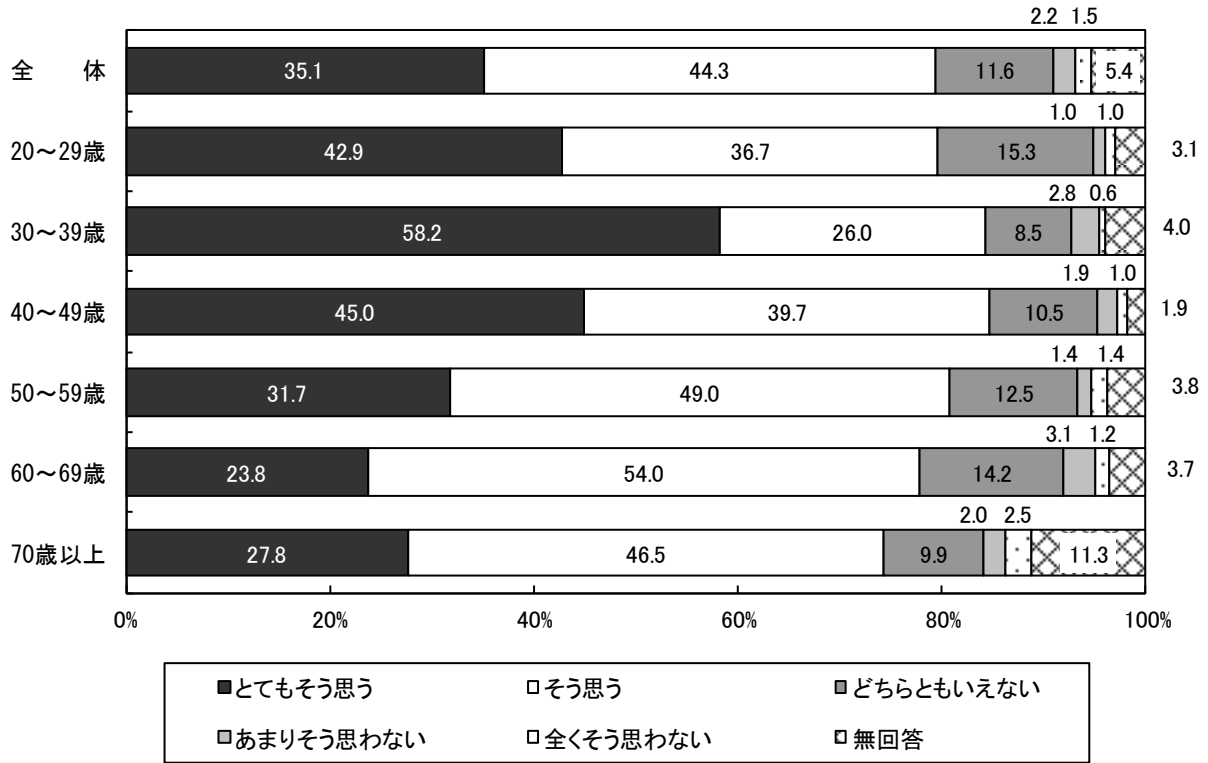
カ) 家族と一緒に食事をするのは楽しい

【年齢別】

「とてもそう思う」「そう思う」と回答した人の割合は、40歳代(84.7%)で最も高く、70歳以上(74.2%)で最も低くなっている。

図3.12-12 家族との食事に対する意識〔家族と一緒に食事をするのは楽しい〕

(年齢別・全体)



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,369	98	177	209	208	324	353	0
男性	629	43	76	101	93	152	164	0
女性	721	55	101	108	114	171	172	0

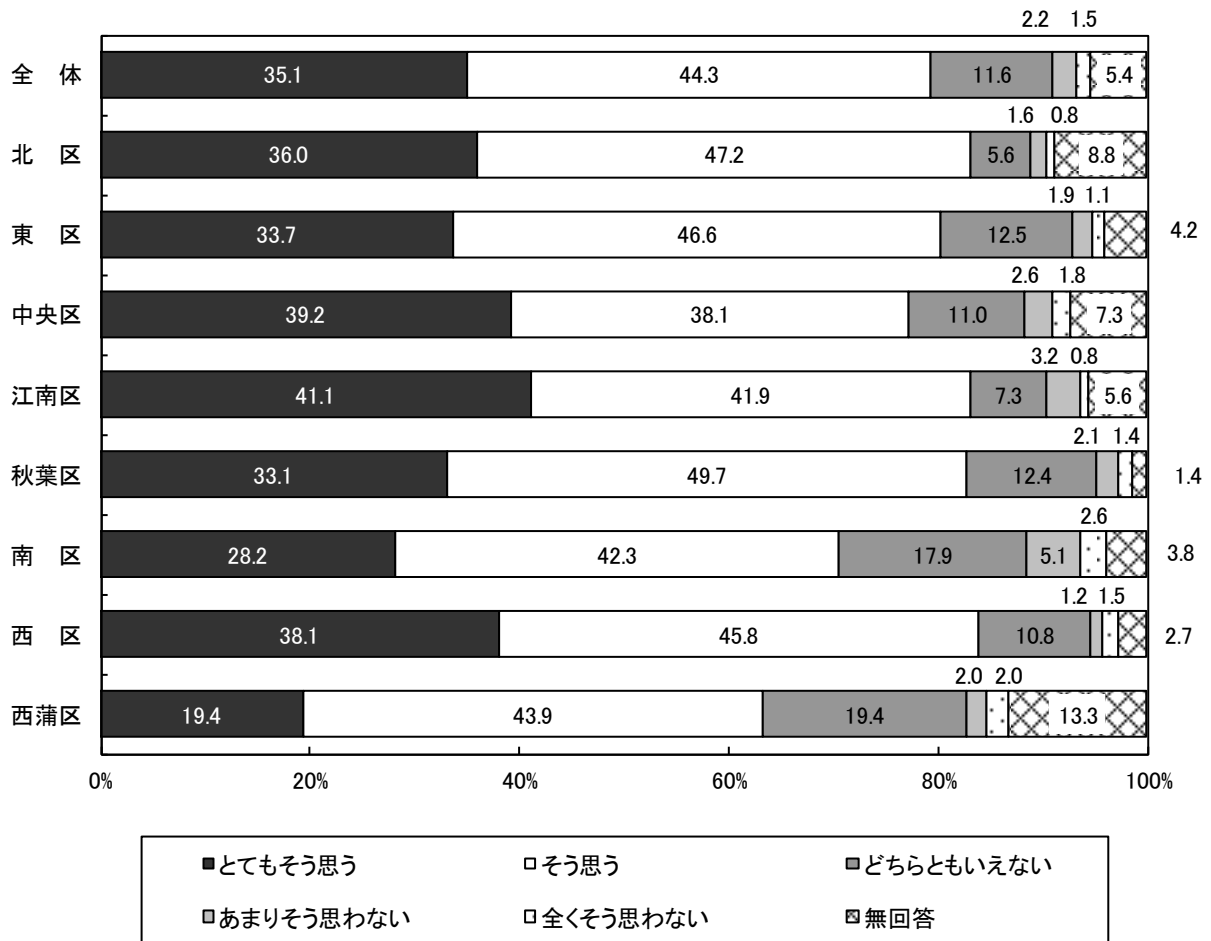
(人)

※年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「とてもそう思う」「そう思う」と回答した人の割合は、西区（83.8%）で最も高く、南区（70.5%）で最も低くなっている。

図 3.12-13 家族との食事に対する意識〔家族と一緒に食事をするのは楽しい〕（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,369	125	264	273	124	145	78	260	98	2

(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

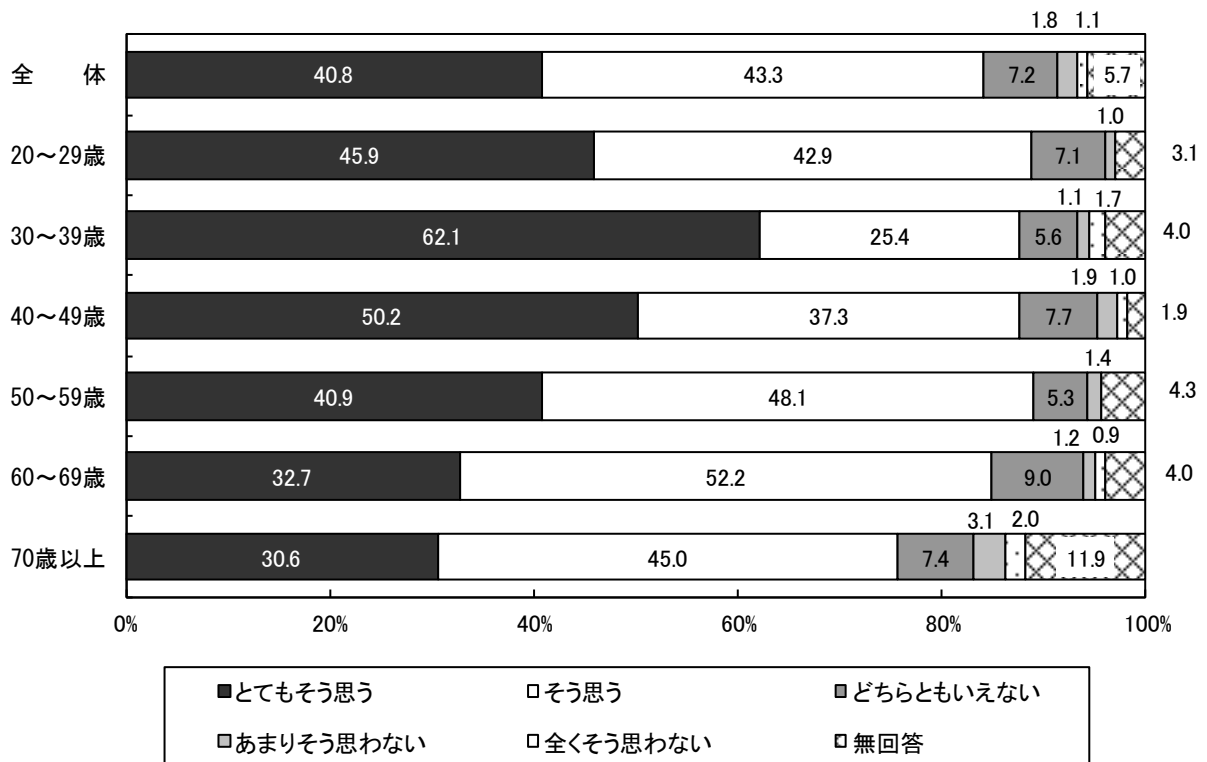
キ) 家族と一緒に食事をすることは重要である

【年齢別】

「とてもそう思う」「そう思う」と回答した人の割合は、50歳代（88.9%）と20歳代（88.8%）が高く、70歳以上（75.6%）で最も低くなっている。

図 3.12-14 家族との食事に対する意識〔家族と一緒に食事をすることは重要である〕

(年齢別・全体)



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,369	98	177	209	208	324	353	0
男性	629	43	76	101	93	152	164	0
女性	721	55	101	108	114	171	172	0

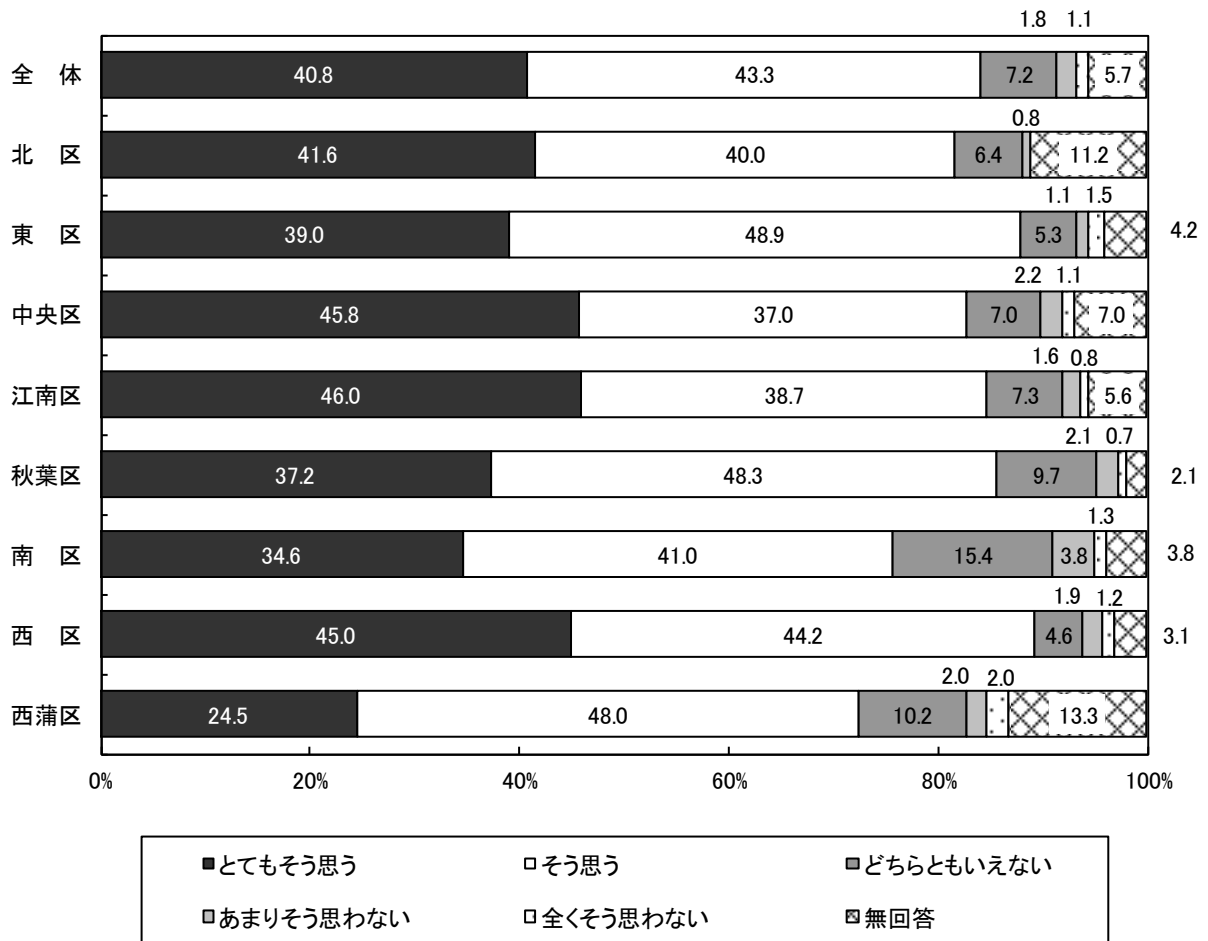
(人)

※年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「とてもそう思う」「そう思う」と回答した人の割合は、西区（89.2%）で最も高く、西蒲区（72.4%）で最も低くなっている。

図 3.12-15 家族との食事に対する意識〔家族と一緒に食事をすることは重要である〕（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,369	125	264	273	124	145	78	260	98	2

(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

(13) ゆっくりよく噛んで味わって食べる頻度

問21 あなたは、ふだんゆっくりよくかんで味わって食べていますか。(〇は1つだけ)

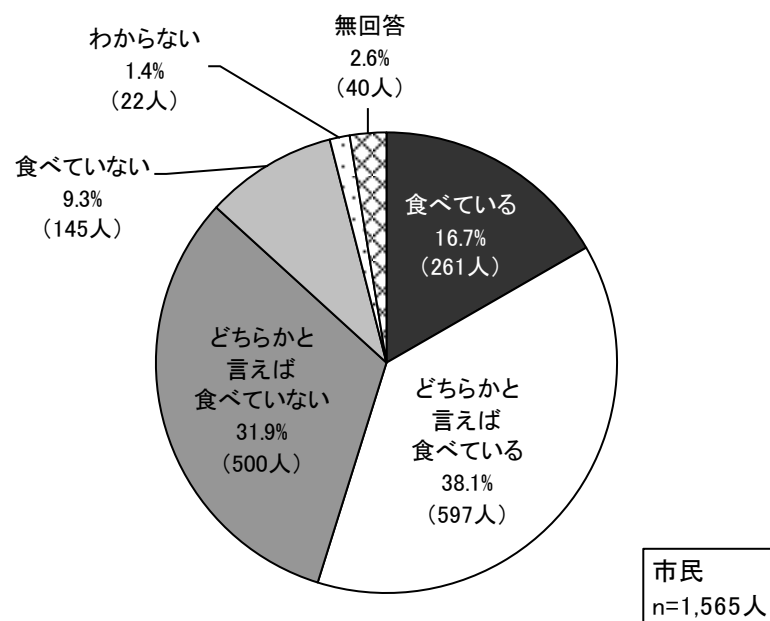
過半数が「食べている」「どちらかと言えば食べている」と回答

【全体結果】

「食べている」(16.7%)、「どちらかと言えば食べている」(38.1%)と回答した人を合わせた割合は過半数(54.8%)となっている。

一方、「どちらかと言えば食べていない」(31.9%)、「食べていない」(9.3%)と回答した人を合わせた割合は4割強(41.2%)となっている。

図 3.13-1 ゆっくりよく噛んで味わって食べる頻度



【性別・年齢別】

「食べている」「どちらかと言えば食べている」と回答した人を合わせた割合は、70歳以上(71.2%)で最も高く、50歳代(44.7%)で最も低くなっている。

性別では、「食べている」「どちらかといえば食べている」を合わせた割合は、各年代とも、女性の方が男性より高くなっている。

図 3.13-2 ゆっくりよく噛んで味わって食べる頻度（年齢別）

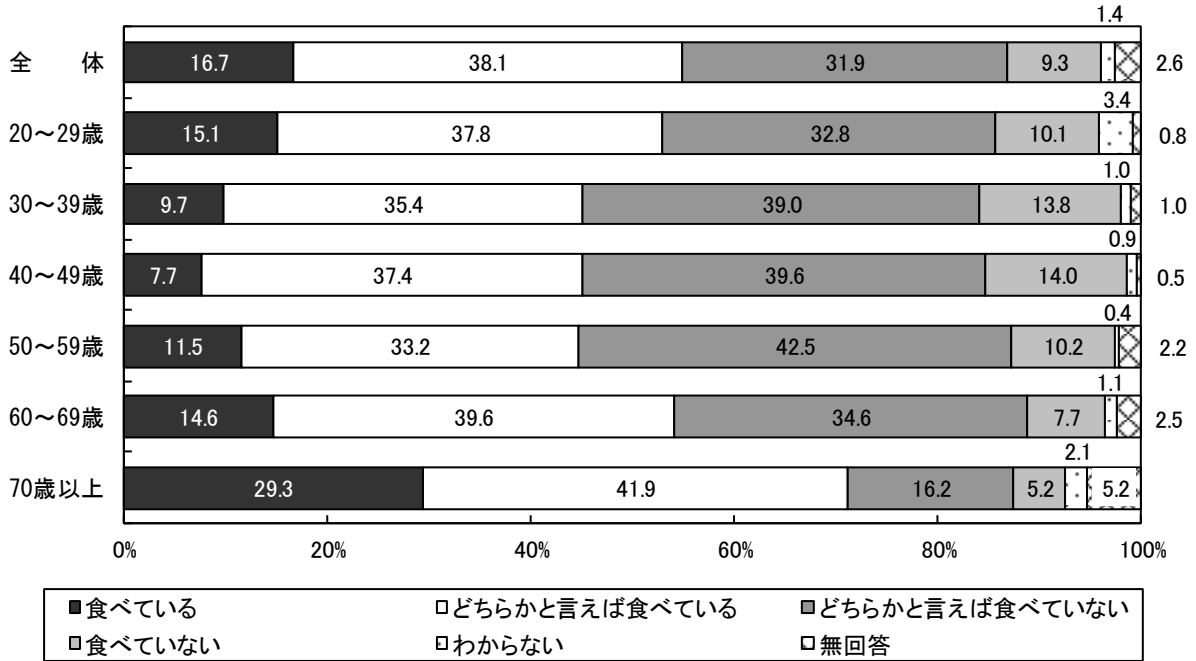
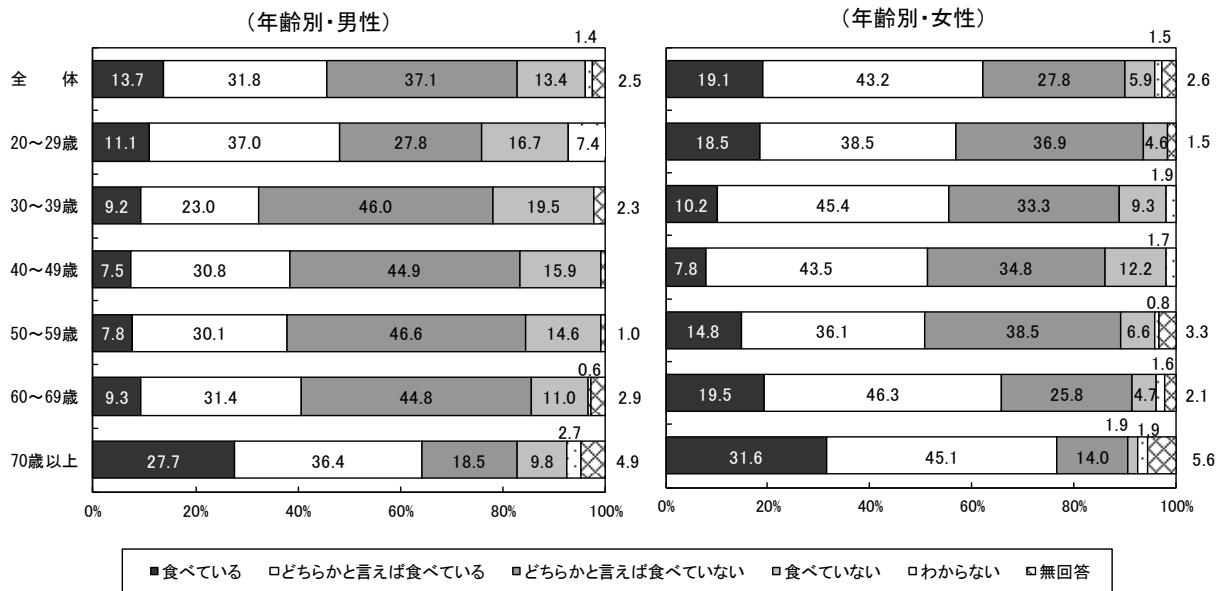


図 3.13-3 ゆっくりよく噛んで味わって食べる頻度



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,565	119	195	222	226	364	420	19
男性	707	54	87	107	103	172	184	0
女性	817	65	108	115	122	190	215	2

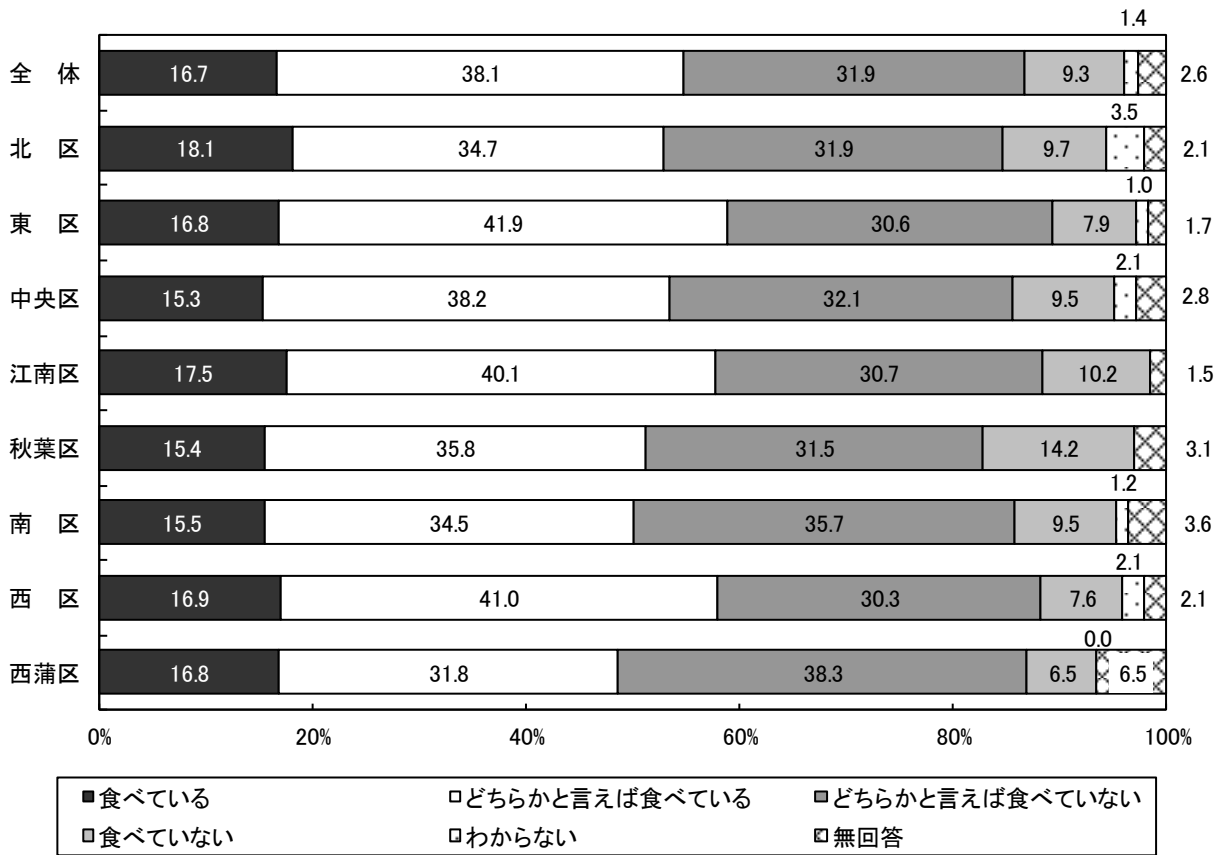
(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「食べている」「どちらかといえば食べている」と回答した人を合わせた割合は、東区（58.8%）で最も高く、西蒲区（48.6%）で最も低くなっている。

図 3.13-4 ゆっくりよく噛んで味わって食べる頻度（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,565	144	291	327	137	162	84	290	107	23

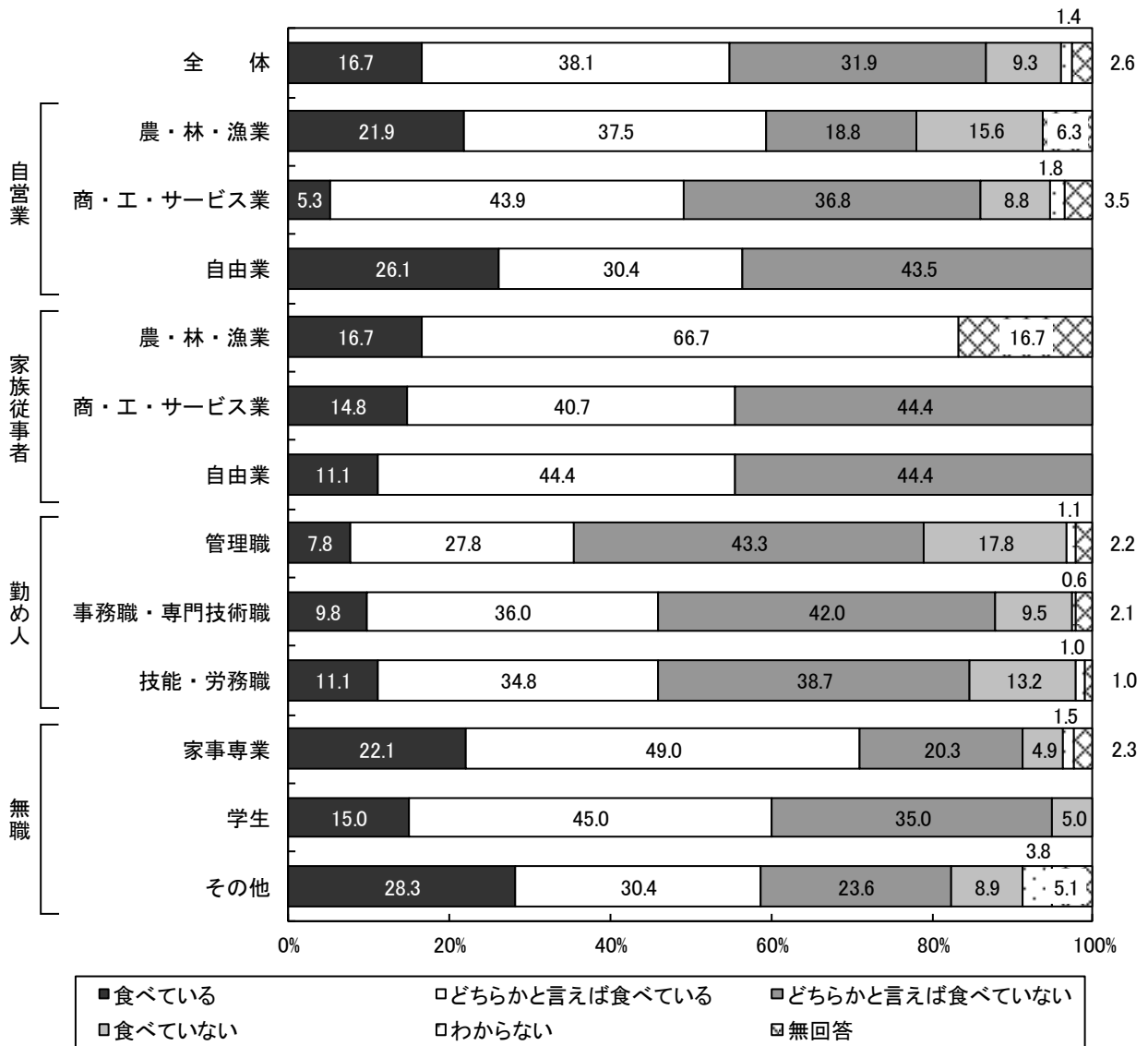
(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 3.13-5 ゆっくりよく噛んで味わって食べる頻度（職業別）



全体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,565	32	57	23	6	27	9

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
90	336	287	390	20	237	51

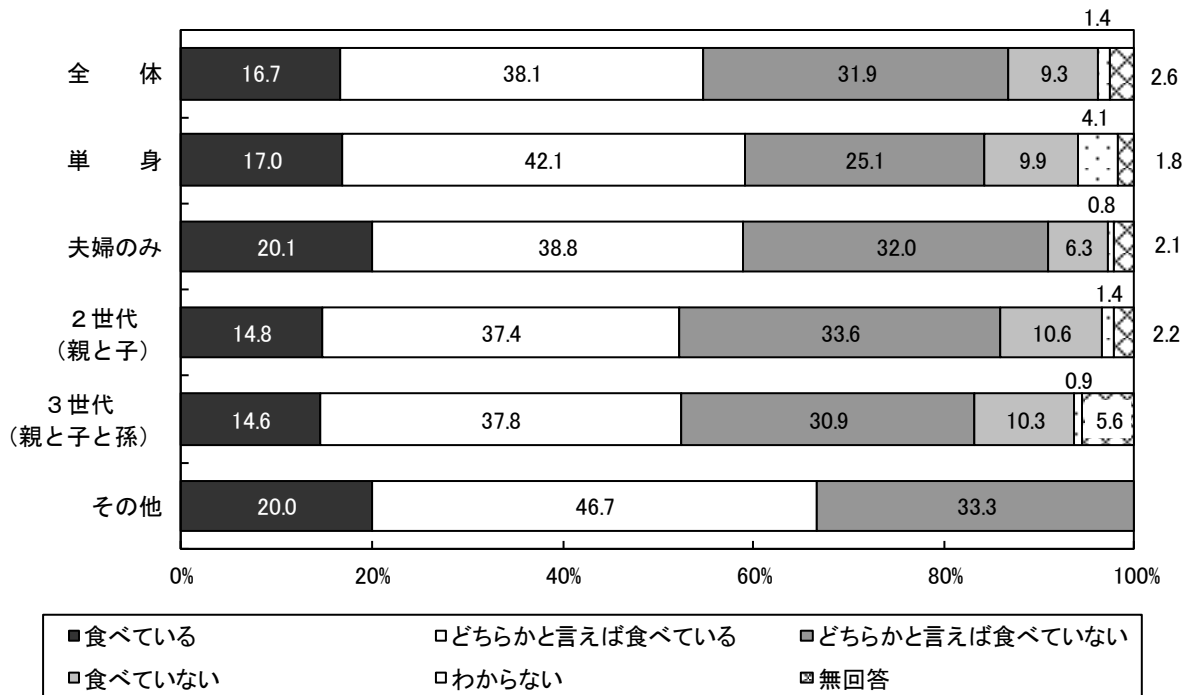
(人)

※無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「食べている」「どちらかといえば食べている」と回答した人を合わせた割合は、夫婦のみ（58.9%）で最も高くなっている。

図 3.13-6 ゆっくりよく噛んで味わって食べる頻度（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代(親と子)	3世代(親と子と孫)	其他	無回答
1,565	171	384	737	233	15	25

(人)

※無回答者のグラフは省略した。

(14) かねで食べる時の状態

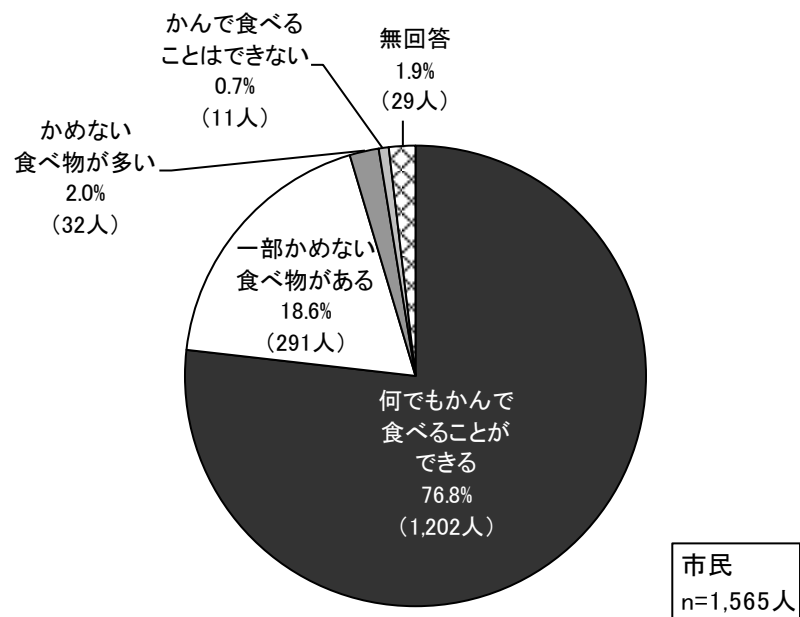
問22 かねで食べる時の状態についてあてはまる番号を1つ選んで○をつけてください。
(○は1つだけ)

8割弱が「何でもかねで食べる事ができる」と回答

【全体結果】

「何でもかねで食べる事ができる」と回答した人の割合は8割弱(76.8%)となっている。以下「一部かめない食べ物がある」(18.6%)、「かめない食べ物が多い」(2.0%)、「かねで食べることはできない」(0.7%)となっている。

図 3.14-1 かねで食べる時の状態



【性別・年齢別】

各年代とも、「何でもかんで食べることができる」と回答した人の割合が最も高くなっており、30歳代（88.2%）で最も高く、70歳以上（64.0%）で最も低くなっている。「一部かめない食べ物がある」は60歳代で2割強、70歳以上で3割弱となっている。

図 3.14-2 かんで食べる時の状態（年齢別）

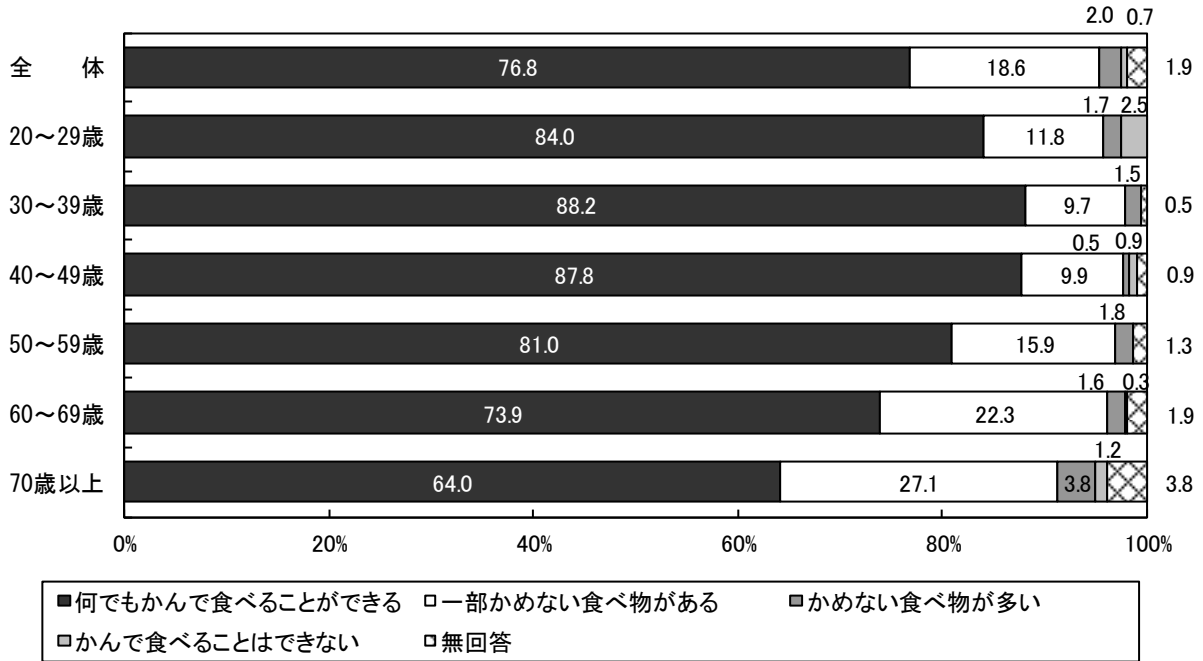
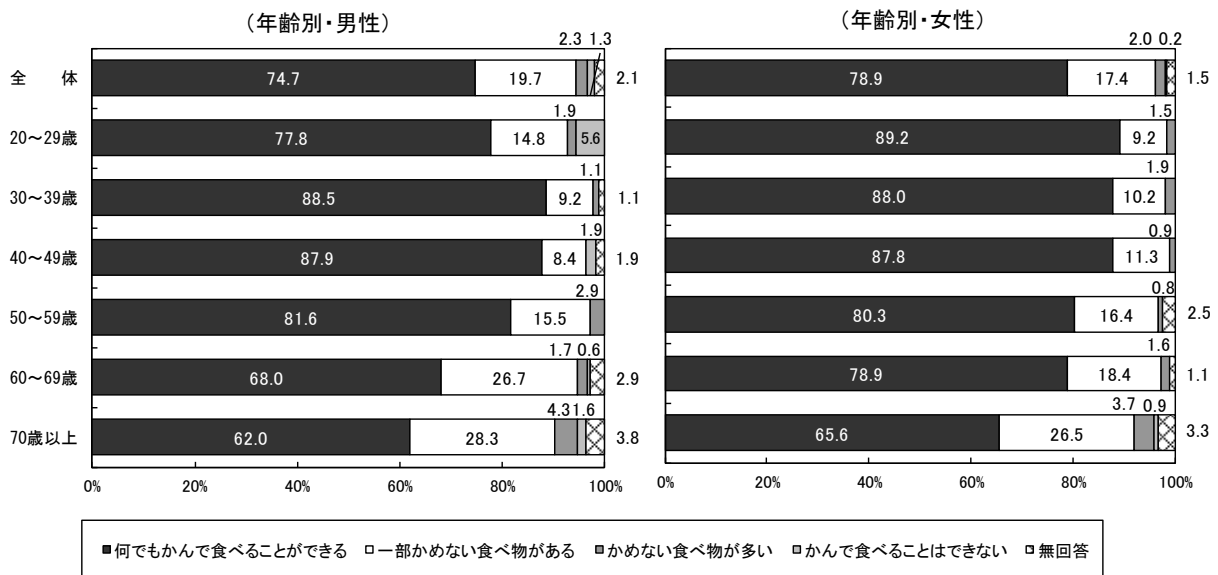


図 3.14-3 かんで食べる時の状態



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全 体	1,565	119	195	222	226	364	420	19
男 性	707	54	87	107	103	172	184	0
女 性	817	65	108	115	122	190	215	2

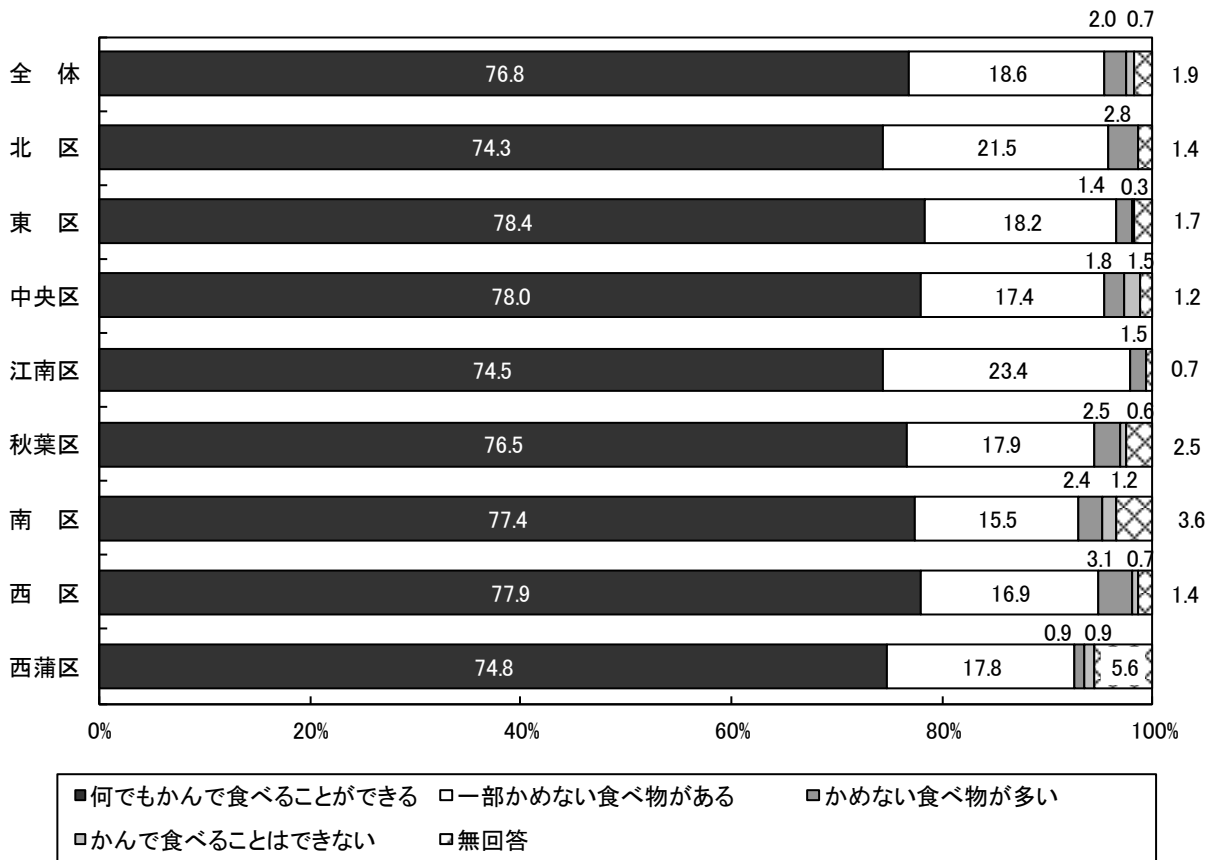
(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

各地区ともに、「何でもかんで食べることができる」と回答した人の割合が最も高くなっている。

図 3.14-4 かんで食べる時の状態（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,565	144	291	327	137	162	84	290	107	23

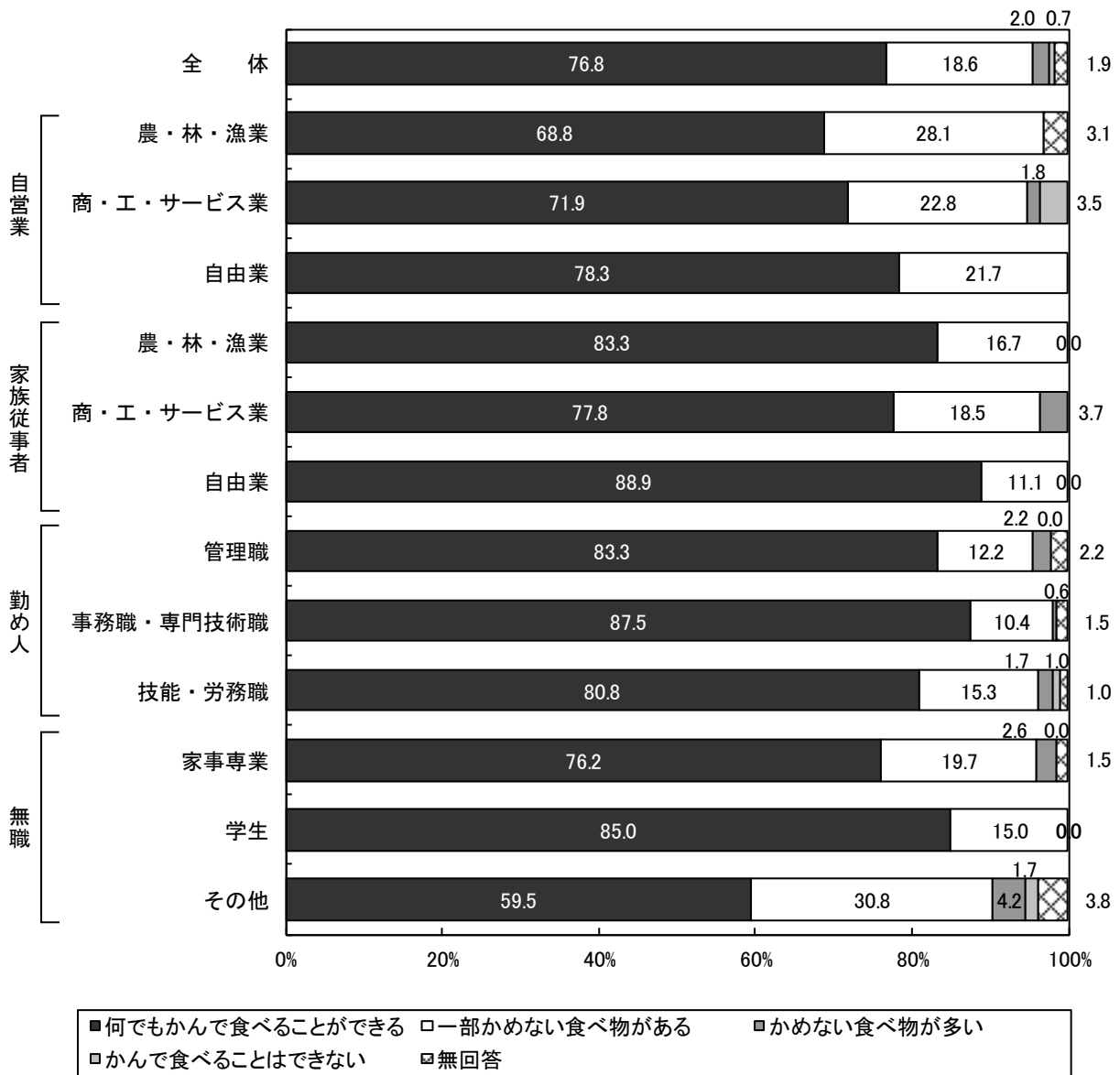
(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 3.14-5 かねで食べる時の状態（職業別）



全体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,565	32	57	23	6	27	9

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
90	336	287	390	20	237	51

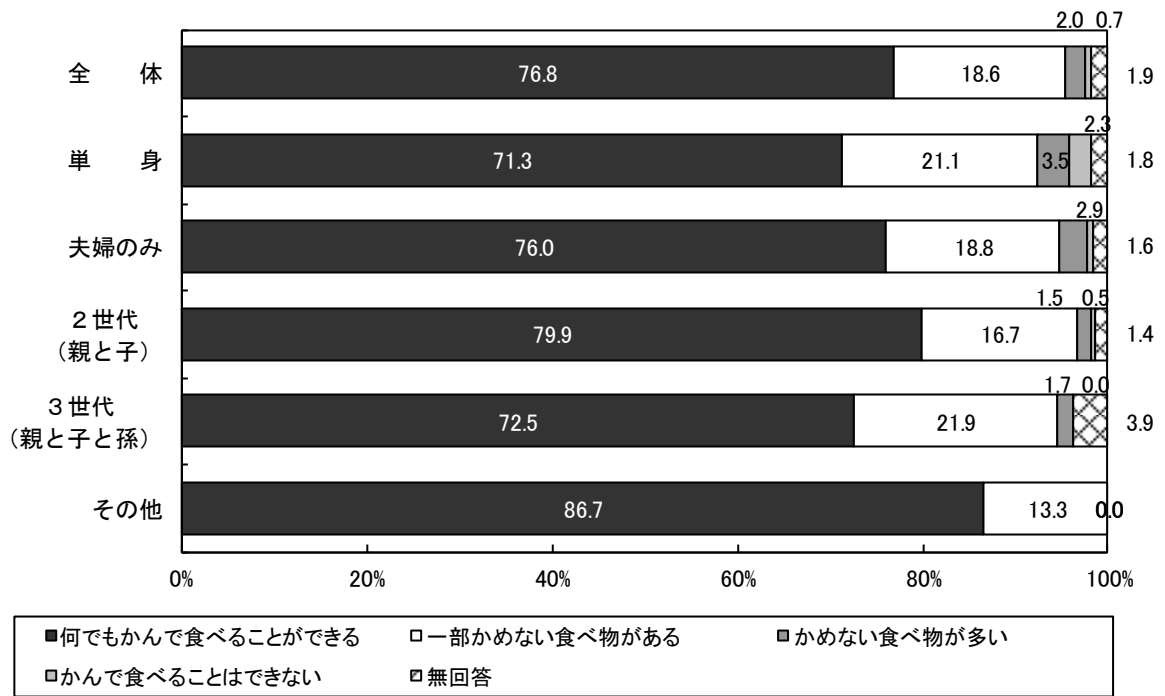
(人)

※無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

すべての家族構成で、「何でもかんで食べることができる」と回答した人の割合が最も高くなっている。

図 3.14-6 かねで食べる時の状態（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代 (親と子)	3世代 (親と子と孫)	その他	無回答
1,565	171	384	737	233	15	25

(人)

※無回答者のグラフは省略した。

4 「食の安全」について

(1) 食の安全に対する関心度

問23 あなたは、食の安全に関心がありますか。(○は1つだけ)

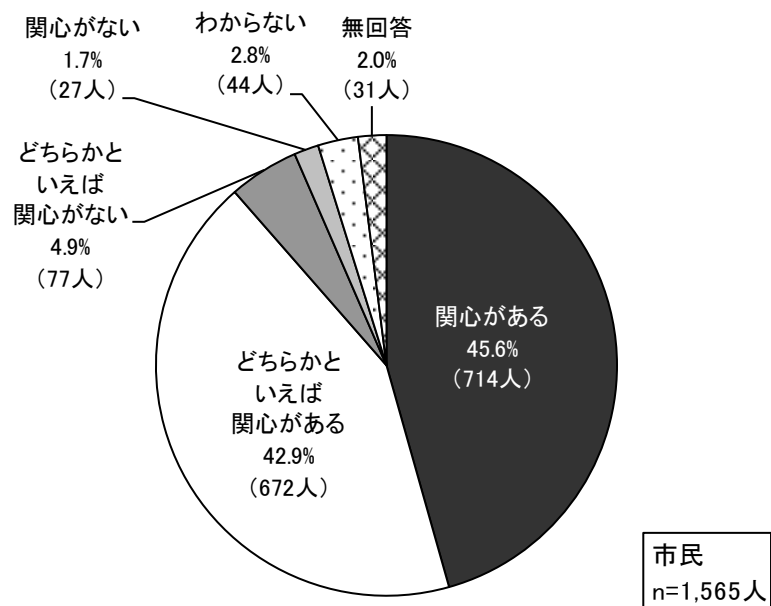
9割弱が食の安全に「関心がある」と回答

【全体結果】

「関心がある」(45.6%)、「どちらかといえば関心がある」(42.9%)と回答した人を合わせた割合は9割弱(88.6%)となっている。

一方、「関心がない」(1.7%)、「どちらかといえば関心がない」(4.9%)と回答した人を合わせた割合は1割弱(6.6%)となっている。

図 4.1-1 食の安全に対する関心度



【性別・年齢別】

「関心がある」「どちらかといえば関心がある」を合わせた割合は、40歳代と60歳代では9割を超え、その他の年代も8割台となっている。

性別では、各年代とも女性の方が「関心がある」「どちらかといえば関心がある」を合わせた割合が高くなっている。

図 4.1-2 食の安全に対する関心度（年齢別・全体）

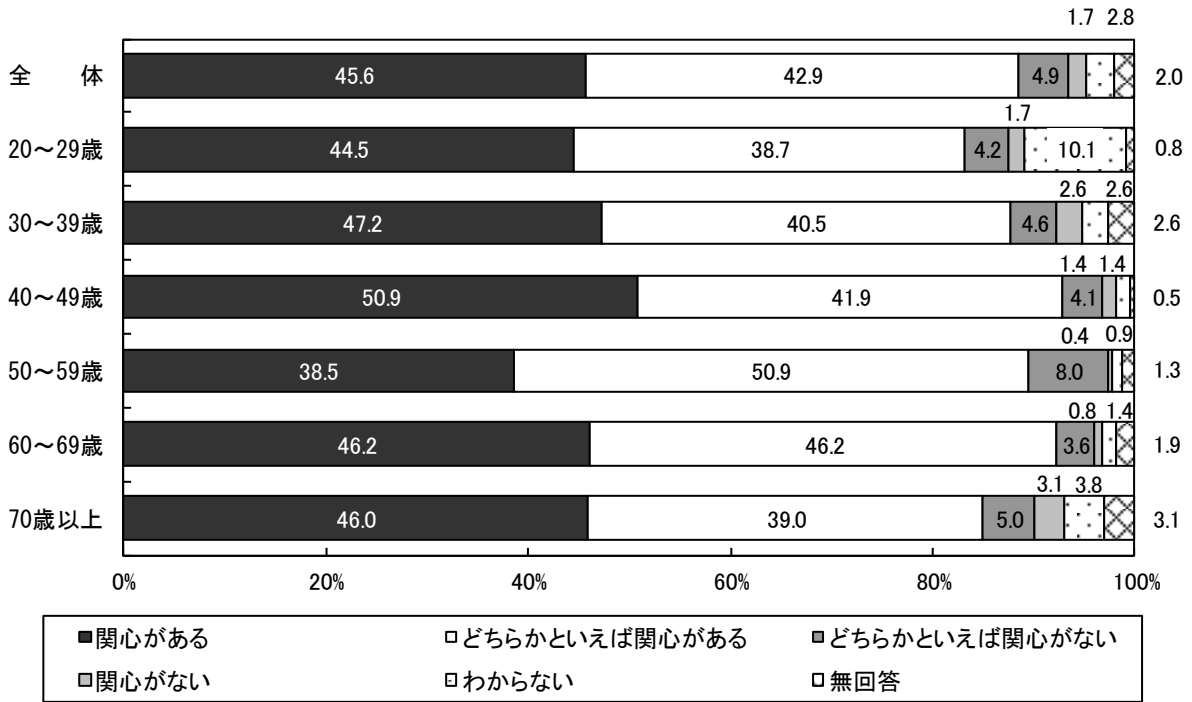
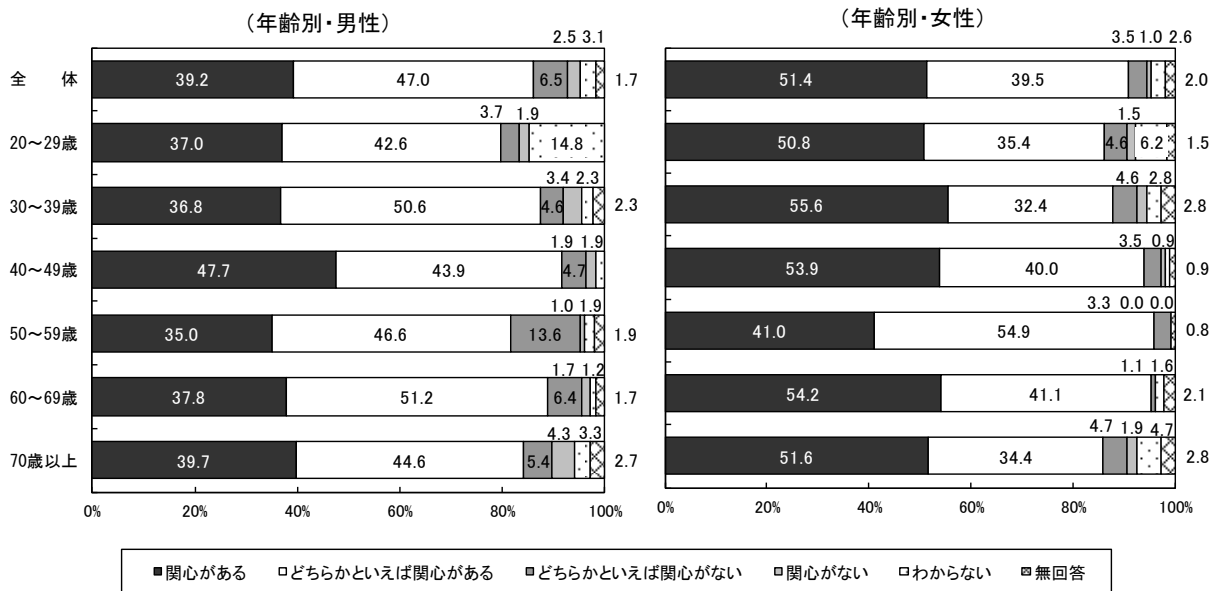


図 4.1-3 食の安全に対する関心度



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,565	119	195	222	226	364	420	19
男性	707	54	87	107	103	172	184	0
女性	817	65	108	115	122	190	215	2

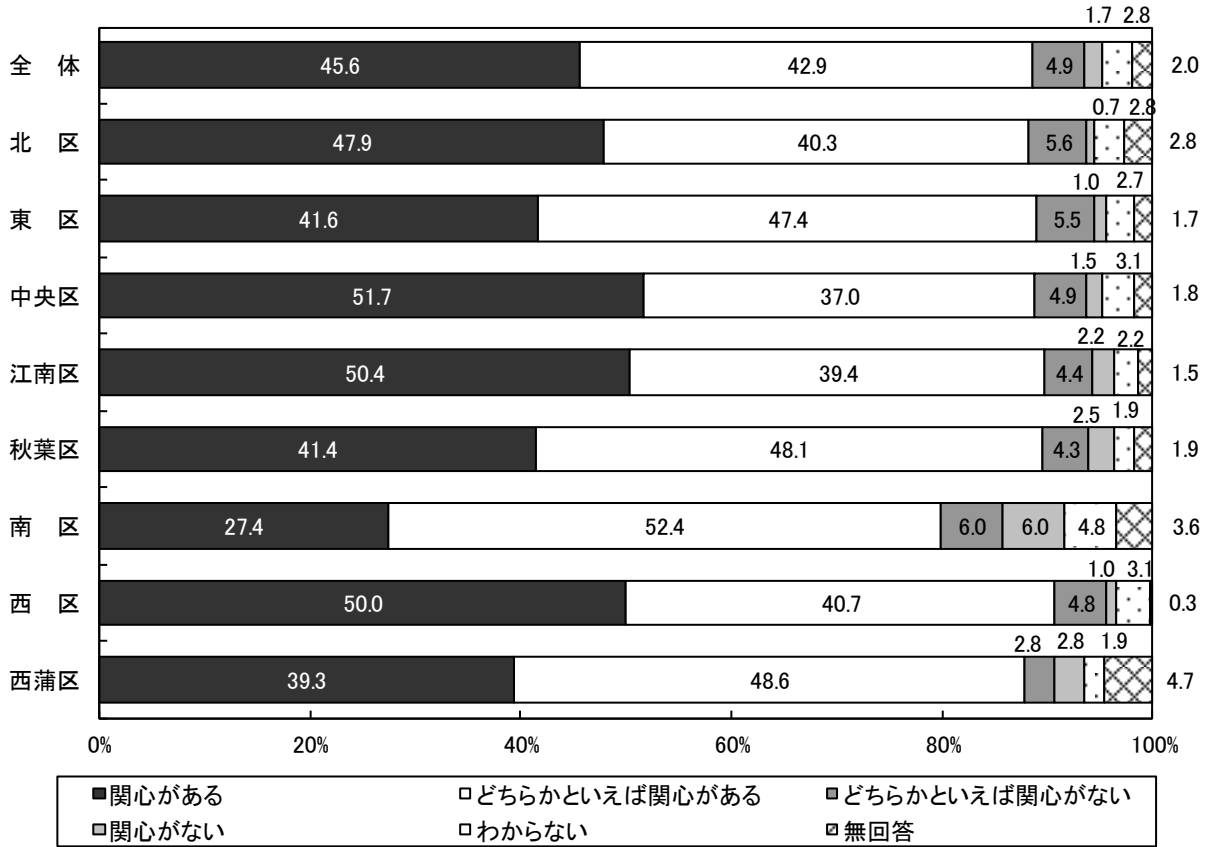
(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「関心がある」「どちらかといえば関心がある」を合わせた割合は、西区（90.7%）で最も高く、9割を超えている。

図 4.1-4 食の安全に対する関心度（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,565	144	291	327	137	162	84	290	107	23

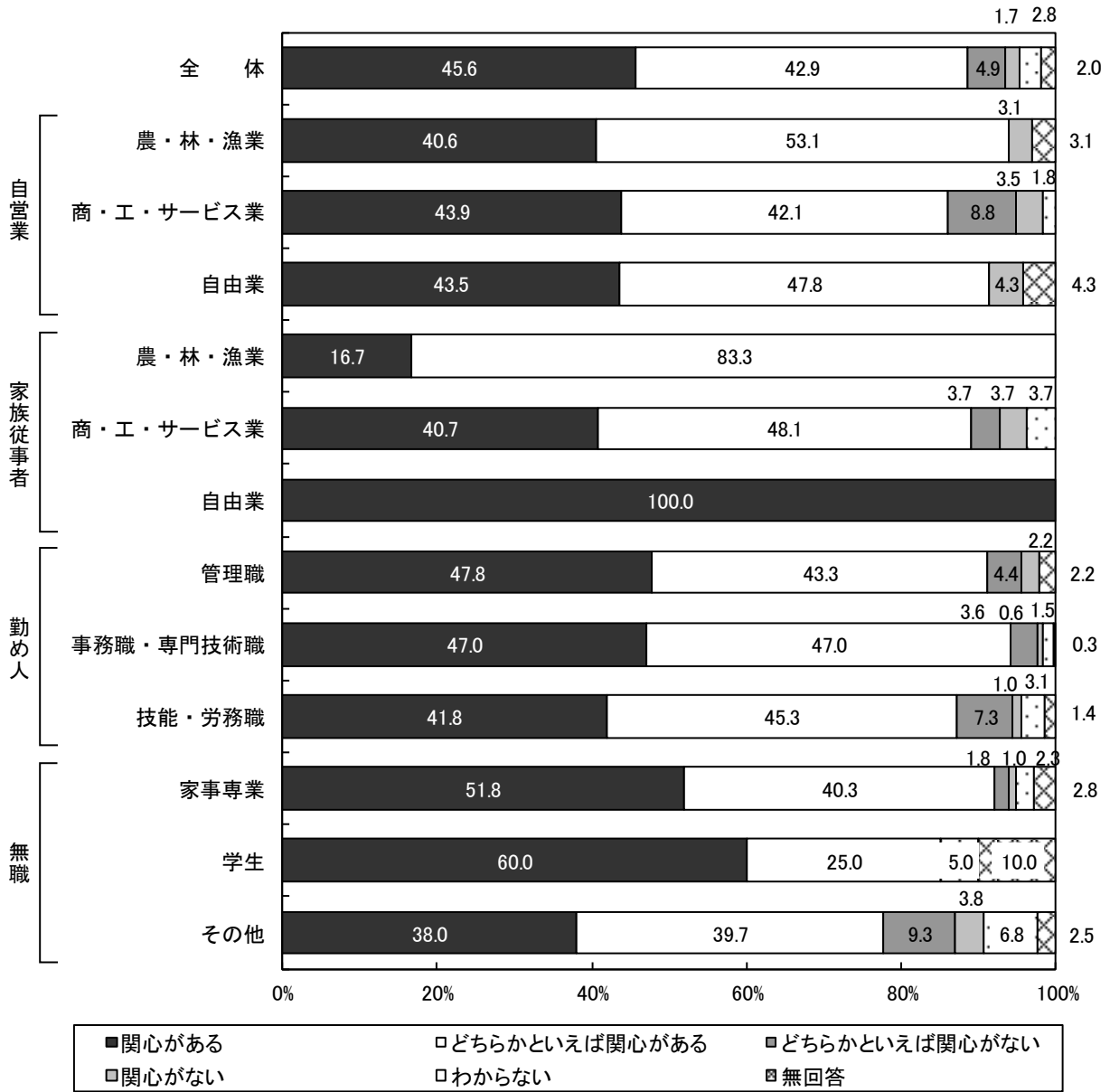
(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 4.1-5 食の安全に対する関心度（職業別）



全体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,565	32	57	23	6	27	9

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
90	336	287	390	20	237	51

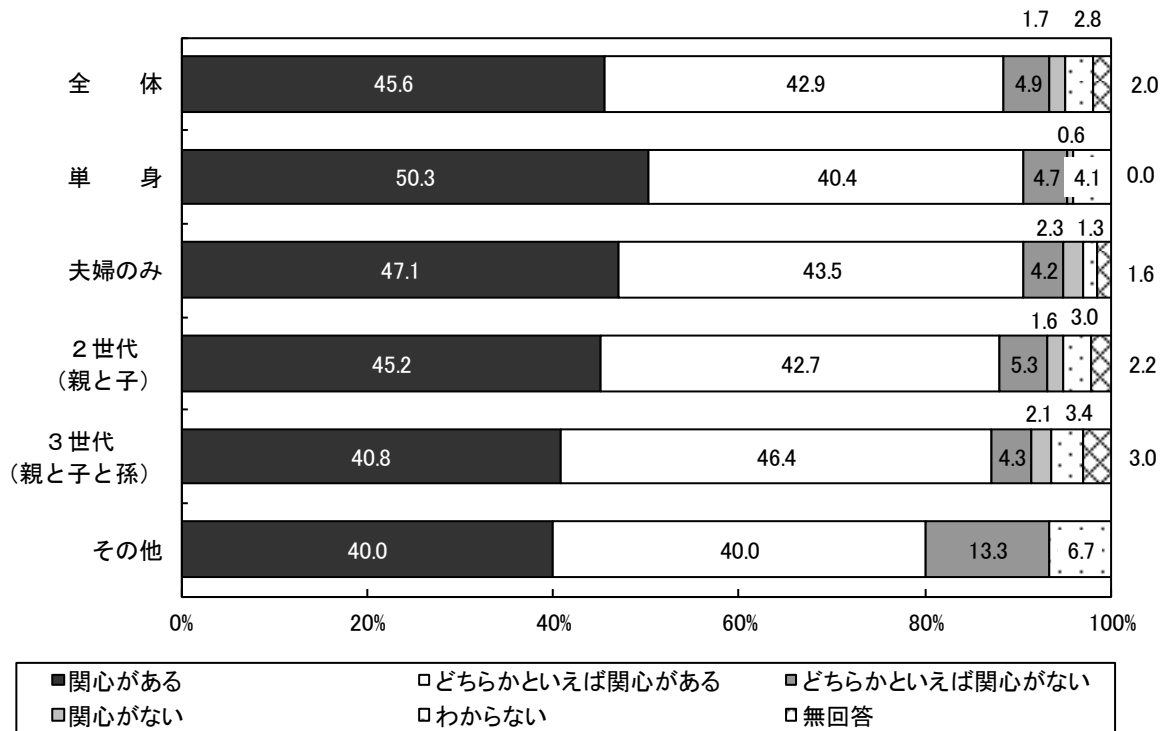
(人)

※無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「関心がある」「どちらかといえば関心がある」を合わせた割合は、単身と夫婦のみ（いずれも90.6%）で最も高くなっている。

図 4.1-6 食の安全に対する関心度（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代 (親と子)	3世代 (親と子と孫)	その他	無回答
1,565	171	384	737	233	15	25

(人)

※無回答者のグラフは省略した。

(2) 特に関心があること

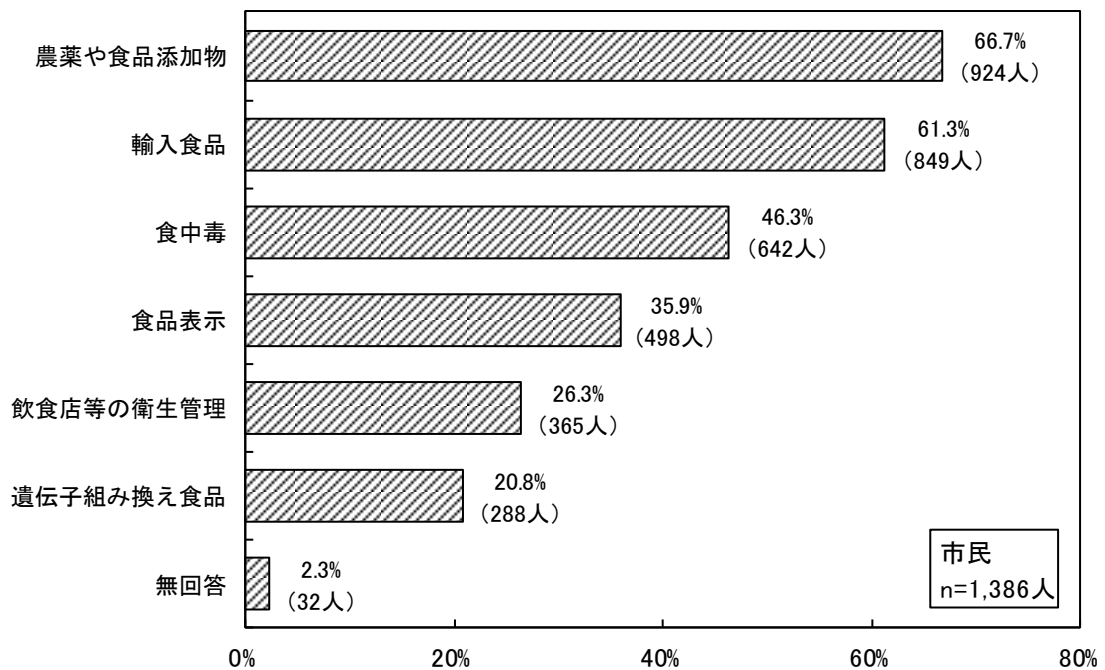
問23-1 どのようなことに関心がありますか。(〇は3つまで)

7割弱が「農薬や食品添加物」と回答

【全体結果】

特に関心があることについては、「農薬や食品添加物」(66.7%)と回答した人が最も多く、以下「輸入食品」(61.3%)、「食中毒」(46.3%)、「食品表示」(35.9%)、「飲食店等の衛生管理」(26.3%)、「遺伝子組み換え食品」(20.8%)となっている。

図 4.2 特に関心があること



【性別・年齢別】

各年代とも、「農薬や食品添加物」「輸入食品」の割合が高くなっている。20歳代では「食中毒」の割合も高くなっている。

表 4.1 特に関心があること（年齢別・全体）

	対象者	農薬や食品添加物	輸入食品	食中毒	食品表示	飲食店等の衛生管理	遺伝子組み換え食品	無回答
計	1386	66.7	61.3	46.3	35.9	26.3	20.8	2.3
20～29歳	99	45.5	46.5	57.6	36.4	51.5	12.1	1.0
30～39歳	171	66.1	48.0	49.7	31.6	39.8	25.7	2.3
40～49歳	206	65.5	61.2	46.1	28.6	29.1	25.2	1.9
50～59歳	202	68.8	66.3	48.0	35.1	25.7	24.3	0.0
60～69歳	336	72.9	66.4	41.1	42.6	21.7	22.9	1.2
70歳以上	357	67.2	64.1	45.9	35.9	15.4	14.6	5.3
年齢不明	15	46.7	60.0	40.0	46.7	40.0	13.3	0.0

対象者：人/回答：%

表 4.2 特に関心があること（年齢別・男性）

	対象者	農薬や食品添加物	輸入食品	食中毒	食品表示	飲食店等の衛生管理	遺伝子組み換え食品	無回答
計	609	60.9	58.1	48.4	32.3	29.2	18.7	2.5
20～29歳	43	39.5	46.5	51.2	32.6	53.5	11.6	0.0
30～39歳	76	59.2	43.4	50.0	28.9	36.8	26.3	3.9
40～49歳	98	58.2	57.1	49.0	24.5	35.7	21.4	4.1
50～59歳	84	60.7	69.0	54.8	27.4	26.2	20.2	0.0
60～69歳	153	67.3	62.1	41.8	37.9	27.5	22.9	0.7
70歳以上	155	63.2	59.4	49.7	36.1	18.1	10.3	4.5
年齢不明	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

対象者：人/回答：%

表 4.3 特に関心があること（年齢別・女性）

	対象者	農薬や食品添加物	輸入食品	食中毒	食品表示	飲食店等の衛生管理	遺伝子組み換え食品	無回答
計	743	71.7	63.4	44.7	38.8	24.2	22.9	2.2
20～29歳	56	50.0	46.4	62.5	39.3	50.0	12.5	1.8
30～39歳	95	71.6	51.6	49.5	33.7	42.1	25.3	1.1
40～49歳	108	72.2	64.8	43.5	32.4	23.1	28.7	0.0
50～59歳	117	74.4	64.1	43.6	41.0	25.6	26.5	0.0
60～69歳	181	77.3	69.6	40.3	46.4	17.1	23.2	1.7
70歳以上	185	71.4	67.0	42.2	36.2	13.5	18.9	5.9
年齢不明	1	0.0	100.0	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0

対象者：人/回答：%

(3) 食の安全に関する知識を持っている程度

問24 あなたは、食の安全に関してどの程度知識を持っていますか。(○は1つだけ)
「食の安全に関する知識」とは、次のようなものに関する知識とお考えください。

「食の安全に関する知識」の例

- ◆ 食品表示の見方について
(消費期限や賞味期限、保存料などの食品添加物、遺伝子組み換え食品、食物アレルギーなど)
- ◆ 食中毒の予防方法について
- ◆ 輸入食品について
- ◆ 健康食品について

その他、農薬使用の実態や鳥インフルエンザに関する知識など

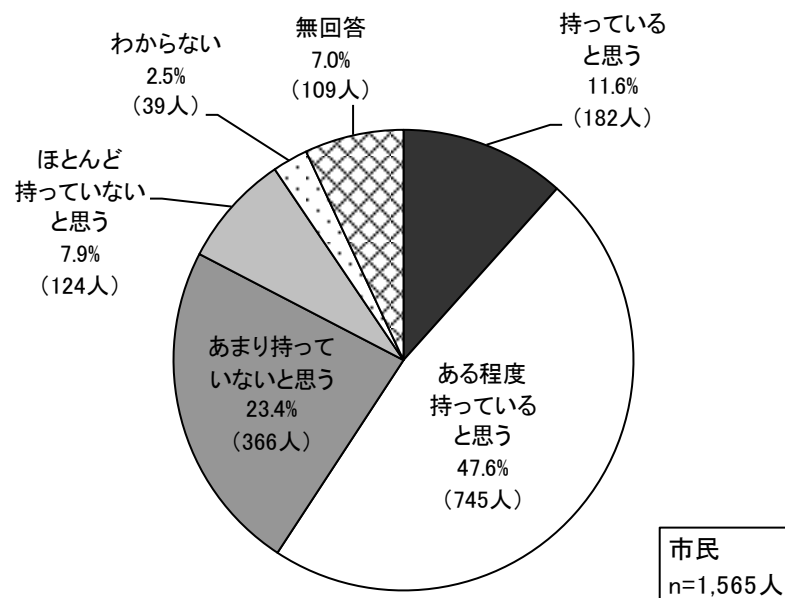
6割弱が知識を持っていると回答

【全体結果】

「持っていると思う」(11.6%)、「ある程度持っていると思う」(47.6%)と回答した人を合わせた、知識を持っている人の割合は6割弱(59.2%)となっている。

一方、「あまり持っていないと思う」(23.4%)、「ほとんど持っていないと思う」(7.9%)と回答した人を合わせた割合は3割強(31.3%)となっている。

図 4.3-1 食の安全に関する知識を持っている程度



【性別・年齢別】

「持っていると思う」「ある程度持っていると思う」を合わせた割合は、60歳以上で高く6割を超えている。一方、「あまり持っていないと思う」「ほとんど持っていないと思う」を合わせた割合は、30歳代（48.2%）と20歳代（42.9%）で高くなっている。

性別では、各年代とも、女性の方が「持っていると思う」「ある程度持っていると思う」を合わせた割合が高くなっている。

図 4.3-2 食の安全に関する知識を持っている程度（年齢別・全体）

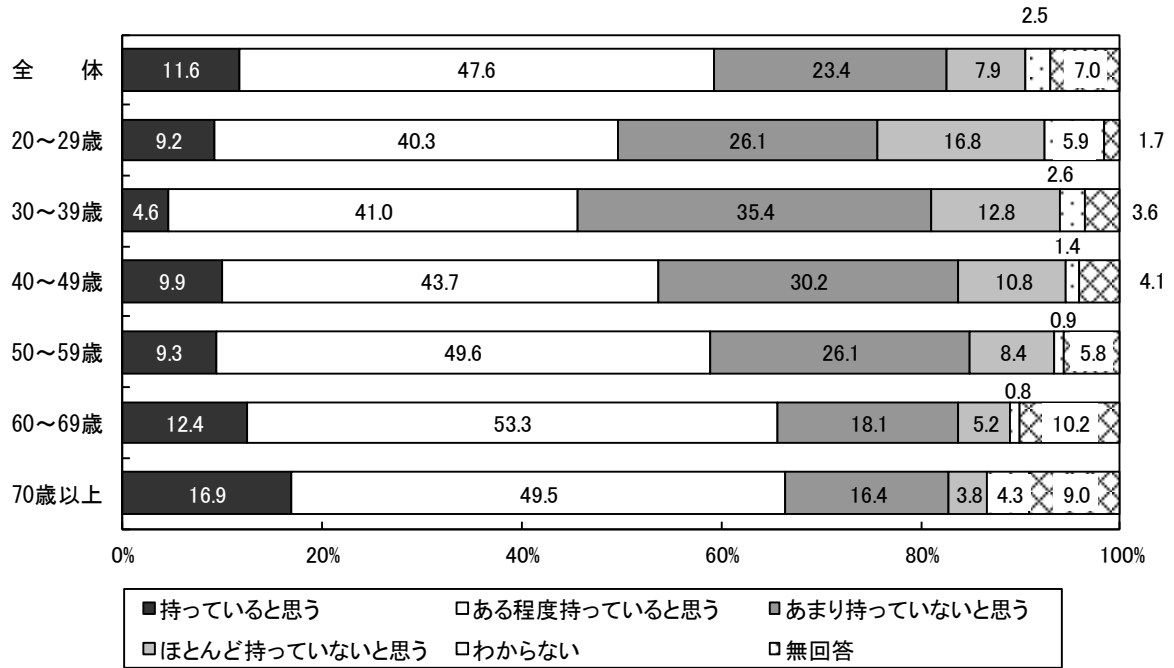
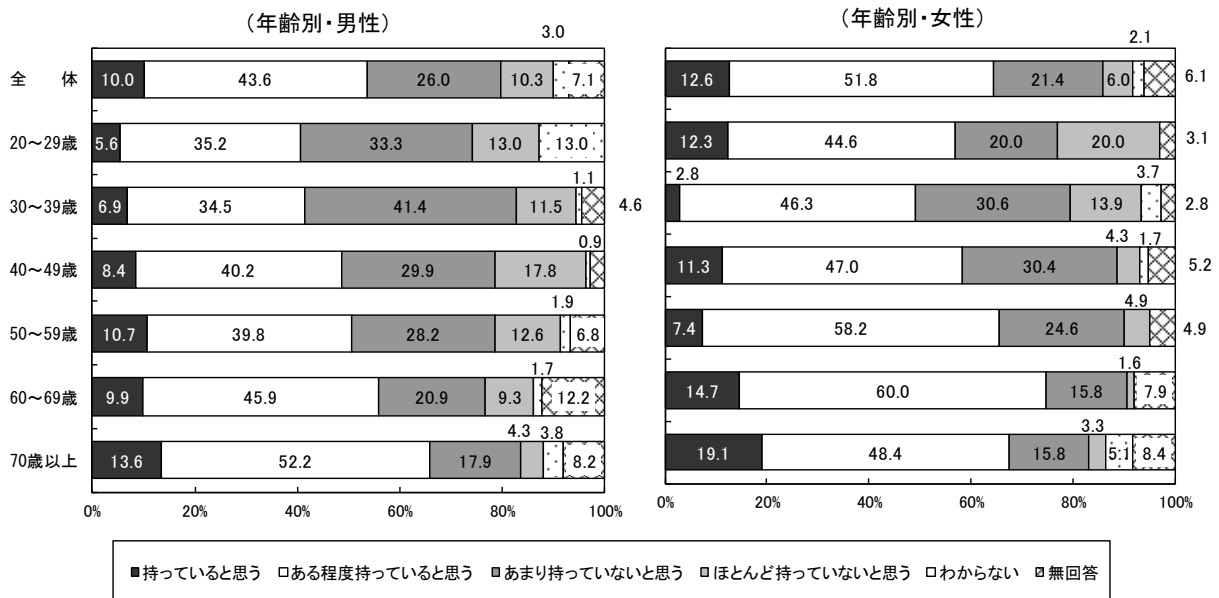


図 4.3-3 食の安全に関する知識を持っている程度



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,565	119	195	222	226	364	420	19
男性	707	54	87	107	103	172	184	0
女性	817	65	108	115	122	190	215	2

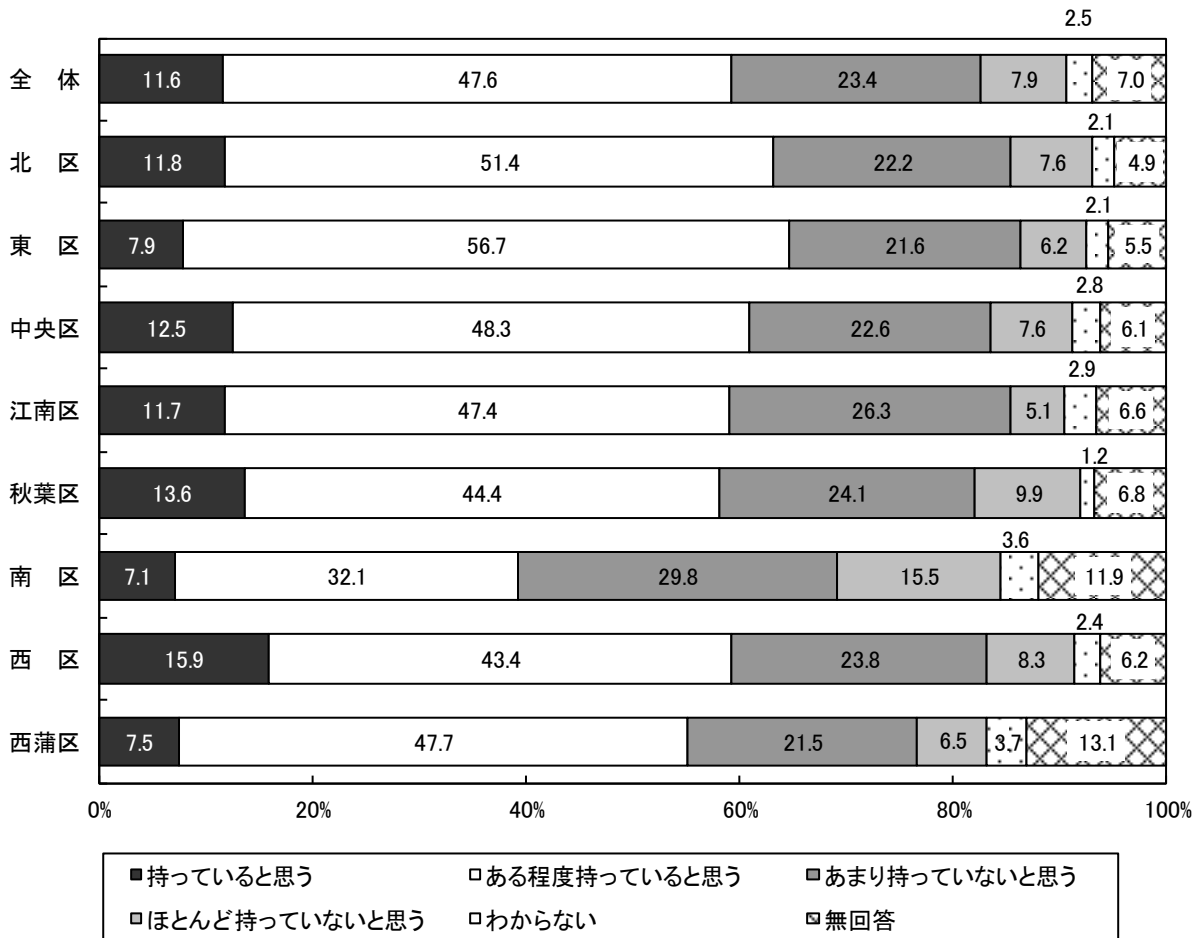
(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「持っていると思う」「ある程度持っていると思う」を合わせた割合は、東区(64.6%)と北区(63.2%)で高くなっている。

図 4.3-4 食の安全に関する知識を持っている程度（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,565	144	291	327	137	162	84	290	107	23

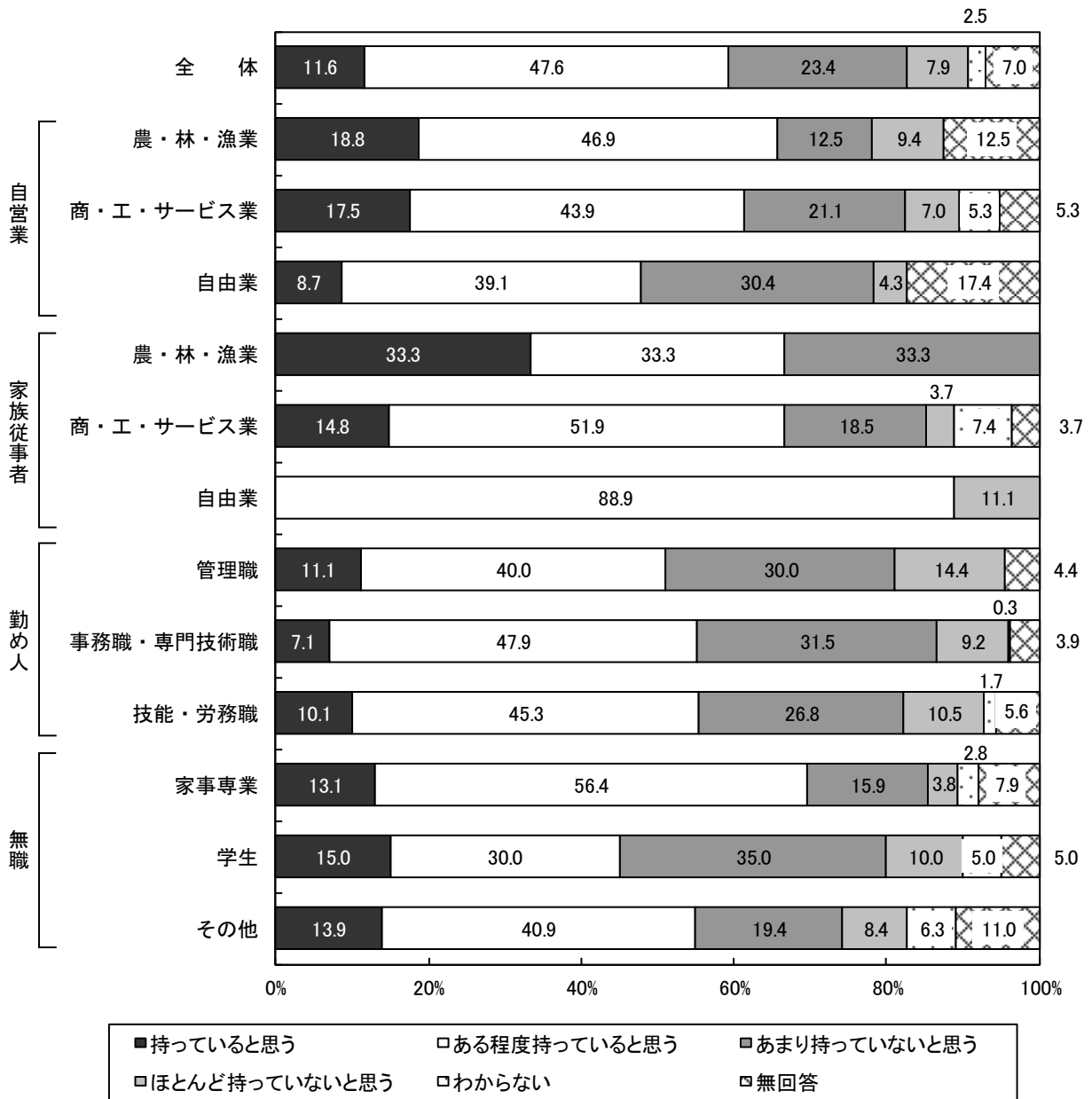
(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 4.3-5 食の安全に関する知識を持っている程度（職業別）



全体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,565	32	57	23	6	27	9

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
90	336	287	390	20	237	51

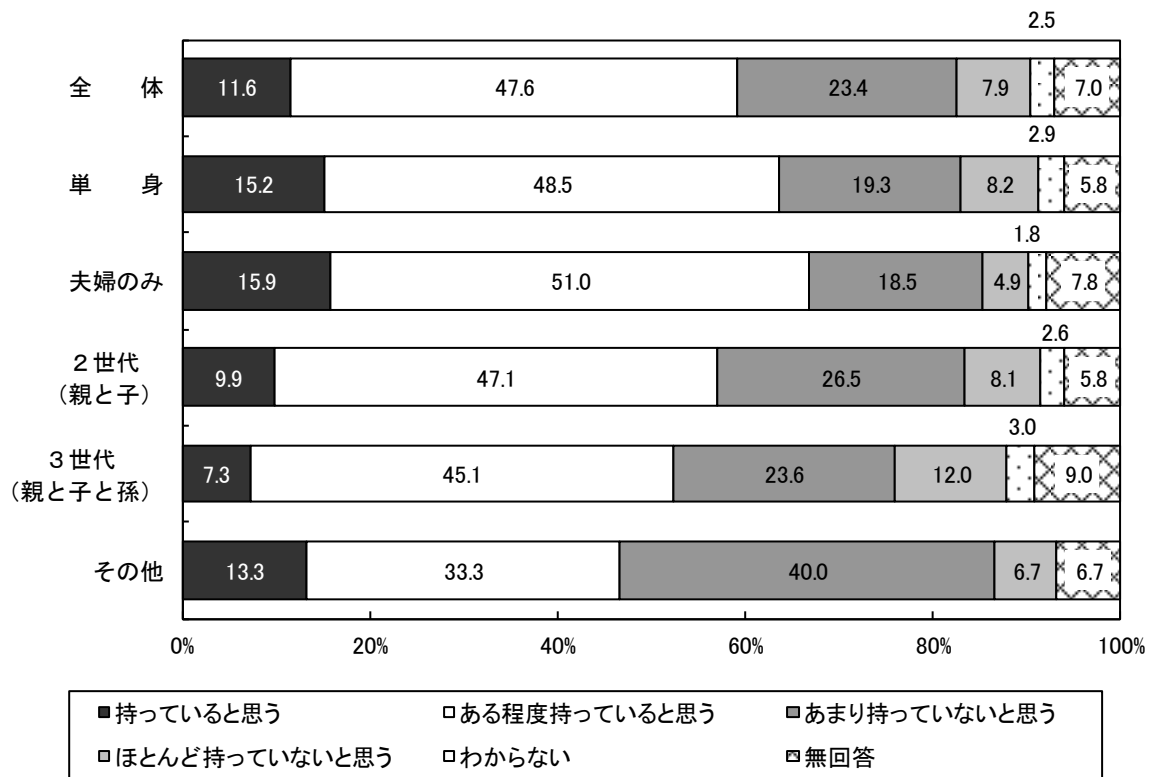
(人)

※無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「持っていると思う」「ある程度持っていると思う」を合わせた割合は、夫婦のみ（66.9%）で高くなっている。

図 4.3-6 食の安全に関する知識を持っている程度（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代(親と子)	3世代(親と子と孫)	その他	無回答
1,565	171	384	737	233	15	25

(人)

※無回答者のグラフは省略した。

(4) 安全な食生活を送ることについての判断の程度

問25 あなたは、安全な食生活を送るために、自ら食品選択等の判断をしていますか。
(○は1つだけ)

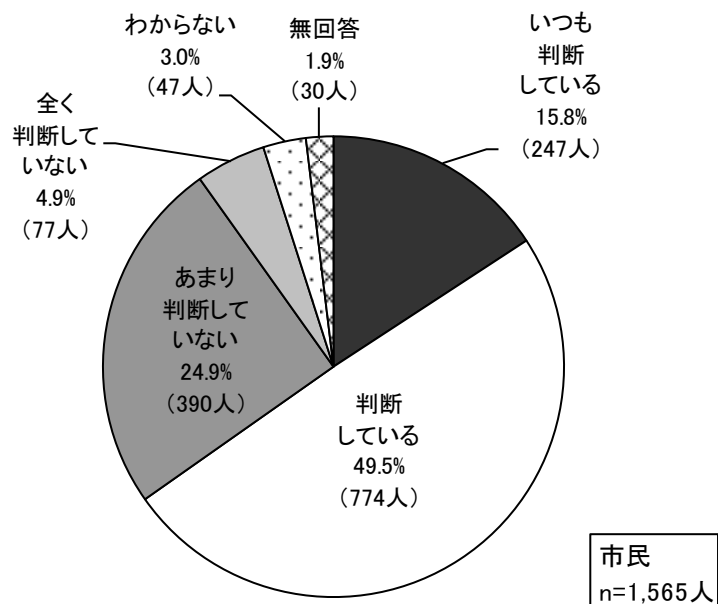
全体の約3分の2が判断していると回答

【全体結果】

「いつも判断している」(15.8%)、「判断している」(49.5%)と回答した人を合わせた、判断している人の割合は全体の約3分の2(65.2%)となっている。

一方、「あまり判断していない」(24.9%)、「全く判断していない」(4.9%)と回答した人を合わせた割合は約3割(29.8%)となっている。

図 4.4-1 安全な食生活を送ることについての判断の程度



【性別・年齢別】

「いつも判断している」「判断している」を合わせた割合は、60歳代で最も高く、約7割となっている。一方、「あまり判断していない」「全く判断していない」を合わせた割合は、20歳代（38.7%）で最も高く4割弱となっている。

性別では、「いつも判断している」「判断している」を合わせた割合は、各年代で女性の方が男性より高くなっている。

図 4.4-2 安全な食生活を送ることについての判断の程度（年齢別・全体）

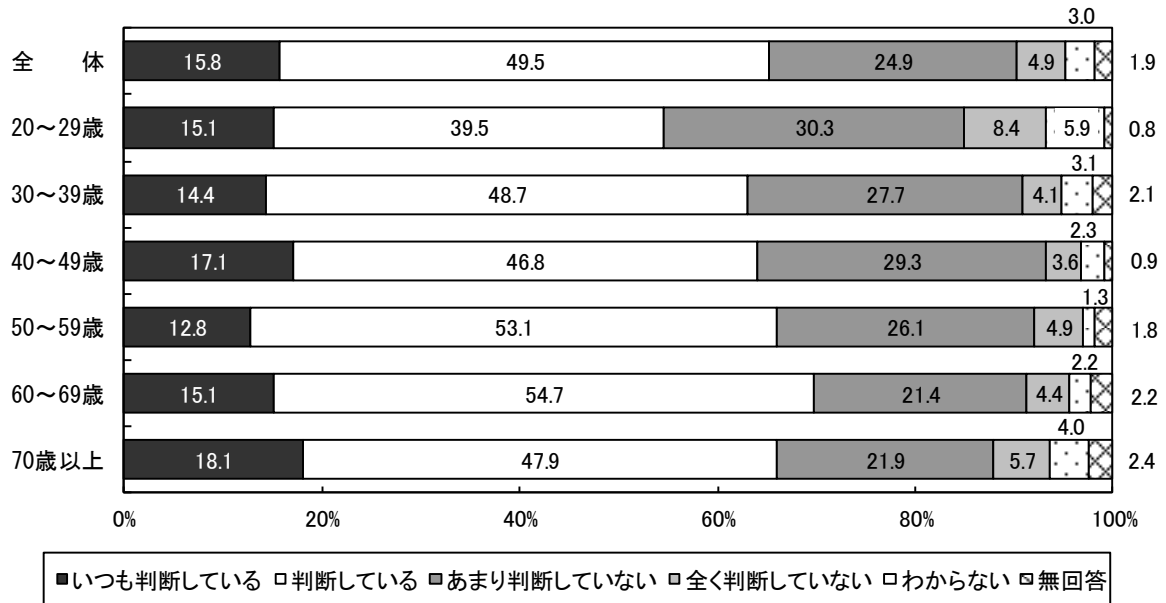
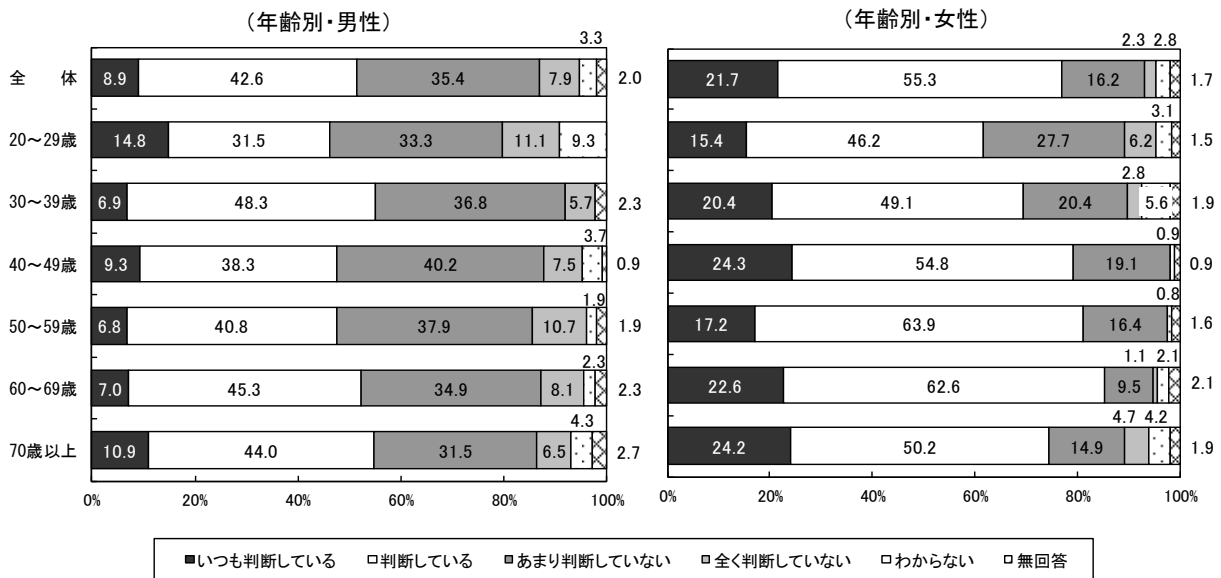


図 4.4-3 安全な食生活を送ることについての判断の程度



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,565	119	195	222	226	364	420	19
男性	707	54	87	107	103	172	184	0
女性	817	65	108	115	122	190	215	2

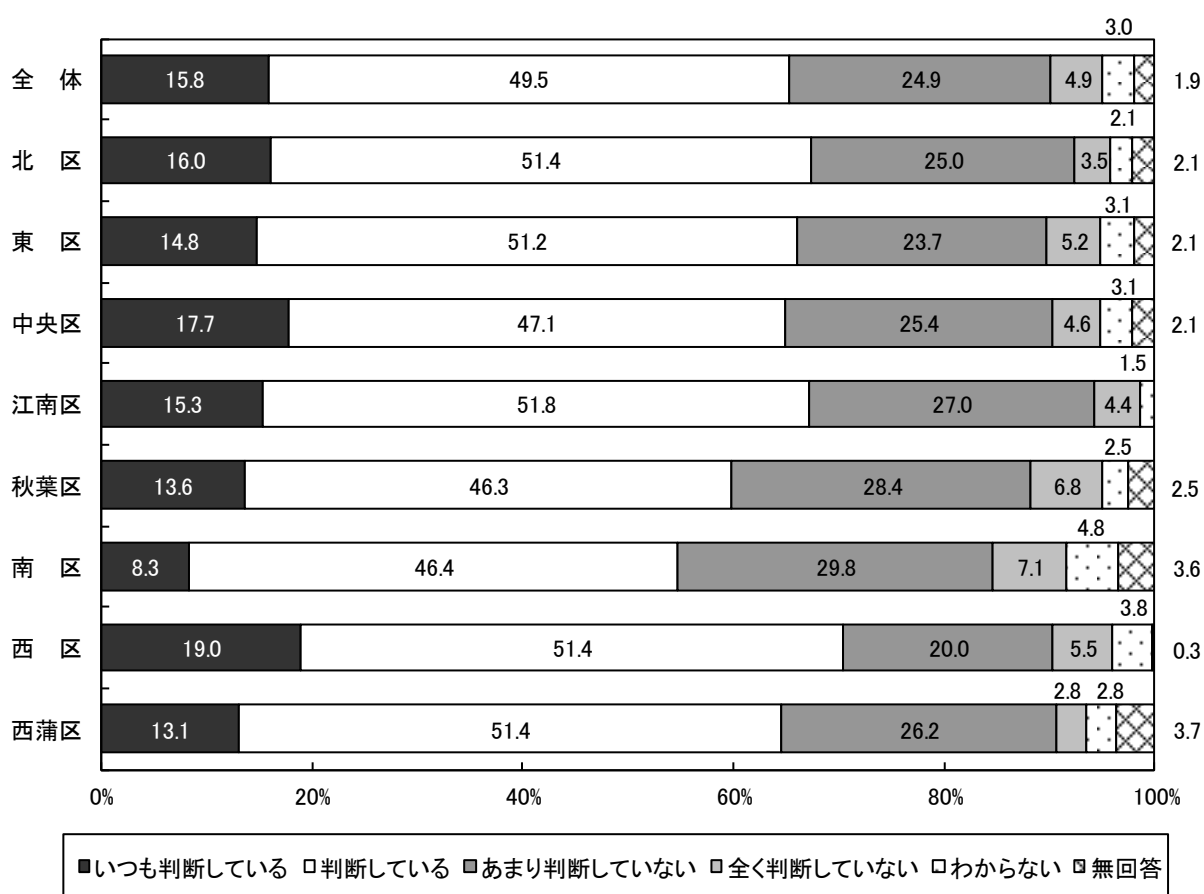
(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「いつも判断している」「判断している」を合わせた割合は、西区(70.3%)で最も高くなっている。

図 4.4-4 安全な食生活を送ることについての判断の程度(地区別)



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,565	144	291	327	137	162	84	290	107	23

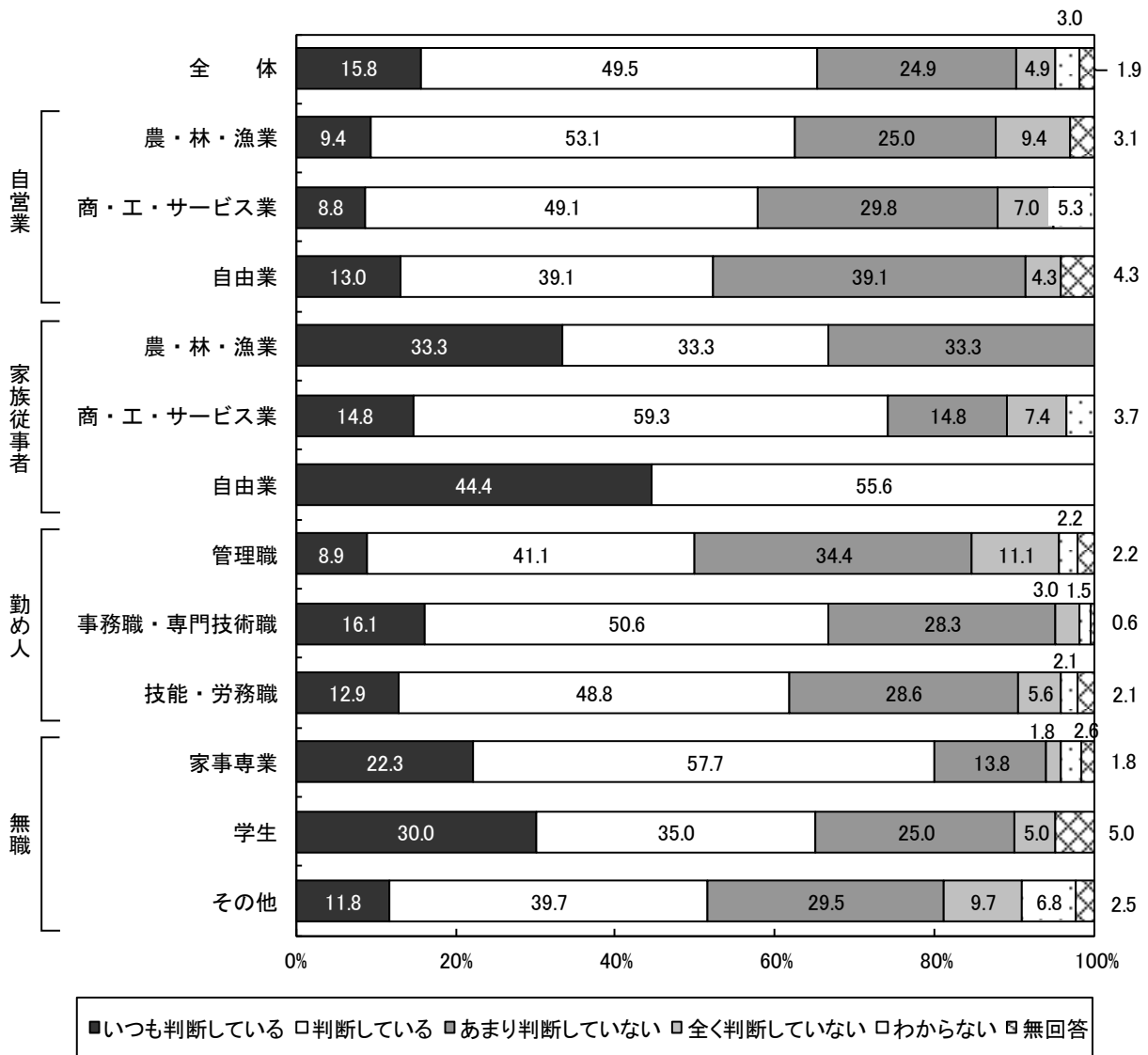
(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 4.4-5 安全な食生活を送ることについての判断の程度（職業別）



全体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,565	32	57	23	6	27	9

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
90	336	287	390	20	237	51

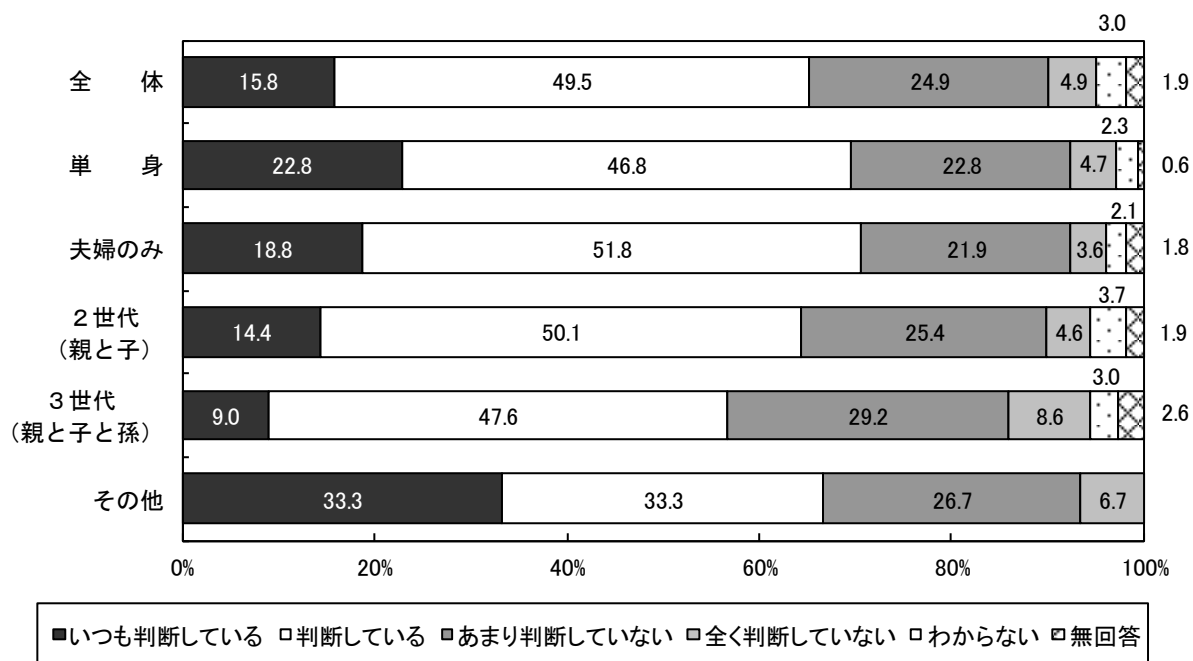
(人)

※無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「いつも判断している」「判断している」を合わせた割合は、夫婦のみ（70.6%）で高くなっている。

図 4.4-6 安全な食生活を送ることについての判断の程度（家族構成別）



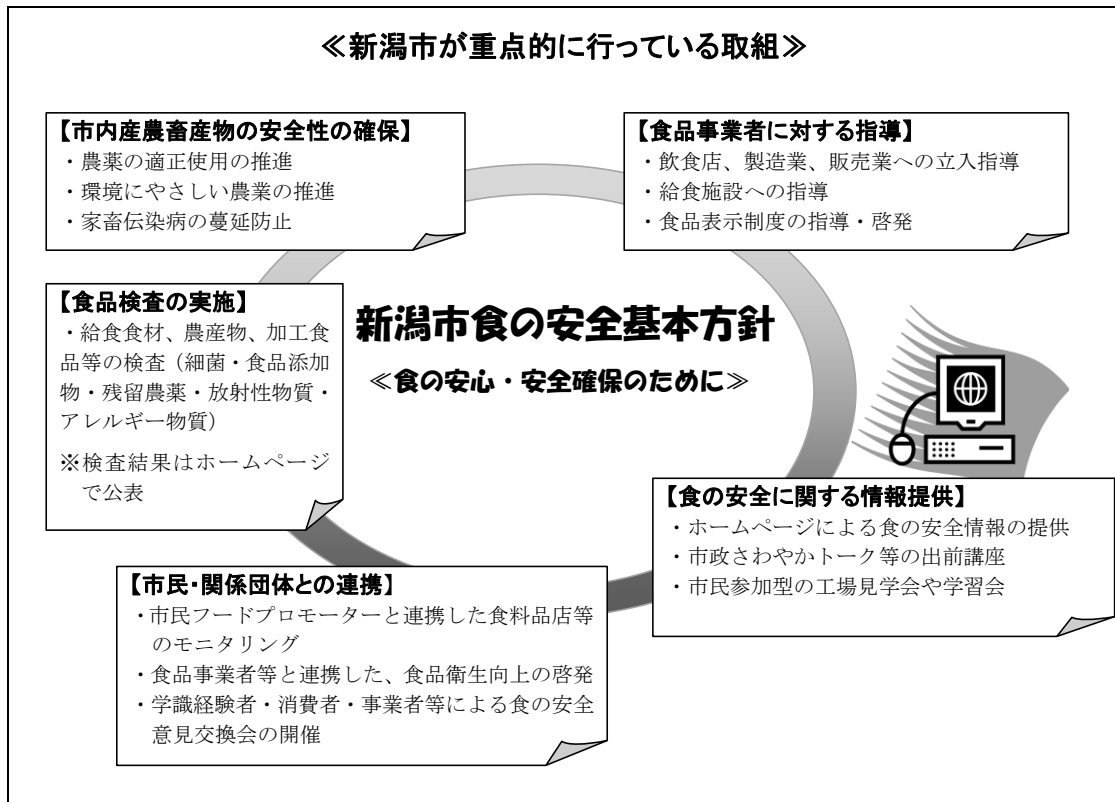
全体	単身	夫婦のみ	2世代 (親と子)	3世代 (親と子と孫)	その他	無回答
1,565	171	384	737	233	15	25

(人)

※無回答者のグラフは省略した。

(5) 新潟市における食の安心・安全の確保に対する取組状況

問26 新潟市では、「食の安全基本方針」に基づき、下記のような取組を重点的に行っているところです。あなたは、新潟市における食の安心・安全の確保に対する取組が、十分に行われていると感じていますか。一番近いものをお選びください。(○は1つだけ)

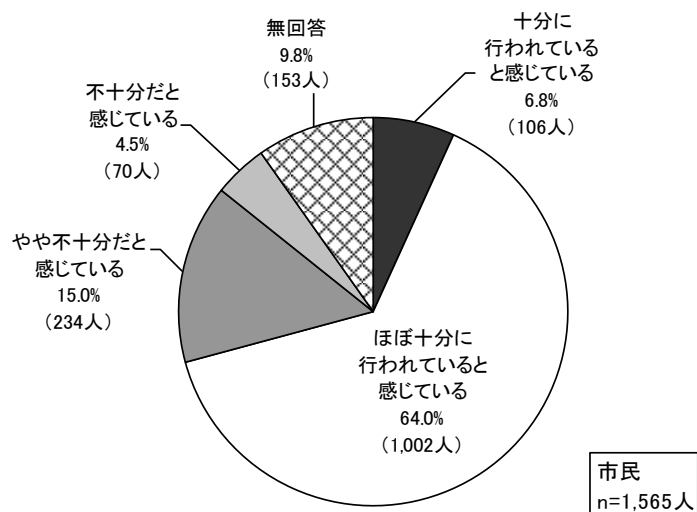


7割強が十分に、もしくはほぼ十分に行われていると感じていると回答

【全体結果】

「十分に行われていると感じている」(6.8%)、「ほぼ十分に行われていると感じている」(64.0%)と回答した人を合わせた割合は7割強(70.8%)となっている。「やや不十分だと感じている」(15.0%)、「不十分だと感じている」(4.5%)と回答した人を合わせた割合は2割弱(19.4%)となっている。

図 4.5-1 新潟市における食の安心・安全の確保に対する取組状況



【性別・年齢別】

「十分に行われていると感じている」「ほぼ十分に行われていると感じている」と回答した人の割合は、40歳代（75.7%）で最も高く、30歳代（66.2%）で最も低くなっている。「やや不十分だと感じている」「不十分だと感じている」と回答した人の割合は、30歳代（28.7%）で最も高くなっている。

性別では、「十分に行われていると感じている」「ほぼ十分に行われていると感じている」を合わせた割合は、各年代で女性の方が男性より高くなっている。

図 4.5-2 新潟市における食の安心・安全の確保に対する取組状況（年齢別・全体）

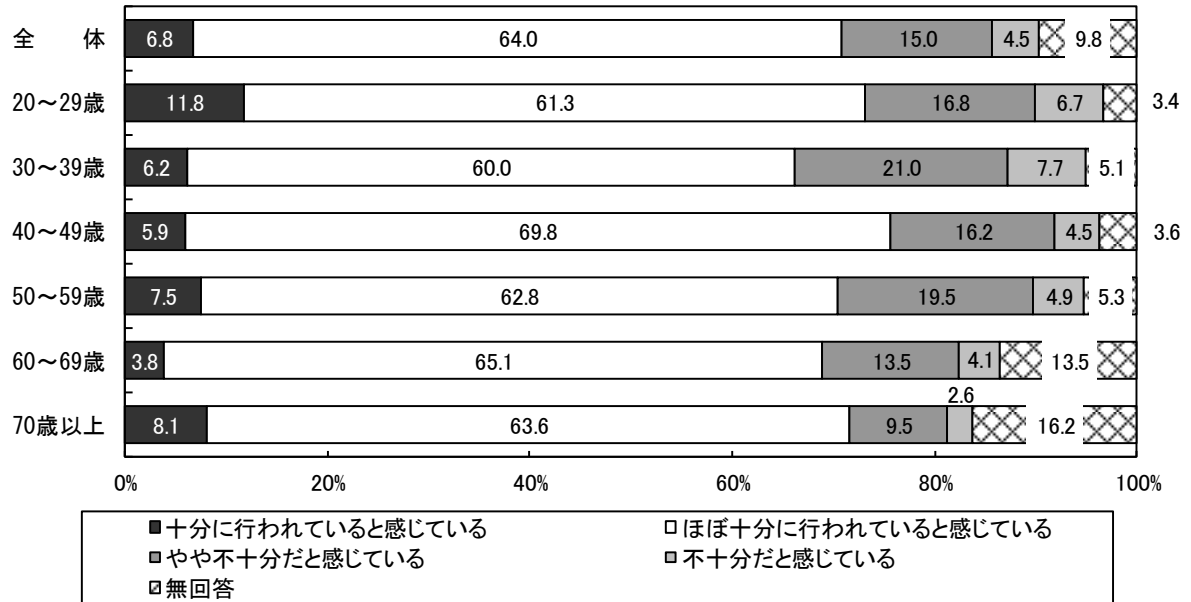
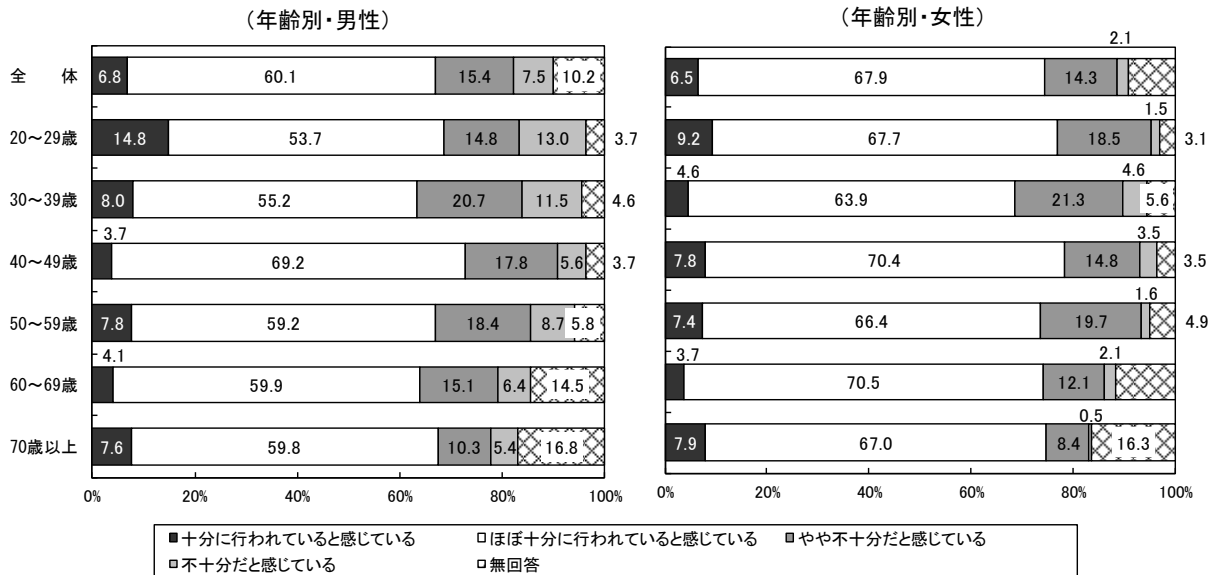


図 4.5-3 新潟市における食の安心・安全の確保に対する取組状況



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,565	119	195	222	226	364	420	19
男性	707	54	87	107	103	172	184	0
女性	817	65	108	115	122	190	215	2

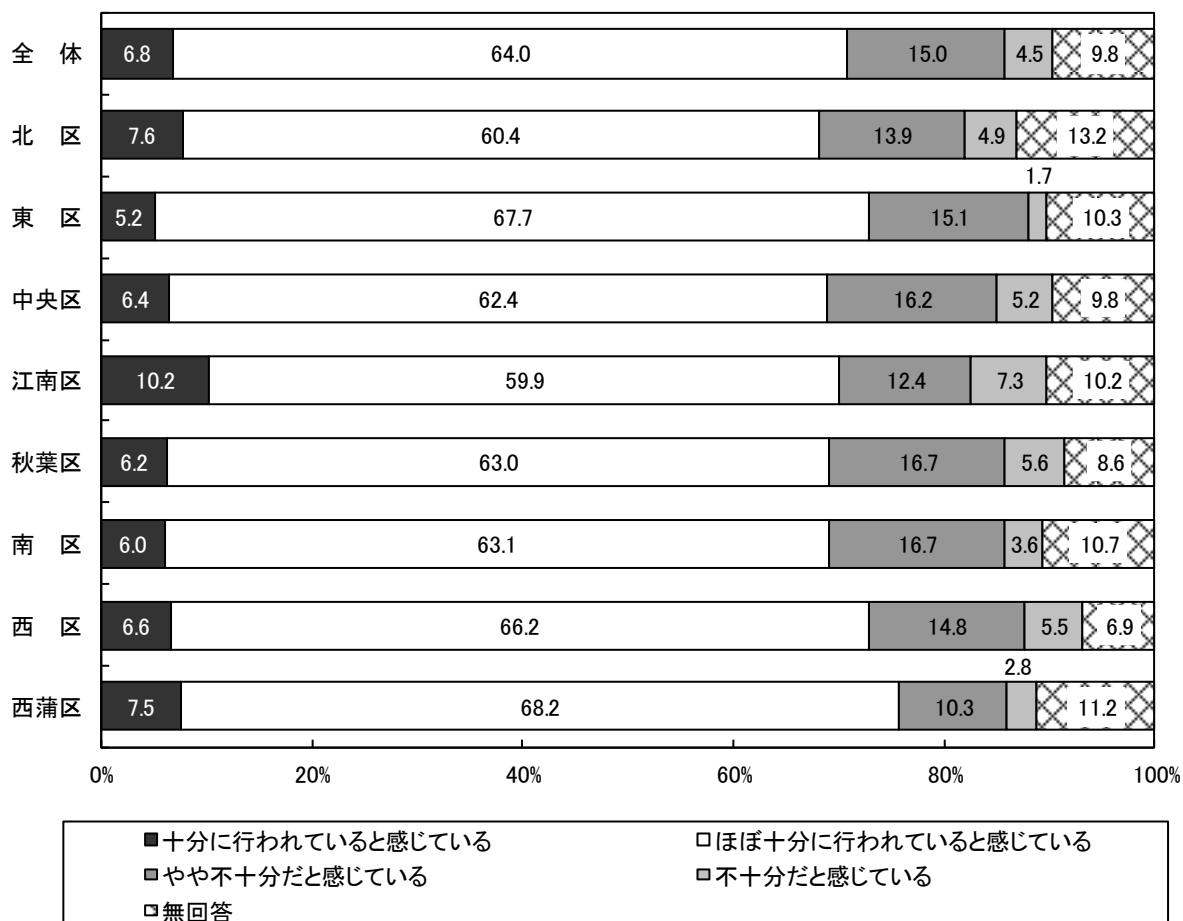
(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「十分に行われていると感じている」「ほぼ十分に行われていると感じている」と回答した人を合わせた割合は、西蒲区（75.7%）で高くなっている。

図 4.5-4 新潟市における食の安心・安全の確保に対する取組状況（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,565	144	291	327	137	162	84	290	107	23

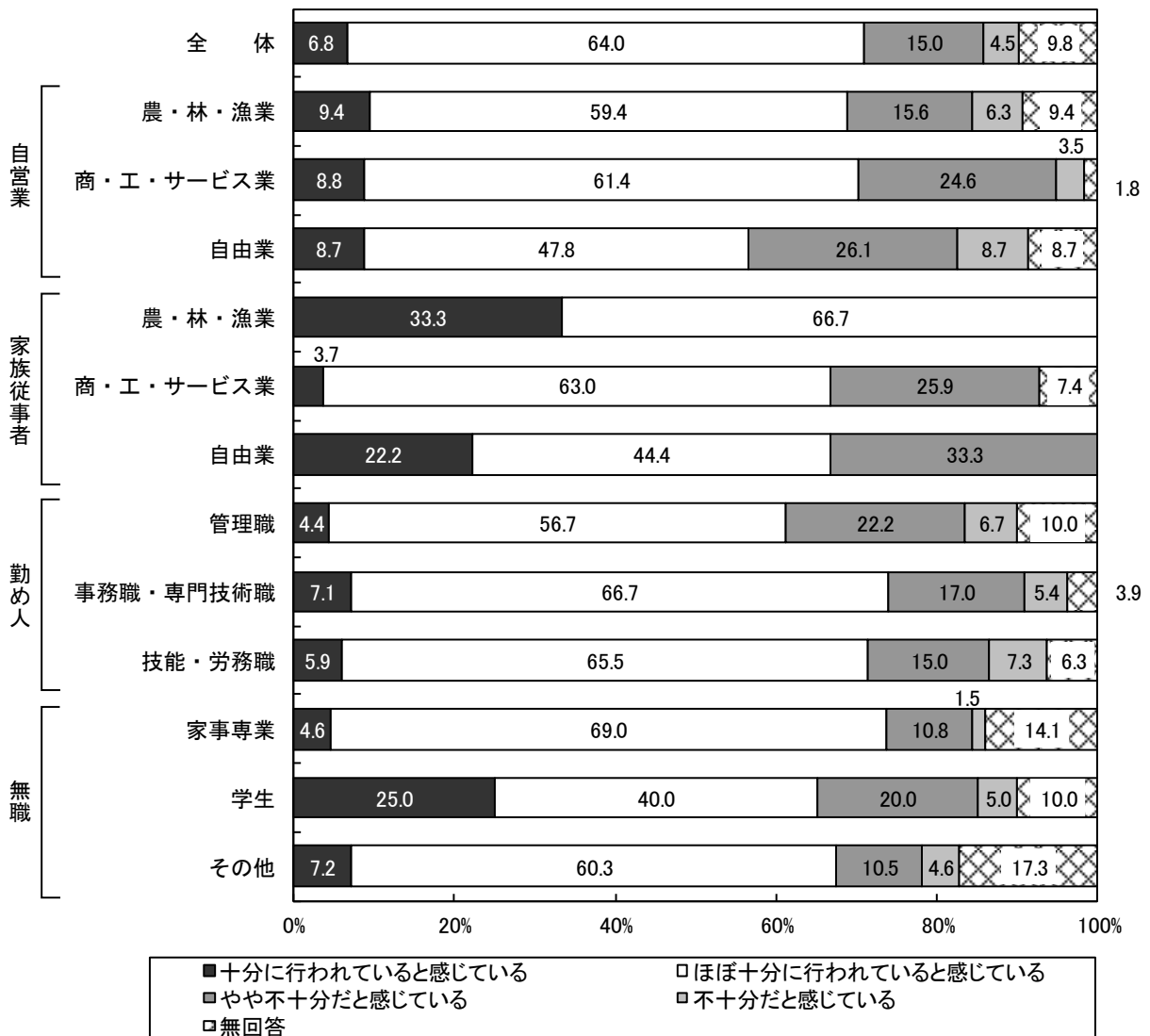
(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 4.5-5 新潟市における食の安心・安全の確保に対する取組状況（職業別）



全体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,565	32	57	23	6	27	9

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
90	336	287	390	20	237	51

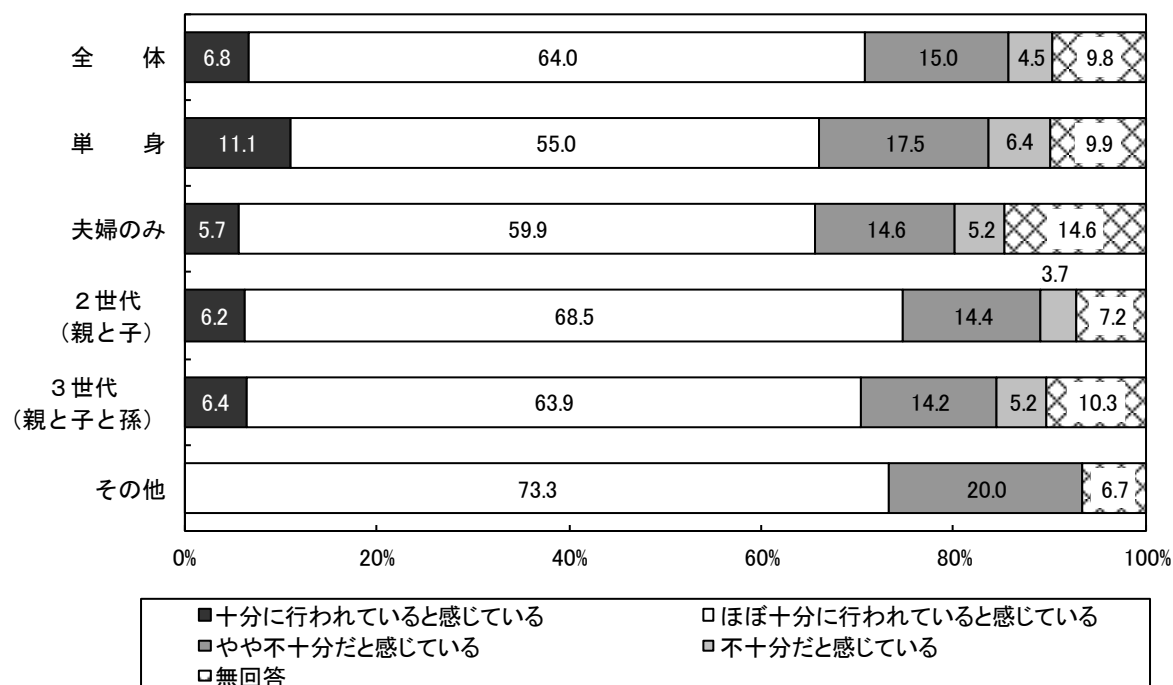
(人)

※無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「十分に行われていると感じている」「ほぼ十分に行われていると感じている」と回答した人を合わせた割合は、2世代（74.8%）で最も高く、夫婦のみ（65.6%）で最も低くなっている。

図 4.5-6 新潟市における食の安心・安全の確保に対する取組状況（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代 (親と子)	3世代 (親と子と孫)	その他	無回答
1,565	171	384	737	233	15	25

(人)

※無回答者のグラフは省略した。

(6) 特に不十分だと感じている取組

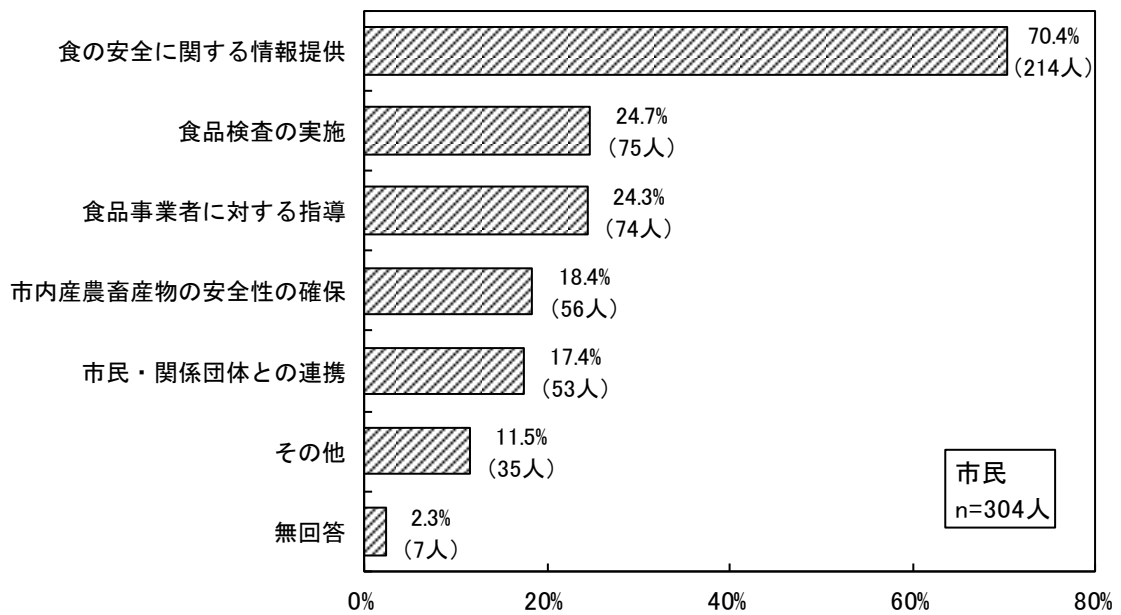
問26-1 あなたが特に不十分だと感じている取組は何ですか。(〇は3つまで)

約7割が「食の安全に関する情報提供」と回答

【全体結果】

特に不十分だと感じている取組については、「食の安全に関する情報提供」(70.4%)と回答した人が最も多く、以下「食品検査の実施」(24.7%)、「食品事業者に対する指導」(24.3%)、「市内産農畜産物の安全性の確保」(18.4%)、「市民・関係団体との連携」(17.4%)となっている。

図 4.6 特に不十分だと感じている取組



【性別・年齢別】

各年代とも、「食の安全に関する情報提供」の割合が高くなっている。

表 5.1 特に不十分だと感じている取組（年齢別・全体）

	対象者	食の安全に関する情報提供	食品検査の実施	食品事業者に対する指導	市内産農畜産物の安全性の確保	市民・関係団体との連携	その他	無回答
計	304	70.4	24.7	24.3	18.4	17.4	11.5	2.3
20～29歳	28	57.1	7.1	10.7	7.1	17.9	32.1	0.0
30～39歳	56	76.8	26.8	26.8	14.3	16.1	14.3	0.0
40～49歳	46	76.1	30.4	26.1	17.4	17.4	13.0	2.2
50～59歳	55	67.3	23.6	20.0	27.3	18.2	10.9	1.8
60～69歳	64	70.3	25.0	31.3	21.9	18.8	3.1	3.1
70歳以上	51	68.6	27.5	19.6	13.7	13.7	7.8	5.9
年齢不明	4	75.0	25.0	75.0	50.0	50.0	0.0	0.0

対象者：人/回答：%

表 5.2 特に不十分だと感じている取組（年齢別・男性）

	対象者	食の安全に関する情報提供	食品検査の実施	食品事業者に対する指導	市内産農畜産物の安全性の確保	市民・関係団体との連携	その他	無回答
計	162	67.9	22.8	25.9	12.3	16.7	16.7	2.5
20～29歳	15	46.7	6.7	6.7	13.3	20.0	53.3	0.0
30～39歳	28	78.6	14.3	25.0	0.0	14.3	21.4	0.0
40～49歳	25	72.0	24.0	32.0	16.0	8.0	24.0	0.0
50～59歳	28	71.4	21.4	14.3	21.4	21.4	10.7	3.6
60～69歳	37	56.8	27.0	40.5	16.2	24.3	5.4	5.4
70歳以上	29	75.9	34.5	24.1	6.9	10.3	6.9	3.4
年齢不明	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

対象者：人/回答：%

表 5.3 特に不十分だと感じている取組（年齢別・女性）

	対象者	食の安全に関する情報提供	食品検査の実施	食品事業者に対する指導	市内産農畜産物の安全性の確保	市民・関係団体との連携	その他	無回答
計	134	74.6	27.6	21.6	25.4	17.9	5.2	0.7
20～29歳	13	69.2	7.7	15.4	0.0	15.4	7.7	0.0
30～39歳	28	75.0	39.3	28.6	28.6	17.9	7.1	0.0
40～49歳	21	81.0	38.1	19.0	19.0	28.6	0.0	4.8
50～59歳	26	61.5	26.9	26.9	34.6	15.4	11.5	0.0
60～69歳	27	88.9	22.2	18.5	29.6	11.1	0.0	0.0
70歳以上	19	68.4	21.1	15.8	26.3	21.1	5.3	0.0
年齢不明	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

対象者：人/回答：%

(7) 食の安全に関して必要としている情報

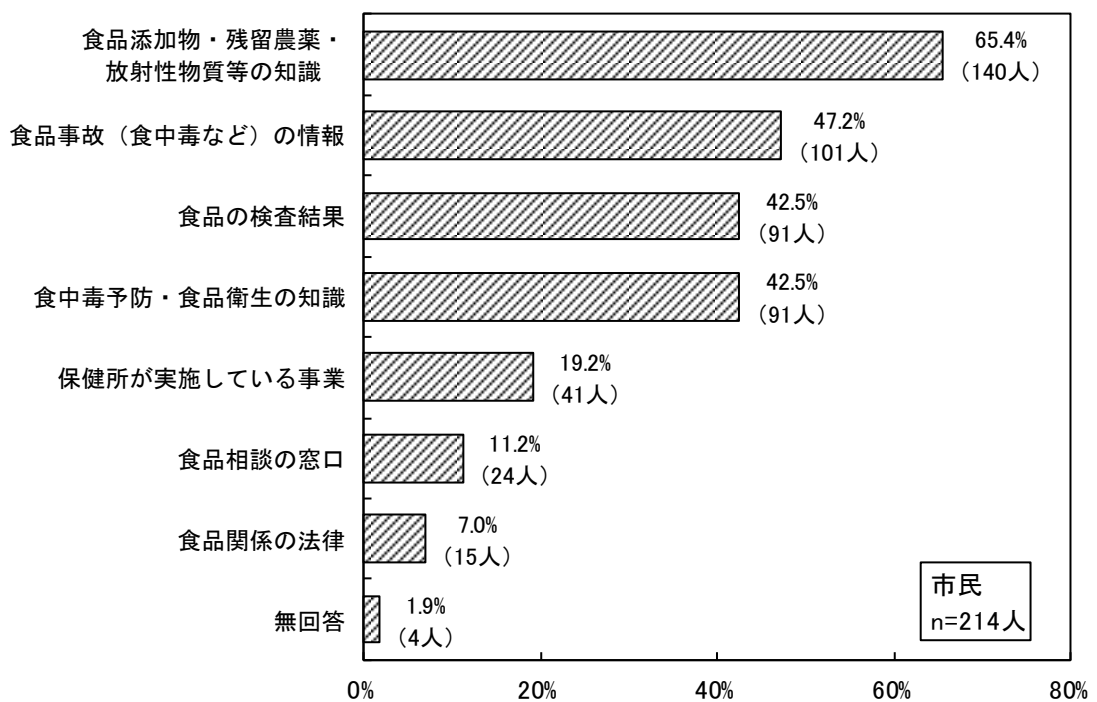
問26-1 どのような情報が必要ですか。(〇は3つまで)

7割弱が「食品添加物・残留農薬・放射性物質等の知識」と回答

【全体結果】

食の安全に関する情報提供が特に不十分だと感じている人が必要としている情報については、「食品添加物・残留農薬・放射性物質等の知識」(65.4%)と回答した人が最も多く、以下「食品事故(食中毒など)の情報」(47.2%)、「食品の検査結果」「食中毒予防・食品衛生の知識」(いずれも42.5%)となっている。

図4.7 食の安全に関して必要としている情報



【性別・年齢別】

20歳代では「食品添加物・残留農薬・放射性物質等の知識」「食品事故（食中毒など）の情報」が同率で最も高く、30歳以上では「食品添加物・残留農薬・放射性物質等の知識」と回答した人の割合が最も高くなっている。

表 6.1 食の安全に関して必要としている情報（年齢別・全体）

	対象者	食品添加物・残留農薬・放射性物質等の知識	食品事故（食中毒など）の情報	食品の検査結果	食中毒予防・食品衛生の知識	保健所が実施している事業	食品相談の窓口	食品関係の法律	無回答
計	214	65.4	47.2	42.5	42.5	19.2	11.2	7.0	1.9
20～29歳	16	62.5	62.5	31.3	56.3	0.0	0.0	12.5	0.0
30～39歳	43	67.4	48.8	30.2	41.9	18.6	7.0	11.6	2.3
40～49歳	35	68.6	37.1	40.0	42.9	22.9	14.3	2.9	2.9
50～59歳	37	59.5	43.2	51.4	48.6	13.5	13.5	2.7	2.7
60～69歳	45	68.9	46.7	37.8	42.2	33.3	11.1	8.9	2.2
70歳以上	35	62.9	51.4	60.0	34.3	14.3	17.1	5.7	0.0
年齢不明	3	66.7	66.7	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

対象者：人/回答：%

表 6.2 食の安全に関して必要としている情報（年齢別・男性）

	対象者	食品添加物・残留農薬・放射性物質等の知識	食品事故（食中毒など）の情報	食品の検査結果	食中毒予防・食品衛生の知識	保健所が実施している事業	食品相談の窓口	食品関係の法律	無回答
計	110	57.3	47.3	39.1	50.0	21.8	10.9	6.4	2.7
20～29歳	7	57.1	85.7	14.3	71.4	0.0	0.0	0.0	0.0
30～39歳	22	59.1	72.7	31.8	54.5	18.2	9.1	9.1	0.0
40～49歳	18	61.1	33.3	27.8	55.6	27.8	11.1	0.0	5.6
50～59歳	20	45.0	40.0	55.0	50.0	15.0	15.0	5.0	5.0
60～69歳	21	61.9	33.3	23.8	42.9	42.9	14.3	9.5	4.8
70歳以上	22	59.1	40.9	63.6	40.9	13.6	9.1	9.1	0.0
年齢不明	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

対象者：人/回答：%

表 6.3 食の安全に関して必要としている情報（年齢別・女性）

	対象者	食品添加物・残留農薬・放射性物質等の知識	食品事故（食中毒など）の情報	食品の検査結果	食中毒予防・食品衛生の知識	保健所が実施している事業	食品相談の窓口	食品関係の法律	無回答
計	100	74.0	47.0	45.0	35.0	17.0	12.0	8.0	1.0
20～29歳	9	66.7	44.4	44.4	44.4	0.0	0.0	22.2	0.0
30～39歳	21	76.2	23.8	28.6	28.6	19.0	4.8	14.3	4.8
40～49歳	17	76.5	41.2	52.9	29.4	17.6	17.6	5.9	0.0
50～59歳	16	75.0	50.0	43.8	43.8	12.5	12.5	0.0	0.0
60～69歳	24	75.0	58.3	50.0	41.7	25.0	8.3	8.3	0.0
70歳以上	13	69.2	69.2	53.8	23.1	15.4	30.8	0.0	0.0
年齢不明	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

対象者：人/回答：%

5 健康づくりに対する意識や状況

(1) 自身の現在の健康状態

問27 あなたはご自身の現在の健康状態をどのように考えていますか。(○は1つだけ)

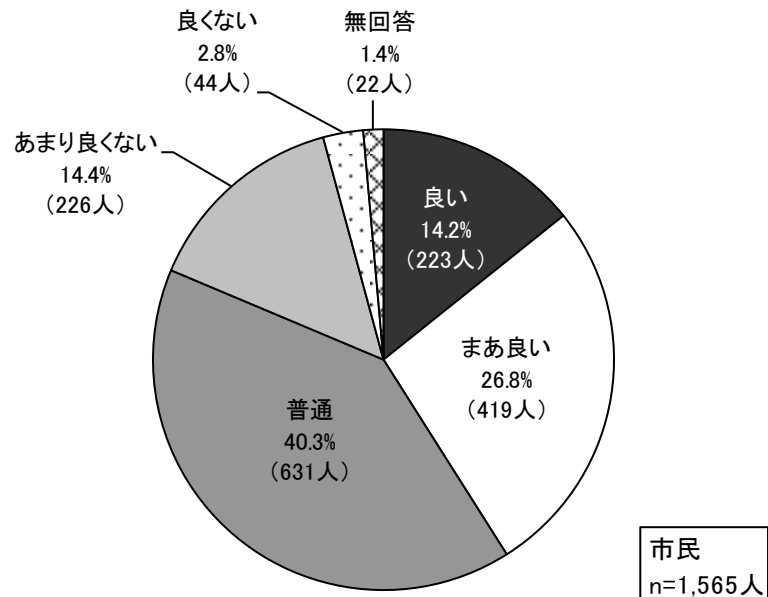
4割強が「良い」「まあ良い」と回答

【全体結果】

「良い」(14.2%)、「まあ良い」(26.8%)と回答した人を合わせた、健康状態が良いと感じている人の割合は4割強(41.0%)となっている。

一方、「あまり良くない」(14.4%)、「良くない」(2.8%)と回答した人を合わせた、健康状態が良くないと感じている人の割合は2割弱(17.3%)となっている。

図 5.1-1 自身の現在の健康状態



【性別・年齢別】

「良い」「まあ良い」と回答した人を合わせた割合は、20歳代（59.7%）が最も高く、約6割となっている。

一方、「あまり良くない」「良くない」と回答した人を合わせた割合は、他の年代に比べ20歳代と70歳以上（いずれも21.0%）でやや高くなっている。

図 5.1-2 自身の現在の健康状態（年齢別・全体）

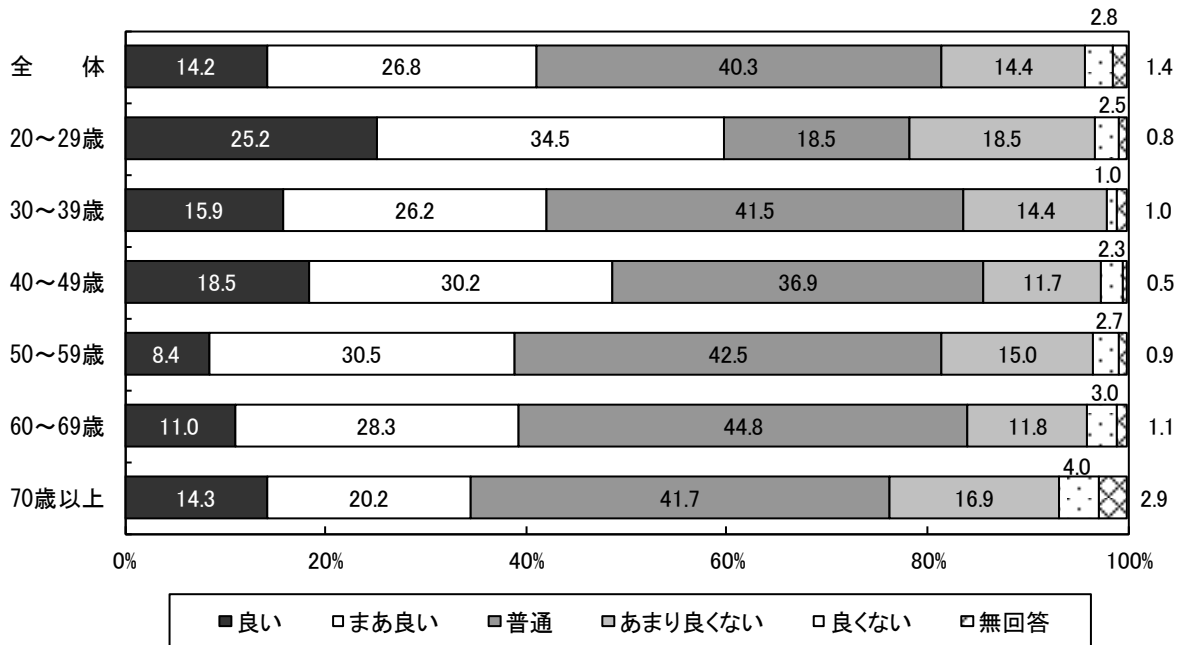
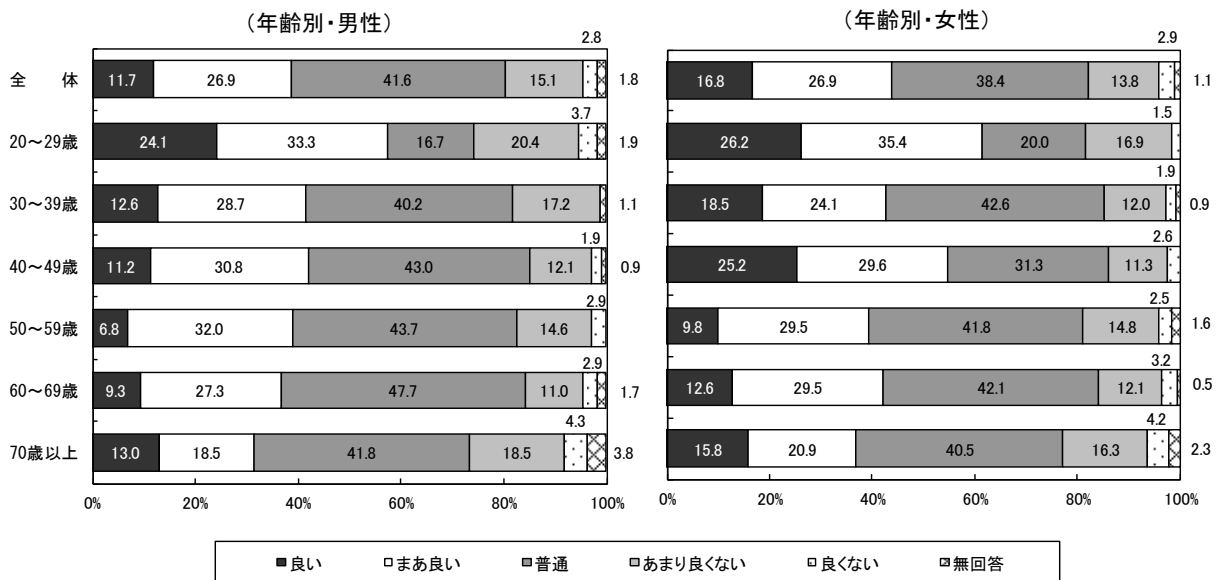


図 5.1-3 自身の現在の健康状態



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,565	119	195	222	226	364	420	19
男性	707	54	87	107	103	172	184	0
女性	817	65	108	115	122	190	215	2

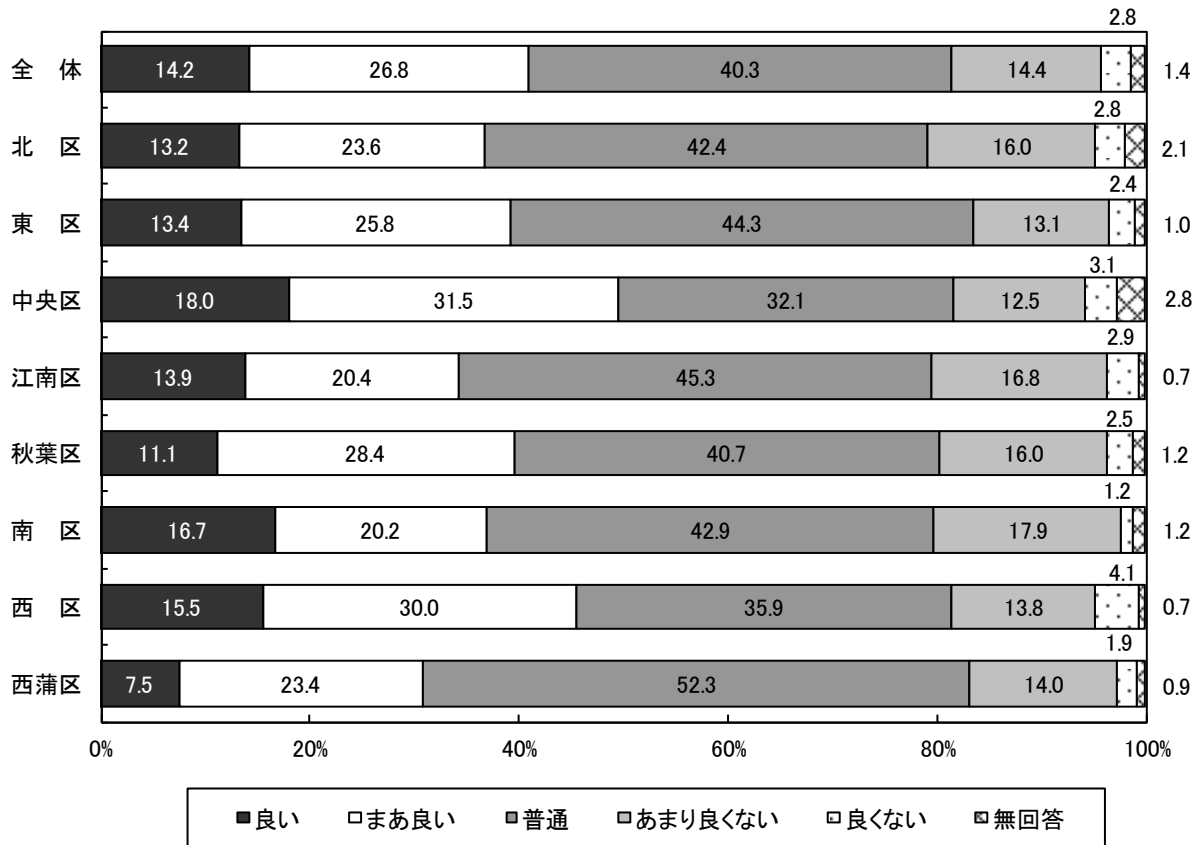
(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「良い」「まあ良い」と回答した人を合わせた割合は、中央区（49.5%）で最も高くなっている。一方、「あまり良くない」「良くない」を合わせた割合では、江南区（19.7%）が最も高くなっている。

図 5.1-4 自身の現在の健康状態（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,565	144	291	327	137	162	84	290	107	23

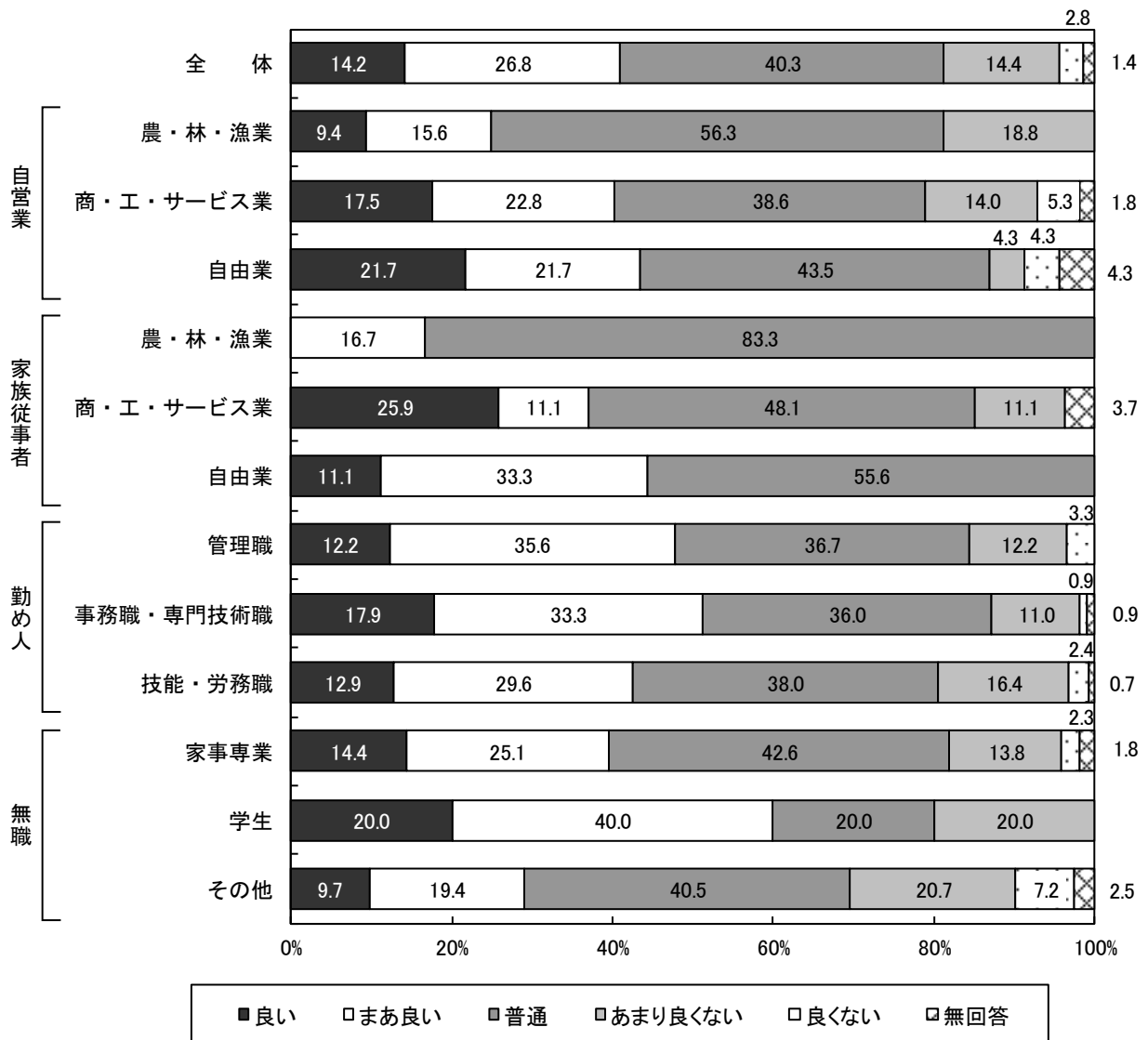
(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 5.1-5 自身の現在の健康状態（職業別）



全体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,565	32	57	23	6	27	9

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
90	336	287	390	20	237	51

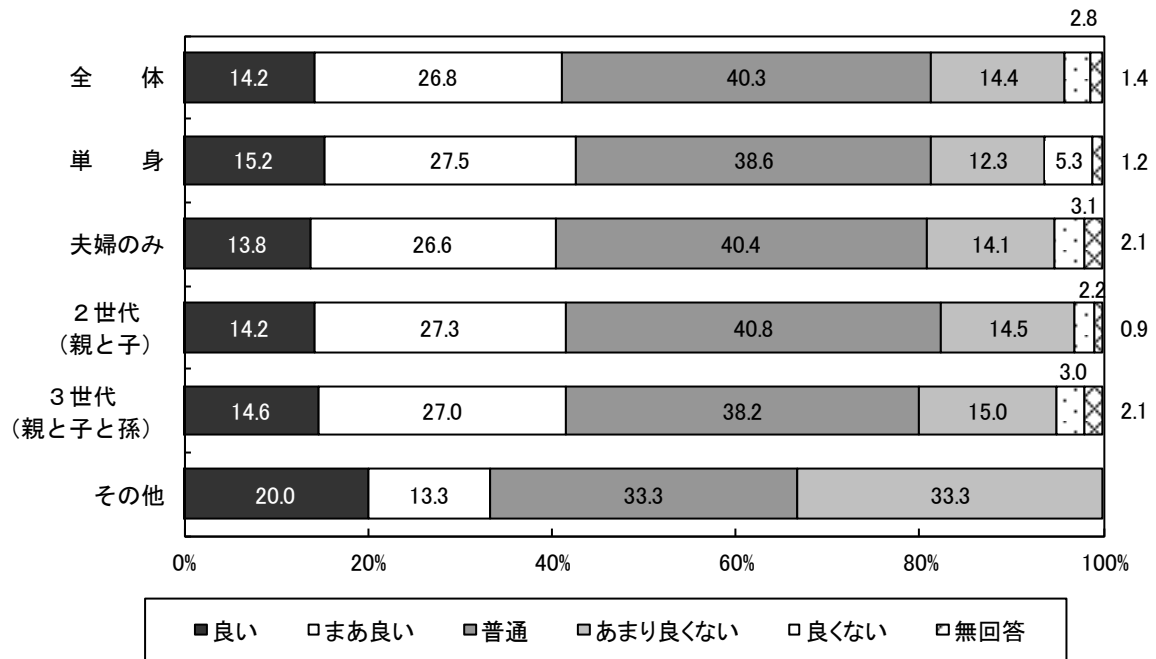
(人)

※無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「良い」「まあ良い」を合わせた割合は、単身（42.7%）で最も高く、一方、「あまり良くない」「良くない」を合わせた割合は、その他（33.3%）で最も高くなっている。

図 5.1-6 自身の現在の健康状態（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代 (親と子)	3世代 (親と子と孫)	その他	無回答
1,565	171	384	737	233	15	25

(人)

※無回答者のグラフは省略した。

(2) 睡眠による休養

問28 あなたはいつもとっている睡眠で休養が十分とれていると思いますか。(○は1つだけ)

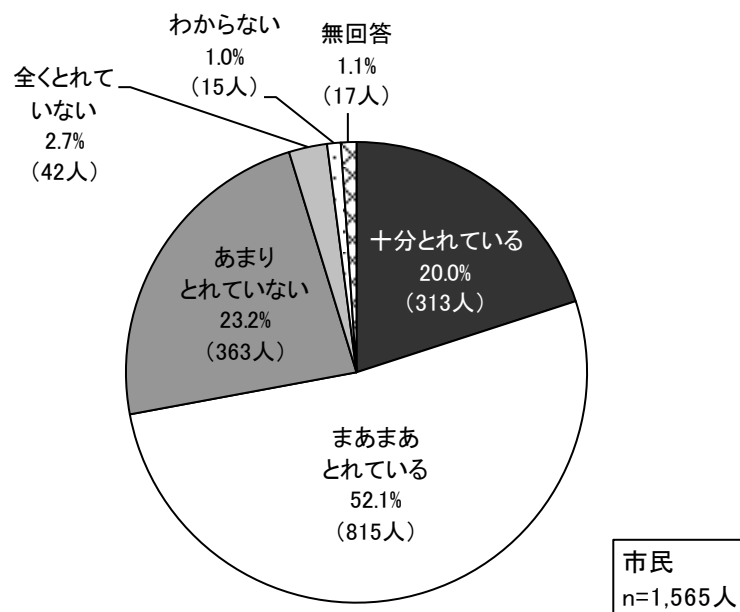
7割強が睡眠による休養がとれていると回答

【全体結果】

睡眠による休養が「十分とれている」(20.0%)、「まあまあとれている」(52.1%)と回答した人を合わせた割合は7割強(72.1%)となっている。

一方、「あまりとれていない」(23.2%)、「全くとれていない」(2.7%)と回答した人を合わせた割合は3割弱(25.9%)となっている。

図 5.2-1 睡眠による休養



【性別・年齢別】

「十分とれている」「まあまあとれている」を合わせた割合は、70歳以上で高く、8割を超えている。

性別では、50歳代～70歳以上で、男性の方が「十分とれている」「まあまあとれている」を合わせた割合が高くなっている。

図 5.2-2 睡眠による休養（年齢別・全体）

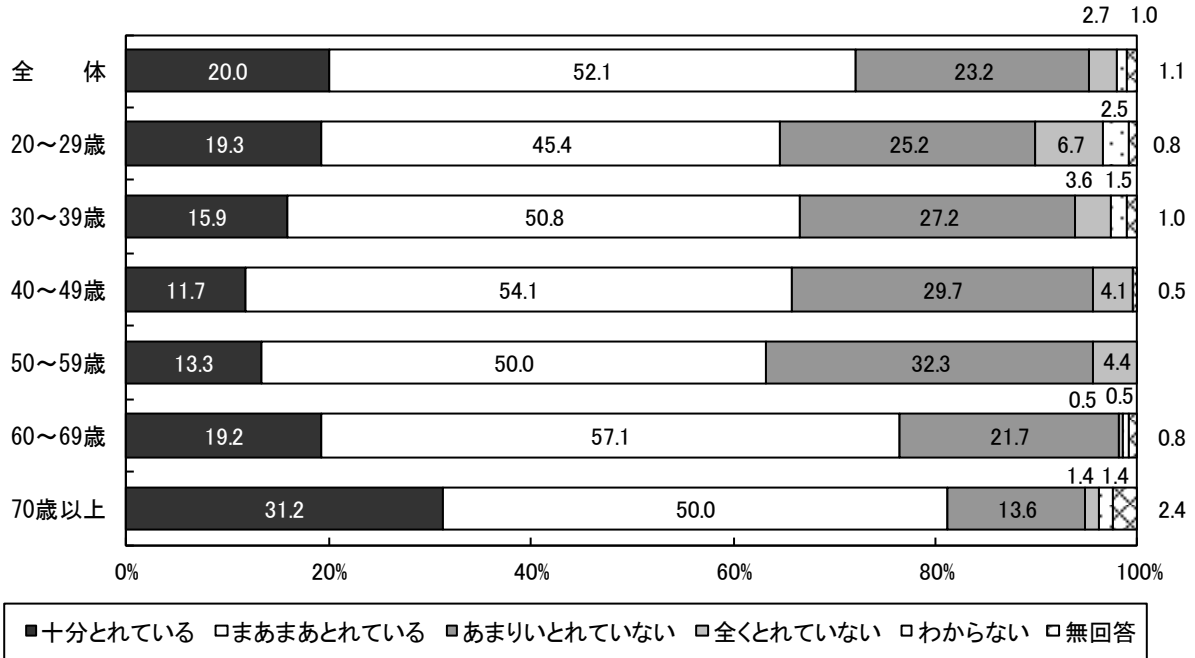
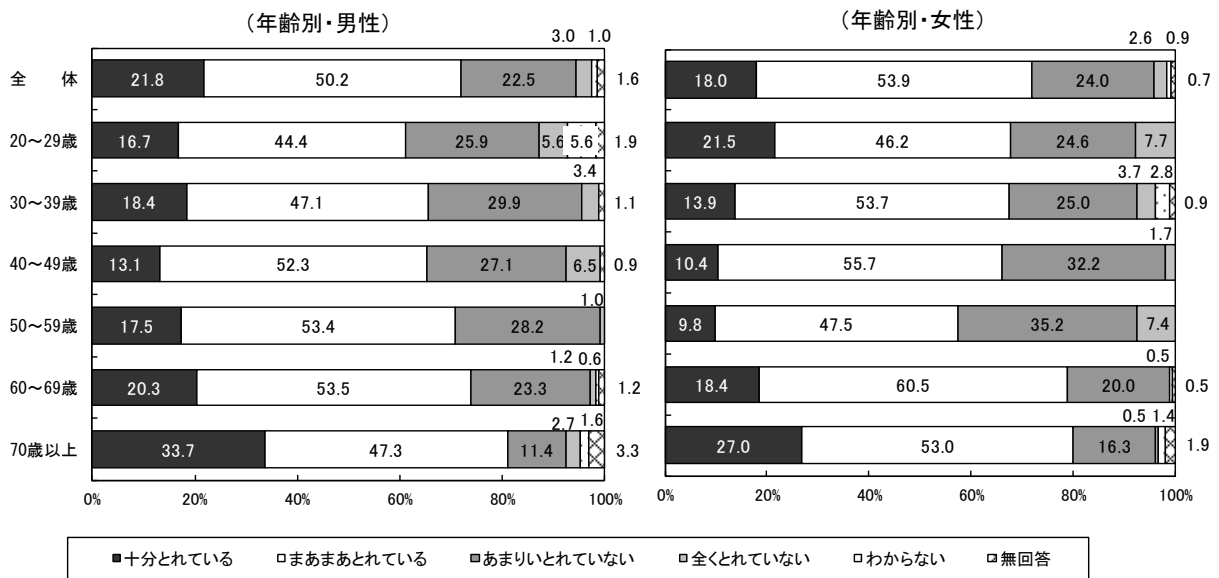


図 5.2-3 睡眠による休養



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,565	119	195	222	226	364	420	19
男性	707	54	87	107	103	172	184	0
女性	817	65	108	115	122	190	215	2

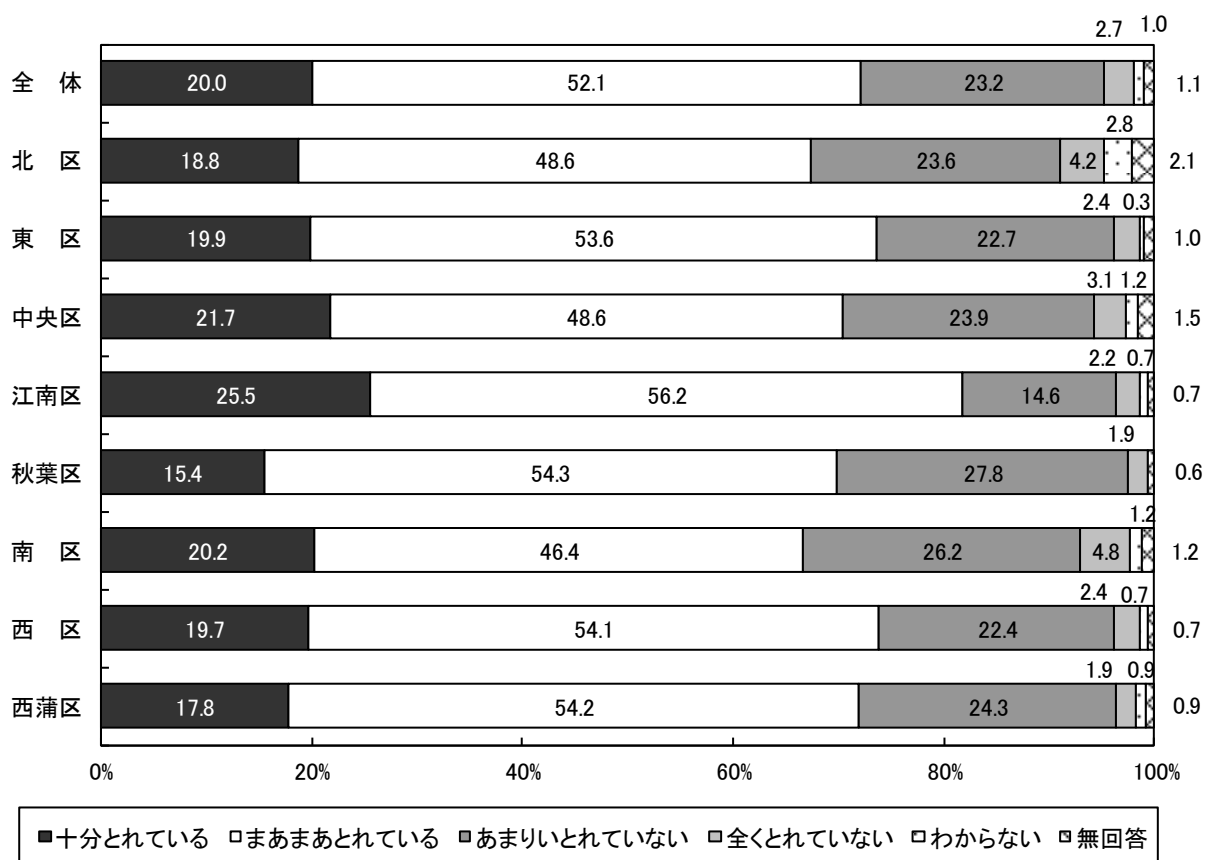
(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「十分とれている」「まあまあとれている」を合わせた割合は、江南区（81.8%）で最も高くなっている。

図 5.2-4 睡眠による休養（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,565	144	291	327	137	162	84	290	107	23

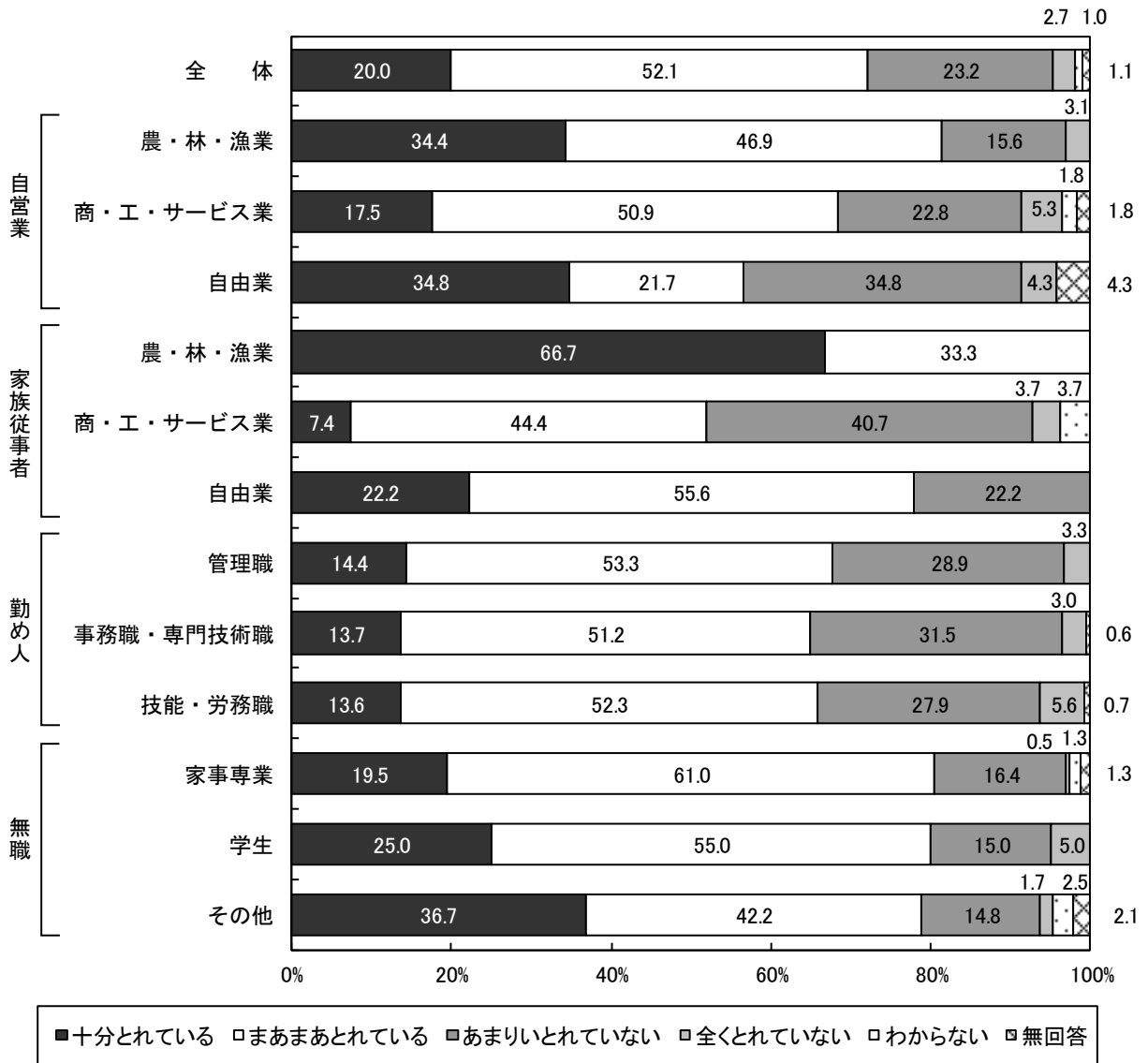
(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 5.2-5 睡眠による休養（職業別）



全体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,565	32	57	23	6	27	9

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
90	336	287	390	20	237	51

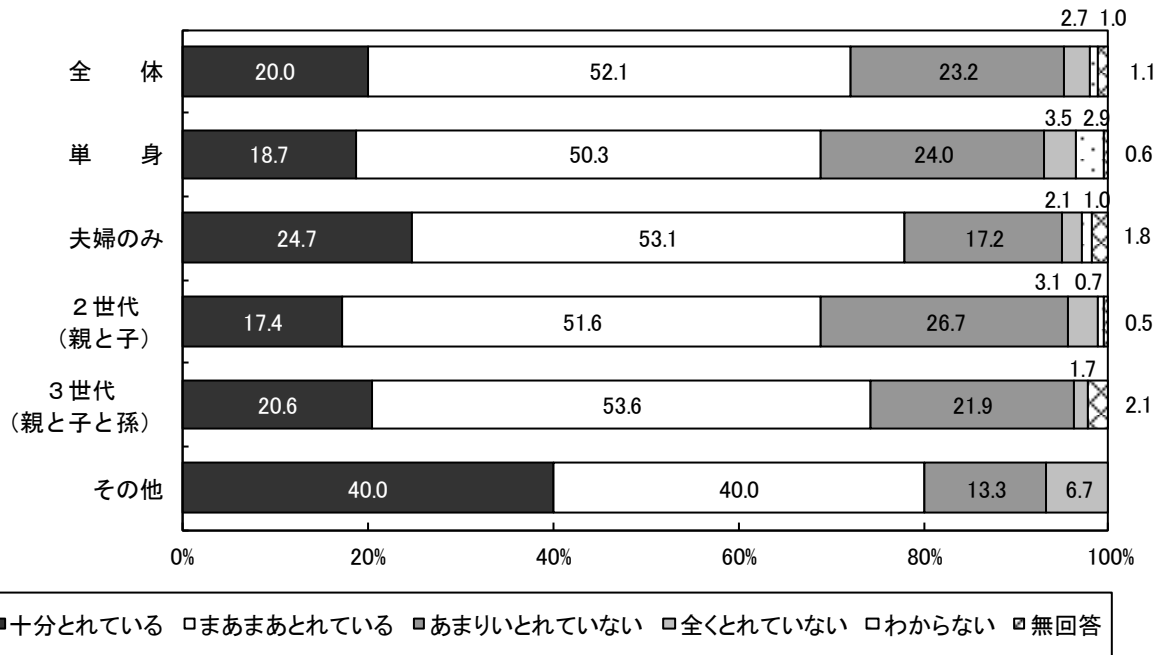
(人)

※無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「十分とれている」「まあまあとれている」を合わせた割合は、その他（80.0%）で最も高くなっている。

図 5.2-6 睡眠による休養（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代 (親と子)	3世代 (親と子と孫)	その他	無回答
1,565	171	384	737	233	15	25

(人)

※無回答者のグラフは省略した。

(3) ストレスがある時の対処法

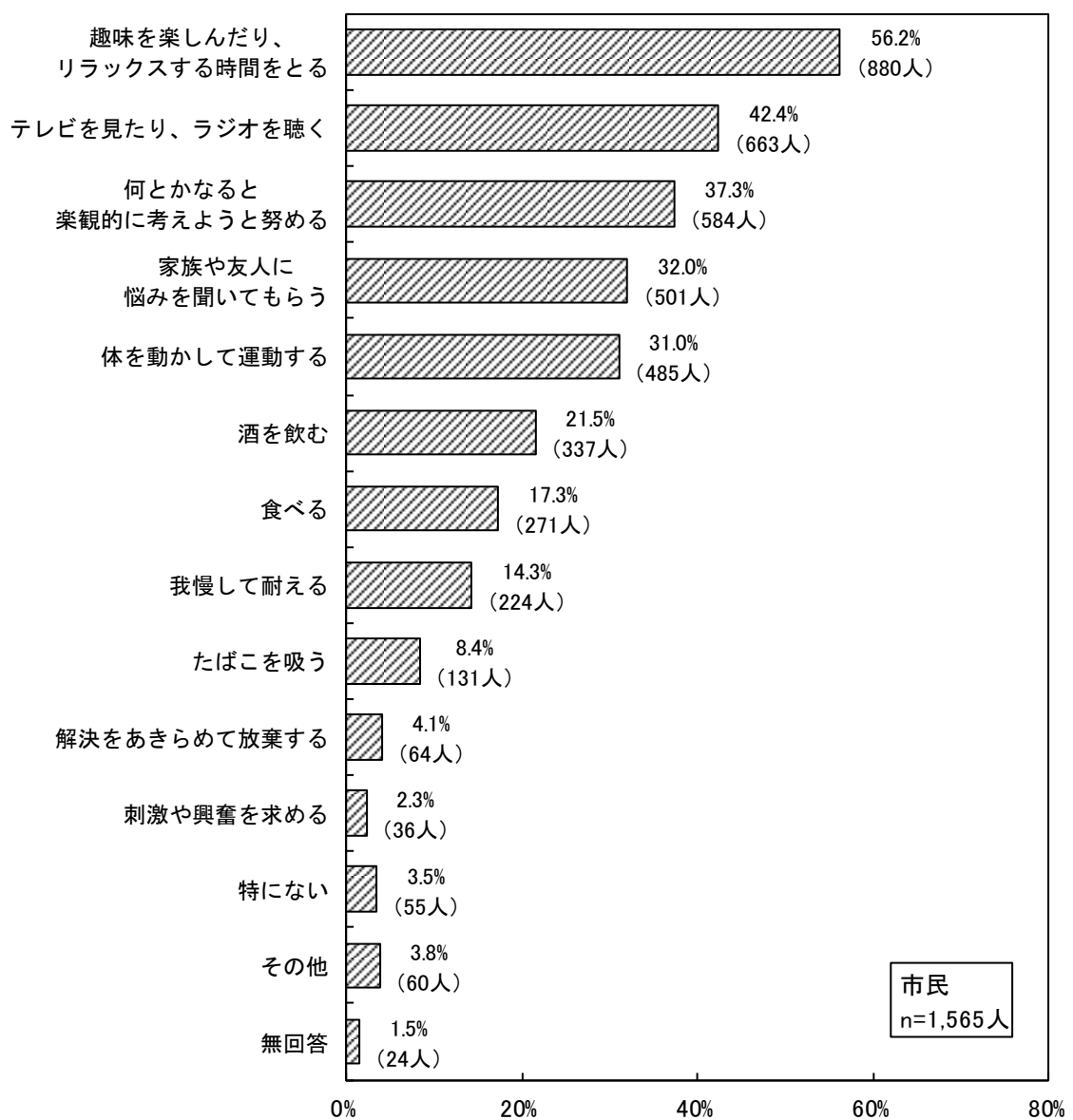
問29 ストレスがある時の対処法は次のうちどれですか。(〇はいくつでも)

6割弱が「趣味を楽しんだり、リラックスする時間をとる」と回答

【全体結果】

ストレスがある時の対処法については、「趣味を楽しんだり、リラックスする時間をとる」と回答した人が6割弱(56.2%)と最も多く、以下「テレビを見たり、ラジオを聴く」(42.4%)、「何とかすると楽観的に考えようと努める」(37.3%)、「家族や友人に悩みを聞いてもらう」(32.0%)、「体を動かして運動する」(31.0%)と続いている。

図5.3 ストレスがある時の対処法



【性別・年齢別】

70歳以上では「テレビを見たり、ラジオを聴く」と回答した人の割合が最も高く、60歳代以下では「趣味を楽しんだり、リラックスする時間をとる」と回答した人の割合が最も高くなっている。

性別では「我慢して耐える」「たばこを吸う」の割合は、各年代とも、男性の方が高くなっている。「何とかなると楽観的に考えようとする」「家族や友人に悩みを聞いてもらう」「食べる」の割合は、各年代とも、女性の方が高くなっている。

表 7.1 ストレスがある時の対処法（年齢別・全体）

	対象者	趣味を楽しんだり、リラックスする時間をとる	テレビを見たり、ラジオを聴く	何とかなると楽観的に考えようとする	家族や友人に悩みを聞いてもらう	体を動かして運動する	酒を飲む	食べる	我慢して耐える	たばこを吸う	解決をあきらめて放棄する	刺激や興奮を求める	特にな	その他	無回答
計	1565	56.2	42.4	37.3	32.0	31.0	21.5	17.3	14.3	8.4	4.1	2.3	3.5	3.8	1.5
20～29歳	119	79.8	33.6	31.9	46.2	28.6	16.8	30.3	16.0	7.6	7.6	11.8	0.8	10.1	0.8
30～39歳	195	64.6	33.3	29.2	43.6	25.6	28.7	32.3	20.5	12.8	6.2	4.1	1.5	5.6	2.1
40～49歳	222	62.6	38.3	31.1	35.6	25.7	34.7	25.7	14.9	12.2	4.5	3.6	3.2	5.4	0.0
50～59歳	226	58.8	45.1	42.0	39.4	30.1	31.4	24.3	17.3	10.6	4.0	0.9	1.8	1.8	0.0
60～69歳	364	53.8	44.8	43.4	28.8	32.1	19.2	9.9	11.8	8.8	3.0	0.5	3.3	3.3	1.4
70歳以上	420	42.6	48.1	37.9	19.8	37.1	9.3	5.2	11.2	3.1	3.1	0.5	6.4	2.1	3.1
年齢不明	19	63.2	31.6	42.1	26.3	15.8	21.1	10.5	15.8	5.3	0.0	0.0	5.3	0.0	5.3

対象者：人/回答：%

表 7.2 ストレスがある時の対処法（年齢別・男性）

	対象者	趣味を楽しんだり、リラックスする時間をとる	テレビを見たり、ラジオを聴く	何とかなると楽観的に考えようとする	家族や友人に悩みを聞いてもらう	体を動かして運動する	酒を飲む	食べる	我慢して耐える	たばこを吸う	解決をあきらめて放棄する	刺激や興奮を求める	特にな	その他	無回答
計	707	55.2	38.9	32.8	12.7	33.8	32.0	11.2	17.0	13.6	4.0	3.4	4.7	3.5	2.1
20～29歳	54	74.1	31.5	27.8	20.4	35.2	16.7	16.7	22.2	11.1	5.6	11.1	1.9	9.3	1.9
30～39歳	87	69.0	31.0	25.3	29.9	40.2	40.2	28.7	23.0	20.7	10.3	8.0	1.1	3.4	1.1
40～49歳	107	64.5	40.2	29.9	12.1	24.3	47.7	17.8	16.8	18.7	1.9	5.6	2.8	5.6	0.0
50～59歳	103	59.2	46.6	34.0	11.7	35.0	40.8	15.5	20.4	13.6	1.9	1.0	3.9	1.0	0.0
60～69歳	172	50.0	34.9	37.8	9.9	31.4	33.7	3.5	14.0	15.1	3.5	1.2	5.8	3.5	2.3
70歳以上	184	40.2	43.5	34.2	6.0	37.5	16.8	2.2	13.6	6.5	3.3	1.1	7.6	2.2	4.9
年齢不明	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

対象者：人/回答：%

表 7.3 ストレスがある時の対処法（年齢別・女性）

	対象者	趣味を楽しんだり、リラックスする時間をとる	テレビを見たり、ラジオを聴く	何とかなると楽観的に考えようとする	家族や友人に悩みを聞いてもらう	体を動かして運動する	酒を飲む	食べる	我慢して耐える	たばこを吸う	解決をあきらめて放棄する	刺激や興奮を求める	特にな	その他	無回答
計	817	57.3	44.8	41.2	49.3	28.9	12.7	23.3	12.1	4.0	4.4	1.5	2.1	4.3	1.1
20～29歳	65	84.6	35.4	35.4	67.7	23.1	16.9	41.5	10.8	4.6	9.2	12.3	0.0	10.8	0.0
30～39歳	108	61.1	35.2	32.4	54.6	13.9	19.4	35.2	18.5	6.5	2.8	0.9	1.9	7.4	2.8
40～49歳	115	60.9	36.5	32.2	57.4	27.0	22.6	33.0	13.0	6.1	7.0	1.7	3.5	5.2	0.0
50～59歳	122	59.0	43.4	48.4	63.1	25.4	23.8	32.0	14.8	7.4	5.7	0.8	0.0	2.5	0.0
60～69歳	190	56.8	53.2	47.9	46.3	32.6	6.3	15.8	10.0	3.2	2.6	0.0	1.1	3.2	0.5
70歳以上	215	44.7	50.7	42.8	32.1	38.1	2.3	8.4	9.3	0.5	3.3	0.0	4.2	2.3	1.9
年齢不明	2	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0

対象者：人/回答：%

(4) 1週間に10分以上続けて歩くことの有無

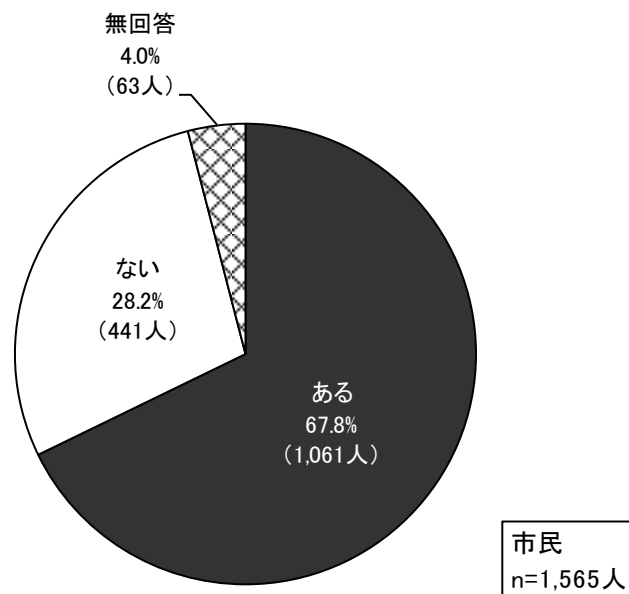
問30 あなたは、平均的な1週間で、10分以上続けて歩くことはありますか。
※ここで歩くとは、仕事や日常生活で歩くこと、ある場所からある場所へ移動すること、あるいは趣味や運動としてのウォーキング、散歩など全てを含みます。(○は1つだけ)

7割弱が1週間に10分以上続けて歩くことが「ある」と回答

【全体結果】

1週間に10分以上続けて歩くことが「ある」と回答した人の割合は7割弱(67.8%)となっている。一方、「ない」と回答した人の割合は3割弱(28.2%)となっている。

図 5.4-1 1週間に10分以上続けて歩くことの有無



【性別・年齢別】

「ある」と回答した人の割合は、20歳代（77.3%）で最も高く、40歳代（61.3%）で最も低くなっている。

性別では、「ある」の割合は、30歳代では女性より男性の方が高くなっている。

図 5.4-2 1週間に10分以上続けて歩くことの有無（年齢別・全体）

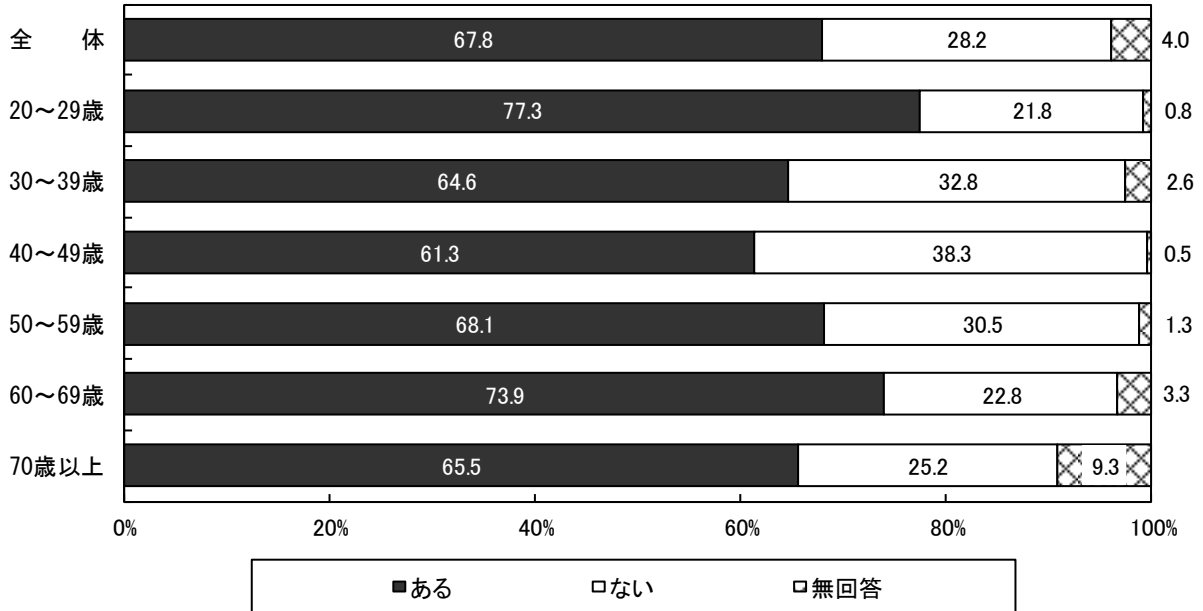
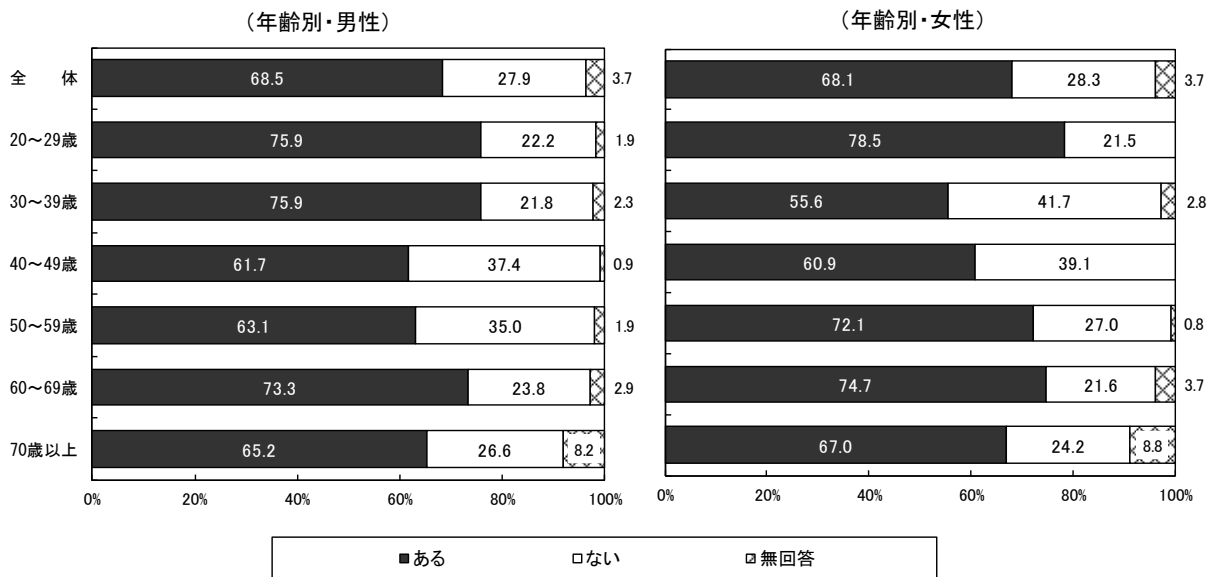


図 5.4-3 1週間に10分以上続けて歩くことの有無



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,565	119	195	222	226	364	420	19
男性	707	54	87	107	103	172	184	0
女性	817	65	108	115	122	190	215	2

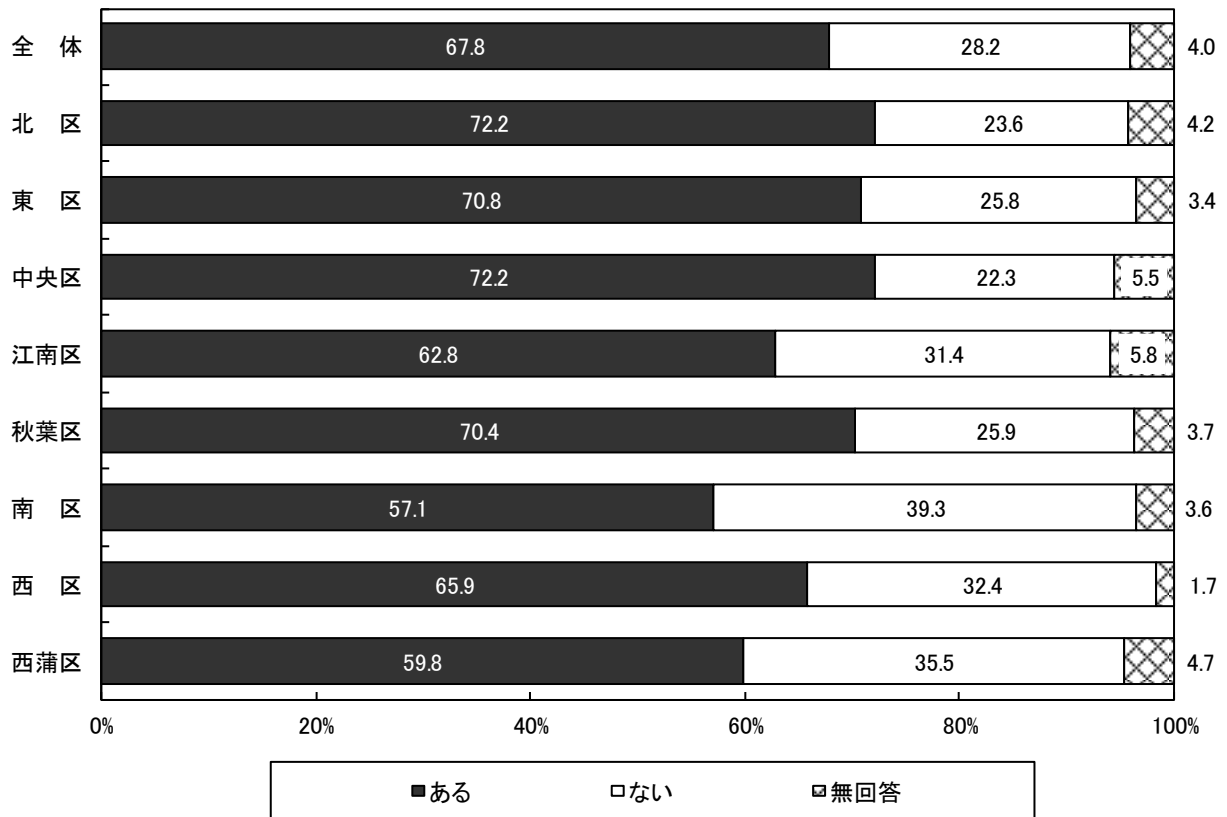
(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「ある」の割合は、北区と中央区（いずれも72.2%）が高く、南区（57.1%）が最も低くなっている。

図 5.4-4 1週間に10分以上続けて歩くことの有無（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,565	144	291	327	137	162	84	290	107	23

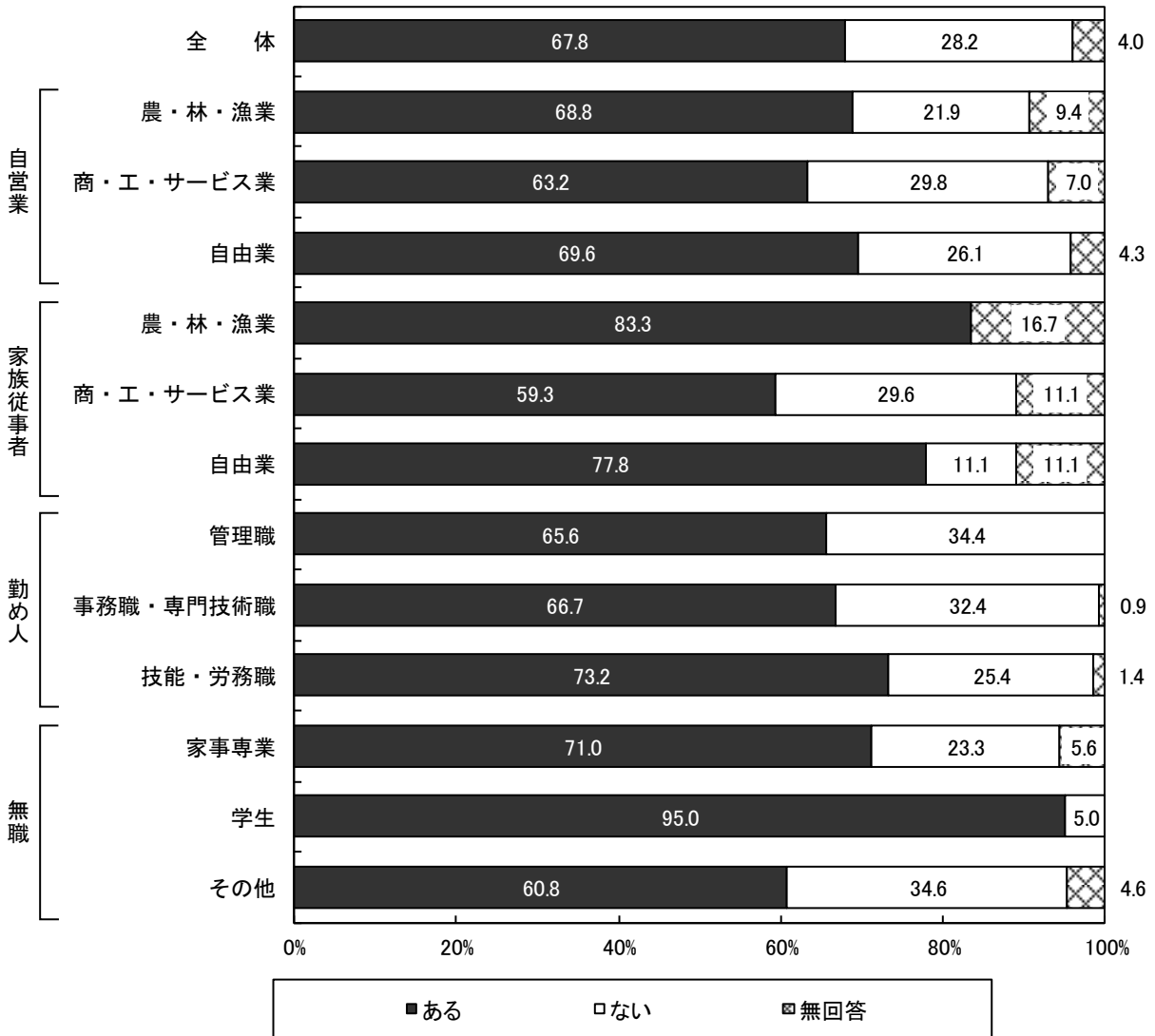
(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 5.4-5 1週間に10分以上続けて歩くことの有無（職業別）



全体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,565	32	57	23	6	27	9

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
90	336	287	390	20	237	51

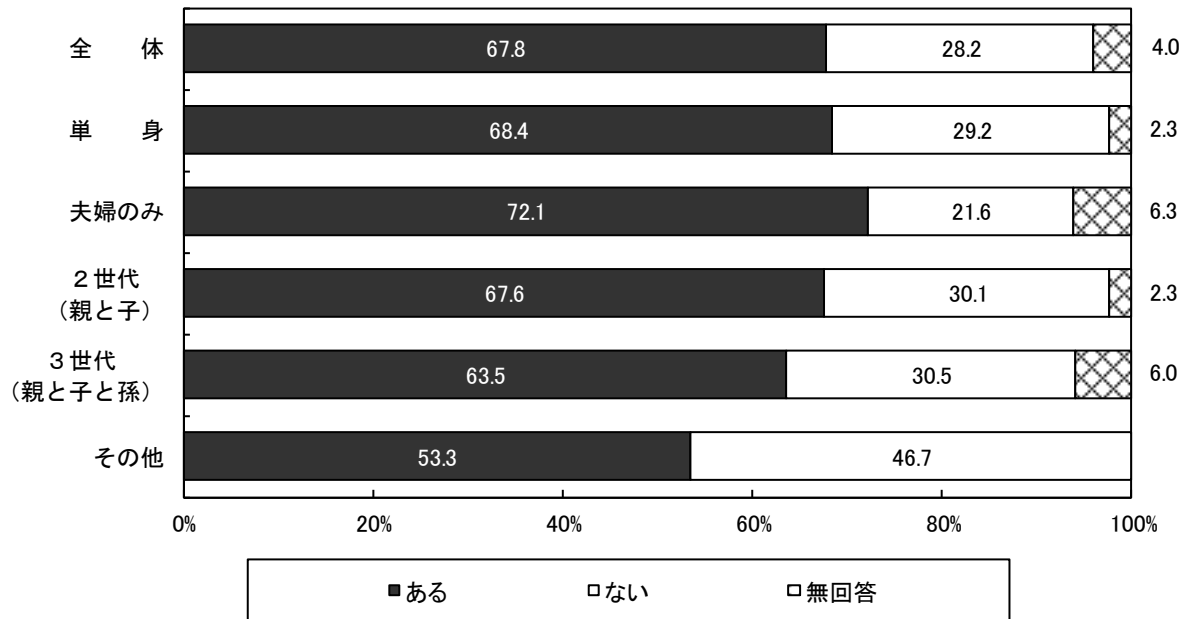
(人)

※無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「ある」の割合は、夫婦のみ（72.1%）で最も高くなっている。

図 5.4-6 1週間に10分以上続けて歩くことの有無（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代 (親と子)	3世代 (親と子と孫)	その他	無回答
1,565	171	384	737	233	15	25

(人)

※無回答者のグラフは省略した。

(5) 1週間に10分以上続けて歩く日数

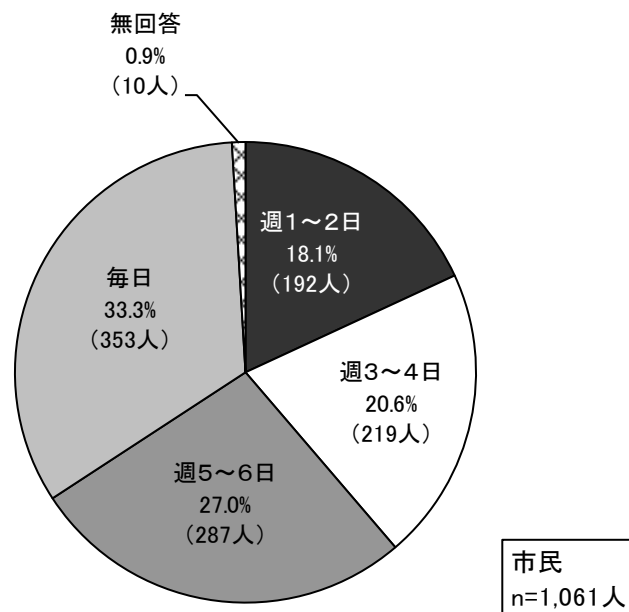
問30 あなたは、平均的な1週間で、10分以上続けて歩くことは何日ありますか。
※ここで歩くとは、仕事や日常生活で歩くこと、ある場所からある場所へ移動すること、あるいは趣味や運動としてのウォーキング、散歩など全てを含みます。(〇は1つだけ)

3割強が「毎日」1週間に10分以上続けて歩くことがあると回答

【全体結果】

1週間に10分以上続けて歩く日数は、「毎日」と回答した人の割合が3割強(33.3%)で最も多くなっている。以下、「週5～6日」が3割弱(27.0%)、「週3～4日」が2割強(20.6%)、「週1～2日」が2割弱(18.1%)となっている。

図 5.5-1 1週間に10分以上続けて歩く日数



【性別・年齢別】

「毎日」と回答した人の割合は、70歳以上（40.0%）で最も高く、40歳代（26.5%）で最も低くなっている。

性別では、「週1～2日」の割合は、60歳代を除いて、女性より男性の方が高くなっている。

図 5.5-2 1週間に10分以上続けて歩く日数（年齢別・全体）

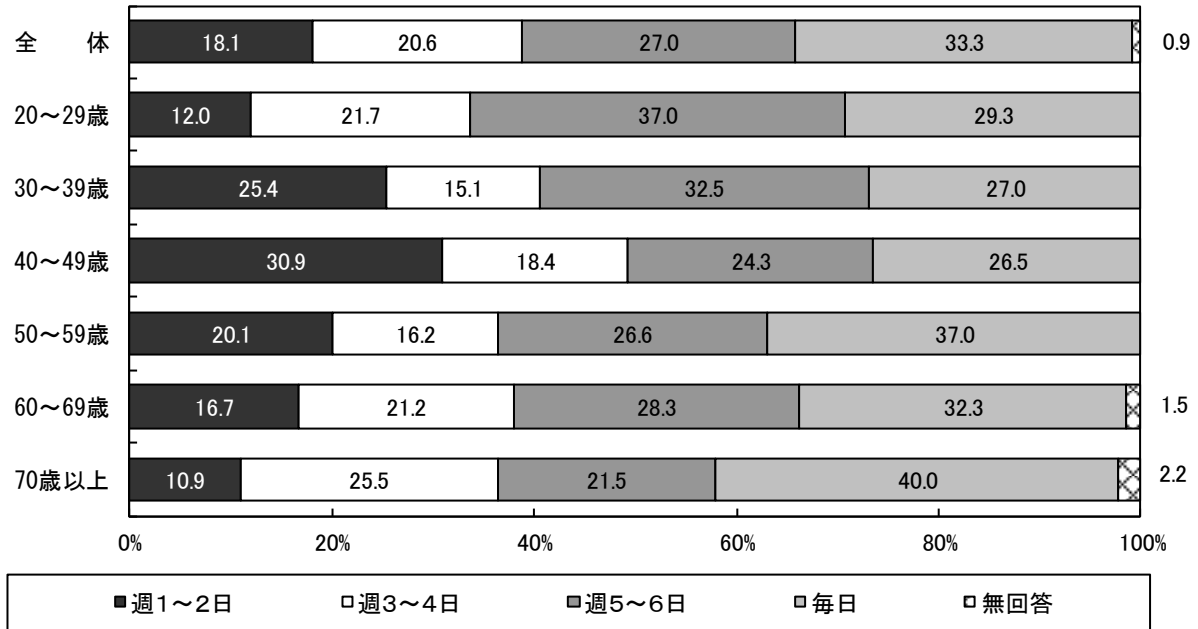
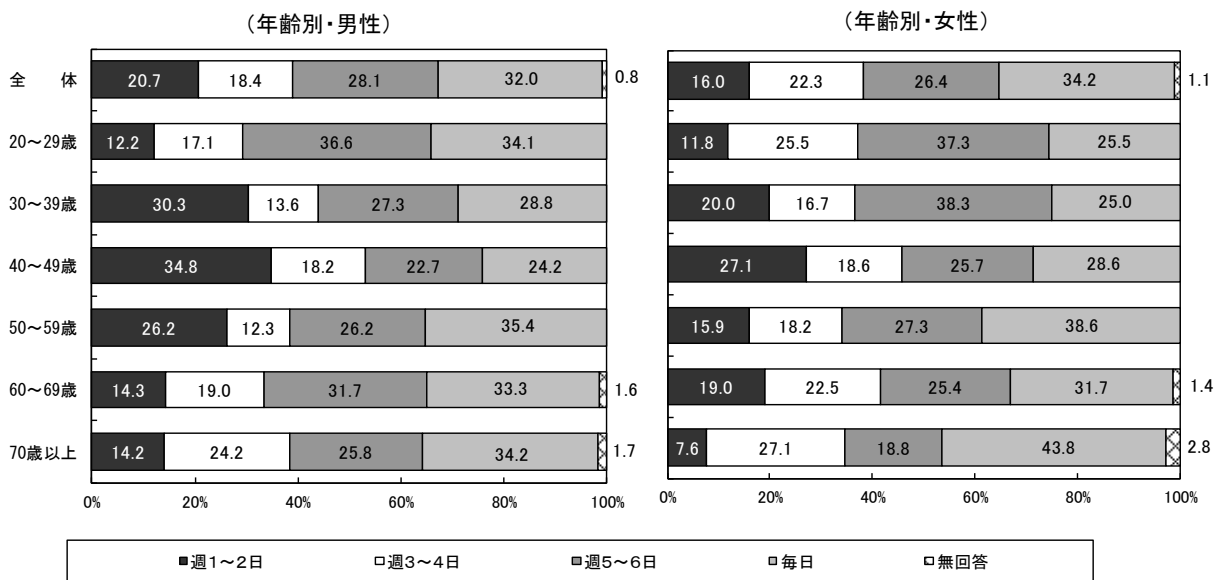


図 5.5-3 1週間に10分以上続けて歩く日数



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,061	92	126	136	154	269	275	9
男性	484	41	66	66	65	126	120	0
女性	556	51	60	70	88	142	144	1

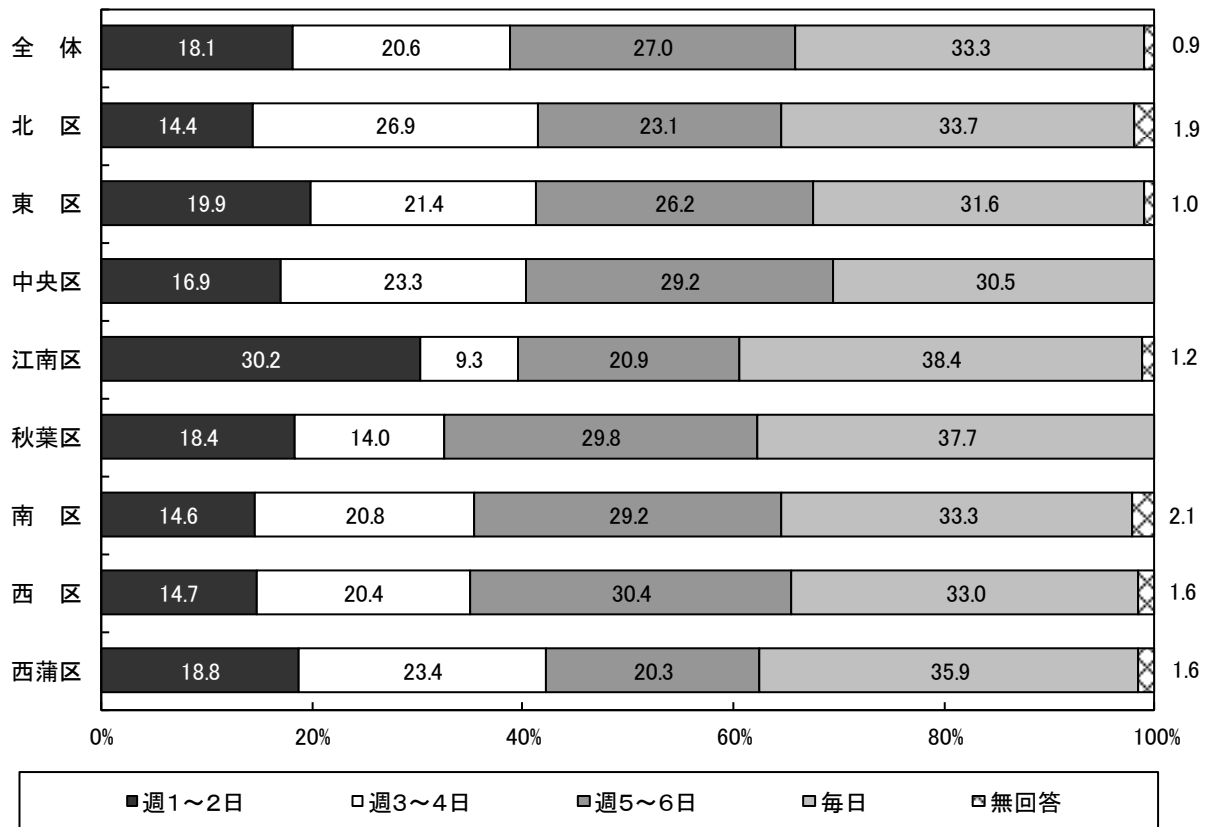
(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「毎日」の割合は、江南区（38.4%）が最も高くなっている。

図 5.5-4 1週間に10分以上続けて歩く日数（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,061	104	206	236	86	114	48	191	64	12

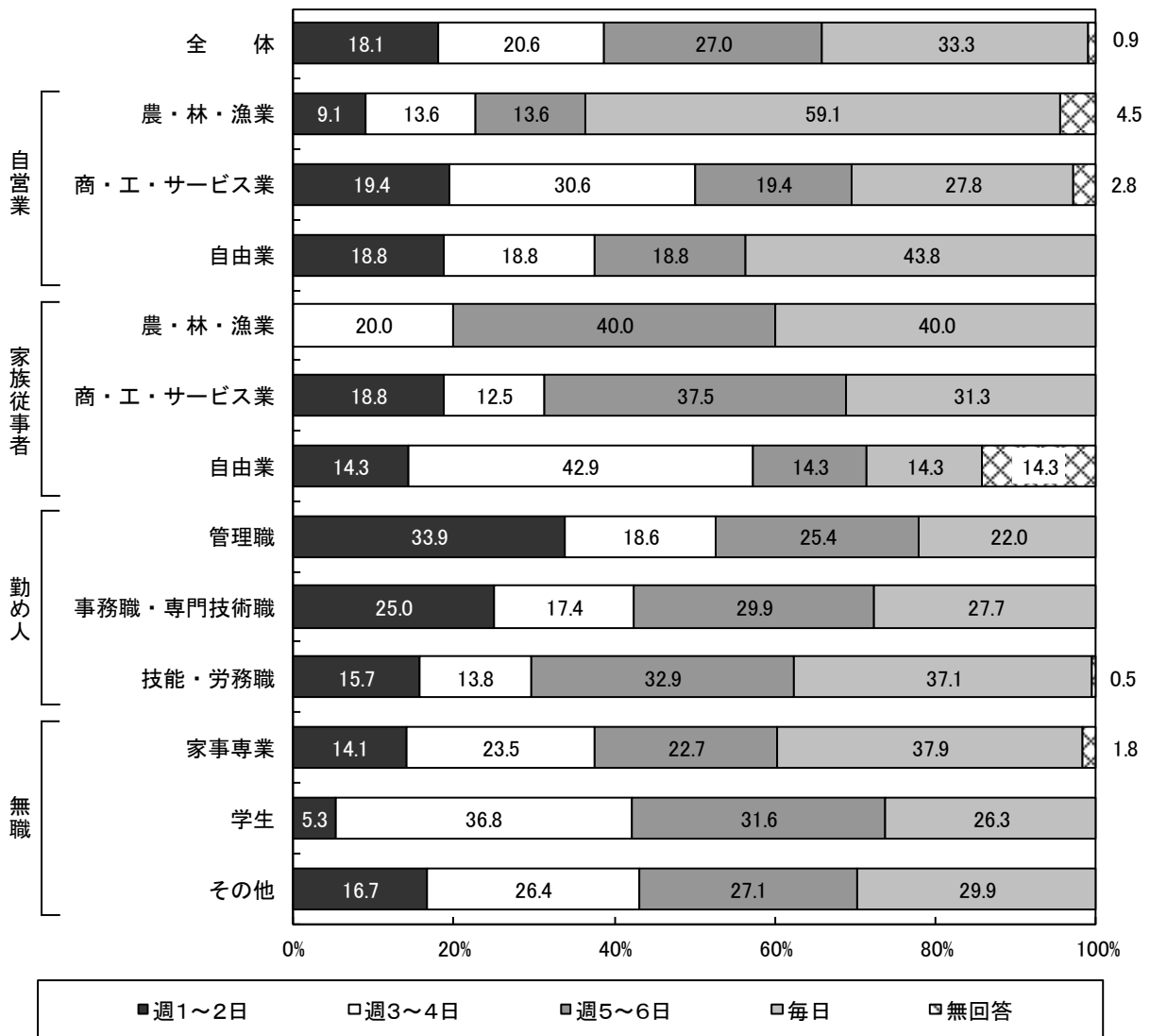
(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 5.5-5 1週間に10分以上続けて歩く日数（職業別）



全体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,061	22	36	16	5	16	7

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
59	224	210	277	19	144	26

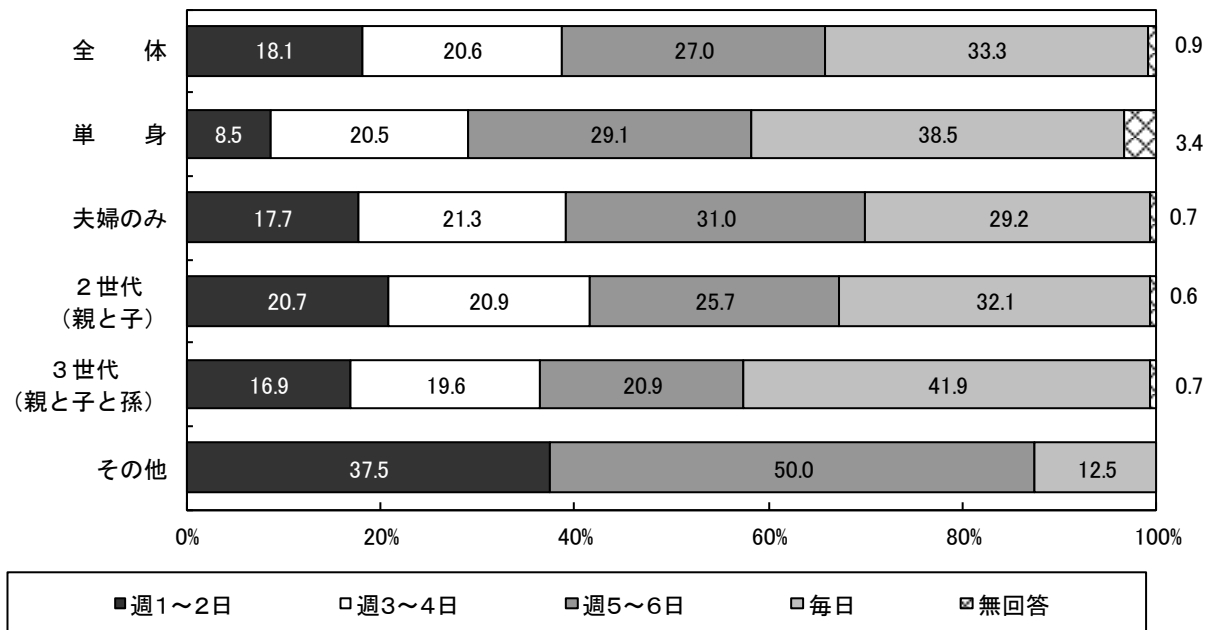
(人)

※無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「毎日」の割合は、3世代（41.9%）で最も高く、4割を超えている。

図 5.5-6 1週間に10分以上続けて歩く日数（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代 (親と子)	3世代 (親と子と孫)	その他	無回答
1,061	117	277	498	148	8	13

(人)

※無回答者のグラフは省略した。

(6) 1日の合計歩行時間

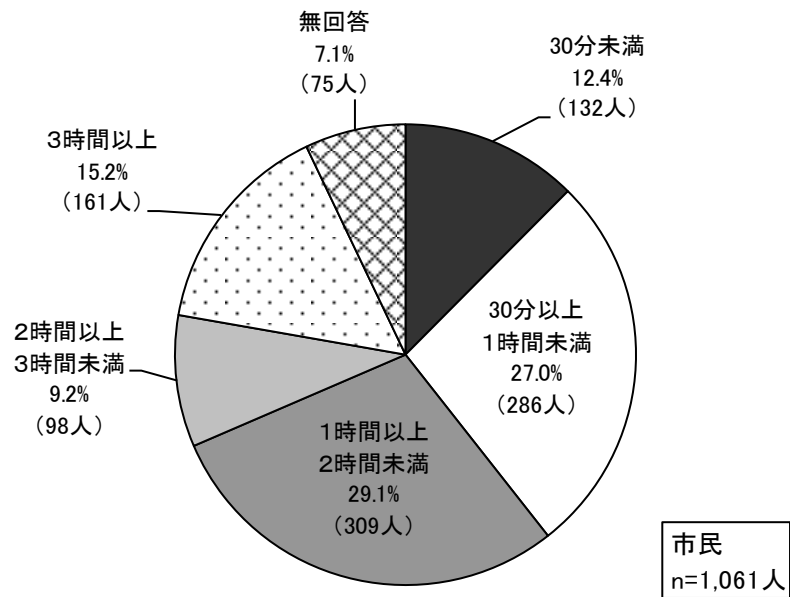
問30-1 そのような日には、通常、1日合計してどのくらいの時間歩きますか。

「1時間以上2時間未満」が3割弱で最も多い

【全体結果】

1日の合計歩行時間は、「1時間以上2時間未満」が3割弱（29.1%）で最も多く、以下「30分以上1時間未満」（27.0%）、「3時間以上」（15.2%）、「30分未満」（12.4%）となっている。

図 5.6-1 1日の合計歩行時間



【性別・年齢別】

40歳代では、「30分未満」と回答した人が2割を超えているが、「3時間以上」も2割を超え最も高くなっている。

性別では、50歳代で「30分以上1時間未満」の割合が、男性が女性を大きく上回っている。

図 5.6-2 1週間に10分以上続けて歩く日数（年齢別・全体）

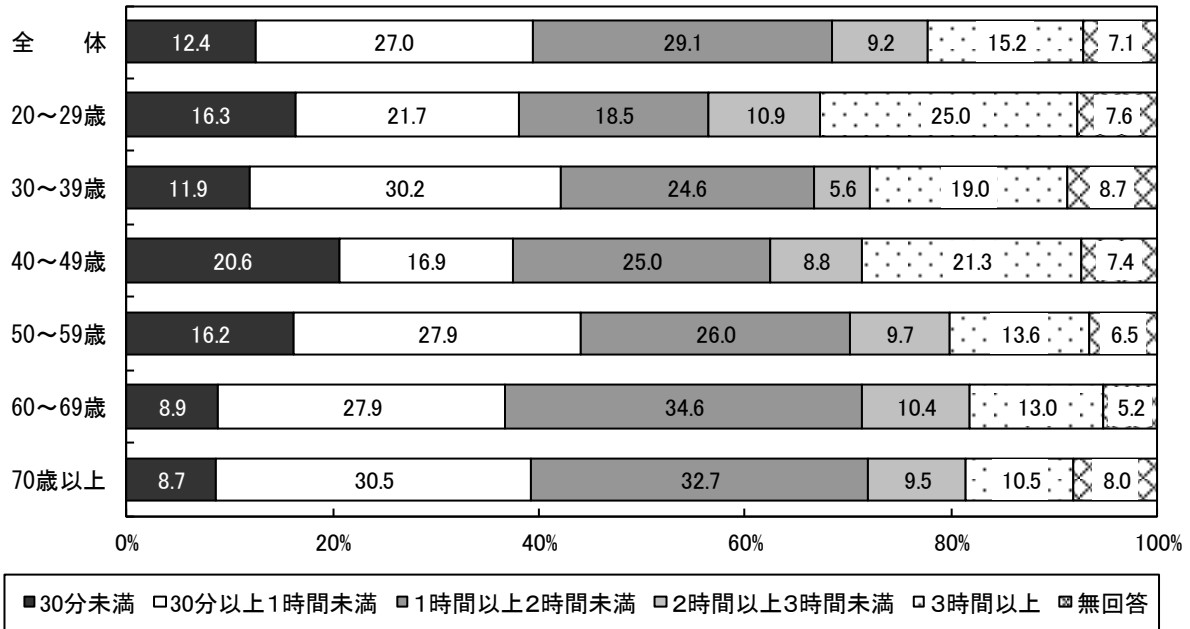
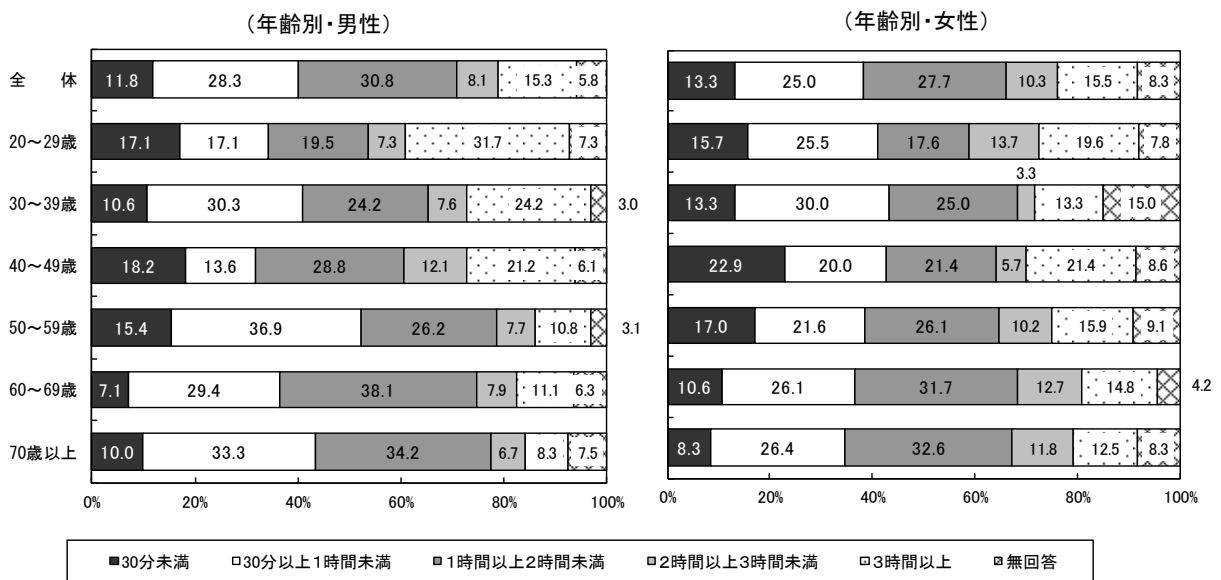


図 5.6-3 1週間に10分以上続けて歩く日数



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,061	92	126	136	154	269	275	9
男性	484	41	66	66	65	126	120	0
女性	556	51	60	70	88	142	144	1

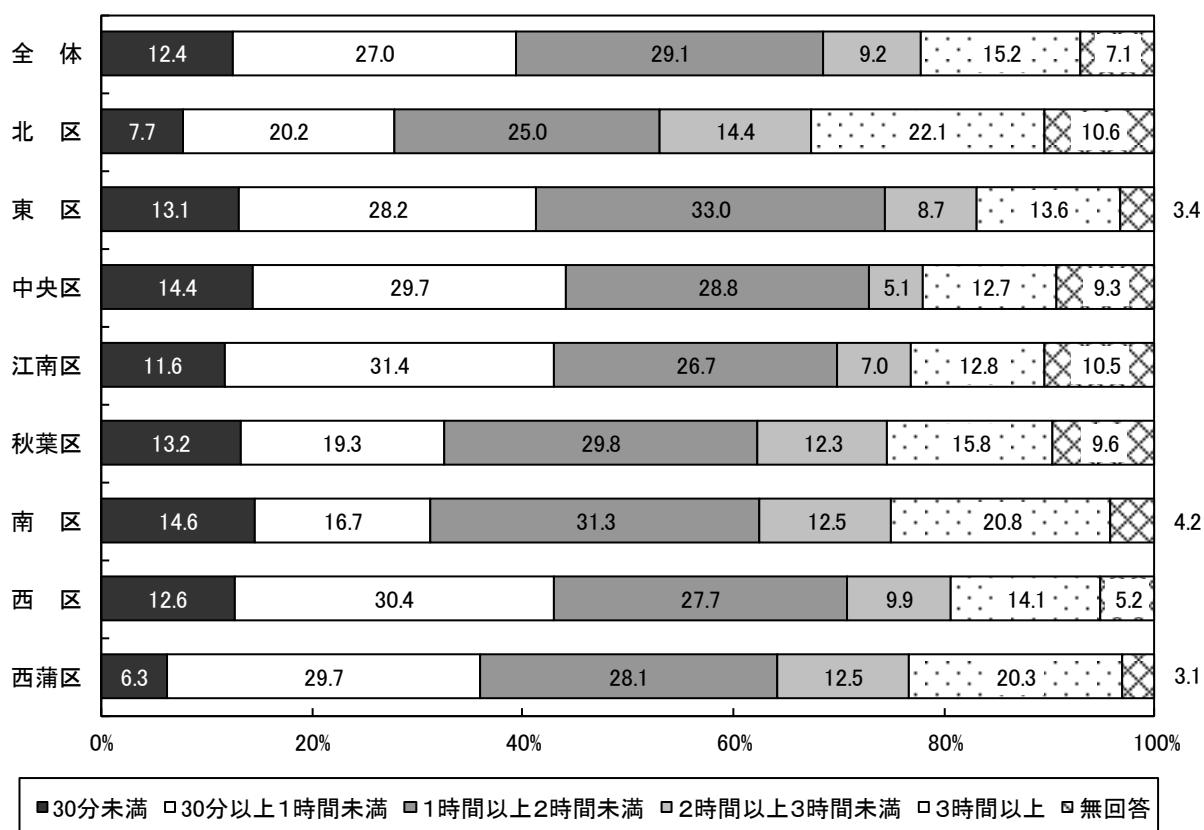
(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

北区では、「2時間以上3時間未満」「3時間以上」の割合が高くなっている。

図 5.6-4 1週間に10分以上続けて歩く日数（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,061	104	206	236	86	114	48	191	64	12

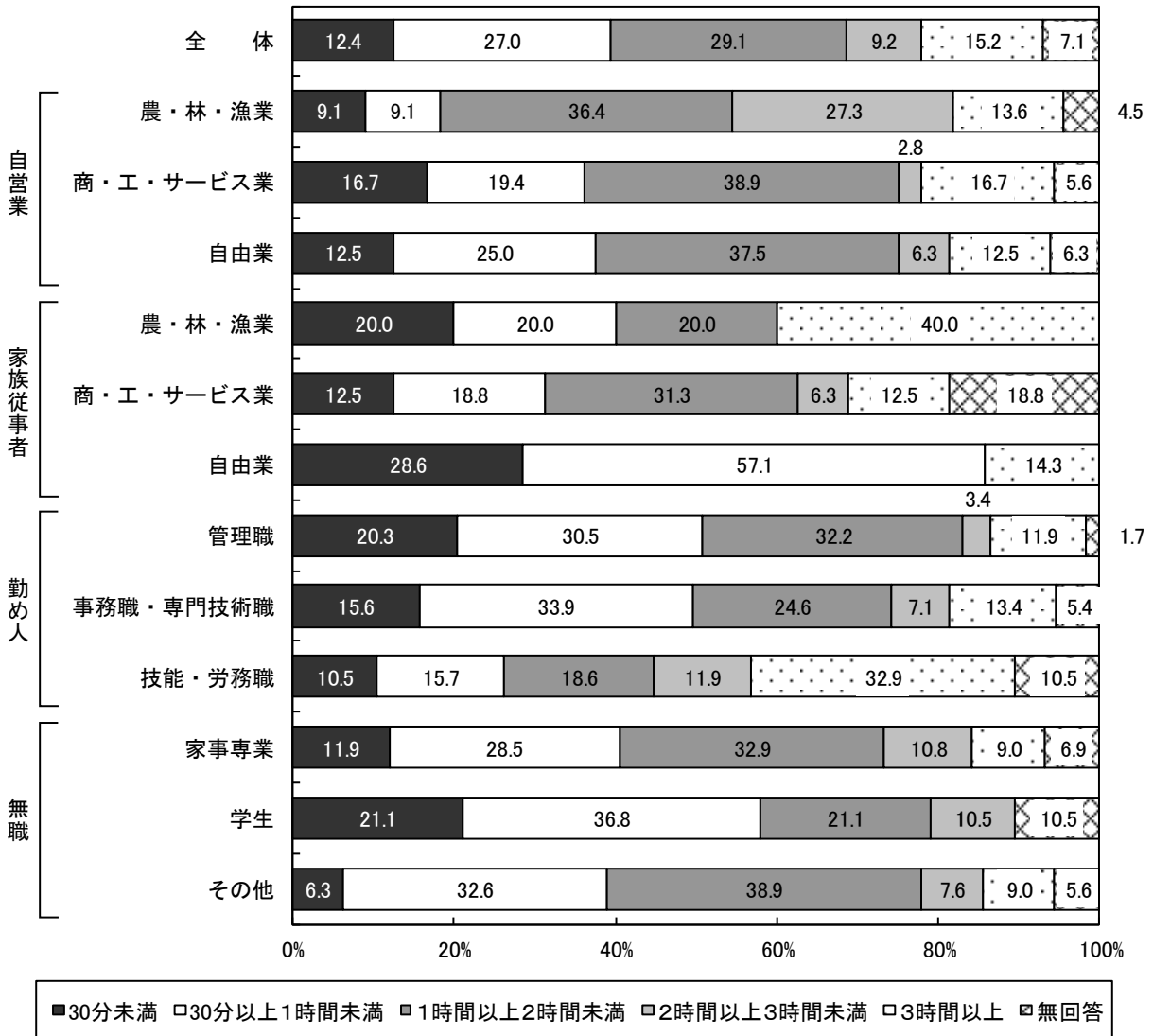
(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 5.6-5 1週間に10分以上続けて歩く日数（職業別）



全体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,061	22	36	16	5	16	7

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
59	224	210	277	19	144	26

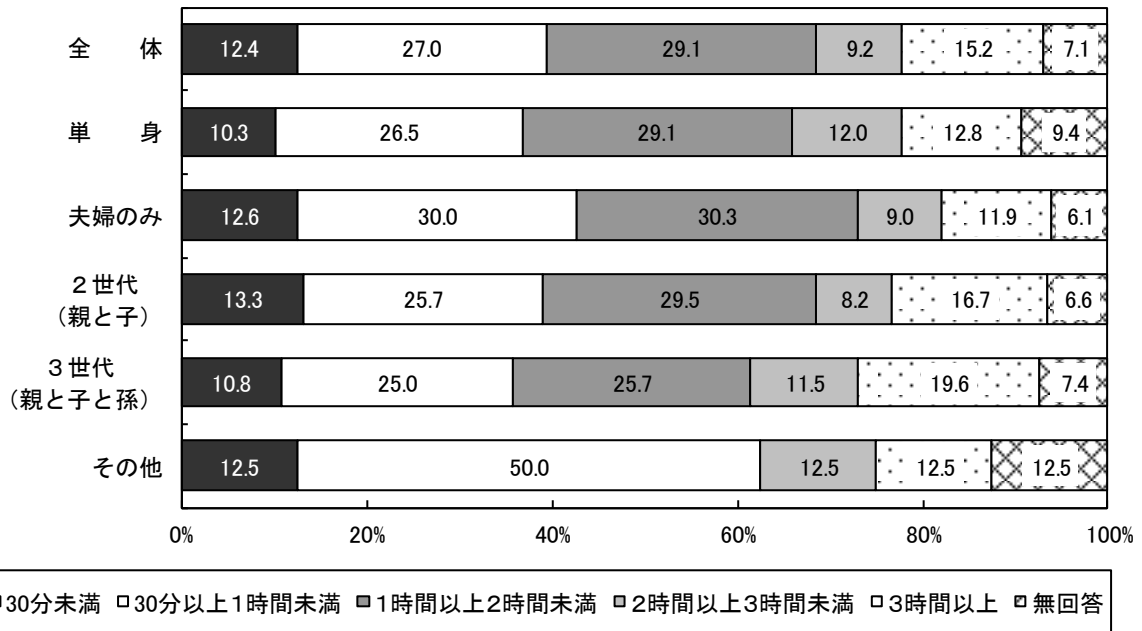
(人)

※無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「3時間以上」の割合は、3世代（19.6%）で最も高くなっている。

図 5.6-6 1週間に10分以上続けて歩く日数（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代 (親と子)	3世代 (親と子と孫)	その他	無回答
1,061	117	277	498	148	8	13

(人)

※無回答者のグラフは省略した。

(7) 定期的に継続している運動の実施状況

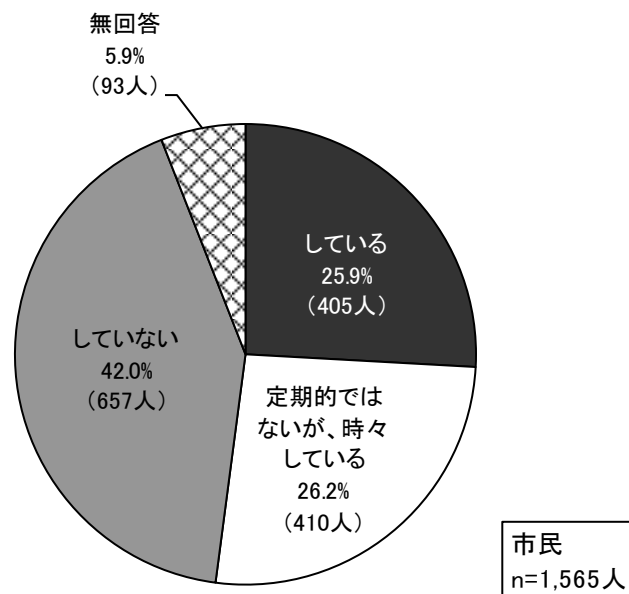
問31 あなたは、定期的に継続して運動や散歩等を行っていますか。(○は1つだけ)
※「定期的に継続して」とは、1回30分以上、かつ週2日以上、かつ1年以上続けていることをいいます。

過半数が運動を実施していると回答

【全体結果】

定期的に継続している運動の実施状況については、「している」(25.9%)、「定期的ではないが、時々している」(26.2%)と回答した人を合わせた割合は過半数(52.1%)となっている。一方、「していない」と回答した人が4割強(42.0%)となっている。

図 5.7-1 定期的に継続している運動の実施状況



【性別・年齢別】

30歳代～50歳代では、「していない」と回答した人が5割を超えている。一方、60歳以上では「している」と「定期的ではないが、時々している」を合わせた割合が6割弱を占めている。

性別では、30歳代以下で「していない」の割合が、女性より男性の方が20ポイント前後高くなっている。

図 5.7-2 定期的に継続している運動の実施状況（年齢別・全体）

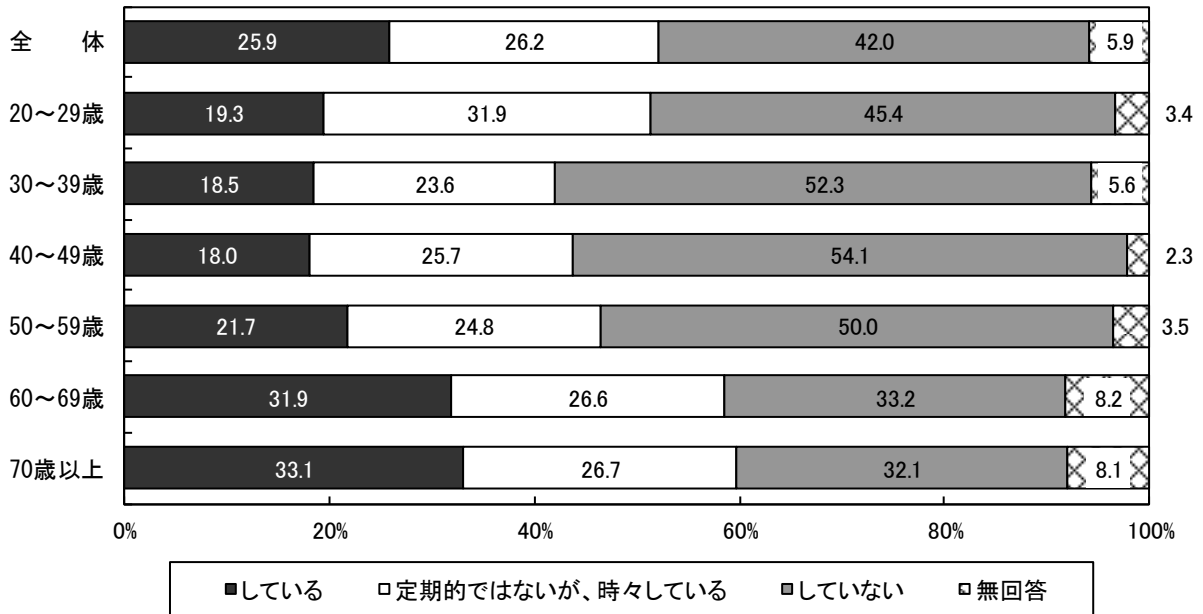
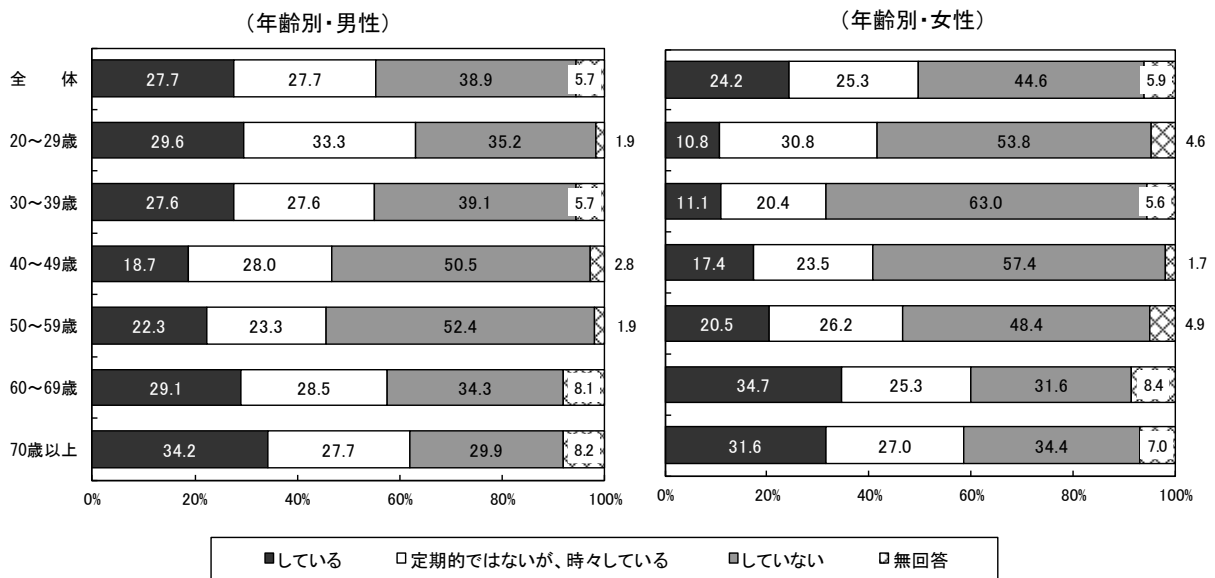


図 5.7-3 定期的に継続している運動の実施状況



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,565	119	195	222	226	364	420	19
男性	707	54	87	107	103	172	184	0
女性	817	65	108	115	122	190	215	2

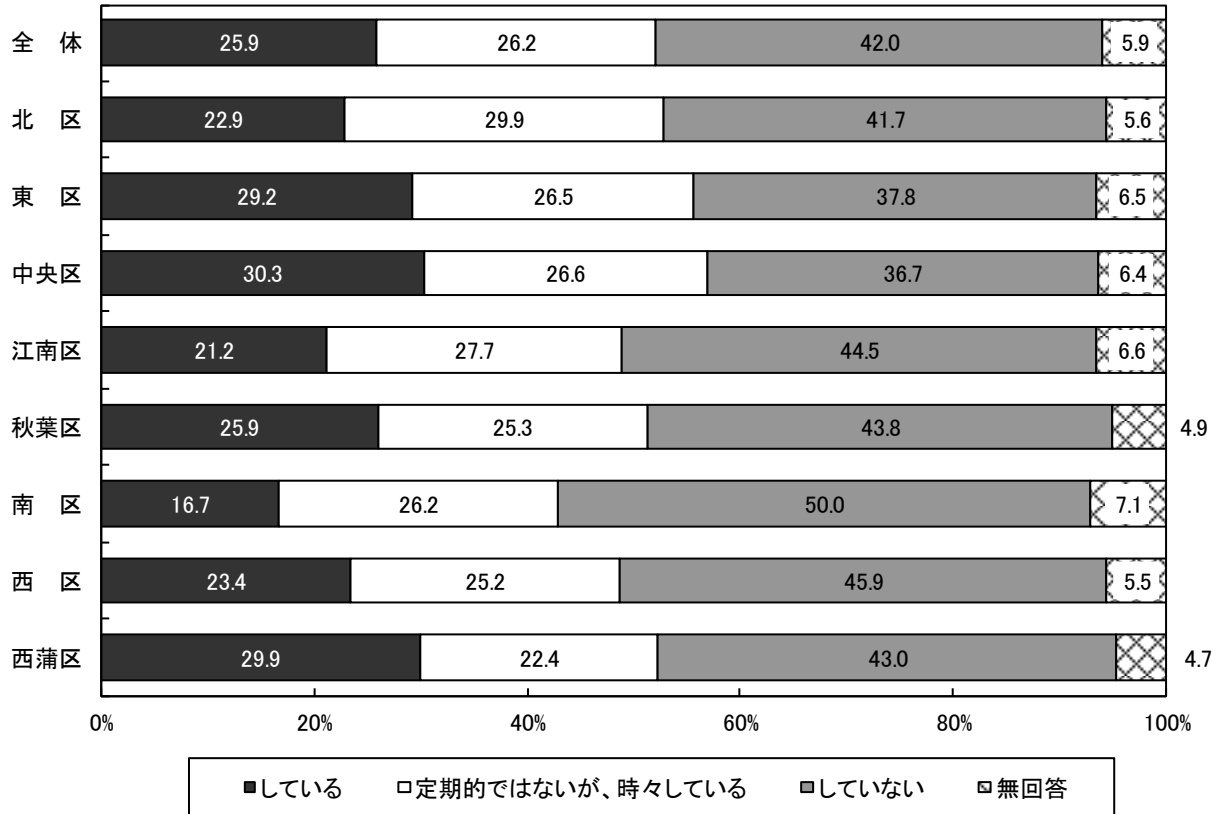
(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「している」「定期的ではないが、時々している」を合わせた割合は、中央区（56.9%）で最も高くなっている。また、南区を除いた地区では「している」「定期的ではないが、時々している」を合わせた割合が、「していない」の割合よりも高くなっている。

図 5.7-4 定期的に継続している運動の実施状況（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,565	144	291	327	137	162	84	290	107	23

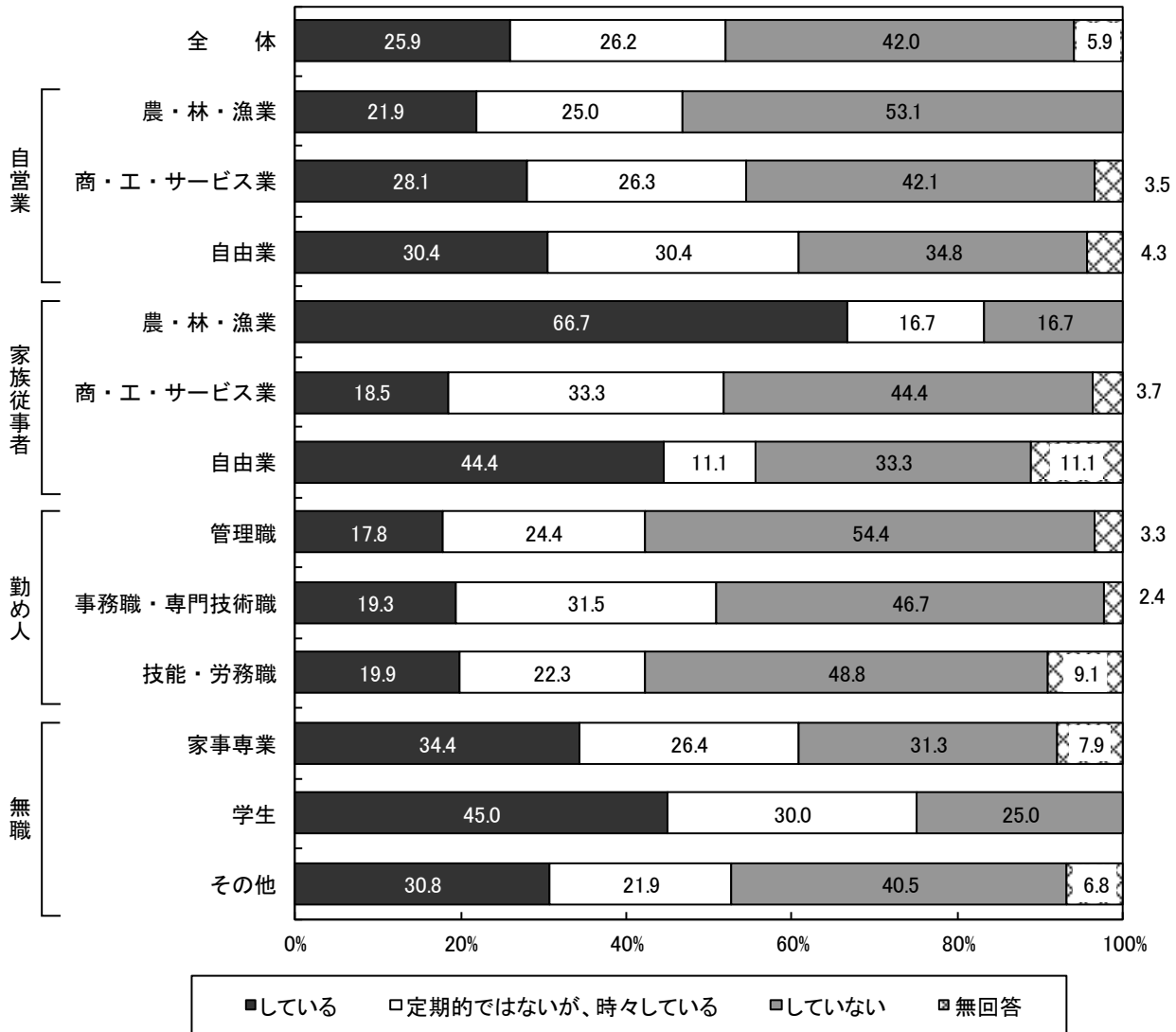
(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 5.7-5 定期的に継続している運動の実施状況（職業別）



全体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,565	32	57	23	6	27	9

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
90	336	287	390	20	237	51

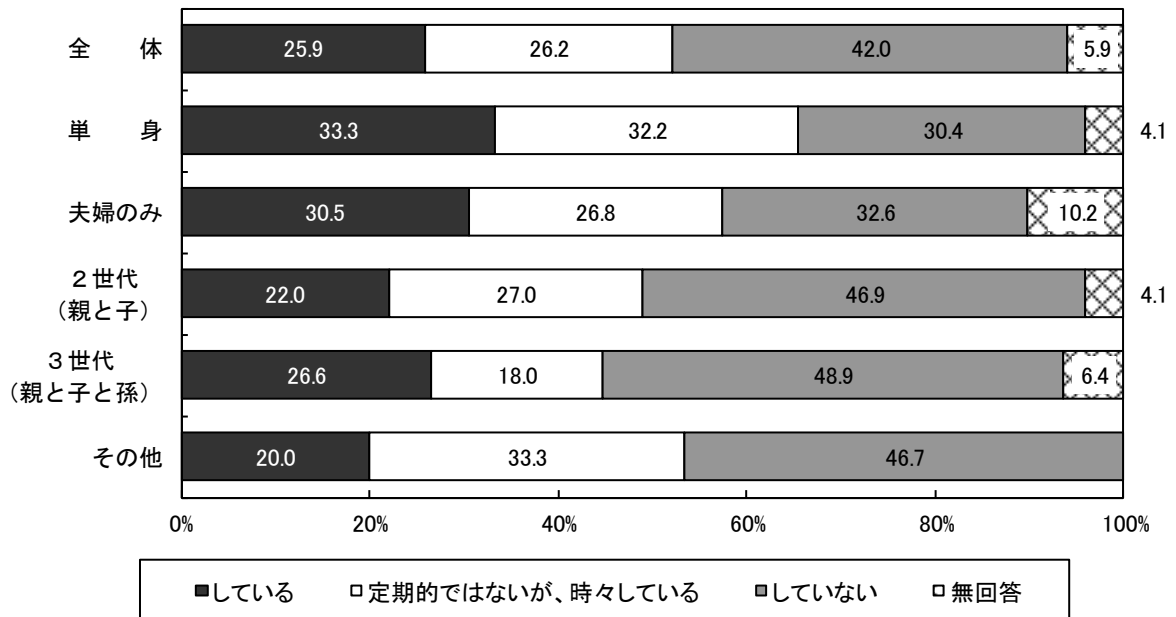
(人)

※無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「している」と「定期的ではないが、時々している」合わせた割合は、単身（65.5%）で最も高くなっている。

図 5.7-6 定期的に継続している運動の実施状況（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代 (親と子)	3世代 (親と子と孫)	その他	無回答
1,565	171	384	737	233	15	25

(人)

※無回答者のグラフは省略した。

(8) 1日60分くらいの運動習慣

問32 「健康維持のためには1日に60分くらい体を動かすような生活をする事」が推奨されています。あなたはこれを実行していますか。(〇は1つだけ)
※「体を動かす」とは、日常生活における労働、家事、通勤・通学などを含みます。

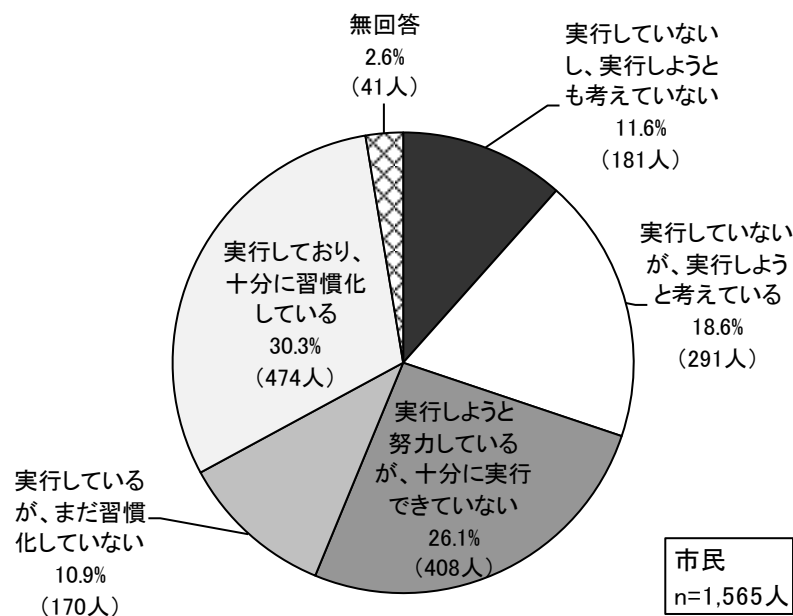
4割強が1日60分くらいの運動を実行していると回答

【全体結果】

1日60分くらいの運動習慣については、「実行しており、十分に習慣化している」(30.3%)と「実行しているが、まだ習慣化していない」(10.9%)と回答した人を合わせた実行している割合は4割強(41.2%)となっている。

一方、「実行していないし、実行しようとも考えていない」(11.6%)、「実行していないが、実行しようと考えている」(18.6%)、「実行しようとしているが、十分に実行できていない」(26.1%)を合わせた実行していない割合は6割弱(56.2%)となっている。

図 5.8-1 1日60分くらいの運動習慣



【性別・年齢別】

「実行しているが、まだ習慣化していない」と「実行しており、十分に習慣化している」を合わせた割合は60歳代で最も高くなっている。

性別では、各年代とも「実行しているが、まだ習慣化していない」と「実行しており、十分に習慣化している」を合わせた割合は、女性より男性の方が高くなっている。

図 5.8-2 1日60分くらいの運動習慣（年齢別・全体）

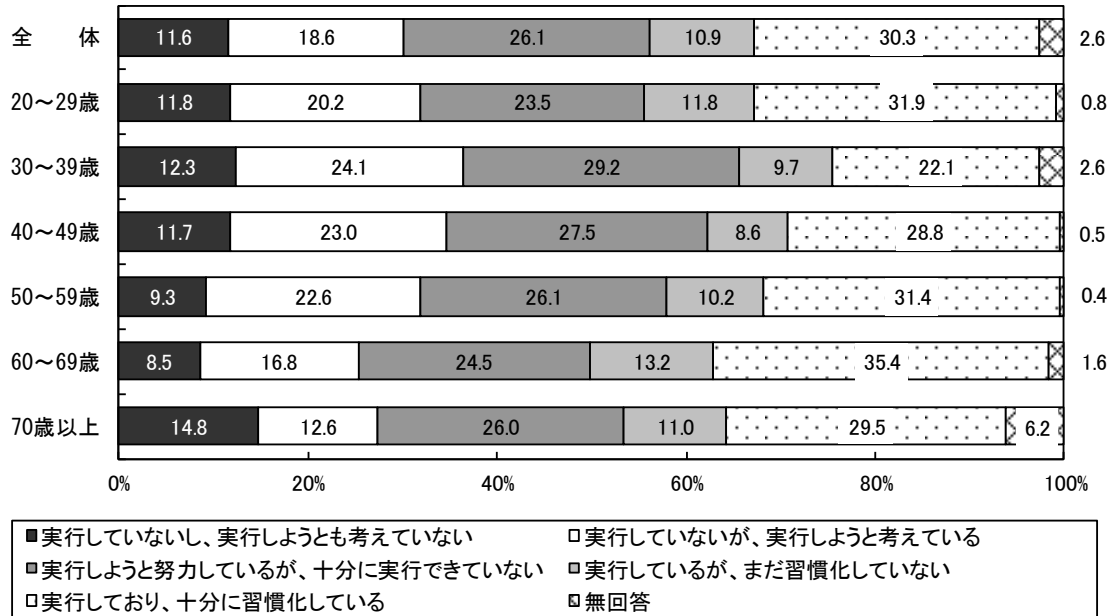
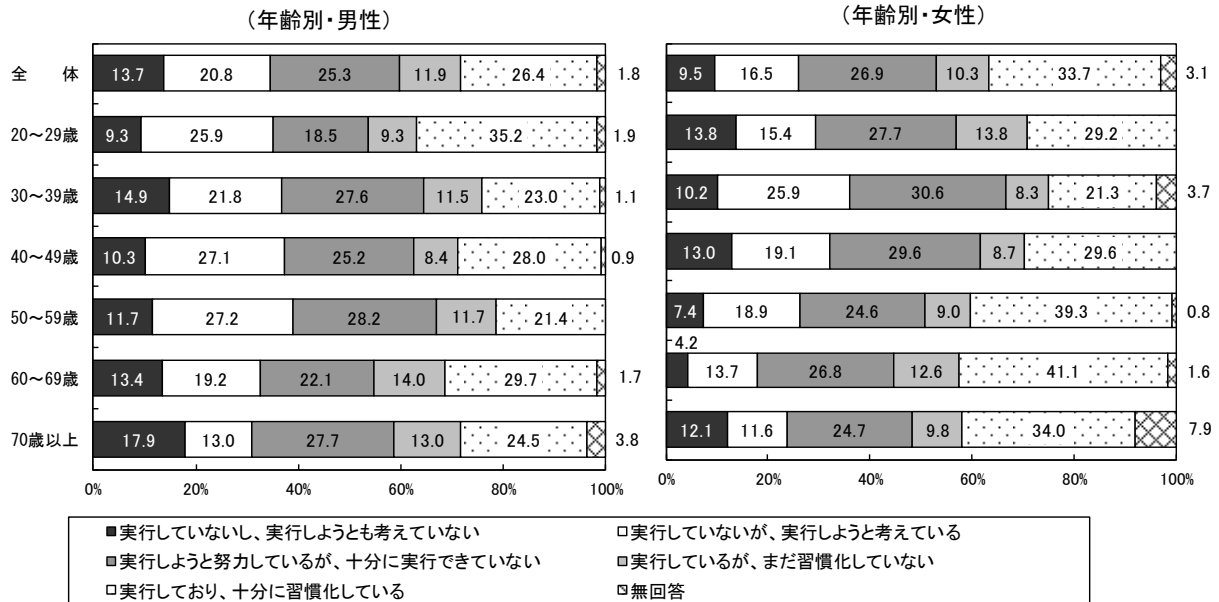


図 5.8-3 1日60分くらいの運動習慣



	計	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,565	119	195	222	226	364	420	19
男性	707	54	87	107	103	172	184	0
女性	817	65	108	115	122	190	215	2

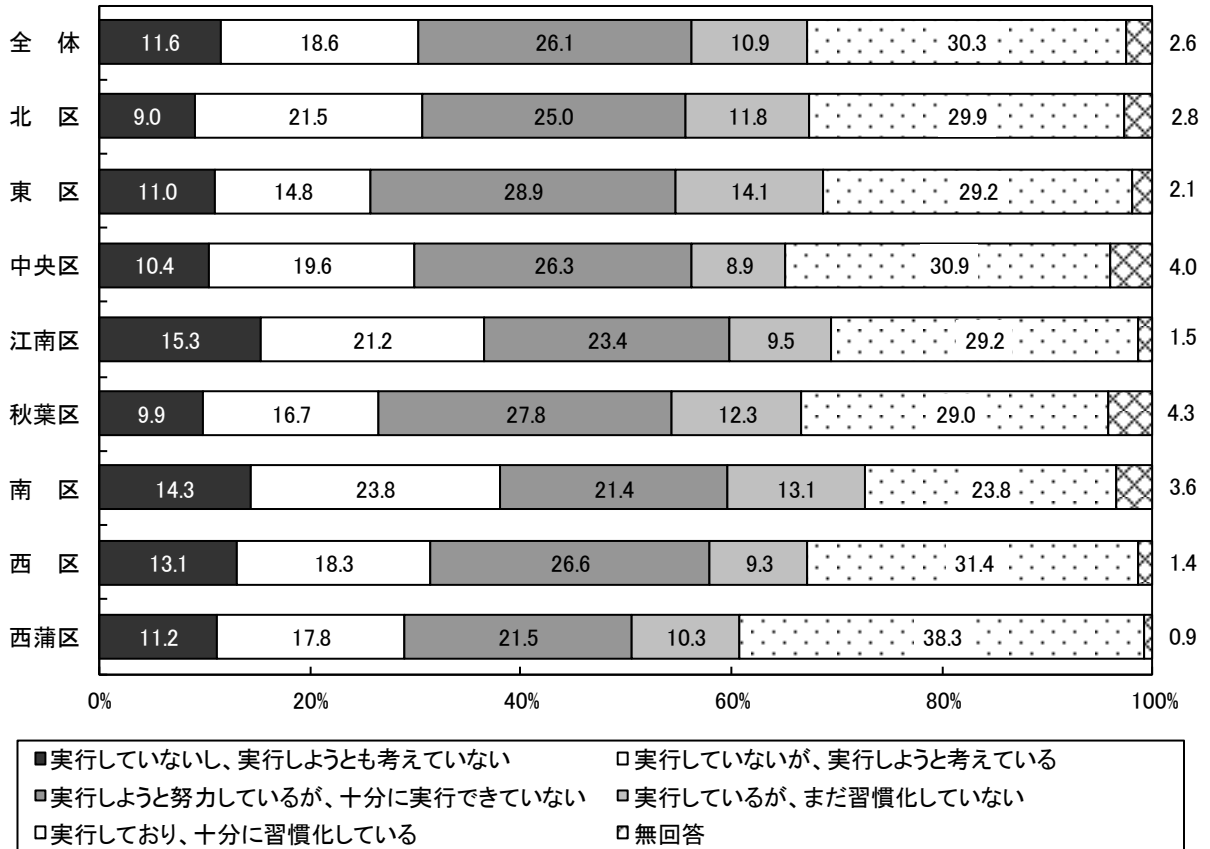
(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

すべての地区で、「実行しており、十分に習慣化している」と回答した人の割合が最も高くなっている。南区では「実行していないが、実行しようと考えている」も同率で高くなっている。

図 5.8-4 1日60分くらいの運動習慣（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,565	144	291	327	137	162	84	290	107	23

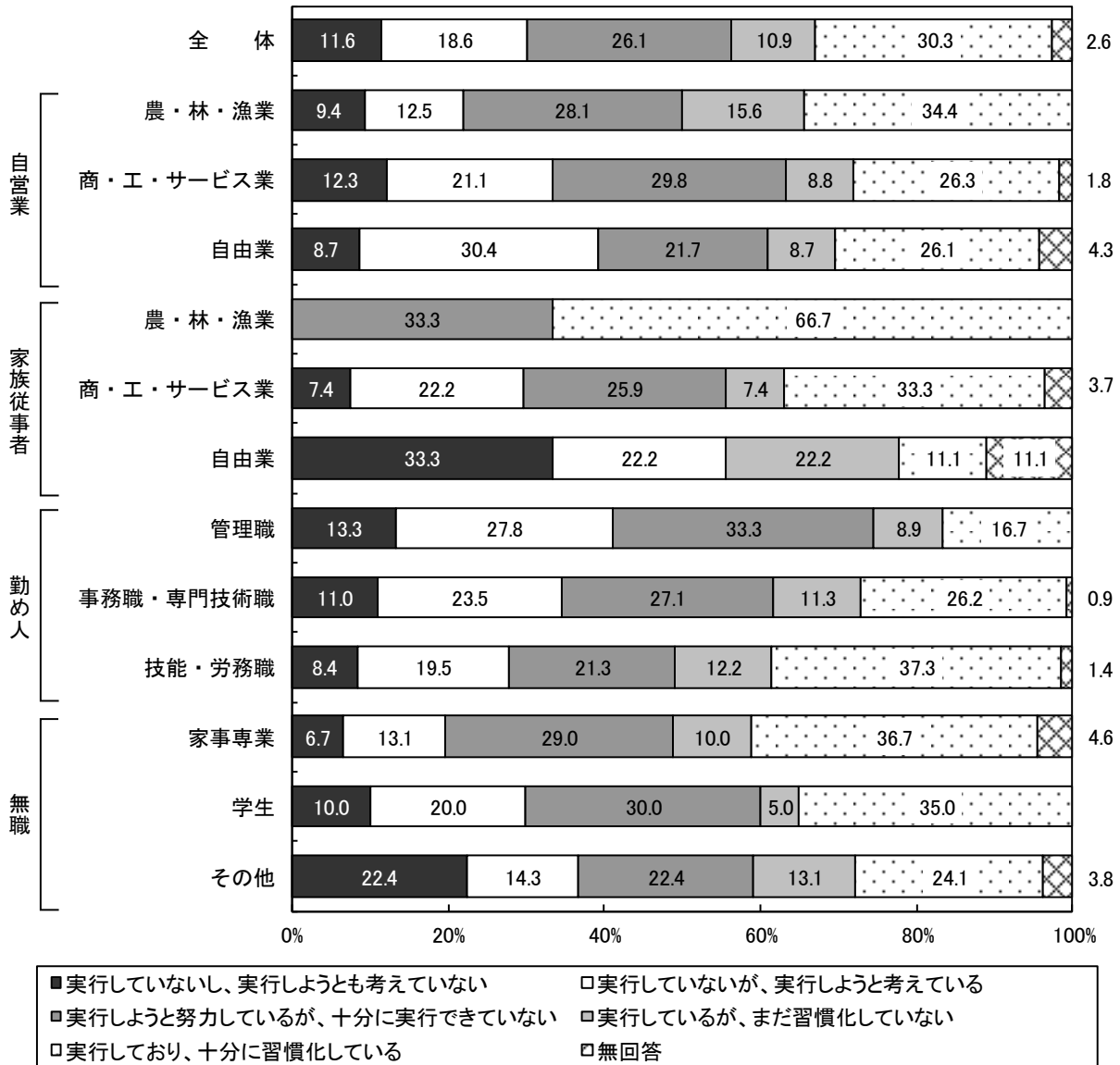
(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 5.8-5 1日60分くらいの運動習慣（職業別）



全体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,565	32	57	23	6	27	9

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
90	336	287	390	20	237	51

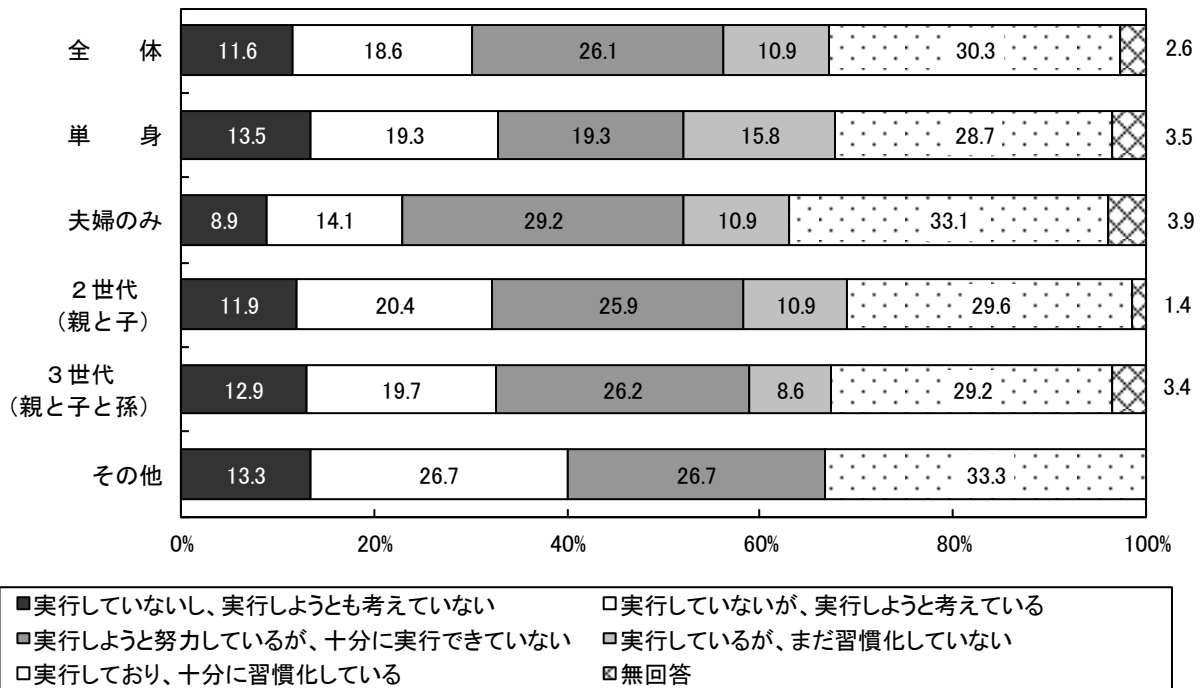
(人)

※無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

すべての家族構成で、「実行しており、十分に習慣化している」の割合が最も高くなっている。

図 5.8-6 1日60分くらいの運動習慣（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代 (親と子)	3世代 (親と子と孫)	その他	無回答
1,565	171	384	737	233	15	25

(人)

※無回答者のグラフは省略した。

(9) 喫煙習慣

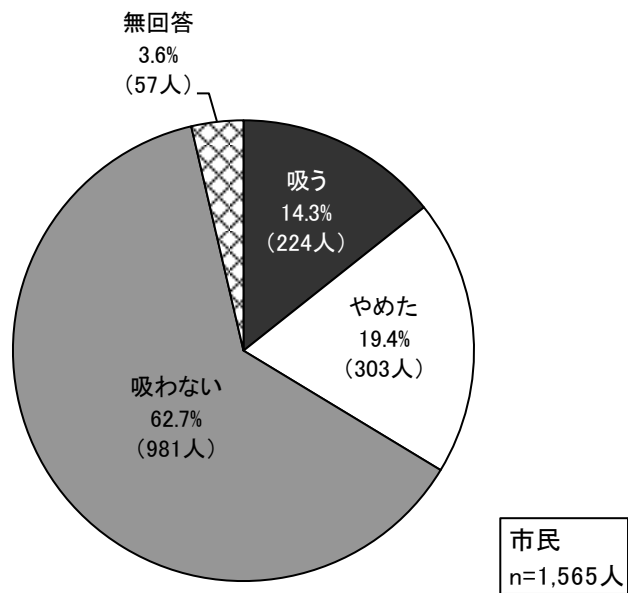
問33 あなたはタバコを吸いますか。(○は1つだけ)

8割強が喫煙をしていないと回答

【全体結果】

「やめた」(19.4%)、「吸わない」(62.7%)と回答した人を合わせた、喫煙をしていない人の割合は8割強(82.0%)となっている。

図 5.9-1 喫煙習慣



【性別・年齢別】

「やめた」「吸わない」と回答した人の割合は、各年代で7割を超えている。一方、「吸う」と回答した人の割合は40歳代と50歳代で高く、2割を超えている。

性別では、各年代とも「吸う」の割合は、女性より男性の方が高くなっている。

図 5.9-2 喫煙習慣（年齢別・全体）

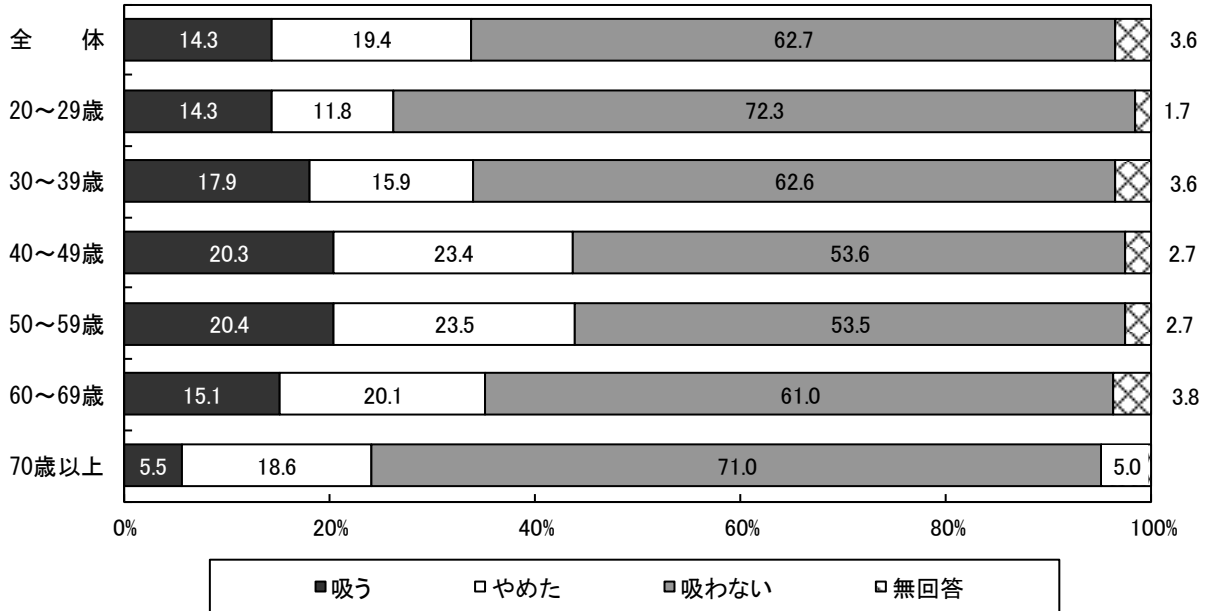
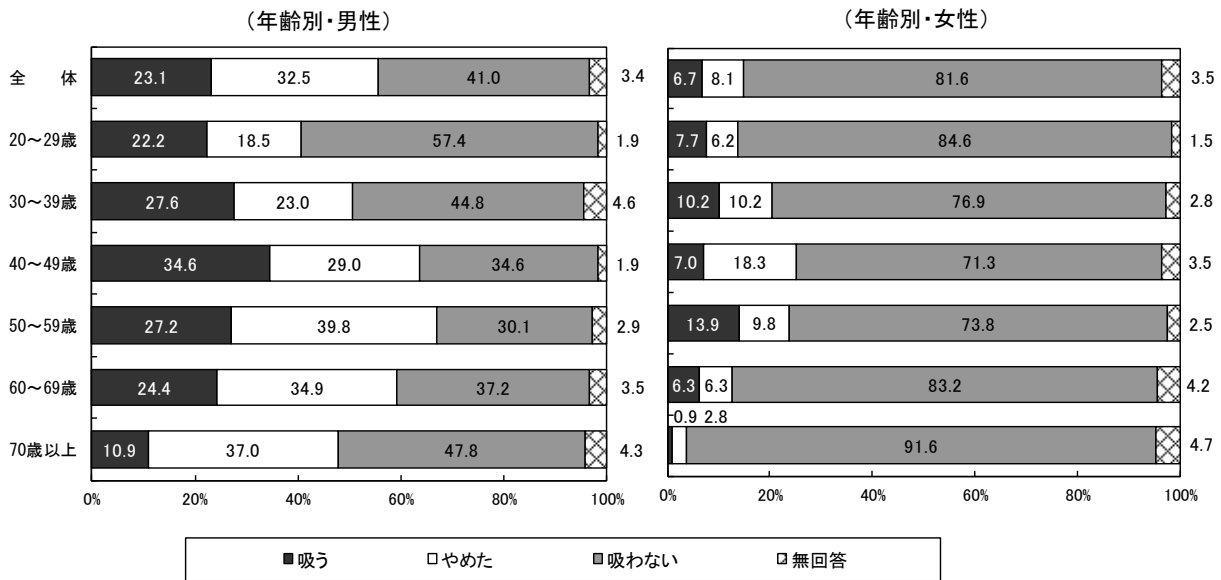


図 5.9-3 喫煙習慣



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,565	119	195	222	226	364	420	19
男性	707	54	87	107	103	172	184	0
女性	817	65	108	115	122	190	215	2

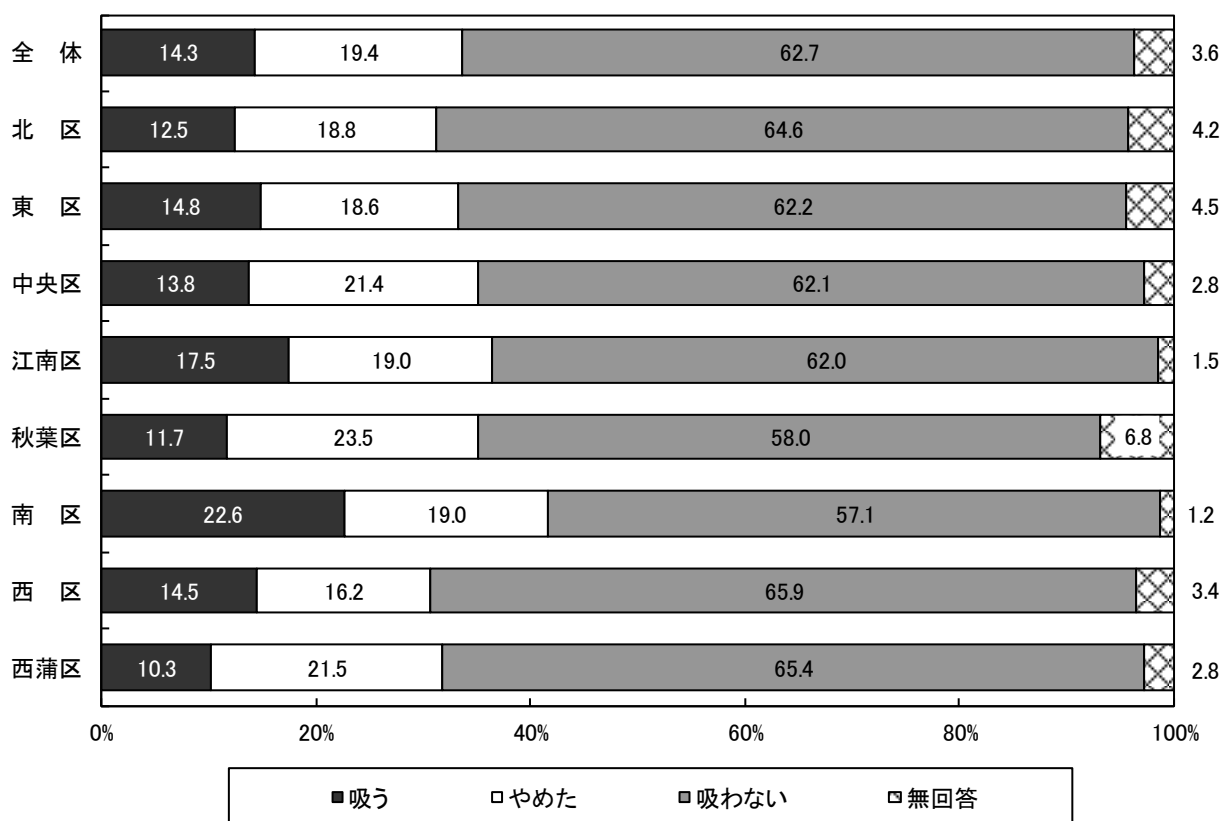
(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「やめた」「吸わない」を合わせた、喫煙をしていない人の割合は、西蒲区（86.9%）で最も高くなっている。

図 5.9-4 喫煙習慣（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,565	144	291	327	137	162	84	290	107	23

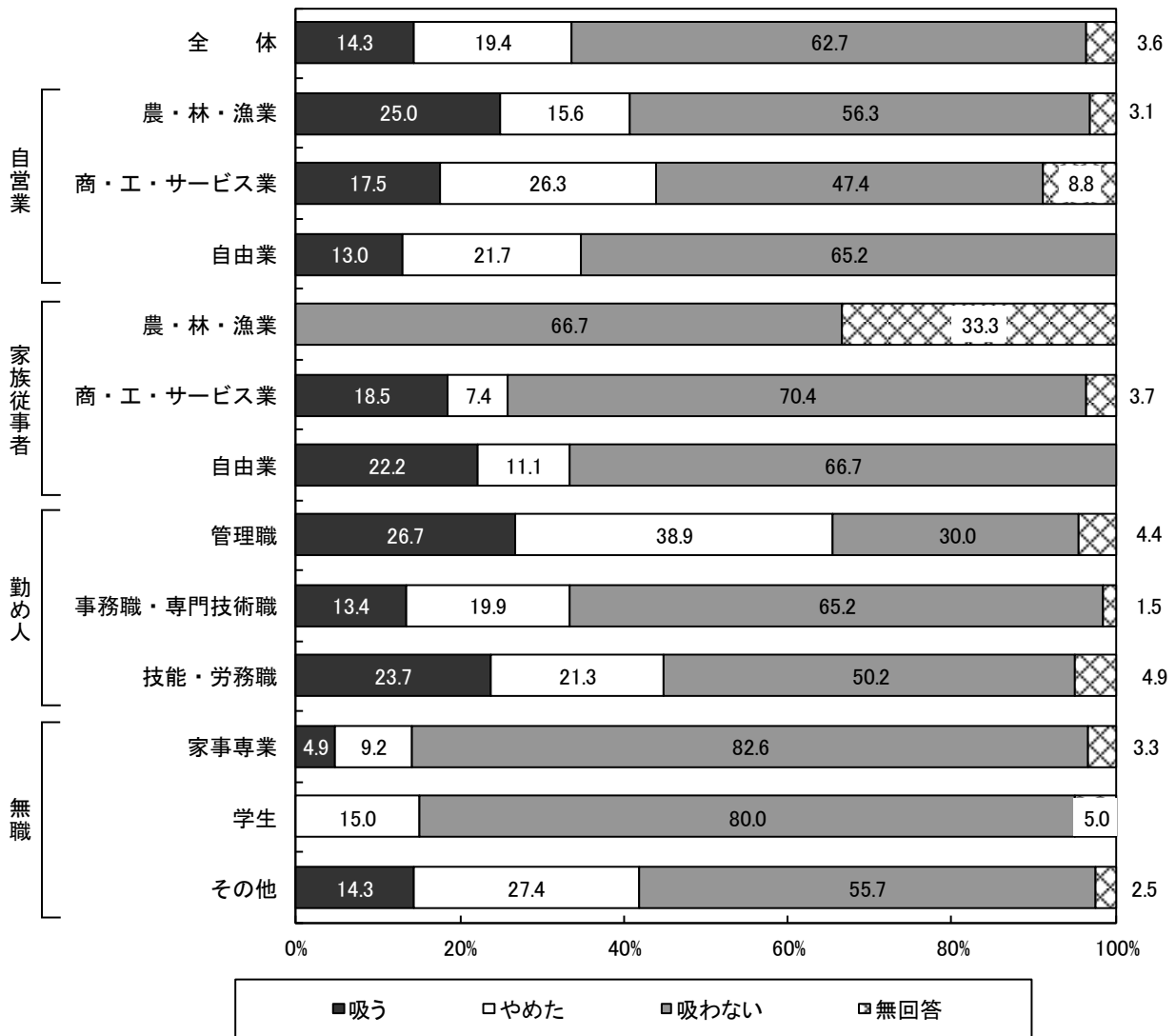
(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 5.9-5 喫煙習慣（職業別）



全体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,565	32	57	23	6	27	9

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
90	336	287	390	20	237	51

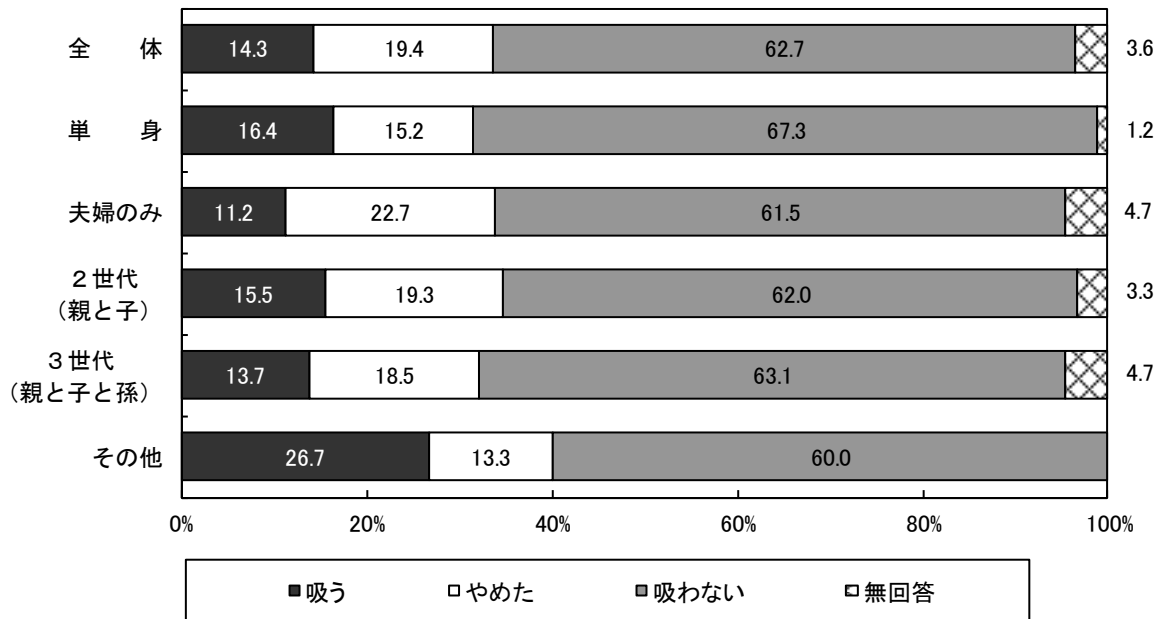
(人)

※無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「やめた」「吸わない」を合わせた、喫煙をしていない人の割合は、夫婦のみ（84.1%）で最も高くなっている。一方、「吸う」はその他（26.7%）が最も高くなっている。

図 5.9-6 喫煙習慣（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代 (親と子)	3世代 (親と子と孫)	その他	無回答
1,565	171	384	737	233	15	25

(人)

※無回答者のグラフは省略した。

(10) 最近1か月の受動喫煙の状況

問34 あなたはこの1か月に自分以外の人が吸っているたばこの煙を吸う機会（受動喫煙）がありましたか。（項目ごとに○は1つだけ）

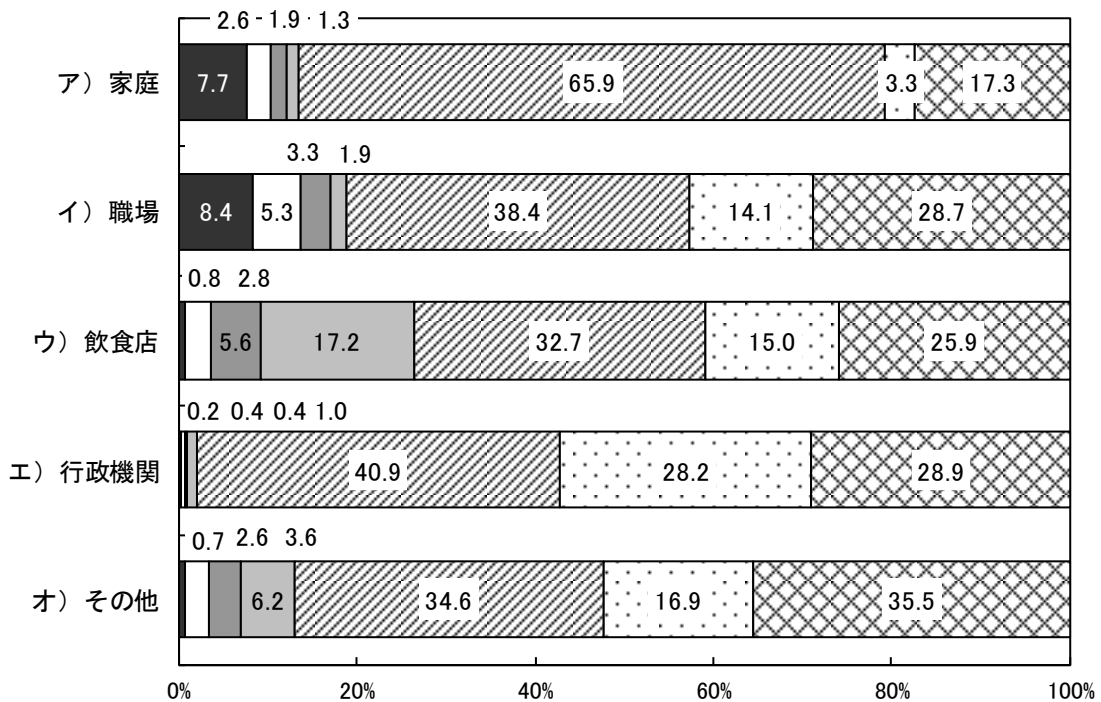
7割弱が『家庭』での受動喫煙は「全くない」と回答

【全体結果】

いずれの項目も「全くない」の割合が最も高く、『ア) 家庭』の項目では7割弱（65.9%）となっている。

一方、「ほぼ毎日」と回答した人の割合は、『イ) 職場』(8.4%)と『ア) 家庭』(7.7%)の項目で1割弱となっている。また、『ウ) 飲食店』の項目では「月に1回」(17.2%)の割合が高くなっている。

図 5.10 最近1か月の受動喫煙の状況



市民 n=1,565

■ほぼ毎日 □週に数回 ▣週に1回 □月1回 □全くない □行かなかった □無回答

	全体	ほぼ毎日	週に数回	週に1回	月1回	全くない	行かなかった	無回答
ア) 家庭	1,565	120	40	29	21	1032	52	271
イ) 職場	1,565	132	83	51	29	601	220	449
ウ) 飲食店	1,565	13	44	88	269	511	235	405
エ) 行政機関	1,565	3	6	7	16	640	441	452
オ) その他	1,565	11	40	56	97	542	264	555

(人)

(11) 慢性閉塞性肺疾患（COPD）という言葉や意味の認知度

問35 あなたは「慢性閉塞性肺疾患（COPD）」という言葉やその意味を知っていましたか。
（○は1つだけ）

「慢性閉塞性肺疾患（COPD）」とは

主として喫煙などにより、有害物質を長期に吸い込むことによって肺に炎症がおき、肺の中の組織が破壊されて、酸素の取り込みや二酸化炭素を排出する機能が低下する疾患です。

せき・たん・息切れを主な症状とし、徐々に呼吸障がい progresses します。

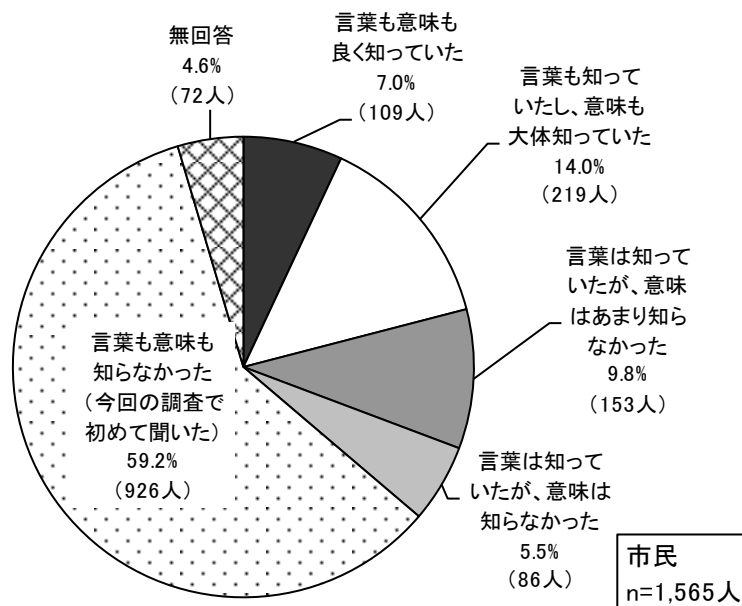
2割強が言葉や意味を認知していると回答

【全体結果】

「慢性閉塞性肺疾患（COPD）」という言葉や意味の認知の程度については、「言葉も意味も良く知っていた」（7.0%）、「言葉も知っていたし、意味も大体知っていた」（14.0%）と回答した人を合わせた割合は2割強（21.0%）となっている。

一方、「言葉も意味も知らなかった（今回の調査で初めて聞いた）」と回答した人の割合は6割弱（59.2%）となっている。

図 5.11-1 「慢性閉塞性肺疾患（COPD）」という言葉や意味の認知度



【性別・年齢別】

「言葉も意味も良く知っていた」「言葉も知っていたし、意味も大体知っていた」を合わせた割合は、30歳代以下で高く、全体の約4分の1を占めている。

性別では、40歳代を除いた年代で「言葉も意味も良く知っていた」「言葉も知っていたし、意味も大体知っていた」を合わせた割合は、女性の方が高くなっている。

図 5.11-2 「慢性閉塞性肺疾患（COPD）」という言葉や意味の認知度（年齢別・全体）

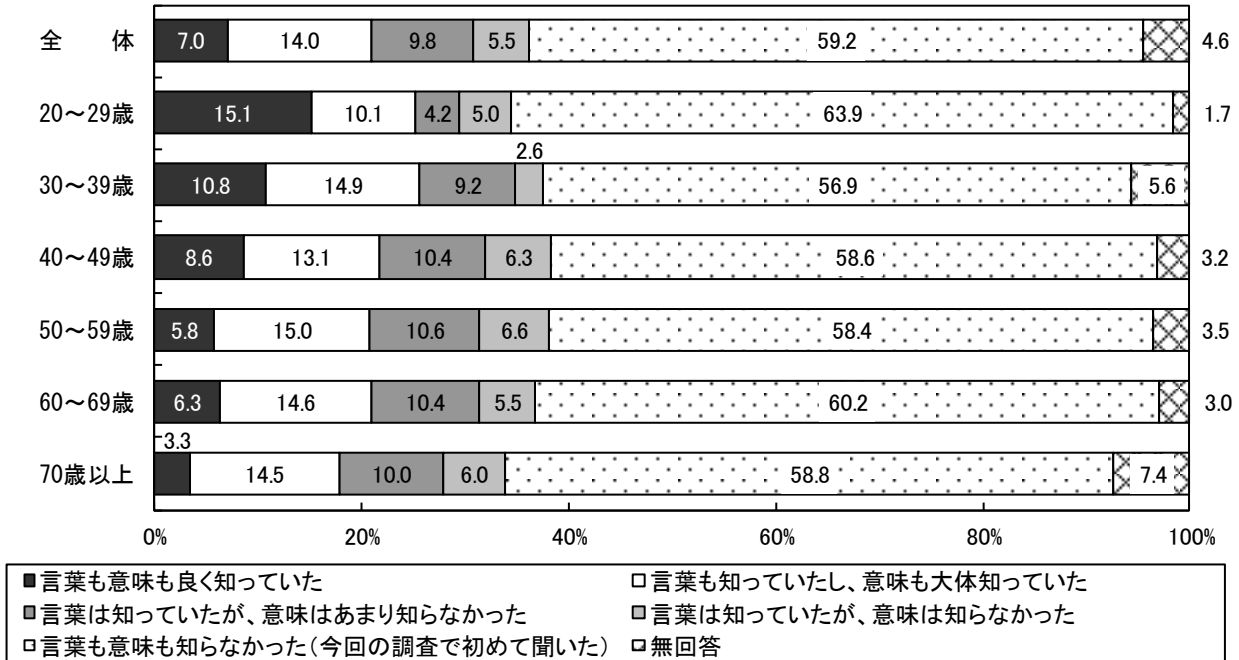
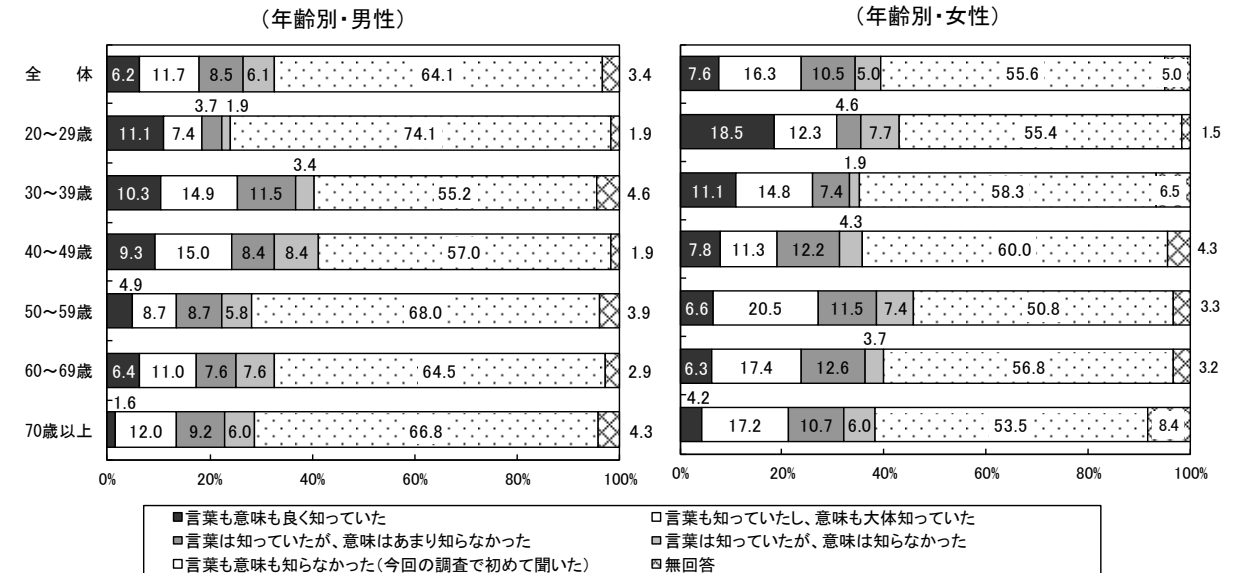


図 5.11-3 「慢性閉塞性肺疾患（COPD）」という言葉や意味の認知度



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,565	119	195	222	226	364	420	19
男性	707	54	87	107	103	172	184	0
女性	817	65	108	115	122	190	215	2

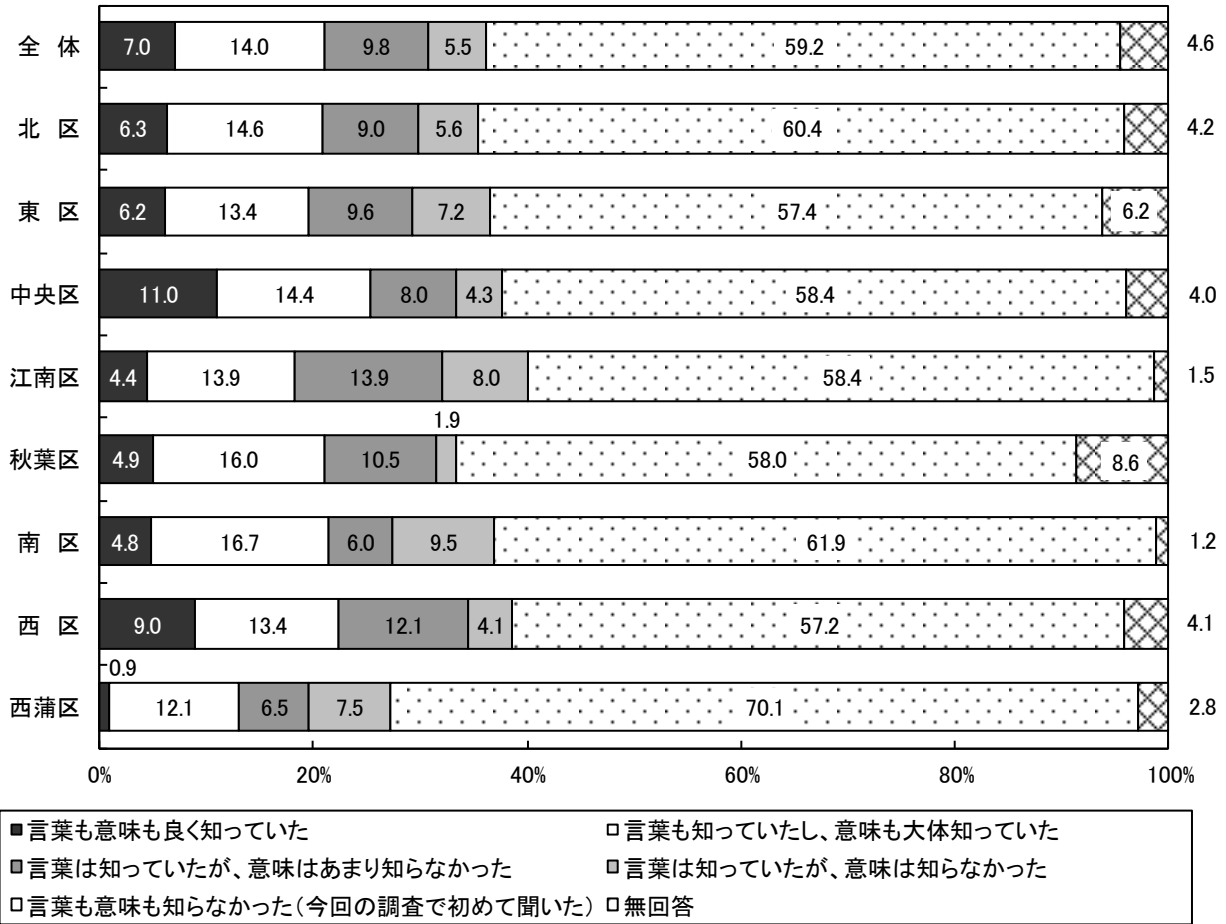
(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「言葉も意味も良く知っていた」「言葉も知っていたし、意味も大体知っていた」を合わせた割合は、中央区（25.4%）で最も高くなっている。

図 5.11-4 「慢性閉塞性肺疾患（COPD）」という言葉や意味の認知度（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,565	144	291	327	137	162	84	290	107	23

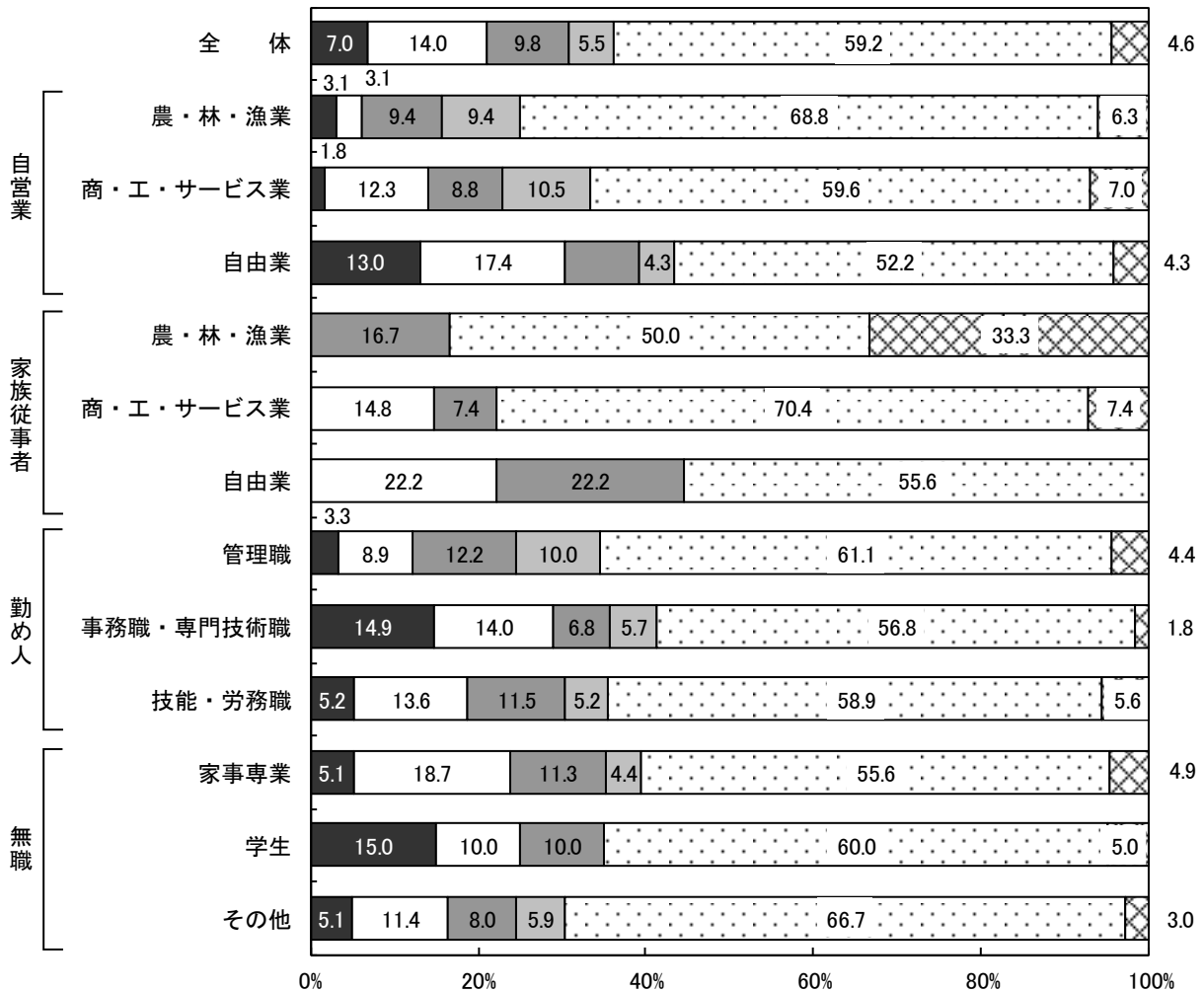
(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 5.11-5 「慢性閉塞性肺疾患（COPD）」という言葉や意味の認知度（職業別）



言葉も意味も良く知っていた
言葉も知っていたし、意味も大体知っていた
言葉は知っていたが、意味はあまり知らなかった
言葉は知っていたが、意味は知らなかった
言葉も意味も知らなかった(今回の調査で初めて聞いた)
無回答

全体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,565	32	57	23	6	27	9

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
90	336	287	390	20	237	51

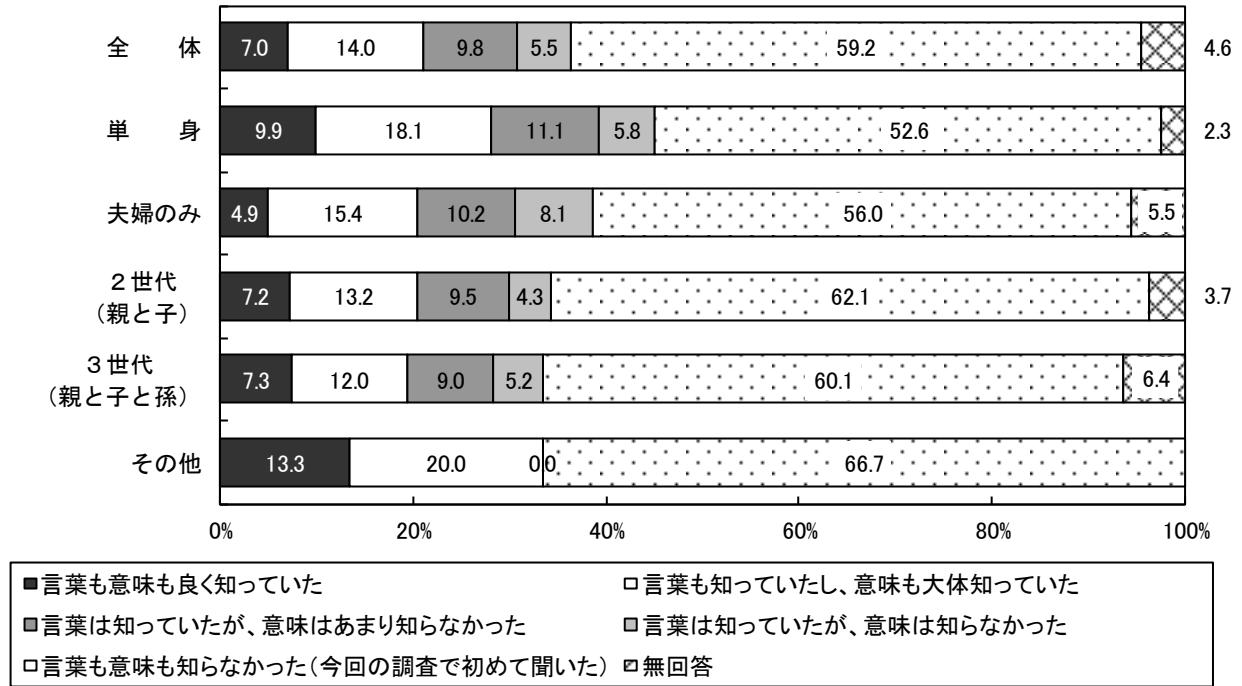
(人)

※無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「言葉も意味も良く知っていた」「言葉も知っていたし、意味も大体知っていた」を合わせた割合は、その他（33.3%）で最も高くなっている。

図 5.11-6 「慢性閉塞性肺疾患（COPD）」という言葉や意味の認知度（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代(親と子)	3世代(親と子と孫)	その他	無回答
1,565	171	384	737	233	15	25

(人)

※無回答者のグラフは省略した。

(12) 飲酒の頻度

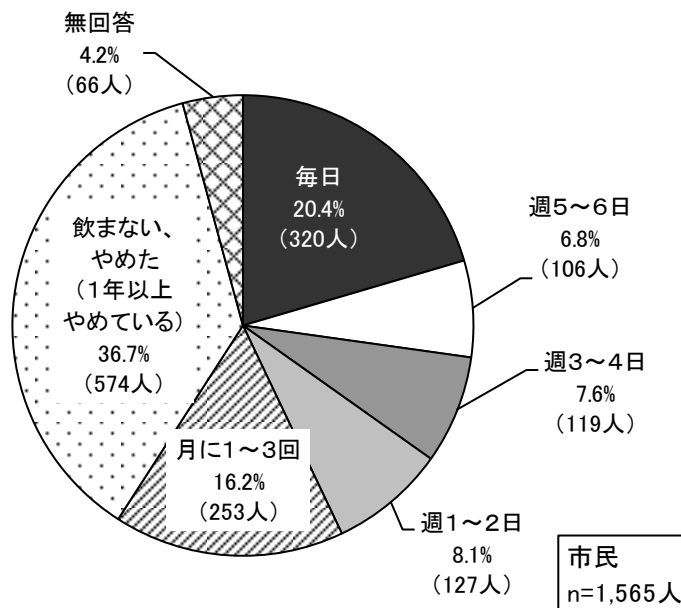
問36 あなたは週に何日くらいビール、日本酒、ウイスキーなどのアルコール類を飲みますか。
(○は1つだけ)

4割弱が「飲まない、やめた」と回答

【全体結果】

「飲まない、やめた（1年以上やめている）」と回答した人の割合が4割弱（36.7%）となっている。一方、飲酒の回数では「毎日」が約2割（20.4%）で、最も多くなっている。

図 5.12-1 飲酒の頻度



【性別・年齢別】

50歳代では「毎日」の割合が最も高く、20歳代では「月に1～3日」の割合が最も高くなっている。それ以外の年代では、「飲まない、やめた（1年以上やめている）」の割合が最も高くなっている。

性別では、20歳代を除いた年代で「飲まない、やめた（1年以上やめている）」の割合は男性より女性の方が高くなっている。「毎日」「週5～6日」を合わせた割合は、20歳代を除いた年代で、女性より男性の方が高くなっている。また「毎日」の割合は、50歳代と60歳代の男性で高く4割を超えている。

図 5.12-2 飲酒の頻度（年齢別・全体）

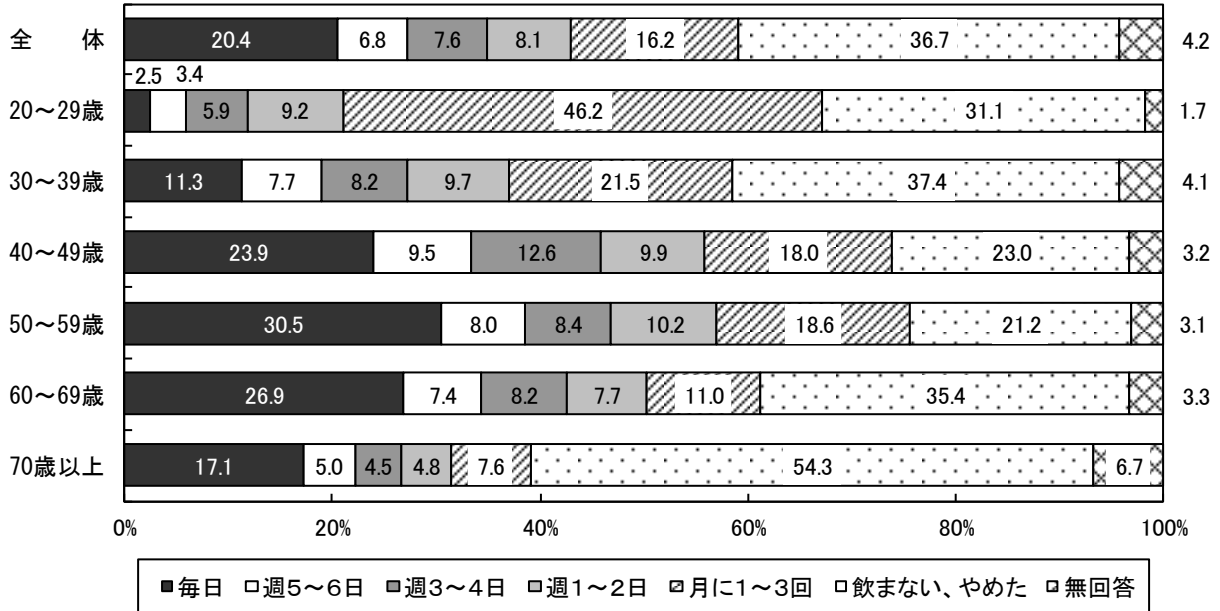
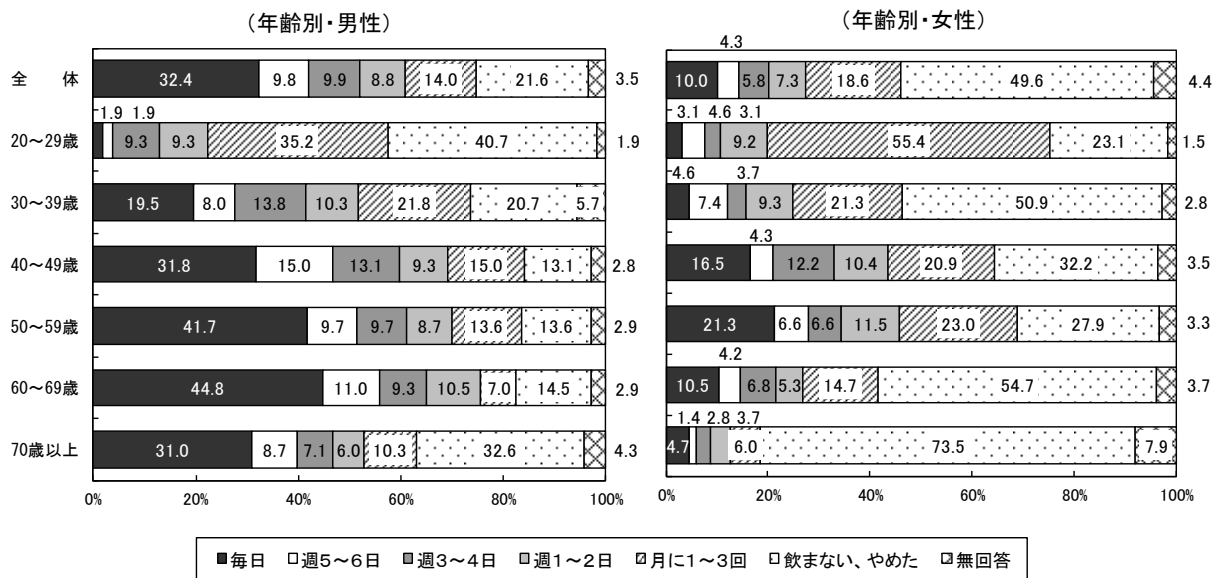


図 5.12-3 飲酒の頻度



	計	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,565	119	195	222	226	364	420	19
男性	707	54	87	107	103	172	184	0
女性	817	65	108	115	122	190	215	2

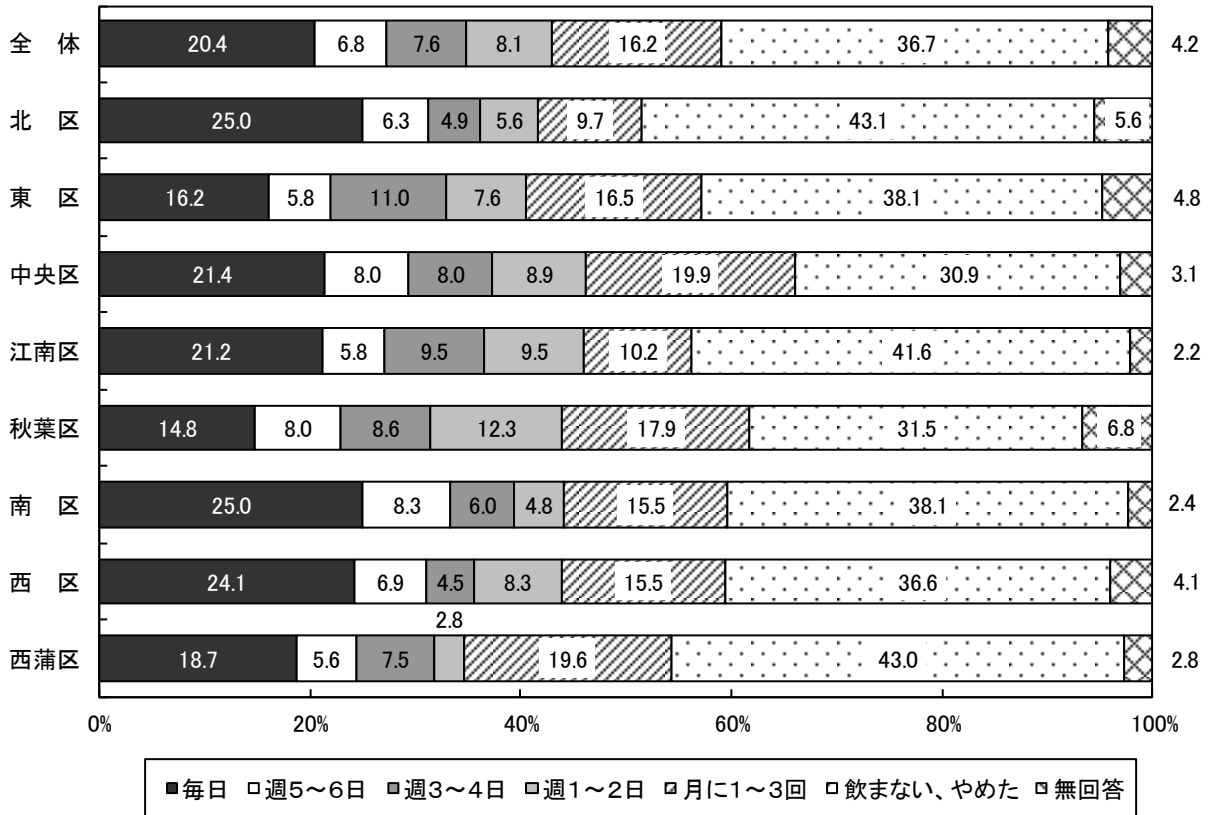
(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

各地区ともに、「飲まない、やめた（1年以上やめている）」の割合が最も高くなっている。一方、「毎日」の割合は、北区と南区（いずれも25.0%）で高くなっている。

図 5.12-4 飲酒の頻度（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,565	144	291	327	137	162	84	290	107	23

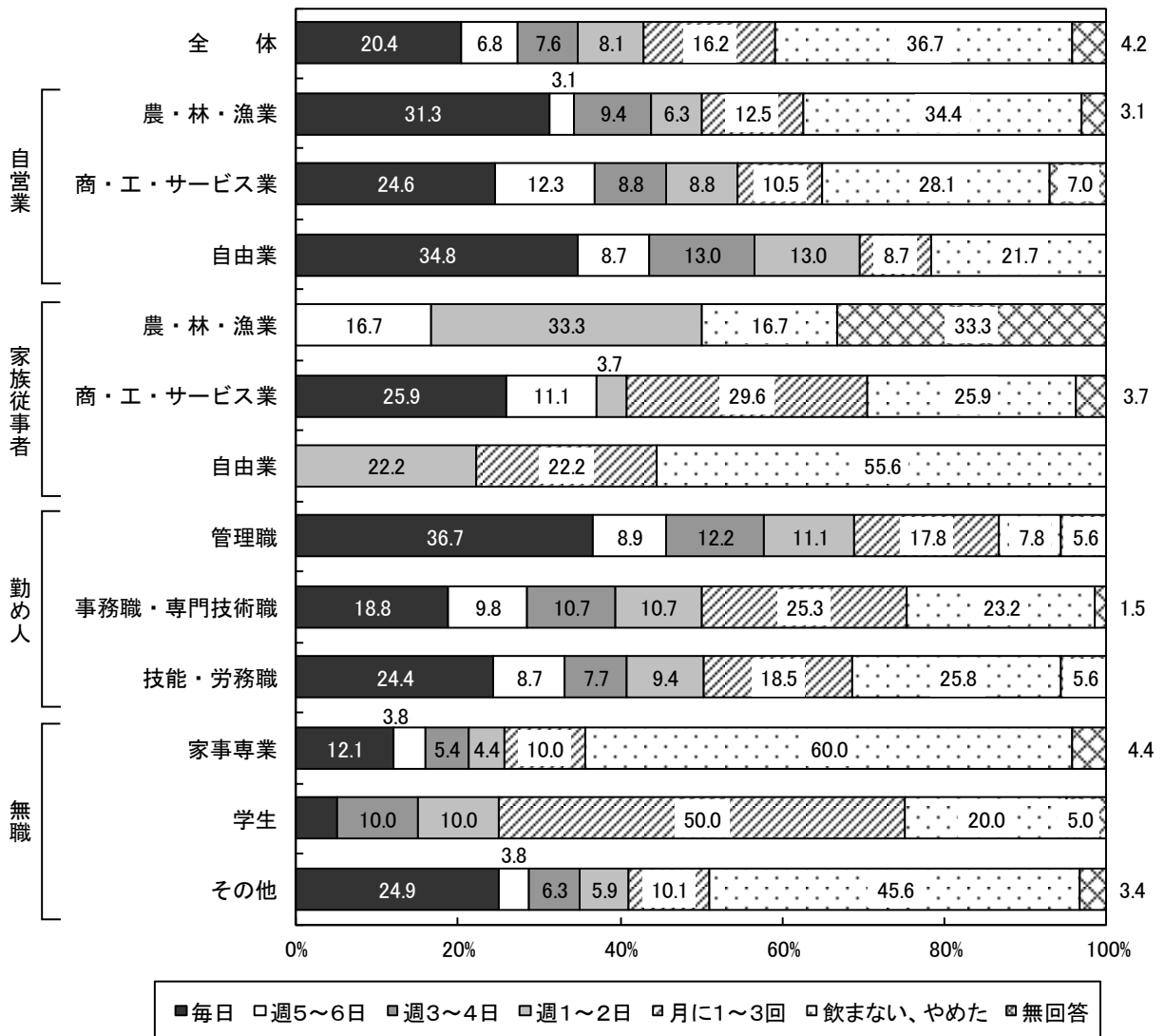
(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 5.12-5 飲酒の頻度（職業別）



全体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,565	32	57	23	6	27	9

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
90	336	287	390	20	237	51

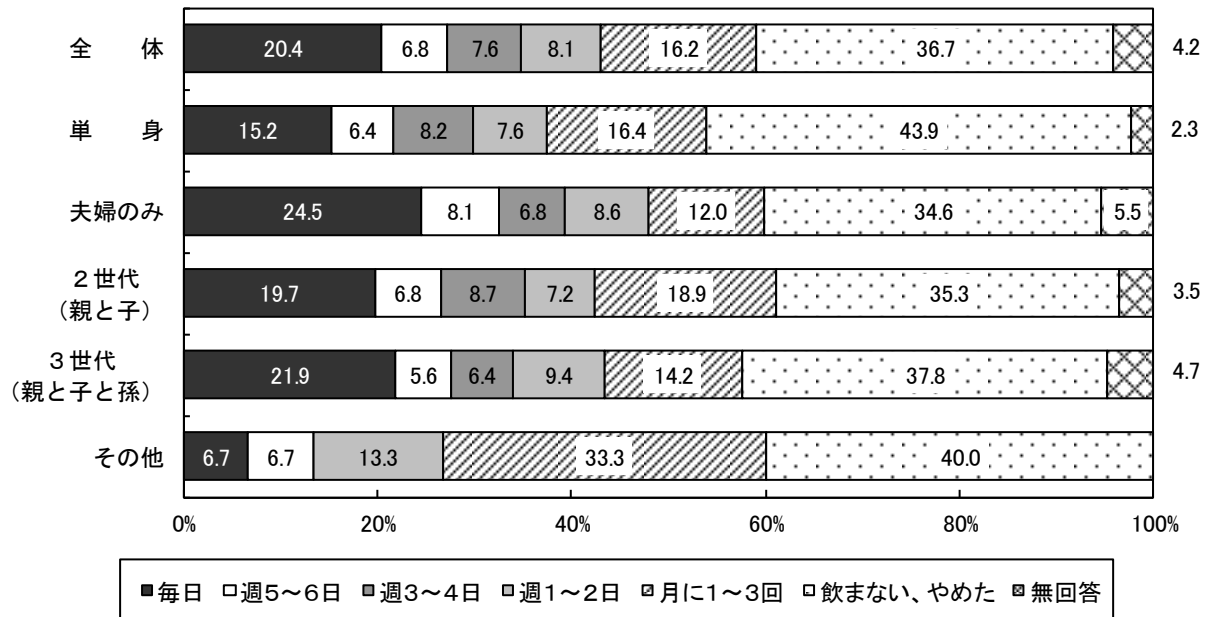
(人)

※無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

各家族構成ともに、「飲まない、やめた（1年以上やめている）」の割合が最も高くなっている。

図 5.12-6 飲酒の頻度（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代 (親と子)	3世代 (親と子と孫)	その他	無回答
1,565	171	384	737	233	15	25

(人)

※無回答者のグラフは省略した。

(13) 平均飲酒量

問36-1 あなたの1回当たりの平均飲酒量はどの程度ですか。(○は1つだけ)

※日本酒1合＝(180ml) } } を目安にしてください。

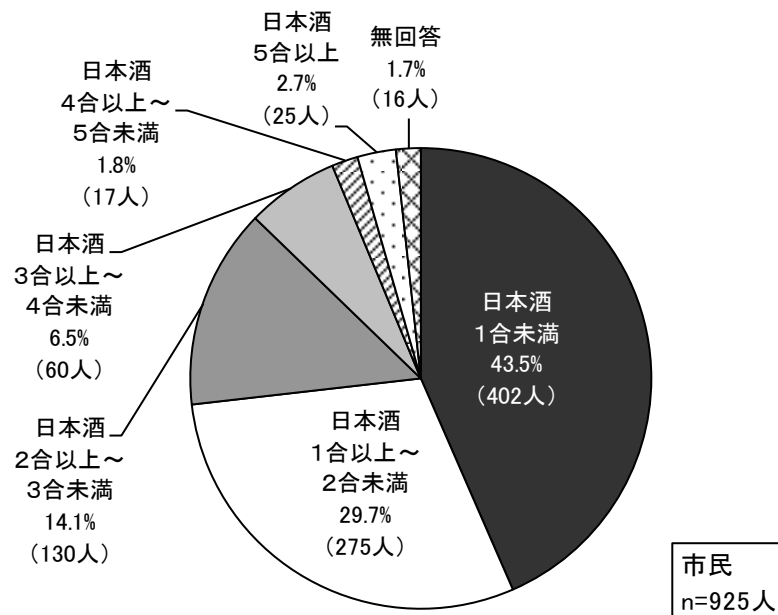
ビール、発泡酒1本(500ml)
 ワイン2杯(240ml)
 ウイスキーダブル1杯(60ml)
 焼酎 20度(135ml)
 焼酎 25度(110ml)
 酎ハイ 7度(350ml)

4割強が「日本酒1合未満」と回答

【全体結果】

平均飲酒量については、「日本酒1合未満」(43.5%)と回答した人が最も多く、以下「日本酒1合以上～2合未満」(29.7%)、「日本酒2合以上～3合未満」(14.1%)、「日本酒3合以上～4合未満」(6.5%)と続いている。

図 5.13-1 平均飲酒量



【性別・年齢別】

各年代とも「日本酒1合未満」と回答した人の割合が最も高く、70歳以上（48.8%）では5割弱となっている。

性別では、20歳代を除く女性では、「日本酒1合未満」の割合が最も高くなっている。女性20歳代と男性の各年代では「日本酒1合以上～2合未満」の割合が最も高くなっている。

図 5.13-2 平均飲酒量（年齢別・全体）

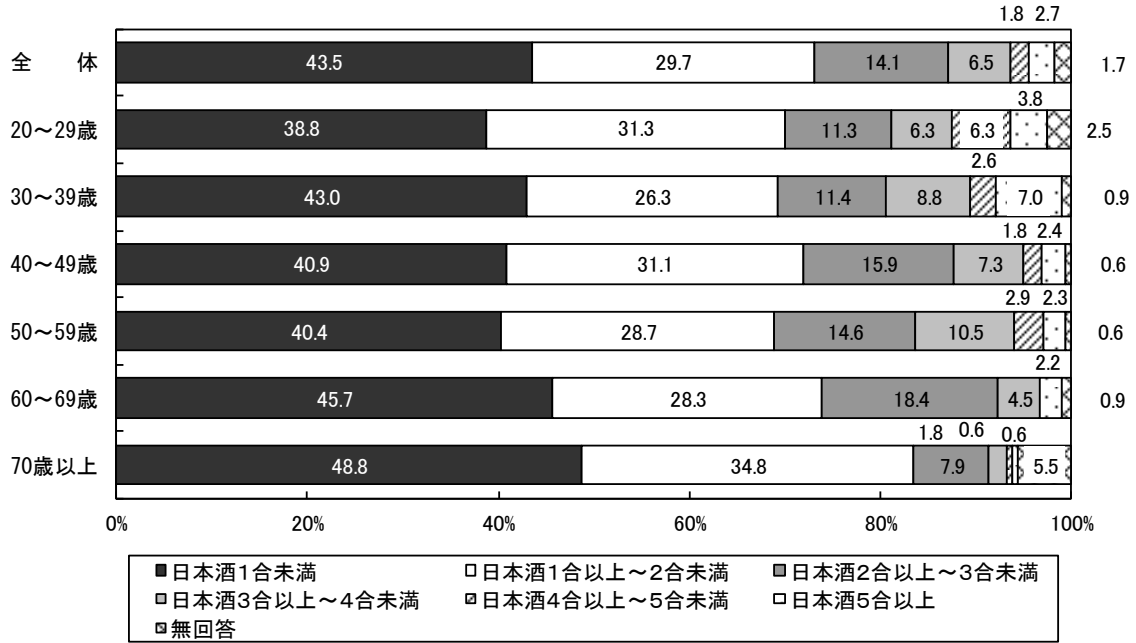
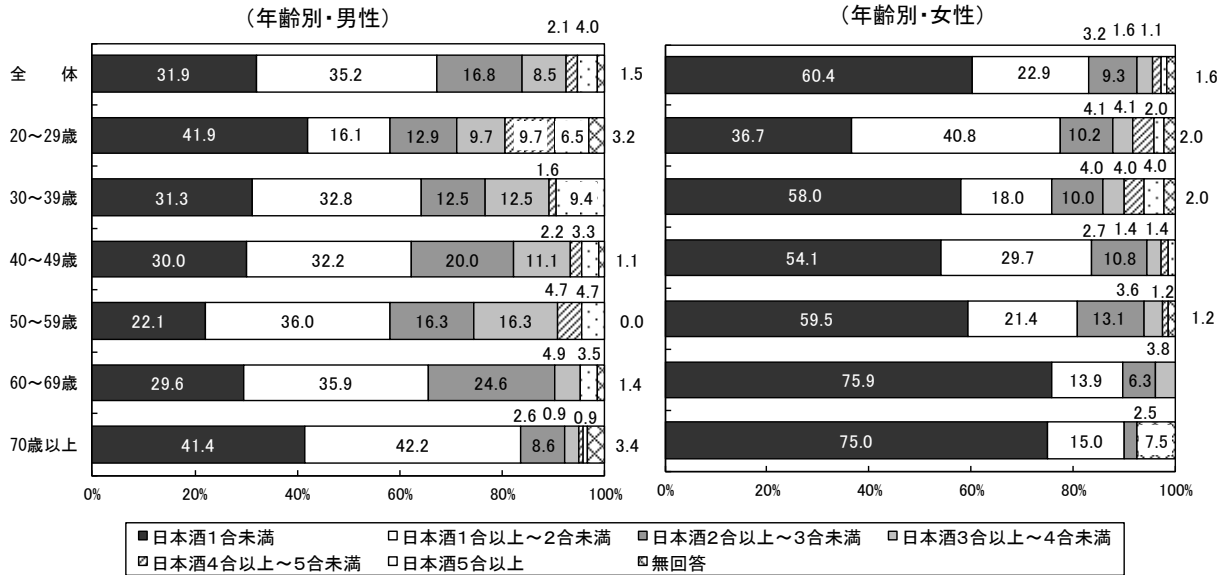


図 5.13-3 平均飲酒量



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	925	80	114	164	171	223	164	9
男性	529	31	64	90	86	142	116	0
女性	376	49	50	74	84	79	40	0

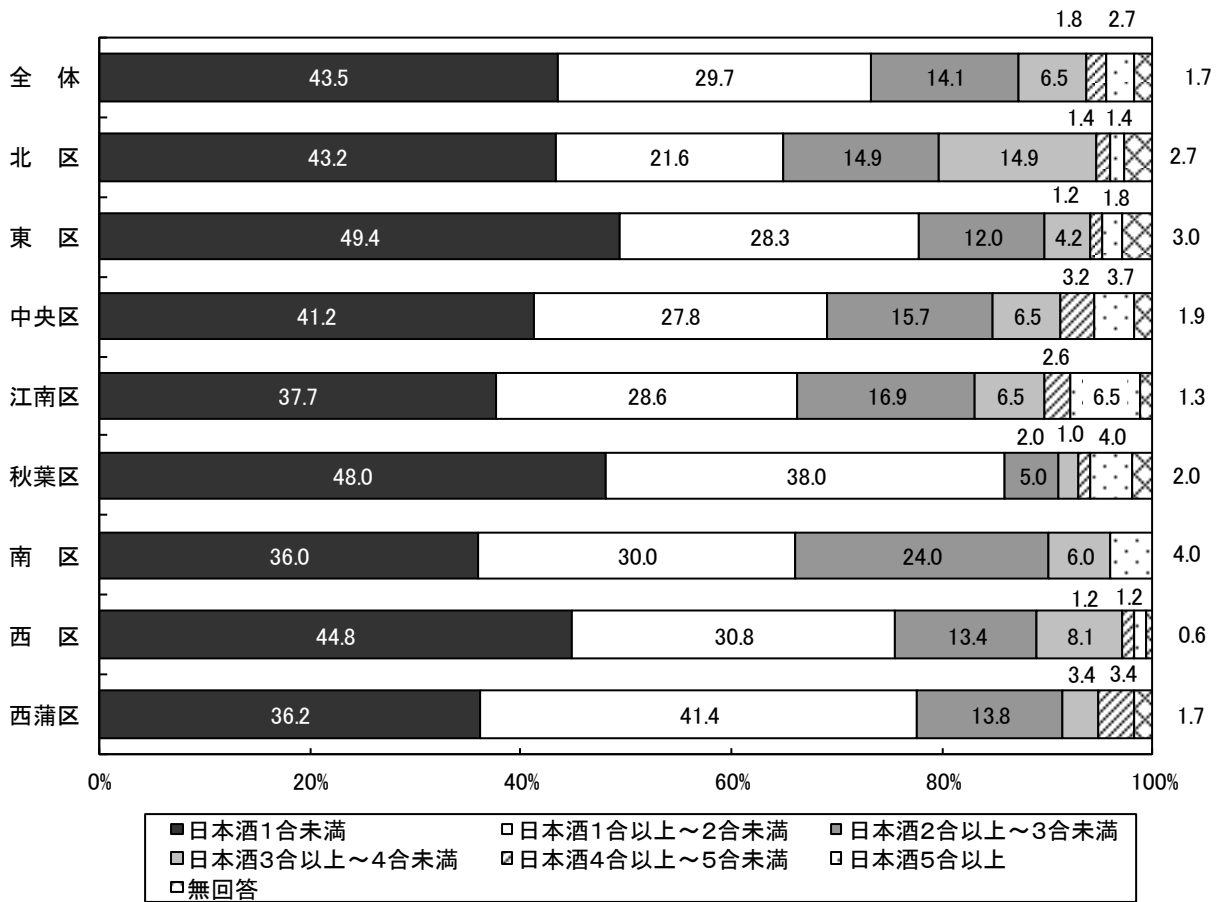
(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

各地区とも「日本酒1合未満」の割合が最も高くなっている。

図 5.13-4 平均飲酒量（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
925	74	166	216	77	100	50	172	58	12

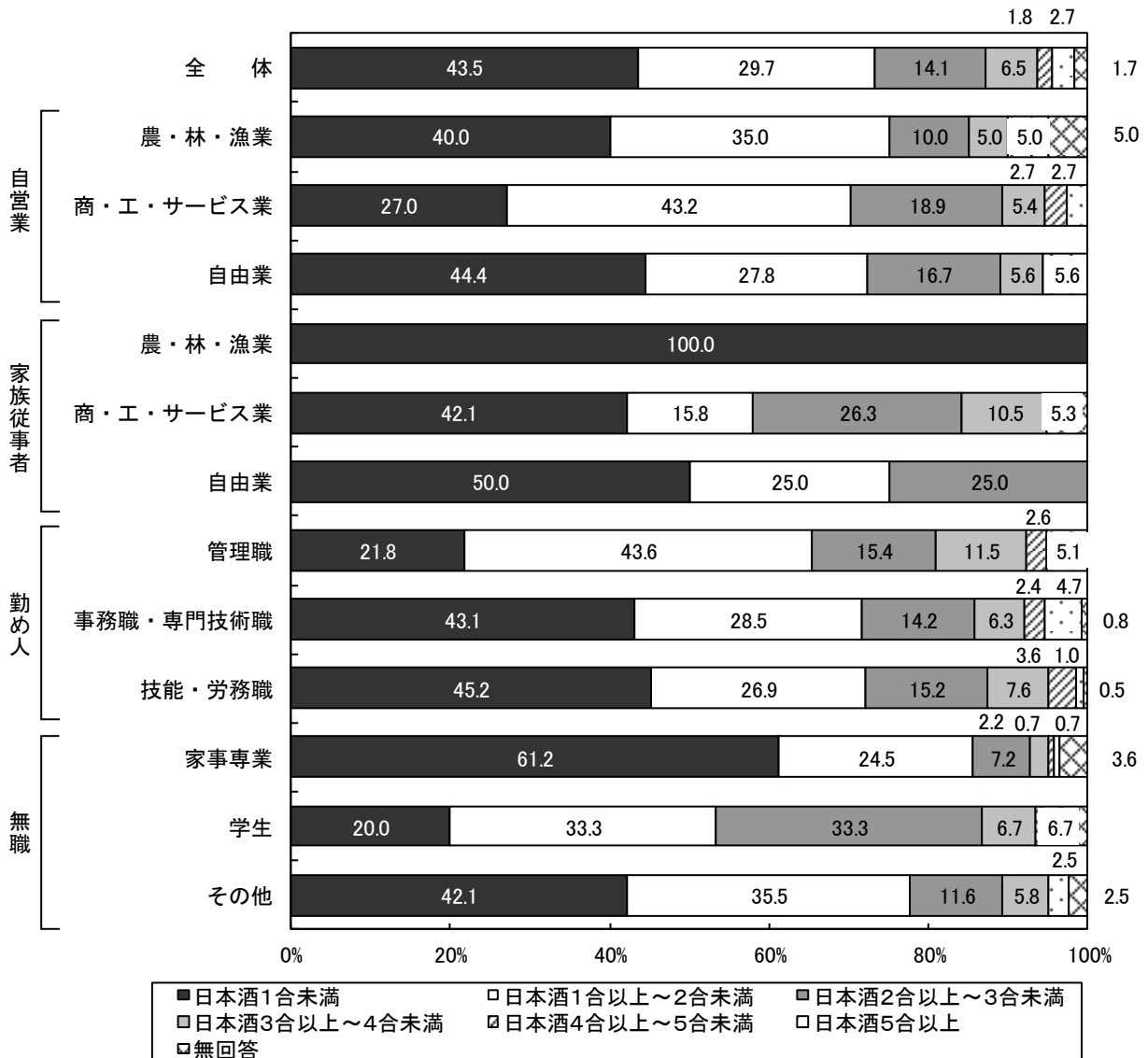
(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 5.13-5 平均飲酒量（職業別）



全体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
925	20	37	18	3	19	4

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
78	253	197	139	15	121	21

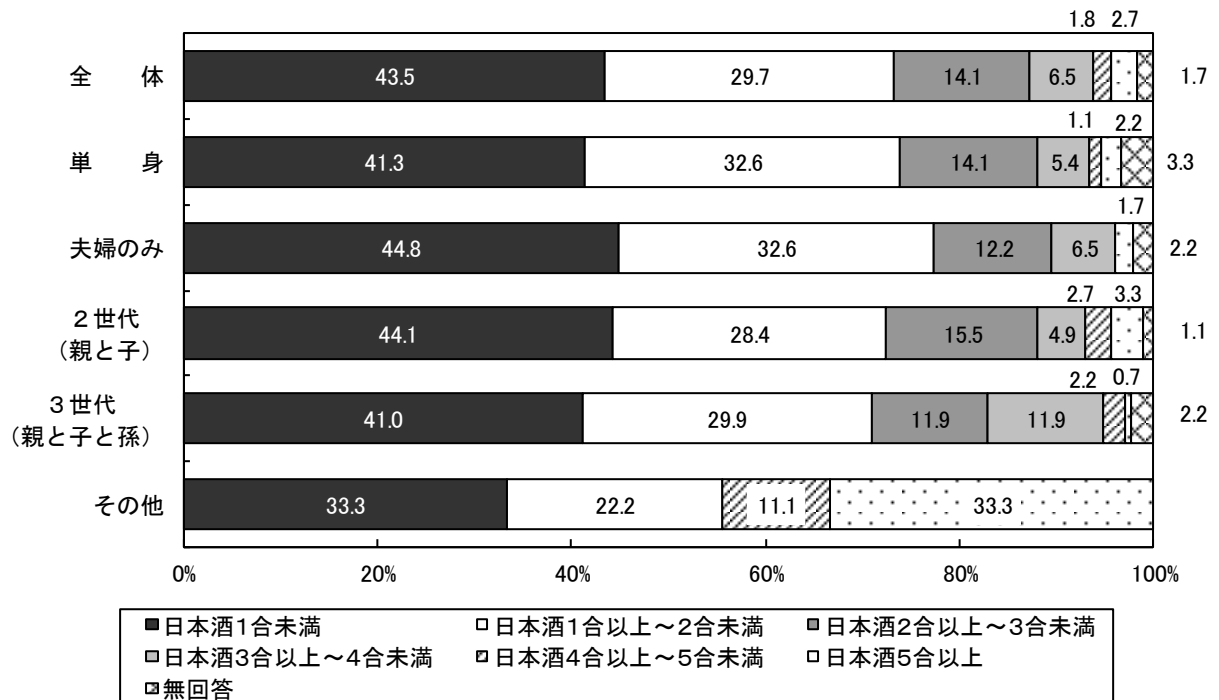
(人)

※無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

各家族構成とも「日本酒1合未満」の割合が最も高くなっている。

図 5.13-6 平均飲酒量（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代 (親と子)	3世代 (親と子と孫)	その他	無回答
925	92	230	451	134	9	9

(人)

※無回答者のグラフは省略した。

(14) 最近1年間の歯科健（検）診の受診状況

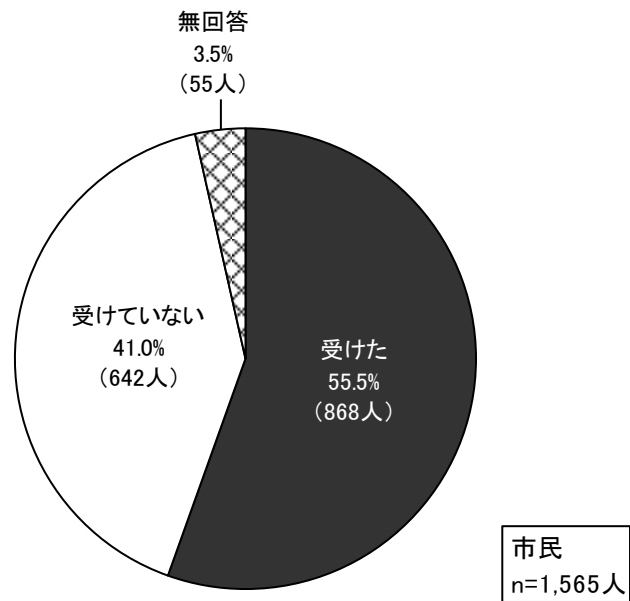
問37 あなたはこの1年間に歯科健（検）診を受けましたか。（○は1つだけ）

6割弱が歯科健（検）診を「受けた」と回答

【全体結果】

最近1年間に歯科健（検）診を「受けた」と回答した人の割合が6割弱（55.5%）、「受けていない」と回答した人の割合は4割強（41.0%）となっている。

図 5. 14-1 最近1年間の歯科健（検）診の受診状況



【性別・年齢別】

「受けた」の割合は、70歳以上（63.3%）が最も高く、60歳以上では6割を超えている。
性別では、「受けた」の割合は、各年代で女性の方が男性より高くなっている。

図 5.14-2 最近1年間の歯科健(検)診の受診状況（年齢別・全体）

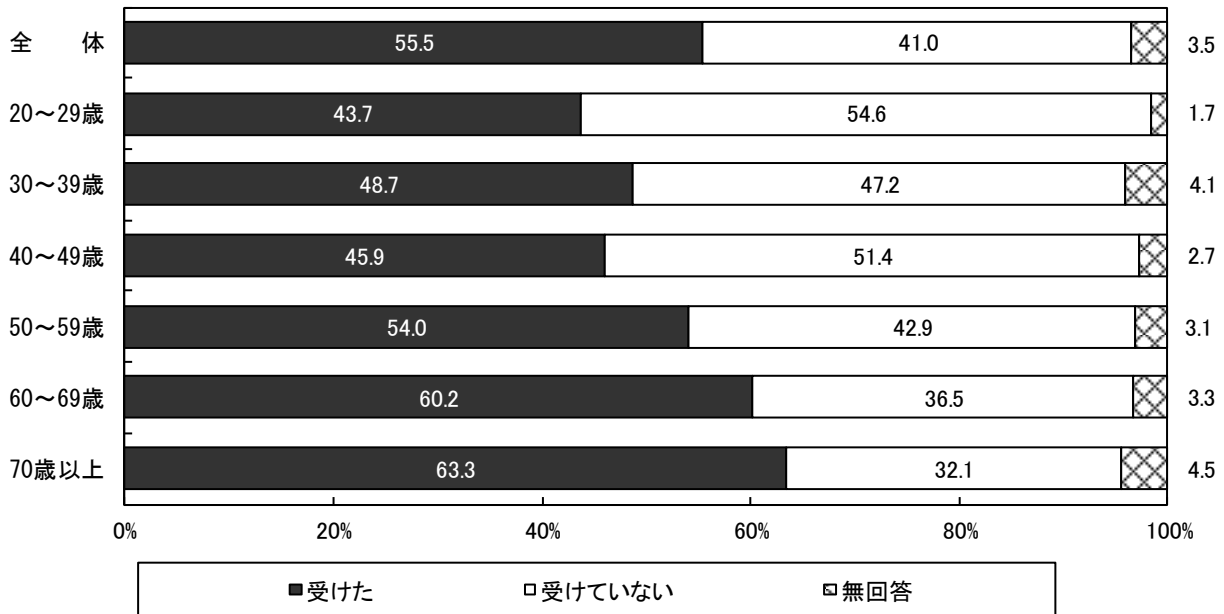
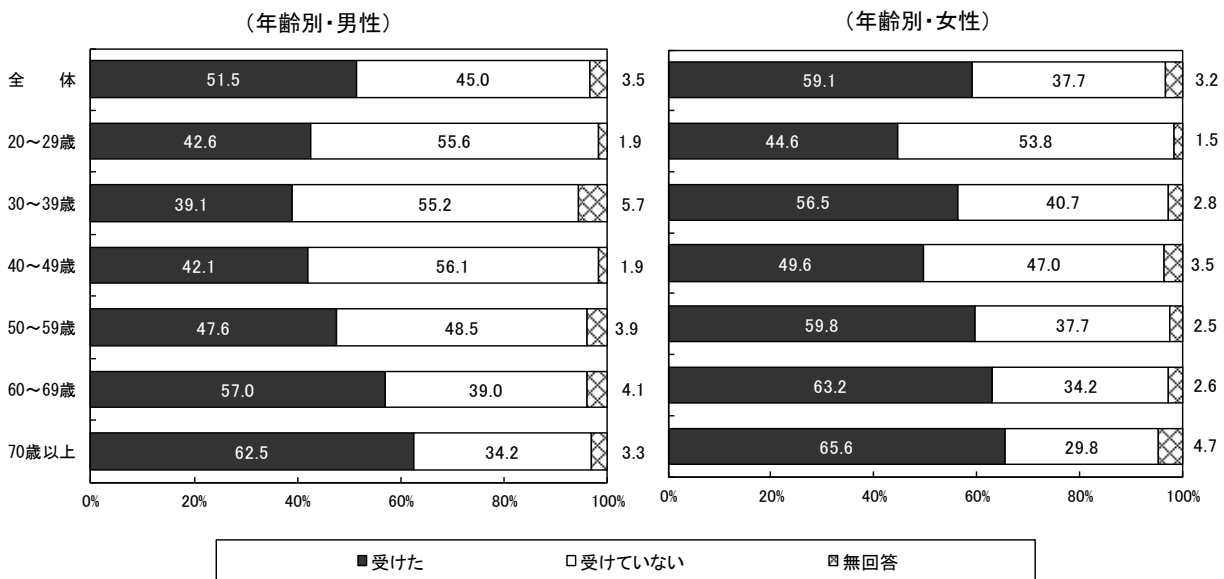


図 5.14-3 最近1年間の歯科健(検)診の受診状況



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全 体	1,565	119	195	222	226	364	420	19
男 性	707	54	87	107	103	172	184	0
女 性	817	65	108	115	122	190	215	2

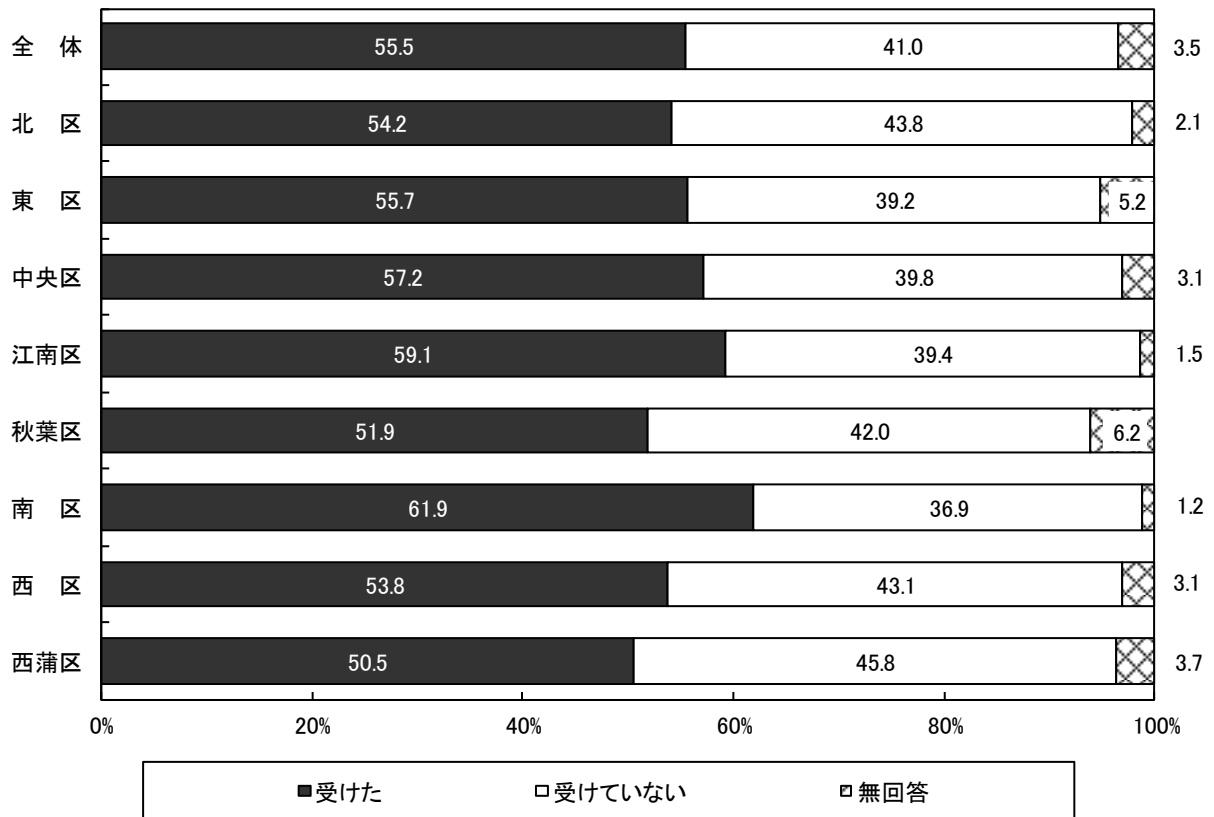
(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「受けた」の割合は、南区（61.9%）で最も高く、西蒲区（50.5%）で最も低くなっている。

図 5.14-4 最近1年間の歯科健(検)診の受診状況(地区別)



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,565	144	291	327	137	162	84	290	107	23

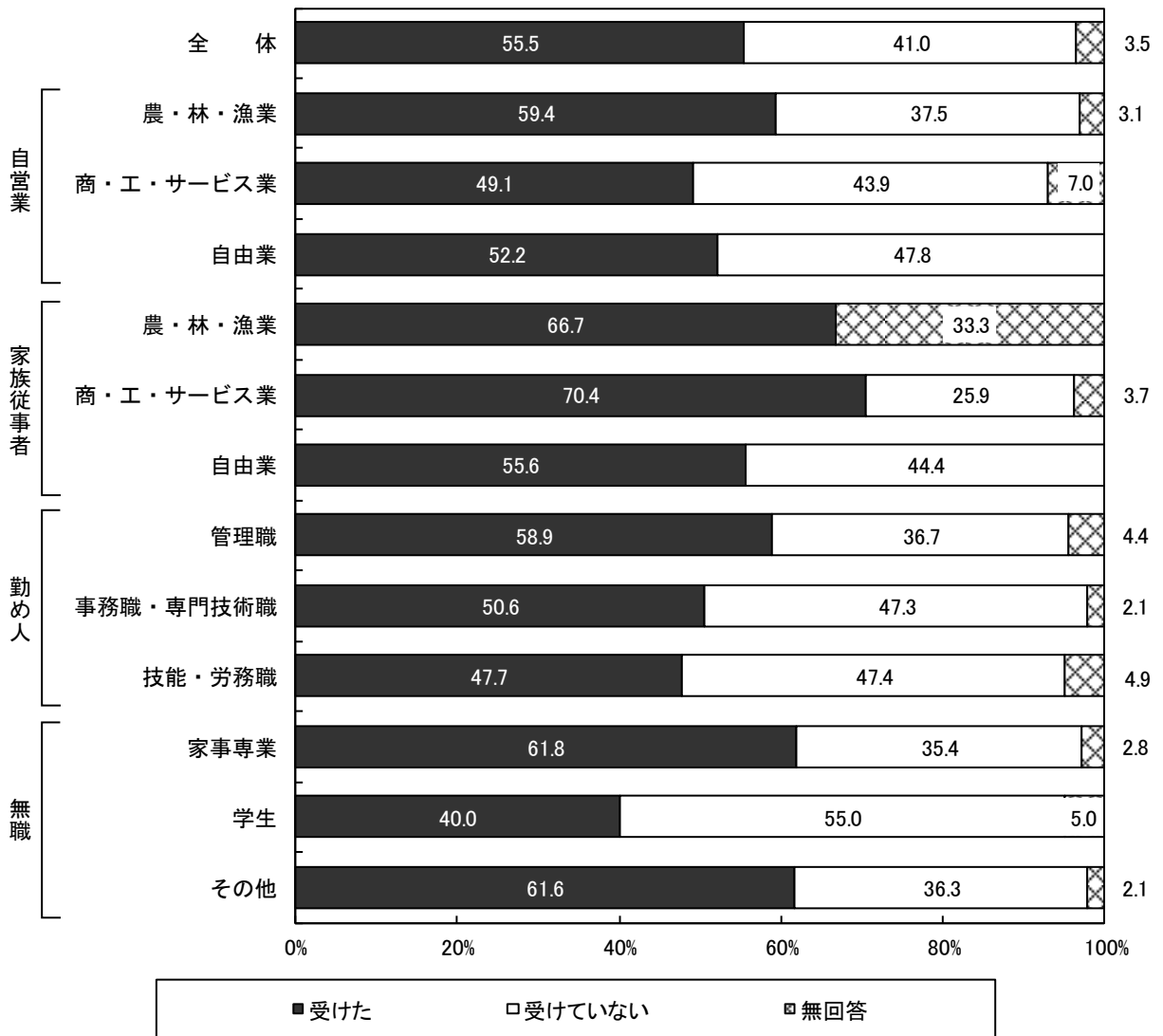
(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 5. 14-5 最近1年間の歯科健(検)診の受診状況(職業別)



全体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,565	32	57	23	6	27	9

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
90	336	287	390	20	237	51

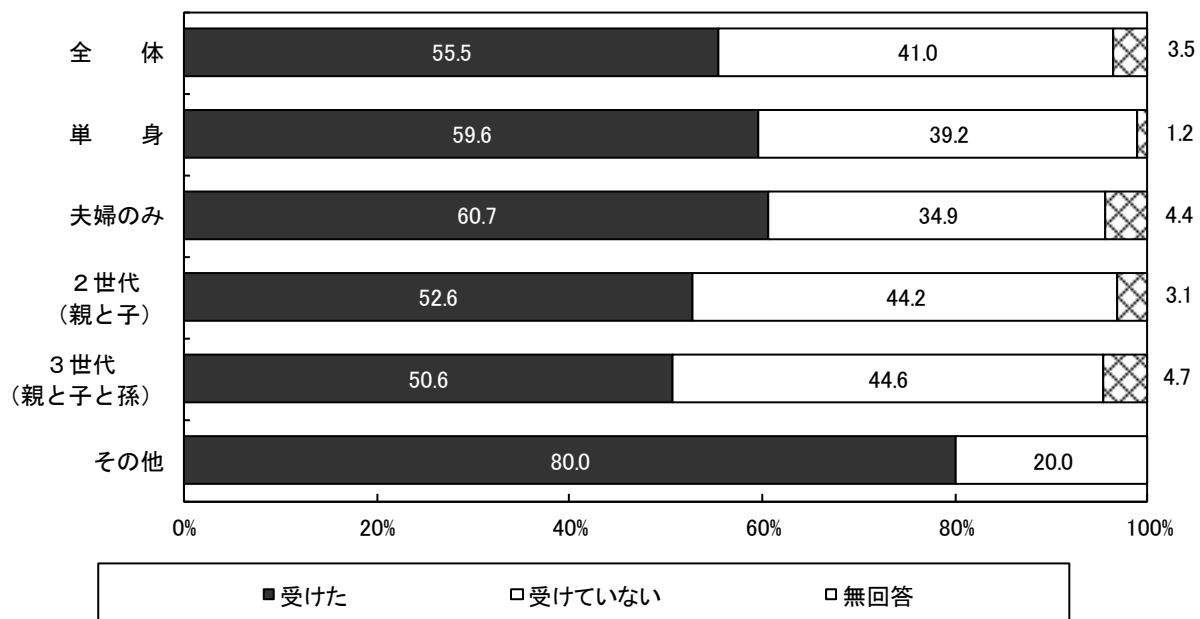
(人)

※無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「受けた」の割合は、その他（80.0%）と夫婦のみ（60.7%）で高くなっている。

図 5.14-6 最近1年間の歯科健(検)診の受診状況(家族構成別)



全体	単身	夫婦のみ	2世代 (親と子)	3世代 (親と子と孫)	その他	無回答
1,565	171	384	737	233	15	25

(人)

※無回答者のグラフは省略した。

(15) 歯間部清掃用具の使用状況

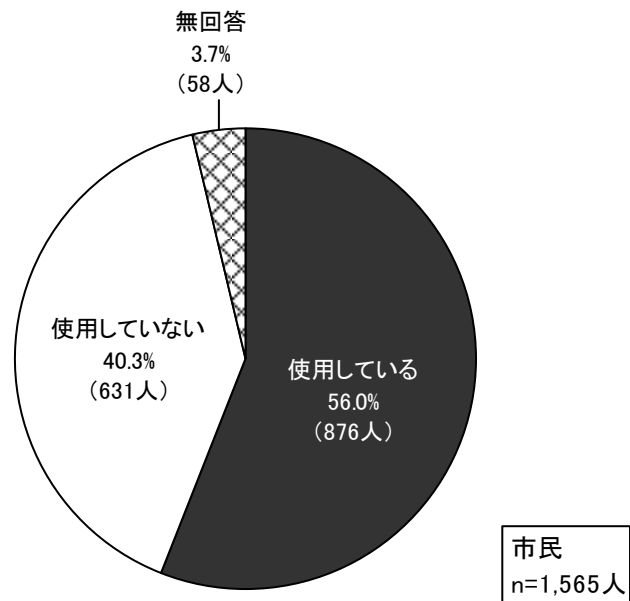
問38 あなたはむし歯予防や歯周病の予防のために歯間部清掃用具（デンタルフロス（糸つきようじ）、歯間ブラシ）を使用していますか。（○は1つだけ）

6割弱が「使用している」と回答

【全体結果】

歯間部清掃用具（デンタルフロス（糸つきようじ）、歯間ブラシ）を「使用している」と回答した人の割合が6割弱（56.0%）、「使用していない」と回答した人の割合は約4割（40.3%）となっている。

図 5. 15-1 歯間部清掃用具の使用状況



【性別・年齢別】

「使用している」の割合は、20歳代（42.0%）で、他の年代に比べ低くなっている。

性別では、「使用している」割合は、各年代で女性の方が男性より高くなっている。

図 5.15-2 歯間部清掃用具の使用状況（年齢別・全体）

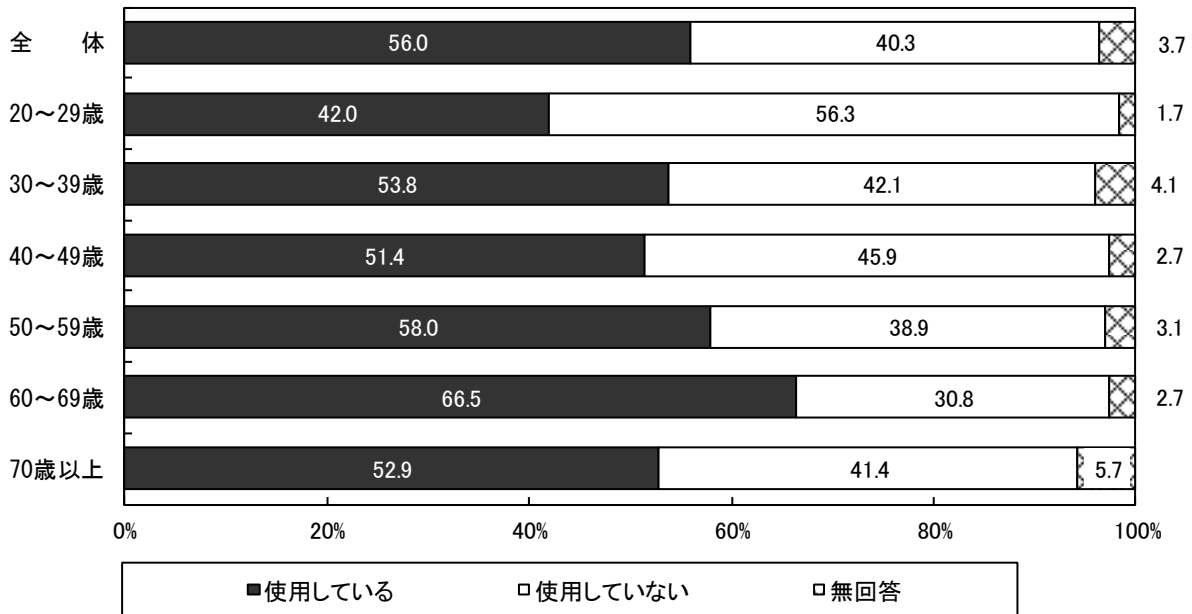
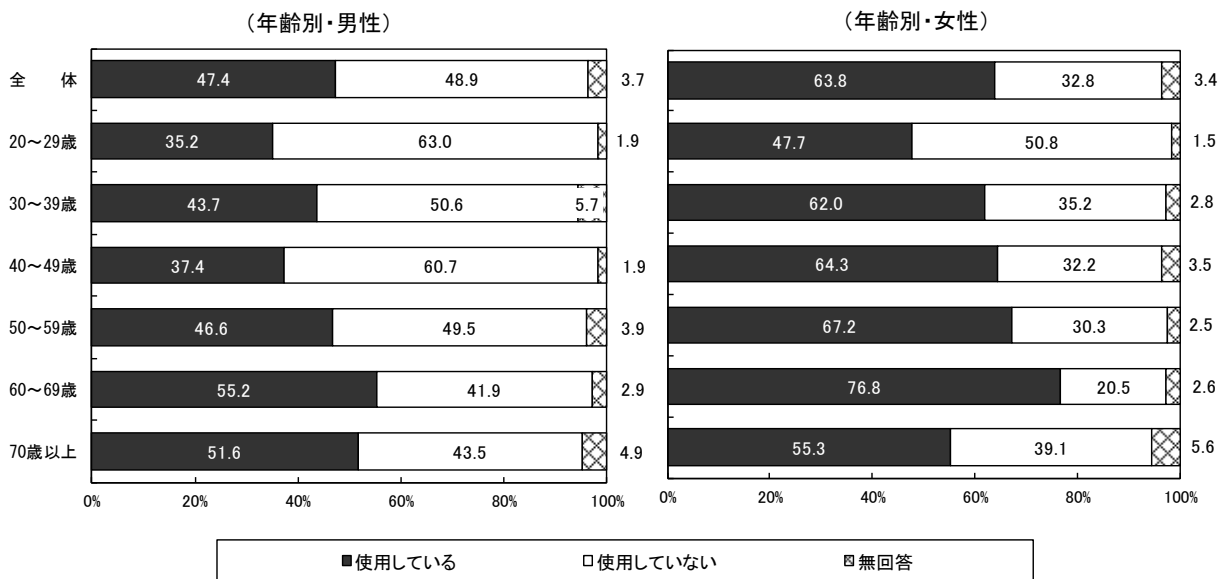


図 5.15-3 歯間部清掃用具の使用状況



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全 体	1,565	119	195	222	226	364	420	19
男 性	707	54	87	107	103	172	184	0
女 性	817	65	108	115	122	190	215	2

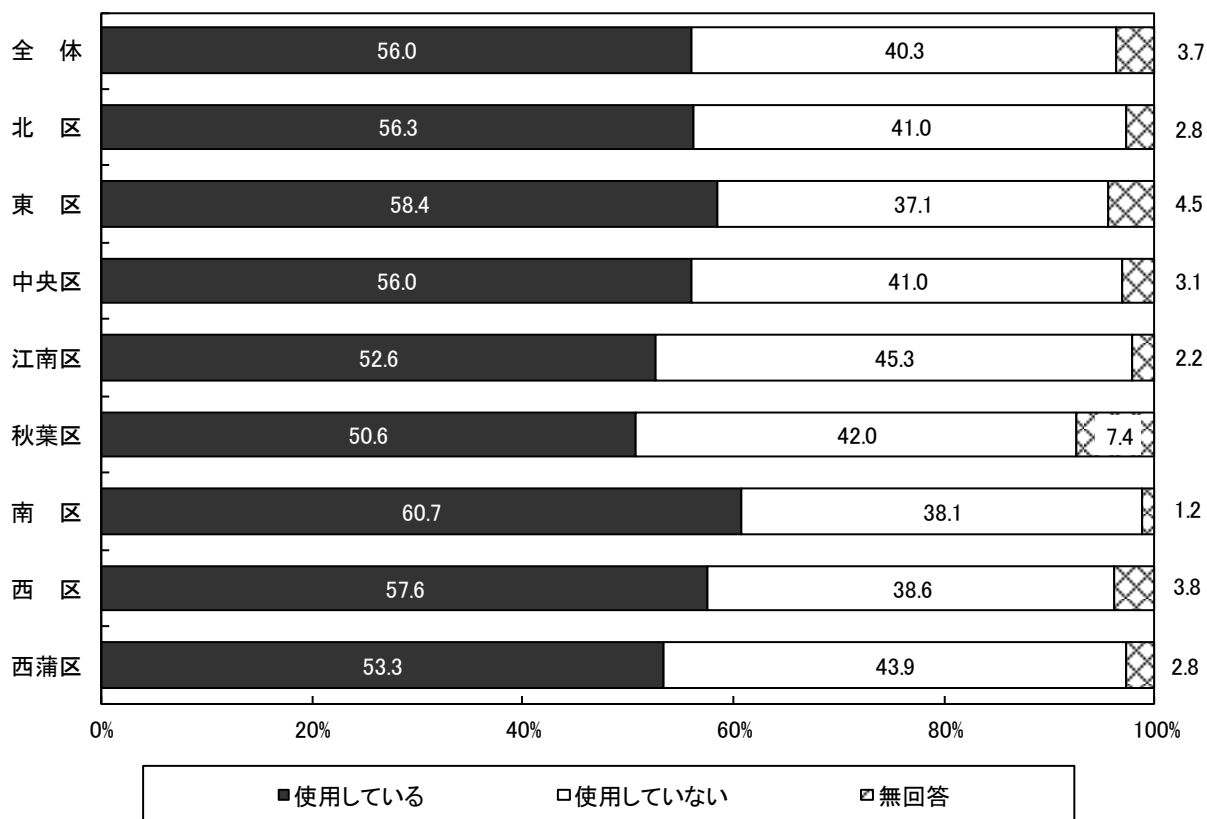
(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「使用している」割合は、南区（60.7%）で最も高く、6割を超えている。

図 5.15-4 歯間部清掃用具の使用状況（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,565	144	291	327	137	162	84	290	107	23

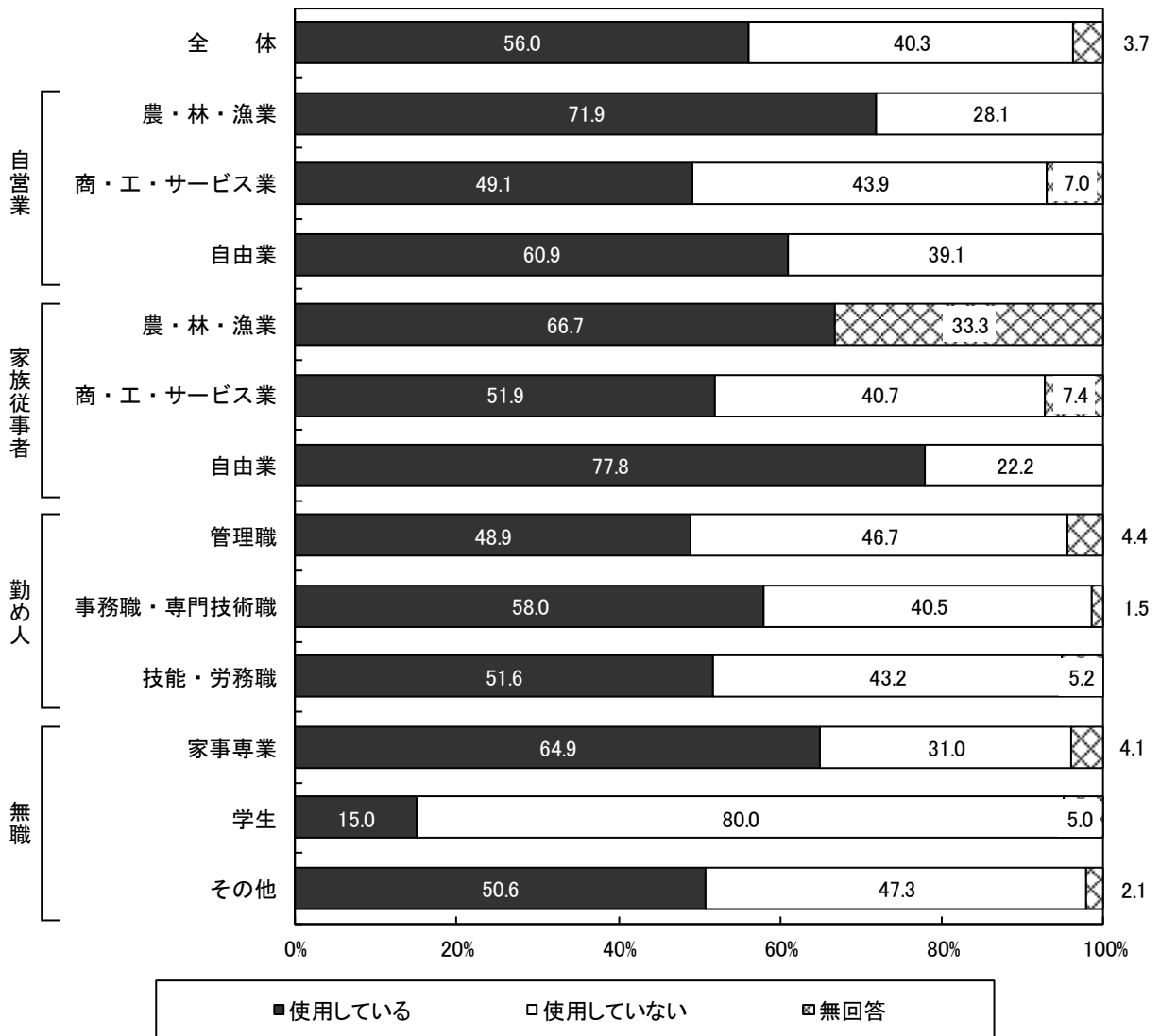
(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 5.15-5 歯間部清掃用具の使用状況（職業別）



全体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,565	32	57	23	6	27	9

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
90	336	287	390	20	237	51

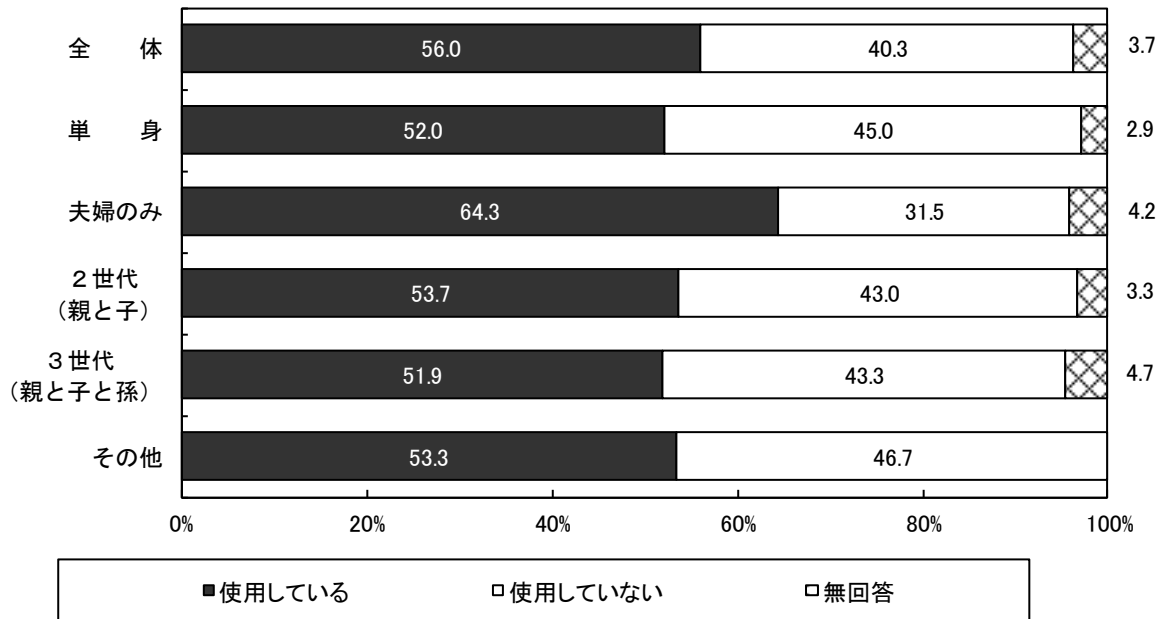
(人)

※無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「使用している」の割合は、夫婦のみ（64.3%）で最も高くなっている。

図 5.15-6 歯間部清掃用具の使用状況（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代 (親と子)	3世代 (親と子と孫)	その他	無回答
1,565	171	384	737	233	15	25

(人)

※無回答者のグラフは省略した。

(16) 「内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム）」という言葉や意味の認知度

問39 あなたは、「内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム）」という言葉や、その意味を知っていましたか。（○は1つだけ）

「内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム）」とは

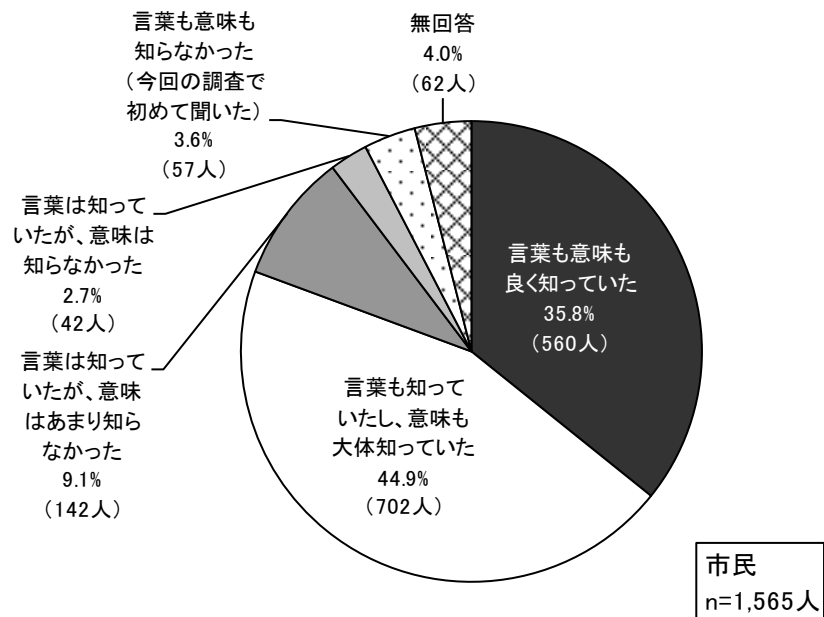
内臓脂肪が蓄積することによって、血圧、血糖が高くなったり、血中の脂質異常をおこしたりして、食事や運動などの生活習慣を改善しなければ、心筋梗塞や脳卒中などが起こりやすくなる状態のことです。

約8割が言葉や意味を認知していると回答

【全体結果】

「内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム）」という言葉や意味の認知の程度については、「言葉も意味も良く知っていた」（35.8%）、「言葉も知っていたし、意味も大体知っていた」（44.9%）と回答した人を合わせた割合は8割強（80.6%）となっている。

図 5.16-1 「内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム）」という言葉や意味の認知度



【性別・年齢別】

「言葉も意味も良く知っていた」「言葉も知っていたし、意味も大体知っていた」を合わせた割合は、40歳代（86.0%）で最も高く9割弱となっている。一方、70歳以上では、他の年代に比べ「言葉も意味も知らなかった（今回の調査で初めて聞いた）」（9.5%）の割合がやや高くなっている。

図 5.16-2 「内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム）」という言葉や意味の認知度
（年齢別・全体）

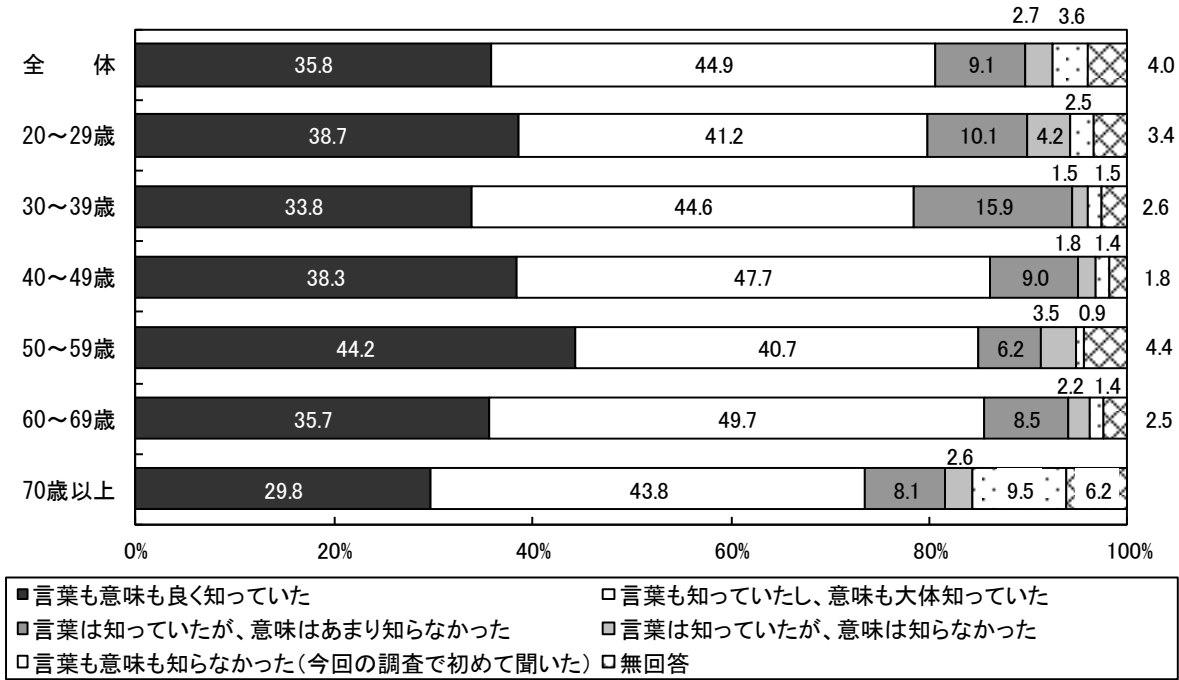
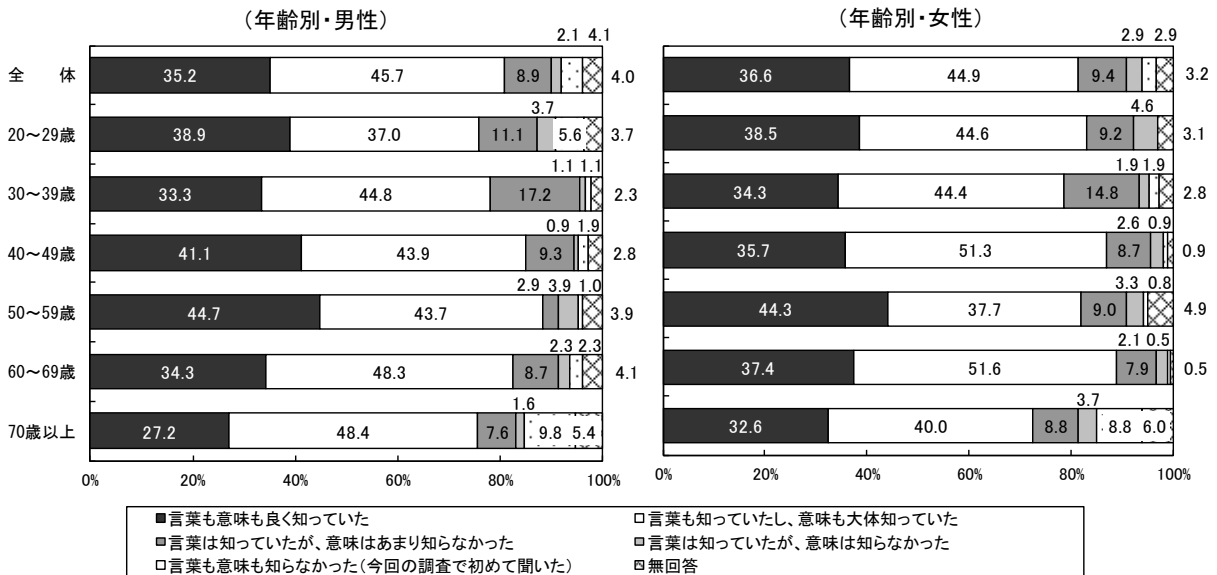


図 5.16-3 「内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム）」という言葉や意味の認知度



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,565	119	195	222	226	364	420	19
男性	707	54	87	107	103	172	184	0
女性	817	65	108	115	122	190	215	2

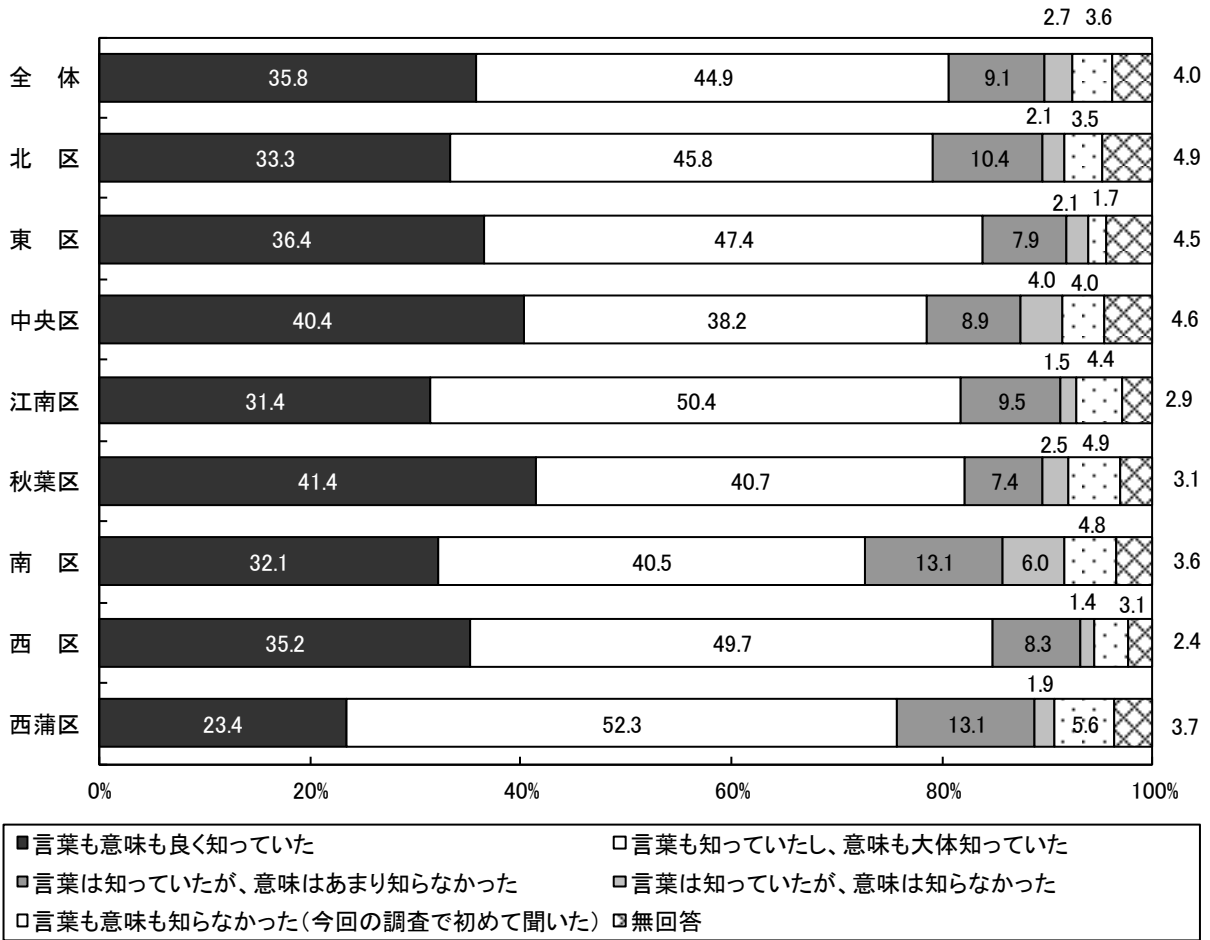
(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「言葉も意味も良く知っていた」「言葉も知っていたし、意味も大体知っていた」を合わせた割合は、西区、東区、秋葉区、江南区で8割を超えている。

図 5.16-4 「内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム）」という言葉や意味の認知度（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,565	144	291	327	137	162	84	290	107	23

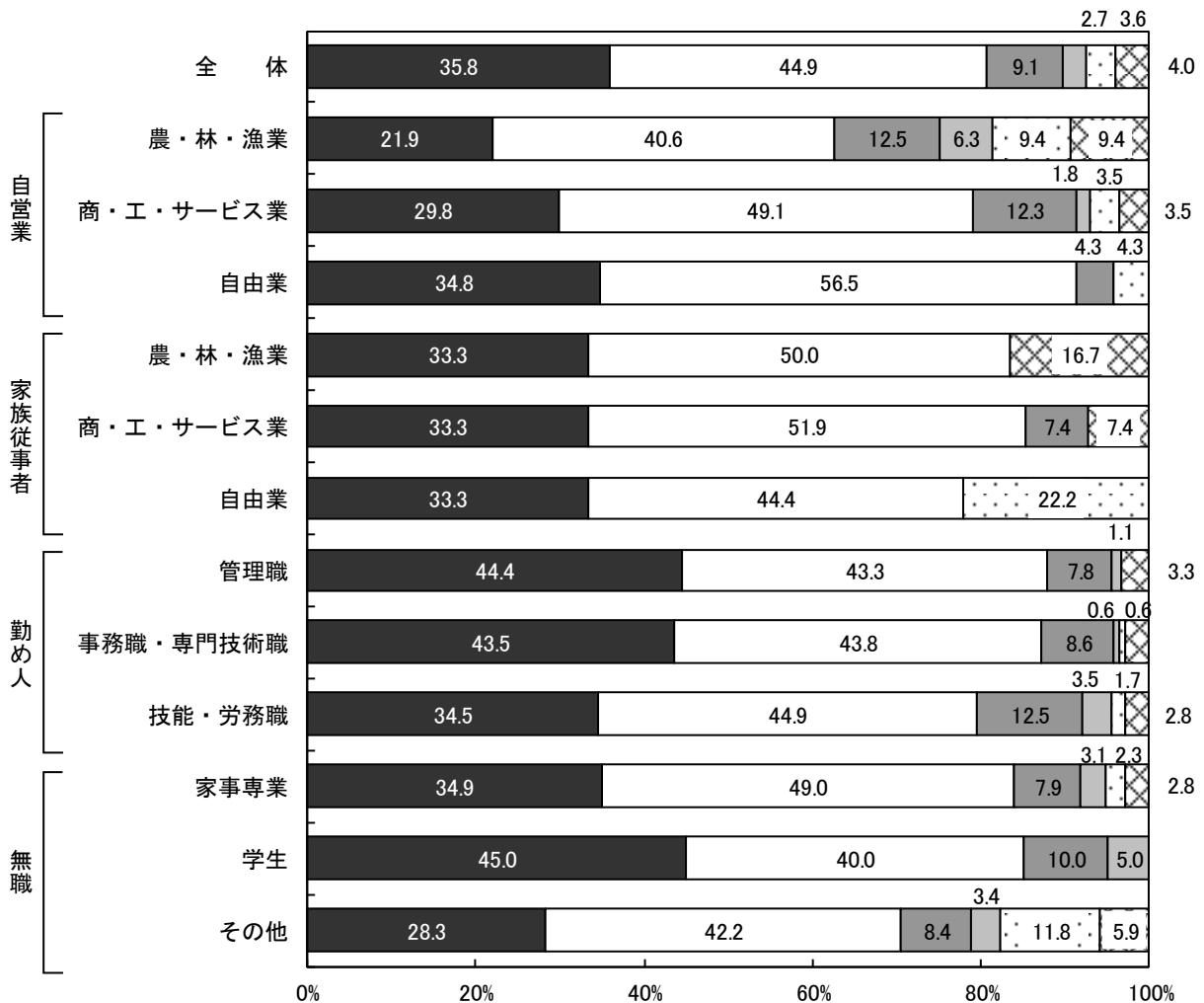
(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 5.16-5 「内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム）」という言葉や意味の認知度（職業別）



言葉も意味も良く知っていた 言葉も知っていたし、意味も大体知っていた
言葉は知っていたが、意味はあまり知らなかった 言葉は知っていたが、意味は知らなかった
言葉も意味も知らなかった(今回の調査で初めて聞いた) 無回答

全体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,565	32	57	23	6	27	9

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
90	336	287	390	20	237	51

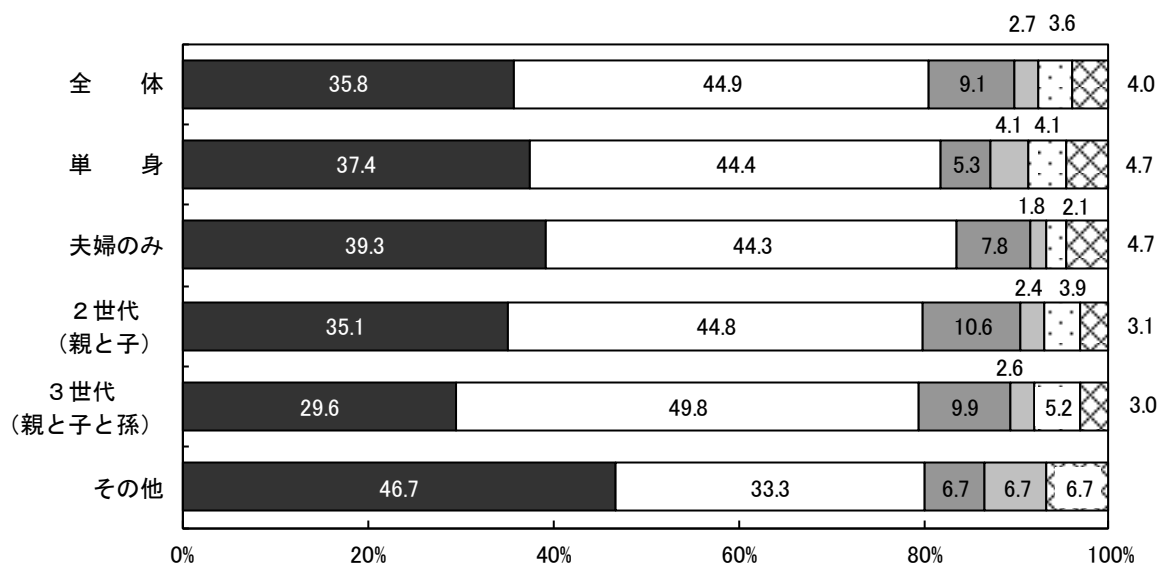
(人)

※無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「言葉も意味も良く知っていた」「言葉も知っていたし、意味も大体知っていた」を合わせた割合は、夫婦のみ（83.6%）で最も高くなっている。

図 5.16-6 「内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム）」という言葉や意味の認知度
(家族構成別)



- 言葉も意味も良く知っていた
- 言葉も知っていたし、意味も大体知っていた
- ▣ 言葉は知っていたが、意味はあまり知らなかった
- ▤ 言葉は知っていたが、意味は知らなかった
- ▥ 言葉も意味も知らなかった(今回の調査で初めて聞いた)
- ▧ 無回答

全体	単身	夫婦のみ	2世代 (親と子)	3世代 (親と子と孫)	その他	無回答
1,565	171	384	737	233	15	25

(人)

※無回答者のグラフは省略した。

(17) メタボリックシンドロームの予防・改善の取り組み状況

問40 あなたは、内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム）の予防や改善のために、①適切な食事、②定期的な運動、③週に複数回の体重計測、のいずれかを実践していますか。（○は1つだけ）

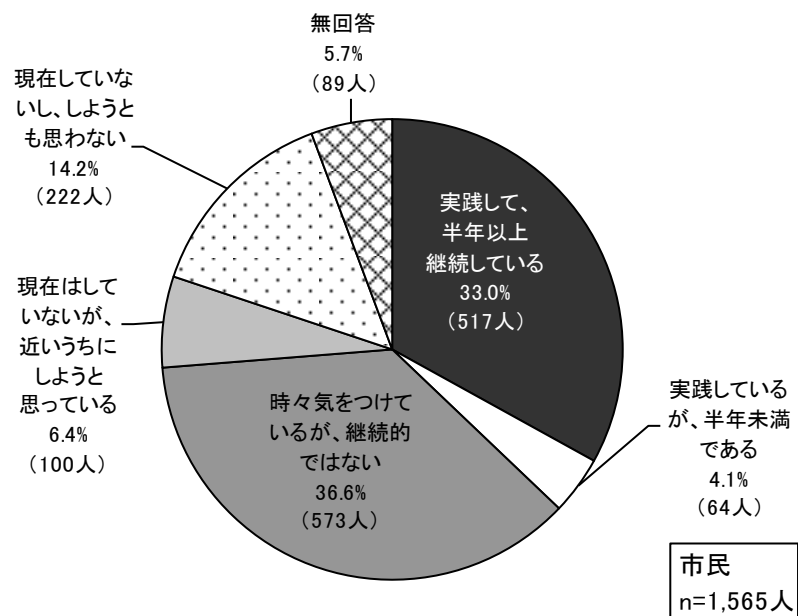
4割弱が予防・改善を実践していると回答

【全体結果】

期間に程度の差はあるが、予防・改善を「実践して、半年以上継続している」（33.0%）、「実践しているが、半年未満である」（4.1%）と回答した人を合わせた割合は4割弱（37.1%）となっている。

一方、「現在はしていないが、近いうちにしようと思っている」（6.4%）、「現在していないし、しようとも思わない」（14.2%）と回答した人を合わせた、現在予防・改善を実践していない人は2割強（20.6%）となっている。

図 5.17-1 メタボリックシンドロームの予防・改善の取り組み状況



【性別・年齢別】

「実践して、半年以上継続している」の割合は60歳代（44.2%）で最も高くなっている。一方、「現在していないし、しようとも思わない」の割合は、20歳代（26.9%）で高くなっている。

図 5.17-2 メタボリックシンドロームの予防・改善の取り組み状況（年齢別・全体）

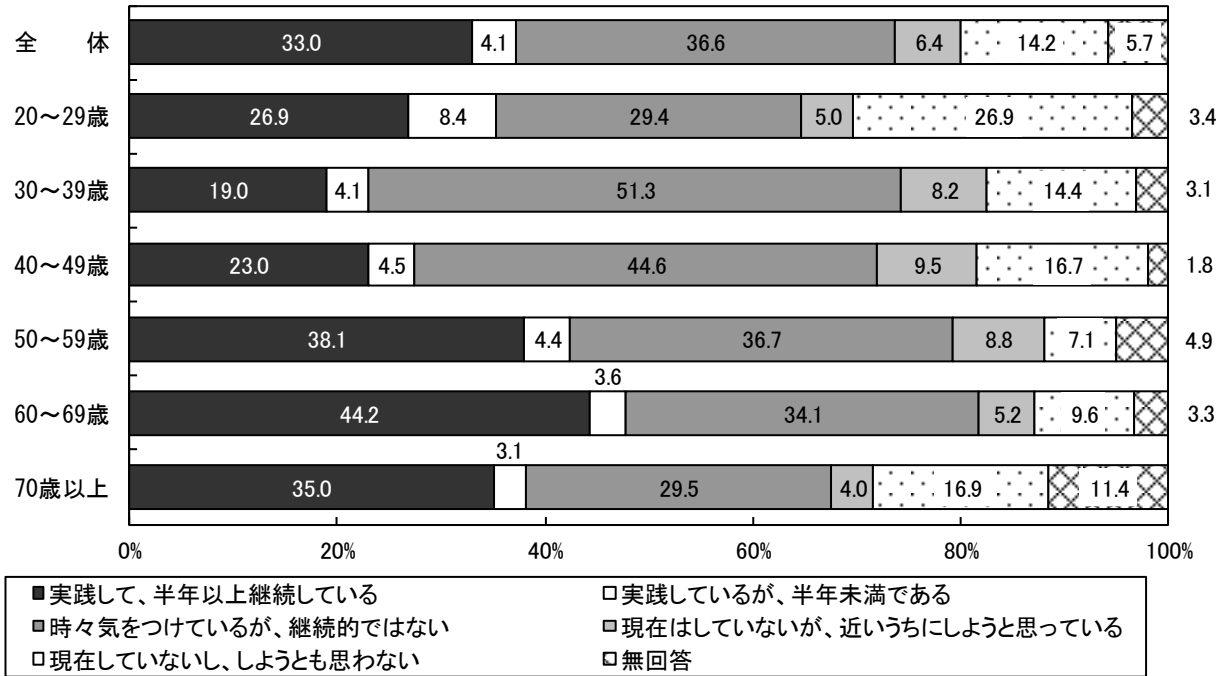
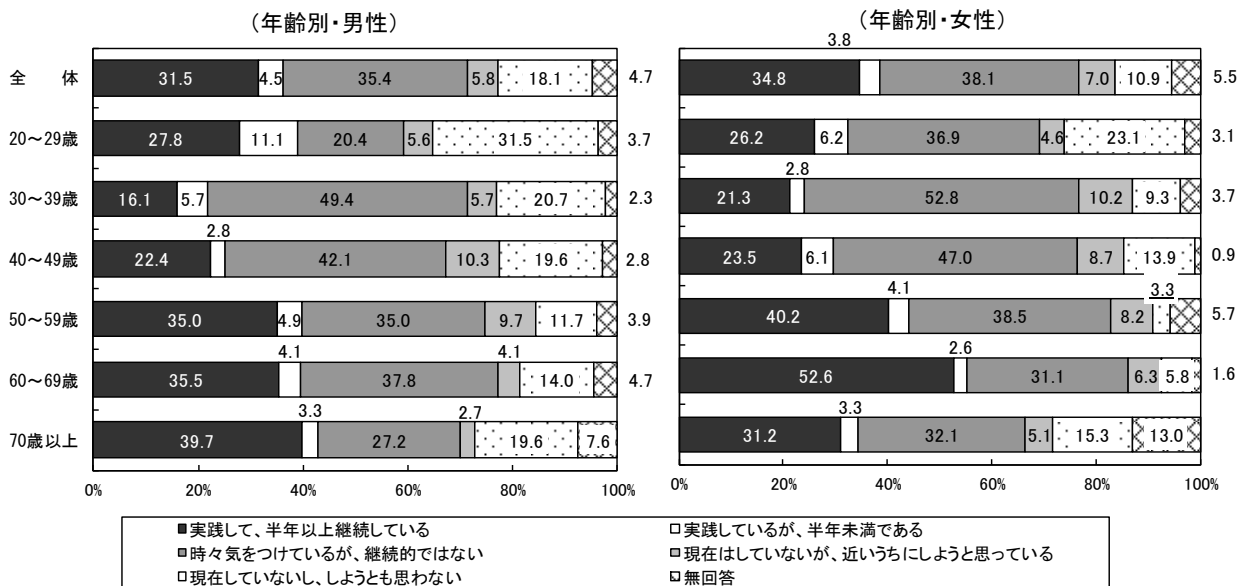


図 5.17-3 メタボリックシンドロームの予防・改善の取り組み状況



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,565	119	195	222	226	364	420	19
男性	707	54	87	107	103	172	184	0
女性	817	65	108	115	122	190	215	2

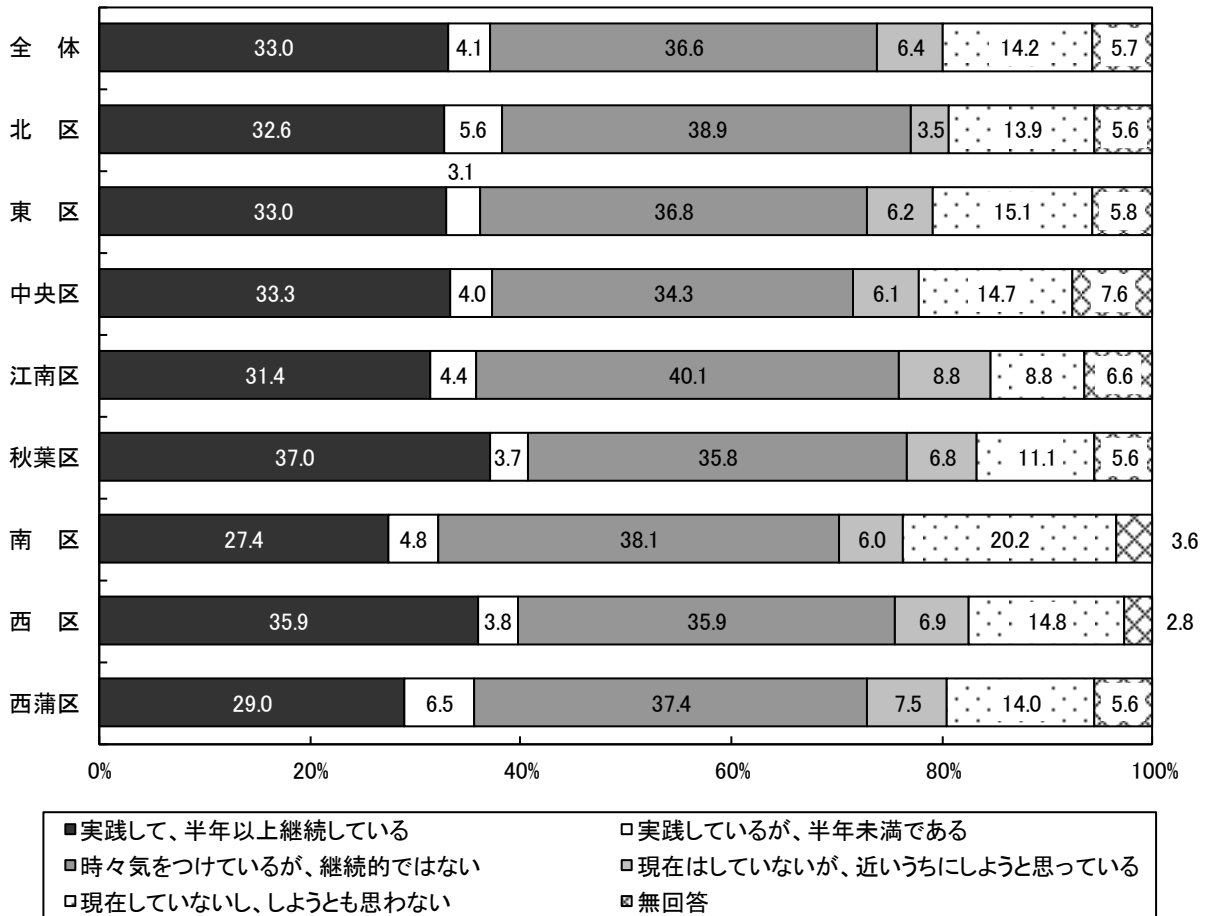
(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「実践して、半年以上継続している」の割合は、秋葉区（37.0%）で4割弱と最も高くなっている。

図 5.17-4 メタボリックシンドロームの予防・改善の取り組み状況（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,565	144	291	327	137	162	84	290	107	23

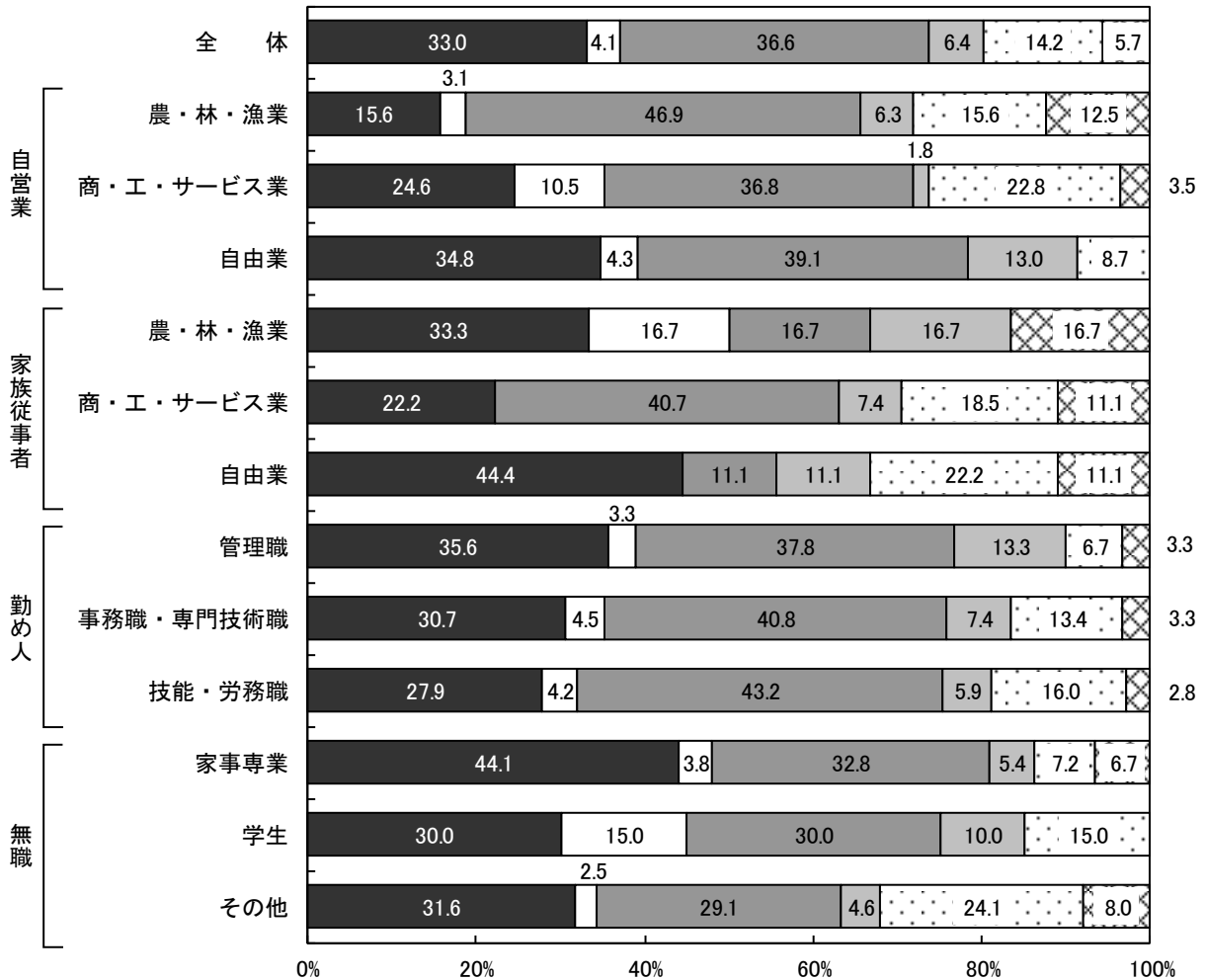
(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 5.17-5 メタボリックシンドロームの予防・改善の取り組み状況（職業別）



実践して、半年以上継続している
 時々気をつけているが、継続的ではない
 現在していないし、しようと思わない
 実践しているが、半年未満である
 現在はいないが、近いうちにしようと思っている
 無回答

全体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,565	32	57	23	6	27	9

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
90	336	287	390	20	237	51

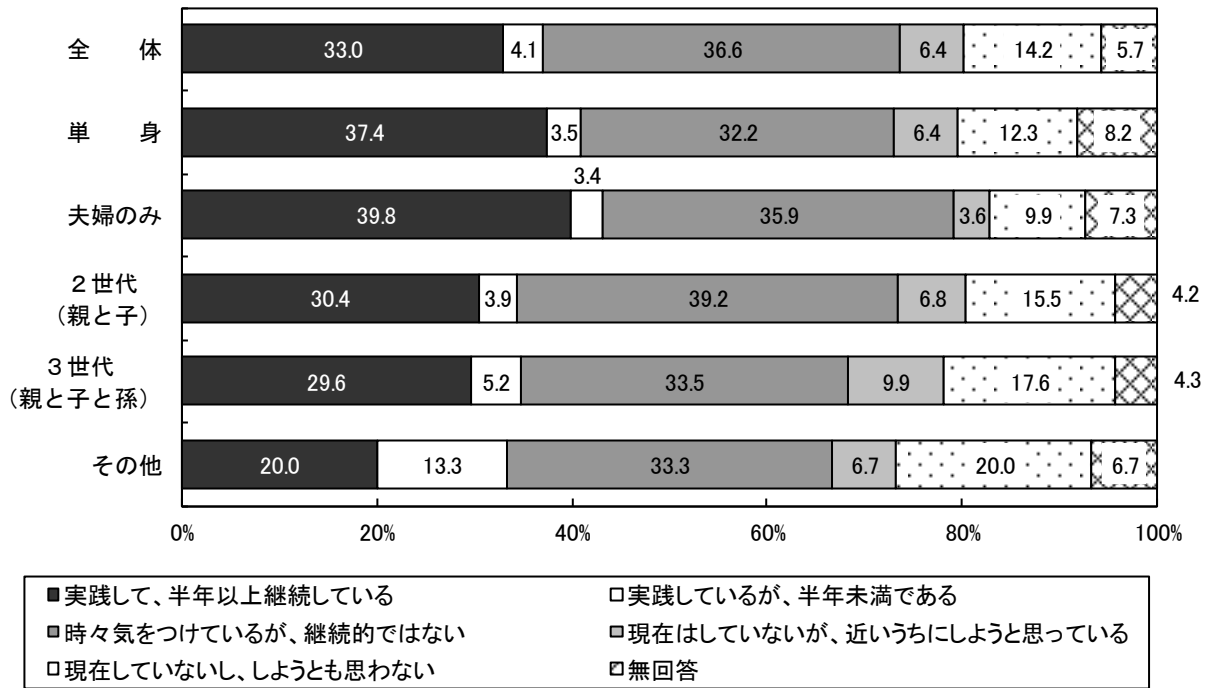
(人)

※無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「実践して、半年以上継続している」の割合は、夫婦のみ（39.8%）で最も高くなっている。一方、「現在していないし、しようとも思わない」の割合は、その他（20.0%）で高く、2割となっている。

図 5.17-6 メタボリックシンドロームの予防・改善の取り組み状況（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代 (親と子)	3世代 (親と子と孫)	その他	無回答
1,565	171	384	737	233	15	25

(人)

※無回答者のグラフは省略した。

(18) メタボリックシンドロームの予防・改善のために実践していること

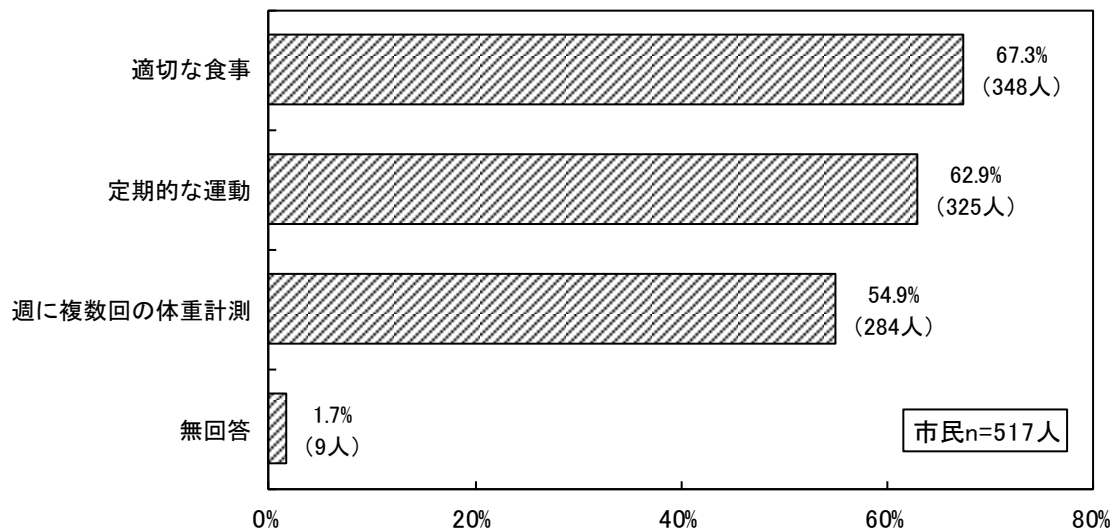
問40-1 問40で1に○を付けた方にお尋ねします。実践しているものは何ですか。(○はいくつでも)

7割弱が「適切な食事」を実践

【全体結果】

メタボリックシンドロームの予防・改善を半年以上実践している人に、具体的な実践内容を聞いたところ、「適切な食事」と回答した人の割合が7割弱(67.3%)で最も高くなっている。「定期的な運動」と回答した人は6割強(62.9%)、「週に複数回の体重計測」は5割強(54.9%)となっている。

図 5.18 メタボリックシンドロームの予防・改善のために実践していること



【性別・年齢別】

すべての年代で「適切な食事」が最も高く、20歳代は「定期的な運動」も同率で最も高くなっている。

性別では、各年代とも、「定期的な運動」は男性の方が、「週に複数回の体重計測」は女性の方が割合が高くなっている。

表 8.1 メタボリックシンドロームの予防・改善のために実践していること（年齢別・全体）

	対象者	適切な食事	定期的な運動	週に複数回の体重計測	無回答
計	517	67.3	62.9	54.9	1.7
20～29歳	32	59.4	59.4	46.9	0.0
30～39歳	37	81.1	56.8	59.5	0.0
40～49歳	51	64.7	62.7	45.1	0.0
50～59歳	86	65.1	55.8	57.0	2.3
60～69歳	161	67.1	66.5	61.5	1.2
70歳以上	147	67.3	66.0	51.0	3.4
年齢不明	3	100.0	33.3	33.3	0.0

対象者：人/回答：%

表 8.2 メタボリックシンドロームの予防・改善のために実践していること（年齢別・男性）

	対象者	適切な食事	定期的な運動	週に複数回の体重計測	無回答
計	223	66.4	70.4	46.2	1.8
20～29歳	15	80.0	73.3	26.7	0.0
30～39歳	14	71.4	85.7	57.1	0.0
40～49歳	24	50.0	75.0	33.3	0.0
50～59歳	36	66.7	55.6	52.8	2.8
60～69歳	61	57.4	73.8	50.8	1.6
70歳以上	73	75.3	69.9	45.2	2.7
年齢不明	0	0.0	0.0	0.0	0.0

対象者：人/回答：%

表 8.3 メタボリックシンドロームの予防・改善のために実践していること（年齢別・女性）

	対象者	適切な食事	定期的な運動	週に複数回の体重計測	無回答
計	284	69.0	57.4	62.3	1.4
20～29歳	17	41.2	47.1	64.7	0.0
30～39歳	23	87.0	39.1	60.9	0.0
40～49歳	27	77.8	51.9	55.6	0.0
50～59歳	49	65.3	55.1	61.2	2.0
60～69歳	100	73.0	62.0	68.0	1.0
70歳以上	67	62.7	64.2	58.2	3.0
年齢不明	1	100.0	0.0	0.0	0.0

対象者：人/回答：%

(19) 「ロコモティブシンドローム（運動器症候群）」という言葉や意味の認知度

問41 あなたは、「ロコモティブシンドローム（運動器症候群）」という言葉やその意味を知っていましたか。（○は1つだけ）

「ロコモティブシンドローム（運動器症候群）」とは
 筋肉、骨、関節、軟骨、椎間板といった運動器のいずれか、あるいは複数に障がいが起こり、歩行や日常生活に何らかの機能低下をきたして、要介護になっていたり、要介護になる危険の高い状態を「ロコモティブシンドローム（略称：ロコモ、和名：運動器症候群）」といいます。

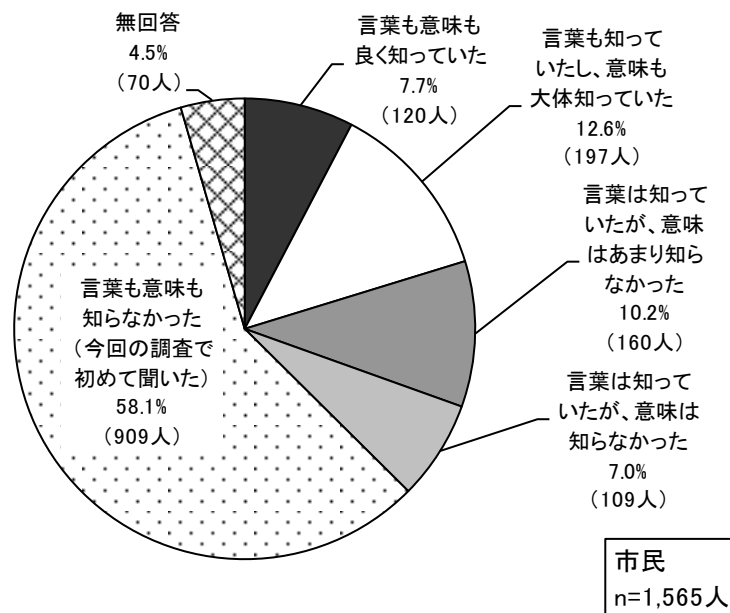
6割弱が「言葉も意味も知らなかった」と回答

【全体結果】

「ロコモティブシンドローム（運動器症候群）」という言葉や意味の認知の程度については、「言葉も意味も良く知っていた」（7.7%）、「言葉も知っていたし、意味も大体知っていた」（12.6%）と回答した人を合わせた割合は約2割（20.3%）となっている。

一方、「言葉も意味も知らなかった（今回の調査で初めて聞いた）」と回答した人の割合が、6割弱（58.1%）と高くなっている。

図 5.19-1 「ロコモティブシンドローム（運動器症候群）」という言葉や意味の認知度



【性別・年齢別】

「言葉も意味も良く知っていた」「言葉も知っていたし、意味も大体知っていた」を合わせた割合は、60歳代（25.0%）が最も高くなっている。

性別では、各年代とも「言葉も意味も良く知っていた」「言葉も知っていたし、意味も大体知っていた」を合わせた割合は、女性の方が高くなっている。

図 5.19-2 「ロコモティブシンドローム（運動器症候群）」という言葉や意味の認知度

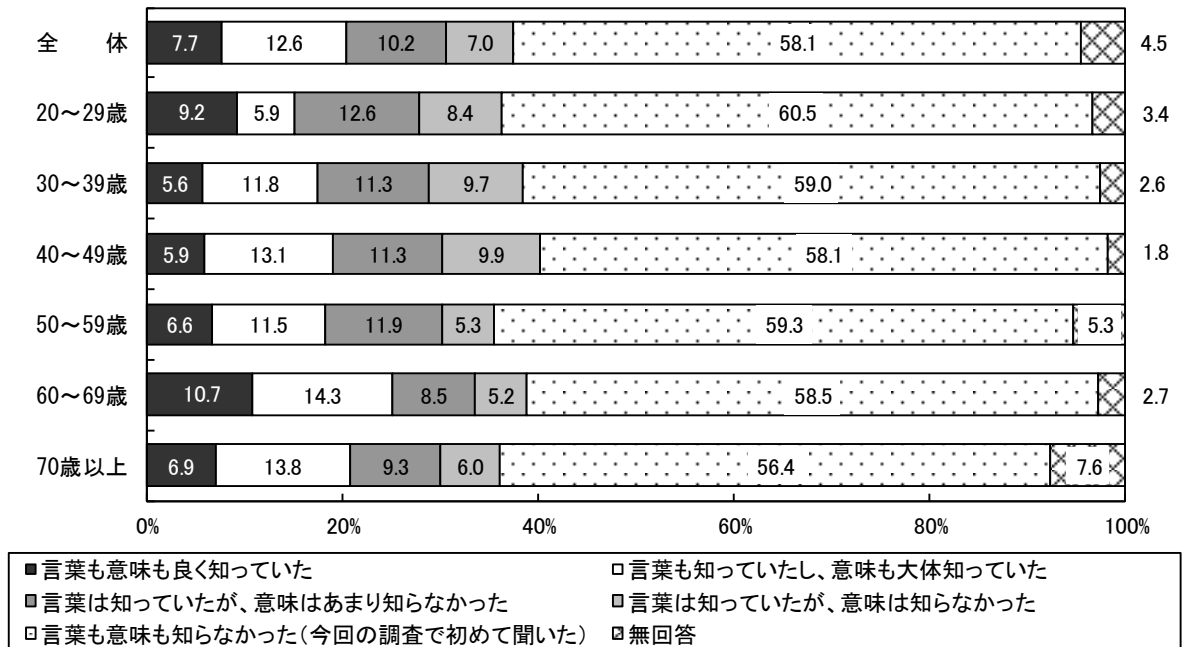
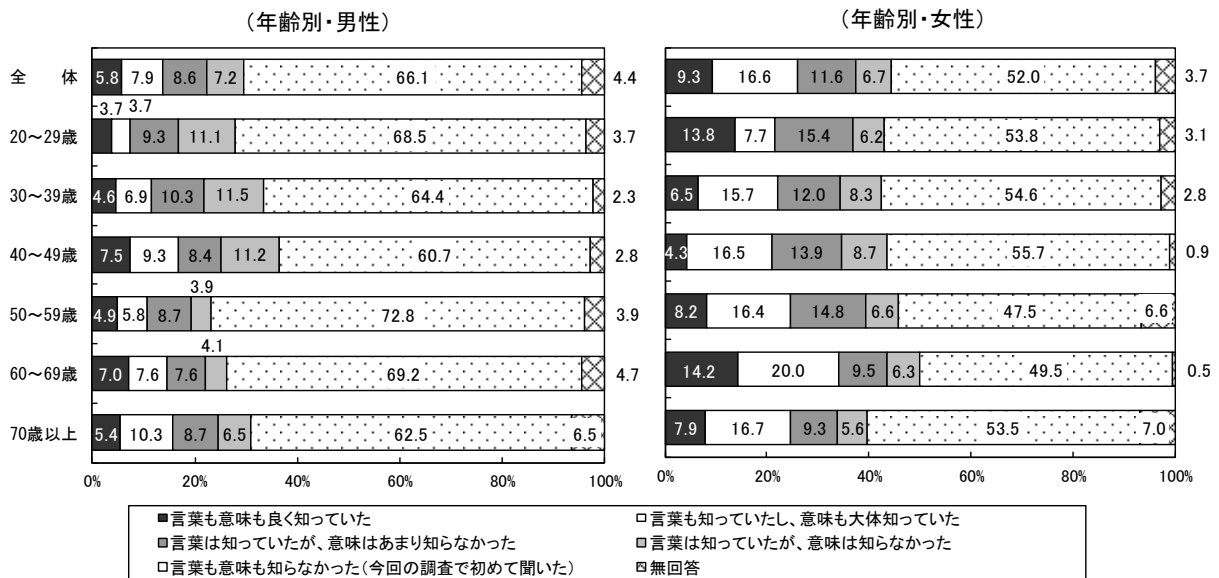


図 5.19-3 「ロコモティブシンドローム（運動器症候群）」という言葉や意味の認知度



	計	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,565	119	195	222	226	364	420	19
男性	707	54	87	107	103	172	184	0
女性	817	65	108	115	122	190	215	2

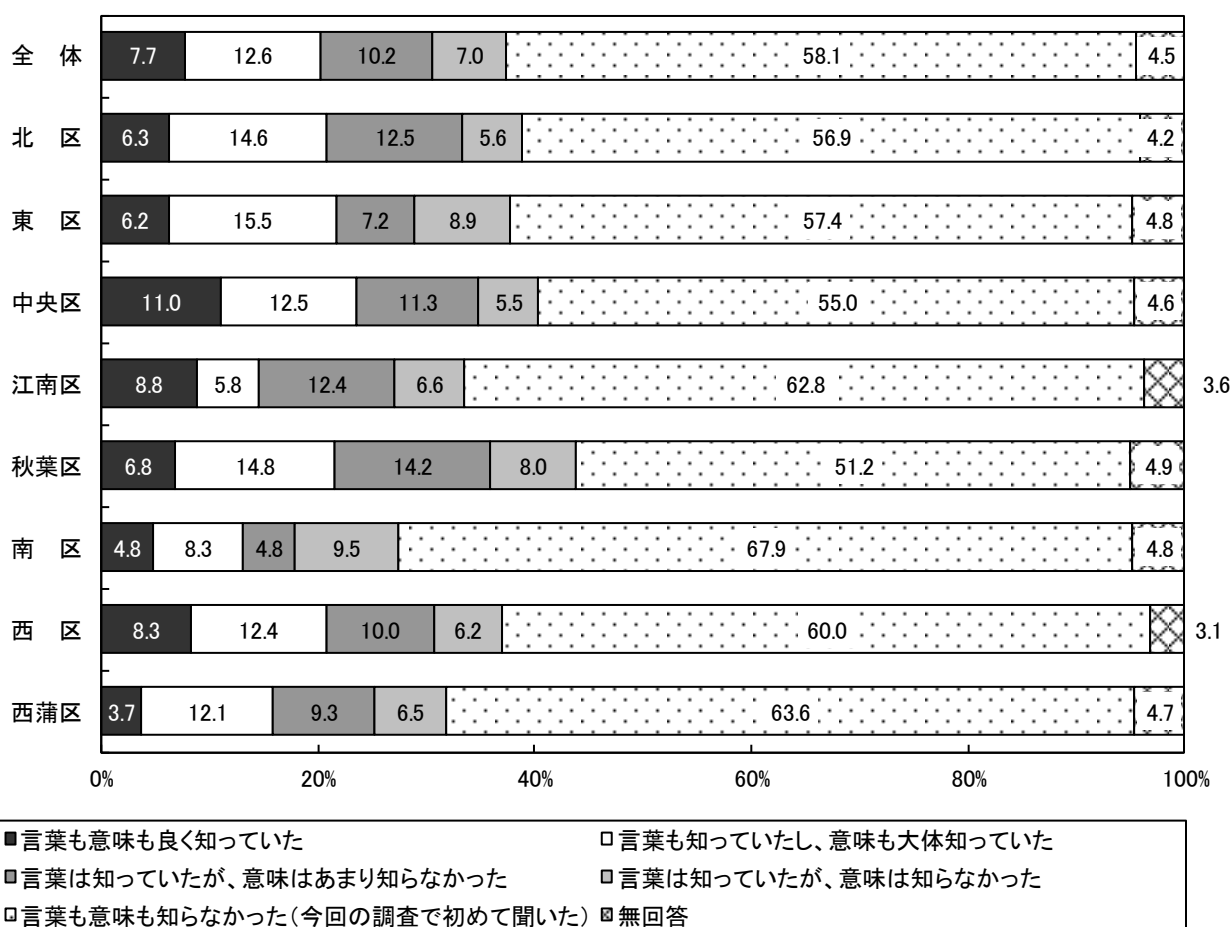
(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「言葉も意味も良く知っていた」「言葉も知っていたし、意味も大体知っていた」を合わせた割合は、中央区（23.5%）が最も高くなっている。

図 5.19-4 「ロコモティブシンドローム（運動器症候群）」という言葉や意味の認知度（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,565	144	291	327	137	162	84	290	107	23

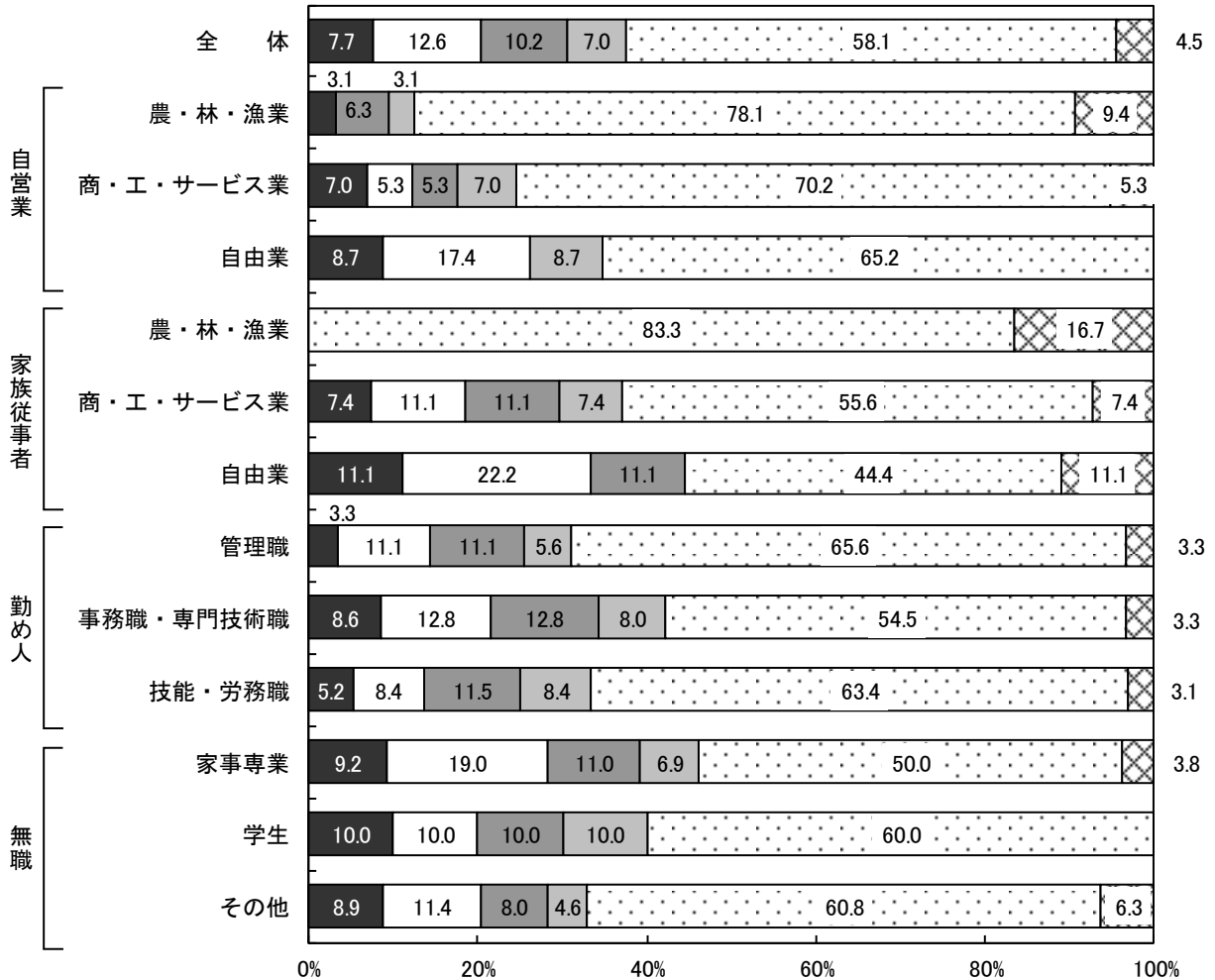
(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 5.19-5 「ロコモティブシンドローム（運動器症候群）」という言葉や意味の認知度（職業別）



- 言葉も意味も良く知っていた
- 言葉も知っていたし、意味も大体知っていた
- ▣言葉は知っていたが、意味はあまり知らなかった
- 言葉は知っていたが、意味は知らなかった
- 言葉も意味も知らなかった(今回の調査で初めて聞いた)
- 無回答

全体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,565	32	57	23	6	27	9

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
90	336	287	390	20	237	51

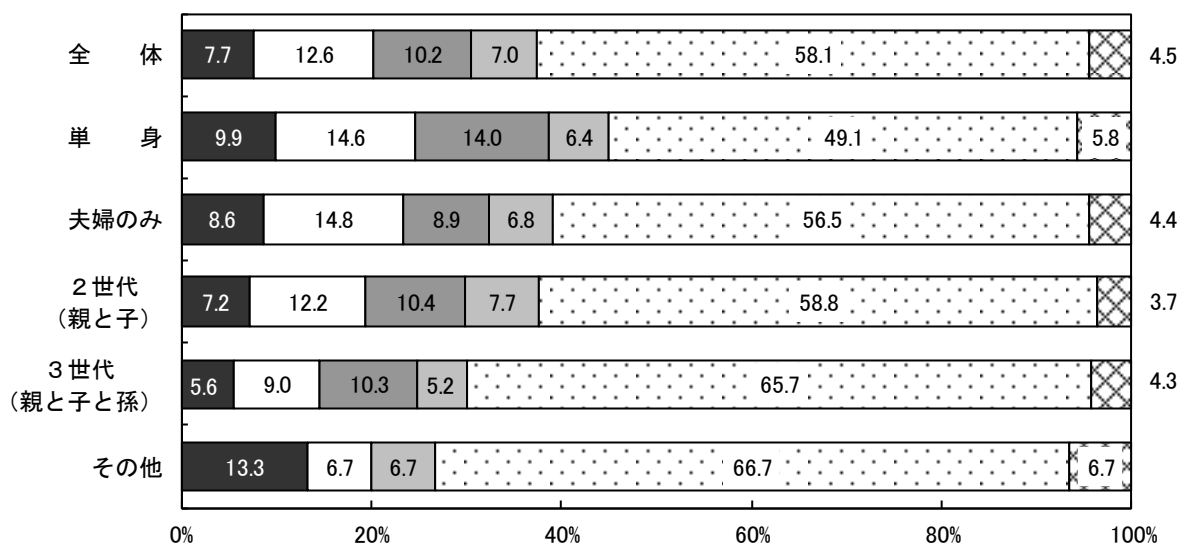
(人)

※無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「言葉も意味も良く知っていた」「言葉も知っていたし、意味も大体知っていた」を合わせた割合は、単身（24.6%）で最も高くなっている。

図 5.19-6 「ロコモティブシンドローム（運動器症候群）」という言葉や意味の認知度（家族構成別）



言葉も意味も良く知っていた 言葉も知っていたし、意味も大体知っていた
 言葉は知っていたが、意味はあまり知らなかった 言葉は知っていたが、意味は知らなかった
 言葉も意味も知らなかった(今回の調査で初めて聞いた) 無回答

全体	単身	夫婦のみ	2世代(親と子)	3世代(親と子と孫)	その他	無回答
1,565	171	384	737	233	15	25

(人)

※無回答者のグラフは省略した。

(20) 最近1年間の健（検）診や人間ドックの受診状況

問42 あなたは過去1年間に市や職場などで行われる健診（健康診断や健康診査）や人間ドックを受けましたか。（受けたもの全てに○）

※含まれない健（検）診…がんのみの検診、妊産婦健診、病院・診療所で行う診療としての検査

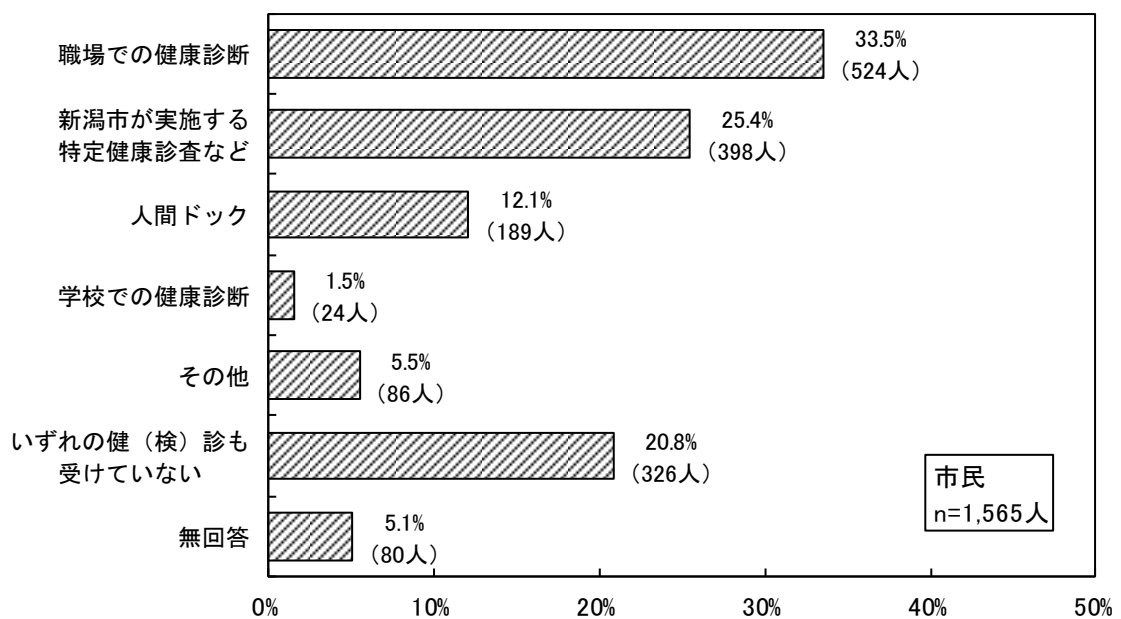
3割強が「職場での健康診断」を受診

【全体結果】

健（検）診の機会は、「職場での健康診断」と回答した人が3割強（33.5%）となっている。以下「新潟市が実施する特定健康診査など」（25.4%）、「人間ドック」（12.1%）が続いている。

一方、「いずれの健（検）診も受けていない」と回答した人は2割強（20.8%）となっている。

図 5.20 最近1年間の健（検）診や人間ドックの受診状況



【性別・年齢別】

50歳代以下では「職場での健康診断」と回答した人が最も多く、60歳以上では「新潟市が実施する特定健康診査など」と回答した人が多くなっている。

性別では、各年代とも、「人間ドック」の割合が、女性より男性の方が高くなっている。また、30歳以上では「職場での健康診断」の割合は男性の方が高く、60歳代以下では「新潟市が実施する特定健康診査など」の割合は女性の方が高くなっている。

表 9.1 最近1年間の健（検）診や人間ドックの受診状況（年齢別・全体）

	対象者	職場での健康診断	新潟市が実施する特定健康診査など	人間ドック	学校での健康診断	その他	いずれの健診も受けていない	無回答
計	1565	33.5	25.4	12.1	1.5	5.5	20.8	5.1
20～29歳	119	60.5	3.4	2.5	14.3	0.0	17.6	3.4
30～39歳	195	55.9	3.1	5.6	1.0	2.6	31.8	2.1
40～49歳	222	59.9	13.5	13.5	0.0	2.7	13.5	2.3
50～59歳	226	50.4	9.7	25.7	0.0	0.9	13.7	5.3
60～69歳	364	22.0	32.4	16.2	0.8	6.3	22.8	3.6
70歳以上	420	2.9	51.4	6.4	0.5	11.7	21.9	9.0
年齢不明	19	21.1	10.5	5.3	0.0	5.3	36.8	21.1

対象者：人/回答：%

表 9.2 最近1年間の健（検）診や人間ドックの受診状況（年齢別・男性）

	対象者	職場での健康診断	新潟市が実施する特定健康診査など	人間ドック	学校での健康診断	その他	いずれの健診も受けていない	無回答
計	707	39.3	19.8	16.1	1.7	4.2	18.5	4.2
20～29歳	54	57.4	0.0	3.7	16.7	0.0	18.5	3.7
30～39歳	87	69.0	2.3	8.0	0.0	1.1	18.4	2.3
40～49歳	107	64.5	6.5	19.6	0.0	1.9	10.3	2.8
50～59歳	103	52.4	3.9	33.0	0.0	1.0	9.7	4.9
60～69歳	172	32.0	18.0	20.3	0.6	4.7	23.8	4.7
70歳以上	184	4.9	52.2	8.2	1.1	9.8	23.4	5.4
年齢不明	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

対象者：人/回答：%

表 9.3 最近1年間の健（検）診や人間ドックの受診状況（年齢別・女性）

	対象者	職場での健康診断	新潟市が実施する特定健康診査など	人間ドック	学校での健康診断	その他	いずれの健診も受けていない	無回答
計	817	29.6	30.4	8.8	1.5	6.5	22.4	4.9
20～29歳	65	63.1	6.2	1.5	12.3	0.0	16.9	3.1
30～39歳	108	45.4	3.7	3.7	1.9	3.7	42.6	1.9
40～49歳	115	55.7	20.0	7.8	0.0	3.5	16.5	1.7
50～59歳	122	49.2	14.8	18.9	0.0	0.8	17.2	5.7
60～69歳	190	13.2	45.8	12.6	1.1	7.9	22.1	1.6
70歳以上	215	1.4	51.6	5.1	0.0	13.5	20.5	10.7
年齢不明	2	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0

対象者：人/回答：%

(21) 最近1年間のがん検診の受診状況

問43 あなたは過去1年間（子宮頸がんまたは乳がん検診は過去2年間）にがん検診を受けましたか。
（受けたもの全てに○）

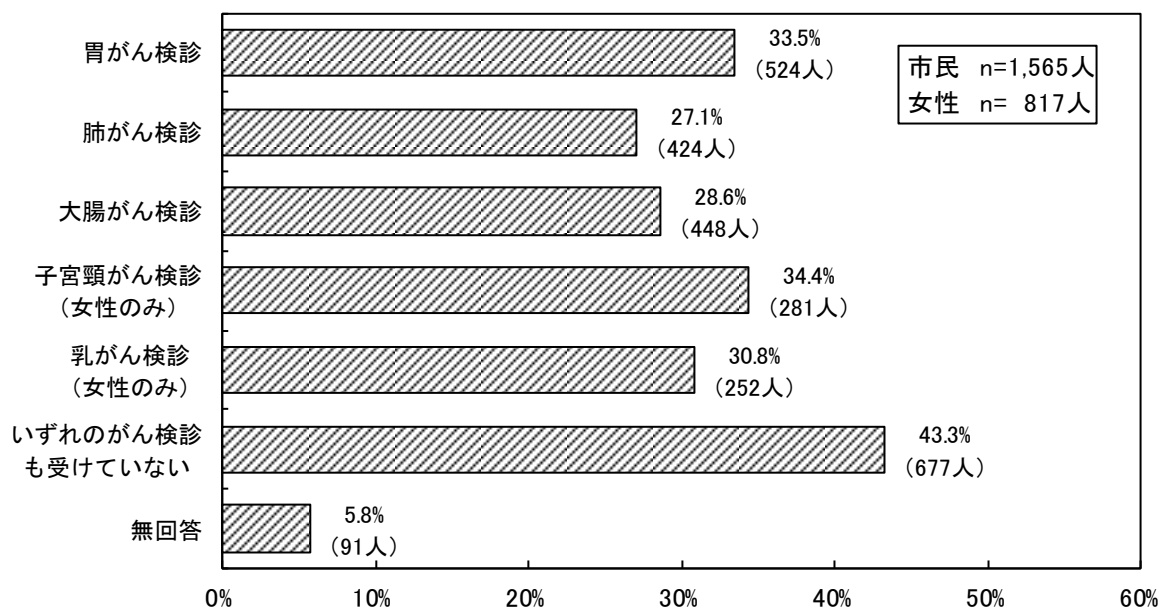
4割強が「いずれのがん検診も受けていない」と回答

【全体結果】

「いずれのがん検診も受けていない」と回答した人が4割強（43.3%）となっている。

一方、受診したがん検診については、「胃がん検診」の回答が最も多く、3割強（33.5%）となっている。また、女性のみが対象の「子宮頸がん検診」（34.4%）、「乳がん検診」（30.8%）は3割強となっている。

図 5.21 最近1年間のがん検診の受診状況



【性別・年齢別】

「胃がん検診」「肺がん検診」「大腸がん検診」の割合は、60歳代で最も高くなっている。

女性が対象の「子宮頸がん検診」の割合は、30歳代から50歳代で高く、5割前後となっている。「乳がん検診」の割合は、40歳代から50歳代で5割前後となっている。

表 10.1 最近1年間のがん検診の受診状況（年齢別・全体）

	対象者	胃がん検診	肺がん検診	大腸がん検診	子宮頸がん検診	乳がん検診	いずれのがん検診も受けていない	無回答
計	1565	33.5	27.1	28.6	34.4	30.8	43.3	5.8
20～29歳	119	0.8	3.4	0.0	41.5	4.6	68.9	4.2
30～39歳	195	7.7	4.6	6.7	48.1	14.8	61.0	3.1
40～49歳	222	28.4	22.1	24.3	47.8	48.7	48.2	3.2
50～59歳	226	42.5	33.2	34.1	53.3	51.6	34.5	3.1
60～69歳	364	47.0	40.1	42.0	30.0	39.5	34.6	3.6
70歳以上	420	41.2	33.1	34.8	10.7	17.2	37.1	11.7
年齢不明	19	26.3	10.5	26.3	100.0	100.0	47.4	21.1

対象者：人/回答：%

表 10.2 最近1年間のがん検診の受診状況（年齢別・男性）

	対象者	胃がん検診	肺がん検診	大腸がん検診	子宮頸がん検診	乳がん検診	いずれのがん検診も受けていない	無回答
計	707	33.4	26.2	27.4	-	-	50.9	8.1
20～29歳	54	1.9	3.7	0.0	-	-	88.9	5.6
30～39歳	87	11.5	6.9	10.3	-	-	79.3	3.4
40～49歳	107	28.0	18.7	23.4	-	-	61.7	3.7
50～59歳	103	44.7	32.0	30.1	-	-	43.7	4.9
60～69歳	172	42.4	34.9	39.5	-	-	41.3	5.2
70歳以上	184	41.3	34.8	33.2	-	-	33.2	17.9
年齢不明	0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	0.0

対象者：人/回答：%

表 10.3 最近1年間のがん検診の受診状況（年齢別・女性）

	対象者	胃がん検診	肺がん検診	大腸がん検診	子宮頸がん検診	乳がん検診	いずれのがん検診も受けていない	無回答
計	817	34.3	28.4	29.7	34.4	30.8	36.8	2.8
20～29歳	65	0.0	3.1	0.0	41.5	4.6	52.3	3.1
30～39歳	108	4.6	2.8	3.7	48.1	14.8	46.3	2.8
40～49歳	115	28.7	25.2	25.2	47.8	48.7	35.7	2.6
50～59歳	122	40.2	33.6	36.9	53.3	51.6	27.0	1.6
60～69歳	190	51.6	45.3	44.7	30.0	39.5	28.9	1.1
70歳以上	215	43.3	32.6	36.3	10.7	17.2	40.9	5.1
年齢不明	2	100.0	50.0	100.0	100.0	100.0	0.0	0.0

対象者：人/回答：%

(22) がん検診の検診場所

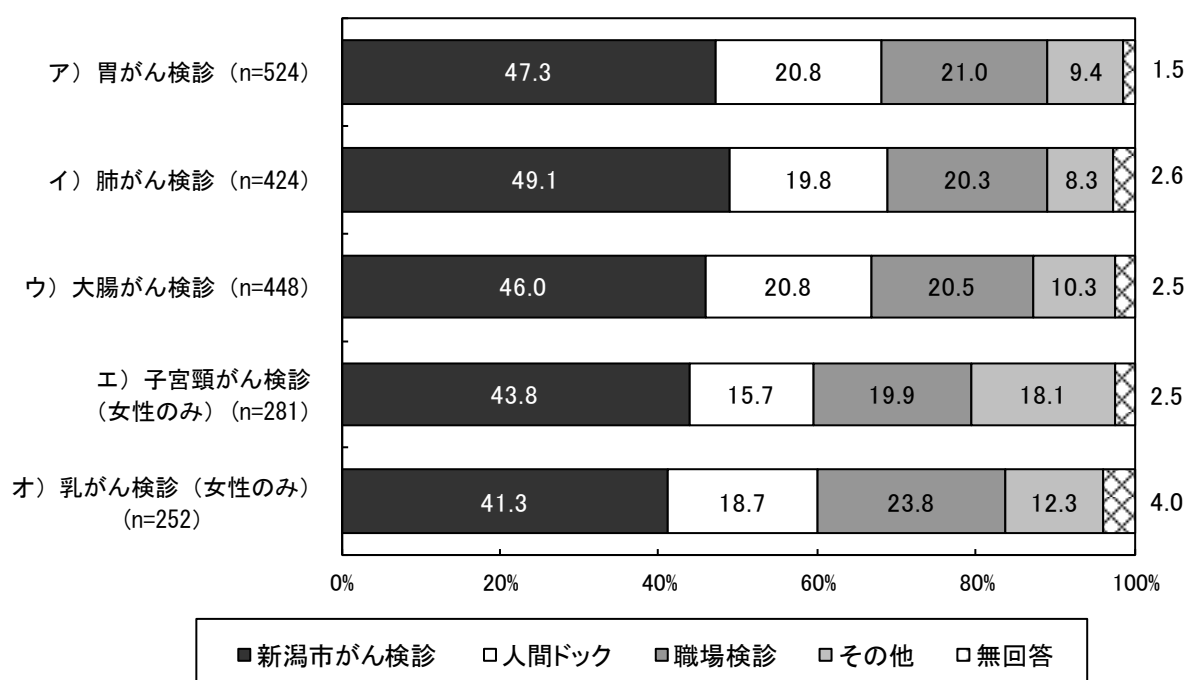
問44 がん検診を受けた方にお尋ねします。それぞれどこで検診を受けましたか。
(がん検診ごとに○は1つだけ) ア～ウは全員、エ、オは女性のみお答えください。

検診場所は「新潟市がん検診」が最も多い

【全体結果】

いずれのがん検診も「新潟市がん検診」と回答した人が最も多くなっており、なかでも「肺がん検診」(49.1%)の割合が最も高く、以下「胃がん検診」(47.3%)、「大腸がん検診」(46.0%)と続き、いずれも半数弱となっている。

図 5.22-1 がん検診の検診場所



	全体	新潟市がん検診	人間ドック	職場検診	その他	無回答
ア) 胃がん検診	524	248	109	110	49	8
イ) 肺がん検診	424	208	84	86	35	11
ウ) 大腸がん検診	448	206	93	92	46	11
エ) 子宮頸がん検診 (女性のみ)	281	123	44	56	51	7
オ) 乳がん検診 (女性のみ)	252	104	47	60	31	10

(人)

ア) 胃がん検診

【性別・年齢別】

「新潟市がん検診」の割合は、70歳以上（72.3%）で高く7割を超えている。「人間ドック」の割合は、50歳代（39.6%）で最も高く約4割となっている。「職場検診」は30歳代（60.0%）で6割を占めている。

図 5.22-2 がん検診の検診場所（年齢別・全体）

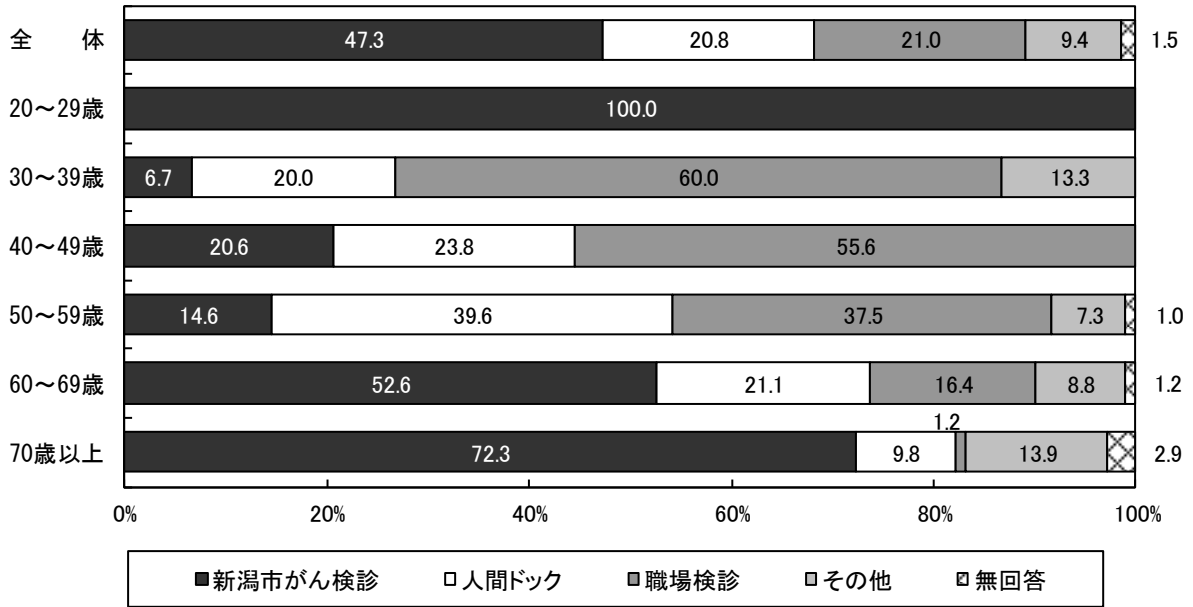
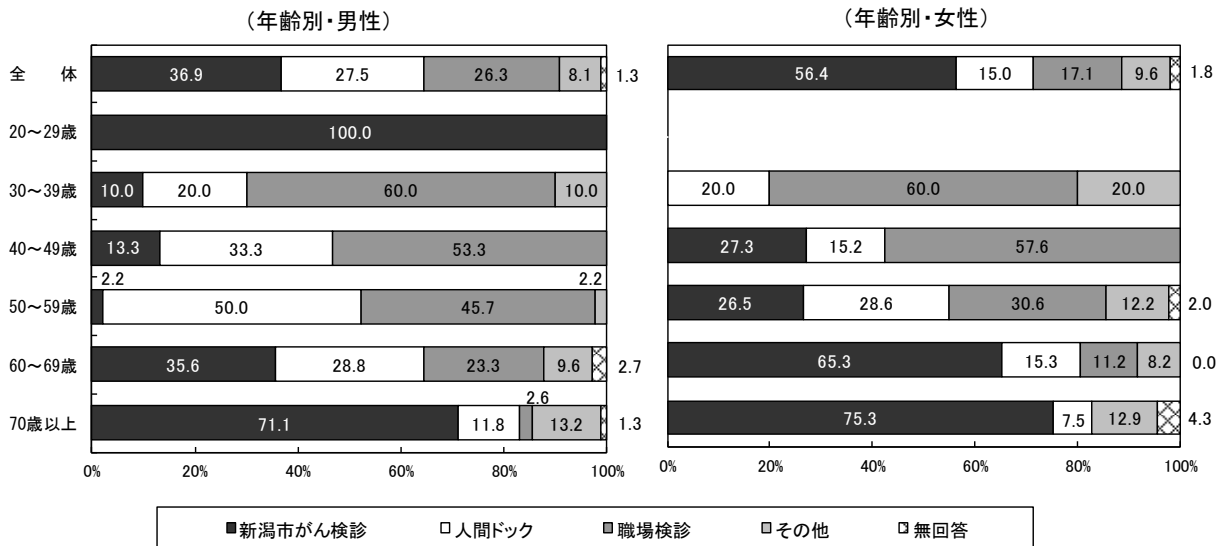


図 5.22-3 がん検診の検診場所



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	524	1	15	63	96	171	173	5
男性	236	1	10	30	46	73	76	0
女性	280	0	5	33	49	98	93	2

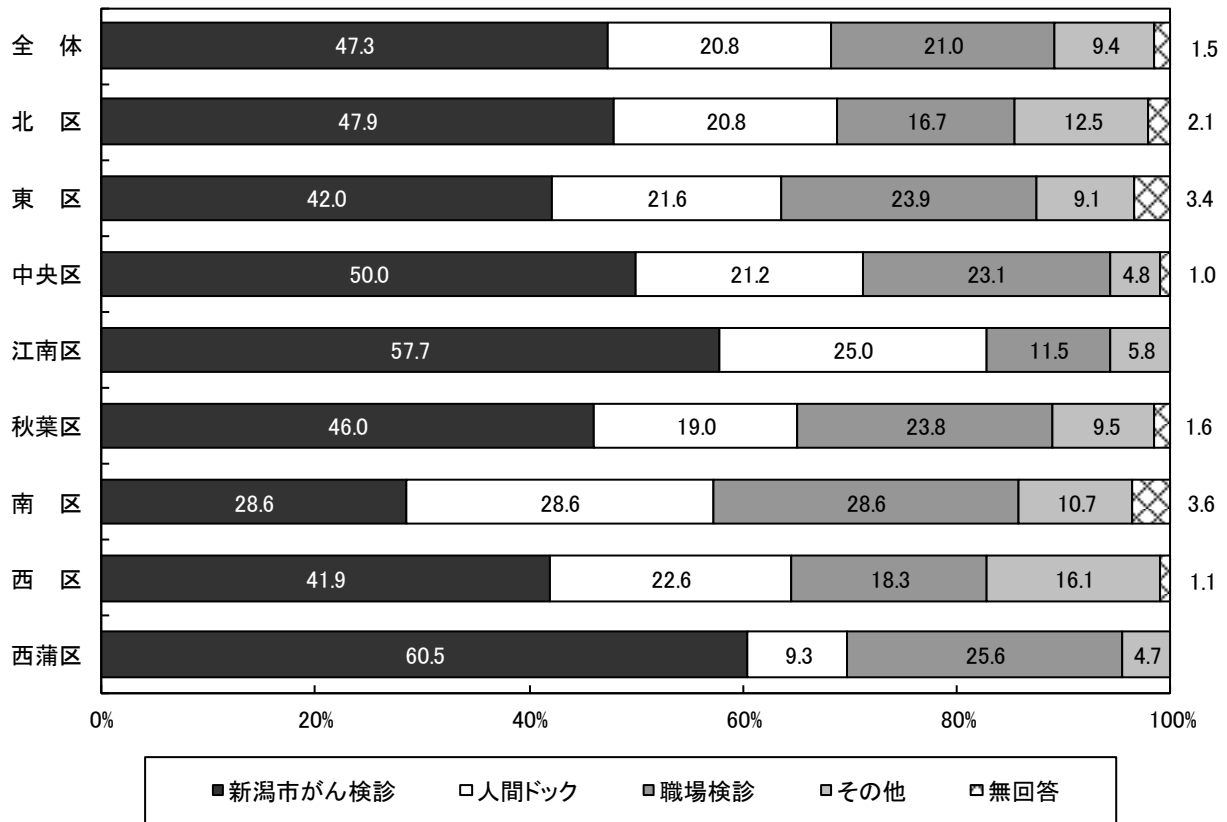
(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

すべての地区で「新潟市がん検診」と回答した人の割合が最も高く、西蒲区（60.5%）では6割を超えている。

図 5.22-4 がん検診の検診場所（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
524	48	88	104	52	63	28	93	43	5

(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

イ) 肺がん検診

【性別・年齢別】

「新潟市がん検診」の割合は、70歳以上（71.9%）で最も高く、7割を超えている。「職場検診」は40歳代（53.1%）で最も高く、5割を超えている。

図 5. 22-5 がん検診の検診場所（年齢別・全体）

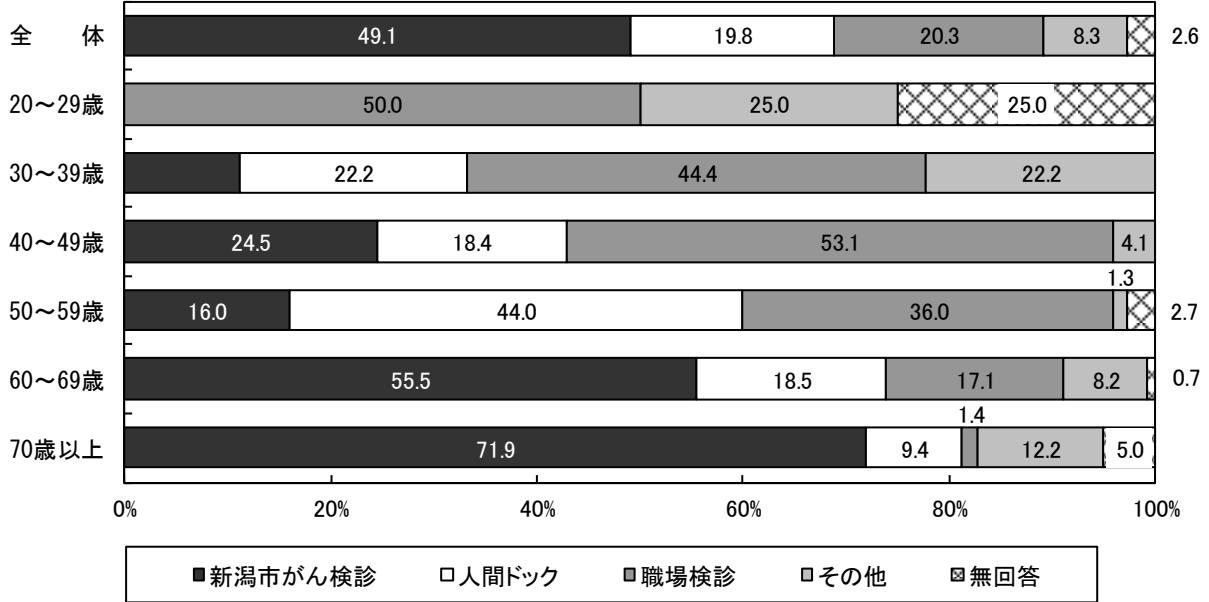
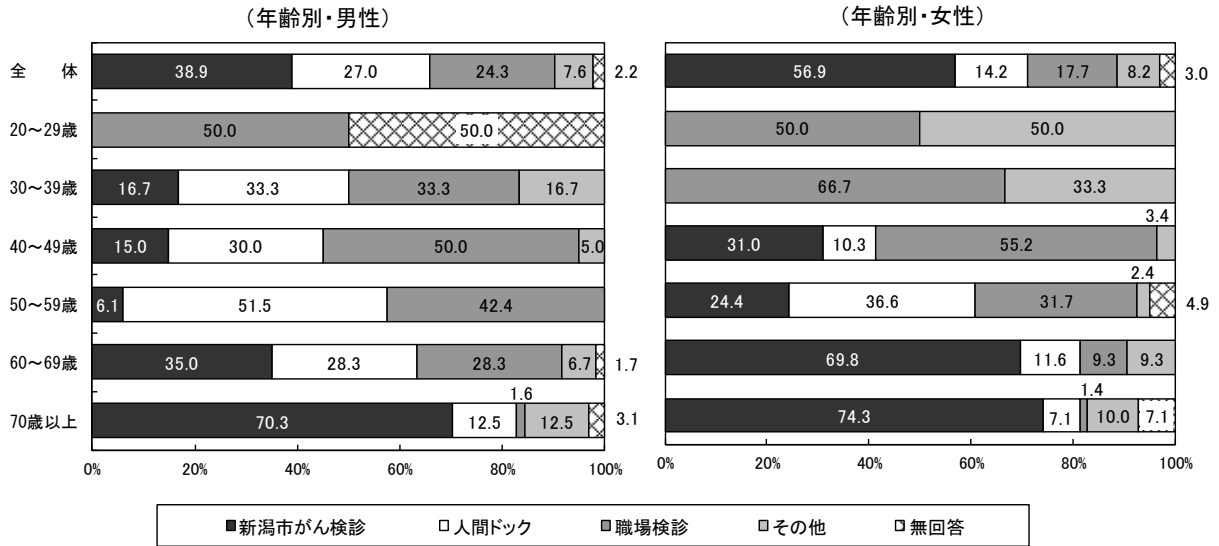


図 5. 22-6 がん検診の検診場所



	計	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上	年齢不明
全体	424	4	9	49	75	146	139	2
男性	185	2	6	20	33	60	64	0
女性	232	2	3	29	41	86	70	1

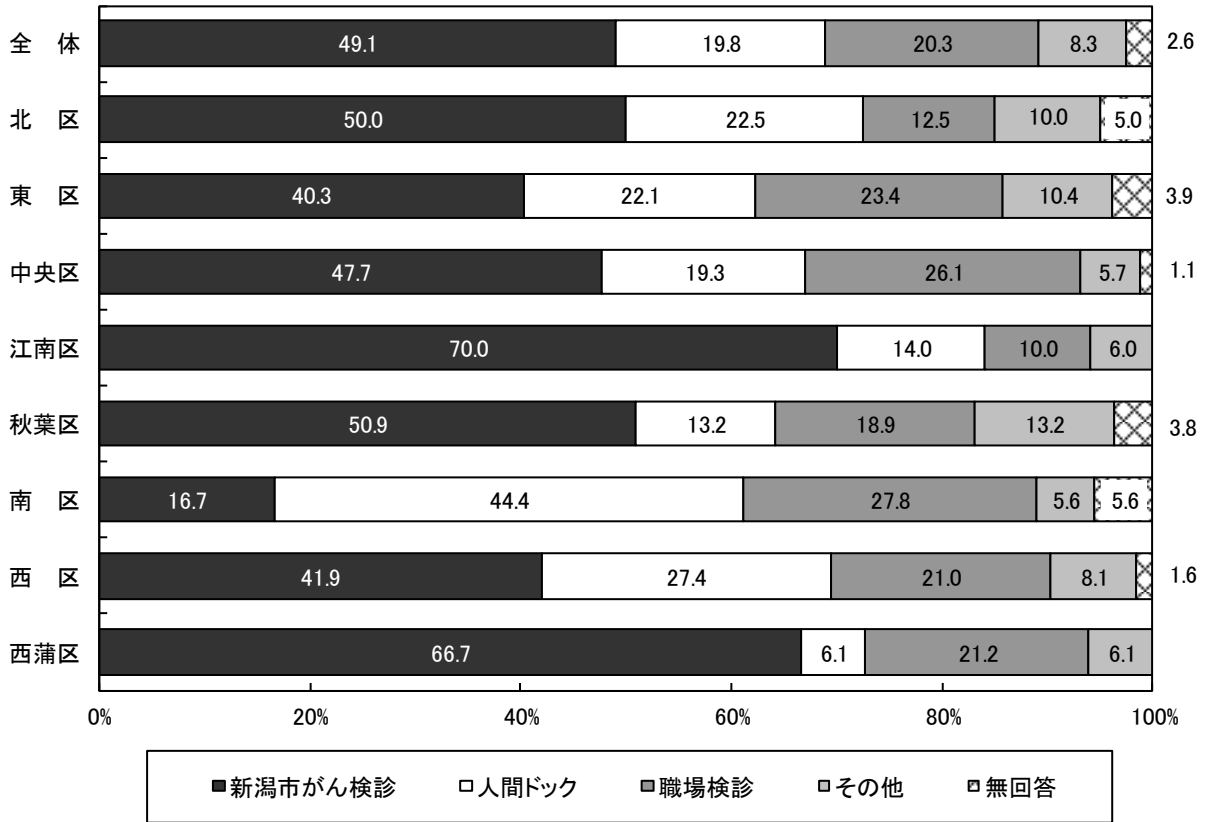
(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

すべての地区で「新潟市がん検診」と回答した人の割合が最も高く、江南区では7割となっている。

図 5. 22-7 がん検診の検診場所（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
424	40	77	88	50	53	18	62	33	3

(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

ウ) 大腸がん検診

【性別・年齢別】

「新潟市がん検診」の割合は、70歳以上（73.3%）で最も高く7割強を超えている。「職場検診」は、40歳代（55.6%）で最も高くなっている。

図 5. 22-8 がん検診の検診場所（年齢別・全体）

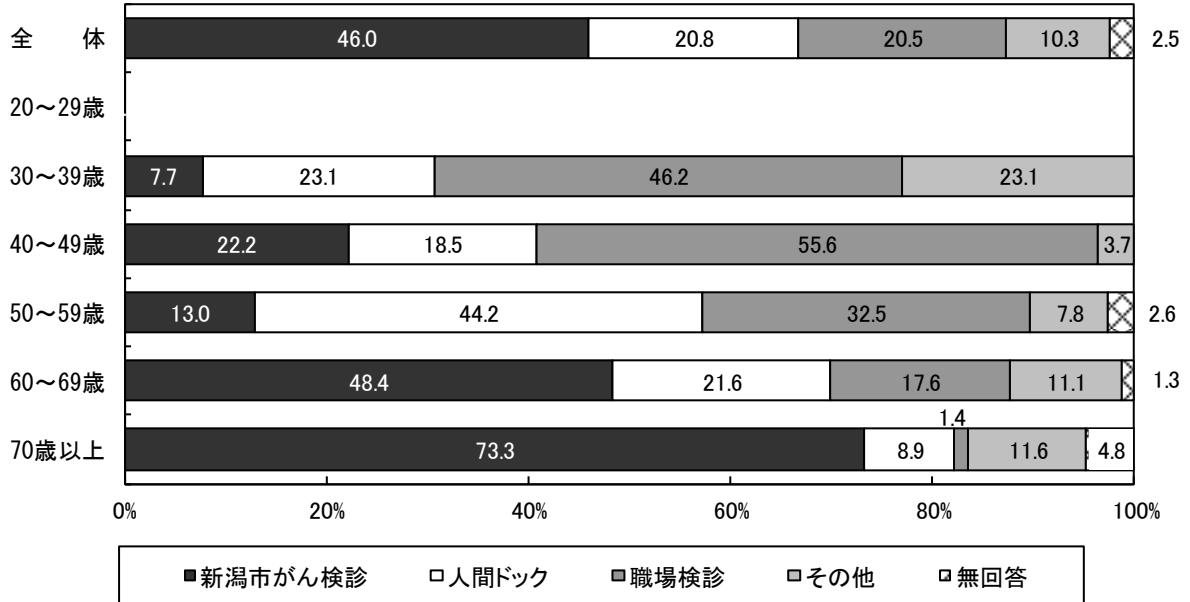
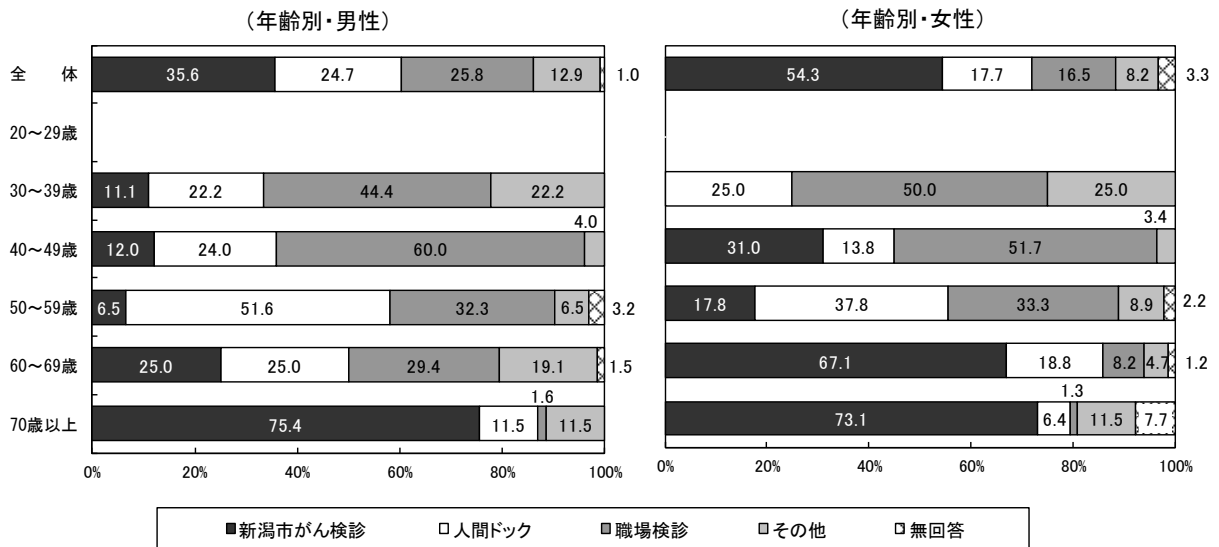


図 5. 22-9 がん検診の検診場所



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	448	0	13	54	77	153	146	5
男性	194	0	9	25	31	68	61	0
女性	243	0	4	29	45	85	78	2

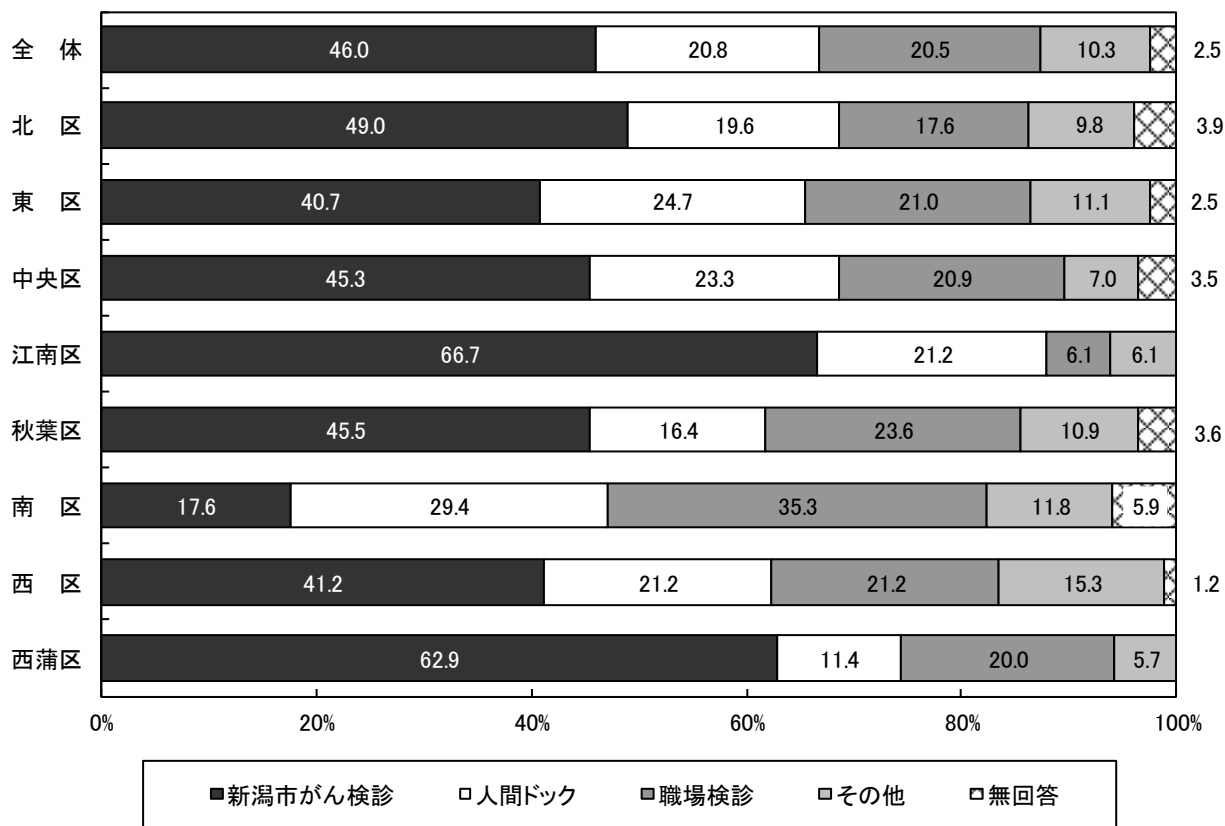
(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

全ての地区で「新潟市がん検診」と回答した人の割合が最も高く、江南区では7割弱となっている。

図 5. 22-10 がん検診の検診場所（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
448	51	81	86	33	55	17	85	35	5

(人)

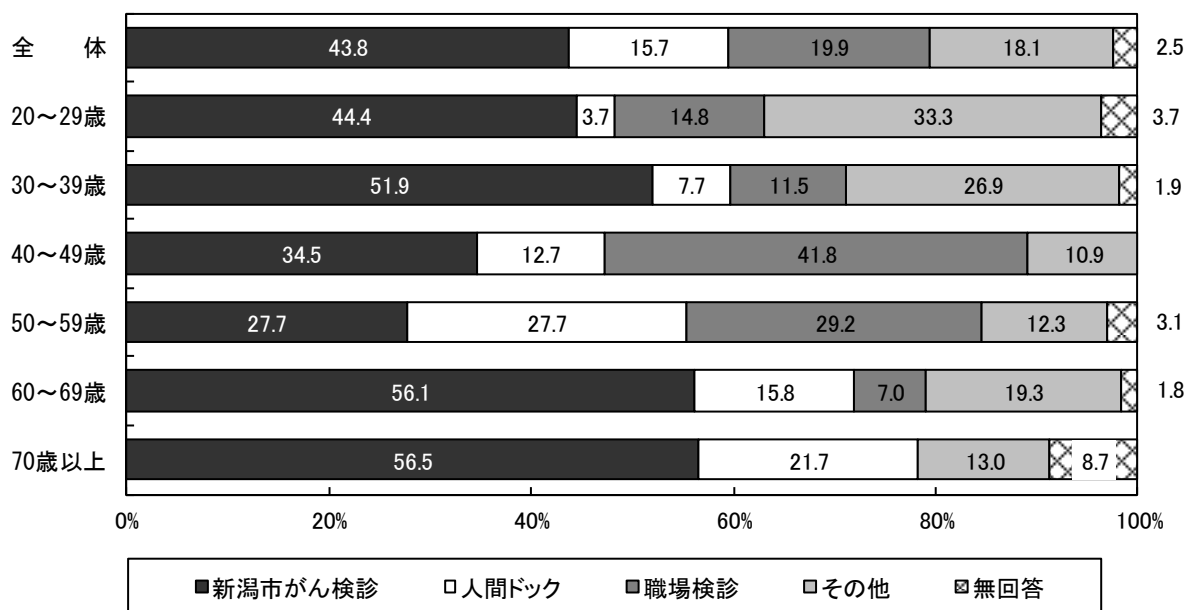
※地区不明者のグラフは省略した。

エ) 子宮頸がん検診

【性別・年齢別】

「新潟市がん検診」の割合は、60歳代以上で高く、5割を超えている。

図 5.22-11 がん検診の検診場所（年齢別・全体）



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	281	27	52	55	65	57	23	2

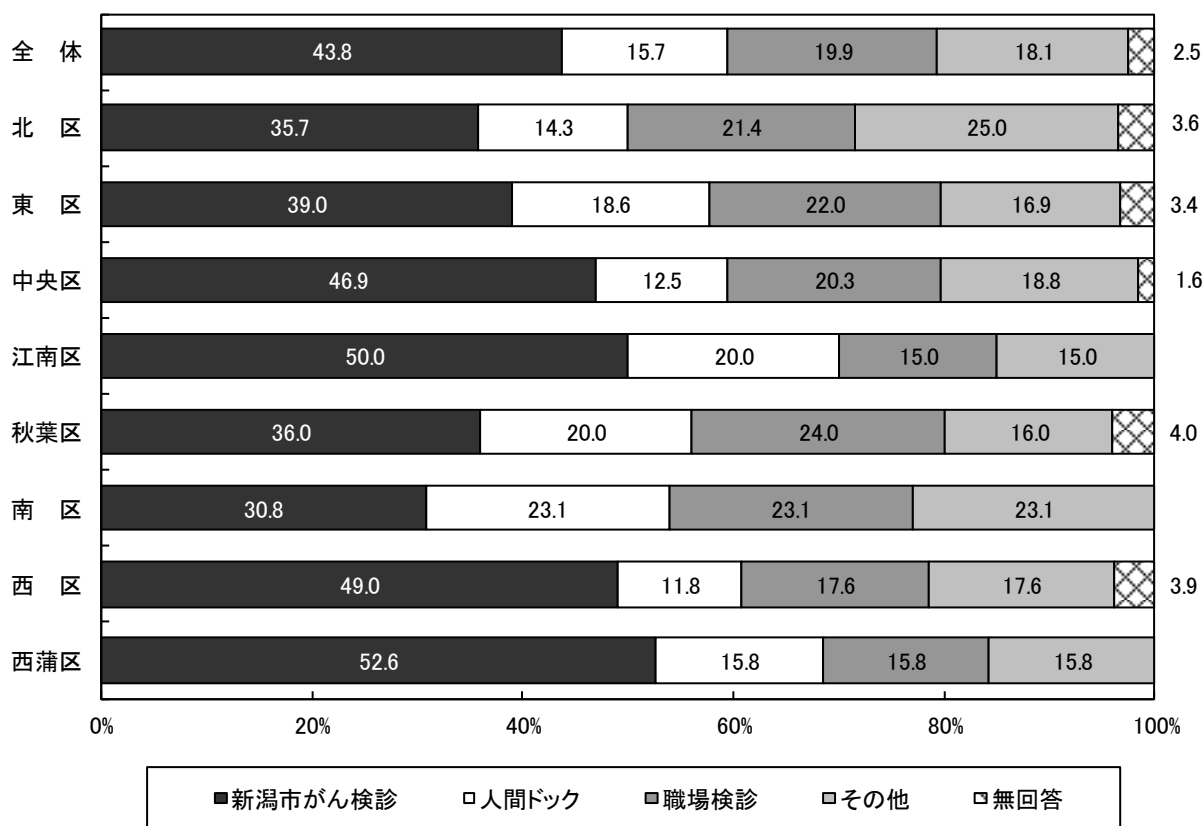
(人)

※年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

すべての地区で「新潟市がん検診」と回答した人が最も多く、西蒲区（52.6%）、江南区（50.0%）では5割を超えている。

図 5.22-12 がん検診の検診場所（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
281	28	59	64	20	25	13	51	19	2

(人)

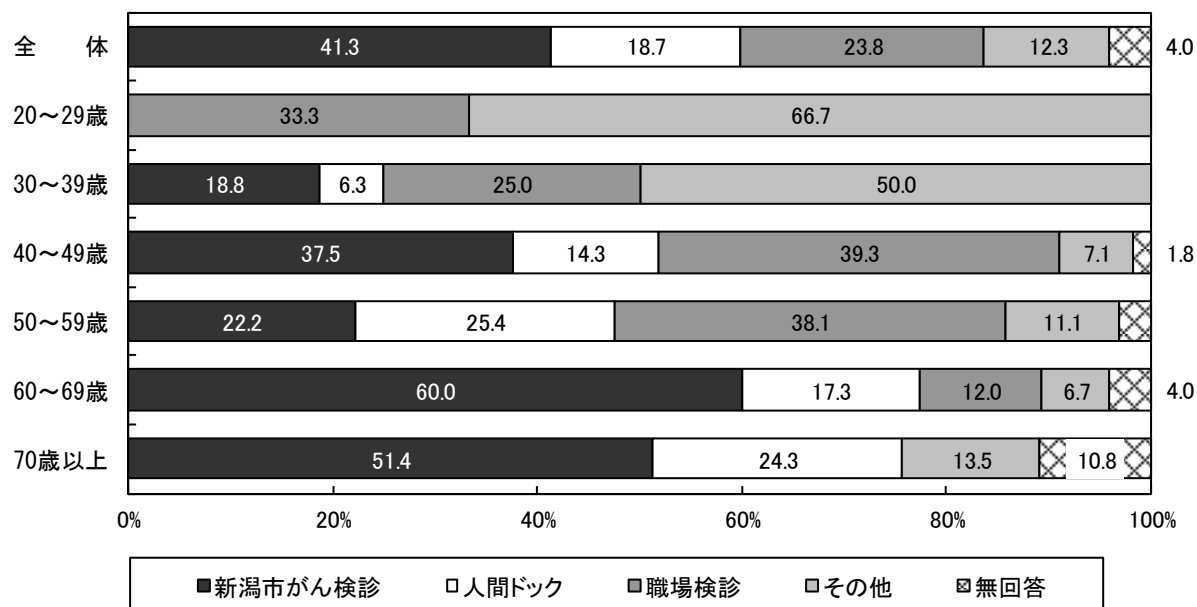
※地区不明者のグラフは省略した。

オ) 乳がん検診

【性別・年齢別】

「その他」を除き、50歳代以下は「職場検診」の割合が最も高くなっている。60歳以上では「新潟市がん検診」の割合が最も高くなっている。

図 5.22-13 がん検診の検診場所（年齢別・全体）



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全 体	252	3	16	56	63	75	37	2

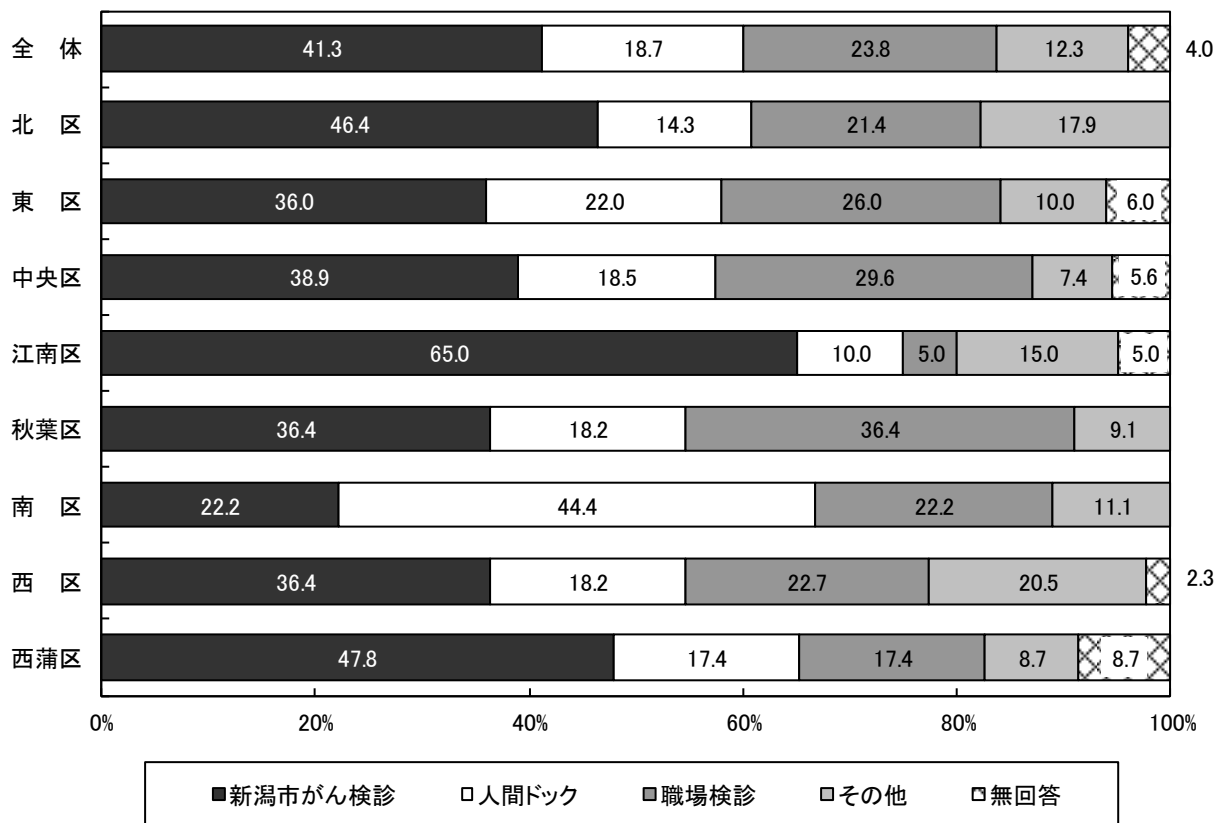
(人)

※年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

秋葉区では「新潟市がん検診」と「職場検診」と回答した人の割合が同率で最も高く、南区では「人間ドック」と回答した人の割合が最も高くなっている。その他の地区では「新潟市がん検診」と回答した人の割合が最も高くなっている。

図 5. 22-14 がん検診の検診場所（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
252	28	50	54	20	22	9	44	23	2

(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

(23) がん検診を受けなかった主な理由

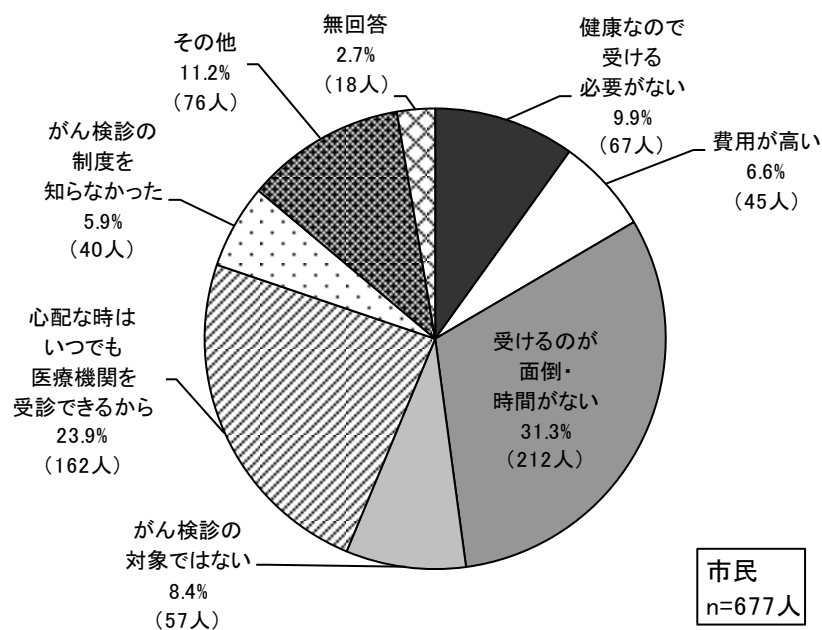
問45 問43で「6 いずれのがん検診も受けていない」に○を付けた方にお尋ねします。
がん検診を受けなかった主な理由は何ですか。(○は1つだけ)

3割強が「受けるのが面倒・時間がない」と回答

【全体結果】

がん検診を受けなかった主な理由は、「受けるのが面倒・時間がない」(31.3%)と回答した人が最も多く、以下「心配な時はいつでも医療機関を受診できるから」(23.9%)、「健康なので受ける必要がない」(9.9%)、「がん検診の対象ではない」(8.4%)と続いている。

図 5.23-1 がん検診を受けなかった主な理由



【性別・年齢別】

50歳代以下は「受けるのが面倒・時間がない」、60歳代以上は「心配な時はいつでも医療機関を受診できるから」の回答が、それぞれ最も多くなっている。

図 5.23-2 がん検診を受けなかった主な理由（年齢別・全体）

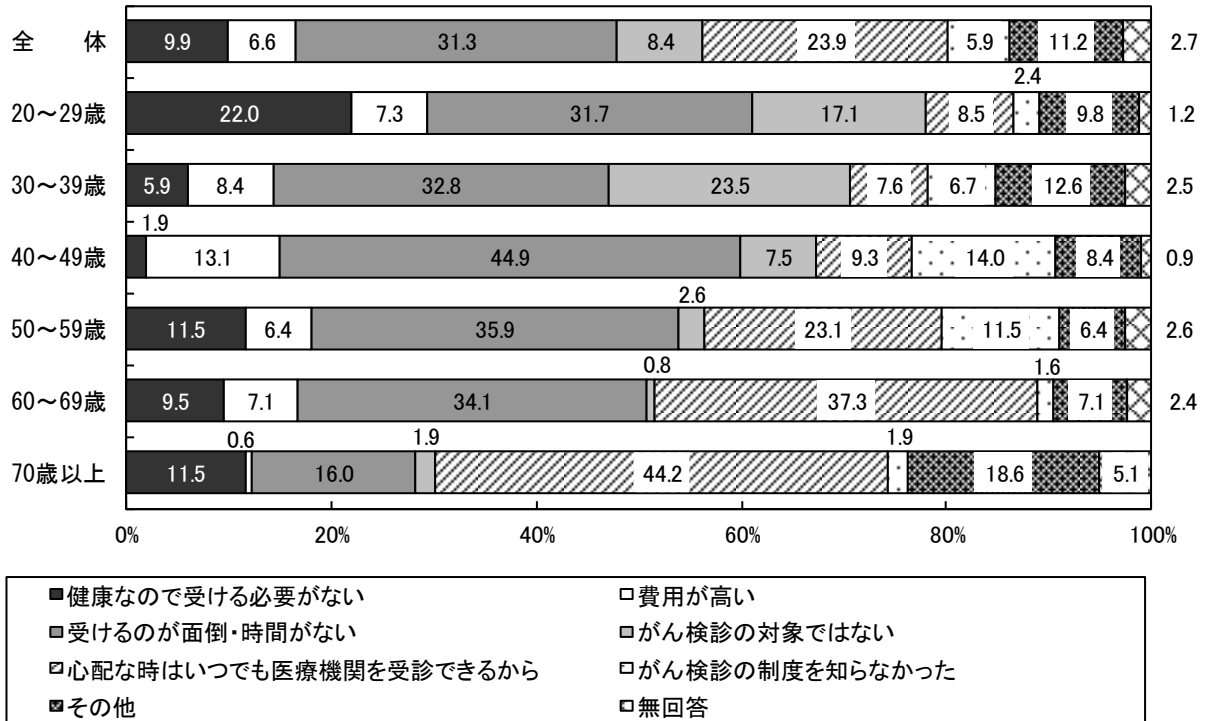
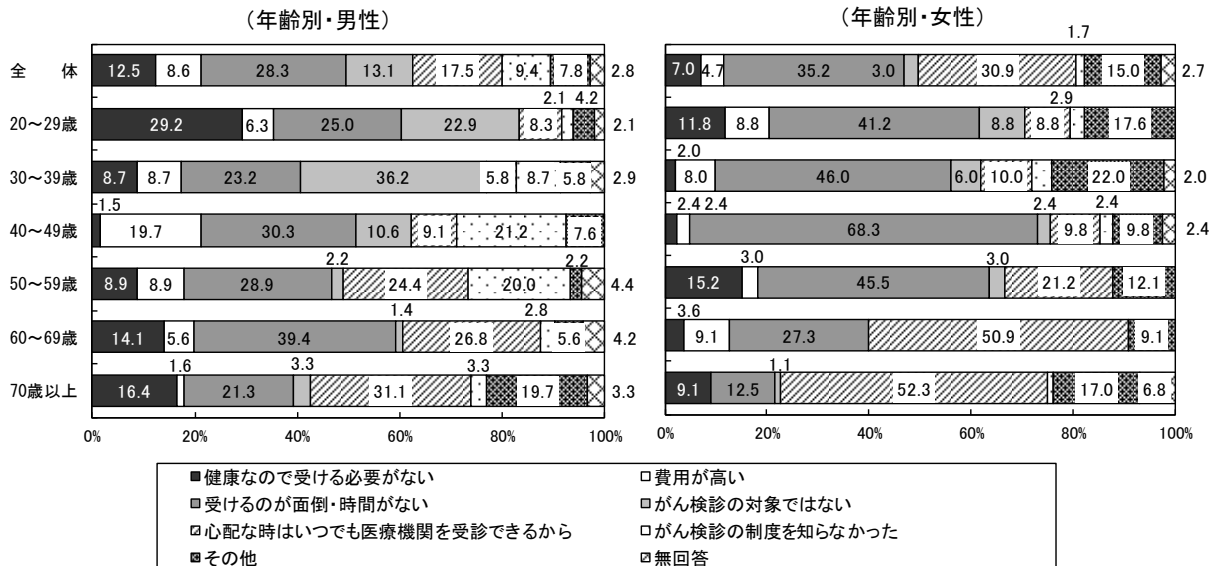


図 5.23-3 がん検診を受けなかった主な理由



	計	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上	年齢不明
全体	677	82	119	107	78	126	156	9
男性	360	48	69	66	45	71	61	0
女性	301	34	50	41	33	55	88	0

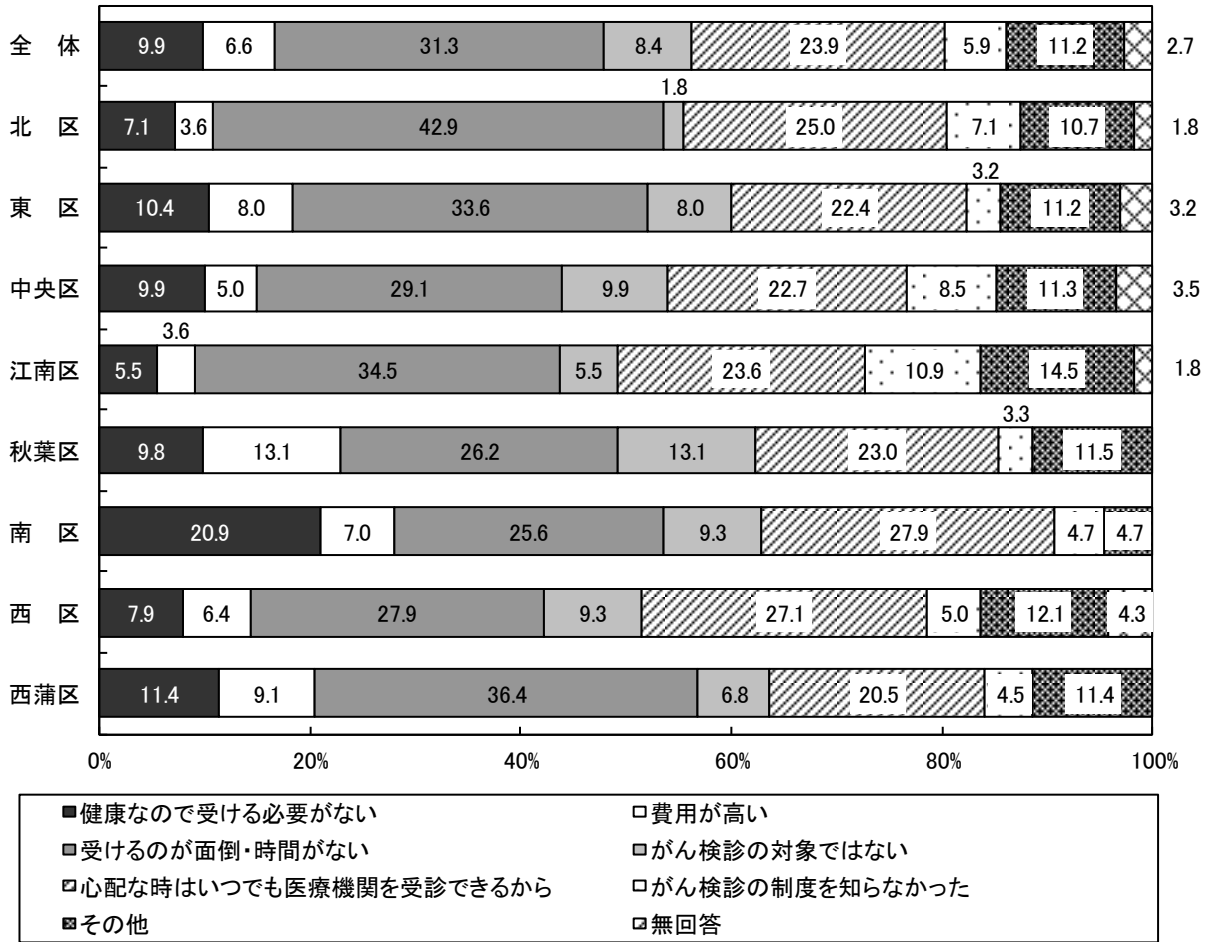
(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

南区は「心配な時はいつでも医療機関を受診できるから」、その他の区では「受けるのが面倒・時間がない」と回答した人が最も多くなっている。

図 5.23-4 がん検診を受けなかった主な理由（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
677	56	125	141	55	61	43	140	44	12

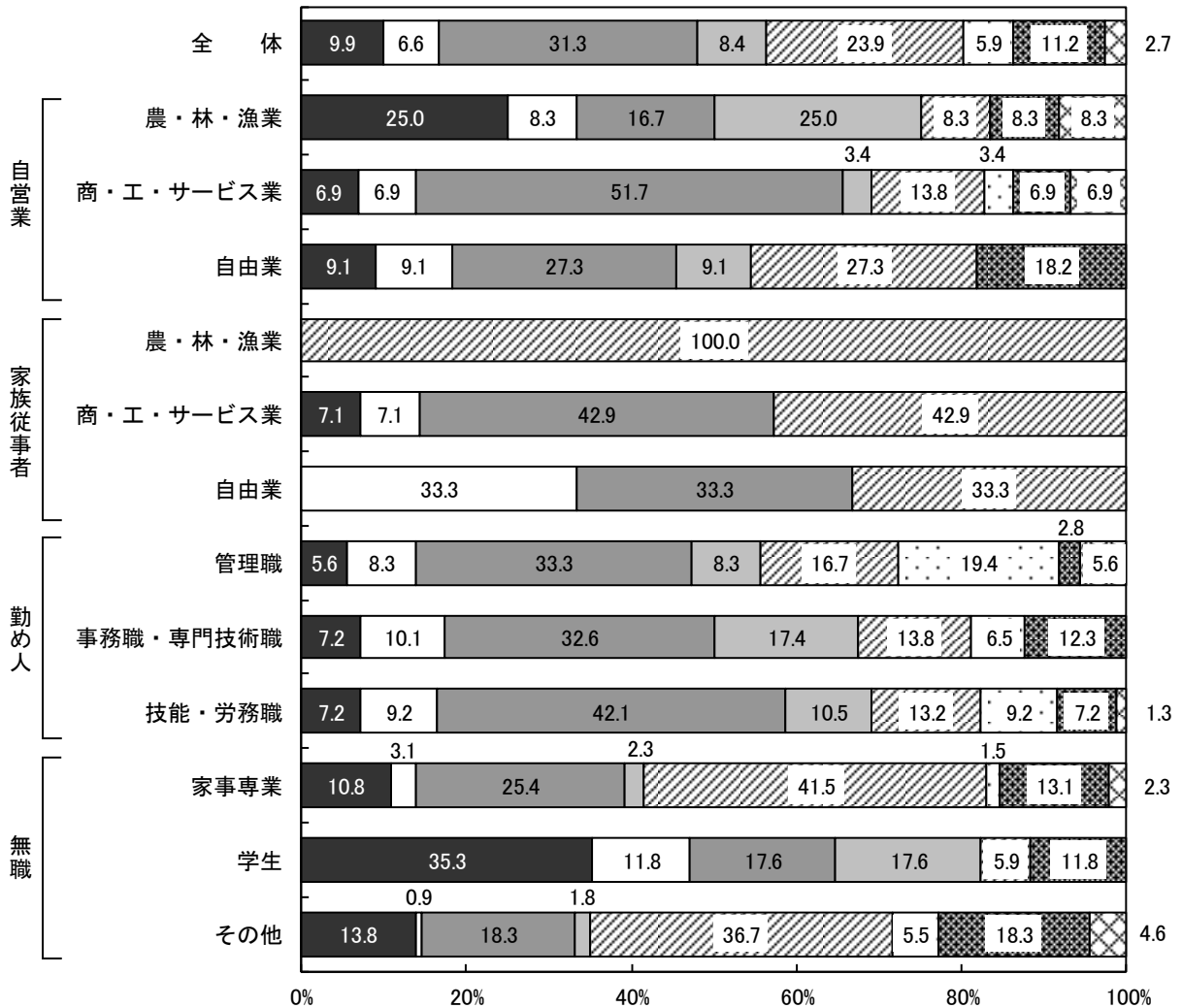
(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 5. 23-5 がん検診を受けなかった主な理由（職業別）



- 健康なので受ける必要がない
- 受けるのが面倒・時間がない
- 心配な時はいつでも医療機関を受診できるから
- その他
- 費用が高い
- がん検診の対象ではない
- がん検診の制度を知らなかった
- 無回答

全体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
677	12	29	11	1	14	3

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
36	138	152	130	17	109	25

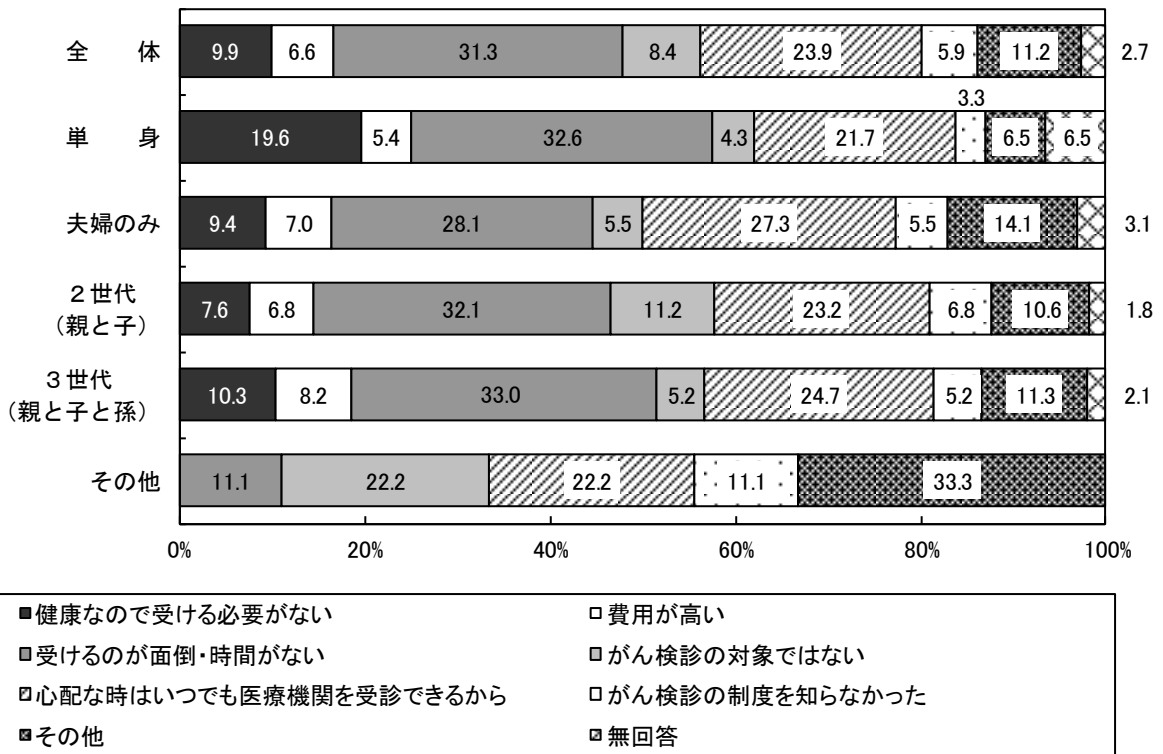
(人)

※無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

その他を除き、「受けるのが面倒・時間がない」を回答した人が、それぞれ最も多くなっている。

図 5. 23-6 がん検診を受けなかった主な理由（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代 (親と子)	3世代 (親と子と孫)	その他	無回答
677	92	128	340	97	9	11

(人)

※無回答者のグラフは省略した。

(24) 地域の人とのつながりの強さ

問46 あなたにとってご自身と地域の人たちとのつながりは強い方だと思いますか。(○は1つだけ)

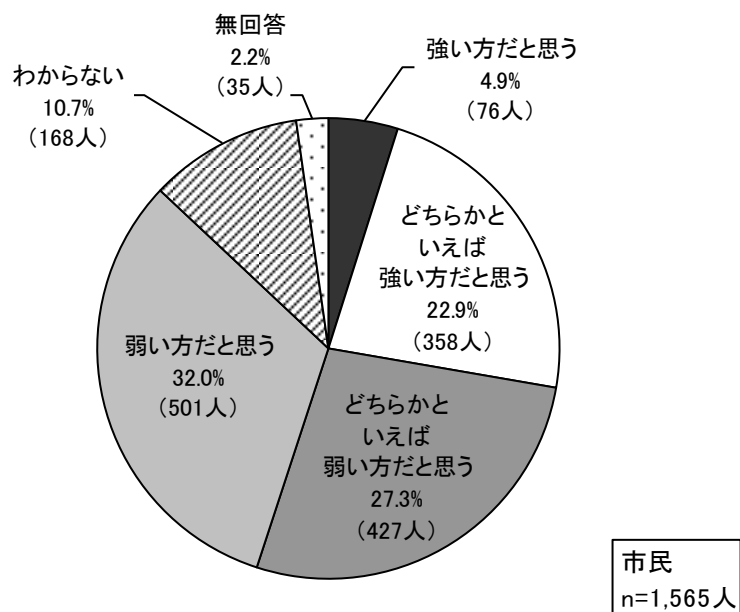
3割弱が地域の人たちとのつながりは強いと回答

【全体結果】

「強い方だと思う」(4.9%)、「どちらかといえば強い方だと思う」(22.9%)と回答した人を合わせた、地域の人たちとのつながりは強いと感じている人の割合は3割弱(27.7%)となっている。

一方、「どちらかといえば弱い方だと思う」(27.3%)、「弱い方だと思う」(32.0%)と回答した人を合わせた、地域の人たちとのつながりは弱いと感じている人の割合は6割弱(59.3%)となっている。

図 5.24-1 地域の人とのつながりの強さ



【性別・年齢別】

すべての年代で、「どちらかといえば弱い方だと思う」「弱い方だと思う」を合わせた割合が、「強い方だと思う」「どちらかといえば強い方だと思う」を合わせた割合を上回っている。「強い方だと思う」「どちらかといえば強い方だと思う」を合わせた割合は、70歳以上（35.0%）で最も高くなっている。

図 5.24-2 地域の人とのつながりの強さ（年齢別・全体）

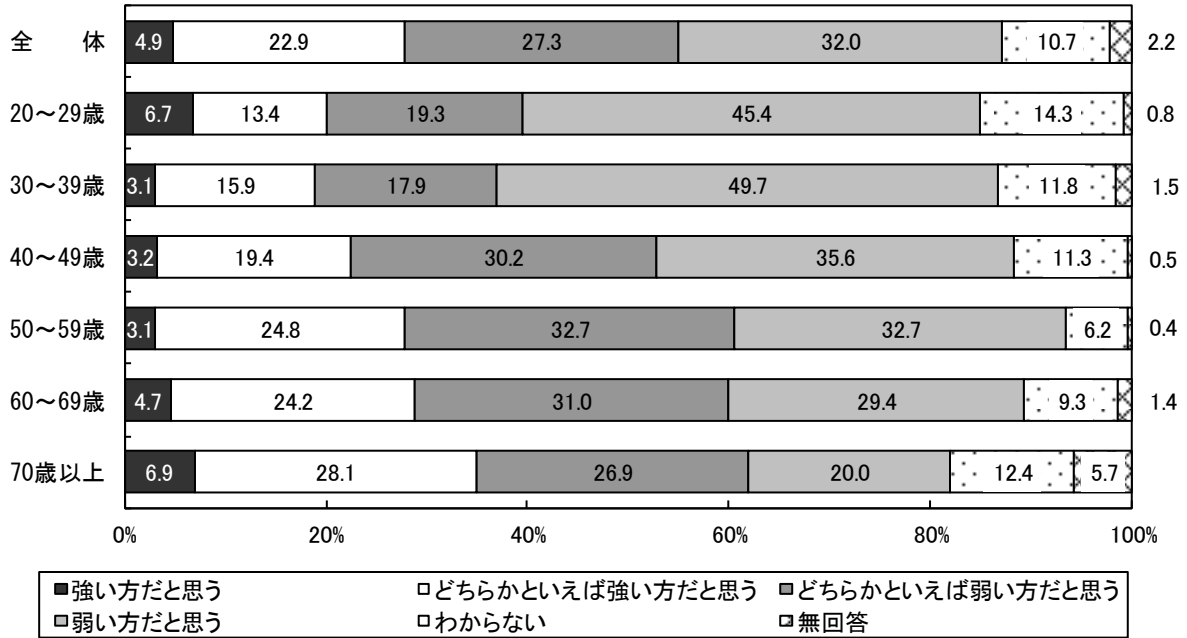
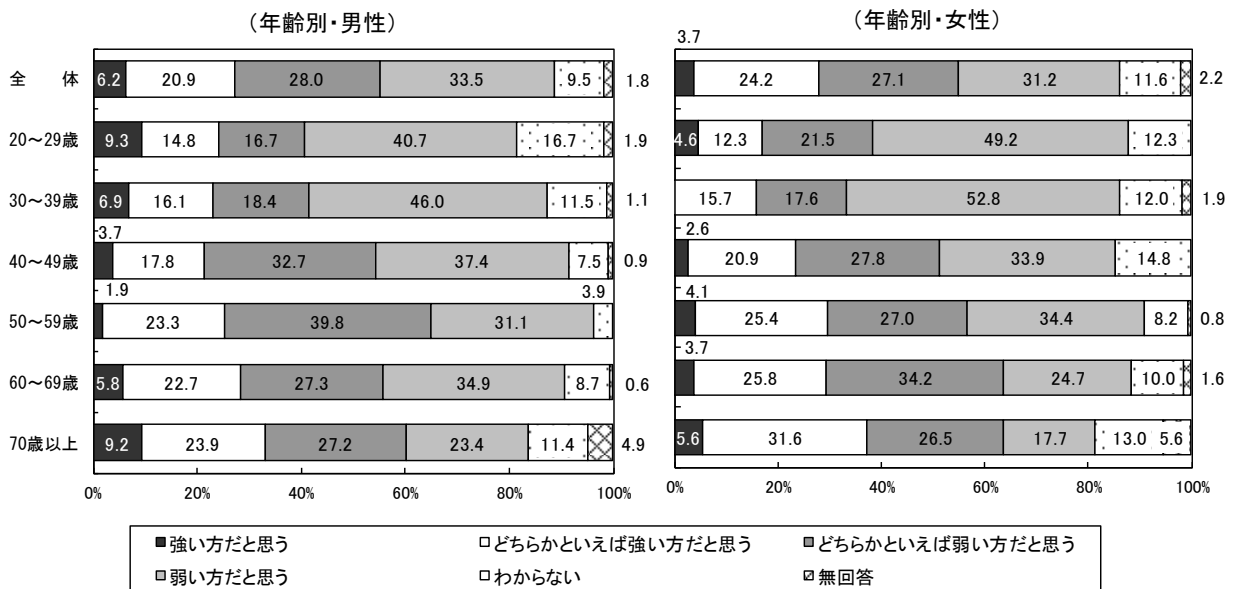


図 5.24-3 地域の人とのつながりの強さ



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,565	119	195	222	226	364	420	19
男性	707	54	87	107	103	172	184	0
女性	817	65	108	115	122	190	215	2

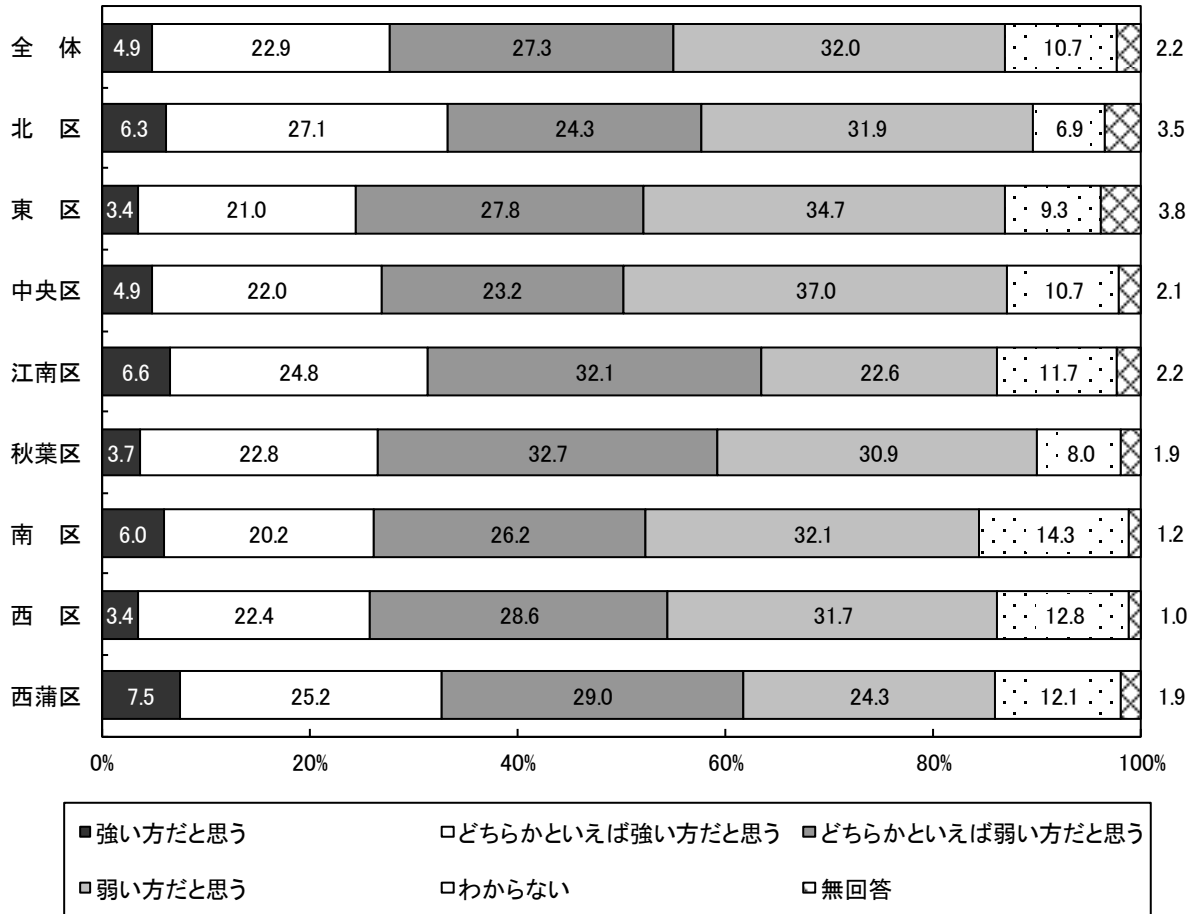
(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

すべての地区で「どちらかといえば弱い方だと思う」「弱い方だと思う」を合わせた割合が、「強い方だと思う」「どちらかといえば強い方だと思う」を合わせた割合を上回っている。

図 5.24-4 地域の人とのつながりの強さ（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,565	144	291	327	137	162	84	290	107	23

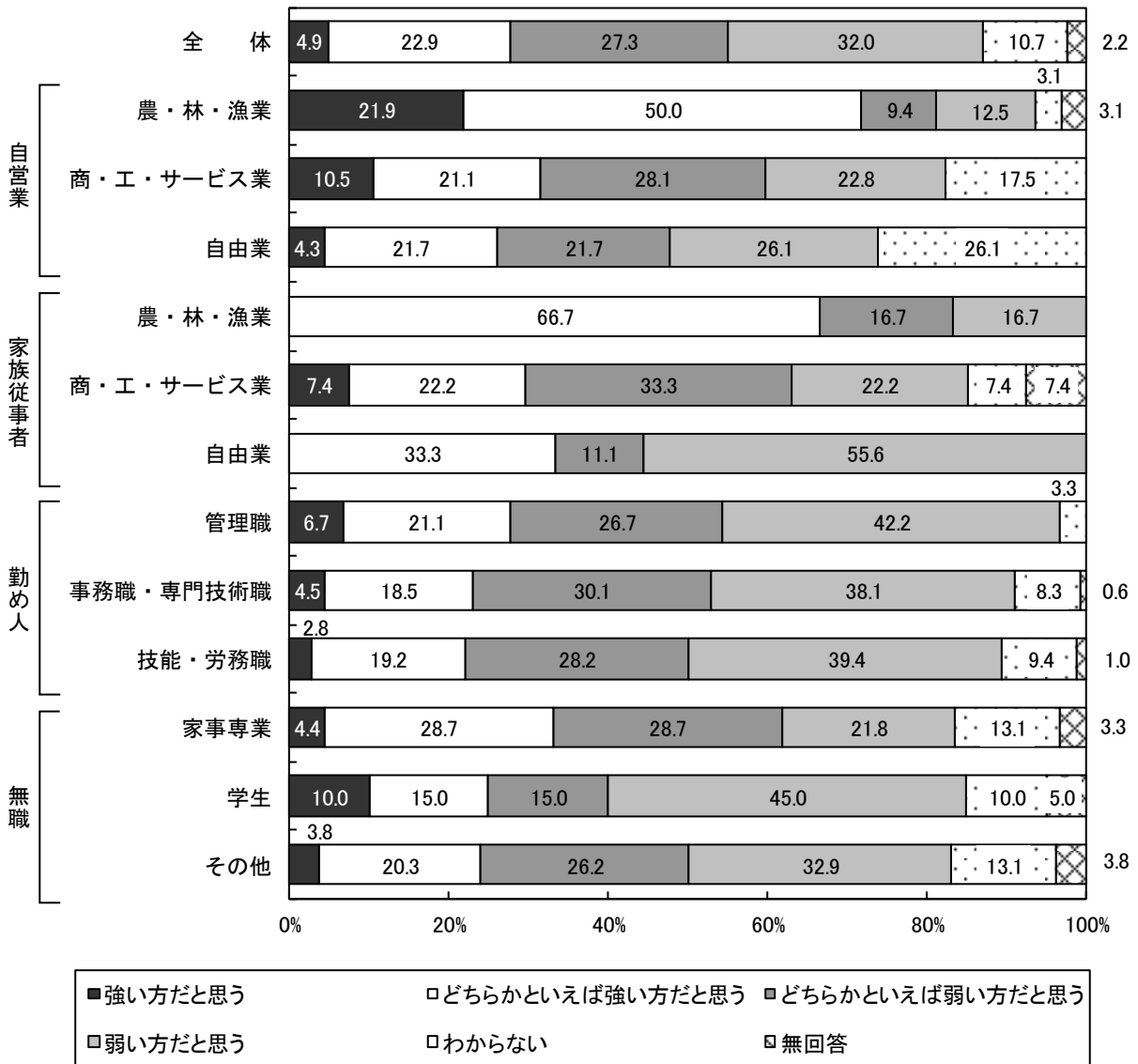
(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 5.24-5 地域の人とのつながりの強さ（職業別）



全体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,565	32	57	23	6	27	9

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
90	336	287	390	20	237	51

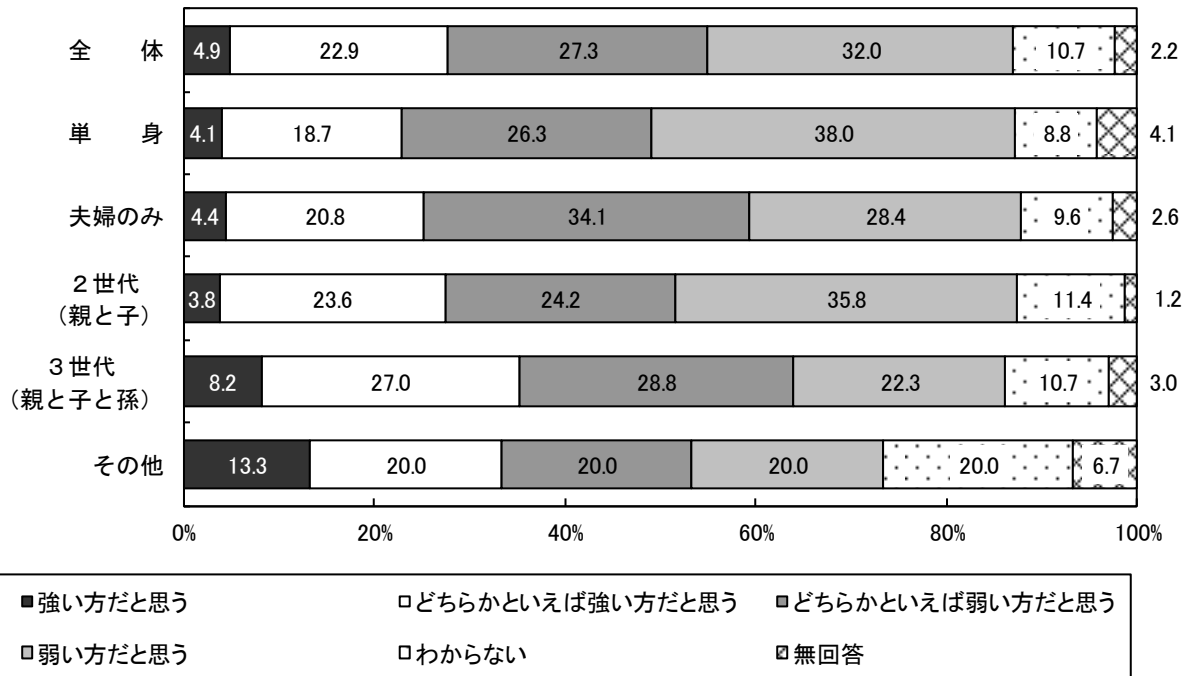
(人)

※無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

各家族構成とも、「どちらかといえば弱い方だと思う」「弱い方だと思う」を合わせた割合が、「強い方だと思う」「どちらかといえば強い方だと思う」を合わせた割合を上回っている。

図 5. 24-6 地域の人とのつながりの強さ（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代 (親と子)	3世代 (親と子と孫)	その他	無回答
1,565	171	384	737	233	15	25

(人)

※無回答者のグラフは省略した。

(25) 最近1年間のボランティア活動、地域社会活動の参加状況

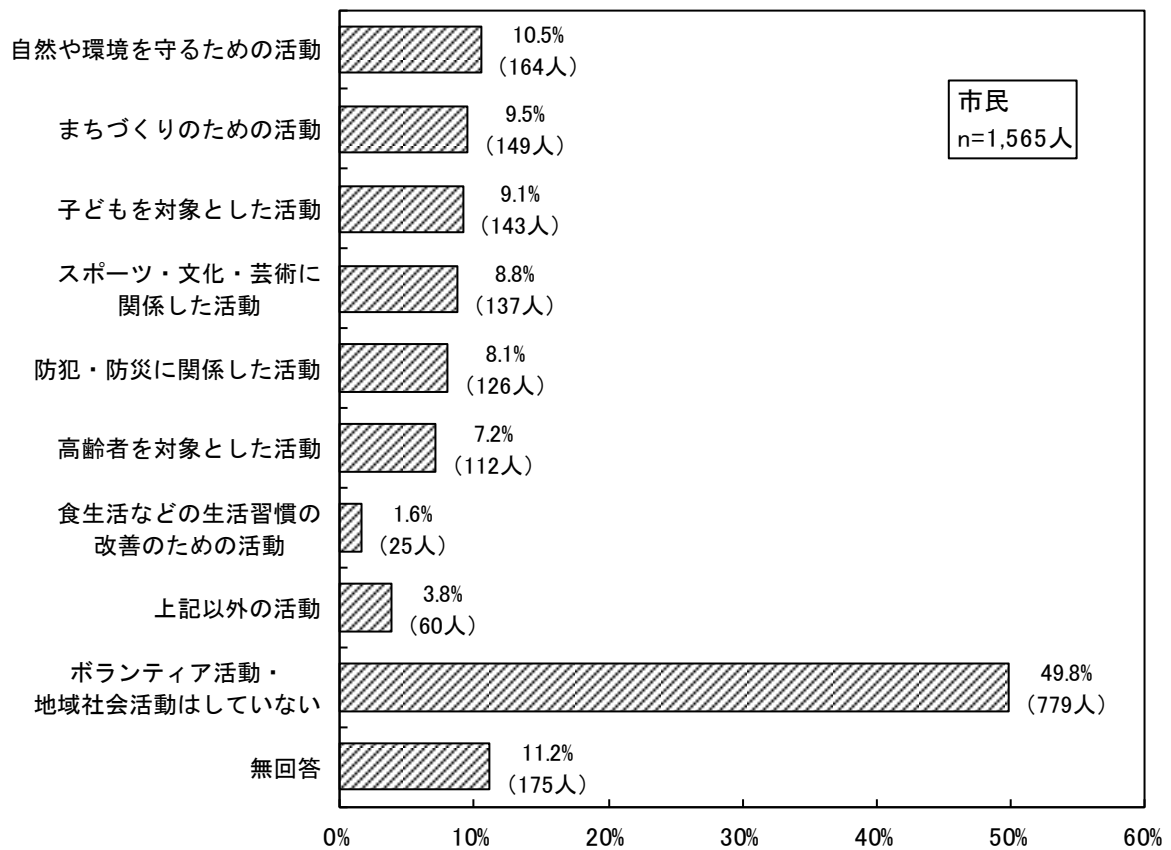
問47 あなたがこの1年間にボランティア活動（近隣の人への手助け・支援を含む）、地域社会活動（町内会活動・地域行事など）を行いましたか。（○はいくつでも）
※有償・無償にかかわらず

「ボランティア活動・地域社会活動に参加している」人は4割弱

【全体結果】

「ボランティア活動・地域社会活動はしていない」（49.8%）、「無回答」（11.2%）を除いた、何らかのボランティア活動・地域活動に参加したと回答した人の割合は4割弱（39.0%）となっている。その中で、「自然や環境を守るための活動」（10.5%）を回答した人が最も多く、以下「まちづくりのための活動」（9.5%）、「子どもを対象とした活動」（9.1%）と続いている。

図 5.25 最近1年間のボランティア活動、地域社会活動の参加状況



【性別・年齢別】

各年代とも「ボランティア活動・地域社会活動はしていない」と回答した人の割合が最も高くなっている。30歳代と40歳代では、「子どもを対象とした活動」の割合が、40歳代と50歳代では「自然や環境を守るための活動」の割合が、70歳以上では「高齢者を対象とした活動」の割合が他の年代に比べて高くなっている。

表 11.1 最近1年間のボランティア活動、地域社会活動の参加状況（年齢別・全体）

	対象者	自然や環境を守るための活動	まちづくりのための活動	子どもを対象とした活動	スポーツ・文化・芸術に関係した活動	防犯・防災に係った活動	高齢者を対象とした活動	食生活などの生活習慣の改善のための活動	上記以外の活動	ボランティア活動・地域社会活動はしていない	無回答
計	1565	10.5	9.5	9.1	8.8	8.1	7.2	1.6	3.8	49.8	11.2
20～29歳	119	3.4	3.4	5.9	7.6	5.0	1.7	1.7	4.2	73.1	2.5
30～39歳	195	6.7	7.2	21.5	7.2	5.1	2.6	3.1	4.1	54.4	4.6
40～49歳	222	14.4	12.6	21.2	9.0	9.0	3.2	0.0	2.3	48.6	5.0
50～59歳	226	16.8	11.1	6.6	8.4	4.9	3.5	0.4	4.0	52.2	6.2
60～69歳	364	9.9	9.3	6.3	8.5	10.4	7.7	1.9	5.2	48.6	11.3
70歳以上	420	9.5	10.2	2.1	10.2	9.3	14.5	2.1	3.1	41.2	22.4
年齢不明	19	5.3	5.3	0.0	5.3	10.5	5.3	0.0	5.3	52.6	15.8

対象者：人/回答：%

表 11.2 最近1年間のボランティア活動、地域社会活動の参加状況（年齢別・男性）

	対象者	自然や環境を守るための活動	まちづくりのための活動	子どもを対象とした活動	スポーツ・文化・芸術に関係した活動	防犯・防災に係った活動	高齢者を対象とした活動	食生活などの生活習慣の改善のための活動	上記以外の活動	ボランティア活動・地域社会活動はしていない	無回答
計	707	12.4	13.0	8.2	11.2	10.3	7.1	0.7	4.2	49.5	8.8
20～29歳	54	7.4	5.6	3.7	11.1	11.1	0.0	1.9	7.4	66.7	0.0
30～39歳	87	12.6	11.5	20.7	12.6	8.0	2.3	2.3	5.7	48.3	4.6
40～49歳	107	17.8	14.0	14.0	13.1	10.3	3.7	0.0	1.9	52.3	4.7
50～59歳	103	10.7	12.6	3.9	11.7	5.8	0.0	0.0	2.9	55.3	4.9
60～69歳	172	12.8	13.4	8.1	8.1	12.8	7.0	0.0	5.2	47.7	9.9
70歳以上	184	11.4	15.2	2.7	12.0	11.4	17.4	1.1	3.8	41.8	16.8
年齢不明	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

対象者：人/回答：%

表 11.3 最近1年間のボランティア活動、地域社会活動の参加状況（年齢別・女性）

	対象者	自然や環境を守るための活動	まちづくりのための活動	子どもを対象とした活動	スポーツ・文化・芸術に関係した活動	防犯・防災に係った活動	高齢者を対象とした活動	食生活などの生活習慣の改善のための活動	上記以外の活動	ボランティア活動・地域社会活動はしていない	無回答
計	817	9.1	6.6	10.4	6.9	5.9	7.1	2.3	3.5	49.9	12.7
20～29歳	65	0.0	1.5	7.7	4.6	0.0	3.1	1.5	1.5	78.5	4.6
30～39歳	108	1.9	3.7	22.2	2.8	2.8	2.8	3.7	2.8	59.3	4.6
40～49歳	115	11.3	11.3	27.8	5.2	7.8	2.6	0.0	2.6	45.2	5.2
50～59歳	122	22.1	9.8	9.0	5.7	4.1	6.6	0.8	4.9	49.2	7.4
60～69歳	190	7.4	5.8	4.7	8.9	8.4	8.4	3.7	5.3	49.5	12.1
70歳以上	215	7.9	6.0	1.9	9.3	7.0	12.1	2.8	2.8	40.0	27.0
年齢不明	2	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0

対象者：人/回答：%

6 農林漁業体験について

(1) 農林漁業体験の参加経験の有無

問48 これまで、あなた又はあなたの家族の中で農林漁業体験に参加したことがある人はいますか。
子どもたちの学校や園での体験も含まれます。(〇は1つだけ)
「農林漁業体験」とは、次のようなものに関する体験とお考えください。

「農林漁業体験」の例

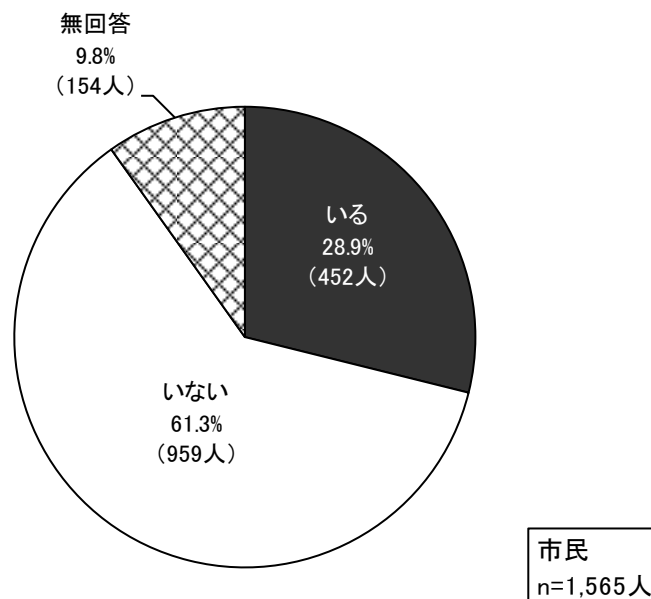
- ◆ 水田での田植え、栽培管理、稲刈り、はざがけなどの米に関する体験
- ◆ 畑での種まき・苗植え、栽培管理、収穫などの野菜に関する体験
- ◆ 樹園地での花粉付け、袋がけ、収穫などの果樹に関する体験
- ◆ 花の栽培・育種などの花に関する体験
- ◆ 乳しぼり、エサやり・ミルクやり、畜舎の管理などの酪農体験、その他の畜産体験
- ◆ 植林、下草刈り、枝打ち、除伐・間伐などの林業体験
- ◆ 釣り、底引き網などの漁業体験

3割弱が参加経験者が「いる」と回答

【全体結果】

自身や家族の中に農林漁業体験に参加したことがある人が「いる」と回答した人は3割弱(28.9%)、「いない」と回答した人は6割強(61.3%)となっている。

図 6.1-1 農林漁業体験の参加経験の有無



【性別・年齢別】

「いる」と回答した人の割合は、40歳代（48.2%）で最も高く、40歳代までは年齢が上がるにつれて高くなり、40歳代以降は低下している。

性別では、「いる」と回答した人の割合は、男性の30歳代と40歳代で4割強、女性の20歳代と40歳代で5割強と高くなっている。

図 6.1-2 農林漁業体験の参加経験の有無（年齢別・全体）

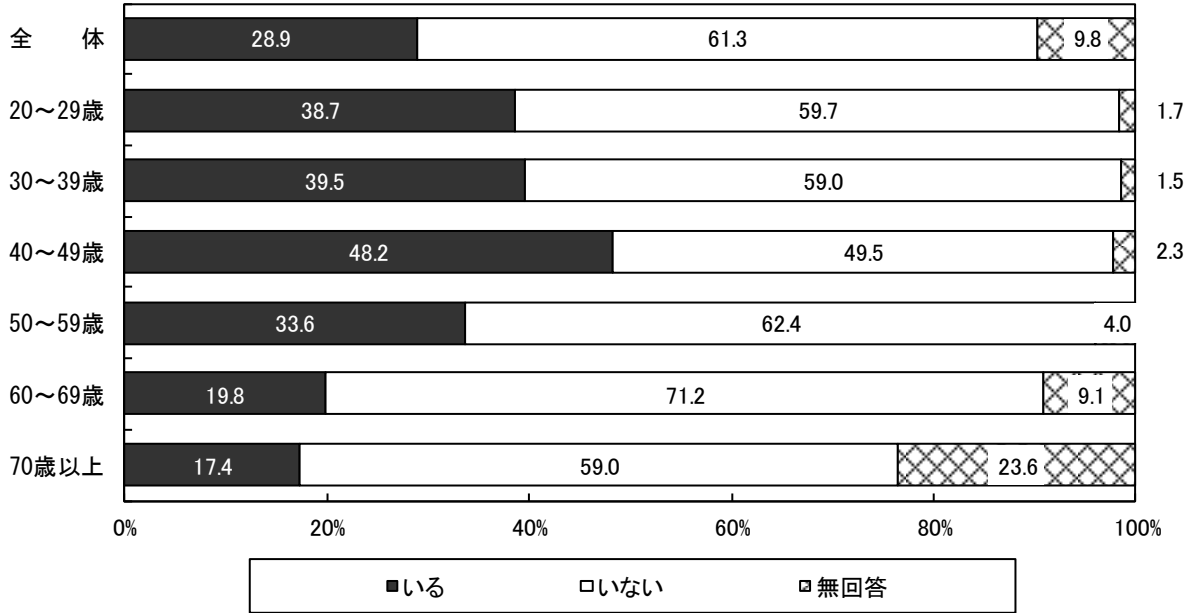
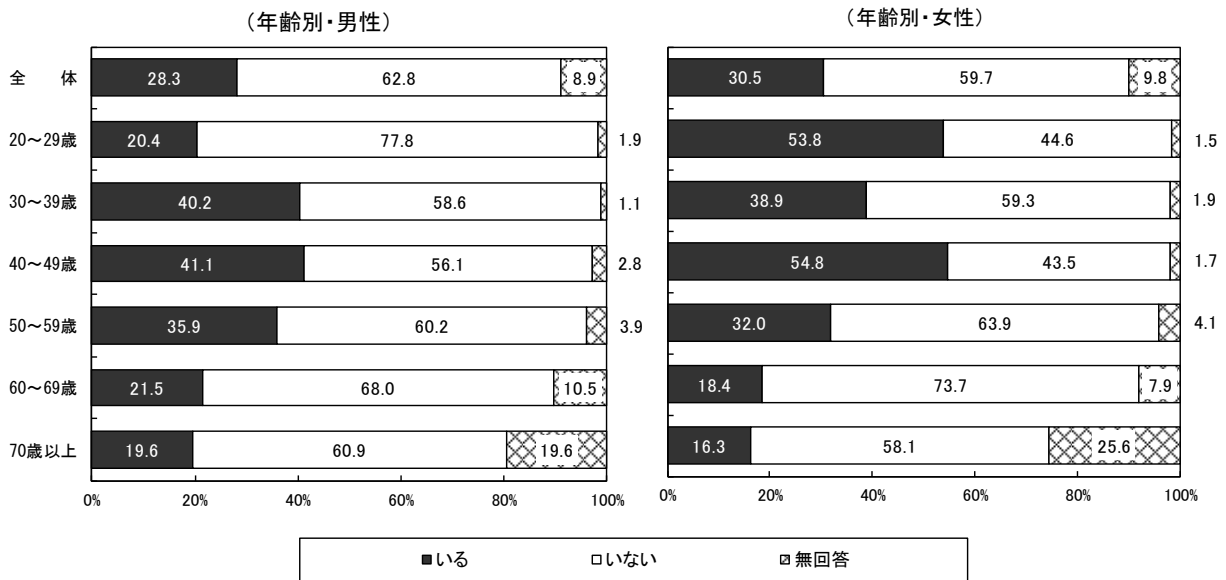


図 6.1-3 農林漁業体験の参加経験の有無



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全 体	1,565	119	195	222	226	364	420	19
男 性	707	54	87	107	103	172	184	0
女 性	817	65	108	115	122	190	215	2

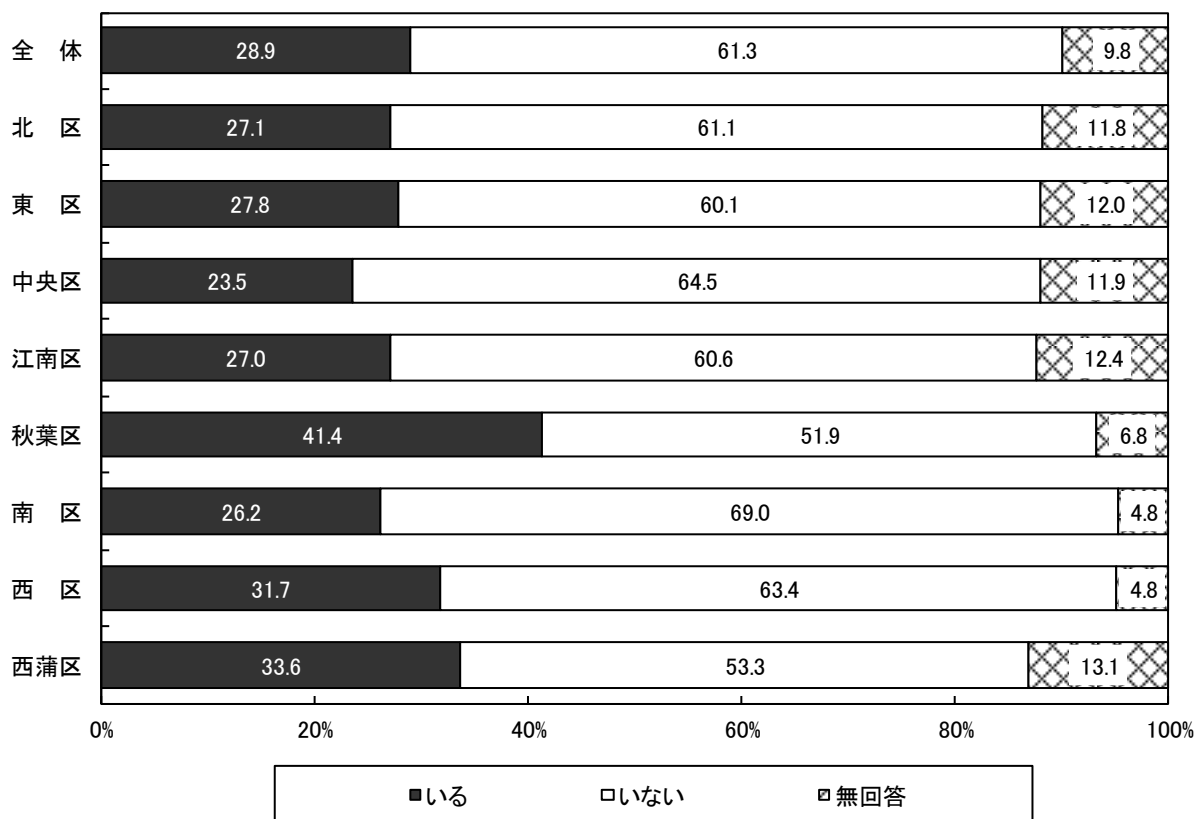
(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「いる」と回答した人の割合は、秋葉区（41.4%）で最も高くなっている。

図 6.1-4 農林漁業体験の参加経験の有無（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,565	144	291	327	137	162	84	290	107	23

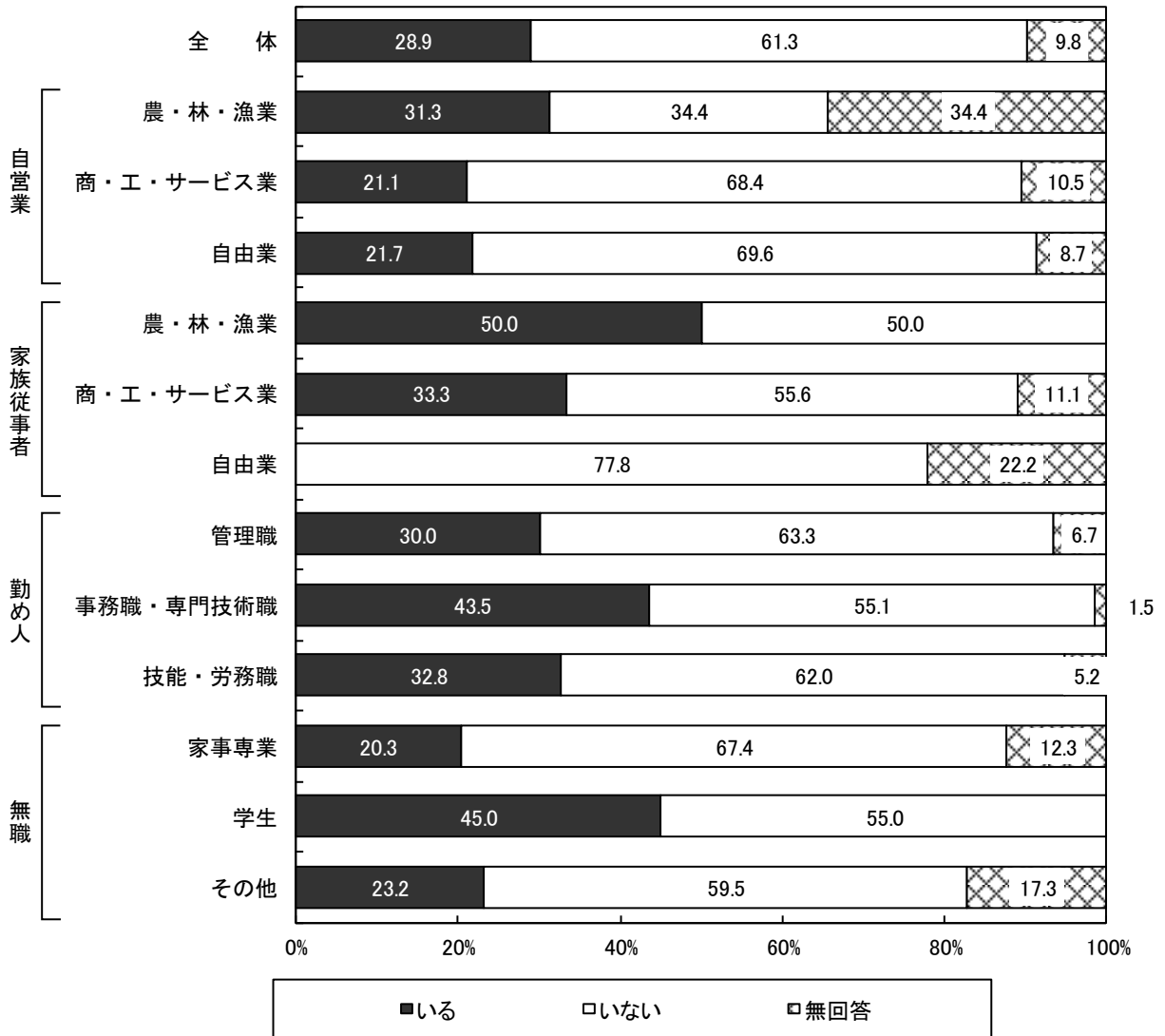
(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 6.1-5 農林漁業体験の参加経験の有無（職業別）



全体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,565	32	57	23	6	27	9

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
90	336	287	390	20	237	51

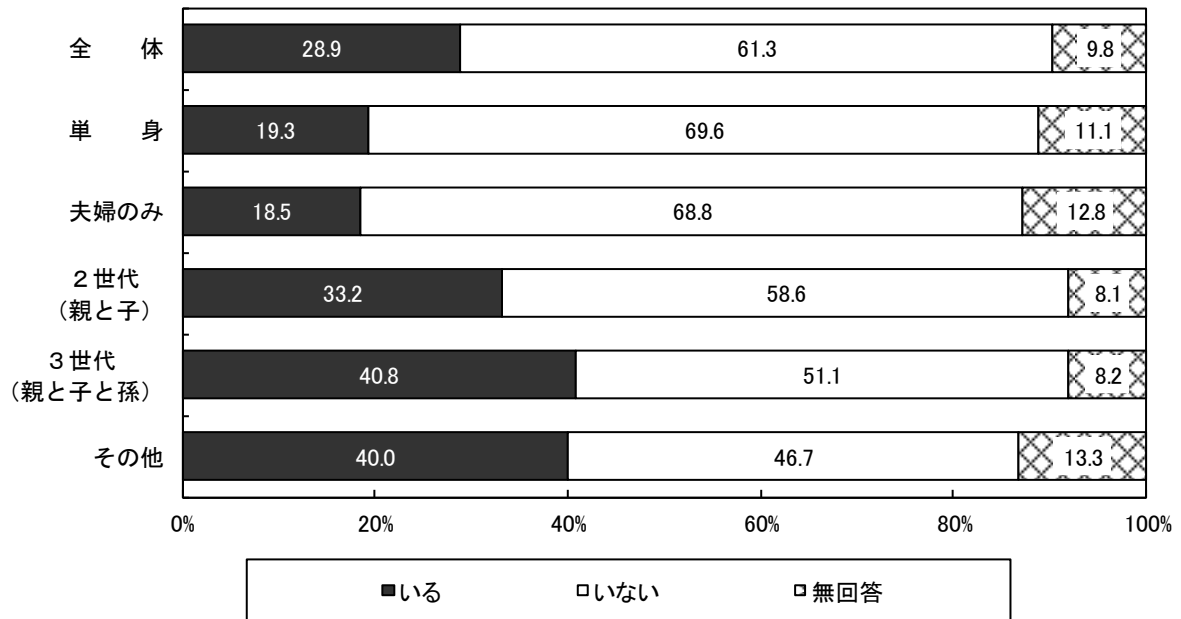
(人)

※無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「いる」と回答した人の割合は、3世代（40.8%）で最も高く、4割を超えている。

図 6.1-6 農林漁業体験の参加経験の有無（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代 (親と子)	3世代 (親と子と孫)	その他	無回答
1,565	171	384	737	233	15	25

(人)

※無回答者のグラフは省略した。

(2) 参加した農林漁業体験の内容

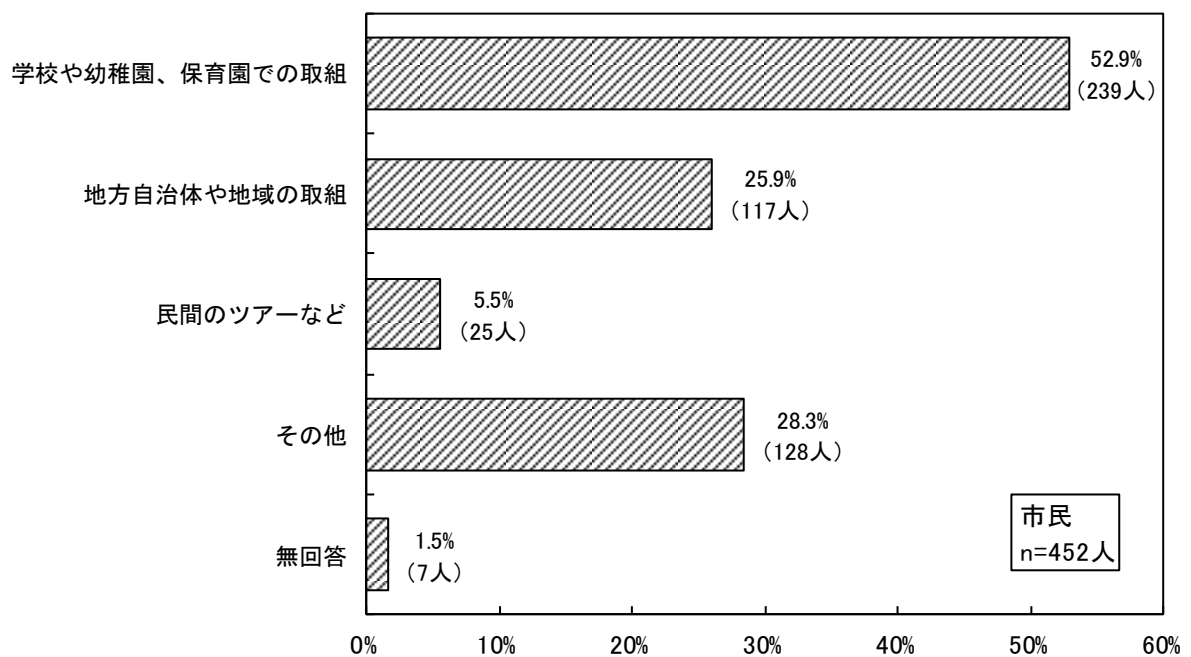
問49 問48で1に○をつけた方にお尋ねします。どのようなものに参加されましたか。
(○はいくつでも)

5割強が「学校や幼稚園、保育園での取組」と回答

【全体結果】

「学校や幼稚園、保育園での取組」(52.9%)と回答した人が最も多くなっている。「その他」を除き、以下「地方自治体や地域の取組」(25.9%)、「民間のツアーなど」(5.5%)と続いている。

図 6.2 参加した農林漁業体験の内容



【性別・年齢別】

「その他」を除き、50歳代以下では「学校や幼稚園、保育園での取組」が最も多く、60歳以上では「地方自治体や地域の取組」が最も多くなっている。

表 12.1 参加した農林漁業体験の内容（年齢別・全体）

	対象者	学校や幼稚園、保育園での取組	地方自治体や地域の取組	民間のツアーなど	その他	無回答
計	452	52.9	25.9	5.5	28.3	1.5
20～29歳	46	71.7	17.4	2.2	19.6	0.0
30～39歳	77	66.2	16.9	5.2	28.6	1.3
40～49歳	107	72.9	20.6	6.5	15.9	0.9
50～59歳	76	55.3	32.9	3.9	23.7	0.0
60～69歳	72	19.4	31.9	5.6	47.2	1.4
70歳以上	73	27.4	35.6	6.8	38.4	5.5
年齢不明	1	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0

対象者：人/回答：%

表 12.2 参加した農林漁業体験の内容（年齢別・男性）

	対象者	学校や幼稚園、保育園での取組	地方自治体や地域の取組	民間のツアーなど	その他	無回答
計	200	46.5	28.0	5.5	30.5	2.0
20～29歳	11	63.6	18.2	9.1	18.2	0.0
30～39歳	35	62.9	17.1	5.7	31.4	0.0
40～49歳	44	70.5	15.9	4.5	15.9	2.3
50～59歳	37	48.6	29.7	5.4	32.4	0.0
60～69歳	37	24.3	45.9	5.4	35.1	0.0
70歳以上	36	16.7	36.1	5.6	44.4	8.3
年齢不明	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

対象者：人/回答：%

表 12.3 参加した農林漁業体験の内容（年齢別・女性）

	対象者	学校や幼稚園、保育園での取組	地方自治体や地域の取組	民間のツアーなど	その他	無回答
計	249	57.8	24.5	4.8	26.5	1.2
20～29歳	35	74.3	17.1	0.0	20.0	0.0
30～39歳	42	69.0	16.7	4.8	26.2	2.4
40～49歳	63	74.6	23.8	7.9	15.9	0.0
50～59歳	39	61.5	35.9	2.6	15.4	0.0
60～69歳	35	14.3	17.1	5.7	60.0	2.9
70歳以上	35	37.1	37.1	5.7	31.4	2.9
年齢不明	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

対象者：人/回答：%

【地区別】

「その他」を除き、すべての地区で「学校や幼稚園、保育園での取組」の割合が最も高く、特に南区(63.6%)で6割を超えている。

表 12.4 参加した農林漁業体験の内容(地区別)

	対象者	学校や幼稚園、保育園での取組	地方自治体や地域の取組	民間のツアーなど	その他	無回答
計	452	52.9	25.9	5.5	28.3	1.5
北 区	39	51.3	33.3	2.6	28.2	0.0
東 区	81	55.6	29.6	6.2	22.2	2.5
中央区	77	54.5	18.2	9.1	31.2	1.3
江南区	37	54.1	13.5	0.0	40.5	0.0
秋葉区	67	53.7	26.9	4.5	32.8	0.0
南 区	22	63.6	36.4	4.5	18.2	0.0
西 区	92	46.7	26.1	5.4	25.0	3.3
西蒲区	36	50.0	30.6	5.6	30.6	2.8
地区不明	1	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0

対象者：人/回答：%

(3) 今後の農林漁業体験への参加意向

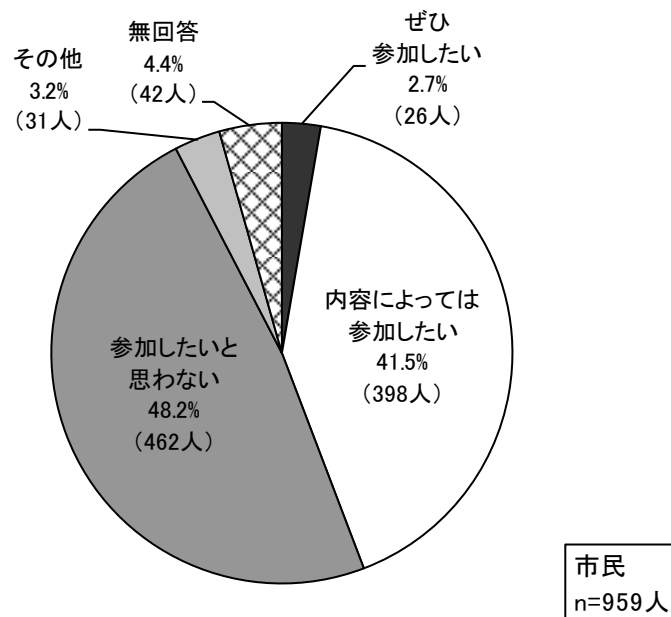
問50 問48で2に○をつけた方にお尋ねします。今後、あなたは農林漁業体験に参加したいと思いますか。(○は1つだけ)

4割強が「ぜひ参加したい」「内容によっては参加したい」と回答

【全体結果】

「ぜひ参加したい」(2.7%)、「内容によっては参加したい」(41.5%)と回答した人を合わせた割合は4割強(44.2%)となっている。

図 6.3-1 今後の農林漁業体験への参加意向



【性別・年齢別】

20歳代～50歳代では、「ぜひ参加したい」「内容によっては参加したい」を合わせた割合が、「参加したいとは思わない」の割合を上回っているが、60歳代以上では「参加したいとは思わない」の割合が高く、70歳以上では5割強（55.6%）となっている。

図 6.3-2 今後の農林漁業体験への参加意向（年齢別・全体）

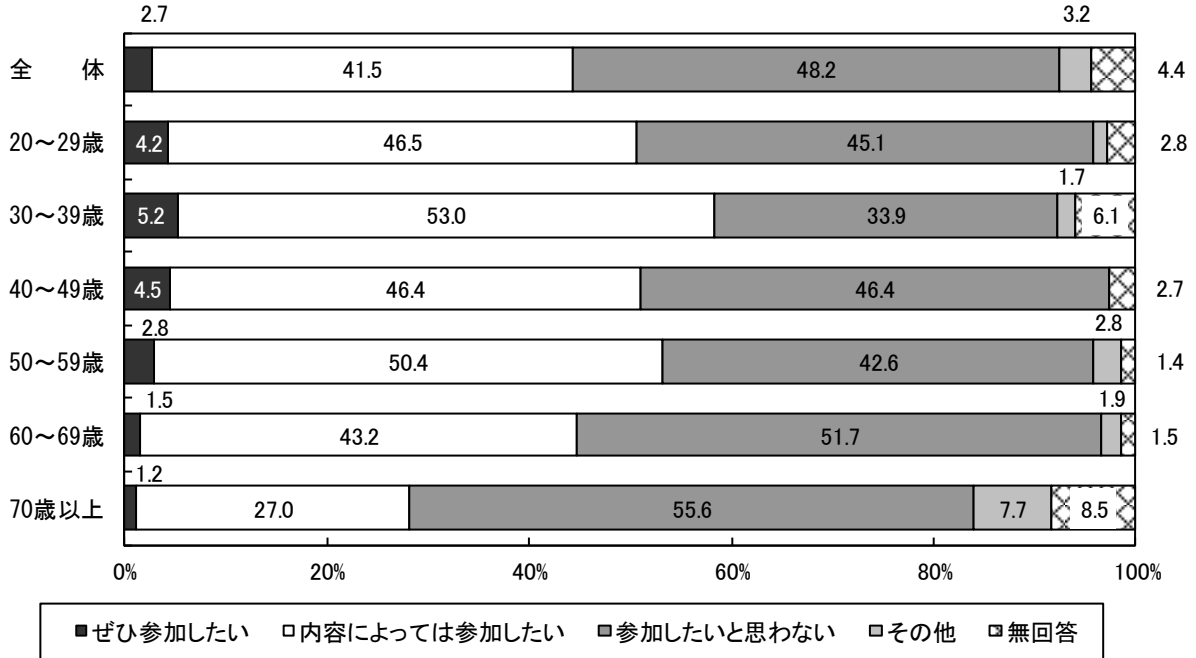
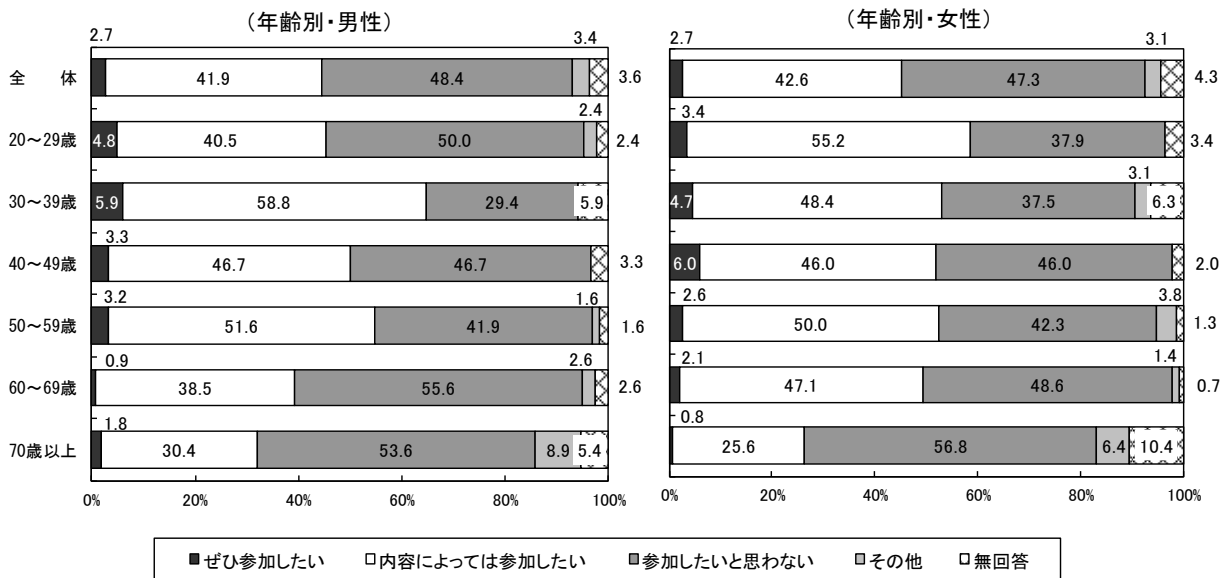


図 6.3-3 今後の農林漁業体験への参加意向



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全 体	959	71	115	110	141	259	248	15
男 性	444	42	51	60	62	117	112	0
女 性	488	29	64	50	78	140	125	2

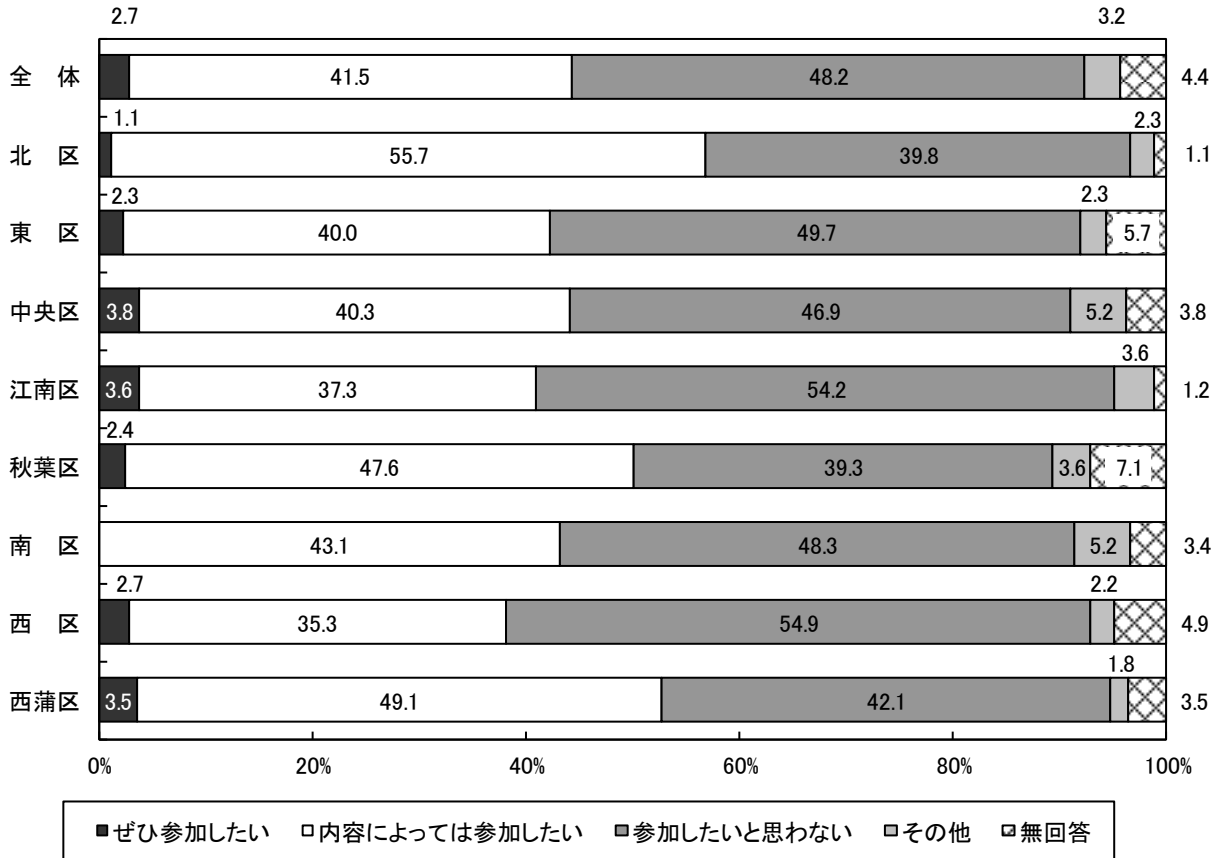
(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「ぜひ参加したい」「内容によっては参加したい」を合わせた割合は北区で最も高く、5割弱となっている。また、北区、秋葉区と西蒲区を除き、「参加したいと思わない」を回答した人の割合が、「ぜひ参加したい」「内容によっては参加したい」を合わせた割合を上回っている。

図 6.3-4 今後の農林漁業体験への参加意向（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
959	88	175	211	83	84	58	184	57	19

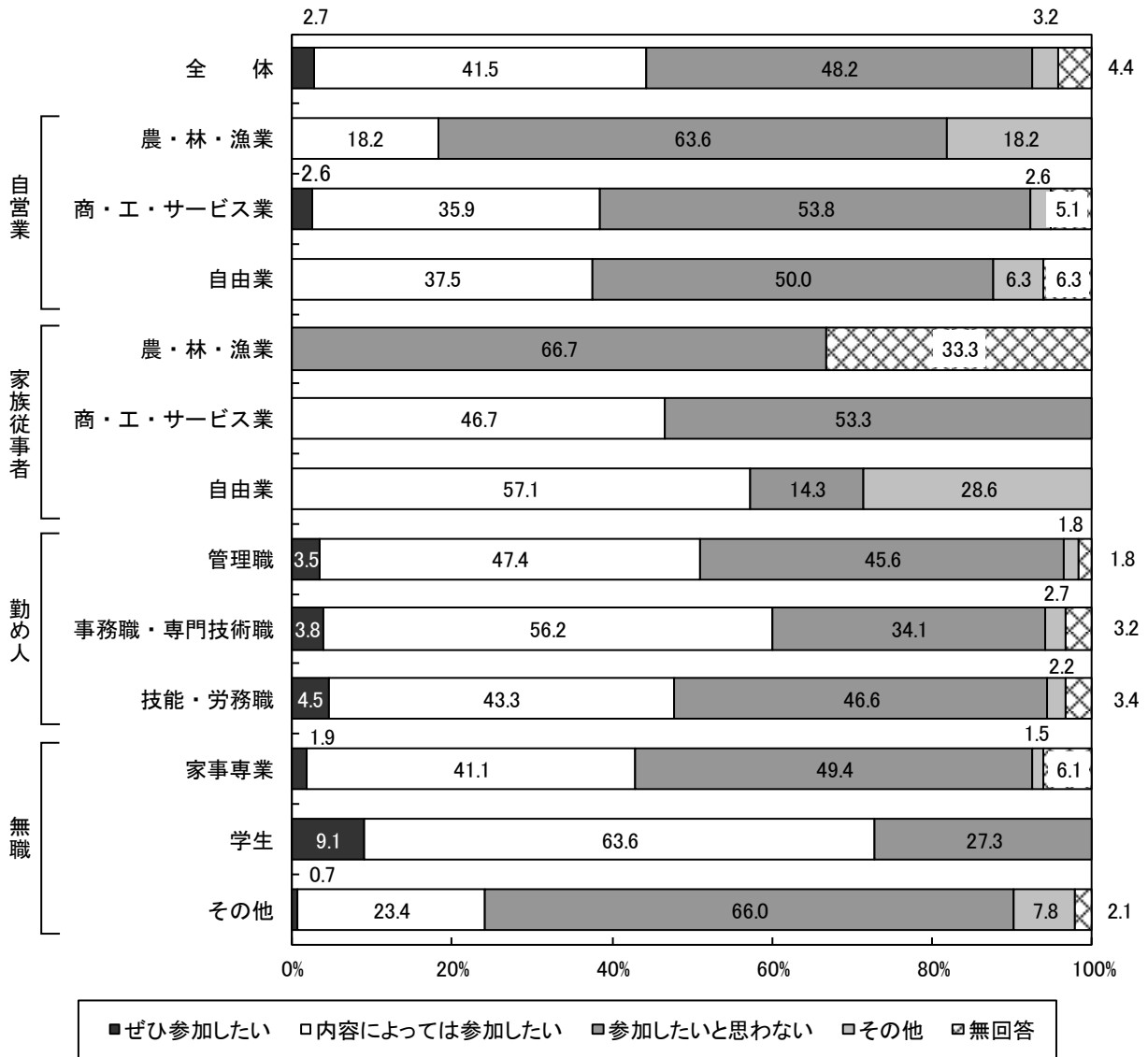
(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 6.3-5 今後の農林漁業体験への参加意向（職業別）



全体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
959	11	39	16	3	15	7

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
57	185	178	263	11	141	33

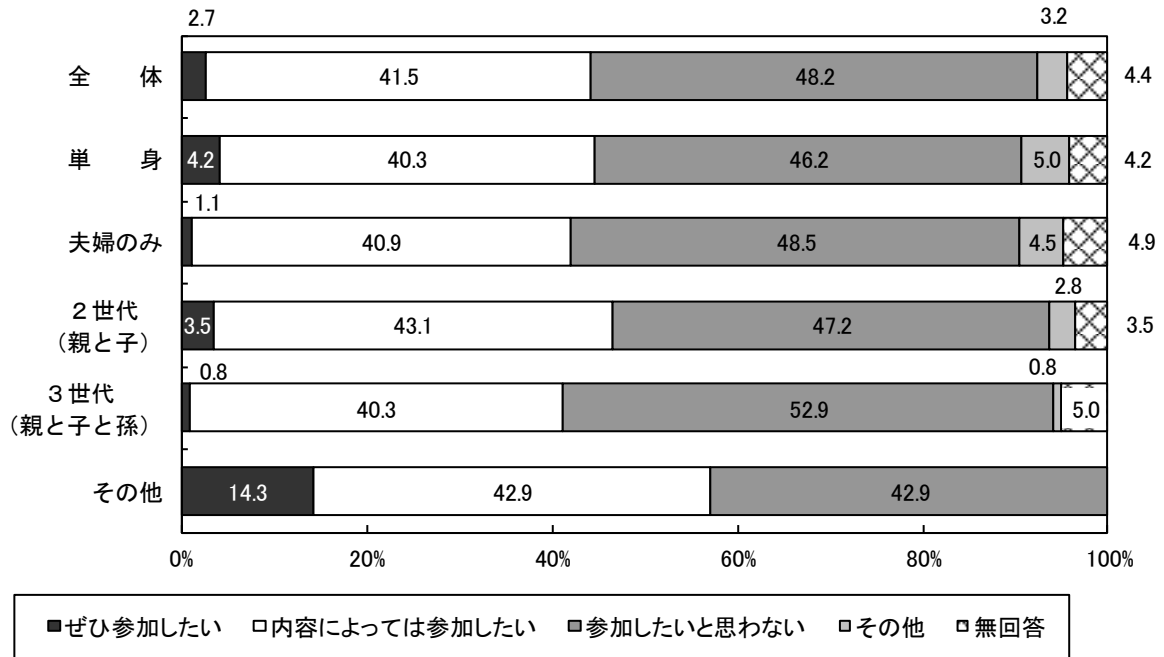
(人)

※無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「ぜひ参加したい」「内容によっては参加したい」を合わせた割合は、2世代（46.6%）で最も高く、「参加したいと思わない」の割合を上回っている。

図 6.3-6 今後の農林漁業体験への参加意向（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代 (親と子)	3世代 (親と子と孫)	その他	無回答
959	119	264	432	119	7	18

(人)

※無回答者のグラフは省略した。

資料編

調査白票